

苫小牧市

高丘 8 遺跡(1)

—苫小牧中央インター線(仮称)道路改良工事埋蔵文化財調査報告書—

令和元年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

苫小牧市

高丘 8 遺跡(1)

－苫小牧中央インター線(仮称)道路改良工事埋蔵文化財調査報告書－

令和元年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 A地区 調査状況 NE→



2 B地区 調査状況(Tピット群) NE→

口絵2



1 盛土遺構M-1(B地区) N→



2 盛土遺構M-1遺物出土状況(B地区) E→



3 盛土遺構M-2(B地区) SW→



4 土坑 P-11(B地区) W→



5 ピット TP-17・18・19(A地区) N→



6 ピット TP-17(A地区) 断面上部 SW→



7 ピット 調査状況(B地区) N→



8 焼土 F-1(A地区) S→



1 遺物集中C-3 石器集中(B地区) SW→



2 遺物集中C-6 石斧集中(B地区) SW→



3 溝状遺構D-1(A地区) SE→



4 P14区 土器一括出土状況(A地区) NW→



5 ⅢB層 S7区 柱穴状小ピット(A地区) W→



6 ⅢB層 CB-1 炭化物出土状況(B地区) S→



7 基本土層(A地区) N→

口絵4



1 特徴的な出土遺物

例 言

- 1 本書は苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成30年度に実施した苫小牧市高丘8遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査及び報告書の作成は第1調査部第3調査課が担当した。
- 3 本書の作成にあたっては、遺構調査を皆川洋一、藤井浩、鈴木宏行、山中文雄が分担し、遺物整理を藤井が担当した。執筆は第Ⅳ、Ⅴ章の遺構の記載を各担当者（文末に記載）が行い、その他についての執筆と全体の編集は藤井が行った。
- 4 写真の撮影にあたっては、現地調査時は各担当調査員が行い、出土遺物の撮影及び写真図版の編集は第一調査部第一調査課 菊池慈人が行った。
- 5 各種分析・鑑定は下記に委託した。

放射性炭素年代（AMS測定）	（株）加速器分析研究所
動物遺存体同定	（株）パレオ・ラボ
炭化材の樹種同定	（株）古環境研究所
黒曜石製遺物の原材産地分析	（株）パリノ・サーヴェイ
- 6 調査報告終了後の出土資料は、苫小牧市教育委員会に移管される。
- 7 調査にあたっては下記の諸機関および人々のご協力をいただいた（順不同、敬称略）

文化庁、北海道教育委員会、北海道教育庁文化財・博物館課
北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、同苫小牧出張所
東日本高速道路株式会社北海道支社、同苫小牧管理事務所
苫小牧市教育委員会、苫小牧市美術博物館、苫小牧市都市建設部緑地公園課
苫小牧市環境衛生部環境生活課
千歳市教育委員会、恵庭市教育委員会、恵庭市郷土資料館
北広島市教育委員会、北広島市エコミュージアムセンター
（以下、順不同）
岩波連、赤石慎三（苫小牧市教育委員会）
成田明義、佐田尚央、佐藤大介（苫小牧市都市建設部）
長町章弘、鈴木将太（恵庭市郷土資料館）
畠誠、平澤肇、若澤路子、古田くるみ、勝本麻里子（北広島市教育委員会）

記号等の説明

1 表記・記号・略号など

報告書名 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター発掘調査報告書 : 北埋調報・北埋
財団法人北海道埋蔵文化財センター発掘調査報告書 : 北埋調報・北埋

遺構種別 盛土遺構 : M、土坑 : P、Tピット (trap pit) 落とし穴 : TP
柱穴状小ピット : SP、遺物集中 : C、掘り上げ土 : DU、炭化物集中 : CB
※遺構名については上記種別略号毎に確認順に番号を付した。

層名及び火山灰名称 遺物包含層 : 包含層
樽前a降下軽石層 : Ta-a 樽前b降下軽石層 : Ta-b 有珠b降下軽石層 : Us-b
樽前c降下軽石層 : Ta-c 樽前d降下軽石・スコリア層 : Ta-d
恵庭a降下軽石層 : En-a 支笏火砕流堆積物・支笏軽石流堆積物 : Spfl
第Ⅰ黒色土層 : ⅠB層・ⅠB 第Ⅱ黒色土層 : ⅡB層・ⅡB
第Ⅲ黒色土層 : ⅢB層・ⅢB

時期名称 旧石器時代 : 旧石器 縄文時代草創期 : 縄文草創期・縄文(草)
縄文時代早期 : 縄文早期・縄文(早) 縄文時代前期 : 縄文前期・縄文(前)
縄文時代中期 : 縄文中期・縄文(中) 縄文時代後期 : 縄文後期・縄文(後)
縄文時代晩期 : 縄文晩期・縄文(晩)

土器分類名称 Ⅱ群a類(縄文前期前半) : Ⅱa類 Ⅱ群a-2類(静内中野式土器相当) : Ⅱa-2類
Ⅲ群b類(縄文中期後半) : Ⅲb類
グリッド名及び遺構名 グリッド P10 遺構名 P-10 (ex.土坑P-10)

2 遺構図・遺物実測図等表現

遺物凡例(シンボルマーク) ○ : 土器・土製品 △ : 石器(剥片石器)・石製品 □ : 礫または礫石器
石器実測図 たたき痕の範囲 V — V すり痕の範囲 1 — 1 自然面はドットで表現
縮尺 遺構 1 : 40、遺構図一部拡大 出土状況図 1 : 20 復元土器 1 : 3

土器拓影 1 : 3 剥片石器 1 : 2 礫石器 1 : 3 その他大型の石器、礫 1 : 4

方位 真北 : グリッド垂直方向に対して東偏17.8°

方位 : 記号、表記のないものは図の上を北とする。

標高 遺構平面図内及び土層断面図内に数字で標記した。単位m



3 慣例的表現など

遺構の規模・大きさ 確認面の長軸長×短軸長、底面の長軸長×短軸長、最大深(厚)

※単位はm、また欠失、不足がある場合()を使用

石器などの大きさ、計測値 最大長 × 最大幅 × 最大厚

※単位はcm、また欠損、不足がある場合()を使用

土色(標準土色帳に則った表現) : 色名 色相Hue 明度/彩度

例 : 暗赤褐 10YR 3/1

目 次

口絵

例言

記号等の説明

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第Ⅰ章 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	1
4 調査結果の概要	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
1 遺跡の位置	5
2 周辺の地形概要	5
3 周辺の遺跡分布と特徴	5
4 高丘地区の遺跡と立地	10
第Ⅲ章 発掘調査及び整理の方法	11
1 発掘区の設定	11
2 発掘調査の方法	11
3 整理作業の方法	13
4 分類等の基準	14
第Ⅳ章 A地区の遺構と遺物	18
1 概要	18
2 遺構	18
3 遺物	72
第Ⅴ章 B地区の遺構と遺物	79
1 概要	79
2 遺構	82
3 遺物	125
第Ⅵ章 分析の成果	160
1 試料採取と分析内容	160
2 高丘8遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) (株)加速器分析研究所	160
3 苫小牧市高丘8遺跡における炭化樹種同定報告 (株)古環境研究所	169
4 高丘8遺跡の出土骨 (株)パリノ・サーヴェイ	172
5 高丘8遺跡出土黒曜石製石器の産地推定 竹原弘展(パレオ・ラボ)	174

第七章 まとめ	177
1 調査成果概要	177
2 遺構について	177
3 遺物について	180
4 分析結果について	183
註釈及び引用参考文献	184
(一覧表)	186
写真図版	195
報告書抄録	

挿 図 目 次

図 I-1 遺跡の位置	2	図 IV-21 焼土(2)・炭化物集中(1) F-2・3・	
図 I-2 試掘調査と出土遺物	3	4・5・6・7 CB-7	52
図 II-1 周辺の遺跡分布と地形	6	図 IV-22 溝状遺構・掘り上げ土(1) D-1 DU-1	
図 III-1 発掘区の設定	12	54
図 III-2 基本土層	15	図 IV-23 掘り上げ土(2) DU-2・3	56
図 IV-1 A地区遺構位置図	19	図 IV-24 掘り上げ土(3) DU-4・5・6	57
図 IV-2 土層断面図(1)	20	図 IV-25 掘り上げ土(4) DU-7・8・9・10・11	
図 IV-3 土層断面図(2)	21	60
図 IV-4 土層断面図(3)	22	図 IV-26 炭化物集中(2)・CB-1・2・3・4・	
図 IV-5 土坑・Tピット(1)		5・6・8 P14区一括土器出土状況	63
P-1・2 TP-1	24	図 IV-27 IIIB層調査 土層断面図	65
図 IV-6 Tピット(2) TP-2・3	26	図 IV-28 IIIB層調査 柱穴状小ピット(1)	
図 IV-7 Tピット(3) TP-4・5	28	SP-1~17	66
図 IV-8 Tピット(4) TP-6・7	29	図 IV-29 IIIB層調査 柱穴状小ピット(2)	
図 IV-9 Tピット(5) TP-8・9	31	SP-18~32・47	67
図 IV-10 Tピット(6) TP-10・11	33	図 IV-30 IIIB層調査 柱穴状小ピット(3)	
図 IV-11 Tピット(7) TP-12・13・14	35	SP-33~46	69
図 IV-12 Tピット(8) TP-15・16・20	37	図 IV-31 IIIB層調査 柱穴状小ピット(4)	
図 IV-13 Tピット(9) TP-17	38	SP-48~71	70
図 IV-14 Tピット(10) TP-18・24・27	40	図 IV-32 IIIB層調査 柱穴状小ピット(5)	
図 IV-15 Tピット(11) TP-19・21	41	SP-72~93	71
図 IV-16 Tピット(12) TP-22・23	43	図 IV-33 土器(1)	74
図 IV-17 Tピット(13) TP-25	45	図 IV-34 土器(2)石器(1)	75
図 IV-18 Tピット(14) TP-26	47	図 IV-35 石器(2)	76
図 IV-19 Tピット(15) TP-28		図 V-1 B地区遺構位置図	80
TP-25・26・28周辺掘り上げ土	48	図 V-2 土層断面図	81
図 IV-20 Tピット(16)・焼土(1) TP-29 F-1		図 V-3 盛土遺構(1) M-1 範囲及び遺物出土分布図	
.....	50	83

表VII-1 遺構一覧 (A・B地区) ……………186	表VII-3 グリッド別包含層出土遺物一覧 ……………191
表VII-2 遺構出土遺物一覧 (A・B地区) ……………190	

図版目次

口絵 1	1 P-1 土層断面 W→
1 A地区 調査状況 NE→	2 P-1 E→
2 B地区 調査状況 (Tピット群) NE→	3 P-2 土層断面 SE→
口絵 2	4 P-2 NW→
1 盛土遺構 M-1 (B地区) N→	5 TP-1 土層断面 SW→
2 盛土遺構 M-1 遺物出土状況 (B地区) E→	6 TP-1 SW→
3 盛土遺構 M-2 (B地区) SW→	7 TP-2 土層断面 SW→
4 土坑 P-11 (B地区) W→	8 TP-2 W→
5 Tピット TP-17・18・19 (A地区) N→	図版 4 A地区 Tピット (2)
6 Tピット TP-17 (A地区) 断面上部 SW→	1 TP-2 SP-1 土層断面 E→
7 Tピット調査状況 (B地区) N→	2 TP-2 SP-2 土層断面 SW→
8 焼土 F-1 (A地区) S→	3 TP-2 SP-3 土層断面 NE→
口絵 3	4 TP-3 土層断面 W→
1 遺物集中 C-3 石器集中 (B地区) SW→	5 TP-3・11 W→
2 遺物集中 C-6 石斧集中 (B地区) SW→	6 TP-11 SP-1・2 土層断面 NW→
3 溝状遺構 D-1 (A地区) SE→	7 TP-11 SP-3・4 土層断面 NW→
4 P14区土器一括出土状況 (A地区) NW→	8 TP-3 SP-5 土層断面 SE→
5 III B層 S7区 柱穴状小ピット (A地区) W→	9 TP-4 土層断面 SE→
→	10 TP-4 SE→
6 III B層 CB-1 炭化物出土状況 (B地区) S→	11 TP-5 土層断面 S→
→	12 TP-5 N→
7 基本土層 (A地区) N→	図版 5 A地区 Tピット (3)
口絵 4	1 TP-6 土層断面 S→
1 特徴的な出土遺物	2 TP-6 S→
VI章 3 図版 高丘 8 遺跡の炭化材 ……………171	3 TP-7 土層断面 SW→
VI章 4 図版 出土骨 ……………173	4 TP-7 SW→
図版 1 A地区 調査区全景	5 TP-8 土層断面 NW→
1 前半期調査範囲 (II B層上面) NW→	6 TP-8 NW→
2 後半期調査範囲 (II B層調査) NE→	7 TP-9 土層断面 N→
図版 2 A地区 基本土層	8 TP-10 土層断面 E→
1 基本土層 (N9) N→	図版 6 A地区 Tピット (4)
2 基本土層 (調査区外露頭) W→	1 TP-9 NE→
3 8ライン (K・L・M) 土層断面 SW→	2 TP-10 E→
4 Oライン (1~3) 土層断面 NE→	3 TP-10 SP-1 (左)・2 (右) 土層断面 S→
図版 3 A地区 土坑・Tピット (1)	→

4 TP-12 土層断面 S→

5 TP-12 NE→

6 TP-13 土層断面 S→

7 TP-13 S→

図版7 A地区 Tピット(5)

1 TP-14 土層断面 S→

2 TP-14 S→

3 TP-15 土層断面 SP-1 土層断面 N→

4 TP-15 N→

5 TP-16 NE→

6 TP-17 土層断面(上面) SE→

7 TP-17 土層断面 SE→

8 TP-17 NW→

図版8 A地区 Tピット(6)

1 TP-17・18・19 N→

2 TP-18 土層断面 SW→

3 TP-18 SE→

4 TP-19 土層断面 NW→

5 TP-19 SW→

図版9 A地区 Tピット(7)

1 TP-20 土層断面 E→

2 TP-20 E→

3 TP-21 土層断面 SE→

4 TP-21 SE→

5 TP-22 土層断面 S→

6 TP-22 N→

7 TP-23 土層断面 E→

図版10 A地区 Tピット(8)

1 TP-23 W→

2 TP-24 土層断面 S→

3 TP-24 N→

4 TP-25 覆土上層断面 NW→

5 TP-25 土層断面 S→

6 TP-25 S→

7 TP-26 土層断面 SW→

8 TP-26 SW→

図版11 A地区 Tピット(9)

1 TP-26 覆土上面遺物出土状況 S→

2 TP-26 SP-1~4(右から1・2・3・4)
土層断面 NW→

3 TP-27 土層断面 S→

4 TP-27 SE→

5 TP-28 土層断面 SW→

6 TP-26・28 SW→

7 TP-29 土層断面 N→

8 TP-29 S→

図版12 A地区 Tピット(10)・焼土

1 TP-29 P-1 土層断面 N→

2 TP-29 P-2 土層断面 S→

3 F-1 S→

4 F-2 E→

5 F-5 W→

6 F-3 W→

7 F-4 W→

8 F-6 S→

9 F-7 S→

図版13 A地区 溝状遺構・掘上げ土(1)

1 D-1(南側部分) SE→

2 D-1 調査区内確認 SE→

3 D-1(北側部分) N→

4 D-1 土層断面 N→

5 DU-1 W→

6 DU-1 土層断面 S→

図版14 A地区 掘上げ土(2)

1 DU-2 W→

2 DU-2 土層断面1 W→

3 DU-2 土層断面2 E→

4 DU-2 土層断面3 E→

5 DU-3 SE→

6 DU-3 土層断面 W→

7 DU-4 S→

8 DU-4(1) S→

図版15 A地区 掘上げ土(3)

1 DU-4(1) 土層断面 S→

2 DU-4(2) SW→

3 DU-4(2) 土層断面 S→

4 DU-4 炭化材・石斧出土状況 SE→

5 DU-5 NE→

6 DU-5 土層断面 E→

7 DU-6 土層断面 N→

8 DU-6 土層断面詳細 N→

図版16 A地区 掘上げ土(4)

1 DU-7 S→

2 DU-11 S→

3 DU-8 S→

4 DU-8 土層断面 E→

5 DU-9 W→

6 DU-9 土層断面 S→

7 DU-10 SW→

8 DU-10 土層断面 W→

図版17 A地区 炭化物集中

1 CB-1 SE→

2 CB-2 S→

3 CB-3 S→

4 CB-5・6 S→

5 CB-7 N→

6 CB-7 炭化材2 W→

7 CB-8 N→

図版18 A地区 III B層調査(1)

1 U7区 東壁 土層断面 W→

2 U7区 柱穴状小ピット確認 N→

3 U7区 SP-1 土層断面 W→

4 U7区 SP-4 土層断面 W→

5 S7区 東壁 土層断面 W→

6 S7区 柱穴状小ピット 確認 W→

7 S7区 柱穴状小ピット 土層断面 W→

8 S7区 SP-12・13 W→

図版19 A地区 III B層調査(2)

1 M7区 柱穴状小ピット 確認 S→

2 M7区 SP-19 土層断面 W→

3 M7区 SP-22 土層断面 W→

4 M7区 SP-28 土層断面 W→

5 O7区 柱穴状小ピット 確認 W→

6 O7区 SP-33・34 土層断面 W→

7 O7区 SP-36 土層断面 W→

8 O7区 SP-38・39 土層断面 W→

図版20 A地区 III B層調査(3)

1 I7区 東壁 W→

2 I7区 柱穴状小ピット 確認 W→

3 I7区 SP-41 土層断面 W→

4 I7区 SP-44 土層断面 W→

5 G7区 東壁 W→

6 G7区 SP-47 確認 N→

7 R20区 柱穴状小ピット 確認 N→

8 R20区 SP-53 W→

図版21 A地区 III B層調査(4)

1 R20区 SP-59 W→

2 R20区 SP-70 W→

3 S22区 北壁 S→

4 S22区 柱穴状小ピット 確認 S→

5 S22区 SP-72 W→

6 S22区 SP-73 W→

7 S22区 SP-76 W→

8 S22区 SP-91 W→

図版22 B地区 調査区全景

1 II B層上面精査状況(中央～東部分) NW→

2 最終面精査状況(中央～西部分) NE→

図版23 B地区 土層断面

1 北側追加調査範囲(II B層上面) SE→

2 北側追加調査範囲(西側部分) S→

3 北側追加調査範囲(西側斜面) SE→

4 39ライン 土層断面 W→

5 39ライン 土層断面 NW→

6 39ライン 土層断面 E→

7 Oライン 土層断面 E→

図版24 B地区 盛土遺構 M-1(1)

1 M-1 確認調査範囲 N→

2 M-1 遺物出土状況 N→

図版25 B地区 盛土遺構 M-1(2)

1 M-1 土層断面(南北方向) NW→

2 M-1 土層断面(東西方向 東側) NW→

3 M-1 土層断面(東西方向 西側) NW→

図版26 B地区 盛土遺構 M-1(3)

1 M-1 土層断面(中央部) NW→

2 M-1 土層断面(東西方向 サブトレンチ)

NW→

3 M-1 土層断面(南北方向 42ライン) E→

4 遺物出土状況(中部) E→

5 遺物出土状況(中～下部) NE→

6 遺物出土状況(下部) E→

7 遺物出土状況(上層) E→

8 M-1 土器出土状況(上層) NE→

図版27 B地区 盛土遺構 M-2

1 M-2 全景 SW→

2 M-2 遺物出土状況(上層) SW→

3 M-2 一括遺物出土状況(上層) SE→

4 M-2 土層断面 S→

図版28 B地区 土坑(1)

1 P-1 土層断面 E→

2 P-1 SW→

3 P-2 土層断面 N→

4 P-2 N→

5 P-3 土層断面 N→

6 P-3 N→

7 P-4 土層断面 W→

8 P-4 W→

図版29 B地区 土坑(2)

1 P-5 土層断面 W→

2 P-5 W→

3 P-6 土層断面 W→

4 P-6 W→

5 P-7 土層断面 W→

6 P-7 W→

7 P-8 土層断面 W→

8 P-8 W→

図版30 B地区 土坑(3)

1 P-9 土層断面 SW→

2 P-9 E→

3 P-10 土層断面 N→

4 P-10 N→

5 P-10 覆土上面遺物出土状況 SW→

6 P-10 覆土中遺物出土状況 NE→

7 P-11 土層断面 S→

8 P-11 W→

図版31 土坑(4)・Tピット(1)

1 P-12 土層断面 E→

2 P-12 E→

3 P-13 N→

4 P-13 (拡大) N→

5 TP-1 土層断面 SE→

6 TP-1 NW→

図版32 B地区 Tピット(2)

1 TP-2 土層断面 SW→

2 TP-2 S→

3 TP-2 SP-1 土層断面 S→

4 TP-2 SP-2 土層断面 S→

5 TP-2 SP-3 土層断面 S→

6 TP-3 土層断面 SE→

7 TP-3 NW→

図版33 B地区 Tピット(3)

1 TP-4 土層断面 SE→

2 TP-4 NW→

3 TP-5 土層断面 W→

4 TP-5 W→

図版34 B地区 Tピット(4)

1 TP-6 土層断面 N→

2 TP-6 N→

3 TP-7 土層断面 SW→

4 TP-7 SW→

5 TP-9 土層断面 N→

6 TP-9 N→

図版35 B地区 Tピット(5)

1 TP-8 土層断面 N→

2 TP-8 N→

3 TP-10 土層断面 N→

4 TP-10 N→

図版36 B地区 Tピット(6)

1 TP-11 土層断面 S→

2 TP-11 S→

3 TP-12 土層断面 N→

4 TP-12 N→

5 TP-13 土層断面 W→

6 TP-13 W→

図版37 B地区 Tピット(7)

1 TP-13 SP-1 土層断面 SW→

2 TP-13 SP-2 土層断面 NE→

3 TP-13 SP-3 土層断面 NE→

4 TP-14 土層断面 W→

5 TP-14 W→

6 TP-15 土層断面 W→

7 TP-15 W→

8 TP-16 土層断面 W→

9 TP-16 W→

図版38 B地区 Tピット(8)

1 TP-16 SP-1 土層断面 S→

2 TP-17 土層断面 W→

3 TP-17 W→

4 TP-18 土層断面 S→

5 TP-18 SE→

図版39 B地区 Tピット(9)

1 TP-19 土層断面 N→

2 TP-19 N→

3 TP-20 S→

4 TP-21 土層断面 S→

5 TP-21 S→

図版40 B地区 焼土・遺物集中

1 F-1 S→

2 F-1 土層断面 W→

3 C-1 (奥側)・2 (手前) 出土状況 N→

4 C-3 SW→

5 C-4 SE→

6 C-5 NE→

7 C-6 SW→

図版41 掘り上げ土・炭化物集中

1 DU-1 NW→

2 DU-2 S→

3 DU-3 S→

4 DU-4・5 SW→

5 DU-6 N→

6 CB-1 S→

7 CB-2 E→

図版42 B地区 IIIB層調査(1)

1 j38区 東壁 土層断面 W→

2 j38区 SP-1 土層断面 W→

3 f38区 東壁 土層断面 W→

4 g38区 SP-2 土層断面 N→

5 d38区 東壁 土層断面 W→

6 d38区 SP-3 W→

7 h44区 SP-4 土層断面 N→

8 h38区 SP-5 土層断面 SE→

図版43 B地区 IIIB層調査(2)

1 h37区 SP-6 土層断面 SW→

2 h37区 SP-7 土層断面 SW→

3 CB-1 炭化物出土状況 S→

4 CB-1 集中部 炭化物出土状況 SE→

5 CB-1 炭化物出土状況(拡大) SE→

図版44 A地区 土器 遺構・包含層

図版45 A地区 石器 包含層

図版46 B地区 土器(1) 遺構(1)

図版47 B地区 土器(2) 遺構(2) 包含層(1)

図版48 B地区 土器(3) 包含層(2)

図版49 B地区 石器(1) 遺構(1)

図版50 B地区 石器(2) 遺構(2)

図版51 B地区 石器(3) 遺構(3)

図版52 B地区 石器(4) 包含層(1)

図版53 B地区 石器(5) 包含層(2)

図版54 B地区 石器(6) 包含層(3)

第 I 章 調査の概要

1 調査要項

事業名：苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事埋蔵文化財調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：苫小牧市字高丘41-1, 41-18

調査面積：6,417㎡ [A地区：4,272㎡、B地区：2,145㎡]

調査期間：平成30年6月5日～11月20日

遺跡名：苫小牧市高丘8遺跡（J-02-286）

2 調査体制

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

（平成30年度）

理事長 越田賢一郎
 副理事長 中田 仁
 専務理事 山田 寿雄（事務局長兼務）
 常務理事 長沼 孝（第1調査部長兼務）
 第1調査部第3調査課（平成30年度 発掘）
 課長 皆川 洋一（発掘担当者）
 主査 藤井 浩（発掘担当者）
 主査 鈴木 宏行（発掘担当者）
 主査 山中 文雄（発掘担当者）

（令和元年度 6月21日より）

理事長 長沼 孝
 専務理事 山田 寿雄（事務局長兼務）
 常務理事 鈴木 信（第1調査部長兼務）
 （令和元年度）
 第1調査部第3調査課（整理）
 課長 皆川 洋一
 主査 藤井 浩（編集担当）
 主査 鈴木 宏行

3 調査に至る経緯

本調査は苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事に伴って行われたものである。苫小牧中央インター線（仮称）は道央自動車道に新設されるインターチェンジへのアクセス道路として苫小牧東ICと苫小牧西ICとのほぼ中間に設置される。

道路は国道276号線（苫小牧市高丘）との交点から道央道本線との連結部に至る道々1179号で、平成26（2014）年に路線認定、平成28（2016）年に連結許可、測量調査、用地買収を終え、平成29（2017）年に着工、令和2年度に開通予定である。

整備主体は北海道で、着工より胆振総合振興局室蘭開発建設部の担当である。平成30（2018）年度から道路本線西側エリアの連結道路部分については東日本高速道路株式会社が工事を担当している。これにより、後に設定されるA地区は道、B地区が（株）東日本高速道路の管轄になった。

工事に伴う試掘調査は平成29（2017）年11月に行われ、本線北側にあたるA・C-1ランプ区域（現・A地区）に12か所、南側にあたるDランプ区域（現B地区）に2か所の試掘坑で調査された。その結果A・C-1ランプのNo.20、22、26、DランプのNo.2の試掘坑から遺物の出土があった。（図I-2）

これによりA・C-1ランプ南半及びDランプ区域については発掘を要し、A・C-1ランプの北半については工事立会を要することとなった。



図 I-1 遺跡の位置



試掘調査の位置

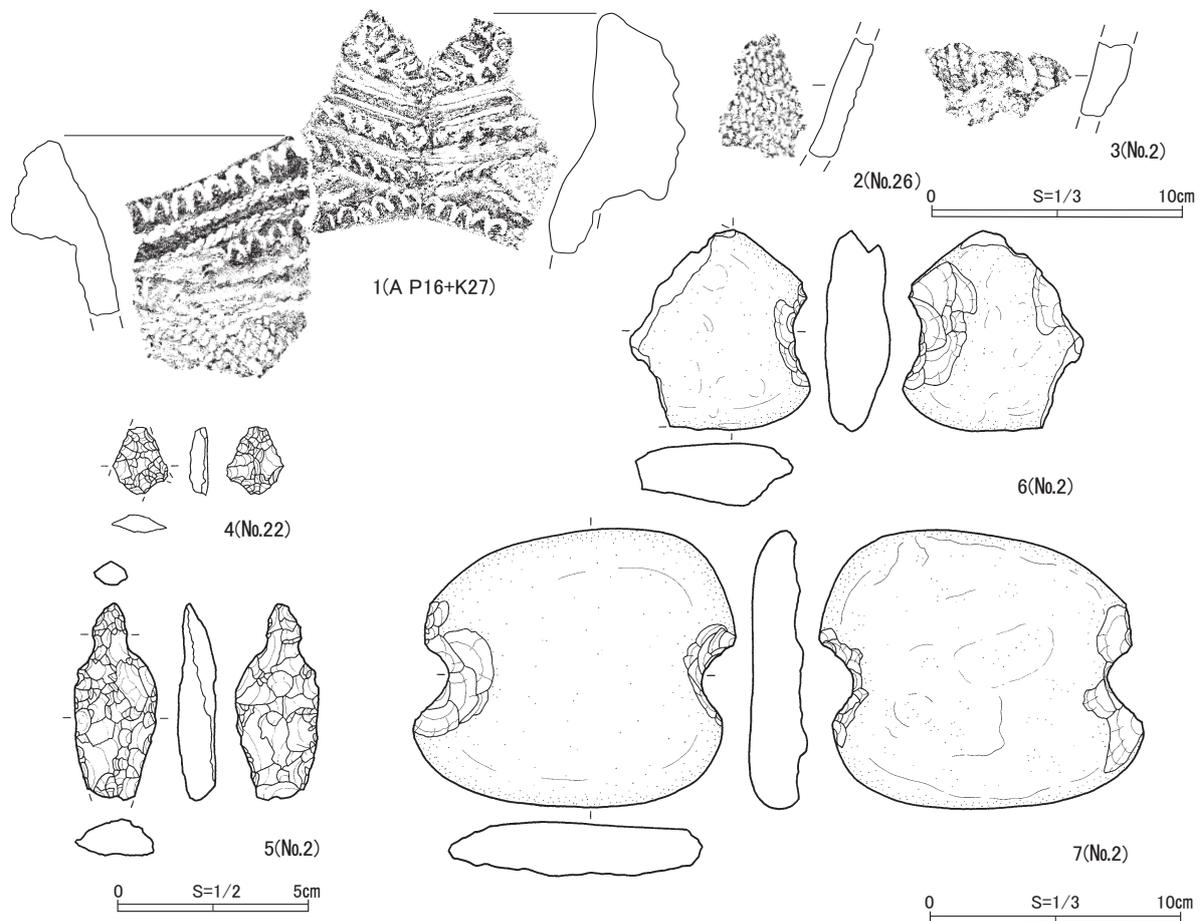


図 I-2 試掘調査と出土遺物

4 調査結果の概要

本調査では自動車道本線をはさんで北をA地区、南をB地区とした。A,B間は約100m離れているが、同じ丘陵の尾根筋上にあり、連続した一つの遺跡である。

出土した遺構は盛土遺構2か所、土坑15基、Tピット50基、焼土8か所、溝状遺構1条、遺物集中7か所、掘り上げ土17か所、炭化物集中10か所である。

遺構の時期は主に縄文時代前期前半と中期後半である。A地区はTピットのような縄文中期後半の遺構が多く、B地区には盛土遺構や土坑群のような縄文前期前半の遺構群とTピットに見られる中期後半の遺構群がある。また、一部でⅢB層の確認調査を行った。黄褐色ローム層上で、柱穴状小ピット100か所と炭化物集中1か所を確認した。

遺物は総点数29,171点でA地区が2,725点、B地区が26,446点であった。

種別では土器が4,000点、石器が21,104点、礫が4,067点で石器が最も多い。

土器には縄文前期前半、中期後半、後期末がある。点数が最も多いのは後期末の1,722点で、次が前期前半の1,244点、中期後半が1,020点である。前期前半はその殆どがB地区出土で、中期後半はA地区・B地区での両方に見られる。後期末はA地区出土の一括個体の破片数が大半を占める。

石器は石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ（石匙）、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、石錘、Rフレイク、Uフレイク、扁平打製石器、剥片が出土した。最も多い剥片が20,372点を数え、石鏃、石槍、つまみ付きナイフ、石斧、石錘が比較的多く出土している。

略号	盛土遺構	土坑	Tピット	焼土	溝状遺構	遺物集中	掘り上げ土	炭化物集中	ⅡB層遺構計	柱穴状小ピット	炭化物集中	ⅢB層遺構計	総計
	M	P	TP	F	D	C	DU	CB		SP	CB		
A		2	29	7	1	1	11	8	59	93		93	152
B	2	13	21	1		6	6	2	51	7	1	8	59
計	2 (か所)	15 (基)	50 (基)	8 (か所)	1 (条)	7 (か所)	17 (か所)	10 (か所)	110	100 (か所)	1 (か所)	101	211

	土器	石器	礫	総合計	土器			焼成粘土塊	合計	
					Ⅱa-2	Ⅲb	Ⅳc			
A	遺構	1	529	2	532		1	1		
	包含層	1,848	149	196	2,193	10	110	1,722	6	1,848
	A計	1,849	678	198	2,725	10	111	1,722	6	1,849
B	遺構	618	19,060	1,052	20,730	562	54		2	618
	包含層	1,533	1,366	2,817	5,716	672	855		6	1,533
	B計	2,151	20,426	3,869	26,446	1,234	909		8	2,151
総合計	4,000	21,104	4,067	29,171	1,244	1,020	1,722	14	4,000	

	遺構	包含層	A計	遺構	包含層	B計	合計	石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	籠状石器	スクレイパー	Rフレイク	Uフレイク	剥片	原石	石核
A	遺構															529		
	包含層	55	3	3	5	2	2	2	2	59								
	A計	55	3	3	5	2	2	2	588									
B	遺構	53	4	18	24	1	12	6	10	18,871	1							
	包含層	108	14	29	84	24	13	29	913									
	B計	161	18	47	108	1	36	19	39	19,784	1							
合計		216	21	50	113	1	38	21	41	20,372	1							

	遺構	包含層	A計	遺構	包含層	B計	合計	石斧	たたき石	すり石	石錘	扁平打製石器	砥石	台石石皿	加工痕のある礫	石製品
A	遺構						529									
	包含層	10	3	1	3	1	149									
	A計	10	3	1	3	1	678									
B	遺構	25	12	2	10	5	19,060									
	包含層	61	25	12	35	1	1,366									
	B計	86	37	14	45	1	20,426									
合計		96	40	14	46	1	21,104									

表 I-1 出土遺構・遺物点数一覧

第II章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置 (図 I - 1)

遺跡のある苫小牧市は道央部の南側に位置し、太平洋に面した胆振管内にある。東西39.9km、南北23.6km、面積は561km²、北に千歳市、東に厚真町・安平町、西に白老町と隣接している。

遺跡は市内中央部の高丘地区にある。高丘地区は苫小牧駅に程近い、市街地北部に位置する。付近は住宅街をはじめ、スケートリンクなどを備える緑ヶ丘公園や高丘森林公園などがあり、その範囲は南の市街地域から北の丘陵地域にまで及んでいる。道央自動車道はこの丘陵地域にあたる高丘森林公園内を東西に貫くように延び、この自動車道を跨ぐ位置に遺跡がある。

遺跡の地番・座標等は下記の通りである。また北西に位置する樽前山からの距離は17km、現海岸線までの距離は4.3kmである。

地区	地番	地区中心の座標 平面直角座標系 12系	地区中心の緯度経度	地区中心の現標高
A地区	高丘41-1	X=-148181.752 Y=-54431.472 (基準杭 P10)	N42° 39′ 54.21″ E141° 35′ 28.27″	49.51m
B地区	高丘41-18	X=-148278.814 Y=-54274.695 (基準杭 h40)	N42° 39′ 49.98″ E141° 35′ 34.74″	47.08m

2 周辺の地形概要 (図 II - 1)

苫小牧市は道央部を南北に貫く石狩低地帯の南縁にあたり、太平洋に面した勇払低地と、これを取り巻く火砕流台地からなる。火砕流台地は、市内北西にある樽前山や支笏湖の噴火に由来する更新世段丘で、市内中央から西側の千歳台地と市内東側、安平町・厚真町との境にかけて広がる勇払北部台地とに分かれる。

千歳台地は、その東端が美々川流域の低地帯「美々川低地」、西は支笏湖に至る広大な台地である。台地は美沢川・ペンケナイ川などの支流を集めた美々川や勇払川・苫小牧川・錦多峰川など南東または南流する河川群によって開析され、いくつもの尾根筋状、舌状の台地が形成されている。遺跡はこの尾根筋状の台地に立地する。

また、市内東側の勇払北部台地は、美々川低地から東にあたり、安平川・遠浅川・勇払川（下流）によって開析され、小規模な台地群が形成されている。市内には柏原台地・静川台地、厚真町側の厚真台地、安平町側の遠浅台地・源武台地があり、北の馬追丘陵へと続く。

これらの台地に囲まれ、太平洋に面して緩やかな弧状の海岸線をなすのが勇払低地である。標高10m以下で成因過程により、東の勇払川・安平川下流低地と、西の「勇払平野西側の砂洲・砂堆列低地」とに分けられ、勇払低地の大半は6,000~7,000年前の縄文海進時には、海面下にあることが知られている。その後東側は低湿原化し、ウトナイ湖や弁天沼などが海跡湖として残り、その一方で西側は砂洲が形成され、砂堆列が幾重にも発達したことが明らかになっている。

3 周辺の遺跡分布と特徴

市内には現時点で290か所の埋蔵文化財包蔵地が登録されている。隣接する千歳市は295、安平町が81、厚真町が141、白老町が45である。市内の遺跡分布には、勇払低地に面した台地の縁辺部に集中する傾向が見られる。

千歳台地では美々川低地周辺から勇払平野西側の低地周辺の縁辺部にかけて多くの遺跡が分布し、



図Ⅱ-1 周辺の遺跡分布と地形

6 ※地形図はカシミール3D スーパー地形セットにより作成したものである。
 ※苦小牧市外の遺跡番号については、厚真町(J-13-)がA、安平町(J-11-)がB、千歳市(A-03-)がC、白老町(J-10-)がDを冠した。
 ※Ta-c、Ta-d等の等厚線は1992町田洋編に拠る。

掲載番号	遺跡名	所在地	報告	掲載番号	遺跡名	所在地	報告	掲載番号	遺跡名	所在地	報告
J-02- 1	タブコブ	植苗	84	J-02- 65	柏原9	柏原		J-02- 129	吉田	静川	
J-02- 2	パンケナイ1	美沢		J-02- 66	柏原10	柏原		J-02- 130	長橋	静川	
J-02- 3	ウエンナイ5	植苗		J-02- 67	柏原11	柏原		J-02- 131	亀ヶ森1	静川	
J-02- 4	美沢18	美沢		J-02- 68	柏原12	柏原		J-02- 132	亀ヶ森2	静川	
J-02- 5	金森	美沢		J-02- 69	柏原13	柏原		J-02- 133	亀ヶ森3	静川	
J-02- 6	旧植苗小中学校裏	美沢		J-02- 70	美沢1	美沢	※1	J-02- 134	矢幅	静川	
J-02- 7	植村A	美沢		J-02- 71	美々缶詰所	美沢	75	J-02- 135	北炭山林2	美沢	
J-02- 8	植村B	美沢		J-02- 72	植苗9	植苗		J-02- 136	旧安平川丸木舟	柏原	
J-02- 9	平田	美沢		J-02- 73	美沢4	美沢	セ80	J-02- 137	柏原20	柏原	
J-02- 10	大曲	美沢		J-02- 74	静川5	静川	94	J-02- 138	柏原21	柏原	
J-02- 11	北炭山林1	美沢		J-02- 75	静川6	静川	94	J-02- 139	静川27	静川	
J-02- 12	大島	美沢		J-02- 76	柏原14	柏原		J-02- 140	静川28	静川	
J-02- 13	植苗橋下	植苗		J-02- 77	植苗1	植苗		J-02- 141	錦大沼公園	樽前	
J-02- 14	斉藤	植苗		J-02- 78	植苗2	植苗		J-02- 142	柏原22	柏原	
J-02- 15	猿子	美沢		J-02- 79	勇弘会所跡	勇弘		J-02- 143	柏原23	柏原	
J-02- 16	美沢19	美沢		J-02- 80	美沢2	美沢	※2	J-02- 144	ウエンナイ1	植苗	
J-02- 17	久米井	植苗美沢		J-02- 81	美沢3	美沢	※3	J-02- 145	静川29	静川	
J-02- 18	大槻	植苗		J-02- 82	美沢5	美沢	セ80.86	J-02- 146	静川30	静川	
J-02- 19	美々橋	美沢		J-02- 83	元中野	元中野町		J-02- 147	静川31	静川	
J-02- 20	美々坂	美沢		J-02- 84	植苗3	植苗		J-02- 148	静川32	静川	
J-02- 21	御前水	美沢		J-02- 85	有珠川12	高丘		J-02- 149	静川33	静川	
J-02- 22	ウトナイ	植苗		J-02- 86	静川7	静川		J-02- 150	静川34	静川	
J-02- 23	岡田	美沢		J-02- 87	美沢6	美沢		J-02- 151	静川35	静川	
J-02- 24	植苗貝塚	植苗	76	J-02- 88	美沢7	美沢		J-02- 152	ウエンナイ2	植苗	85
J-02- 25	三井	植苗		J-02- 89	美沢8	美沢		J-02- 153	弁天貝塚	弁天	87.88.89
J-02- 26	亀谷	静川		J-02- 90	静川8	静川	79.90	J-02- 154	柏原24	柏原	86
J-02- 27	柳館	静川		J-02- 91	柏原15	柏原		J-02- 155	錦岡1	錦岡	
J-02- 28	綱木	静川		J-02- 92	静川10	静川 共和		J-02- 156	樽前	樽前	
J-02- 29	沼ノ端	沼ノ端		J-02- 93	静川9	静川	91	J-02- 157	美沢9	美沢	
J-02- 30	ニナルカ	静川	98	J-02- 94	ときわ町	ときわ町		J-02- 158	美沢10	美沢	97 ※4
J-02- 31	植苗10	植苗		J-02- 95	咲間	美沢		J-02- 159	美沢11	美沢	93 ※4
J-02- 32	沼ノ端丸木舟	沼ノ端		J-02- 96	藤川	美沢		J-02- 160	美沢12	美沢	
J-02- 33	柏原丸木舟	柏原		J-02- 97	中津山	美沢		J-02- 161	静川36	静川	
J-02- 34	勇弘	勇弘		J-02- 98	谷口1	美沢		J-02- 162	美沢13	美沢	
J-02- 35	柏原1	柏原		J-02- 99	谷口2	美沢		J-02- 163	錦岡2	錦岡	
J-02- 36	柏原2	柏原		J-02- 100	静川11	静川		J-02- 164	静川37	静川	90.92
J-02- 37	柏原3	柏原		J-02- 101	静川12	静川		J-02- 165	植苗4	植苗	
J-02- 38	柏原4	柏原	89.14	J-02- 102	静川13	静川		J-02- 166	豊木川	糸井	
J-02- 39	柏原5	柏原	97	J-02- 103	静川14	静川		J-02- 167	植苗5	植苗	
J-02- 40	柏原6	柏原		J-02- 104	静川15	静川		J-02- 168	植苗6	植苗	
J-02- 41	柏原7	柏原		J-02- 105	静川	静川		J-02- 169	トキサタマップ1	植苗	
J-02- 42	静川1	静川		J-02- 106	静川17	静川		J-02- 170	トキサタマップ2	植苗	
J-02- 43	静川2	静川		J-02- 107	静川18	静川		J-02- 171	ウトナイ2	植苗	
J-02- 44	静川3	静川 弁天		J-02- 108	静川19	静川	95	J-02- 172	柏原25	柏原	
J-02- 45	静川4	静川		J-02- 109	静川20	静川	80.92	J-02- 173	柏原26	柏原	
J-02- 46	明野1	高丘		J-02- 110	柏原16	柏原	80.95	J-02- 174	錦岡3	錦岡	
J-02- 47	明野2	高丘		J-02- 111	柏原17	柏原		J-02- 175	錦岡4	錦岡	
J-02- 48	高丘A	高丘	68	J-02- 112	柏原18	柏原	95	J-02- 176	清水谷	美沢	
J-02- 49	高丘B	高丘		J-02- 113	柏原19	柏原	80.95	J-02- 177	御前水2	美沢	
J-02- 50	高丘C	高丘		J-02- 114	静川21	静川	80.92	J-02- 178	御前水3	美沢	
J-02- 51	高丘D	高丘		J-02- 115	静川22	静川		J-02- 179	御前水4	美沢	
J-02- 52	緑ヶ丘A	高丘		J-02- 116	静川23	静川		J-02- 180	御前水5	美沢	
J-02- 53	緑ヶ丘B	高丘		J-02- 117	静川24	静川		J-02- 181	御前水6	美沢	
J-02- 54	中野	真砂町		J-02- 118	静川25	静川		J-02- 182	御前水7	美沢	
J-02- 55	苦工校庭	末広町		J-02- 119	静川26	静川	95	J-02- 183	御前水8	美沢	
J-02- 56	西町	大成町		J-02- 120	高安	静川		J-02- 184	御前水9	美沢	
J-02- 57	坊主山	高丘		J-02- 121	奥井西1	静川		J-02- 185	御前水10	美沢	
J-02- 58	有珠川1	糸井		J-02- 122	奥井西2	静川		J-02- 186	御前水11	美沢	
J-02- 59	糸井A	糸井		J-02- 123	奥井西3	静川		J-02- 187	御前水12	美沢	
J-02- 60	糸井B	糸井		J-02- 124	山岸	静川		J-02- 188	明野3	高丘	
J-02- 61	泉の沢	糸井		J-02- 125	佐伯	静川		J-02- 189	明野4	高丘	
J-02- 62	苫高専校	錦岡		J-02- 126	安藤沼1	静川		J-02- 190	植苗北1	美沢	
J-02- 63	大沢	錦岡		J-02- 127	安藤沼2	静川		J-02- 191	ウエンナイ3	植苗	
J-02- 64	柏原8	柏原	14	J-02- 128	安藤沼3	静川		J-02- 192	北炭山林3	美沢	

表 II-1 周辺遺跡一覧

掲載番号	遺跡名	所在地	報告	掲載番号	遺跡名	所在地	報告	掲載番号	遺跡名	所在地	報告
J-02-193	オタルマップ1	植苗		J-02-257	柏原38	柏原	14	A-03-222	美々12	美々	
J-02-194	オタルマップ2	植苗		J-02-258	柏原39	柏原	14	A-03-223	美々13	美々	
J-02-195	オタルマップ3	植苗		J-02-259	柏原40	柏原	14	A-03-224	美々14	美々	
J-02-196	美沢20	美沢		J-02-260	柏原41	柏原	14	A-03-225	美々15	美々	
J-02-197	豊木川2	糸井		J-02-261	柏原42	柏原	14	A-03-226	美々16	美々	
J-02-198	有珠川3	高丘		J-02-262	樽前3	樽前		A-03-227	美々貝塚北	美々	
J-02-199	錦岡5	錦岡		J-02-263	ペンケナイ3	美沢		A-03-228	パンケビビ1	美々	
J-02-200	植苗7	植苗		J-02-264	柏原43	柏原	14	A-03-229	パンケビビ2	美々	
J-02-201	有珠川4	高丘		J-02-265	柏原44	柏原	14	A-03-230	パンケビビ3	美々	
J-02-202	有珠川5	高丘	08	J-02-266	柏原45	柏原	14	A-03-231	パンケビビ4	美々	
J-02-203	有珠川6	高丘		J-02-267	柏原46	柏原	14	A-03-232	パンケビビ5	美々	
J-02-204	有珠川7	高丘		J-02-268	柏原47	柏原	14	A-03-233	パンケビビ6	美々	
J-02-205	有珠川8	高丘		J-02-269	柏原48	柏原	14	A-03-234	パンケビビ7	美々	
J-02-206	有珠川9	糸井		J-02-270	柏原49	柏原	14	A-03-235	パンケビビ8	美々	
J-02-207	オタルマップ4	植苗		J-02-271	柏原50	柏原	14	A-03-236	パンケビビ9	美々	
J-02-208	オタルマップ5	植苗		J-02-272	柏原51	柏原	14	A-03-252	パンケビビ10	美々	
J-02-209	植苗8	植苗		J-02-273	美沢24	美沢		A-03-253	パンケビビ11	美々	
J-02-210	静川38	静川		J-02-274	柏原52	柏原		A-03-254	パンケビビ12	美々	
J-02-211	豊木川3	糸井		J-02-275	柏原53	柏原		A-03-255	パンケビビ13	美々	
J-02-212	豊木川4	糸井		J-02-276	柏原54	柏原		A-03-256	パンケビビ14	美々	
J-02-213	ペンケナイ1	美沢		J-02-277	柏原55	柏原		A-03-257	パンケビビ15	美々	
J-02-214	大島2	美沢		J-02-278	勇振1	植苗		A-03-258	パンケビビ16	美々	
J-02-215	覚生1	錦岡		J-02-279	勇振2	植苗		A-03-260	パンケビビ17	美々	
J-02-216	ポンチライウシ	植苗		J-02-280	勇振3	植苗		A-03-268	ママチ7	泉沢	
J-02-217	ウエンナイ4	植苗		J-02-281	樽前4	樽前		A-03-293	美々17	美々	
J-02-218	高丘E	高丘	90	J-02-282	柏原56	柏原		J-10-17	社台1	社台	
J-02-219	柏原27	柏原	91.95.97	J-02-283	柏原57	柏原		J-11-1	大町1	早来大町	
J-02-220	美沢東	美沢		J-02-284	柏原58	柏原		J-11-4	富岡3	早来富岡	
J-02-221	美沢14	美沢		J-02-285	勇振4	植苗		J-11-7	大町2	早来大町	
J-02-222	美沢21	美沢		J-02-286	高丘8	高丘	19	J-11-10	安平4	安平	
J-02-223	美沢22	美沢		J-02-287	美沢25	美沢		J-11-11	遠浅3	早来遠浅	
J-02-224	樽前2	樽前		J-02-288	静川41	静川		J-11-12	遠浅1	早来遠浅	
J-02-225	美沢東2	美沢		J-02-289	静川42	静川		J-11-13	遠浅2	早来遠浅	
J-02-226	美沢東3	美沢		J-02-290	静川43	静川		J-11-18	東早来	東早来	
J-02-227	高丘F	高丘		J-02-291	覚生2	錦岡		J-11-20	遠浅4	早来遠浅	
J-02-228	高丘G	高丘		J-13-8	共和	共和	87	J-11-21	源武	早来源武	
J-02-229	ペンケナイ2	美沢		J-13-9	浜厚真	浜厚真		J-11-31	遠浅5	早来遠浅	
J-02-230	美沢東4	美沢	98	J-13-10	厚真10	共和		J-11-32	新栄1	早来新栄	
J-02-231	美沢東5	美沢	98	J-13-11	厚真11	共和		J-11-33	遠浅6	早来遠浅	
J-02-232	美沢東6	美沢	98	J-13-20	厚真1	共和		J-11-35	遠浅7	早来遠浅	
J-02-233	美沢15	美沢	セ95	J-13-21	厚真2	厚真町字共和静川		J-11-37	富岡1	早来富岡	
J-02-234	美沢16	美沢	セ96.11	J-13-21	厚真2	共和苫小牧市字静川		J-11-38	富岡2	早来富岡	
J-02-235	植苗北2	植苗		J-13-22	厚真3	共和	90	J-11-39	ニツタツポロ1	早来北進	
J-02-236	坊主山2	高丘		J-13-23	厚真4	共和		J-11-41	新栄2	早来新栄	
J-02-237	山岸2	静川		J-13-24	厚真5	共和		J-11-42	源武12	早来源武	
J-02-238	吉田3	静川		J-13-26	厚真7	共和	87	J-11-43	源武13	早来源武	
J-02-239	吉田2	静川		J-13-27	厚真8	共和		J-11-44	源武14	早来源武	
J-02-240	美沢17	美沢		J-13-29	厚真12	共和	90	J-11-45	源武チャシ跡	早来源武	
J-02-241	静川39	静川		J-13-53	厚真13	共和	92	J-11-62	富岡4	早来富岡	
J-02-242	静川40	静川		J-13-71	豊川1	豊川		J-11-63	富岡5	早来富岡	
J-02-243	美沢23	美沢		A-03-205	ママチ5	泉沢		J-11-64	富岡6	早来富岡	
J-02-244	有珠川10	糸井		A-03-206	ママチ6	泉沢		J-11-65	源武15	早来源武	
J-02-245	小糸魚川1	糸井		A-03-210	泉沢	泉沢		J-11-69	富岡7	早来富岡	
J-02-246	小糸魚川2	糸井先		A-03-211	美々貝塚	美々		J-11-72	東早来3	東早来	
J-02-247	柏原28	柏原	14	A-03-212	美々2	美々		J-11-78	源武16	早来源武	
J-02-248	柏原29	柏原	14	A-03-213	美々3	美々		J-11-79	源武17	早来源武	
J-02-249	柏原30	柏原	14	A-03-214	美々4	美々河川敷		J-11-80	北町1	早来北町	
J-02-250	柏原31	柏原	14	A-03-215	美々5	美々河川敷		J-11-81	北町2	早来北町	
J-02-251	柏原32	柏原	14	A-03-216	美々6	美々		J-11-82	新栄3	早来新栄	
J-02-252	柏原33	柏原	14	A-03-217	美々7	美々		J-11-82	フモンケ	早来富岡	
J-02-253	柏原34	柏原	14	A-03-218	美々8	美々		J-11-83	富岡湯ノ沢	早来富岡	
J-02-254	柏原35	柏原	14	A-03-219	美々9	美々					
J-02-255	柏原36	柏原	14	A-03-220	美々10	美々					
J-02-256	柏原37	柏原	14	A-03-221	美々11	美々					

※報告欄については市内のみ、西暦下二桁で報告年度を示した。報告書はⅦ章末に記載
※セは(公財)北海道埋蔵文化財センターの略

表Ⅱ-1 周辺遺跡一覧

Ⅱ 遺跡の位置と環境

掲載番号	遺跡名	所在地	標高	立地	現海岸線からの距離	主な時期	調査成果等
J-02- 48	高丘A遺跡	高丘6-47	標高9m	幌内川右岸の台地末端	3.1km	アイヌ	昭和39年、造成のために運んだ土砂中にアイヌ文化期の刀子、鏝などが発見
J-02- 49	高丘B遺跡	高丘6-47	標高12m	同上	3.6km	縄文(前)(中)(後)(晩) 続縄文(前半)、擦文	昭和42年、発掘調査により焼土2基。静内中野式をはじめ縄文前期から続縄、擦文までの遺物が出土
J-02- 50	高丘C遺跡	高丘6-1	標高10m	同上	4.1km	縄文、擦文、アイヌ	昭和39年、大場利夫博士を招いた調査で擦文の住居跡の一部を検出
J-02- 51	高丘D遺跡	高丘6-1	標高10m	同上	3.8km	縄文(中)	表面採取
J-02- 218	高丘E遺跡	高丘6-51,8-1・3	標高10m	同上	3.5km	縄文(前)(中)	平成2年、発掘調査により縄文中期の土坑1基、焼土2基が出土
J-02- 227	高丘F遺跡	高丘8-2	標高30m	同上	3.2km	縄文	表採：石鏃などの石器
J-02- 228	高丘G遺跡	高丘10-1	標高30m	同上	3.3km	縄文	表採：たたき石などの石器
J-02- 286	高丘8遺跡	高丘41-1・18	標高50m	台地上	4.3km	縄文(前)(中)(後)	本調査及び平成30年調査
J-02- 52	緑ヶ丘A遺跡	高丘41-1	標高20～30m	苫小牧川左岸の台地末端	2.9km	続縄文(前半)、アイヌ	昭和41年、大場利夫博士を招いた調査で続縄文、アイヌ文化期の土坑墓9基、恵山式をはじめ続縄、アイヌ文化期の遺物出土
J-02- 53	緑ヶ丘B遺跡	高丘41-1	標高30～35m	同上	2.7km	縄文(中)(後)(晩)	表採：土器、石鏃・搔器・すり石・石皿、石棒
J-02- 57	坊主山遺跡	高丘55-1	標高20m	苫小牧川右岸の台地末端	2.3km	縄文(後)(晩)	表採：石鏃、石斧、たたき石
J-02- 236	坊主山2遺跡	高丘55-1	標高20m	同上	2.2km	縄文(前)	石鏃、礫
J-02- 85	有珠川12遺跡	高丘56-159・160・161・190・218・220・221・229	標高13～22m	有珠川左岸の台地上	3.6km	縄文(早)(中)(後)	昭和53年、道教委の調査で縄文早、中期の住居跡、Tピット、土坑、焼土を検出、縄文早中後期の遺物出土、ⅢB層の調査で土坑を検出、縄文早期前半の遺物出土
J-02- 198	有珠川3遺跡	高丘55-1	標高15～20m	有珠川左岸の南にのびる樹枝状台地の西斜面	2.9km	縄文(前)	静内中野式土器片 礫
J-02- 201	有珠川4遺跡	高丘56-1	標高20m	有珠川左岸、南西に張り出した丘陵先端	3.8km	縄文	つまみ付きナイフ
J-02- 202	有珠川5遺跡	高丘56-1	標高20m	有珠川左岸の西に張り出した台地先端部	4km	縄文(早)(中)	平成19年調査 報告書縄文早期 中期遺構遺物出土
J-02- 203	有珠川6遺跡	高丘56-1,63-3・4	標高18m	有珠川左岸、独立した丘陵	4km	縄文(中)(晩)	土器・石片
J-02- 204	有珠川7遺跡	高丘56-1	標高20m	有珠川左岸の台地上西縁	4.5km	縄文(中)、縄文(晩)	土器、石器、剥片、礫
J-02- 205	有珠川8遺跡	高丘56-1	標高25～30m	有珠川左岸の南北に伸びる台地の西側先端部	4.8km	縄文(早)(中)(晩)	試掘 土器、石器、剥片、礫
J-02- 46	明野1遺跡	高丘98-1・7・9	標高15～20m	勇払川右岸の台地末端	5.6km	縄文(前)	表採：縄文前期土器
J-02- 47	明野2遺跡	高丘98-5	標高30m	同上	5.9km	縄文(中)	表採：縄文中期土器、石鏃、石核、たたき石
J-02- 188	明野3遺跡	高丘140	標高17m	同上	6.1km	縄文(前)(中)(晩)	表採：縄文前、中、晩期土器、石器、剥片、礫
J-02- 189	明野4遺跡	高丘140	標高29m	同上	6.3km	不明	表採：剥片

※時期や調査成果等は道教委ホームページ「北の遺跡案内」に基づく

表Ⅱ-2 「高丘」地区の遺跡一覧

- 表Ⅱ-1 註
- ※1
 道教委 1977 美沢川流域の遺跡群Ⅰ
 道教委 1978 美沢川流域の遺跡群Ⅱ
 道教委 1979 美沢川流域の遺跡群Ⅲ
 道埋文 1980 美沢川流域の遺跡群Ⅳ 北埋 3
 - ※2
 道教委 1978 美沢川流域の遺跡群Ⅱ
 - ※3
 道教委 1977 美沢川流域の遺跡群Ⅰ
 道埋文 1980 美沢川流域の遺跡群Ⅳ 北埋 3
 道埋文 1988 美沢川流域の遺跡群ⅤⅡ 北埋 58
 道埋文 1989 美沢川流域の遺跡群ⅤⅢ 北埋 62
 道埋文 1990 美沢川流域の遺跡群ⅤⅣ 北埋 69
 道埋文 1993 美沢川流域の遺跡群ⅤⅦ 北埋 89
 - ※4
 道埋文 1986 ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅰ 北埋 35
 道埋文 1987 ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅱ 北埋 44

特に美々川低地周辺には千歳市にまたがる美沢川流域の遺跡群など大規模な遺跡群が知られている。

また勇払北部台地を構成する台地群では、柏原台地・厚真台地・静川台地の縁辺に遺跡が集中している。苫小牧東部工業地帯の建設に伴い、昭和51年から59年にかけて数多くの調査が行われ、中には縄文中期の環濠を有する静川遺跡（国指定史跡）なども含まれている。

また、市内及び周辺には縄文海進の痕跡を示す縄文前期の遺跡が数多く分布するのも特徴である。厚真台地の静川22、美々川低地に面した美沢4、遠浅台地上の植苗貝塚、静川台地上の柳館貝塚などがあり、中でも美々川低地奥に位置する美々貝塚の存在は、現在の海岸線から約17km内陸にまで当時の海岸線が及んでいたことを物語る。

4 高丘地区の遺跡と立地

(1) 高丘地区の地形概要（図Ⅰ-1）

高丘地区周辺は市内北西の樽前山を背にして、標高20～50mの台地が尾根筋状に細長く南東方向にのびている。台地と低地との接線は比高数mの崖線または緩やかな傾斜になっている。さらに北西から南東に流れる河川や沢に、北東から南西に流れる小さな沢が流れ込み、台地を複雑な樹枝状に刻み込んでいる。高丘地区は、北は勇払川右岸から幌内川・苫小牧川をはさんで、南の有珠川左岸までの範囲のほぼ台地上にあたる。

(2) 高丘地区の遺跡（表Ⅱ-2）

高丘地区（字高丘）には23か所の埋蔵文化財包蔵地が知られ、高丘の名を冠した高丘A～Gの7遺跡は国道276号の東側、幌内川右岸の台地末端部に集中して立地する。標高は10～25mで、周辺は住宅街などの造成により地形改変が進んでいる。

緑ヶ丘A（52）、B（53）遺跡は国道276号の西側で、苫小牧川左岸の広大な湿地に面した台地末端に立地する。坊主山遺跡（57）、坊主山2遺跡（236）は苫小牧川右岸の台地末端に立地し、坊主山2遺跡は有珠川左岸にもあたる。有珠川2～8遺跡は有珠川左岸の台地上西縁に立地する。有珠川2遺跡（85）は昭和53年に発掘調査がなされた（下記（3））。明野1～4遺跡（46・47・188・189）は勇払川右岸の台地末端に集中する。この対岸にあたる植苗3遺跡（84）は昭和53年に発掘調査がなされた（下記（3））。

(3) 道央道建設に伴う発掘調査（図Ⅱ-1）

道央道建設に伴って行われた苫小牧市内の調査は本調査を含めた5か所で、昭和50年の植苗1遺跡（77）・植苗2遺跡（78）、昭和53年の有珠川2遺跡・植苗3遺跡である。

植苗1遺跡は遺物の出土がなく、大小100余のピットを検出した。植苗2遺跡も遺物の出土がなく、土坑5基を検出した（北海道1975）。有珠川2遺跡はⅠB層で土坑10基、ⅡB層で住居跡3軒、Tピット9基、土坑13基、焼土25か所を検出した。遺物は縄文早・中・後期のものが出土した。ⅢB層では土坑3基を検出し、縄文早期前半の土器・石器が出土した。植苗3遺跡（84）は住居跡2軒、土坑3基、焼土10か所を検出し、縄文中期の遺物が出土した。

(4) 遺跡周辺の現況

遺跡は高丘森林公園内にある。森林公園は樽前山の裾野にあたる216.60haの丘陵地である。植生は広葉樹天然林に、二次林、針葉樹人工林が加わる。動物は、エゾシカが調査区を横切るほど多く見られた。越冬のために日本海側から雪の少ない太平洋側に移動するため、その経路にあたる苫小牧には特に多く見られる。明治期の美々缶詰所遺跡（71）（開拓使美々鹿肉缶詰製造所跡）の調査や、市内の静川22遺跡や弁天貝塚などで骨が多く出土している。

第三章 発掘調査及び整理の方法

1 発掘区の設定

(1) 調査区の位置と範囲 (図Ⅲ-1)

調査区の範囲は試掘調査の結果に基づき、平成28年度苫小牧中央インター線(仮称)地道債(交安)工事実施設計平面図(北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部作成)に示されたものである。さらに現地確認・協議などを重ね、特に層厚2m以上に及ぶ火山灰の法面の扱いなどを考慮した結果、現在の範囲である6,471m²に至った。

範囲は2か所あり、高速道路本線北側のA-1、Cランプ建設範囲内をA地区(4,272m²)、本線南側のBランプ建設範囲内をB地区(2,145m²)とした。平面直角座標でA地区はX=-148134~-148222、Y=-54331~-54473、B地区はX=-148250~-148337、Y=-54250~-54305の範囲にある。A地区とB地区間は最短で95mを測る。

(2) 発掘区の設定と測量成果

発掘区(グリッド)はA・B両地区を含めた範囲で設定し、道央自動車道の道路中心線を基準として用いた。STA173を基点に、STA175を方向とした直線を横軸の基線とした。縦軸は横軸と直交し、基点STA173を通る直線を基線とした。発掘区は4mの正方形を基本とした。その呼称は縦軸が、基点STA173が0で東に向かって数え、A地区が0~33、B地区が29~46となった。横軸は各地区の範囲にあわせて設定した。A地区はアルファベットの大文字を用いて北からC~V、B地区は小文字を用いて北からb~uとなった。各発掘区については「C8」のようにアルファベット、数字の順に組み合わせた名称とした。

座標	STA173 (基点)	X=-148266.2989	Y=-54446.5646
(世界測地系 12系)	STA175 (方向)	X=-148205.7383	Y=-54256.0751

現地では測量を行い、A地区では既設の4級基準点2か所を用いて、B地区では4級基準点を2か所新設して行った。水準測量は両地区毎に1か所仮BMを設置した。これに基づき各発掘区については20m毎に水準を伴う基準杭と、4m毎に方眼杭を各区の北西角に打設した。

A地区4級基準点	30-13	X=-148147.524	Y=-54423.562
	30-14	X=-148105.914	Y=-54434.002
B地区4級基準点(新設)	TB1	X=-148273.639	Y=-54252.047
	(世界測地系 12系) TB2	X=-148306.842	Y=-54266.751

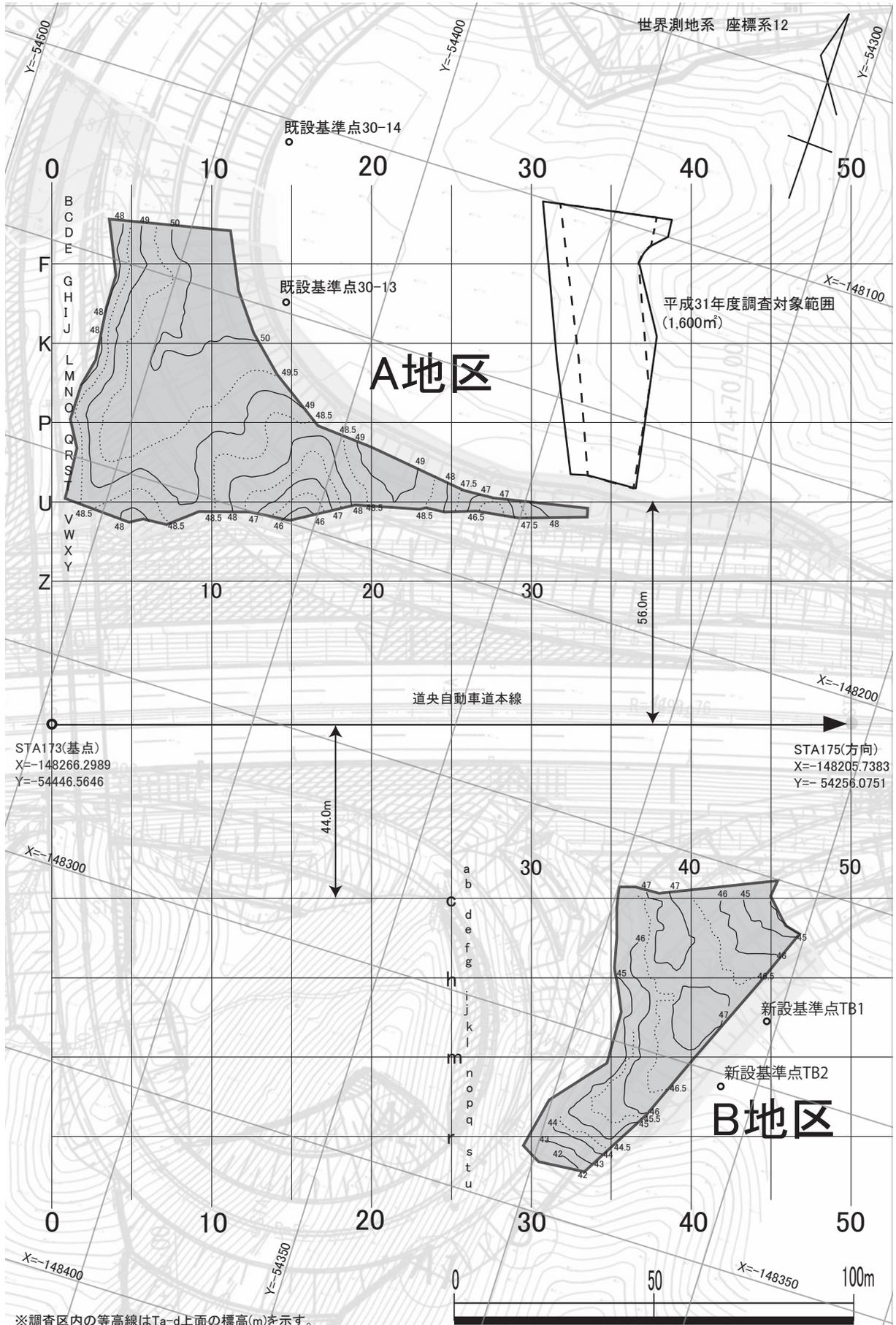
2 発掘調査の方法

(1) 調査経過

発掘調査は調査員3名、運転技能作業員5名、発掘作業員41名の体制で6月3日から開始し、A地区から先に着手した。

A地区では、先に表土除去を終えた北西部分を調査した。7月上旬に作業を終え、引き続きB地区の調査に着手、8月末にはA地区北側において道教委による遺構確認調査があり、Tピット4基を確認した(TP-12~15)。

B地区では9月中旬からⅢB層の調査を行い、9月末に作業を終えた。調査中の9月4日には台風21号、9月6日には北海道胆振東部地震があり、作業の一時中止を余儀なくされた。進入路への倒木



図Ⅲ-1 発掘区の設定

や調査区の法面が一部崩れるなどの影響もあった。

9月末からA地区の残りの南東部分に着手し、重機による表土除去と並行して作業を行った。途中、10月末にB地区北側の拡張部分（鹿柵撤去範囲）で調査を行った。A地区での作業は11月中旬にⅢB層の調査を開始し、11月20日に全ての作業を終えた。

（2）遺物包含層調査

包含層調査はTa-c下の腐植質黒色土層（第Ⅱ黒色土層：ⅡB層）を対象とし、一部樽前d火山灰下の第Ⅲ黒色土層（ⅢB層）を対象とした。

【重機による作業】

表土及びTa-bからTa-cまでの火山灰除去を重機を用いて行った。途中ⅡB層の上面・中間・底面では遺構、遺物の確認を行った。調査対象のⅡB層上面に至るまで3m以上の深さとなり、法面には安全上十分な傾斜が必要となった。

【人力による作業】

ⅡB層上面以下は人力作業となった。最初にTa-cの除去とⅡB層上面の精査をスコップ・ジョレンを用いて行った。完了後に基準杭・方眼杭の打設、地形測量、写真撮影を行った。

掘削はグリッド毎に1回の深さ約5cmを基本にした。土質や遺物の出土状況に応じてスコップ・ジョレン・移植ごてを用いて行った。遺物は各回に出土状況を確認したうえで取り上げを行い、土器・石器・礫に分けて袋詰めをした。また、袋書きには掘り下げの回数を記載した。

ⅢB層の調査は、Ta-dをスコップ・ジョレン、ⅢB層は移植ごてにより黄褐色ローム層まで掘り下げた。部分的に黄褐色ローム層をスコップ・ジョレンにて30cm掘り下げたところもある。

（3）遺構調査

遺構はⅡB層下部からTa-d1の上面で精査し、検出作業を行った。ⅢB層の調査では黄褐色ローム層上面で検出作業を行った。遺構の範囲確認後、移植ごてを用いてトレンチまたは半截などにより掘削を行った。覆土の土層断面を図・写真などで記録した後、底面・壁面等を検出し全体を掘り上げた。掘り上げ後には平面図・エレベーションの作成及び写真撮影を行った。

遺構内の出土遺物については出土状況を確認し、遺物出土状況図を作成し、一点ずつ取り上げたものもある。これ以外は覆土の層位毎に取り上げた。

また現地では、焼土や炭化物集中などの遺構について遺存状態により土壌サンプルを採取したところがある。その殆どについてフローテーション作業を行い、炭化木片などの炭化物・土器・石器片・獣骨片などの微細遺物を回収した。内容についての詳細はⅥ章に記載した。

（4）調査完了と地形測量

調査はTa-d1層上面を最終面として完了し、A・B両地区全体で地形測量を行った。またⅢB層の調査では黄褐色ローム層まで掘り下げ、その上面で単点測量を行った。

3 整理作業の方法

（1）現地調査の記録整理（図面・写真）

現地調査において作成された記録類には実測図と写真がある。

実測図には、平面図や土層断面図を含む遺構図、遺物についての出土状況図、基本土層や調査区全体にわたる土層断面図、ⅡB層上面や最終面についての地形測量図がある。これらは全て「原図」として整理し、パソコン上でTIFF形式のデータ化を行った。このデータを基にAdobe IllustratorCCを用いて素図の作成からトレース、報告書印刷の版下作成までを行った。

現地での写真撮影はデジタルカメラを主に、一部ブローニーサイズのカメラを用いて行った。機材はデジタル一眼レフカメラNIKON D5500を主にMamiya社製のRZ67PRO IIを補助的に用いた。また高所撮影のために、デジタルカメラSony Cyber-shotRX0と高所撮影用のポールBi-Rod6C-7500setを組み合わせて用いた。

(2) 出土遺物の整理

【一次整理】

取り上げた遺物については現地で水洗、乾燥後に袋詰めを行い、点数などを記載した取り上げ台帳を作成した。現地調査終了時に当センターの整理作業所に移動し、一次分類及び注記作業を行った。

注記は下記の要領で行った。

遺構出土遺物	遺跡名+地区名	遺構名	層位	遺物番号
	タカ8 A	P-1	フク土	1
包含層出土遺物	遺跡名+地区名	グリッド	層位	遺物番号
	タカ8 B	h20	II B 2	10

【二次整理】

土器、石器、礫、自然遺物にわけて作業を進めた。

土器は注記後に接合作業を行った。この内全体の器形がわかるものや、特徴的な模様などを伴うものを抽出し、接着・補強または復元作業を行った。

復元土器については実測図を作成し、トレース後にスキャナーでパソコンに取り込み、TIFF形式のデータ化を行った。また抽出した破片資料については拓本を採り、断面実測とあわせて資料化を行った。拓本は実測図同様にTIFF形式のデータ化を行い、Adobe IllustratorCCで断面図と組み合わせた挿図版下を作成した。

石器については注記後、器種毎に分類し、特徴を代表するものを抽出して実測図を作成した。トレース後にTIFF形式のデータ化を行い、挿図版下を作成した。また、礫については注記後、石材別に分類し、特に扁平円礫・礫片を抽出した。その後接合作業も行った。

掲載遺物の撮影はHasselblad H3D IIを使用し、撮影した3FR RAWデータはPhocusでTIFFに変換した。写真図版はAdobe PhotoshopCCで加工し、1ページごとにPSD形式で作成して入稿した。

(3) 記録類・遺物の収納保管

現地作成の原図類は図面番号を付して整理し、一覧表とともに図面ケースに保管した。TIFF形式などのデータ類はポータブルハードディスクに保存した。写真はすべてデジタルデータで、撮影時(TIFF、RAW)のSDカードを残し、TIFF、RAW、JPEGデータをポータブルハードディスクに保存した。

遺物は報告書掲載遺物と、その他の遺物に分けて収納した。掲載遺物は、個別に掲載図番号・掲載図を付してプラスチックコンテナ(59×35×15cmサンボックス製36-2B)に収納した。その他の遺物については報告書名・遺構、包含層の別・分類内容などを明記し同コンテナに収納した。コンテナの側面には遺跡名・地区名・報告書名・分類名・収納番号を記したラベルを貼り、収納台帳を作成した。

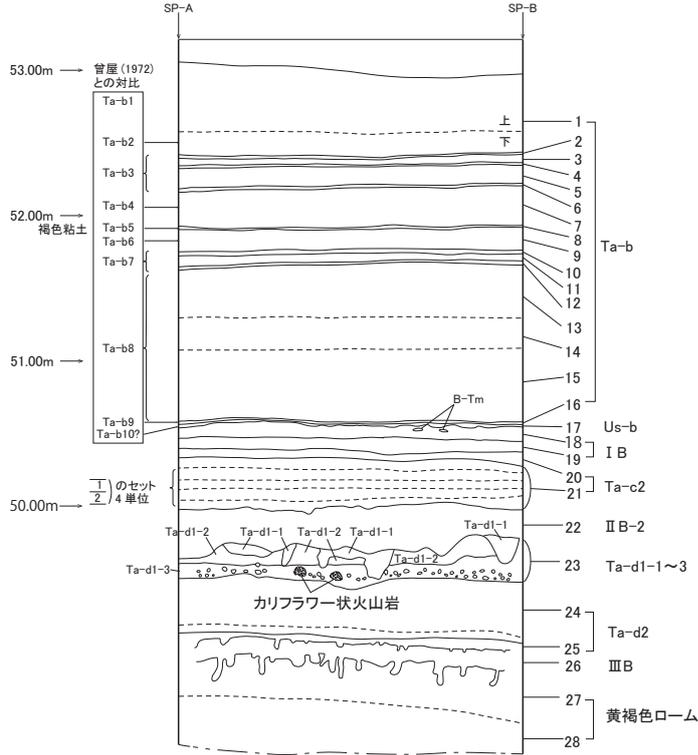
これらの記録類の一部、遺物は報告書刊行後に苫小牧市に移送し、苫小牧市教育委員会の所有・保管となる。また写真、図面の記録類などについては北海道立埋蔵文化財センターの所有・保管となる。

4 分類等の基準

(1) 基本土層(図Ⅲ-2)

土層の区分については、市内周辺遺跡に係る従来の区分に現地での観察を比較した結果を整理し

基本土層 N9南側セクション

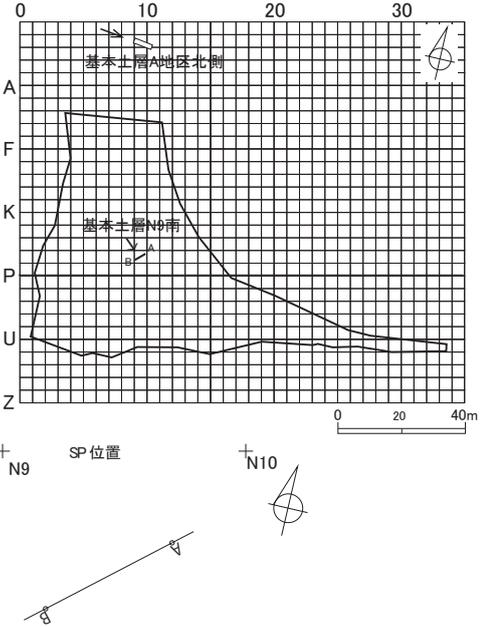


基本土層 N9南側

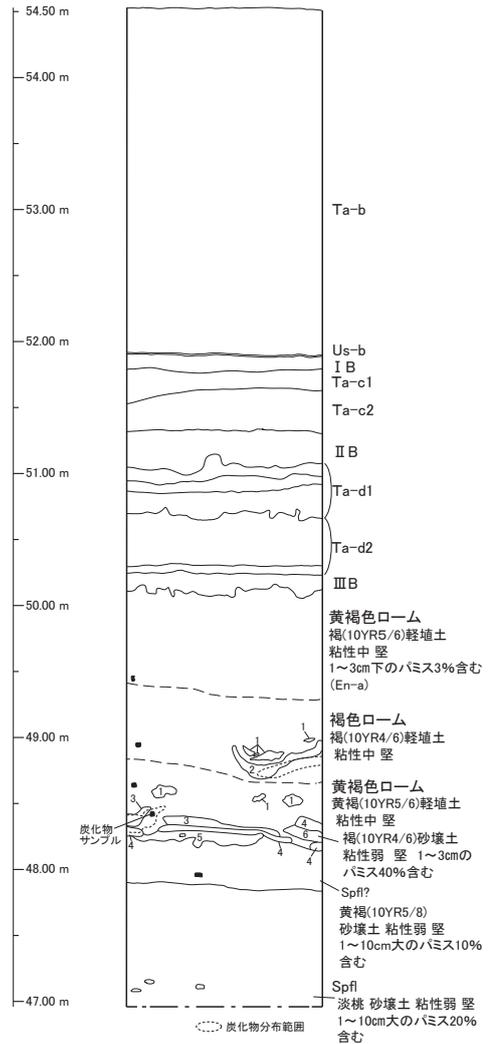
- 1 上部は粗粒砂～極粗粒砂 にぶい黄褐色:10YR7/4のバミスとスコリアが混じる 下部は2cm以下のバミス多く含む
- 2 にぶい黄褐:10YR5/4 シルト 粘性なし 堅密度軟～堅 火山灰
- 3 褐:10YR4/4 極粗粒砂～小礫(3mm) 粘性なし 堅密度堅 スコリア含む
- 4 にぶい黄褐:10YR5/4 極細粒砂 粘性なし 堅密度軟～堅 火山灰
- 5 にぶい黄褐:10YR7/4 バミス 粘性なし 堅密度堅 径1cm以下主体
- 6 にぶい黄褐:10YR6/3 バミス混じりシルト 粘性弱 堅密度軟～堅 1cm以下バミス混じる
- 7 灰白:2.5Y8/1 バミス 粘性なし 堅密度堅 径2～5cm主体 最下部は2cm以下(下方細粒化)
- 8 黄褐:10YR5/6 シルト(堆積土) 粘性中 堅密度堅 火山灰
- 9 にぶい黄褐:10YR7/4 バミス 粘性なし 堅密度堅 径2～5cm主体
- 10 にぶい黄褐:10YR5/4(全体の色調) 粗粒火山灰 粘性なし 堅密度堅 スコリア 極粗粒砂～小礫(2～4mm)の有色鉱物で構成
- 11 灰白:2.5Y8/2 バミス 粘性なし 堅密度堅 径2～5cm主体
- 12 にぶい黄褐:10YR6/4 バミス 粘性なし 堅密度堅 径1～2cm主体
- 13 灰白:2.5Y8/2 バミス 粘性なし 堅密度堅 2～3cm主体
- 14 灰白:2.5Y8/2 バミス 粘性なし 堅密度堅 3～6cm主体
- 15 灰白:2.5Y8/2 バミス 粘性なし 堅密度堅 2～4cm主体
- 16 黄褐:10YR5/8 粗粒砂 粘性なし 堅密度堅 降下岩片
- 17 オリーブ黒:5Y3/2 極細粒砂 粘性中 堅密度軟～堅 Us-b(層厚1cm程度)
- 18 黒:10YR1.7/1 堆積土 粘性やや強 堅密度軟～堅 I B層
- 19 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性やや強 堅密度軟～堅 I B層下部 Ta-cが混じった腐植土
- 20 褐:10YR4/4 粗粒砂 粘性弱 堅密度堅 Ta-c2? 粗粒火山灰
- 21-2 黄褐:10YR5/6 バミス 粘性弱 堅密度堅 極粗粒砂 有色鉱物含む
- 21-1 黄褐:10YR5/6 バミス 粘性弱 堅密度堅 1～2cm主体
- 22 黒:10YR1.7/1 堆積土(シルト) 粘性やや強 堅密度軟～堅 II B層 2～5mmの黄褐色粘土粒7%含む
- 23 Ta-d1-2,暗褐:10YR3/4 砂壤土 粘性弱 堅密度堅 2～10mmのバミスに火山灰orローム質土が充てんされる
- 23 Ta-d1-1,黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 II B>Ta-d1-2(5mm程)のTa-d1-2(7%)含む 火山灰土(漸移層)
- 24 赤褐:2.5YR4/8 降下軽石 粘性強 堅密度堅 径1～3cm 上部は2～3cm主体 下部(点線以下)は1cm主体 Ta-d2
- 25 赤褐:2.5YR4/8 降下軽石 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2 赤褐色バミス(1～5mm)に粗粒砂サイズの鉱物含む
- 26 黒:10YR2/1 堆積土 粘性やや強 堅密度軟～堅 下部は根痕あり(生きた木根あり)
- 27 黄褐:10YR5/6 壤土 粘性中 堅密度軟～堅 径1mmの岩片10%含む 黄褐色ローム
- 28 黄褐:10YR5/6 壤土 粘性中 堅密度堅 径2～4cmのEn-a2%含む 黄褐色ローム

基本土層 A地区北側調査区外露頭面

- 1 オリーブ褐:2.5Y4/4 砂壤土 粘性弱 堅
- 2 にぶい黄褐:10YR4/3 軽植土 粘性弱 堅 1cm大の炭化物1%含む
- 3 明黄褐:10YR6/6 砂壤土 粘性弱 堅 還元された土
- 4 褐:10YR4/4 砂壤土 粘性弱 堅 10cm大のバミス少量含む
- 5 褐:10YR4/6 砂壤土 粘性弱 堅 テフラ?
- 6 褐:10YR4/6 砂壤土 粘性弱 堅 1～3cmのバミス40%含む



基本土層 A地区北側調査区外露頭面



図III-2 基本土層

た。土層断面図の作成はA地区N9区の南側断面とA地区北側調査区外の露頭面で行った。

【現地表土】 調査区内ではすでに見られなかったが、周辺の公園内にはわずかな腐植土の堆積が見られた。森林土壌のため、腐植土の発達に乏しいと考えられる。

【樽前a降下軽石層】(Ta-a) 1739年に噴火した樽前山の火山噴出物層で、調査区内では確認されなかった。南西3.5kmに位置する有珠川5遺跡の調査では層厚10cmで確認されている(苫小牧市2008)。

【樽前b降下軽石層】(Ta-b) 1667年に噴火した樽前山の火山噴出物層で、本調査区内で最も厚い、層厚約2.5mの堆積である。現地観察では16層に細分することができた。

【有珠b降下軽石層】(Us-b) 1663年噴出の有珠山起源の火山灰で、層厚1cmの堆積を確認した。

【第I黒色土層】(IB層) 約2000年前から1667年までに発達した黒色土層で、層厚約15cmである。下部のTa-cを含んだ堆積と細分することができた。

【樽前c降下軽石層】(Ta-c) 約2000年前に降下した樽前山の火山噴出物層で、層厚は約30cmである。上層の降下軽石層(Ta-c1)、下層の岩片主体の層(Ta-c2)とに分けられた。

【第II黒色土層】(IIB) 約8000~2000年前、縄文時代早期~晩期の遺物包含層。今回の調査対象で、層厚は25~40cmである。

【樽前d降下軽石・スコリア層】(Ta-d) 約8000年前降下の樽前火山噴出物層で、上層のTa-d1(パミス・岩片主体)と下層のTa-d2(パミス・明赤褐色スコリア主体)に分けられるが、さらに現地観察ではTa-d1が3層、Ta-d2が2層に細分された。層厚はTa-d1が10~20cm、Ta-d2が約40cmである。

【第III黒色土層】(IIIB) 約8000年前まで発達した黒色土で、縄文時代早期の遺物包含層とされる。今回A・B両地区で一部調査を行った。層厚は約10cmである。

【黄褐色ローム層】 ローム質土層で、恵庭a降下軽石(En-a)を含む。市内美沢地区ではこの下に恵庭a降下軽石層が続くため、ロームはこれに由来すると考えられている。A地区北側の露頭では約1.5mの厚い堆積になった。なおローム層中出土の炭化物について年代測定を行ったところ30,800±140yrとの結果を得た(表VI-1)。

【支笏火砕流堆積物】(Spf1) およそ3.1~3.4万年前に支笏カルデラ噴出のテフラを構成する。現地観察では黄褐色ローム層下に位置し、上層が黄褐色、下層が淡桃色で10cm大の木屑状の軽石を含む。

(2) 土層の観察・分類

土層の分類(分層)にあたっては、色調・土性・粘性・堅密度・含有物について観察し、記録した。

【土色】 農林水産省監修 標準土色帖に基づき、色相、明度/彩度の順に例、7.5YR4/2(灰褐)のように表現した。

【土性】 土壌中の砂・シルト・粘土の割合で土の特性を示す。

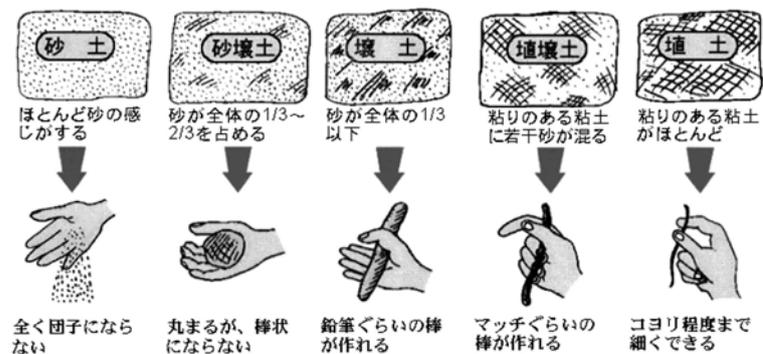
埴土(C) 粘土に富む土

壤土(L) 粘土・シルト・

砂が混ざった土(ローム)

砂土(S) 砂に富む土

【面積割合・粒状構造】 土壌内の含有物の占める割合と、大きさについての目安として標準土色帖のチャート図1:面積割合と、図2:粒状構造を用いて表現した。



土性の分類モデル ※1

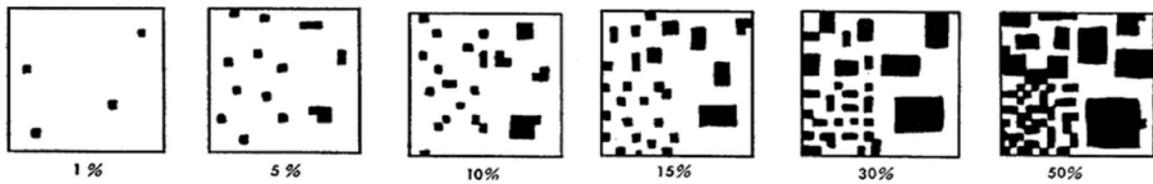


図1 面積割合 CHARTS FOR ESTIMATING PROPORTIONS OF MOTTLING AND COARSE FRAGMENTS

面積割合と粒状構造 ※2

(3) 遺構

遺構の種類と名称については次のような分類を行った。

【盛土遺構】(M) II B層中に多数の遺物を含む、掘り上げ土状の二次堆積物の範囲を盛土遺構とした。また斜面堆積の可能性があるが、多数の遺物を含む範囲もこれに含めた。

【土坑】(P) 覆土が自然堆積のもの、人為的に埋積されたものも含めて、Tピットまたは柱穴状のものを除く全てを一括した。

【Tピット】(TP) 溝状、小判形などの形状から落とし穴として用いられたと考えられる土坑(Ⅶ章で細分を行った)

【焼土】(F) その場で火を焚いた跡、または焼土を持ち込んだ跡。不明瞭なものが多い

【遺物集中】(C) 土器、石器、礫のそれぞれが集中して出土した範囲。

【溝状遺構】(D) 性格不明の溝状の掘り込み

【掘り上げ土】(DU) 伴う遺構が複数、または特定できなかった掘り上げ土・再堆積土。

【炭化材・炭化物集中】(CB) 焼土を伴わない、炭化物粒の集中や炭化材・炭化木片の分布、人為的でない可能性のものも含まれる。ⅢB層調査で検出された炭化物集中もこれに含めた。

【柱穴状小ピット】(SP) ⅢB層調査で検出された径10cm前後の小ピット。

(4) 遺物

【土器】 当センターの分類基準に基づき、時期別にⅠ群(縄文早期)、Ⅱ群(前期)、Ⅲ群(中期)、Ⅳ群(後期)、Ⅴ群(晩期)、Ⅵ群(続縄文)、Ⅶ群(擦文)とした。

今回遺物が出土したⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群についてはⅡ群a(前半)・b(後半)類、Ⅲ群a(前半)・b(後半)類、Ⅳ群a(前葉)・b(中葉)・c(後葉)類を用いた。

既知の土器群、型式名称については、Ⅱ群a-2類(縄文前期前半)に相当する「静内中野式」、Ⅲ群b類(縄文中期後半)に相当する「天神山式」、「柏木川式」、「北筒式」を用いたところがある。

部位については基本的に口縁部・胴部・底部に分類し、口唇のない口縁部や、底面のない底部などを口縁付近・底部付近とし、集計時には口縁・底部に含めた。

【石器】 器種別に剥片石器と礫石器とに大別した。

剥片石器は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ(石匙)・スクレイパー・U,Rフレイク・石核・剥片・原石、礫石器は石斧・石斧原石・たたき石・すり石・扁平打製石器・石錘・砥石・台石石皿に分類した。

さらに、その残存状態から、完形・一部欠損・部分欠損・部分片に分類した。

【礫】 加工痕や被熱の有無、円礫・角礫・扁平礫などの形状、完形か破片かの残存状態で分類した。

また、石器、礫については石材別に分類した。火成岩の黒曜岩(石)・安山岩・玄武岩、堆積岩の砂岩・泥岩・緑色泥岩・頁岩・珪質頁岩・チャート、変成岩の片岩・片麻岩・珪岩などを肉眼観察により分類した。

図2 粒状構造 GRANULAR AND CRUMB STRUCTURES

1. 極小(径1mm以下)	⋮
Very Fine (less than 1 mm. diameter)	⋮
2. 小(径1~2mm)	●
Fine (1-2 mm. diameter)	●
3. 中(径2~5mm)	●
Medium (2-5 mm. diameter)	●
4. 大(径5~10mm)	●
Coarse (5-10 mm. diameter)	●

※縮尺不同

第Ⅳ章 A地区の遺構と遺物

1 概要

(1) 地形 (図Ⅳ-1～4 図版1・2)

調査区は「L」字状で南北に長く幅の広い縦軸と、東に向かって長く細くなる横軸からなる。縦軸の殆どは丘陵尾根の中心が広く張り出した平坦面で、西側谷部にかけて一部急斜面となる。横軸には尾根を開析し、南に流れる沢地形が3か所入り込むため、北側に比べると起伏に富む地形になる。

(2) 遺構 (図Ⅳ-1・2～26 図版3～17 表Ⅶ-1)

遺構は土坑2基、Tピット29基、焼土7か所、溝状遺構1条、遺物集中1か所、掘り上げ土11か所、炭化材・炭化物集中8か所である。分布は沢や谷部周辺などの斜面部に多く、丘陵上部の平坦面には少ない。

土坑は小規模なもので、調査区北西と中央南側の斜面部で検出された。Tピットは調査区全体に分布するが、北西側と中央南側の斜面部付近に集中する傾向がある。また調査区外北西側の遺構確認調査範囲で4基検出された。焼土は全て調査区南側で検出された。中でも西端に広範囲なまとまりが見られる。溝状遺構は調査区北西の1か所のみで調査区外、遺構確認調査範囲まで延びている。遺物集中は小規模な黒曜石の剥片集中で、調査区西端の壁際で確認された。掘り上げ土は調査区中央部の平坦面から中央南部の沢地形にかけて集中する。Tピットに伴うものと思われたが、複数の遺構に伴うかまたは特定できないものを対象とした。炭化材・炭化物集中は、広範囲に分布するが、調査区南西端と南東端に集中が見られた。

遺構の時期はTピット群やこれに伴う掘り上げ土が代表するように縄文時代中期後半が主と考えられる。焼土や炭化物集中などは年代測定の結果により、縄文時代後～晩期の可能性がある。

(3) 遺物 (図Ⅳ-33～35 図版44・45 表Ⅳ-1・2)

遺物は総点数2,725点で、土器が1,849点、石器が678点、礫が198点である。

土器は縄文後期末の1,722点が最も多いが、一個体と見られるものが1,721点あり、111点出土の縄文中期後半の土器が主な時期として考えられる。

石器は遺物集中から出土した黒曜石剥片529点が最も多く、剥片が588点で最多である。他に石器・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・石斧・たたき石・石錘・砥石・台石石皿が出土した。石鏃が55点、石斧10点など比較的多く出土したことが本地区の特徴である。

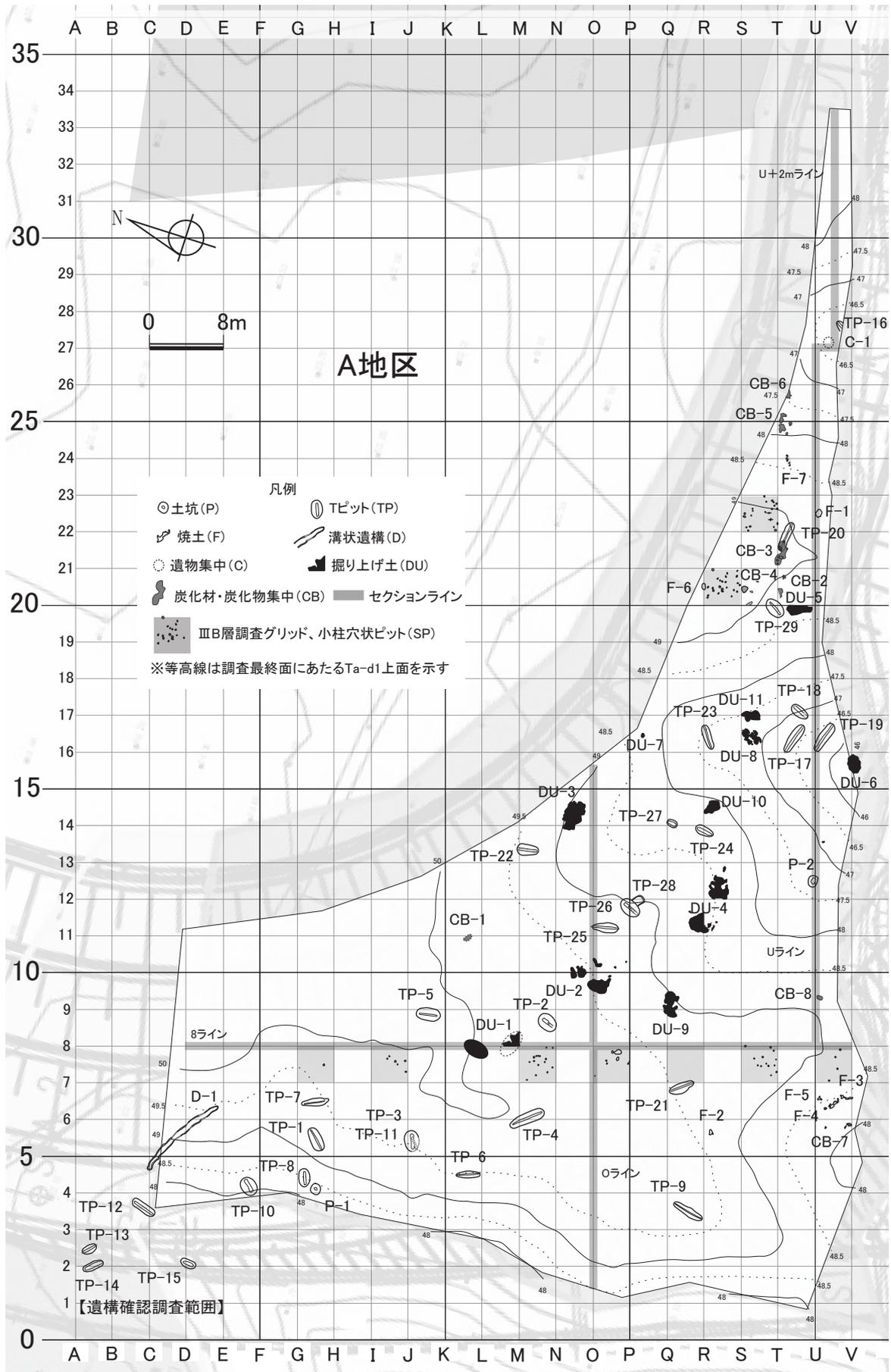
礫は安山岩、片麻岩、砂岩、チャート、泥岩などがある。完形礫は68点でそのうちの18点が円礫、6点が扁平円礫である。円礫の石材はチャートが多く、扁平円礫は片麻岩が殆どである。礫片は130点のうち、円礫が23点、扁平円礫が22点である。円礫の石材は砂岩、片麻岩など様々で、扁平円礫には片麻岩が多い。

(4) ⅢB層の調査 (図Ⅳ-27～32 図版18～21 表Ⅶ-1)

ⅡB層の調査後に、尾根筋上の頂部にあたるグリッド8ライン、Sラインに沿ってG7、I7、M7、O7、Q7、S7、U7、R20、S22の9グリッド分144㎡において、ⅢB層を対象にした確認調査を行った。黄褐色ローム層上面で各グリッドあわせて93か所の柱穴状小ピットを確認した。

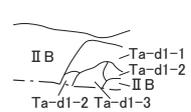
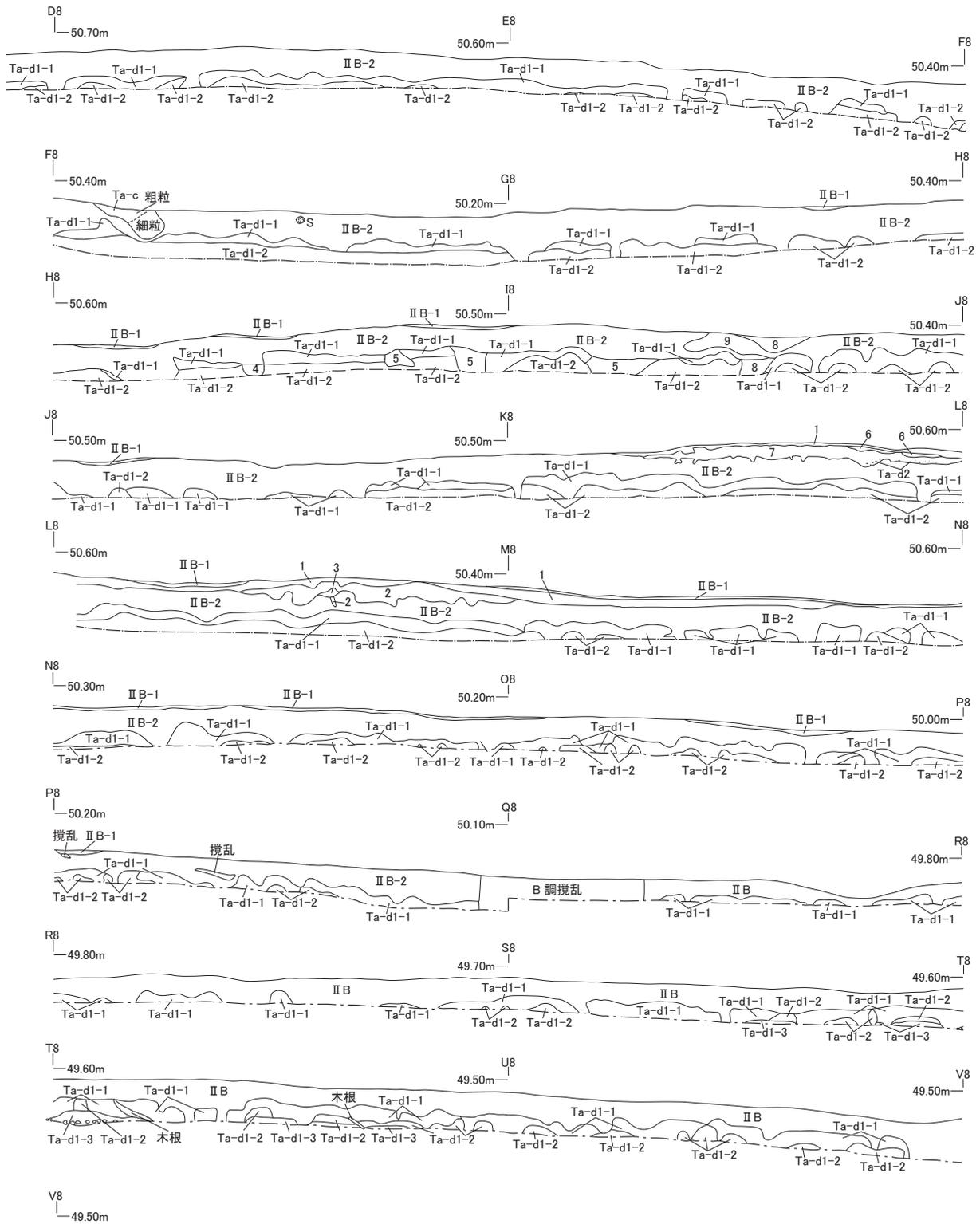
2 遺構

(1) 土坑 (P)

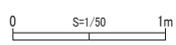


図IV-1 A地区遺構位置図

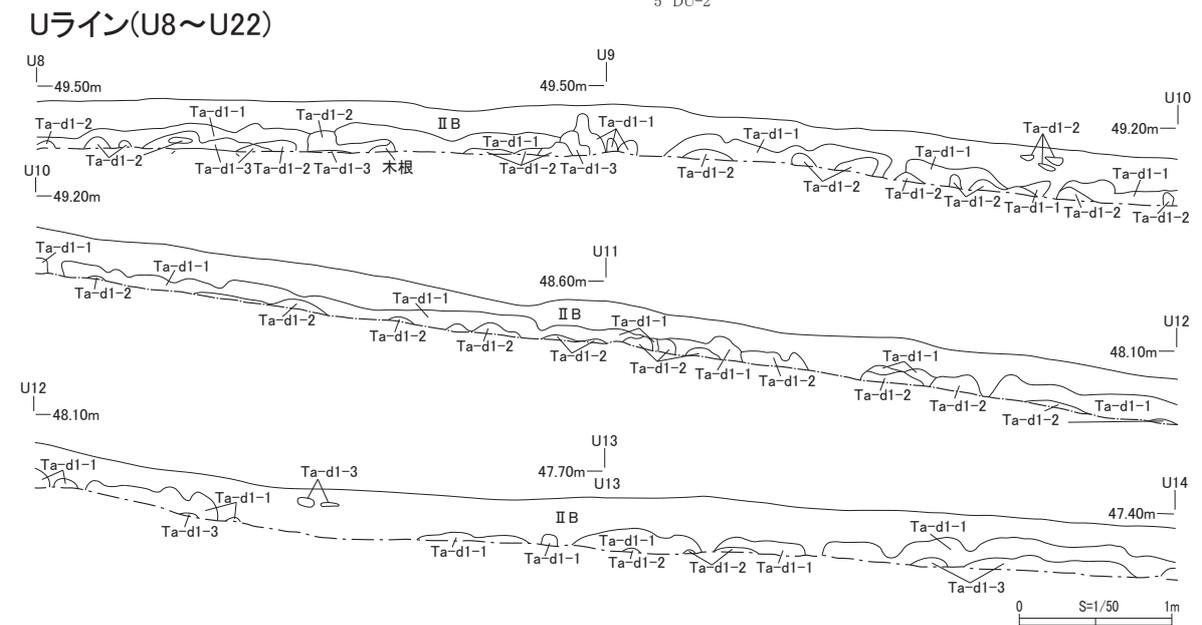
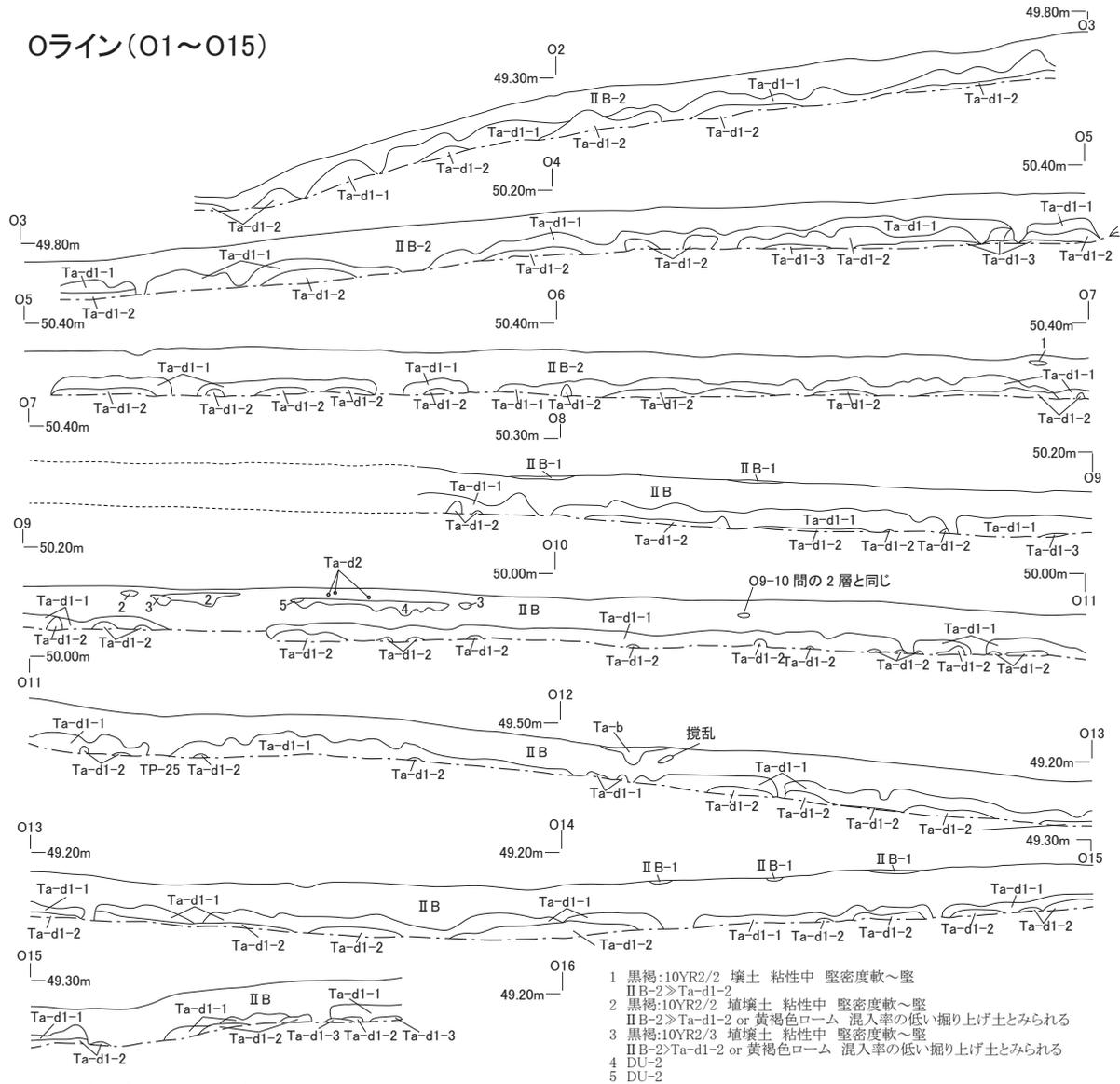
8ライン (D8 ~ V8)



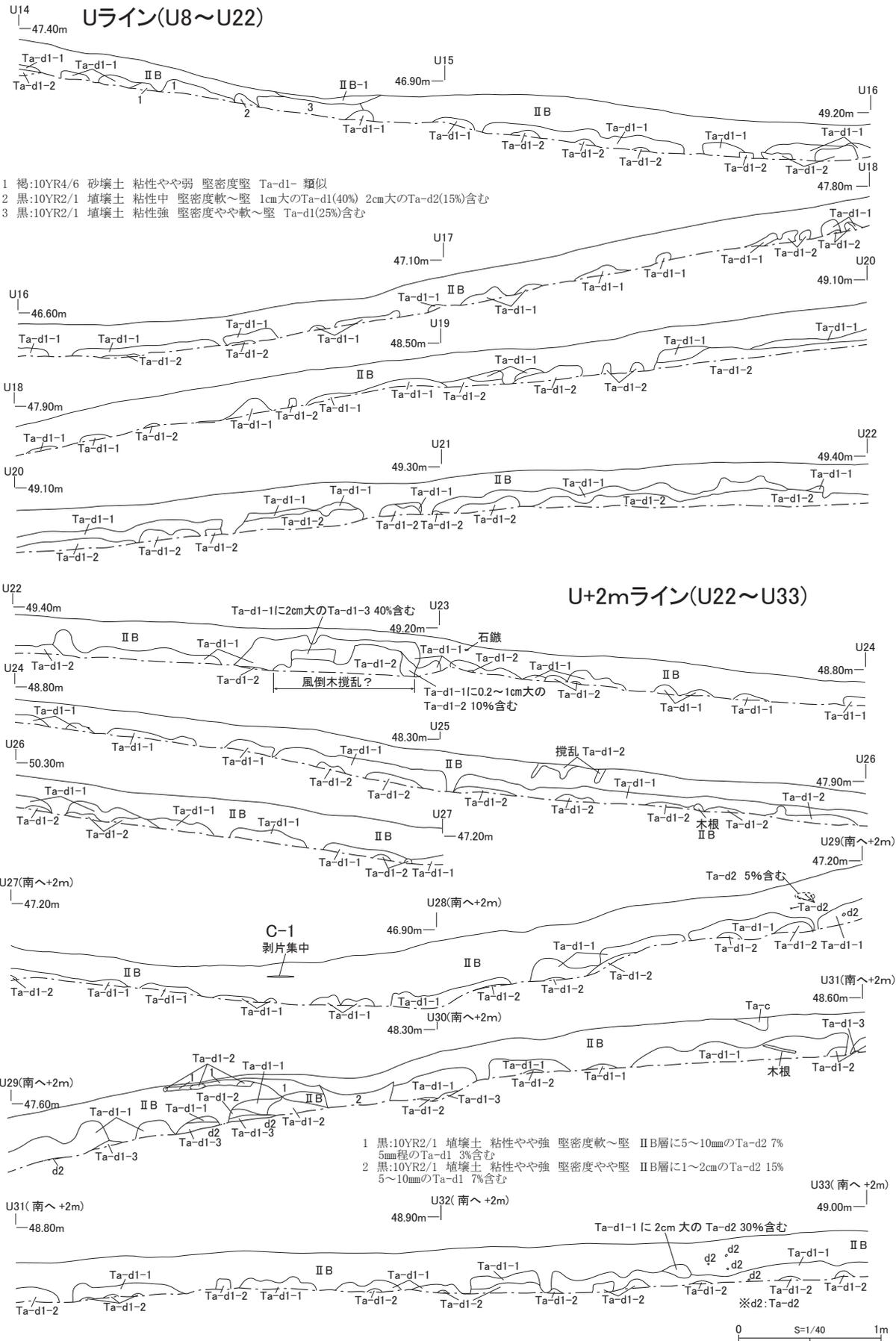
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 II B-2にTa-d2(3%)含む シルト状のTa-d2少量含むためかII Bより赤みがある
- 2 暗オリーブ褐:2.5YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 II B-2<黄褐色 1cm程のTa-d2 部分的に10%含む
- 3 明赤褐:5YR5/6 軽埴土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-d2
- 4 黒:10YR1.7/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2(2%)含む
- 5 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d2(1cm)25%含む
- 6 黒褐:0YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 III B>黄褐色ローム 均質
- 7 黄褐:10YR5/6 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 黄褐色ローム>>II B2 Ta-d2(1～2cm)
- 8 黒:10YR1.7/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-d1-2(2%)含む III B-1に類似
- 9 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 III B2>>Ta-d1-2 II Bより黄褐色がかかる Ta-d1-2(10%)含む



図IV-2 土層断面図(1)



図IV-3 土層断面図(2)



図IV-4 土層断面図(3)

P-1 (図IV-5 図版3-1・2)

位置：G3・4区 調査区北西部に位置し、標高48.5mの急斜面上に立地する。北東にTP-8と近接し、東4mにTP-1、北6mにTP-10がある。

規模：確認面 1.20×1.10 底面 0.30×0.28 最大深さ0.48m 平面形態：円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1からTa-d2上において円形の褐灰色土の広がりを確認した。

【調査】南側半分を掘り下げて土層断面を確認し、土坑として調査した。【堆積】覆土は褐灰色土が主体で、底部には壁からの崩落土の堆積があった。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまで掘り込まれている。底面は小さな丸底で、壁は斜面下部以外は緩やかな立ち上がりである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：時期を特定できる遺物の出土はなかったが、ⅡB層を掘り込んだ土坑であることから縄文時代と考えられる。(藤井・山中)

P-2 (図IV-5 図版3-3・4)

位置：T12、U12区 調査区中央南部、標高47.3mの東に傾斜する緩斜面上に位置する。

規模：確認面1.26×0.99 底面0.69×0.43 最大深さ0.23m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】半截して調査を行った。【堆積】上部はⅡB層と同様の黒色土(覆土1)が堆積し、下部にはTa-d1が混じる。【壁・底面】坑底は皿状で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：覆土の堆積からⅡB層中から掘り込まれたとみられ、縄文時代早～晩期と考えられる。

(鈴木)

(2) Tピット (TP)

TP-1 (図IV-5 図版3-5・6)

位置：G5区 調査区北西部に位置し、標高49～49.5mの緩斜面上に立地する。

西にTP-8、東にTP-7と近接し、西4mにTP-1がある。

規模：確認面2.71×1.27 底面2.60×0.18 最大深さ1.23m 平面形態：長楕円形

特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の西側をトレンチで掘り下げて、細い溝状であること、覆土の堆積と壁の形状からTピットと判断して調査した。

【堆積】覆土の堆積は大きく上中下の3つに分けられた。上層はⅡB層主体の落ち込み堆積、中層はTa-d2、ⅢB、黄褐色ロームの崩落土の堆積で最も厚い。下層は混入の少なく、軟らかく均質な黒色土の堆積である。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は、細い底面から緩やかに広がる「V」字形に近い。長軸上は西端が底面に近いオーバーハング、東端は直立に近い。底面は水平で丸底である。

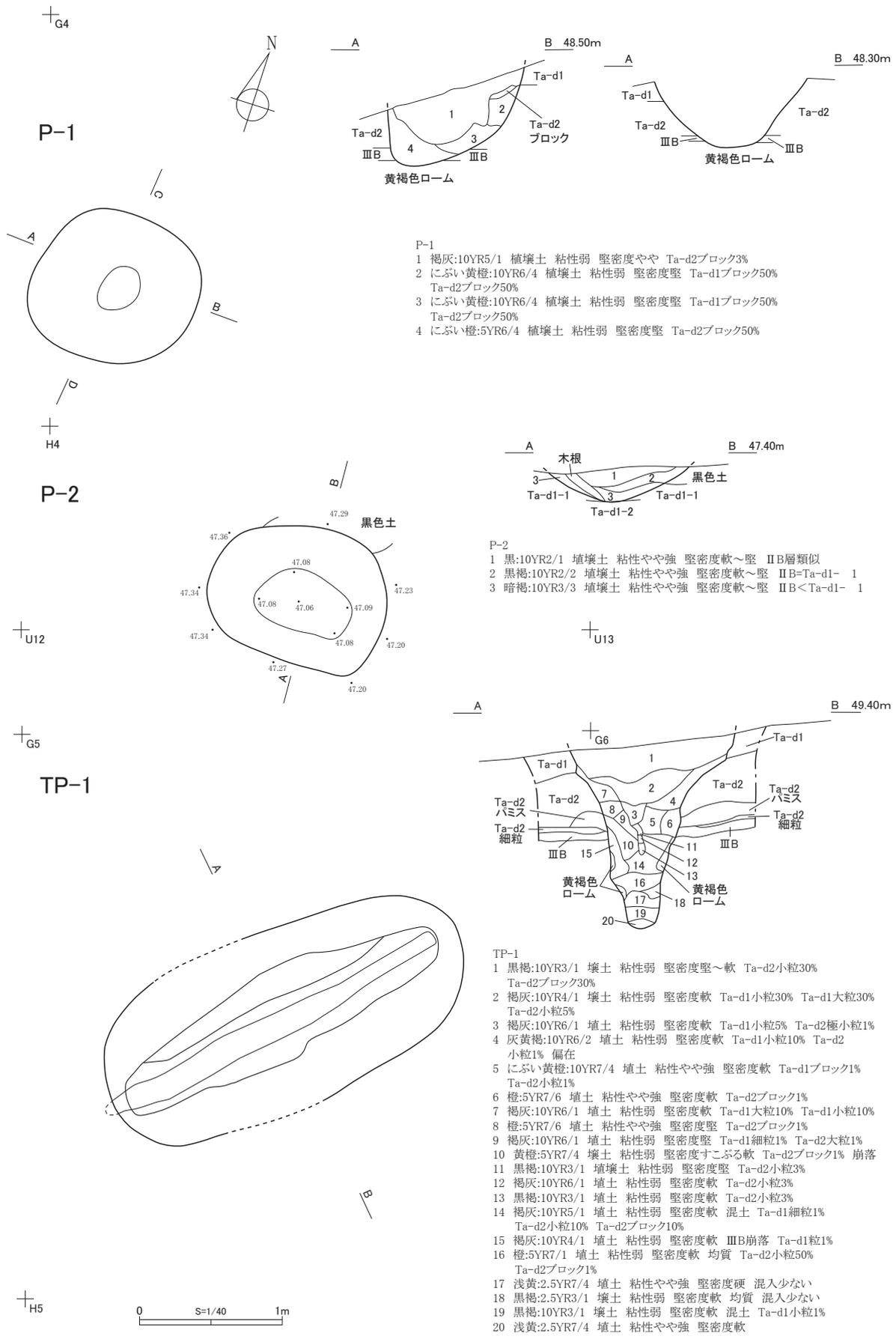
遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半の頃と思われる。(藤井)

TP-2 (図IV-6 図版3-7・8、4-1・2・3)

位置：M8区 調査区西部中央の標高49.7mの平坦面に位置する。長軸は東西方向で、ほぼ単独で分布する。

規模：確認面2.18×1.60 底面1.47×0.29 最大深さ1.20m 平面形態：楕円形



図IV-5 土坑・Tピット(1) P-1・2 TP-1

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。**【調査】**短軸方向に半載して掘り下げたところ、壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。

【壁・底面】短軸断面は坑口が大きく広がる「Y」字状で、上部のTa-d1・2部分は大きく斜めに立ち上がり、ⅢB層と黄褐色ローム層は溝状に60cmほど掘り込まれている。**【堆積】**下部の溝部はⅡB層とTa-d2が互層となり、上部はⅡB層を中心に上半部にはTa-d1が顕著に混じる。前者は崩落土、後者は自然堆積と掘り上げ土とみられ、下部が側面の崩落によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、その後、Ta-d1主体の掘り上げ土により埋没したものと考えられる。

付属遺構：坑底のほぼ中央の中軸線上には約10cmの間隔をおいて直径4cm、深さ6～10cmの杭穴が3か所検出された（SP-1・2・3）。北側に隣接したL8区にはⅡB層中に掘り上げ土とみられるTa-d2および黄褐色ロームが検出されている（DU-1）。また、8ライン断面などからK7・8、L7、M8・9区にも広がっていたことが確認できた。黄褐色ロームを主体とするものはK7・8区を中心に、Ta-d2・黄褐色ロームの混じった土はL7・8区を中心に分布している。周辺にはTP-2以外にTP-4・5が分布しており、いずれかの掘り上げ土の可能性が高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。

（鈴木）

TP-3（図IV-6 図版4-4・5・8）

位置：L5、J5区 調査区北側の標高49.5mの斜面上部に立地する。TP-11と重複し、南西5mにTP-6がある。

規模：確認面2.28×(1.56) 底面1.68×(0.27) 最大深さ1.11m **平面形態：**楕円形

特徴：【確認】周辺をTa-d1層まで掘り下げたところ、楕円形をした黒褐色土の範囲を確認した。

【調査】攪乱がなく残りのよい東側半分を残して掘り下げたところ、黄褐色ロームを溝状に掘り込んだ底面と壁の立ち上がりを検出し、その形状からTピットと判断した。**【堆積】**大きく上、中、下の三層に分けることができた。上層は皿状に黒褐色土の堆積。中層は皿状にTa-d2と黄褐色ロームとの混土と、その下に厚く黒褐色土の堆積からなる。下層はTa-d2主体の混土と均質な灰褐色土との互層からなる。

【壁・底面】短軸上の壁面は下部が短く直立し、上部が広がる「V」字状に近い形、長軸上は下部が直立し、中央部から外に広がる形である。底面はやや太い溝状で概ね平坦である。西側に向かって緩やかに高くなる。底面には更に深い掘り込みが確認され、重複するTピット（TP-11）があると判断した。**付属遺構：**底面の中央部に深さ20cmの杭状の穴を1か所確認した。TP-11底面との境近くにあたり、TP-11に伴う可能性もある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物、近辺の調査事例などから縄文時代中期後半と考えられる。（山中、藤井）

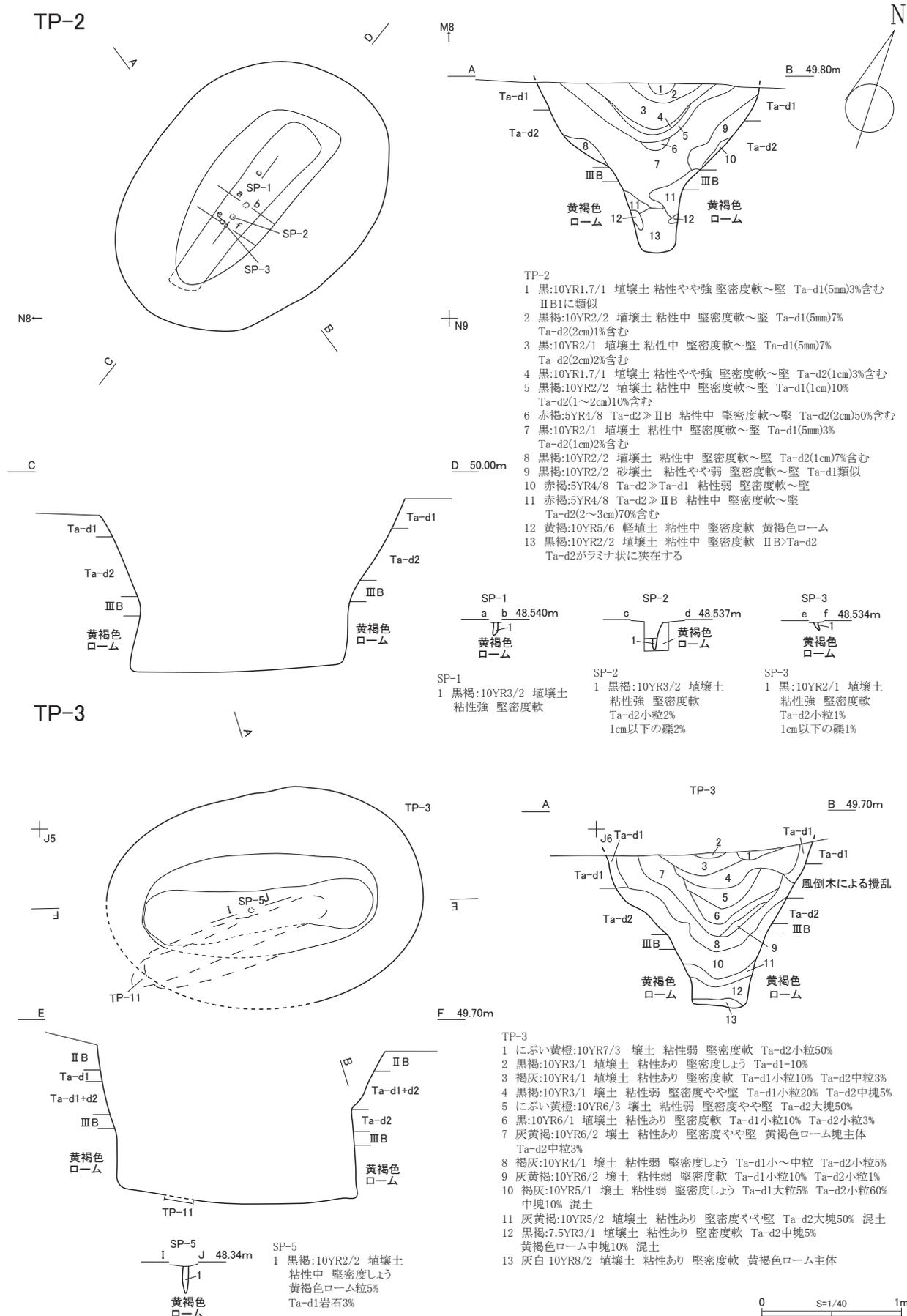
TP-4（図IV-7 図版4-9・10）

位置：L6、M6区 調査区西側の平坦面に位置し、確認面の標高は約50mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面4.02×1.18 底面3.6×0.24 最大深さ1.02m **平面形態：**長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で長楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。

【調査】黒色土の南側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが



図IV-6 Tピット(2) TP-2・3

検出されたのでTピットと判断した。長軸長は上端で約4m、確認面からの深さは約1mで、細長く浅い【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1層はⅡB層、2・5層はTa-d1、4・6層はTa-d2を主体とし、3・7・8層はTa-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。長軸南端はオーバーハングする。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性ある。(山中)

TP-5 (図IV-7 図版4-11・12)

位置：J8・9区 調査区西側の平坦面に位置し、確認面の標高は約50mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面2.63×1.43 底面1.93×0.19 最大深さ1.58m 平面形態：楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1層はⅡB層、2層はTa-d1、4層はTa-d2を主体とし、5～11層には、黒色土、Ta-d2、黄褐色ロームが交互に堆積する。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は平坦である。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性ある。(山中)

TP-6 (図IV-8 図版5-1・2)

位置：K4区 調査区西側の平坦面に位置し、確認面の標高は約49mを測る。長軸は北-南を向き、等高線に平行する。

規模：確認面2.60×0.72 底面2.60×0.20 最大深さ1.03m 平面形態：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する黒褐色土の広がりを確認した。

【調査】黒褐色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1層はⅡB層を主体とする。2～7層はTa-d1が多く、8～13層はTa-d1、Ta-d2を主体とする。底面に堆積する14層はTa-d2の混じる褐灰色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。

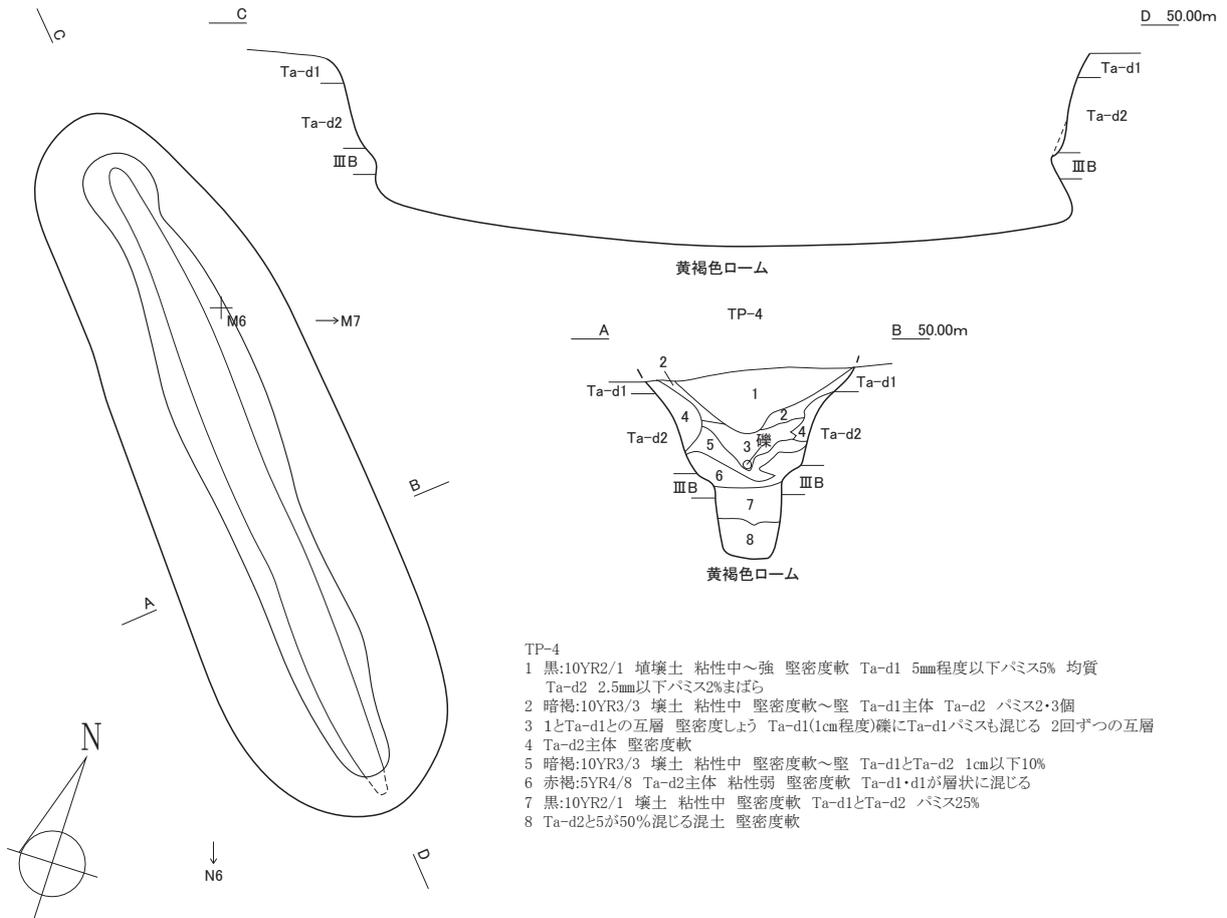
遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性ある。(山中)

TP-7 (図IV-8 図版5-3・4)

位置：G6区 調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約49mを測る。長軸方向は北西-南東で

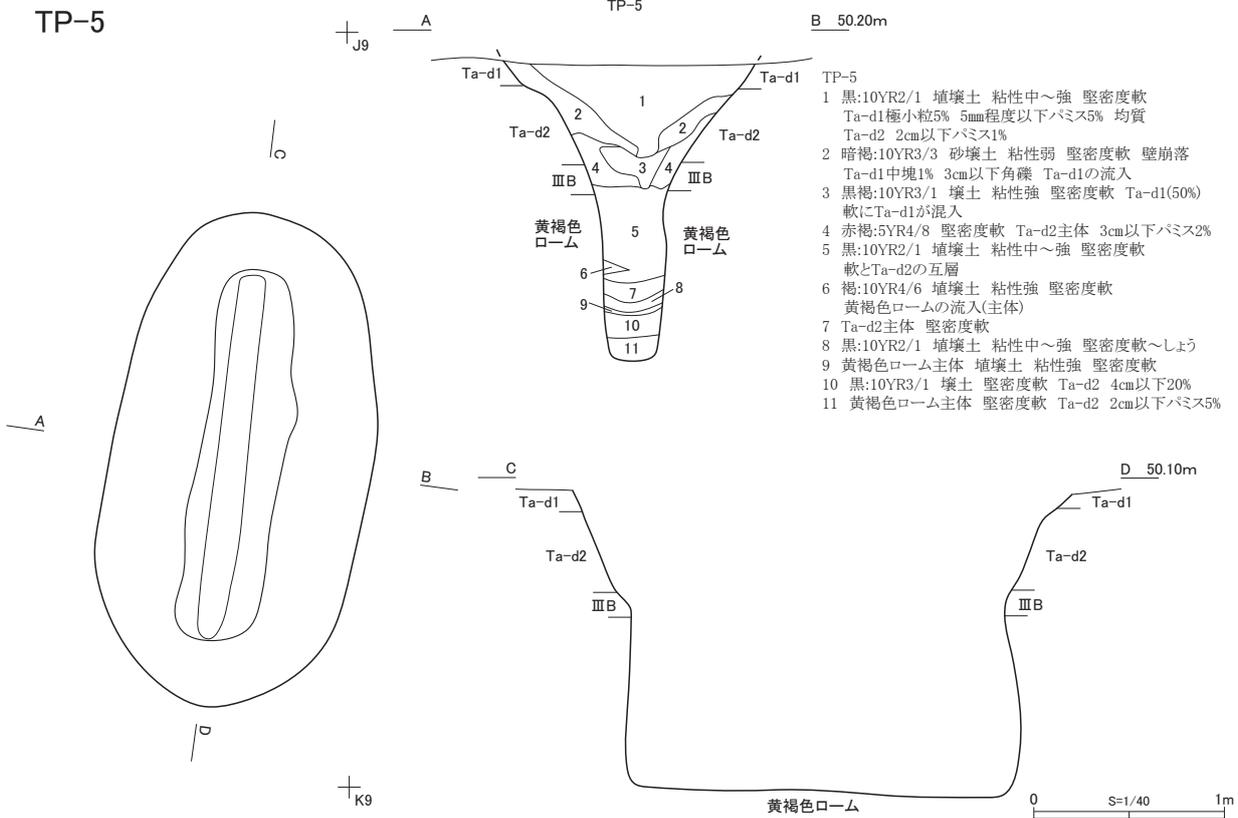
TP-4



TP-4

- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中～強 堅密度軟 Ta-d1 5mm程度以下バミス5% 均質
- Ta-d2 2.5mm以下バミス2%まばら
- 2 暗褐:10YR3/3 壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1主体 Ta-d2 バミス2・3個
- 3 1とTa-d1との互層 堅密度しろう Ta-d1(1cm程度)礫にTa-d1バミスも混じる 2回ずつの互層
- 4 Ta-d2主体 堅密度軟
- 5 暗褐:10YR3/3 壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1とTa-d2 1cm以下10%
- 6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1・d1が層状に混じる
- 7 黒:10YR2/1 壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1とTa-d2 バミス25%
- 8 Ta-d2と5が50%混じる混土 堅密度軟

TP-5



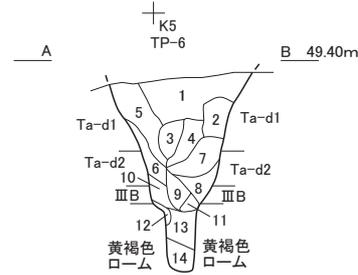
TP-5

- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中～強 堅密度軟
- Ta-d1極小粒5% 5mm程度以下バミス5% 均質
- Ta-d2 2cm以下バミス1%
- 2 暗褐:10YR3/3 砂壤土 粘性弱 堅密度軟 壁崩落
- Ta-d1中塊1% 3cm以下角礫 Ta-d1の流入
- 3 黒褐:10YR3/1 壤土 粘性強 堅密度軟 Ta-d1(50%)
- 軟にTa-d1が混入
- 4 赤褐:5YR4/8 堅密度軟 Ta-d2主体 3cm以下バミス2%
- 5 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中～強 堅密度軟
- 軟とTa-d2の互層
- 6 褐:10YR4/6 埴壤土 粘性強 堅密度軟
- 黄褐色ロームの流入(主体)
- 7 Ta-d2主体 堅密度軟
- 8 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中～強 堅密度軟～しろう
- 9 黄褐色ローム主体 埴壤土 粘性強 堅密度軟
- 10 黒:10YR3/1 壤土 堅密度軟 Ta-d2 4cm以下20%
- 11 黄褐色ローム主体 堅密度軟 Ta-d2 2cm以下バミス5%

図IV-7 Tピット (3) TP-4・5

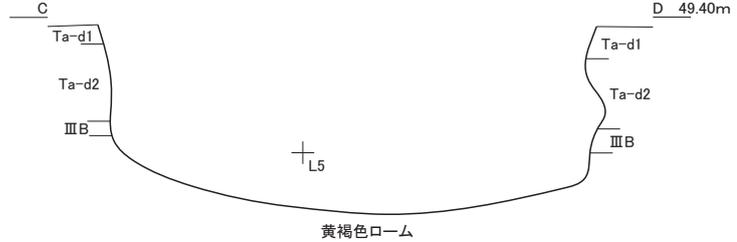
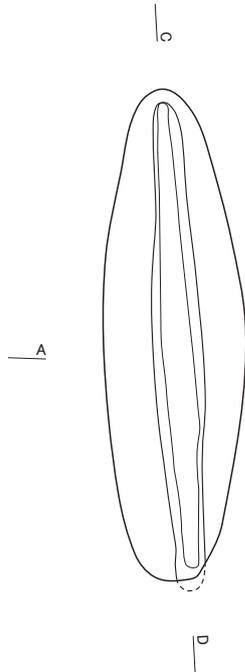
TP-6

K4



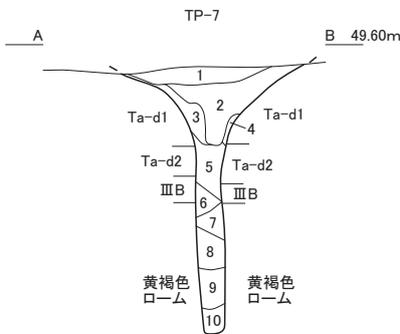
TP-6

- 1 灰黄褐:10YR3/1 埴壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒60% 小礫数点含む 小礫混じる
- 2 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d1小粒80% 粒
- 3 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d1小粒5% Ta-d2中塊10% 混土
- 4 灰黄褐:10YR5/2 砂壤土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d1中塊主体 小礫数点を含む混土
- 5 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d1、Ta-d2中粒5%の混土
- 6 橙:5YR7/6 壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d2中塊主体 Ta-d2流入
- 7 褐灰:10YR6/1 壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d1中粒5% Ta-d2中粒1%
- 8 橙:5YR7/6 壤土 粘性中 堅密度やや堅 Ta-d2主体
- 9 褐灰:10YR6/1 砂壤土 Ta-d1とTa-d2小粒10% 堅密度ややしよう
- 10 橙:5YR7/6 砂壤土 Ta-d2中塊主体 堅密度しよう
- 11 橙:5YR7/6 砂壤土 Ta-d2中塊主体 堅密度ややしよう
- 12 褐灰:10YR6/1 III B層の流入
- 13 橙:5YR7/6 砂壤土 Ta-d2大塊主体 堅密度しよう
- 14 褐灰:10YR5/1 砂壤土 粘性なし 堅密度すこぶるしよう Ta-d1小粒1% Ta-d2小粒3%



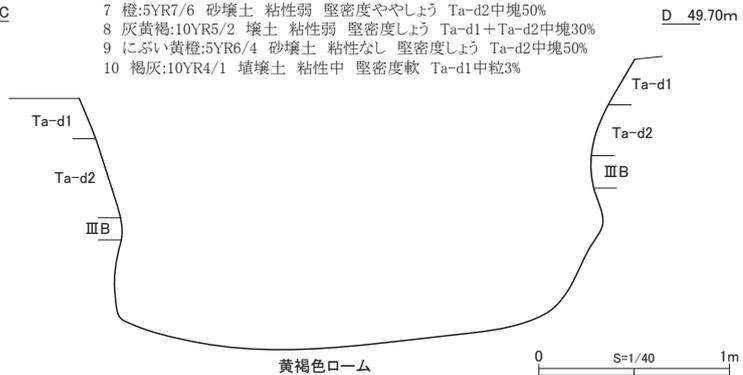
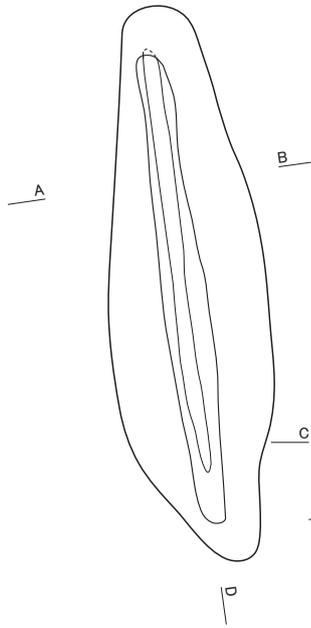
TP-7

G6

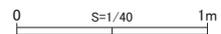


TP-7

- 1 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1+Ta-d2小粒3%
- 2 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d1中粒50%
- 3 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d1中粒10% Ta-d2中粒50%
- 4 にぶい黄橙:10YR6/3 砂壤土 Ta-d2中粒主体 堅密度しよう Ta-d1小粒5%
- 5 橙:10YR7/6 砂壤土 粘性なし 堅密度すこぶるしよう Ta-d2中塊80%
- 6 にぶい黄橙:10YR7/3 壤土 粘性あり 堅密度軟 Ta-d1小粒5% Ta-d2中粒1%
- 7 橙:5YR7/6 砂壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d2中塊50%
- 8 灰黄褐:10YR5/2 壤土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d1+Ta-d2中塊30%
- 9 にぶい黄橙:5YR6/4 砂壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d2中塊50%
- 10 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1中粒3%



H6



図IV-8 Tピット(4) TP-6・7

ある。

規模：確認面2.96×0.83 底面2.24×0.09 最大深さ1.43m **平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で長楕円形を呈する褐灰色土の広がりを確認した。

【調査】褐灰色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1・2層はⅡB層、3・4・6・8層はTa-d1、5・7・9層はTa-d2を主体とする。底面に堆積する10層はTa-d2の混じる褐灰色土である。【壁・底面】壁の中下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。北西端がややオーバーハングする。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。（山中・藤井）

TP-8（図IV-9 図版5-5・6）

位置：G4区 調査区北西側の斜面に位置し、確認面の標高は約48mを測る。長軸は東西を向き、等高線に直交ぎみである。

規模：確認面1.98×1.22 底面1.48×0.26 最大深さ1.36m **平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する黒褐色土の広がりを確認した。

【調査】黒褐色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1層はⅡB層、2・3層はTa-d1を主体とし、4～8層はTa-d1、Ta-d2、黄褐色ローム、黒色土が混在する。底面に堆積する9層はTa-d2の混じる褐灰色土である。なお、底面付近の地山（黄褐色ロームの下位）には20cm以下の軽石が多く含まれる。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は谷側に傾き、前述した軽石が所々に露出する。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。（山中）

TP-9（図IV-9 図版5-7・6-1）

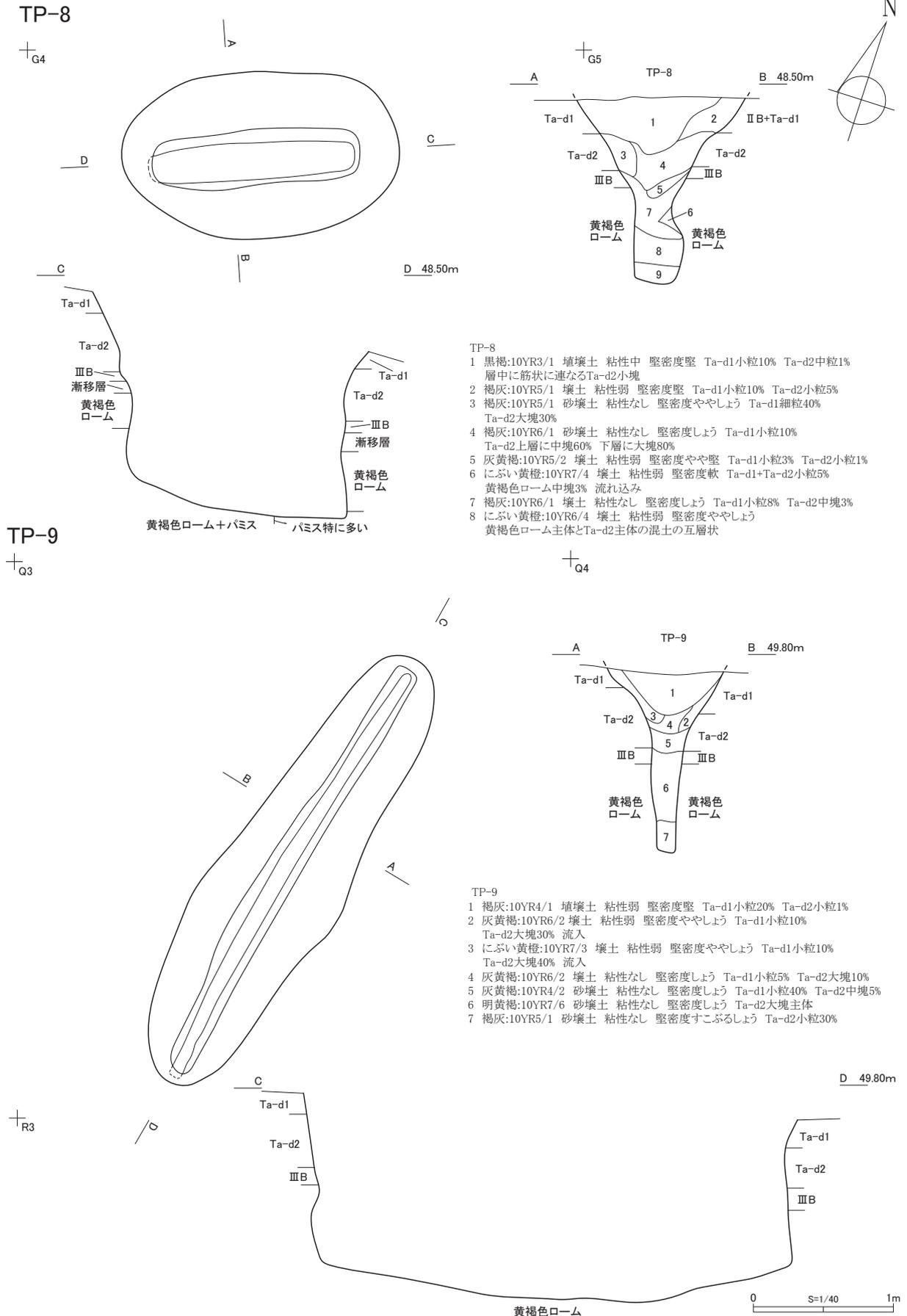
位置：Q3区 調査区の南西側、台地先端付近の平坦面に位置し、確認面の標高は約50mを測る。長軸は南西側へのびる台地に平行し、北東-南西を向く。

規模：確認面3.54×0.98 底面3.36×0.12 最大深さ1.28m **平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で長楕円形を呈する褐灰色土の広がりを確認した。

【調査】褐灰色土の南西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1層はⅡB層、2・3層はTa-d1を主体とする。底面に堆積する7層はTa-d1、Ta-d2の混じる灰黄褐色土である。【壁・底面】壁の中下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。南西端がわずかにオーバーハングする。

付属遺構：検出されていない。



図IV-9 Tピット(5) TP-8・9

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半前葉の可能性がある。(山中)

TP-10 (図IV-10 図版5-8、6-2)

位置：E3・4区 調査区北西側の斜面に位置し、確認面の標高は約48mを測る。長軸は北東-南西を向き、等高線に直交する。

規模：確認面2.08×1.62 底面1.54×0.32 最大深さ1.00m 平面形態：楕円形(小判形)

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する褐灰色土等の広がりを確認した。

【調査】広がりの南西側を残して黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、不整長方形の掘り込みが検出されたので、溝状ではないTピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1～3層はⅡB層、4層はTa-d2を主体とする。底面に堆積する6層はTa-d2の混じる灰黄褐色土である。【壁・底面】壁は崩落により外傾する。底面は谷側にやや傾き、南西端がオーバーハングする。

付属遺構：底面中央部の長軸上で、杭痕が2か所検出された(SP-1・2)。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。(山中)

TP-11 (図IV-10 図版4-5・6・7)

位置：I5、J5区 調査区北側に位置し、標高49.5mの斜面上部に立地する。TP-3と重複し、南西5mにTP-6がある。

規模：確認面(2.20)×(1.60) 底面1.40×0.16 最大深さ1.12m 平面形態：楕円形(小判形)

特徴：【確認】TP-3の検出後に底面と南西側の壁面で重複するTピットの覆土を確認した。【調査】溝状にわずかに残る底面を精査した後、南西側を掘り込んだ壁面を検出し、Tピットと判断した。

【堆積】TP-3の土層断面には見られなかったので確認できるものはない。【壁・底面】底面は溝状で平坦である。壁は下部でオーバーハングしている状態が確認できた。

付属遺構：底面長軸上に並んで杭穴状のピットを5か所確認した。SP-1～4は約10cm、SP-6は20cmの深さがある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物、近辺の調査事例から、縄文時代中期後半と考えられる。

(山中)

TP-12 (図IV-11 図版6-4・5)

位置：C3区 調査区北側の立会拡張区に位置する。標高47.5m程の緩斜面部に立地し、周囲にはTP-13・14がある。

規模：確認面2.80×0.90 底面2.70×0.22 最大深さ1.30m 平面形態：長楕円形(溝状)

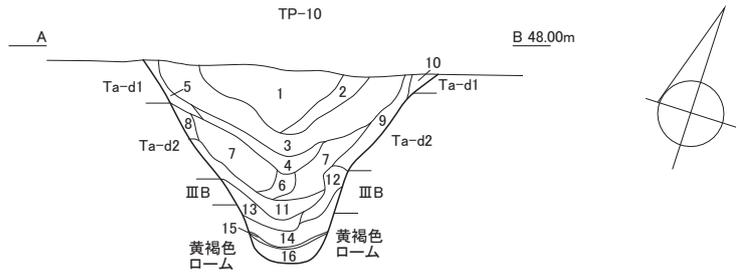
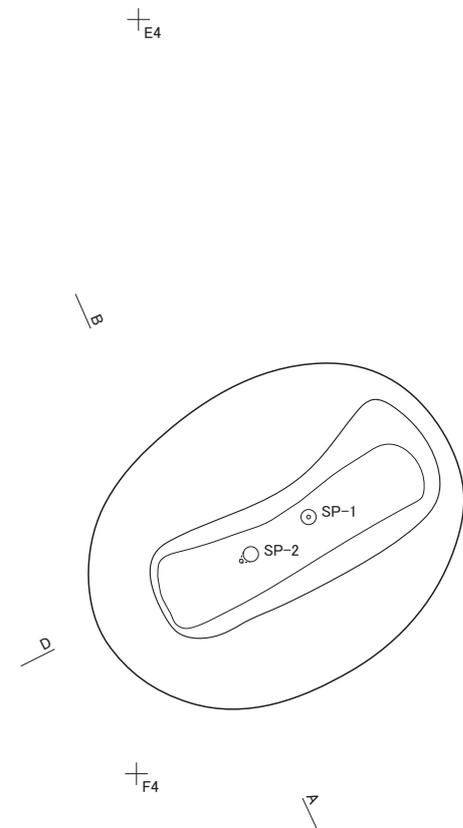
特徴：【確認】Ta-d2上面で長楕円形のプランを検出した。【調査】SP-A-B間においてトレンチを設け、セクション観察によりTピットと判断し、調査を開始した。【堆積】最深部の覆土7層は周囲の腐植土の流れ込みで、それ以外は壁面からの崩落による。【壁・底面】壁は崩落による凹凸を留めながら緩やかに広がっている。底面はやや丸みを帯びた溝状を呈している。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：調査区の検出状況から縄文時代中期後半と考えられる。

(皆川)

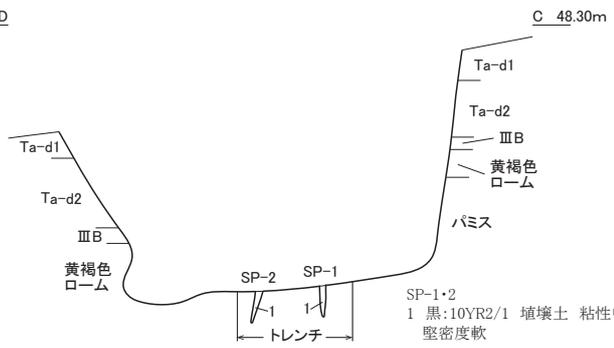
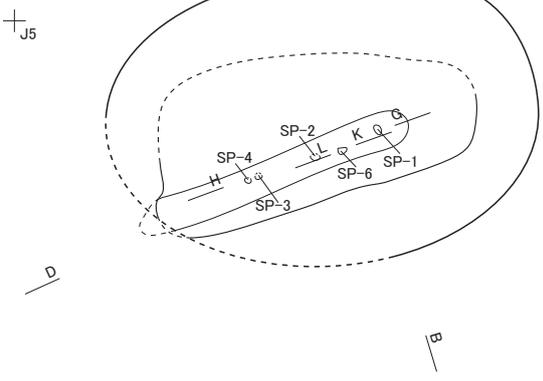
TP-10



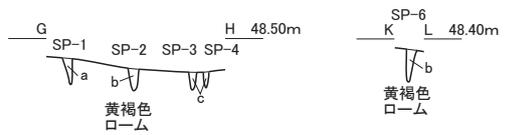
TP-10

- 1 褐灰:10YR5/1 埴壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小~中粒40%
- 2 にぶい黄橙:10YR7/2 埴壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒10%
Ta-d2小~中粒30% 混土
- 3 黒褐:10YR3/2 埴壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒5%
Ta-d2小粒1% 均質 混入少ない
- 4 褐灰:10YR6/1 壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小~中粒30%
- 5 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒30% Ta-d2中塊20%
- 6 にぶい黄橙:10YR6/3 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒20% Ta-d2小塊5%
- 7 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性あり 堅密度軟 Ta-d1小粒5% 均質
- 8 灰白:10YR7/1 砂壤土 Ta-d1主体
- 9 褐灰:10YR5/1 砂壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d1小粒10% Ta-d2中粒30%
- 10 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d1小粒10% Ta-d2中粒10%
- 11 にぶい黄橙:10YR6/4 砂壤土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d2主体
- 12 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d2小~中塊5%
- 13 灰白:10YR7/1 砂壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d2大塊5% Ta-d1小粒10%

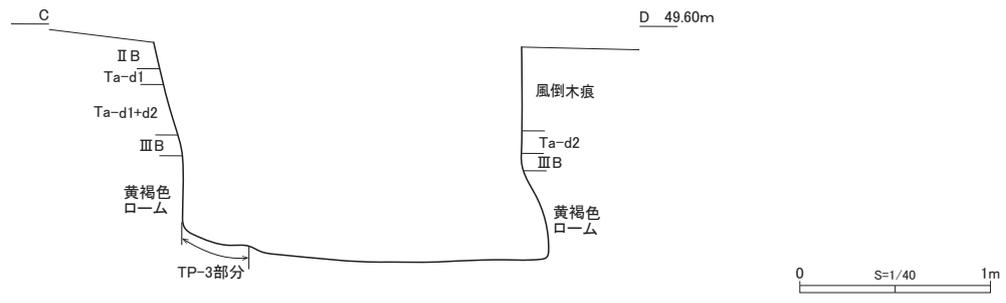
TP-11



- SP-1・2
1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟



- SP-1~4・6
a 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度しよう 黄褐色ローム5% Ta-d1岩石3%
b aに同じでTa-d2(3%)を追加
c 褐:10YR4/4 埴壤土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム10% Ta-d2(5%)



図IV-10 Tピット(6) TP-10・11

TP-13 (図IV-11 図版6-6・7)

位置：A2区 調査区北側の立会拡張区に位置し、標高48.0m程の緩斜面部に立地する。TP-14と並列しており、周囲にはTP-12がある。

規模：確認面1.60×0.91 底面1.88×0.20 最大深さ1.35m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】Ta-d2上面で楕円形のプランを検出した。【調査】SP-A-B間においてトレンチを設け、セクション観察によりTピットと判断し、調査を行った。【堆積】最深部の覆土9層は周囲の腐植土の流れ込みで、それ以外は壁面からの崩落による。【壁・底面】壁は上半部において崩落で広がっており、下半部においてはほぼ真直ぐに坑底へと繋がっている。底面は平坦で図の位置にSP-1を検出している。

付属遺構：SP-1は浅い小柱穴状のピットである。杭跡に関わる可能性がある。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：調査区の検出状況から縄文時代中期後半と考えられる。(皆川)

TP-14 (図IV-11 図版7-1・2)

位置：A1区 調査区北側の立会拡張区に位置し、標高48.0m程の緩斜面部に立地する。TP-13と並列しており、周囲にはTP-12がある。

規模：確認面2.30×0.86 底面2.10×0.44 最大深さ1.10m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】Ta-d2上面で楕円形のプランを検出した。【調査】SP-A-B間においてトレンチを設け、セクション観察によりTピットと判断し、調査を行った。【堆積】最深部の覆土12層は周囲の腐植土の流れ込みで、それ以外は壁面からの崩落による。【壁・底面】壁は上部に向かって緩やかに広がっている。底面は平坦で、やや幅広を呈している。なお、遺構の深さが周囲のTP-12・13と比較して浅い特徴を有す。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：調査区の検出状況から縄文時代中期後半と考えられる。(皆川)

TP-15 (図IV-12 図版7-3・4)

位置：C1・2、D1・2区 調査区外北西側、遺構確認調査範囲に位置し、標高45.5～46.0mの斜面上部に立地する。北東8mにTP-12、北10mにTP-13・14がある。いずれも遺構確認調査範囲内にある。

規模：確認面1.74×0.88 底面1.16×0.34 最大深さ0.56m 平面形態：楕円形

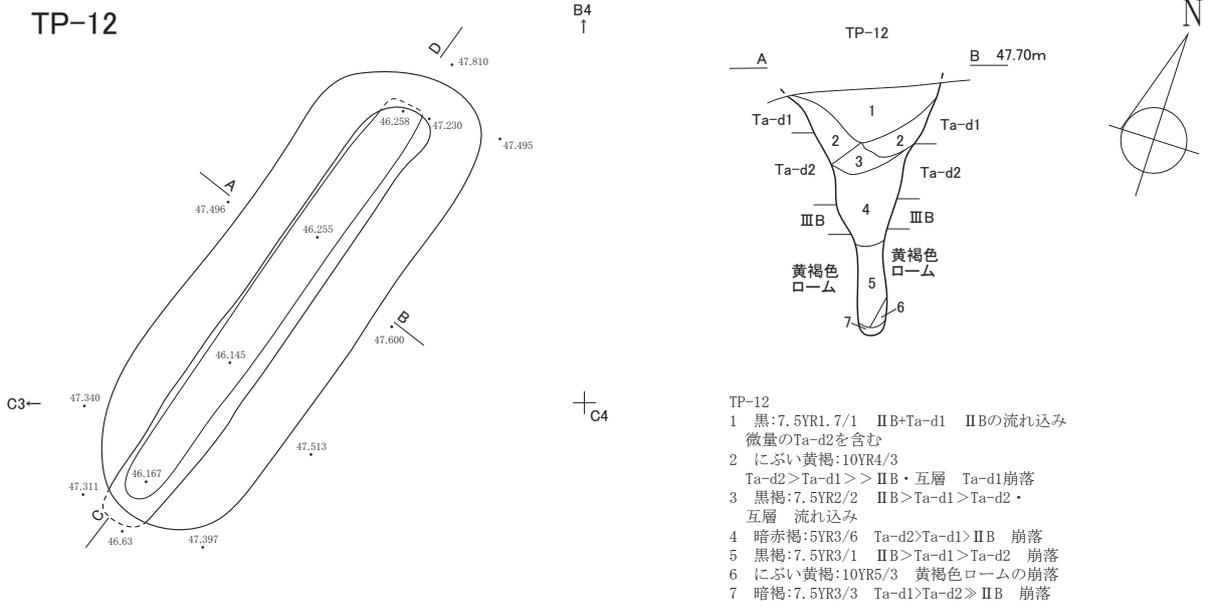
特徴：【確認】Ta-d1層面で楕円形をした黒褐色土の範囲を確認した。【調査】楕円形の範囲の北側半分を掘り下げて溝状となったこと、覆土の堆積壁の形状からTピットと判断した。【堆積】覆土は上下2層に分類できた。上層は均質な黒褐色腐植質土層、下層はTa-d1とⅡB層との混土の堆積である。

【壁・底面】Ta-d1からTa-d2を掘り込んでいる。短軸上の壁面は、やや幅の広い底面から緩やかに立ち上がる「V」字形に近い。長軸方向の立ち上がりも緩やかである。底面は平坦面が広く残る。

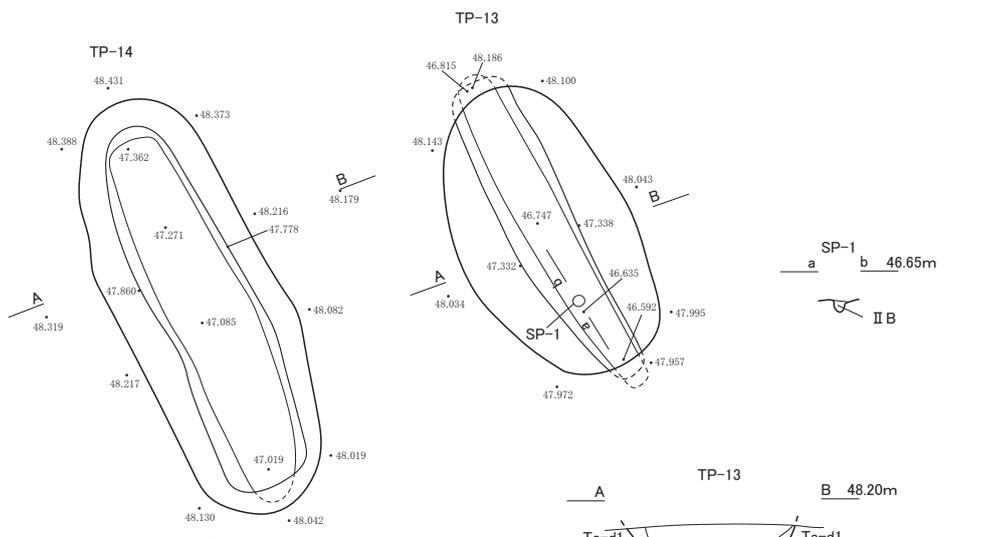
付属遺構：柱穴状小ピットが2か所確認されたが、崩落によって1か所のみ記録することができた。SP-1は径も深さも10cmに満たない小規模なもので、Tピットの長軸に沿って2か所並んでいた南側の一つにあたる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性はある。(藤井)

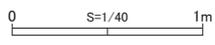


TP-13・14



- TP-14**
 1 黒:7.5YR1.7/1 II B+Ta-d1 II Bの流れ込み 微量のTa-d2を含む
 2 にぶい黄褐:10YR4/3 Ta-d2>Ta-d1>> II B・互層 Ta-d1崩落
 3 黒褐:7.5YR2/2 II B>Ta-d1>d2・互層 流れ込み
 4 暗赤褐:5YR3/6 Ta-d2>Ta-d1>II B 崩落
 5 暗褐:7.5YR3/3 II B+Ta-d1+Ta-d2 崩落
 6 暗赤褐:5YR3/6 Ta-d2>Ta-d1>II B 崩落
 7 黒褐:7.5YR3/1 III B
 8 にぶい黄褐:10YR5/3 黄褐色ローム
 9 黒褐:7.5YR3/1 III B
 10 灰褐:7.5YR4/2 Ta-d1+Ta-d2>> II B
 11 灰褐:5YR4/2 II B+Ta-d2>>Ta-d1 黄褐色ロームの崩落
 12 黒褐:5YR3/1 II B>Ta-d2 崩落

- TP-13**
 1 黒:7.5YR1.7/1 II B+Ta-d1 II Bの流れ込み 微量のTa-d2を含む
 2 にぶい黄褐:10YR4/3 Ta-d2>Ta-d1>> II B・互層 Ta-d1崩落
 3 黒褐:7.5YR2/2 II B>Ta-d1>d2・互層 流れ込み
 4 暗褐:7.5YR3/3 II B+Ta-d1+Ta-d2 崩落
 5 暗赤褐:5YR3/6 Ta-d2>Ta-d1>II B 崩落
 6 黒褐:7.5YR3/1 III B
 7 灰褐:7.5YR4/2 Ta-d1+Ta-d2>> II B
 8 灰褐:5YR4/2 II B+Ta-d2>>Ta-d1 黄褐色ロームの崩落
 9 黒褐:5YR3/1 II B>Ta-d2 崩落



図IV-11 Tピット(7) TP-12・13・14

TP-16 (図IV-12 図版7-5)

位置：U27区 調査区南東部の標高46.2mの沢地形の底部に位置する。長軸は南北方向で、沢の流向と一致する。

規模：確認面 $1 \times (0.80)$ 底面 1×0.15 最大深さ1.20m 平面形態：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で南側の調査区外に伸びる楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】調査区側を掘り下げ、壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸の断面は「Y」字状で、上部のTa-d1-1・2部は斜めに立ち上がり、Ta-d1-3から黄褐色ローム層にかけて溝状に100cmほど掘り込まれている。【堆積】覆土は溝部の下部にはⅡB層と壁面の崩落とみられるTa-d2や黄褐色ローム層が互層となり、溝部の上部はTa-d1-2とTa-d2の崩落土が主体である。「V」字状の部分にはⅡB層が厚く、その上にはTa-d2を含む土が少量堆積する。遺物出土状況：覆土上面から砂岩の円礫が出土した。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。(鈴木)

TP-17 (図IV-13 図版7-6～8)

位置：T15・16区 調査区南東部の標高46.5mの沢状地形の底部に位置する。長軸は北西-南東方向で、沢に直交する。周辺にはTP-18・19があり、TP-19は規模・方向とも類似する。

規模：確認面 3.40×1.07 底面 3.27×0.26 最大深さ1.08m 平面形態：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ中、掘り上げ土とみられるTa-d2・黄褐色ローム層が検出されていた。Ta-d1層上面まで掘り下げたところ、それらを中心としたドーナツ状の長楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】掘り上げ土の堆積状況確認のために覆土上部のⅡB層まで長軸方向に半截し、土層を記録した後、短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸の断面は「Y」字状で、上部のTa-d1部は斜めに立ち上がり、ⅢB層から黄褐色ローム層にかけて溝状に30cmほど掘り込まれている。【堆積】下部の溝部はⅡB層とTa-d1を主体とした土層が互層となり、その上には壁際にTa-d2が崩落し、その間にTa-d1とⅡB層の混じった土が充填する。上部にはⅡB層がやや厚く堆積し、その上部の窪みにはTa-d2と黄褐色ロームが南東側から順に堆積する。下部が側面の崩落やⅡB層の流入によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、埋まりきる前に、他のTピットの掘り上げ土がTa-d2、黄褐色ロームの順に置かれたようである。その順番はちょうど掘り上げた順に一致する。両者とも均質で、混じりがほとんど見られないことからTピットを掘る際に土層ごとに掘り上げられたことがうかがえる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：最上部の掘り上げ土を、形状等が類似するTP-19の掘り上げ土とすると、TP-19より古い可能性がある。周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。(鈴木)

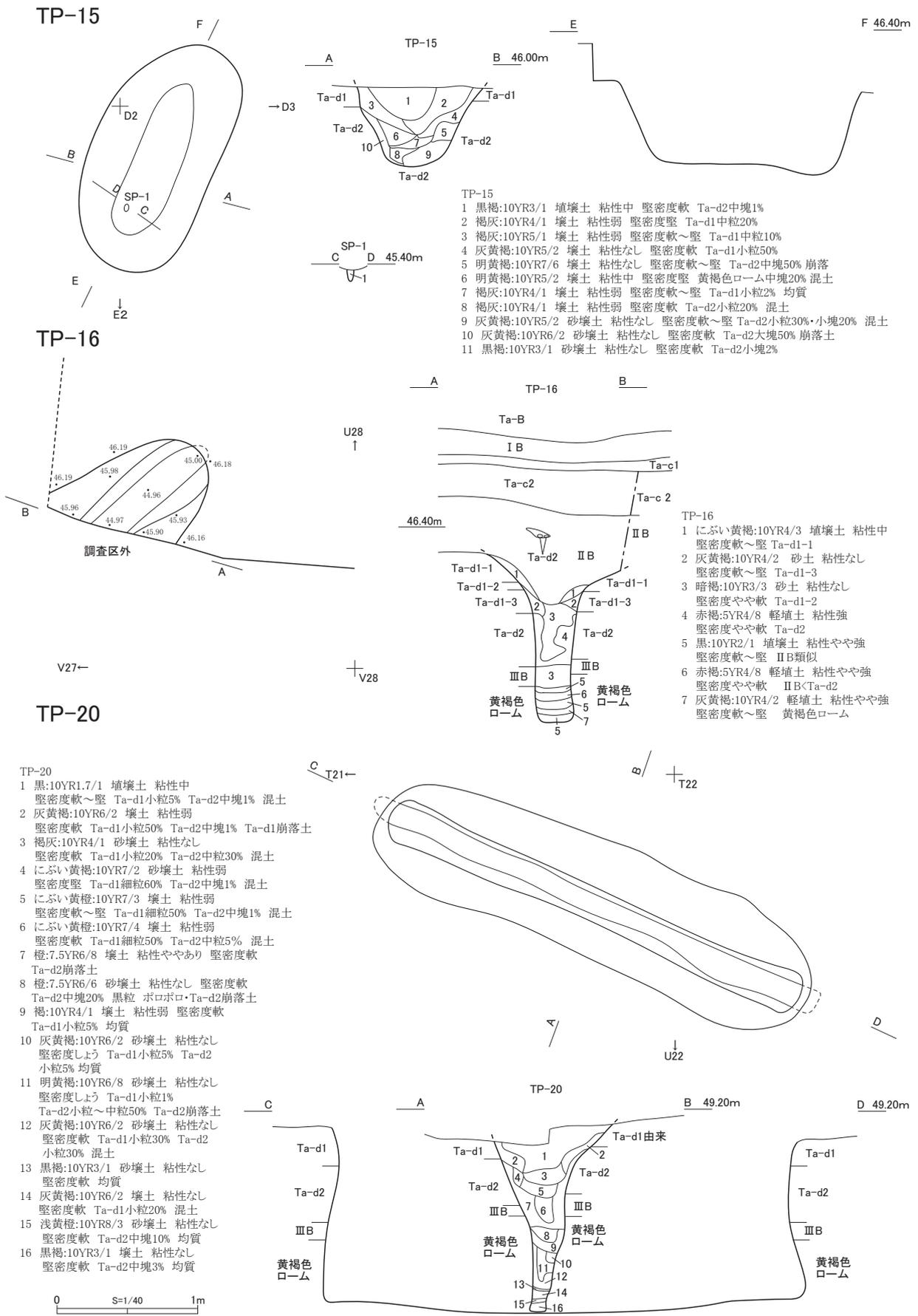
TP-18 (図IV-14 図版8-1～3)

位置：T16・17区 調査区南東部の標高46.8mの沢状地形の底部に位置する。長軸は北東-南西方向で、沢に斜交する。周辺にはTP-17・19があるが、それらとは規模・方向とも異なる。

規模：確認面 2.03×1.07 底面 1.93×0.32 最大深さ1.37m 平面形態：長楕円形

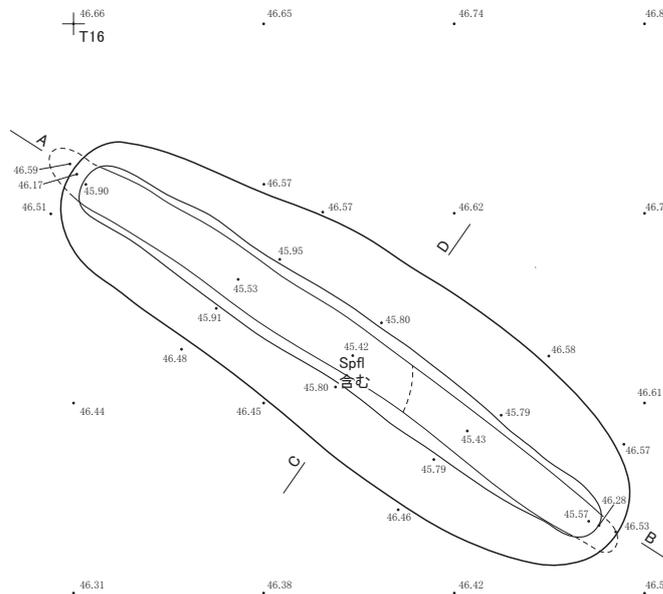
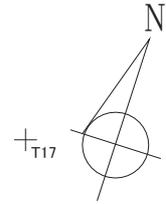
特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。

【壁・底面】短軸の断面は「Y」字状で、上部のTa-d1部は斜めに立ち上がり、黄褐色ローム層から

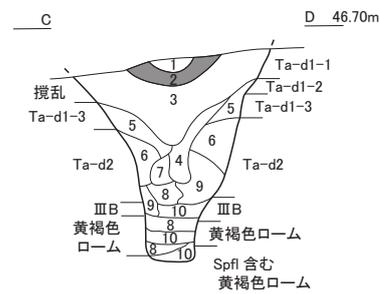
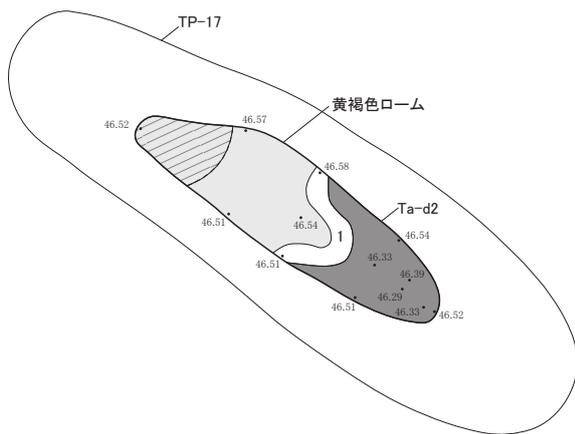


図IV-12 Tピット(8) TP-15・16・20

TP-17



検出面での掘り上げ土分布



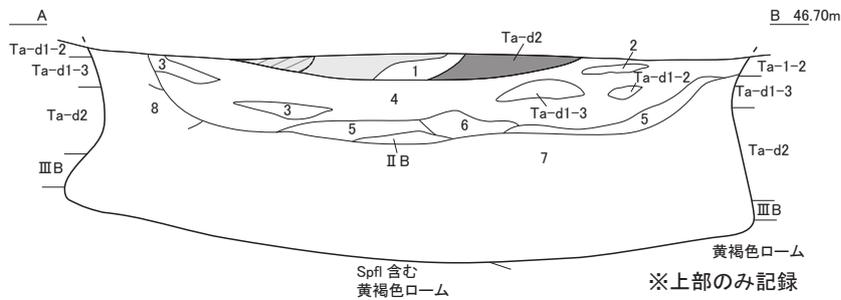
TP-17 (C-D)

- 1 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性やや強 軟～堅 II B>黄褐色ローム Ta-d2(1cm大)7%含む
- 2 Ta-d2 やや堅
- 3 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 軟～堅 Ta-d1(2～5mm)1%含む
- 4 黒褐:10YR2/2 砂壤土 粘性中 やや軟 Ta-d1=II B
- 5 暗褐:10YR3/4 砂壤土 粘性弱 やや堅 Ta-d1-3崩落土
- 6 Ta-d2 やや軟
- 7 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 やや軟 II B>Ta-d1-2・3
- 9 赤褐～暗褐:5YR4/8～10YR3/3 砂壤土 粘性やや強 やや軟 Ta-d1-3<Ta-d2
- 10 黒:10YR1.7/1 埴壤土 粘性強 やや軟 II B類似 Ta-d1(ほぼ含まない)

黄褐色ローム (1～7cm Spfl (有色鉱物含む)20%)

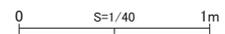
黄褐色ローム (1～3cm Spfl (有色鉱物含む)2%)

Ta-d2



TP-17 (A-B)

- 1 C-D 断面の1
- 2 黒褐:10YR2/2 砂壤土 粘性やや弱 軟～堅 Ta-d1-1類似
- 3 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 軟～堅 II B<Ta-d1 Ta-d1(15%)含む
- 4 C-D 断面の3
- 5 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 軟～堅 II B=Ta-d1
- 6 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 軟～堅 4層に類似するがTa-d1-3起源の礫(5cm大)30%含む
- 7 褐:10YR4/4 砂壤土 粘性やや弱 軟～堅 Ta-d1-2に類似
- 8 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 軟～堅 Ta-d1-1に類似 Ta-d1 20%含む



図IV-13 Tピット (9) TP-17

支笏軽石流堆積物 (Spfl) にかけてやや幅広の溝状に60cmほど掘り込まれている。【堆積】下部の溝部はⅡB層、Ta-d1・d2、黄褐色ロームなどが互層となり、その上には壁際にTa-d2が崩落し、その間にTa-d1主体の土層が充填する。上部はⅡB層が厚く堆積し、最上部の窪みにはTa-d1を主体とする土層が堆積する。下部が側面の崩落やⅡB層の流入によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、埋まりきる前に、他のTピットの掘り上げ土とみられるTa-d1が堆積したようである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。(鈴木)

TP-19 (図IV-15 図版8-1・4・5)

位置：T16、U16区 調査区南東部の標高46.2mの沢状地形の底部に位置する。長軸は北西-南東方向で、沢に直交する。周辺にはTP-17・18があり、TP-17は規模・方向とも類似する。

規模：確認面3.42×1.06 底面3.50×0.14 最大深さ1.25m 平面形態：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で線状の黒色土の分布を確認した。【調査】短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。

【壁・底面】短軸断面は「Y」字状で、上部のTa-d1部は斜めに立ち上がり、ⅢB層下部から黄褐色ローム層にかけて溝状に50cmほど掘り込まれている。【堆積】下部の溝部はⅡB層、Ta-d1・d2、黄褐色ロームなどが互層になり、その上には壁際にTa-d1・d2が崩落する。上部はTa-d1の混じるⅡB層が厚く堆積する。下部が側面の崩落やⅡB層の流入によって埋没した後、上部はTa-d1の混じるⅡB層が自然堆積または流入する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。(鈴木)

TP-20 (図IV-12 図版9-1・2)

位置：T21・22区 調査区東側、標高49.0mの尾根上に立地する。炭化物集中CB-3と重なり、西に6mのところTP-29がある。

規模：確認面3.32×0.84 底面3.45×0.14 最大深さ1.32m 平面形態：長楕円形(溝状)

特徴：【確認】CB-3調査後に周辺を黄褐色ローム層まで掘り下げたところ、溝状の黒褐色土範囲を確認した。【調査】範囲の西半分を掘り下げて、黄褐色ローム中に細い溝状の底面と壁の立ち上がりを確認し、Tピットと判断した。【堆積】上部は黒褐色土主体のV字状の堆積、中部はTa-d2主体の崩落土の堆積が厚く、下部は黒褐色土主体でTa-d2や黄褐色ロームとの混土と均質な土との互層からなる。【壁・底面】短軸上の壁面は下部が底面から直立し、上部が広がる「Y」字状に近い。長軸上は底面付近がわずかにオーバーハングする。底面は平坦に近い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物、近辺の調査事例などから縄文時代中期後半と考えられる。(藤井)

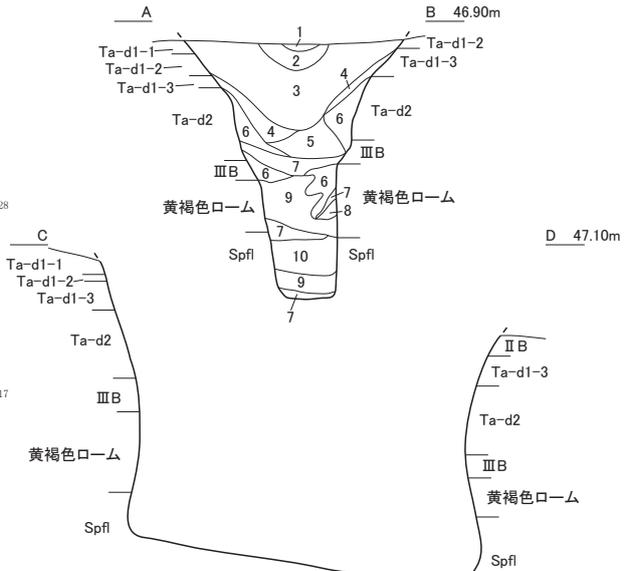
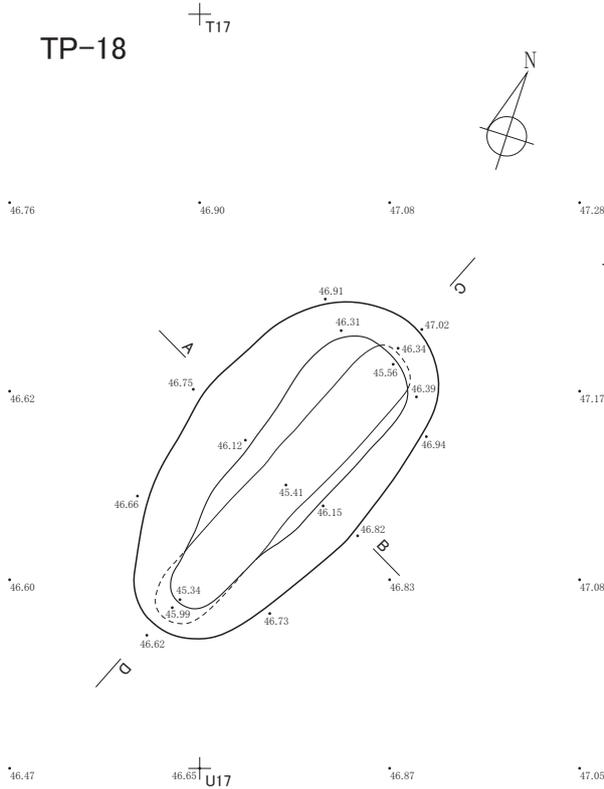
TP-21 (図IV-15 図版9-3・4)

位置：Q6・7区 調査区南西部の標高49.5mの平坦面に位置する。長軸は北西-南東方向で、ほぼ単独で所在する。

規模：確認面2.81×0.98 底面2.79×0.17 最大深さ1.21m 平面形態：長楕円形

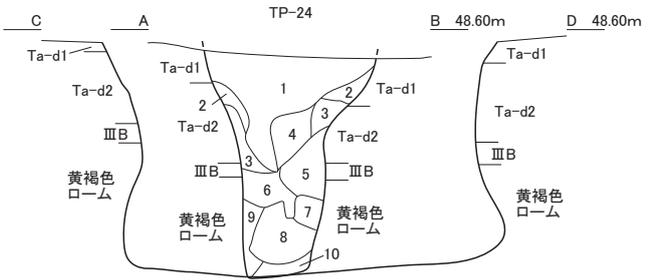
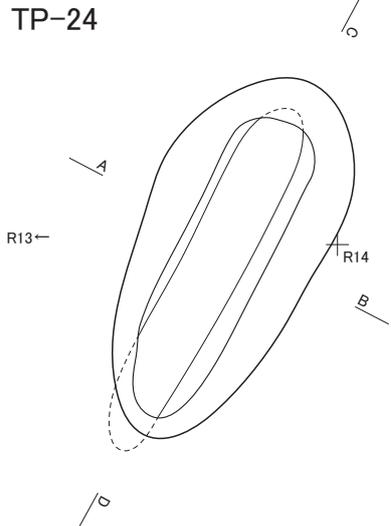
特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】短軸

TP-18



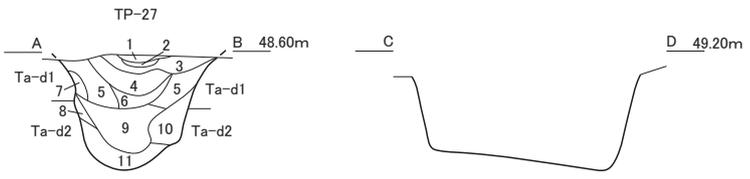
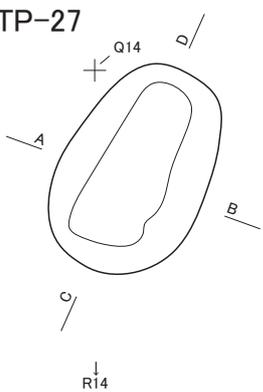
- TP-18
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II B類似 Ta-d1(2～3mm)10%含む
 - 2 黒褐:10YR2/3 砂壤土 粘性弱 堅密度やや堅 II B<Ta-d1-2
 - 3 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II B類似 Ta-d1(2～10mm)10%含む
 - 4 褐:10YR4/4 砂土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1-3主体だが礫少ない
 - 5 黒褐:10YR2/2 砂壤土 粘性中 堅密度やや堅 II B<Ta-d1-3(2cm大)の礫多い
 - 6 赤褐:5YR4/8 軽埴土 粘性強 堅密度やや軟 Ta-d2の崩れた土
 - 7 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度やや軟 Ta-d1含まない
 - 8 黄褐:10YR5/6 軽埴土 粘性中 堅密度やや軟 黄褐色ローム類似 崩落土
 - 9 褐～赤褐:10YR4/4～5YR4/8 砂壤土～軽埴土 粘性やや強 堅密度やや軟 Ta-d2>Ta-d1>II B
 - 10 黄褐～黒:10YR5/6～10YR2/1 軽埴土～埴壤土 粘性やや強 堅密度やや軟 黄褐色ローム>II B

TP-24



- TP-24
- 1 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% Ta-d2小塊3% 混土
 - 2 にぶい黄橙:10YR7/4 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒10% Ta-d2小粒3% 混土 流れ込み
 - 3 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒1% Ta-d2小塊5% 混土
 - 4 黒褐:10YR3/1 壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2小塊5% 礫数点 混土
 - 5 褐灰:10YR6/1 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1極小粒5% Ta-d2中粒～塊30% 混土
 - 6 褐灰:10YR5/1 砂壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小粒～中粒80% Ta-d2中粒10% ホロホロ 混土
 - 7 褐灰:10YR4/1 砂壤土 粘性なし 堅密度軟 黄褐色ローム大塊50% 均質
 - 8 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d2小塊60% 黄褐色ローム大塊2% 混土
 - 9 褐灰:10YR4/1 砂壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2中塊50% 均質
 - 10 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 黄褐色ローム小粒1% 均質 フカフカ

TP-27



- TP-27
- 1 黒褐:10YR3/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒2% 均質
 - 2 にぶい黄橙:10YR6/4 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d2小粒50% 混土
 - 3 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10% Ta-d2小粒5% 混土
 - 4 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1極小粒～小粒60～30% Ta-d2小塊3% 混土
 - 5 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒5% 均質
 - 6 灰黄褐:10YR5/2 壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1 中粒60% 混土
 - 7 にぶい黄橙:10YR6/3 壤土 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒50% 流れ込み
 - 8 明黄褐:10YR6/6 壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2中塊30% 流れ込み
 - 9 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 小礫3% 混入少ない均質
 - 10 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1小粒～中粒60% 流れ込み
 - 11 褐灰:10YR6/1 砂壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2主体 若干の掘りすぎか

図IV-14 Tピット (10) TP-18・24・27

方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸断面は「V」字状で、中央部は黄褐色ローム層上部より上側は斜めに立ち上がり、その下部のみ20cmほど掘りこまれる。検出面の形状は中央部が張り出すが、南端は直線的であり、張り出し部はTa-d2から黄褐色ロームの上部にかけて崩落しており、本来は「Y」字状に構築されていたと推定される。【堆積】下部は黄褐色ローム・ⅢB・Ta-d2が自然堆積と同一順・ほぼ同一層厚で堆積し、上部はTa-d1の混じる黒色土が堆積している。下部は側面が堆積状態を保ったまま崩落し、比較的短期間に埋まったと考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。

(鈴木)

TP-22 (図IV-16 図版9-5・6)

位置：L13、M13区 調査区中央やや北寄りに位置し、標高49.5mの緩斜面上部に立地する。近接する遺構はなく、南西6mにTP-25、南東8mにDU-3がある。

規模：確認面2.35×1.22 底面2.14×0.24 最大深さ1.54m 平面形態：楕円形（底面は溝状）

特徴：【確認】Ta-d1上部まで掘り下げたところで楕円形の黒色土範囲を確認した。【調査】範囲の南半分を掘り下げ、黄褐色ローム層中に底面とその立ち上がりの壁を検出した。形状からTピットと判断した。【堆積】上中下の3層に大別できた。上部はⅡB層黒褐色土主体の“U”字状堆積。中部はTa-d1、d2主体の壁崩落土堆積。下部は黄褐色ロームの崩落土と、黒褐色土主体でTa-d2とロームとの混土との互層堆積からなる。【壁・底面】短軸上の壁断面は、底面から緩やかに広がる「V」字状に近い。長軸上は北側が直立し、南側は底面付近でややオーバーハングする。底面は溝状で狭く平坦である。

付属遺構：検出されなかった

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。(藤井)

TP-23 (図IV-16 図版9-7、10-1)

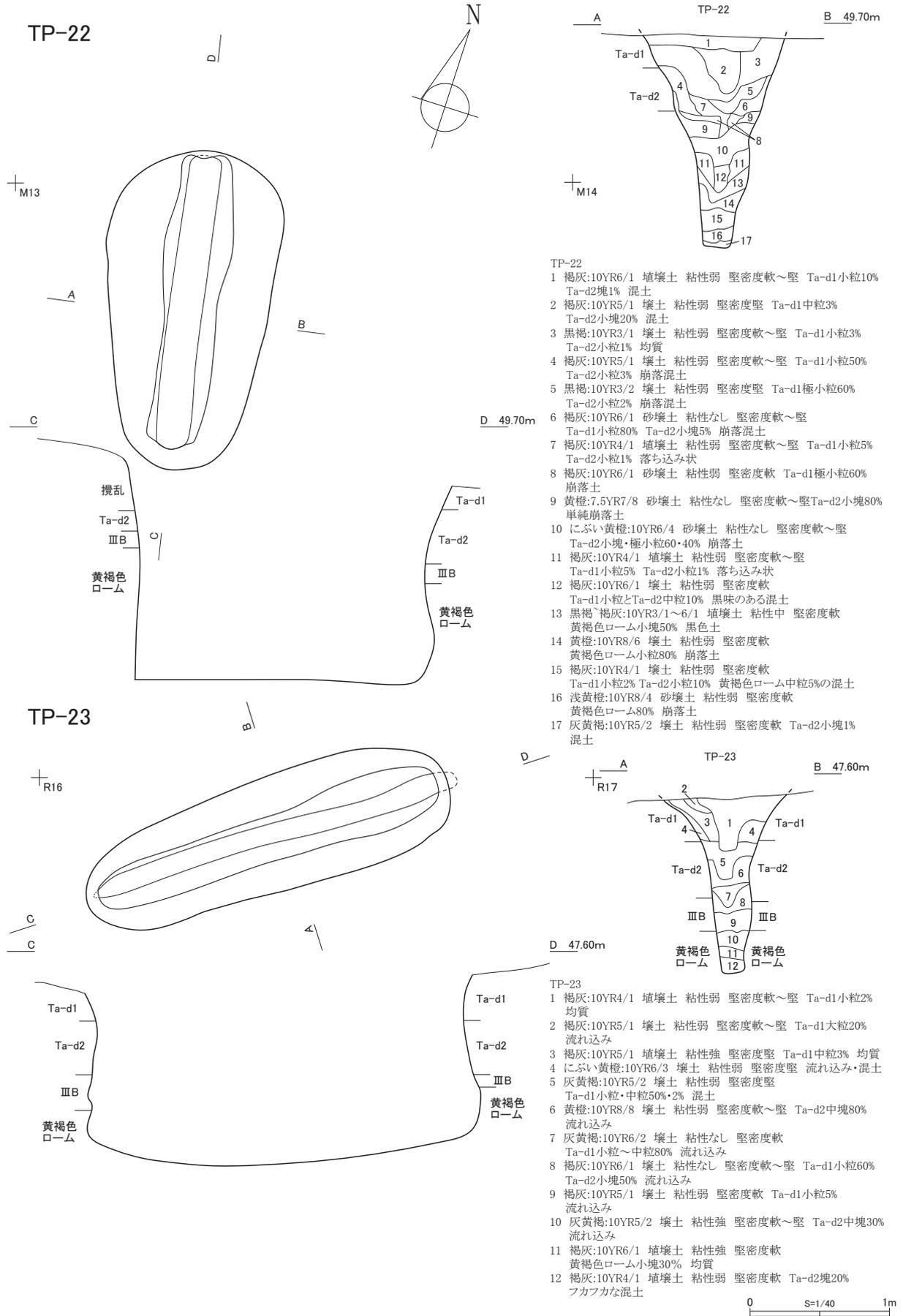
位置：Q16、R16区 調査区南側中央部に位置し、標高47.5m、沢状地形の奥部斜面上に立地する。沢下流の南4mにDU-9・12、南8mにTP-17・18・19のまとまりがある。

規模：確認面2.74×0.85 底面2.75×0.16 最大深さ1.26m 平面形態：長楕円形 長軸は等高線に平行

特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした褐灰色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、細い溝状であること、覆土の堆積と壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下の3層に大別できた。上層はⅡB層主体の褐灰色土と壁際の流入土からなり、中層はTa-d2を主体とする壁の崩落土、下層は黄褐色ロームとTa-d2を含む均質な軟らかい土の堆積になる。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は、細い溝の底面から下半が垂直な立ち上がりで上半が広がる「Y」字形である。長軸上は両端ともにオーバーハングする。底面は細く、中央がやや深く、たわんだ形になる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。(藤井)



図IV-16 Tピット (12) TP-22・23

TP-24 (図IV-14 図版10-2・3)

位置：Q13・14、R13区 調査区南側中央部に位置し、標高48～48.5mの緩斜面上に立地する。北にTP-27、東にDU-11に近接し、西5mにDU-5がある。

規模：確認面2.06×1.00 底面1.78×0.32 最大深さ1.18m 平面形態：楕円形（底面は長楕円形）、長軸は等高線に平行

特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の南半分を掘り下げて、溝状であること、覆土の堆積、壁の形状からTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別できた。上層はⅡB層主体の黒褐色土と壁際の流入土からなる。下層は層厚が薄いか、フカフカな黒色土の堆積が見られた。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は下半分が直立気味で、上半分が広がる「Y」字形に近い。長軸上は底面付近だけが広がるオーバーハングとなる。底面はやや幅広で平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。（藤井）

TP-25 (図IV-17 図版10-5・6)

位置：N11、O11区 調査区ほぼ中央部の標高49.2mの平坦面に位置する。長軸は南北方向で、南東5mには小判形のTP-26と浅いTP-28がある。

規模：確認面2.79×1.09 底面3.09×0.21 最大深さ1.19m 平面形態：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ中に、O11区で土坑の掘り上げ土とみられるTa-d2・黄褐色ロームを検出した。その下位にTピットがあることを想定し、ベルトを残してTa-d1上面まで下げたところ、黄褐色ロームを中心としたドーナツ状の長楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】掘り上げ土の堆積状況の確認のために覆土上部のⅡB層まで長軸方向に半截し、土層の記録を取った後、短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。

【壁・底面】短軸断面は「Y」字状で、Ta-d1部は斜めに立ち上がり、Ta-d2から黄褐色ロームにかけて溝状に70cmほど掘り込まれる。検出面の形状は中央部が張り出すが、北端は直線的であり、張り出し部はTa-d1・d2が大きく崩落しており、本来は直線的に掘り上げられていたと推定される。

【堆積】覆土は下部の溝部にはTa-d1・d2の崩落土で埋められ、その上にはTa-d1混じりのⅡBが堆積し、その上部の窪みには南側に偏ってTa-d2と黄褐色ロームの混じった土が堆積する。下部が側面の崩落によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、上部の窪みには他のTピットから掘り上げられたTa-d2・黄褐色ローム・ⅡB層の混じった土で埋められている。その後、北側の窪みにはⅡB層が堆積している。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：覆土上部の掘り上げ土はTP-26の可能性が高く、それより古い。周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

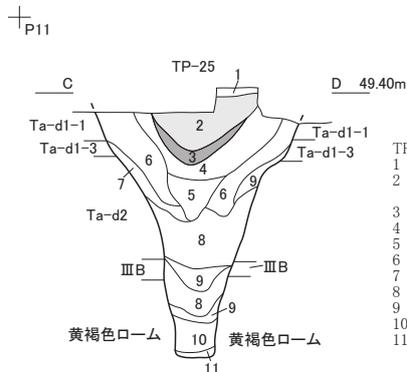
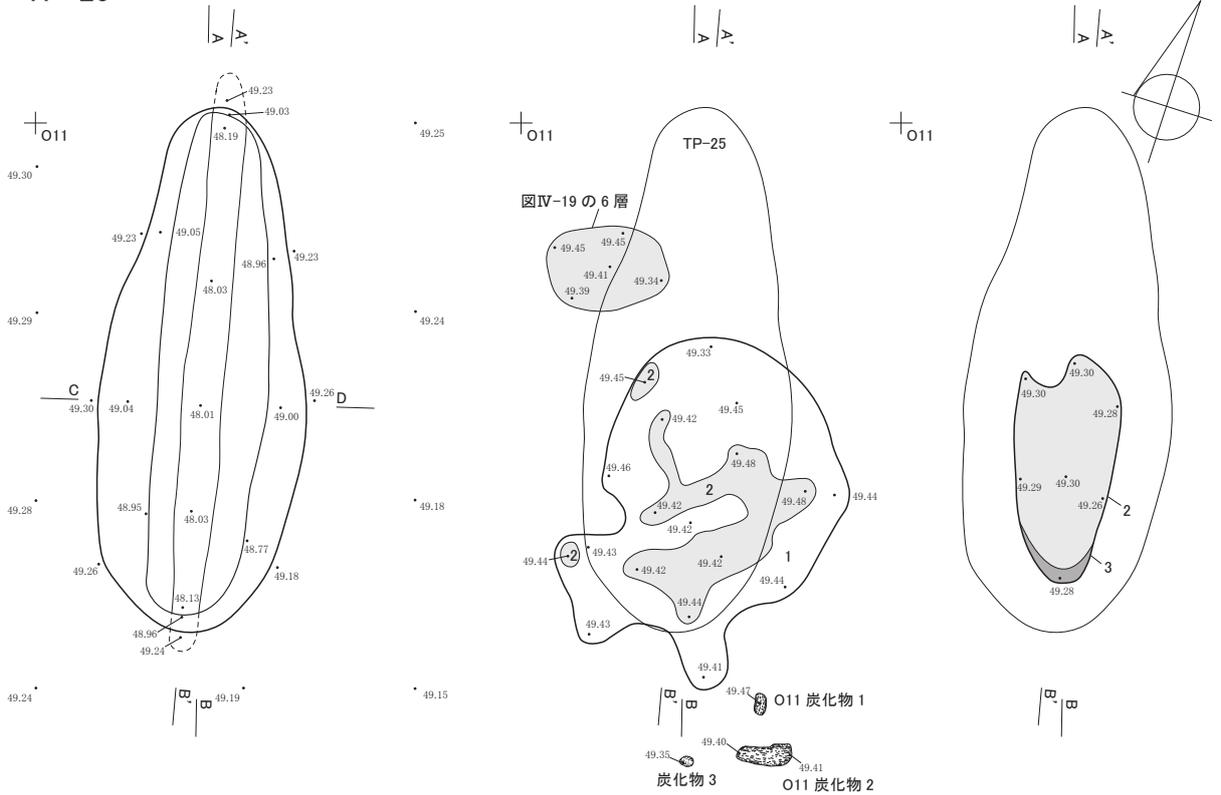
TP-26 (図IV-18・19 図版10-7・8、11-1・2)

位置：O11・12、P11区 調査区ほぼ中央部の標高49.1mの平坦面に位置する。長軸は北東-南西方向で、南東側のTP-28と切り合い、北西5mにはTP-26がある。

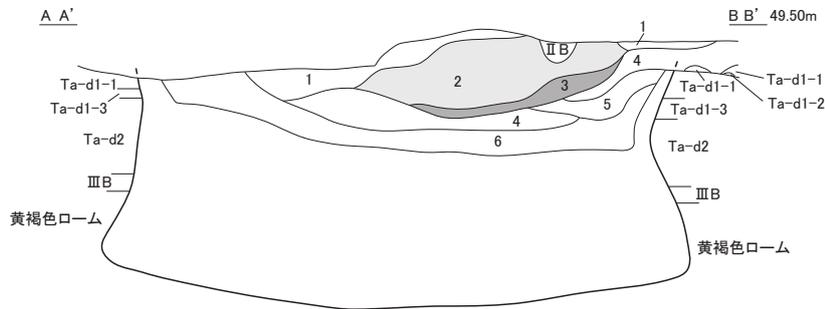
規模：確認面2.37×1.53 底面1.91×0.26 最大深さ1.32m 平面形態：楕円形（小判形）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ中に、P11・12区で土坑の掘り上げ土とみられるTa-d2・黄褐色ローム

TP-25



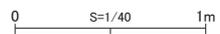
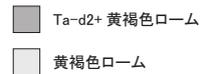
- TP-25 (C-D)
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II BにTa-d2(1～2cm)7%含む Ta-d2掘り上げ土 密度低
 - 2 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 II B<黄褐色ローム Ta-d2(1～3cm)20%含む 黄褐色ロームとTa-d2の混じった掘り上げ土
 - 3 にふい黄褐:10YR4/3 埴壤土 粘性中 堅密度やや軟 黄褐色ローム=Ta-d2>II B Ta-d2(1～5cm)40%含む
 - 4 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性強 堅密度軟
 - 5 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性強 堅密度軟 Ta-d1(1cm大)25%含む
 - 6 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1-1類似 崩落土
 - 7 にふい黄褐:10YR5/4 砂壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1-3類似 崩落土 1～3mmの砂主体
 - 8 明赤褐:5YR5/6 埴壤土 粘性強 堅密度軟 Ta-d2類似 崩落土
 - 9 にふい黄褐:10YR5/4 砂壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1-3類似 20～10cmの礫主体
 - 10 黒～明赤褐:10YR2/1～5YR5/6 埴壤土 堅密度しよう II B<Ta-d1=Ta-d2
 - 11 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度しよう 腐植土



※A-B、A'-B'を合成 上部のみ記録

TP-25 (A-B)

- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II BにTa-d2(1～2cm)7%含む Ta-d2掘り上げ土密度低
- 2 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 II B<黄褐色ローム Ta-d2(1～3cm)20%含む 黄褐色ロームとTa-d2の混じった掘り上げ土
- 3 にふい黄褐:10YR4/3 埴壤土 粘性中 堅密度やや軟 黄褐色ローム=Ta-d2>II B Ta-d2(1～5cm)40%含む
- 4 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟
- 5 暗褐:10YR3/3 砂壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1>II B
- 6 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性強 堅密度軟 Ta-d1(1cm大)25%含む



図IV-17 Tピット (13) TP-25

を検出し、周辺をTa-d1上面まで掘り下げたところ、その北西側に黒色土の広がりを確認した。

【調査】掘り上げ土と土坑覆土の堆積状況の確認のために土坑から掘り上げ土にかけて土坑中央短軸方向に半截し、掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。

【壁・底面】短軸断面は坑口が大きく広がる「Y」字状で、黄褐色ローム上部以上は斜めに立ち上がり、その下部は溝状に30cmほど掘り込まれる。【堆積】下部の溝部はTa-d2・黄褐色ロームの崩落土があり、上部はⅡB層主体で、Ta-d1・d2など掘り上げ土の流れ込みがみられる。下部が側面の崩落によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入する。遺構の南東側にはTa-d1・d2、黄褐色ロームの掘り上げ土が20cmほど、北西側のTP-25上にも同様の掘り上げ土が40cmほど堆積し（図IV-17）、それぞれTP-26を中心として対称に分布する（図IV-19）ことからTP-26の掘り上げ土と考えられる。

付属遺構：坑底の中軸線上には12～26cmの間隔をおいて、直径4cm、深さ10～18cmの杭跡が4か所検出された（SP-1～4）。

遺物出土状況：覆土上面から縄文中期後半の口縁部土器片1点が出土した。

時期：当遺構のものとみられる掘り上げ土がTP-25を被覆することからTP-25より新しいと考えられる。また、TP-28を切っていることからTP-28より新しい。周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。

掲載遺物：図IV-32-1が縄文中期後半の土器口縁部破片である。P15出土のものと接合した。

（鈴木）

TP-27（図IV-14 図版11-3・4）

位置：P14、Q13・14区 調査区南側中央部に位置し、標高48.0～48.5mの緩斜面上に立地する。南にTP-24と近接し、南東5mにDU-11、南西8mにDU-5がある。

規模：確認面1.17×0.78 底面0.92×0.40 最大深さ0.62m 平面形態：楕円形（底面も楕円形）※長軸は等高線に平行

特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の南半分を掘り下げ、覆土の堆積と壁の形状からTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上下層に大別できた。上層はTa-d1粒子を多く含む混土が主体で皿状に堆積しており、埋め戻した可能性がある。下層はⅡB層主体の黒褐色土で混入の少ない均質な土である。【壁・底面】Ta-d1からd2までを掘り込んでいる短軸、長軸ともに壁の立ち上がりは緩やかである。底面は丸く、構築途中のTピットと考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文中期後半の可能性はある。

（藤井）

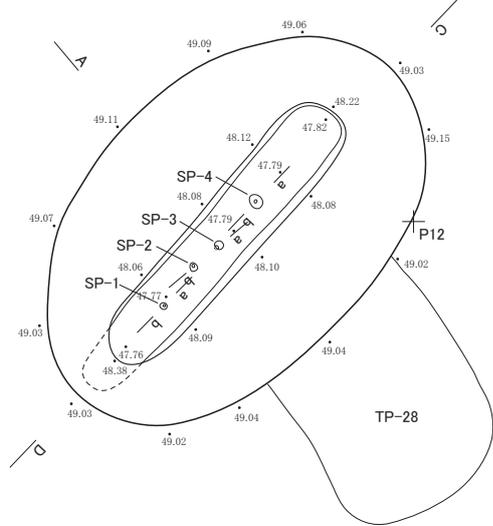
TP-28（図IV-19 図版11-5・6）

位置：P11・12区 調査区ほぼ中央部の標高49.0mの平坦面に位置する。長軸は北西-南東方向で、北西側のTP-26と切り合い、北西3mにはTP-25がある。

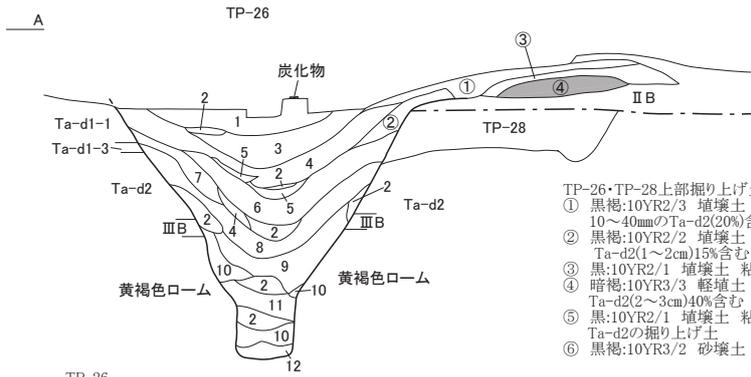
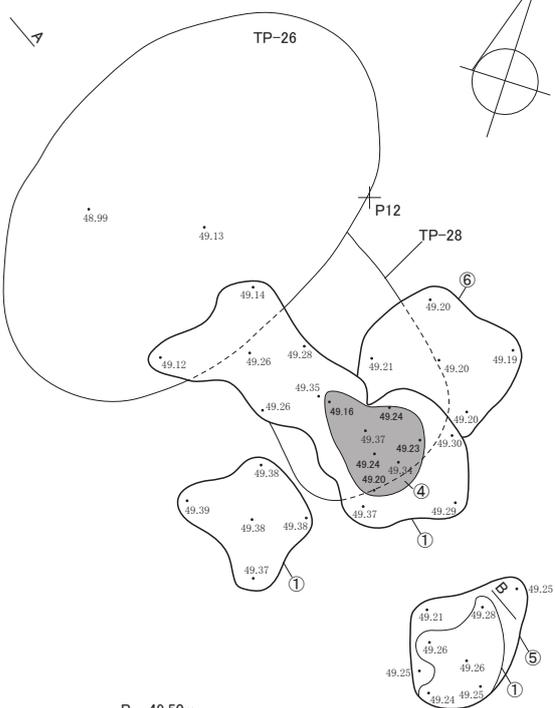
規模：確認面—×0.93 底面—×0.81 最大深さ0.20m 平面形態：長楕円形

特徴：【確認】TP-26に隣接する掘り上げ土をTa-d1上面まで掘り下げ後、TP-26に切られる隅丸長方形の黒色土の広がりを確認した。【調査】長軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認した結果、Tピットとしては深さが20cmと浅いものの、その平面形態からTピットまたはその途中のものとして

TP-26

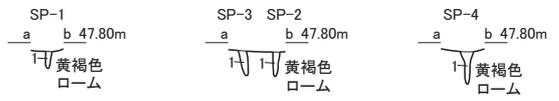
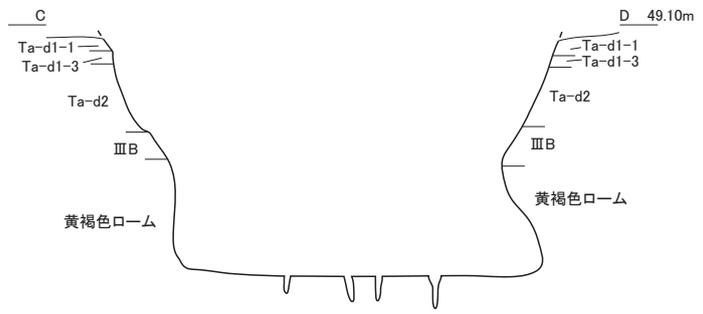


掘り上げ土分布図

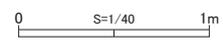


- TP-26・TP-28上部掘り上げ土断面
- ① 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1バミス(5～10mm)40% 10～40mmのTa-d2(20%)含む Ta-d1・Ta-d2掘り上げ土
 - ② 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 II B>Ta-d1・d2 Ta-d2(1～2cm)15%含む
 - ③ 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II B類似
 - ④ 暗褐:10YR3/3 軽埴土 粘性やや強 堅密度軟～堅 黄褐色ローム=Ta-d2 Ta-d2(2～3cm)40%含む Ta-d2・黄褐色ローム掘り上げ土
 - ⑤ 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II BにTa-d2(1～2cm)7%含む Ta-d2の掘り上げ土
 - ⑥ 黒褐:10YR3/2 砂壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1の掘り上げ土

- TP-26
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-d1(2～5mm)15%含む II B類似
 - 2 赤褐:5YR4/6 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-d2主体
 - 3 黒:10YR1.7/1 埴壤土 粘性強 堅密度やや軟 Ta-d1(2～5mm)7%含む 腐植土
 - 4 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II B>Ta-d1
 - 5 黒:10YR1.7/1 埴壤土 粘性強 堅密度やや軟 バミス含まない
 - 6 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度やや堅 Ta-d1(2mm)2% Ta-d2(1～4cm)7%含む
 - 7 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度やや堅
 - 8 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度やや堅 Ta-d1(1～5cm)15% Ta-d2(1～3cm)10%含む
 - 9 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟 Ta-d2(1～4cm)15%含む II B=Ta-d2
 - 10 黄褐:10YR5/6 軽埴土 粘性中 堅密度軟～堅 黄褐色ローム崩落土
 - 11 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性強 堅密度軟 Ta-d2(1cm大)10%含む
 - 12 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性強 堅密度軟



SP-1～4
1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度しろう Ta-d2・黄褐色ロームごく少量含む



図IV-18 Tピット (14) TP-26

調査を進めた。【壁・底面】坑底は平坦で、壁はやや斜めに立ち上がる。【堆積】覆土はⅡB層主体で、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

TP-29（図IV-20 図版11-7・8、12-1・2）

位置：S19・20、T19・20区 調査区南部東寄りに位置し、標高48.5～49.0mの緩斜面上に立地する。南にDU-6、東にCB-2、北東にCB-4と近接する。

規模：確認面2.34×1.48 底面1.80×0.22 最大深さ1.22m 平面形態：楕円形 長軸は等高線に直交する。

特徴：【確認】ⅡB層下層中で楕円形をした黑色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、細い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状からTピットと判断して調査した。【堆積】上から3つの層に大別することができた。上層はⅡB層にTa-d1、d2ブロックが混じる混土で、埋め戻しによるものと思われる。中層は上層の直下で、薄く堆積するⅡB層主体の均質な土で自然堆積と思われる。下層は厚く、壁からの崩落土が交互に堆積する互層になる。【壁・底面】ⅡB層漸移層から黄褐色ローム層までを掘り込み、短軸上の壁の立ち上がりは「V」字状で、長軸上は両端ともに底部付近がわずかにオーバーハングする。底面はやや幅広いが丸底である。

付属遺構：底面の長軸上に並んで2か所の柱穴状ピットが確認された。南側のSP-1は浅く、北側のSP-2は15cm程掘り込まれている。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。（藤井）

（3）焼土（F）

F-1（図IV-20 図版12-3）

位置：T22、U22区 調査区東部に位置し、標高48.5～49mの斜面上に立地する。北側TP-20、CB-3と近接し、北東6mにF-7がある。

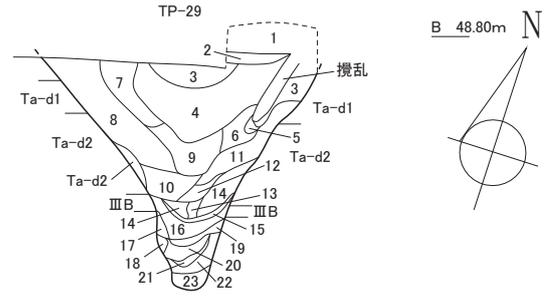
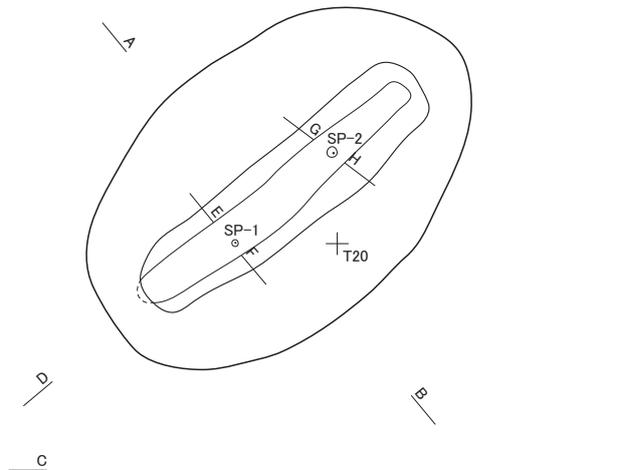
規模：確認面2.08×1.52 最大厚0.10m 平面形態：不整円形

特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に、炭化物粒を伴う赤味を帯びた土の広がりを確認し、焼土と判断した。【調査】焼土の広がりには濃淡があり、中央に小トレンチを入れて断面を確認したところ同様の傾向が見られた。焼土本体（Ⅰ）、焼土ブロック分布（Ⅱ）、焼土粒分布（Ⅲ）の3つに区分することができた。また、焼土範囲内には2か所の炭化物ブロックを確認した。【堆積】Ⅰの堆積は層厚5～6cmと層界も明瞭である。Ⅱの堆積は縦横に広がり、層界も複雑である。Ⅲの堆積は層厚2～3cmと薄い堆積で層界も明瞭である。【分析】焼土内の炭化物、炭化木片からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った。樹種についてはコナラ属コナラ節であることがわかった（表VI-1）。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、出土した炭化物の年代測定により2720±20yrB.P. 縄文晩期前半であることが明らかになった（表VI-1）。（藤井）

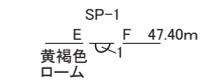
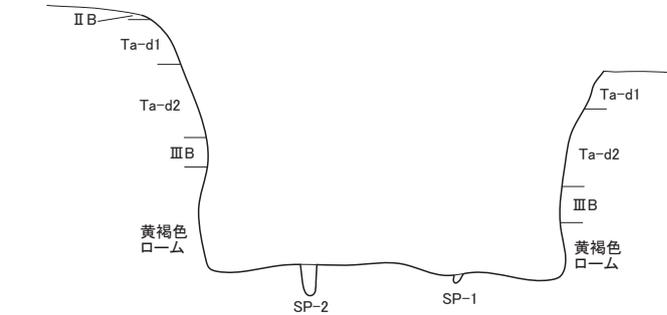
TP-29



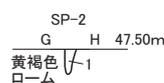
TP-29

- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒1% II B
- 2 にぶい黄橙:10YR5/3 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒80%
- 3 黒:10YR2/1 壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒1% Ta-d2粒子1% II B
- 4 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性中 堅密度軟堅 Ta-d1小粒~中粒10% Ta-d2大粒3% 混土
- 5 にぶい黄橙:10YR7/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1中粒50% ポロポロ
- 6 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒5% Ta-d2中粒1% 混土
- 7 灰黄褐:10YR4/2 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% Ta-d2中粒3% 混土
- 8 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d1小粒3% 流れ込み
- 9 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒~中粒3% Ta-d2小粒1% 混土
- 10 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d1中粒10% Ta-d2小粒1% 混土
- 11 にぶい黄橙:10YR7/3 壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d1大粒80% 均質
- 12 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1礫・小粒5・30% 均質
- 13 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1大粒80% ポロポロ均質
- 14 褐灰:7.5YR5/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d2塊60%が筋状に入り込む混土
- 15 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d1小粒5% 均質
- 16 褐灰:7.5YR5/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d2塊80%が筋状に入り込む混土
- 17 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2中粒10% 混土・流れ込み
- 18 灰白:10YR7/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1中粒80% 流れ込み
- 19 灰黄褐:10YR6/2 砂壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1中粒60% 流れ込み
- 20 橙:7.5YR6/8 壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d2主体 流れ込み
- 21 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟~堅
- 22 橙:7.5YR6/8 壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d2塊50% 流れ込み
- 23 灰黄褐:10YR5/2 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒3% Ta-d2中粒30% 混土

D 49.00m

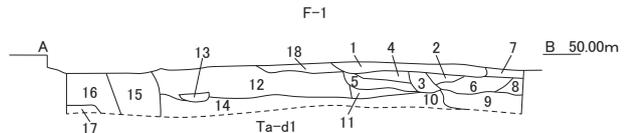
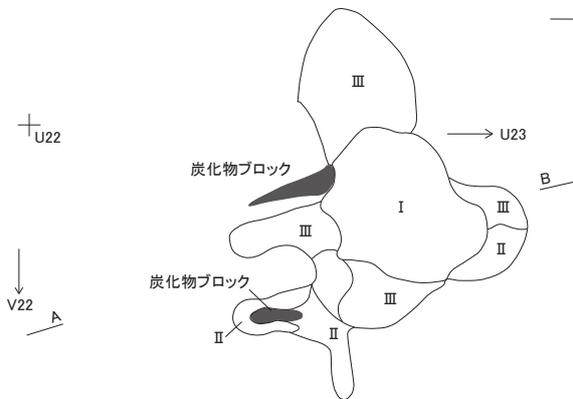


- SP-1
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2中粒2% ふかふかな混土



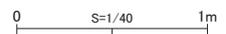
- SP-2
- 1 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2中粒5% 黄褐色ローム小塊3% ふかふかな混土

F-1



F-1

- 1 黄橙:10YR7/8 埴壤土 粘性中 堅密度堅 炭化物粒1% 焼土塊(Ta-d2の可能性あり)
- 2 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅 混入なし
- 3 にぶい黄橙:10YR6/4 壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 炭化物粒1%
- 4 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒3%
- 5 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒3% Ta-d2小粒1%
- 6 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 焼土粒3%
- 7 灰黄褐:10YR4/2 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒1%
- 8 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5%
- 9 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒1%
- 10 灰黄褐:10YR5/2 壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小粒~小塊50%
- 11 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性弱 堅密度軟
- 12 黒褐:10YR3/1 埴土 粘性中 堅密度軟~堅 Ta-d1小粒1%
- 13 黄橙:10YR7/6 埴壤土 粘性強 堅密度軟 炭化物小粒1% 焼土粒1%
- 14 灰黄褐:10YR4/2 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1中粒3%
- 15 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒1%
- 16 褐灰:10YR6/1 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5%
- 17 にぶい黄橙:10YR7/4 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒10% 均質
- 18 灰黄褐:10YR6/2 埴土 粘性中 堅密度軟~堅 炭化物塊1% 焼土細粒2%



図IV-20 Tピット(16) 焼土(1) TP-29・F-1

F-2 (図IV-21 図版12-4)

位置：R5区 調査区南西側に位置し、標高49～49.5mの緩斜面上部に立地する。北東6mにTP-21、西10mにTP-6がある。

規模：確認面0.36×0.35 最大厚0.04m 平面形態：不整三角形

特徴：【確認】ⅡB層2回目の掘り下げで、炭化物粒を伴う赤味を帯びた土の広がりを確認し、焼土と判断した。【調査】焼土の広がりには濃淡があり、中央にトレンチを入れて断面を確認したところ、本体、焼土ブロック、炭化物と焼土が混じった部分の3つに分類することができた。土層断面には焼土本体のみを記録することができた。【堆積】いずれの堆積も層厚5cm以下と薄い、層界も明瞭であった。【分析】焼土内の炭化物からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定を行った(表VI-1)。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期の特定が可能な遺物が出土しなかったが、年代測定の結果から2810±30yrB.P.、縄文晩期前葉の可能性はある(表VI-1)。(藤井)

F-3・4・5 (図IV-21 図版12-5～7)

位置：U6区 調査区南西端に位置し、標高48～48.5mの緩斜面上に立地する。西にCB-7と近接し、東10mにはCB-8がある。

規模：F-3 確認面1.36×0.37 最大厚0.10m

F-4 確認面1.28×0.47 最大厚0.04m

F-5 確認面0.44×0.35 最大厚0.04m

平面形態：F-3・4は不整長楕円形、F-5は不整三角形

特徴：【確認】ⅡB層1回目の掘り下げで、炭化物粒を伴う赤味を帯びた土の広がりを、グリッド内で3か所確認し、焼土と判断した。【調査】各焼土の長軸で半截し、断面を確認した。【堆積】いずれも層厚5cm前後の焼土の堆積で、周囲及び上下に炭化物のみの堆積を伴うものも見られた。層界は明瞭であるが、堆積や分布の状況からその場で焼成されたものと考えられる。【分析】F-3、4、5については焼土内の炭化物からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定を行った。F-3は2890±30yrB.P.、F-4は2700±30yrB.P.、F-5は3230±30yrB.P.である。F-3、4については、焼土内の炭化材について樹種同定を行った。いずれもコナラ属コナラ節のものであった(表VII-1)。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、年代測定によりF-3が縄文晩期前葉、F-4が晩期中葉、F-5が後期後葉との結果が出た。(藤井)

F-6 (図IV-21 図版12-8)

位置：Q20、R20区 調査区南部東側に位置し、標高49mの尾根筋上平坦面に立地する。

規模：確認面0.34×0.20 最大厚0.07m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで、炭化物粒を伴う赤味を帯びた土の広がりを確認し、焼土と判断した。【調査】焼土の長軸南半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】層厚10cm以上の厚みのある堆積で、層界は明瞭であった。外から持ち込まれた可能性がある。【分析】焼土内の炭化物粒からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定を行った。3930±30yrB.P.との結果を得た。

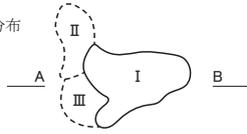
遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、年代測定の結果より縄文後期初頭の時期と考えられる。(藤井)

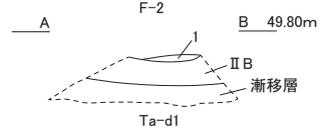
F-2

R5←

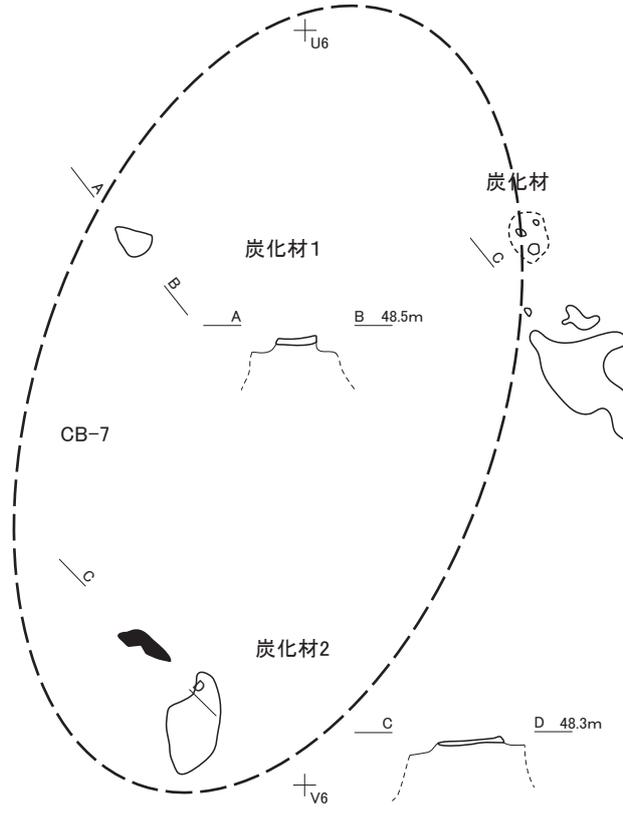
- F-2
- I 焼土本体部分
- II 焼土塊分布範囲
- III 焼土粒 + 炭化物粒分布



↑R6

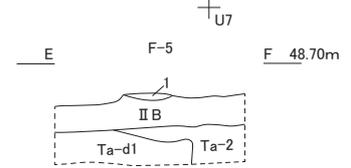


F-3・4・5・CB-7(U5・6)

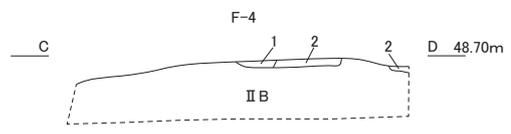


↓S6

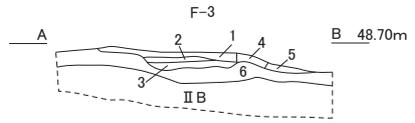
F-2
1 黄橙:10YR7/8 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 均質 炭化物粒1%



F-5
1 にぶい黄橙:10YR7/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒1% 焼土極小粒5%



F-4
1 にぶい黄橙:10YR5/4 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒2% Ta-d2小粒1% 炭化物塊1% 焼土小粒1% 混土
2 黒褐:10YR3/2 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒2% Ta-d2小粒1% 均質



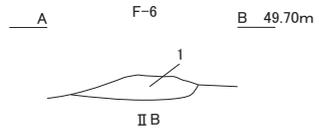
F-3
1 明黄褐:10YR6/6 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2小粒3% 炭化物小粒2% 焼土小粒2% 混土
2 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅 Ta-d1小粒1% 炭化物1%
3 灰黄褐:10YR5/2 壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d1小粒2% Ta-d2小粒10% 炭化物小粒1% 混土
4 灰黄褐:10YR6/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒5% 焼土粒子小粒1%
5 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒1% 焼土粒子小粒1%
6 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒3% Ta-d2中粒1% 混土

F-6

↑R20



R21→



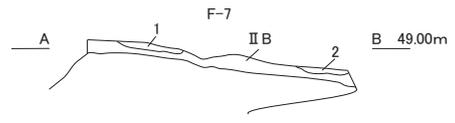
F-6
1 明赤褐:5YR5/6 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% 炭化物小粒1% 焼土小粒2% 混土

F-7

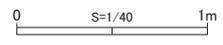
↑T24



↓U24



F-7
1 浅黄橙:7.5YR8/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟 焼土中粒3% Ta-d1小粒5%
2 にぶい橙:7.5YR7/4 埴壤土 粘性強 堅密度軟 焼土極小粒2% Ta-d1中粒3%



図IV-21 焼土(2) 炭化物集中(1) F-2・3・4・5・6・7・CB-7

F-7 (図IV-21 図版12-9)

位置：T23・24区 調査区南東部に位置し、標高48.5mの緩斜面上に立地する。東にCB-5と近接し、東8mにCB-6、南西7mにF-1がある。

規模：確認面1.20×0.17 最大厚0.04m 平面形態：不整長楕円形が2つ連なる。

特徴：【確認】ⅡB層1回目の掘り下げで、炭化物粒を伴う赤黒い土が細長くのびているのを確認し、焼土と判断した。【調査】分布範囲の長軸に沿って、南半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】。小さな焼土塊の集まりのような状態で、土層断面にはやや大型の2か所を確認することができた。いずれもⅡB層との層界は明瞭で、外から持ち込まれた可能性が考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、周辺の焼土、層位などから縄文時代後～晩期の可能性がある。

(藤井)

(4) 溝状遺構 (D)

D-1 (図IV-22 図版13-1～4)

位置：B4、C4・5、D5・6区 調査区北側に位置し、一部調査区外、遺構確認調査範囲内に及ぶ。標高48m～49.5mの緩斜面上に立地する。近接する遺構はなく、北西4mにTP-14がある。

規模：確認面8.20×0.56 底面8.00×0.42 最大深さ0.08m 平面形態：高い南東から低い北西に向かって、やや湾曲しつつ同じ幅で延びる。南東端は明瞭で、北東端は不明瞭である。

特徴：【確認】Ta-d1層中に、溝状に褐灰色土が細くのびるのを確認した。当初D5グリッドから確認し、その範囲は隣接するグリッドに及び、5グリッドにまたがる溝になった。【調査】3か所にトレンチを設定し、土層断面を確認した後、全体を一連の溝状遺構と判断して調査した。【堆積】覆土はTa-d1粒を含むⅡB層が主体である。層厚は10cm前後で、全体で同じ深さである。【壁・底面】Ta-d1からTa-d2上面をわずかに掘り込んでつくられ、ほぼ全体が同じ深さである。底面は丸底に近く、平坦面は少ない。壁は緩やかな立ち上がりである。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：層位からは縄文時代と考えられるが、時期の特定できる遺物の出土がなく詳細は不明である。

(藤井)

(5) 遺物集中 (C)

C-1 (図IV-4)

位置：U27区 調査区南東部に位置し、標高46.5mの谷部斜面上に立地する。東側TP-16に近接する。北西7mにCB-6がある。

規模：確認面0.21×(0.20) 最大厚(0.05)m 平面形態：不明

特徴：【確認】調査区壁の精査時にⅡB層中から、黒曜石製剥片がまとまって出土した。【調査】調査区壁側を残して北側を掘り下げた。剥片がⅡB層中に分散していたため、土ごと採取した。

遺物出土状況：黒曜石製剥片529点が出土した。いずれも1cm以下の碎片で総重量が8.8gである。

時期：周辺の遺物、層位などから縄文時代中期後半の可能性がある。

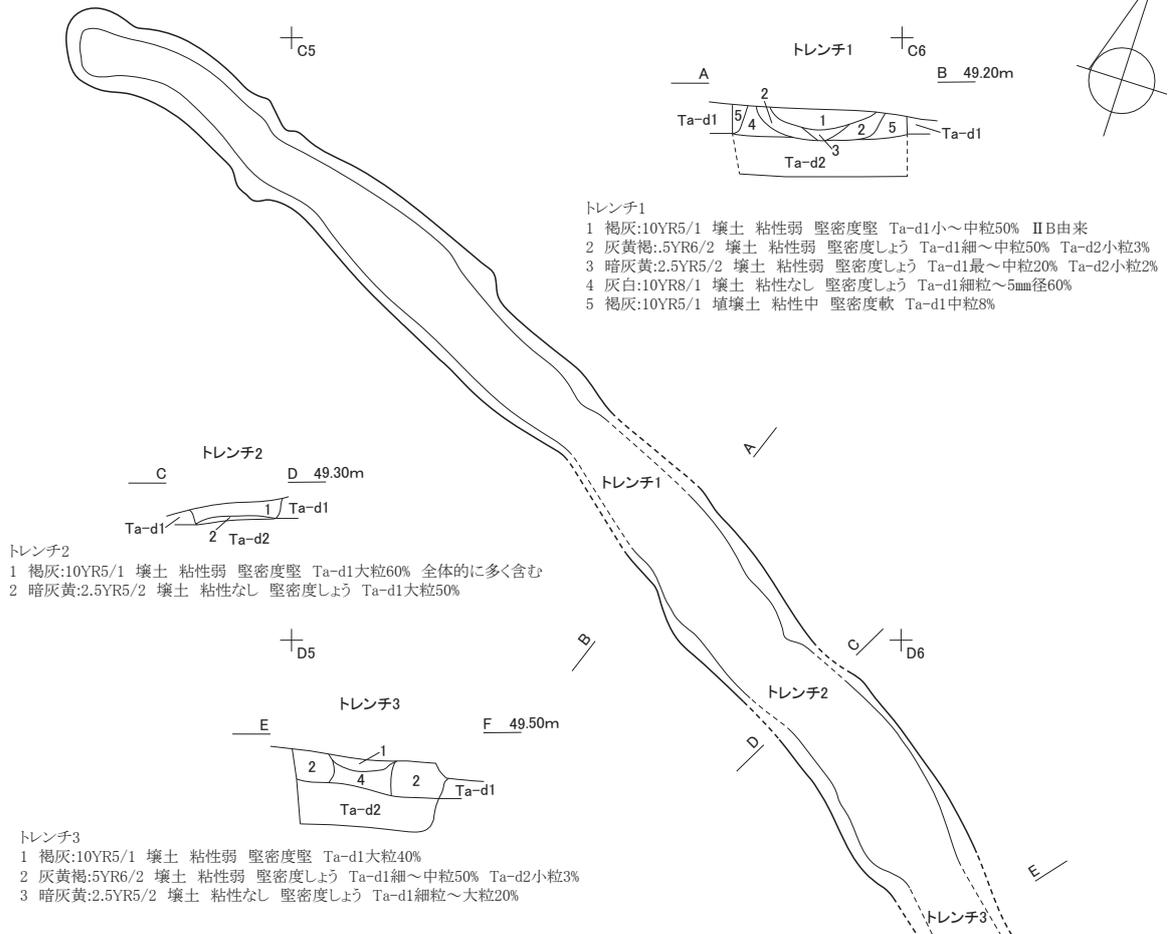
(藤井)

(6) 掘り上げ土 (DU)

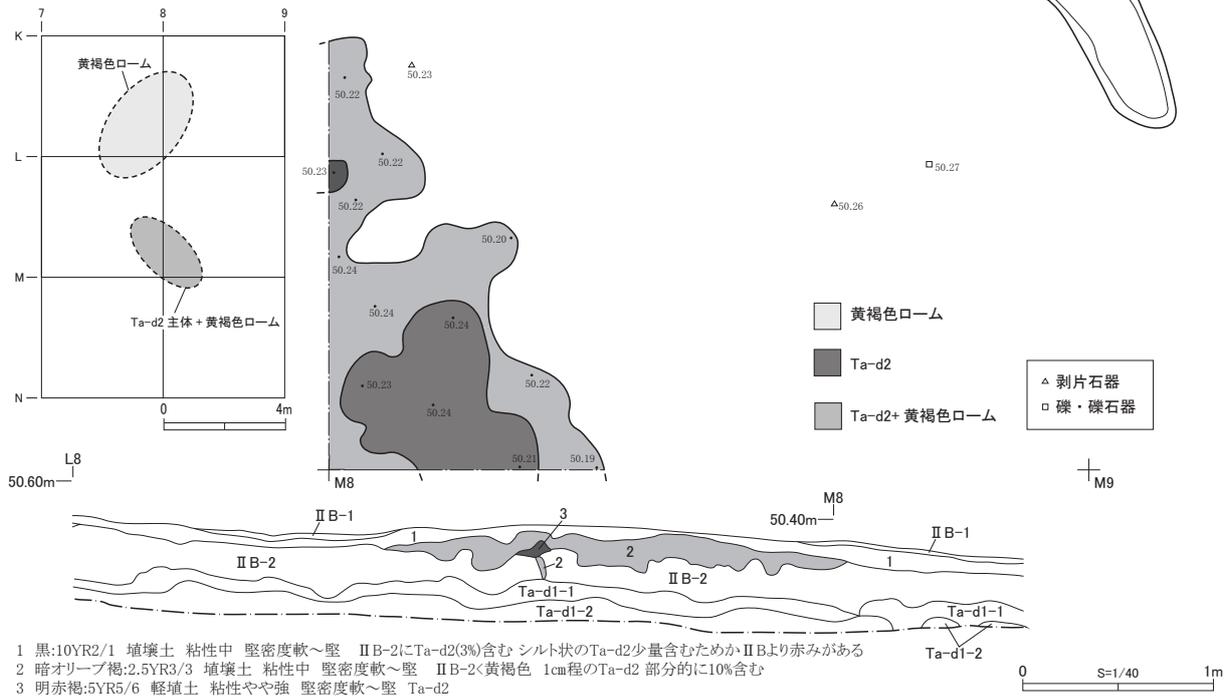
DU-1 (図IV-22 図版13-5・6)

位置：L7・8、M7・8区(①)、K7・8、L7・8区(②)、調査区西部中央の標高50.2m程の平坦面に位置する。

D-1(溝状遺構)



DU-1(掘り上げ土)



図IV-22 溝状遺構 掘り上げ土(1) D-1・DU-1

規模：①確認面3.00×1.50 最大厚0.18m ②確認面4.00×2.50

調査・特徴：L8区のⅡB層掘り下げ中にTa-d2・黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。厚さは最大18cmで、平均10cm程度。Ta-d2主体で、黄褐色ロームが混じる。断面の観察によると周辺のL7、M7・8区にも広がり確認でき、その範囲は3×1.5mと推定される①。また、K7・8区、L7区北側には厚さ12cm程の黄褐色ロームを主体とした掘り上げ土が8ライン断面などから確認でき、その範囲は4×2.5mと推定される②。両者が同一Tピットの掘り上げ土とすれば、Ta-d2と黄褐色ロームを別々に残置した可能性がある。周囲には南東1mにTP-2、西4mにTP-4、北東4mにTP-5が位置し、いずれかの掘り上げ土の可能性はあるが、もっとも近いTP-2の可能性が高い。

遺物出土状況：L8区の掘り上げ土周辺のほぼ同一層準から石鏃が2点出土した。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。(鈴木)

DU-2 (図IV-23 図版14-1～4)

位置：N9・10、O9・10区、調査区中央の標高49.6～49.8mの平坦面に位置する。

規模：①確認面2.30×1.50 最大深さ0.08m ②確認面1.20×0.60 最大深さ0.08m ③確認面1.20×0.90 最大深さ0.08m ④確認面1.20×0.20 最大深さ0.04m ⑤確認面0.20×0.16 最大深さ0.04m ⑥確認面0.12×0.08 最大深さ0.04m

特徴：【確認・調査】ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。

【範囲・堆積】掘り上げ土は6か所検出され、Ta-d2主体の①、黄褐色ローム主体の②～⑥に分けられる。①は長径2.3mでやや広いが、そのほかは小規模で1.2m以下である。厚さはいずれも10cm以下で、比較的密度も低い。①の南東部からは幅20cm弱の大型炭化材が出土した。周囲には北西6mにTP-2、東4mにTP-25が位置するが、どの掘り上げ土かは不明である。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。(鈴木)

DU-3 (図IV-23 図版14-5・6)

位置：N13・14区、調査区中央の標高49.0～49.2mの緩斜面に位置する。

規模：確認面1.70×1.00 最大深さ0.10m

特徴：【確認・調査】ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。

【堆積・範囲】長径3.4m、短径2.0m程、厚さ10cm程である。黄褐色ローム主体で西側の下位には低密度のTa-d2(3層)が分布する。それらの上下は自然堆積と逆で、掘り上げた順に置かれたものと考えられる。周囲には北西5m程にTP-22が位置するが、北東側は調査範囲外であるため、どの掘り上げ土かは不明である。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。(鈴木)

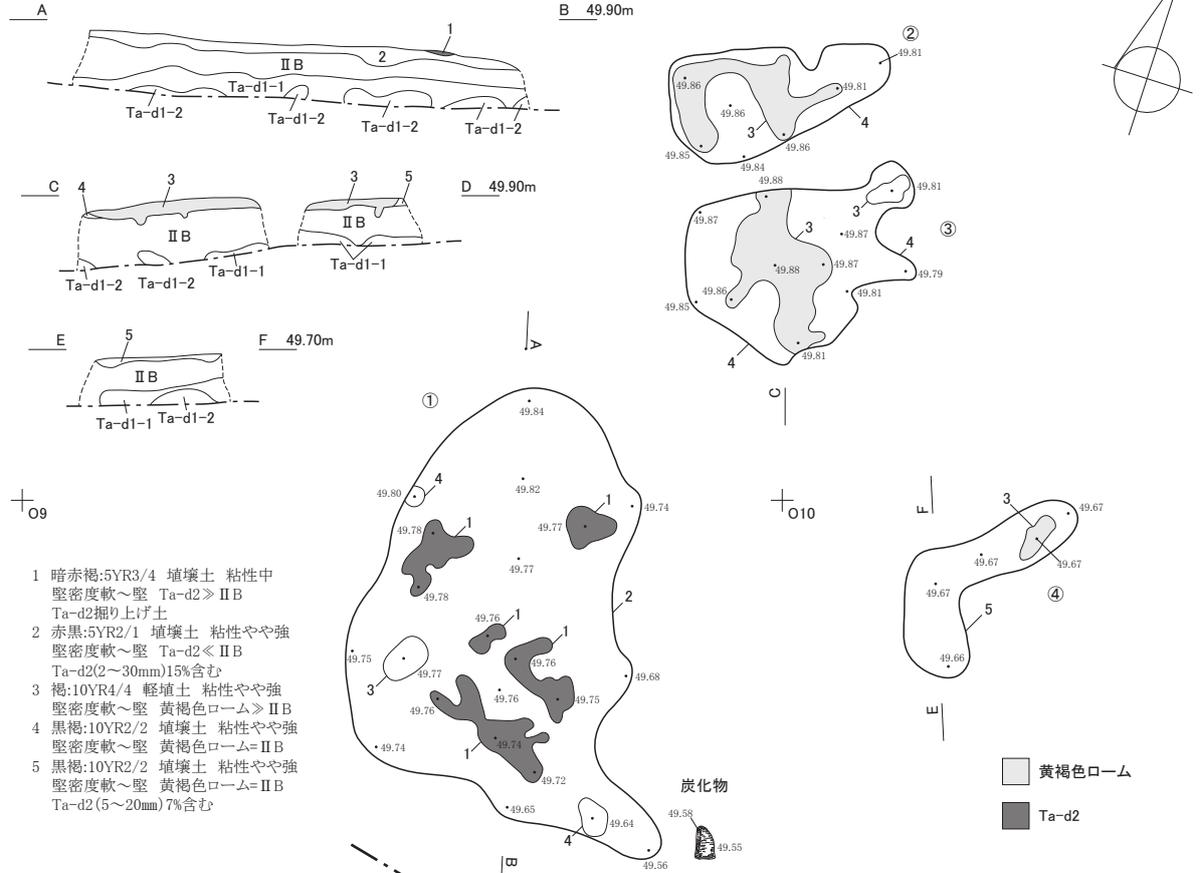
DU-4 (図IV-24 図版14-7・8 15-1～4)

位置：Q11、R11・12区、調査区中央南部の標高49.7～49.9mの平坦面に位置する。

規模：①確認面(2.30)×1.70 最大深さ0.08m ②確認面1.22×1.10 最大深さ0.16m

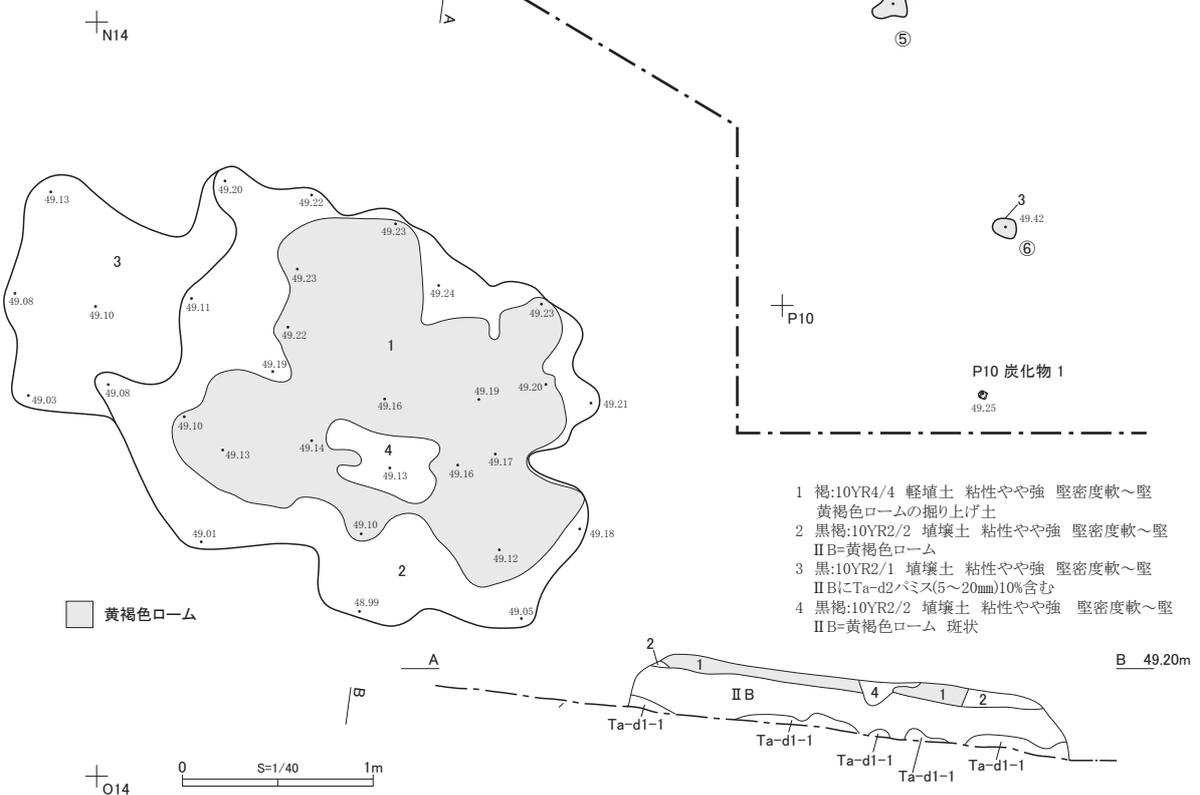
特徴：【確認・調査】ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。【堆積・範囲】掘り上げ土は①Q11・R11区と②R12区の2か所あり、①は長径不明、短径1.7m程、厚さ8cmである。黄褐色ローム主体で北側の下位にはTa-d2が分布する。②は2.5×2.1m、厚さ16cmである。西側は黄褐色ローム(1層)、東側はTa-d2主体(3・4層)で、中央部ではTa-d2(4層)

DU-2



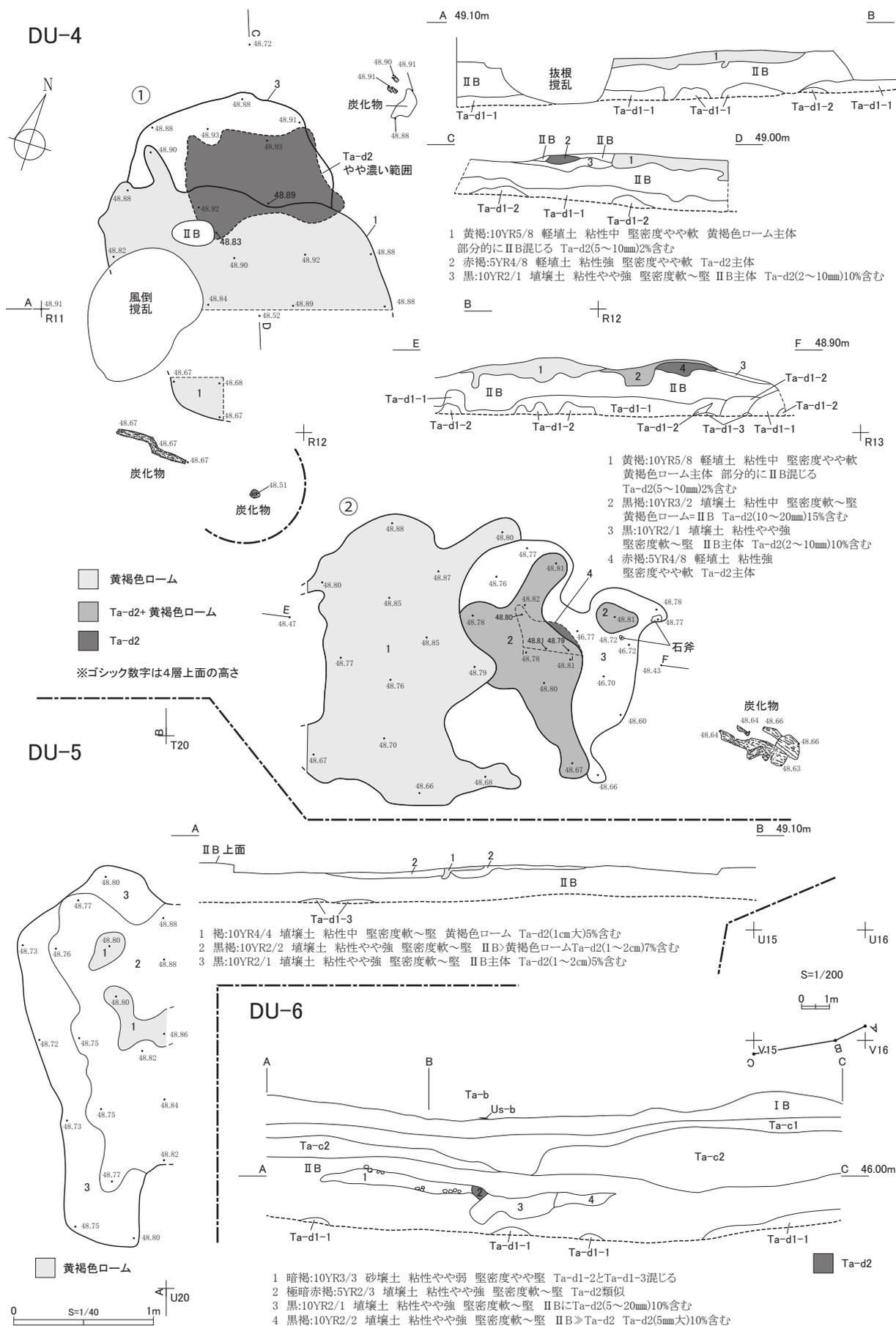
- 1 暗赤褐:5YR3/4 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d2 ≧ II B
Ta-d2掘り上げ土
- 2 赤黒:5YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-d2 ≧ II B
Ta-d2(2～30mm)15%含む
- 3 褐:10YR4/4 軽埴土 粘性やや強 堅密度軟～堅 黄褐色ローム ≧ II B
- 4 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 黄褐色ローム = II B
- 5 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 黄褐色ローム = II B
Ta-d2(5～20mm)7%含む

DU-3



- 1 褐:10YR4/4 軽埴土 粘性やや強 堅密度軟～堅 黄褐色ロームの掘り上げ土
- 2 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II B=黄褐色ローム
- 3 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II BにTa-d2/ミス(5～20mm)10%含む
- 4 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟～堅 II B=黄褐色ローム 斑状

図IV-23 掘り上げ土(2) DU-2・3



図IV-24 掘り上げ土(3) DU-4・5・6

の上に黄褐色ローム（2層）が堆積する。①②ともTa-d2は黄褐色ロームに比べ量が少ない。また、黄褐色ロームの下位にあることが共通し、自然堆積と逆で、掘り上げた順に置かれたものと考えられる。

両者とも周辺に炭化材が出土し、R12区の東側からは長さ60cmの炭化材が出土した。周囲には北側5m程にTP-25・26、北東4mにTP-24、6mにTP-27が位置するが、どの掘り上げ土かは不明である。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

DU-5（図IV-24 図版15-5・6）

位置：T19・20区 調査区東部の標高48.7～48.9mの西向きの緩斜面に位置する。

規模：確認面2.80×（1.20） 最大厚0.05m

調査・特徴：ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。長径2.8m、短径不明、厚さ5cmである。黄褐色ローム主体の土（1層）が部分的にあり、ⅡB・Ta-d2・黄褐色ロームの混じった土（2層）がその下位に、さらに下位にTa-d2を少量含む土（3層）が堆積する。それらの上下は自然堆積と反対である。北側にTP-29が隣接し、その掘り上げ土の可能性はある。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

DU-6（図IV-24 図版15-7・8）

位置：U15、V15区 調査区中央の標高45.9～46.1mの沢状地形の底部に位置する。

規模：確認面2.10×- 最大厚0.10m

特徴：【確認・調査】ⅡB層掘り下げ後に調査区南壁で確認し、断面のみ記録した。

【堆積・範囲】長径2.1m、短径不明、厚さ10cm程である。中心部にTa-d2を少量含む落ち込み（3層）があり、その東側にはTa-d1主体（1層）・Ta-d2主体（2層）、西側にはTa-d2を含む層（4層）がある。中央の3層がTピットの覆土の可能性があり、調査区内に掘り込みが確認できないため、南側にTピットがある可能性が想定される。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

DU-7（図IV-25 図版16-1）

位置：P16区 調査区中央部南東寄りに位置し、標高48mの沢奥にあたる平坦面に立地する。南側6mにTP-23、南西10mにTP-27がある。

規模：確認面0.48×0.28 最大厚0.04m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層1回目の掘り下げで、ⅡB層とTa-d1、d2の混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の広がりの方南半分を掘り下げて土層断面を確認し、遺構を伴っていないことから、掘り上げ土として調査した。規模が小さいので調査区外にのびる可能性もある。【堆積】Ta-d1、d2ブロックとⅡB層が混じる混土で層厚5cmと薄い堆積である。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周囲のTピットに伴うものであれば、縄文中期後半の可能性はある。（藤井）

DU-8（図IV-25 図版16-3・4）

位置：S16区 調査区南部やや東寄りに位置し、標高47～47.5mの沢状地形による斜面途中に立地す

る。東にDU-11と近接し、北4mにTP-23、南4mにTP-17がある。

規模：確認面2.28×1.60 最大厚0.08m **平面形態**：南北に長い不整楕円形が北、南の2か所にある。

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで、黄褐色ロームTa-d1、d2とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸に沿って南西側を掘り下げ、土層断面の堆積と遺構を伴っていないことを確認し、掘り上げ土として調査した。【堆積】混土の内容によって3種の堆積に分けることができた。黄褐色ローム主体（Ⅰ）、Ta-d1が多いもの（Ⅱ）、黄褐色ロームブロックにTa-d2を含むもの（Ⅲ）の3種で、いずれも層厚は5cmと浅い。

時期：縄文時代のものであるが、詳細を特定できていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性はある。（藤井）

DU-9（図IV-25 図版16-5・6）

位置：P8・9、Q8・9区 調査区南側西寄りに位置し、標高49mの尾根上平坦面に立地する。近接する遺構はなく、8m西にTP-21、7m北にDU-2、10m東にDU-4がある。掘り上げ土が集中する範囲である。

規模：確認面2.81×1.52 最大厚0.12m **平面形態**：東西に長い不整楕円形

特徴：【確認】ⅡB層1回目の掘り下げで、黄褐色ローム、Ta-d1、Ta-d2とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸の南半分を掘り下げて土層断面を確認し、遺構を伴っていないことで掘り上げ土と判断して調査した。【堆積】混土の内容によって三種に分けた。黄褐色ローム主体（Ⅰ）、Ta-d2主体（Ⅱ）、Ta-d1とd2主体（Ⅲ）の三種で、いずれも5～10cmの層厚で堆積する。

時期：縄文時代のものであるが、詳細を特定できていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性はある。（藤井）

DU-10（図IV-25 図版16-7・8）

位置：R14区 調査区南側のやや東寄りに位置し、標高48mの緩斜面上に立地する。西側TP-24に近接し、北4mにTP-27、東6mにTP-23がある。

規模：確認面2.00×1.20 最大厚0.08m **平面形態**：南北に長い楕円形

特徴：【確認】ⅡB層2回目の掘り下げで、Ta-d1、d2とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸に沿って南東半分を掘り下げて、土層断面堆積と、遺構を伴っていないことを確認して掘り上げ土として調査した。【堆積】混土の内容によって四種の覆土に分けた。黄褐色ロームにTa-d1、d2が含まれるもの（Ⅰ）、灰褐色土にTa-d1、d2を含むもの（Ⅱ）、黒褐色土にTa-d1、d2を含むもの（Ⅲ）、灰黄褐色土にTa-d1、d2を含むもの（Ⅳ）、でいずれも5cm以下の層厚で薄い。

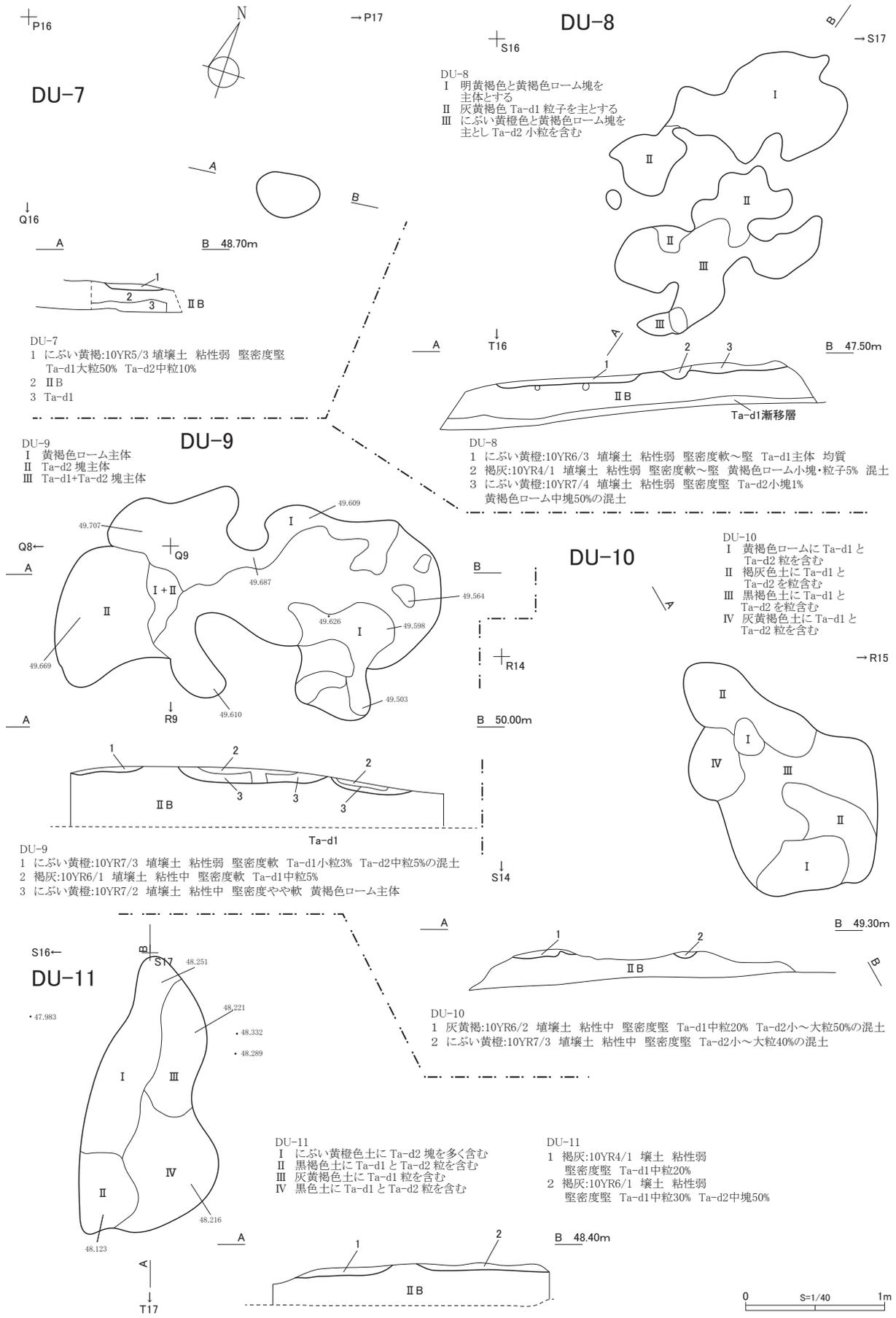
時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性はある。（藤井）

DU-11（図IV-25 図版16-2）

位置：S16・17区 調査区南側やや東寄りに位置し、標高47.5mの沢状地形の斜面部に立地する。西にDU-8と近接し、北4mにTP-23、沢下流にあたる南6mにTP-17・18がある。

規模：確認面2.06×1.02 最大厚0.05m **平面形態**：南北に長い楕円形

特徴：【確認】ⅡB層を3回目に掘り下げたところで、Ta-d1とTa-d2粒とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸に沿って東半分を掘り下げ、土層断面と、遺構を伴っていないこ



図IV-25 掘り上げ土(4) DU-7・8・9・10・11

とを確認し、掘り上げ土として調査した。【堆積】混土の内容により四種の覆土に分けた。いずれも層厚5cm程の薄い堆積である。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴うものであれば、縄文中期後半の可能性はある。
(藤井)

(7) 炭化材・炭化物集中 (CB)

CB-1 (図IV-26 図版17-1)

位置：K10区 調査区内中央部北寄りに位置し、標高約50mの平坦面に立地する。近接する遺構はなく、北西約10mにTP-5、南東約10mにTP-22がある。

規模：確認面1.00×0.54 最大厚0.06m 平面形態：楕円形（北西-南東に長い）

特徴：【確認】包含層調査2回目の掘り下げ時に炭化物のまとまりを確認した。大きな広がりではなく、径10cm程のまとまりがいくつか分散した状態である。【調査】炭化物塊の広がりを確認し、その長軸を切るかたちで堆積を確認した。【堆積】炭化物塊を主に焼土とTa-d2とが混じる堆積が見られた。炭化物は数cm程度の塊と数mm程度の粒があり、粒の方が多く見られた。【分析】出土した炭化物のうち木片を抽出し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った。年代測定は3600±30yrB.P.、樹種はコナラ属コナラ節との結果を得た。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代にあたるが詳細を特定できる遺物は出土していない。年代測定により、縄文時代後期前葉との結果を得た。

(藤井)

CB-2 (図IV-26 図版17-2)

位置：T20区 調査区南東部に位置し、標高49mの尾根筋上に立地する。西にTP-29、DU-6、東にCB-3、TP-20と近接する。

規模：炭化材① 確認面0.34×0.40m・炭化材② 確認面1.02×0.54m

平面形態：炭化材① 複雑に入り組んだ不整形(部分)・炭化材② 複雑に入り組んだ不整楕円形(部分)

特徴：【確認】ⅡB層1回目の掘り下げで、炭化物・炭化材の大きな広がりを確認した。精査によって東と西の2か所に分かれた。【調査】炭化材の分布状況を確認し①、②それぞれを半截して断面を確認した。【堆積】炭化材のブロックがほとんどで、一部に10～15cmの細長い形で残るものもあった。層厚は薄く、炭化材層1層のみであった。【分析】炭化材②の中から炭化木片をサンプルとして抽出し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った。年代測定は2960±30yrB.P.(Ta 8-07)、樹種同定はいずれもコナラ属コナラ節との結果を得た (Ta 8-08・09)。(表VI-1)

時期：時期の特定ができる遺物がないが、分析結果によって縄文時代晩期初頭の可能性がある。

(藤井)

CB-3 (図IV-26 図版17-3)

位置：S21・T21区 調査区南東部に位置し、標高49mの尾根筋上に立地する。TP-20と重複し、西にCB-2と近接する。西5mにTP-29、南東5mにF-1がある。

規模：確認面2.74×0.99m 平面形態：東西に長い不整楕円形

特徴：【確認】ⅡB層1回目の掘り下げで、炭化物粒炭化材の広範囲な広がりを確認した。全体に細かな粒が分散する中に、7か所の炭化材のまとまりを確認した。【調査】炭化材・炭化物の分布状況を確認し、分布範囲の長軸の南半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】炭化材及び炭化物ブ

ロックが薄く堆積するのみであった。

時期：縄文時代に相当するも、詳細な時期を特定できる遺物は出土しなかった。周辺の炭化物の出土状況から、縄文時代後期から晩期にかけてのものと考えられる。（藤井）

CB-4（図IV-26）

位置：S19・20区 調査区南東部に位置し、標高49mの尾根筋上に立地する。南西にTP-29に近接し、南6mにCB-2、DU-6がある。

規模：確認面0.69×0.68m 平面形態：円形、楕円形の大小のまとまりが、径3mの範囲に分散する。

特徴：【確認】ⅡB層2回目の掘り下げで、炭化物ブロック、炭化材のまとまりを数か所で確認した。

【調査】炭化物ブロック・炭化材の分布を確認し、各々のまとまりについて半截し、土層断面を確認した。【堆積】いずれのまとまりも、炭化物層のみの薄い堆積であった。

時期：層位や他の炭化物集中の例から縄文時代後期～晩期にかけてのものと考えられる。（藤井）

CB-5（図IV-26 図版17-4）

位置：T24・25区 調査区南東部に位置し、標高48mの斜面上部に立地する。西にF-7、東にCB-6と近接する。

規模：① 確認面1.09×0.64m ② 確認面0.96×0.65m 平面形態：T25杭を中心に半径2mの円内に、不整形な炭化材群が4か所分布

特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に、炭化材・炭化物ブロックの広範囲な広がりを確認した。広がりは北側調査区外にも及ぶ。【調査】炭化物の分布を確認し、4か所のまとまりについてそれぞれ半截し、土層断面を確認した。【堆積】いずれのまとまりも炭化物層のみの薄い堆積であった。

時期：層位及び他の炭化物集中の例から、縄文時代後期から晩期にかけてと考えられる。（藤井）

CB-6（図IV-26 図版17-4）

位置：S25・26、T25・26区 調査区南東部に位置し、標高47.5mの斜面上部に立地する。西にCB-5と近接し、南東8mにC-1がある。

規模：確認面0.81×(0.46)m 平面形態：東西に長い不整楕円形（部分）

特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に細かな炭化材ブロックの広がりを確認した。広がりは北側調査区外にも及ぶ。【調査】炭化物の分布を確認し、調査区壁側を残して掘り下げ、土層断面を確認した。

【堆積】炭化物層のみの薄い堆積であった。

時期：層位及び他の炭化物集中の例から、縄文時代後期から晩期にかけてのものと考えられる。

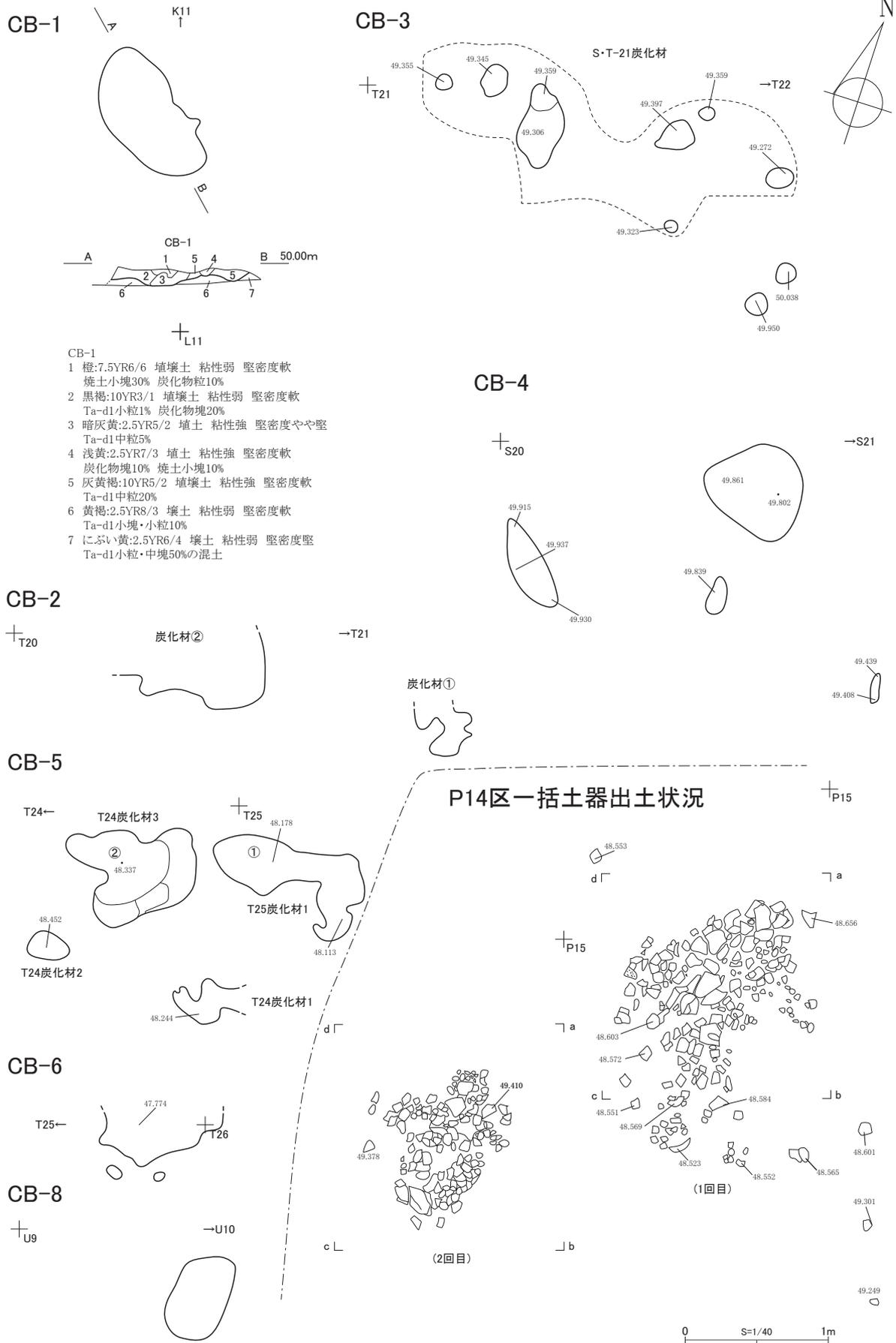
（藤井）

CB-7（図IV-21 図版17-5・6）

位置：U5区 調査区南東部に位置し、標高48～48.5mの緩斜面上に立地する。F-3・4・5からなる焼土群の範囲と重なる。

規模：長径6m、短径4mの範囲 炭化材① 確認面0.20×0.16 最大厚0.04m ② 確認面0.32×0.16 最大厚0.04m 平面形態：炭化物粒子が樹枝状に広がる。

特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に、U5・6グリッド内ほぼ全体に細かい炭化物粒子が樹枝状に広がることを確認した。【調査】炭化物の分布範囲を記録し、3か所の炭化材については半截し、土層



図IV-26 炭化物集中(2) CB-1・2・3・4・5・6・8 P14区一括土器出土状況

断面を確認した。【堆積】炭化物の堆積は1～2cm程度のきわめて薄い堆積。3か所の炭化材については、樹木の形状が明瞭で厚みも残る堆積が見られた。

時期：層位及び他の炭化物集中の例から、縄文時代後期から晩期にかけてと考えられる。（藤井）

CB-8（図IV-26 図版17-7）

位置：U9区 調査区南端西寄りに位置し、標高49mの緩斜面上に立地する。近接する遺構はなく、西10mにF-3・4・5焼土群がある。

規模：確認面0.66×0.40m 平面形態：南北に長い楕円形

特徴：【確認】ⅡB層2回目の掘り下げで、炭化物ブロックの広がり確認された。【調査】分布範囲を記録し、長軸に沿って半截した後、土層断面を確認した。【堆積】炭化物層のみで、数cm程の薄い堆積であった。

時期：遺物は出土していないが、周辺の炭化物集中の例などから縄文時代後～晩期の可能性がある。（藤井）

（8）ⅢB層の遺構

i 小ピット（SP）

SP-1～4（図IV-28 図版18-1～4）

位置：U7区 調査区南西部、標高47.9～48.1mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径12～20cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土はⅢB層主体で黄褐色ロームが少量混じり、SP-1の下位には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは12～24cmで、坑底は丸みを帯びるものが多い。グリッド内での明瞭な配列は確認できない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP-5～17（図IV-28 図版18-5～8）

位置：S7区 調査区南西部、標高48.2～48.4mの平坦面に位置する。

特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径8～16cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土は、ⅢB層主体で黄褐色ロームが少量混じるものがほとんどで、黄褐色ローム体のものが少数ある。SP-5の上位のⅢB層上面は平坦であり、その上位のⅢB層堆積後およびTa-d2降下直前には窪みではなかったと考えられる。深さは8～22cmで、坑底は丸みを帯びるものが多い。太さ・深さなどやや定形性に欠ける。分布はランダムで、グリッド内での明瞭な配列は不明である。

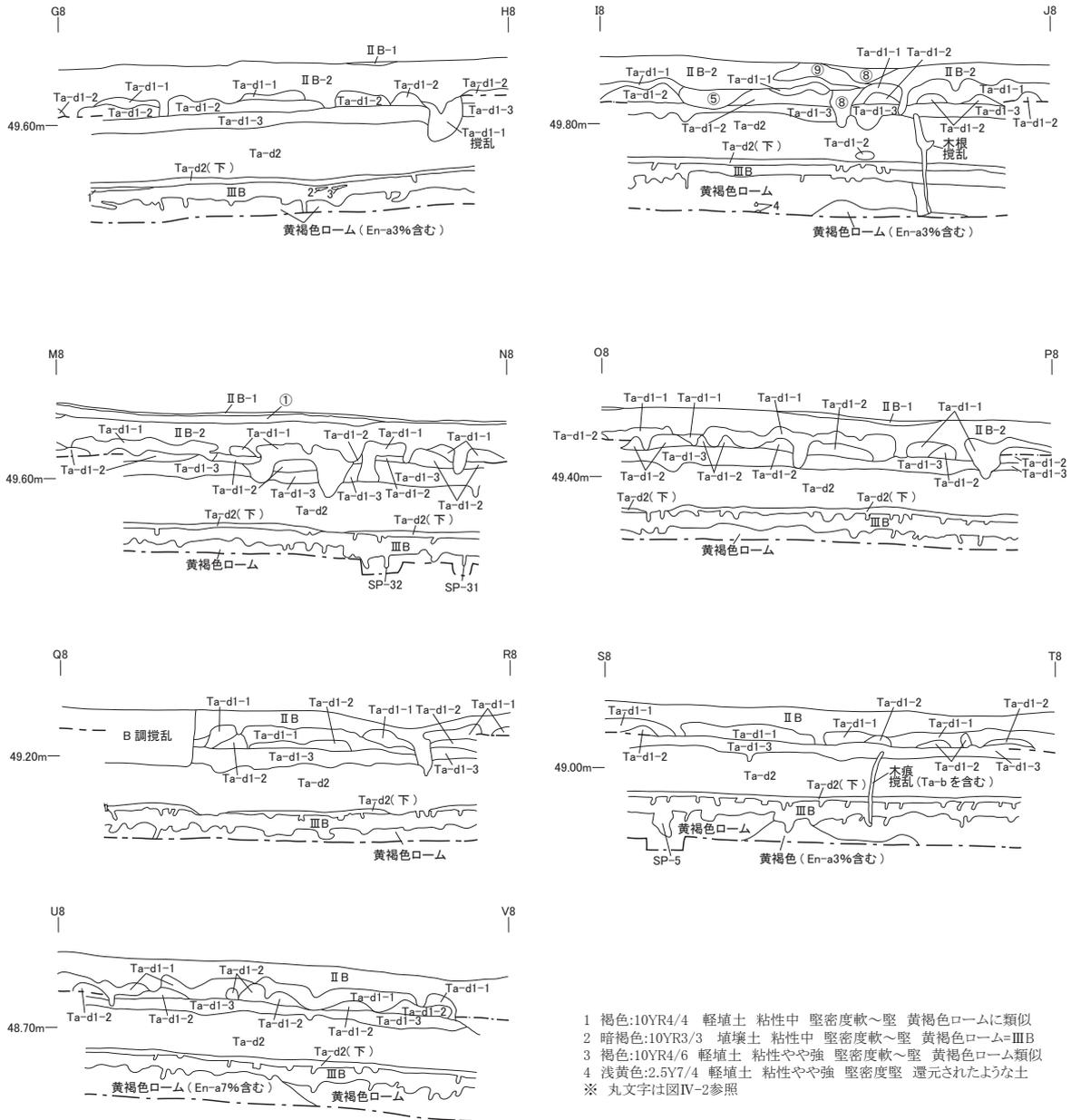
時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP-18～32（図IV-29 図版19-1～4）

位置：M7区 調査区中西部に位置し、標高48.8～49.0mの平坦面に立地する。

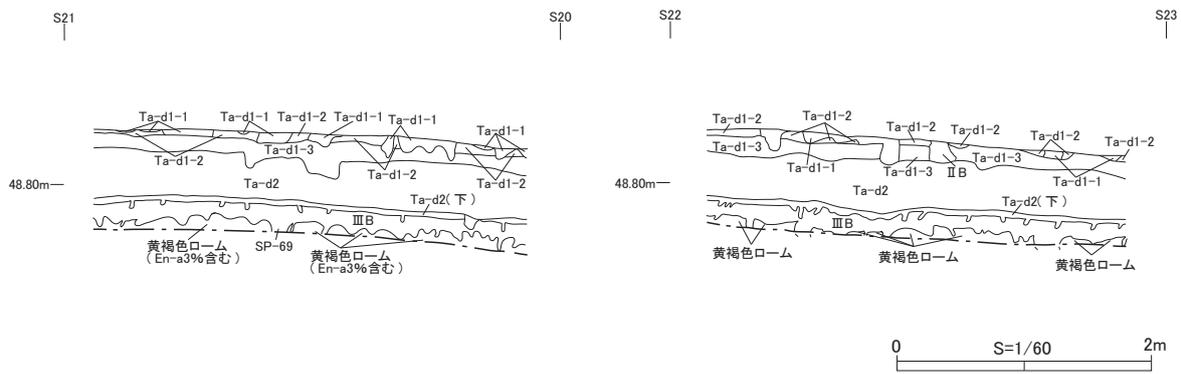
特徴：【確認】ⅡB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径8～20cm程の円形・楕円形の黒色土を複数確認した。【調査】15か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は殆どが灰色を基調としたⅡB層と、斑状の黄褐色ロームブロックとの混土である。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込み、深さ10～26cmである。尖底が多く、壁の立ち上がりも明瞭である。掘り込みは垂直なものや、やや傾斜のあるものがある。【分布】分布に規則性は見られず、配列などは不明である。

8ライン



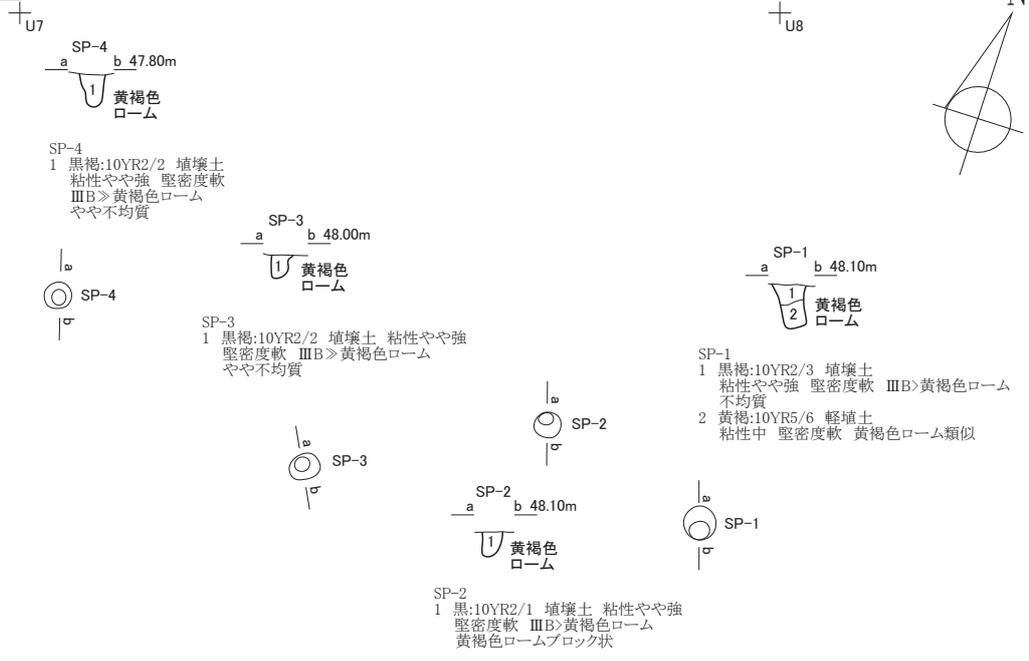
- 1 褐色:10YR4/4 軽埴土 粘性中 堅密度軟~堅 黄褐色ロームに類似
 - 2 暗褐色:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅 黄褐色ローム=III B
 - 3 褐色:10YR4/6 軽埴土 粘性やや強 堅密度軟~堅 黄褐色ローム類似
 - 4 浅黄色:2.5Y7/4 軽埴土 粘性やや強 堅密度堅 還元されたような土
- ※ 丸文字は図IV-2参照

Sライン

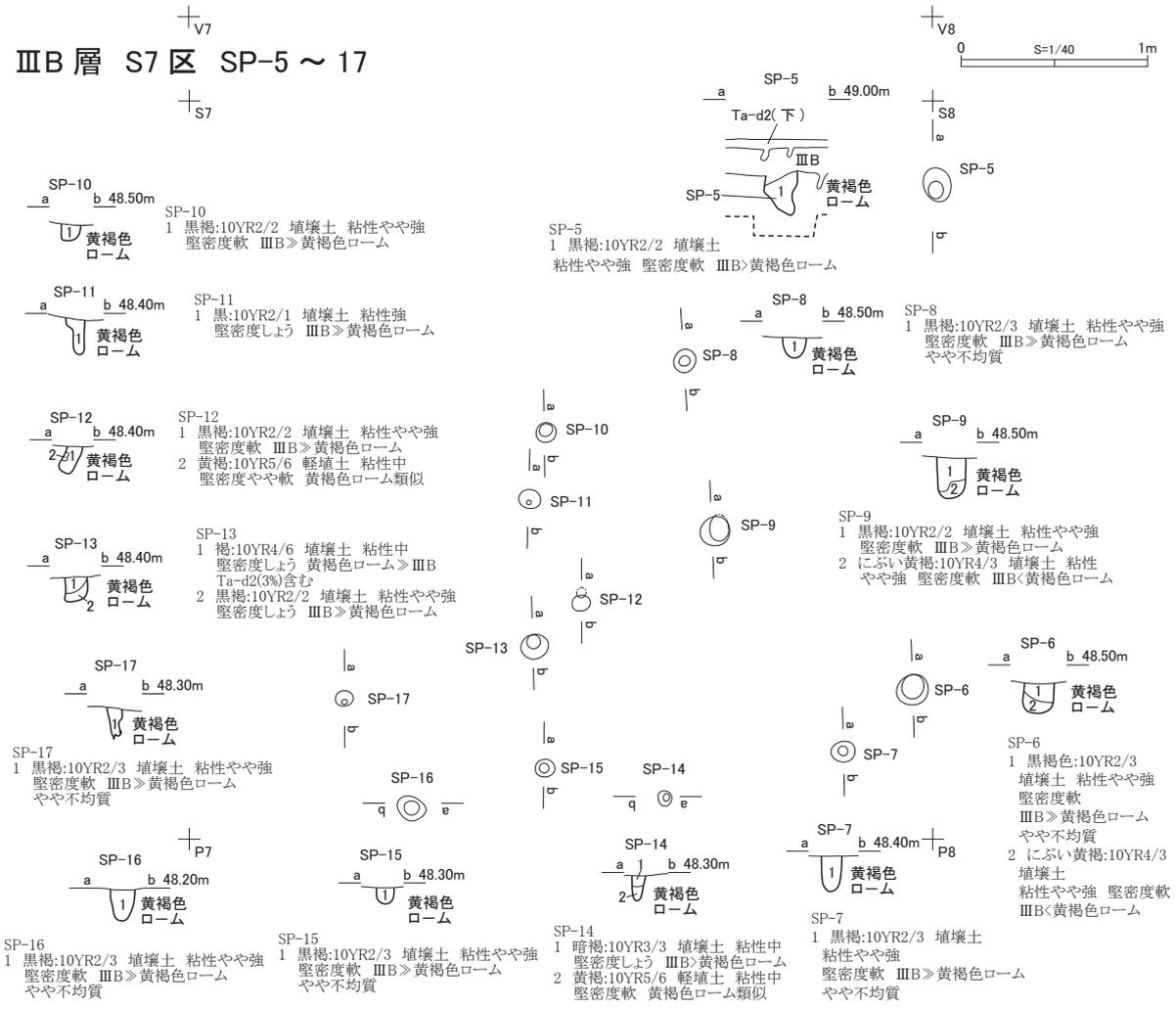


図IV-27 III B層調査 土層断面図

ⅢB層 U7区 SP-1 ~ 4

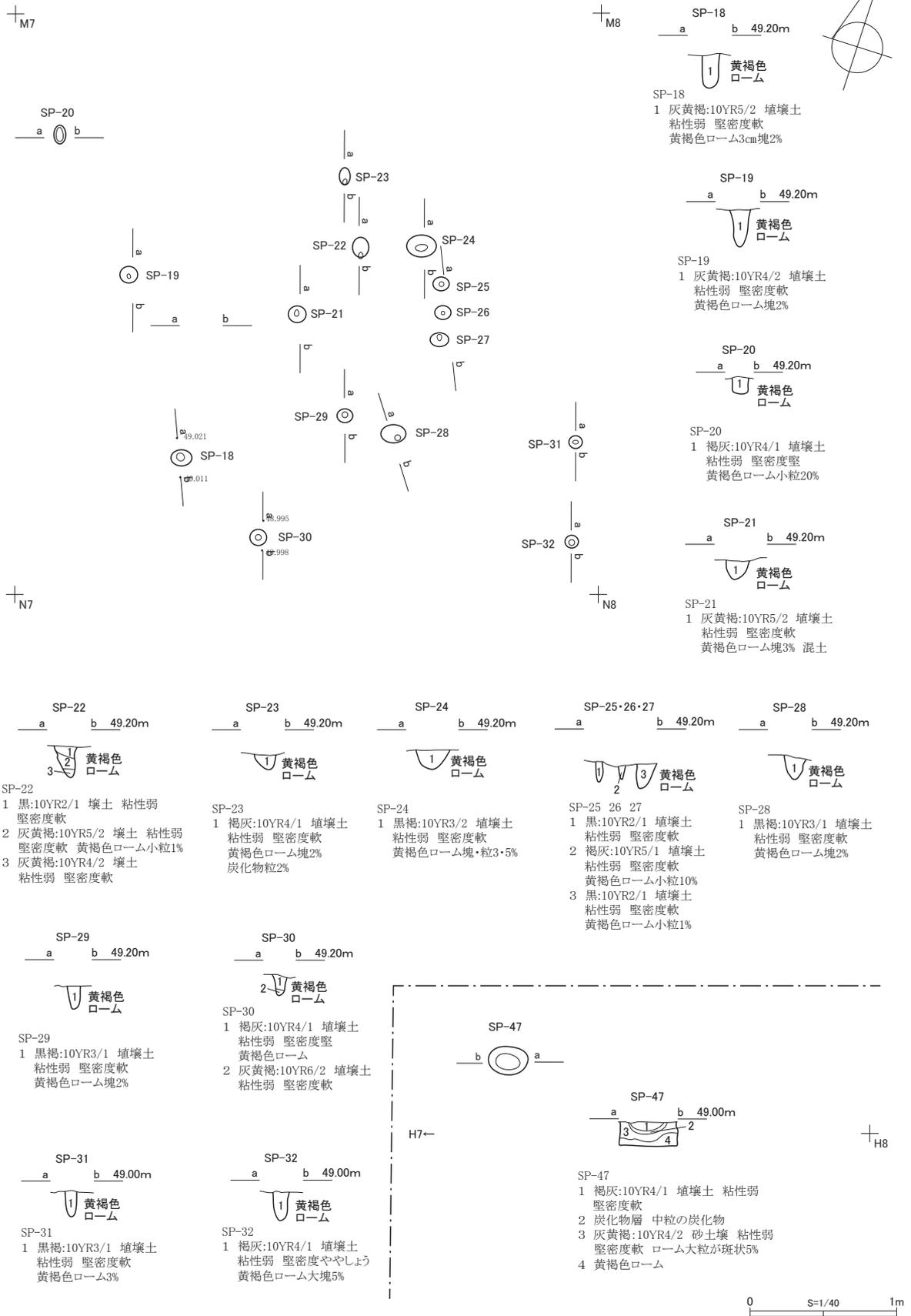


ⅢB層 S7区 SP-5 ~ 17



図IV-28 ⅢB層調査 柱穴状小ピット(1) SP-1~17

ⅢB層 M7区 SP-18~32・G7区 SP-47



図IV-29 ⅢB層調査 柱穴状小ピット(2) SP-18~32・47

時期：ⅢB層の堆積中につくられたと考えられる。(藤井)

SP-33～40 (図Ⅳ-30 図版19-5～8)

位置：O7区 調査区中西部に位置し、標高48.8～49.0mの平坦面に立地する。

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径6～30cm程の円形、長径40.80cmの楕円形の黒色土を複数確認した。【調査】8か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は殆どが灰色を基調としたⅡB層と、斑状の黄褐色ロームブロックとの混土からなる。SP-36のみ、これにTa-d2ブロックが加わる。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込み、深さは20～30cmのものまである。SP-35・36は浅皿状で、その他は尖底に近い柱穴状で壁の立ち上がりも明瞭である。掘り込みは全て垂直である。【分布】分布に規則性は見られず配列なども不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたと考えられる。(藤井)

SP-41～46 (図Ⅳ-30 図版20-1～4)

位置：I7区 調査区中西部やや北寄りに位置し、標高49.1～2mの平坦面に立地する。

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径11～20cm程の円形の黒色土を複数確認した。【調査】7か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は殆どが灰色を基調としたⅢB層と、斑状の黄褐色ロームブロックとの混土である。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込み、深さ12～30cmものがある。SP-46は柱穴状にならなかった。底面は丸底が多く、壁の立ち上がりは明瞭である。掘り込みはやや傾斜のあるものが多い。【分布】グリッド内では南東に偏在するが、分布に規則性はなく配列なども不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたものと考えられる。(藤井)

SP-47 (図Ⅳ-29 図版20-5・6)

位置：G7区 調査区北部に位置し標高49mの平坦面に立地する。

規模：確認面 長軸0.34 短軸0.19 最大深さ0.14m

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ中、ⅢB層の下部で、楕円形のTa-d2主体の堆積1か所を確認した。【調査】楕円形の長軸北半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】覆土はTa-d2ブロック主体で、Ta-d1粒・ⅢB粒との混土である。【壁・底面】ⅢB層を浅く掘り込み、深さ14cmになる底面は浅皿状で壁も緩やかな立ち上がりである。

時期：ⅢB層堆積中につくられたものと考えられる。(藤井)

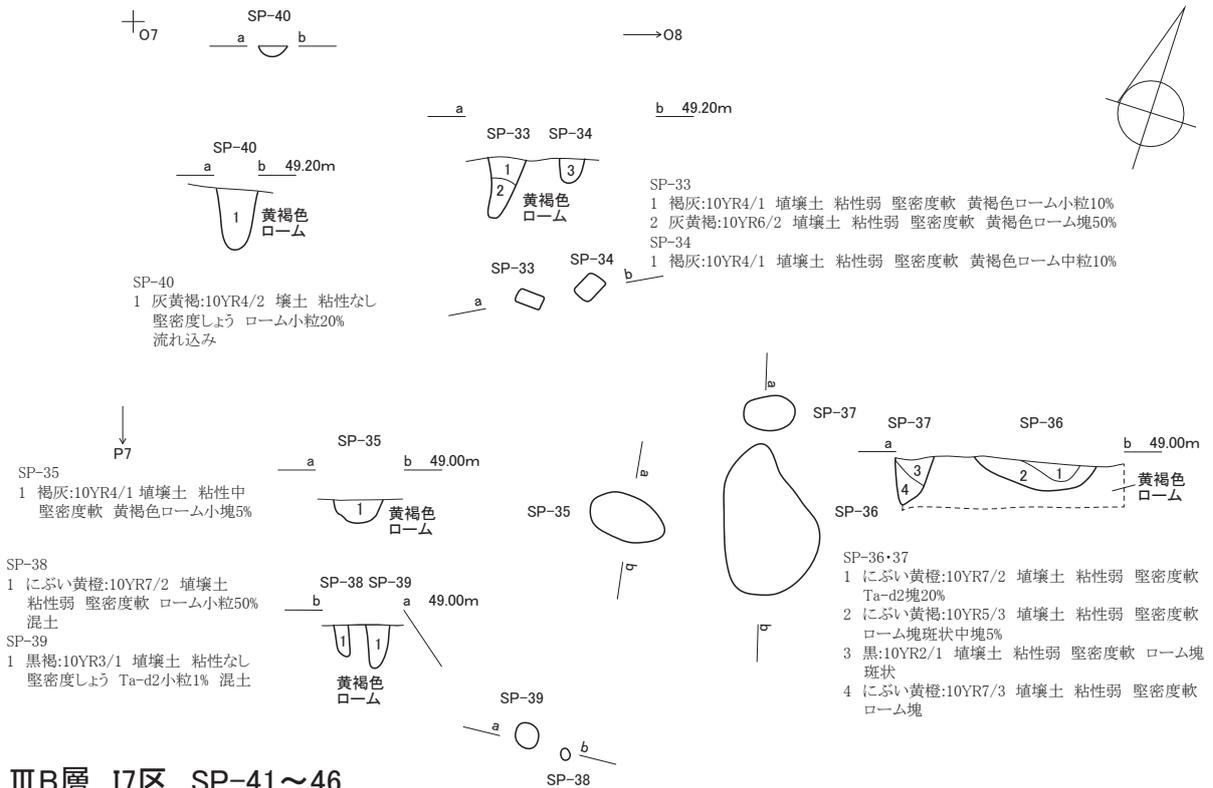
SP-48～71 (図Ⅳ-31 図版20-7・8 21-1・2)

位置：R20区 調査区南東部に位置し、標高48.4～48.60mの平坦面に立地する。

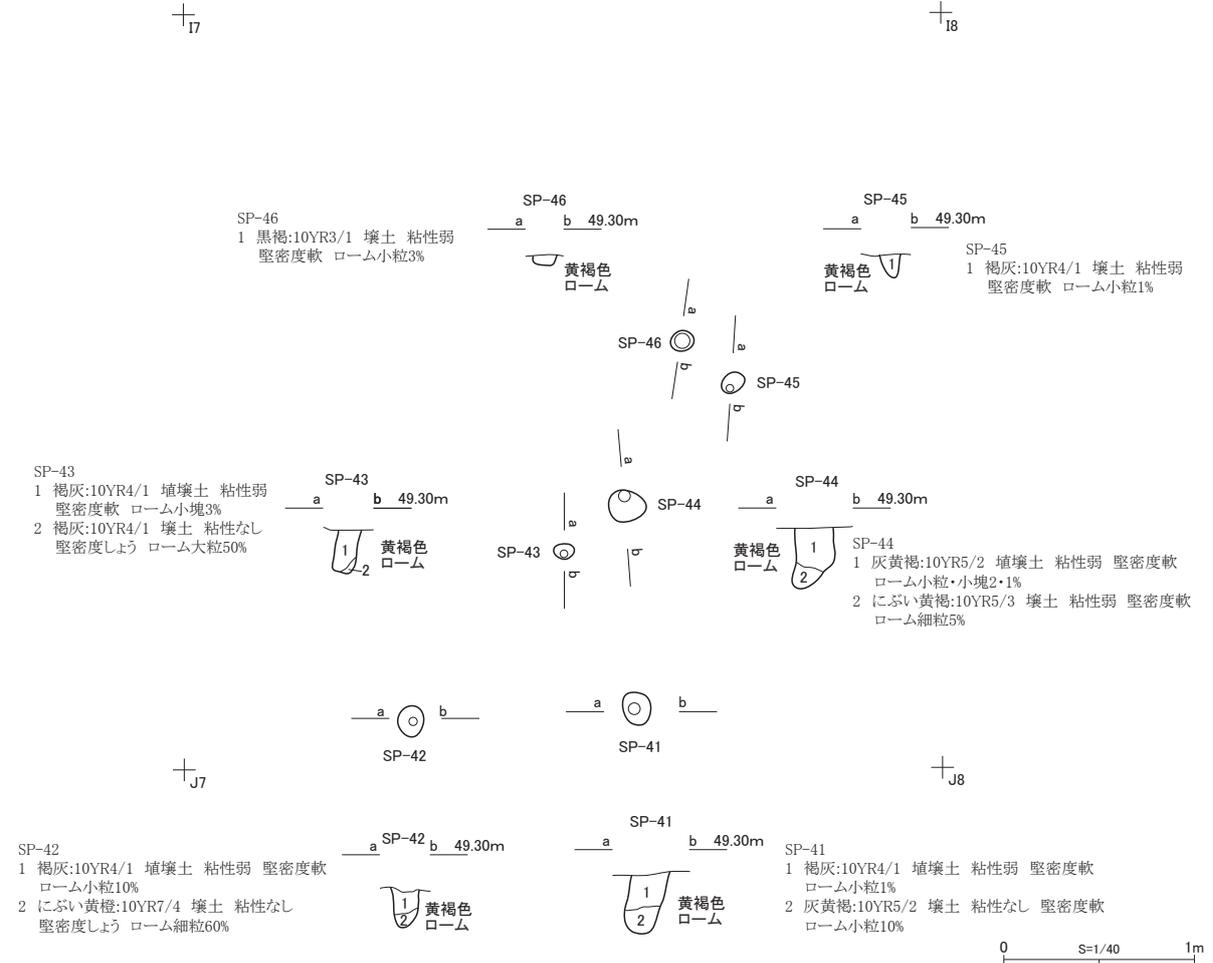
特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径9～24cmの円形の黒色土を複数確認した。【調査】24か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は灰色を基調としたⅢB層と、黄褐色ロームブロックとの混土からなる。【壁・底面】黄褐色ローム層を掘り込み、深さ8～36cmのものがある。底面には尖底、丸底、皿状があり、尖底が最も多い。壁は他のグリッドに比べて不明瞭なものが多いが、垂直に掘り込まれたものが多い。【分布】グリッドの中央から南にかけて集中しているが、規則性はなく配列なども不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたものと考えられる。(藤井)

ⅢB層 O7区 SP-33~40

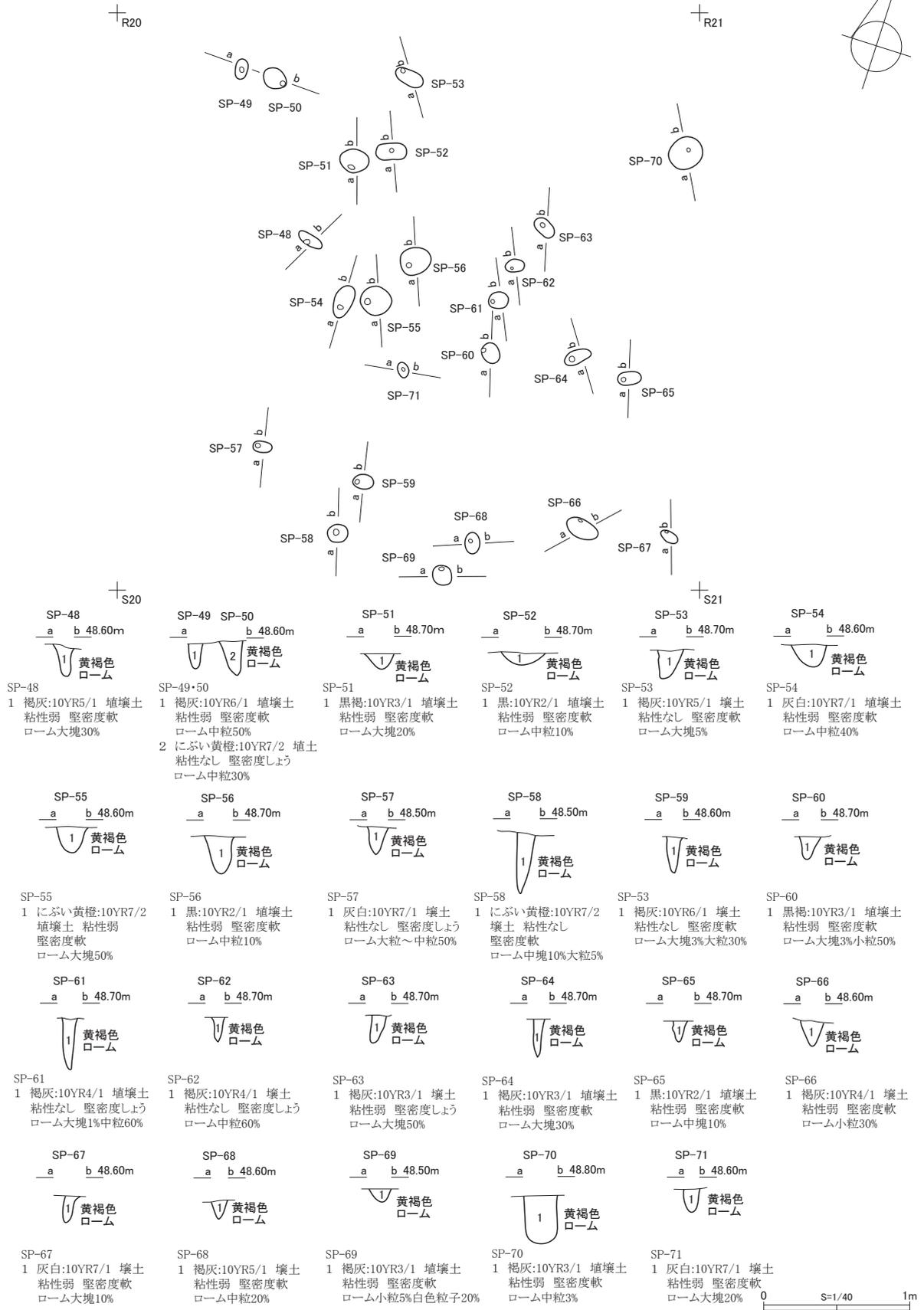


ⅢB層 I7区 SP-41~46



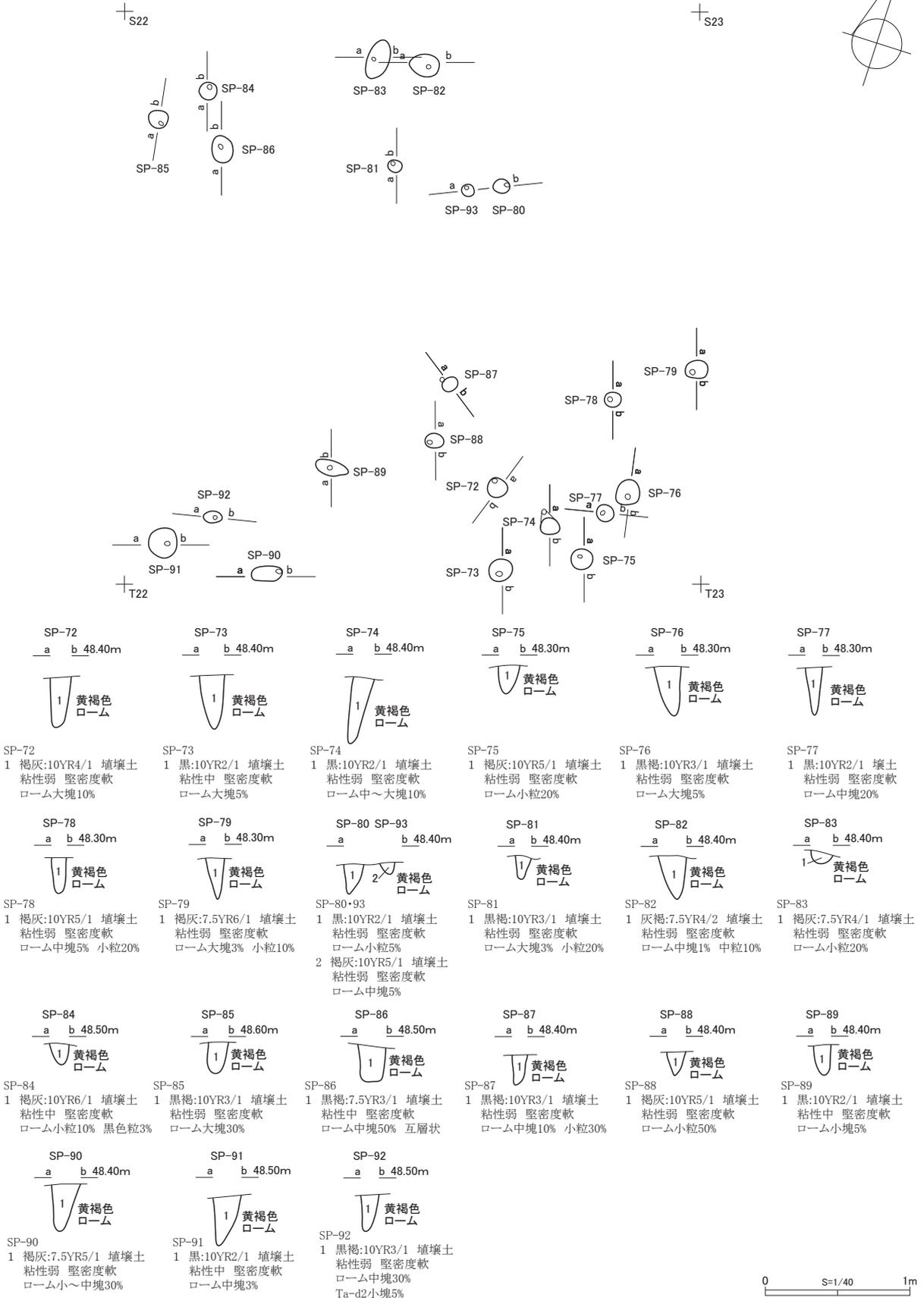
図IV-30 ⅢB層調査 柱穴状小ピット(3) SP-33~46

ⅢB層 R20区 SP-48~71



図IV-31 ⅢB層調査 柱穴状小ピット (4) SP-48 ~ 71

ⅢB層 S22区 SP-72~93



図IV-32 ⅢB層調査 柱穴状小ピット (5) SP-72 ~ 93

SP-72～93 (図Ⅳ-32 図版21-3～8)

位置：S22区 調査区南東部に位置し、標高48.2～48.50mの平坦面に立地する。

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径11～22cmの円形の黒色土を複数確認した。【調査】21か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は灰色を基調としたⅢB層と黄褐色ロームブロックとの混土である。SP-92のみTa-d2ブロックも混じる。【壁・底面】黄褐色ローム層を掘り込み、深さ8～46cmのものがあるが、30cm前後のものが多い。底面は丸底、尖底、皿状があり、丸底が目立つ。壁が不明瞭なものが多く、その殆どが垂直な掘り込みである。

【分布】グリッド中心を空白にしてその周囲に分布する。その他に特に規則性はなく、配列も不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたものと考えられる。

(藤井)

3 遺物

(1) 概要

A地区から出土した遺物は2,725点である。この内、土器が1,849点、石器が678点、礫が198点である。土器が最も多いがⅣc類1個体分の1,722点が大半を占めている

土器は遺構が1点、包含層が1,848点で、時期ではⅣc類が1,722点と最も多く、Ⅲb類が116点、Ⅱa-2類が10点の順である。この他、焼成粘土塊が6点出土した。

石器は遺構が529点、包含層が149点であるが、その殆どはC-1、剥片集中の剥片である。定形石器の器種には石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、R・Uフレイク、石斧、たたき石、石錘、砥石、台石石皿があり、石鏃が55点と圧倒的に多い。

礫は遺構が2点、包含層が198点である。扁平な円礫、円礫片が69点と多いのが特徴である。中でも片麻岩の扁平円礫片が27点と最も多い。石材は安山岩が59点と最も多く、次に片麻岩30点、砂岩16点と続く。

(2) 土器 (図Ⅳ-33・34 図版44 表Ⅳ-1)

図Ⅳ-33-1は遺構出土のものである。TP-26覆土上面より出土したⅢ群b類の口縁部破片で、ⅡB層P15出土の口縁部破片と接合した。

2～22は包含層出土のものである。2はⅡ群a-2類の口縁部破片である。3～20はⅢ群b類の土器片である。3～7は口縁部破片、3～6は肥厚した口唇断面形を特徴とするもので、3～5は突起がある。3は三角形を呈した大型の突起を伴うもので、平成30年度試掘調査によりK27区で出土した口縁部片と接合した。4は2種の形状の突起で、5は貼付紐を組み合わせた突起を特徴とする。7は口縁部が肥厚せず、縦位の貼付による突起を特徴とする。8、9は口唇が失われているが口縁部付近と考えられる。8は貼付紐に沈線状の刻み、9は半円形の刻み列が特徴である。10～21は胴部破片である。10・11は横位の貼付紐を伴う。12～16はLR原体による斜行縄文を地文とする。中でも12～14は径が小さく、小型鉢のものと思われる。17・18はRL原体による斜行縄文を地文とする。19・20は複節の縄文原体による斜行縄文を特徴とする。

21・22はⅣc類の土器である。21は口縁部破片で突瘤文を特徴とする。

22はA地区内唯一の復元個体の大型深鉢である。口縁から胴下半部までの全体の2/3を復元することができた。文様はRL原体による斜行縄文で、補修孔が多いのが特徴である。出土状況はⅡB層上層に1,718点の大小破片が本来の形状を残しつつ、横倒しの状態であった(図Ⅳ-26 口絵3-4)。このうち接合・復元できたのは222点である。底部片は小片1点のみで、口縁から底部までの復元には至

らなかった。

(3) 石器・礫 (図IV-34・35 図版45 表IV-2)

石鏃 (図IV-34-1～16 図版45)

石鏃は55点出土した。石材は黒曜石製が49点、頁岩製が6点であった。その内16点を掲載した。1・2は無茎平基のもので黒曜石製である。3～8は無茎凹基のもので、3～6は黒曜石製、7・8は頁岩製である。3・4は小型、5・6が中型、7・8が大型に分類され、8は抉りの深い細身が特徴である。9～13は有茎凸基または有茎平基のものである。いずれも黒曜石製である。11は尖頭部が菱形、12は側縁が外湾し、逆ハート形に見える。特徴的な形状である。13は基部が失われている。14～16は柳葉形のもので、黒曜石製である。14は小型、15・16が大型に分けられる。

石槍 (図IV-34-17・18 図版45)

石槍は3点出土した。その内2点を掲載した。17・18ともに有茎凸基状で黒曜石製である。17は側縁が曲線的、18は直線的である。

石錐 (図IV-34-19 図版45)

石錐は3点出土した。その内1点を掲載した。19は逆三角形状でつまみ部と錐部が明瞭なものである。

つまみ付きナイフ (石匙) (図IV-35-20～22 図版45)

つまみ付きナイフは5点出土した。その内3点を掲載した。20・21は頁岩製でナイフの先が右を向き、22は黒曜石製で先が垂直の形態のものである。

スクレイパー (図IV-35-23 図版45)

スクレイパーは2点出土した。その内1点を掲載した。23は黒曜石製で、縦長剥片の右側縁に刃部を調整したものである。

石斧 (図IV-35-24～27 図版45)

石斧は10点出土した。その内、4点を掲載した。24～26は緑色泥岩、27は片岩製である。24は上端の一部を失っているが、ほぼ完形に近い撥形である。25～27は上半部分を失っている25・26は短冊形、27は撥形である。

たたき石 (図IV-35-28・29 図版45)

たたき石は3点出土し、内2点を掲載した。28は緑色泥岩で棒状礫を素材にしたもの。29は砂岩製で部分のみだが、扁平楕円礫を素材にしている。

砥石 (図IV-35-30 図版45)

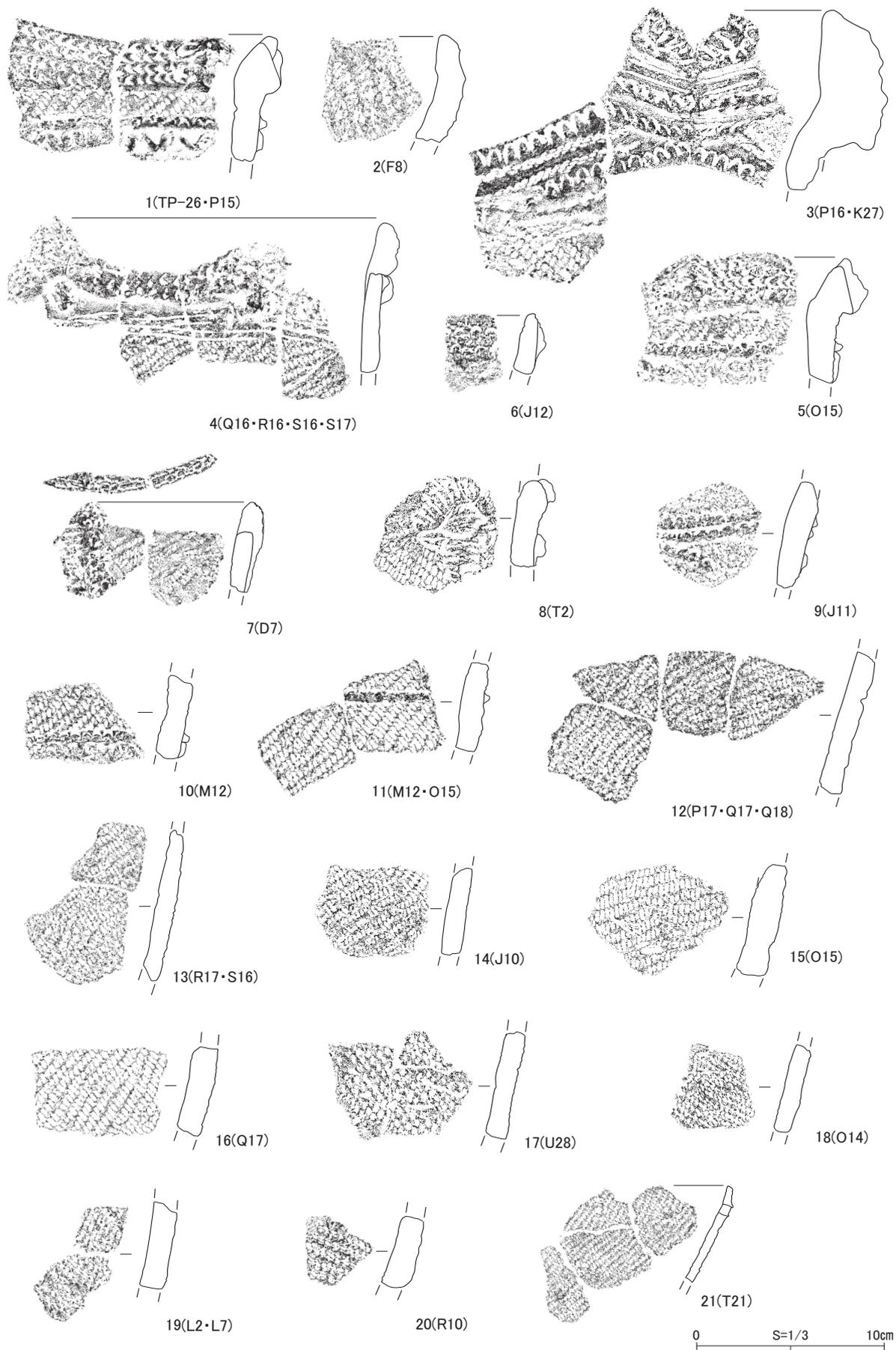
砥石は3点出土し、内1点を掲載した。30は砂岩製で使用面が2面以上みられるものである。

石錘 (図IV-35-31 図版45)

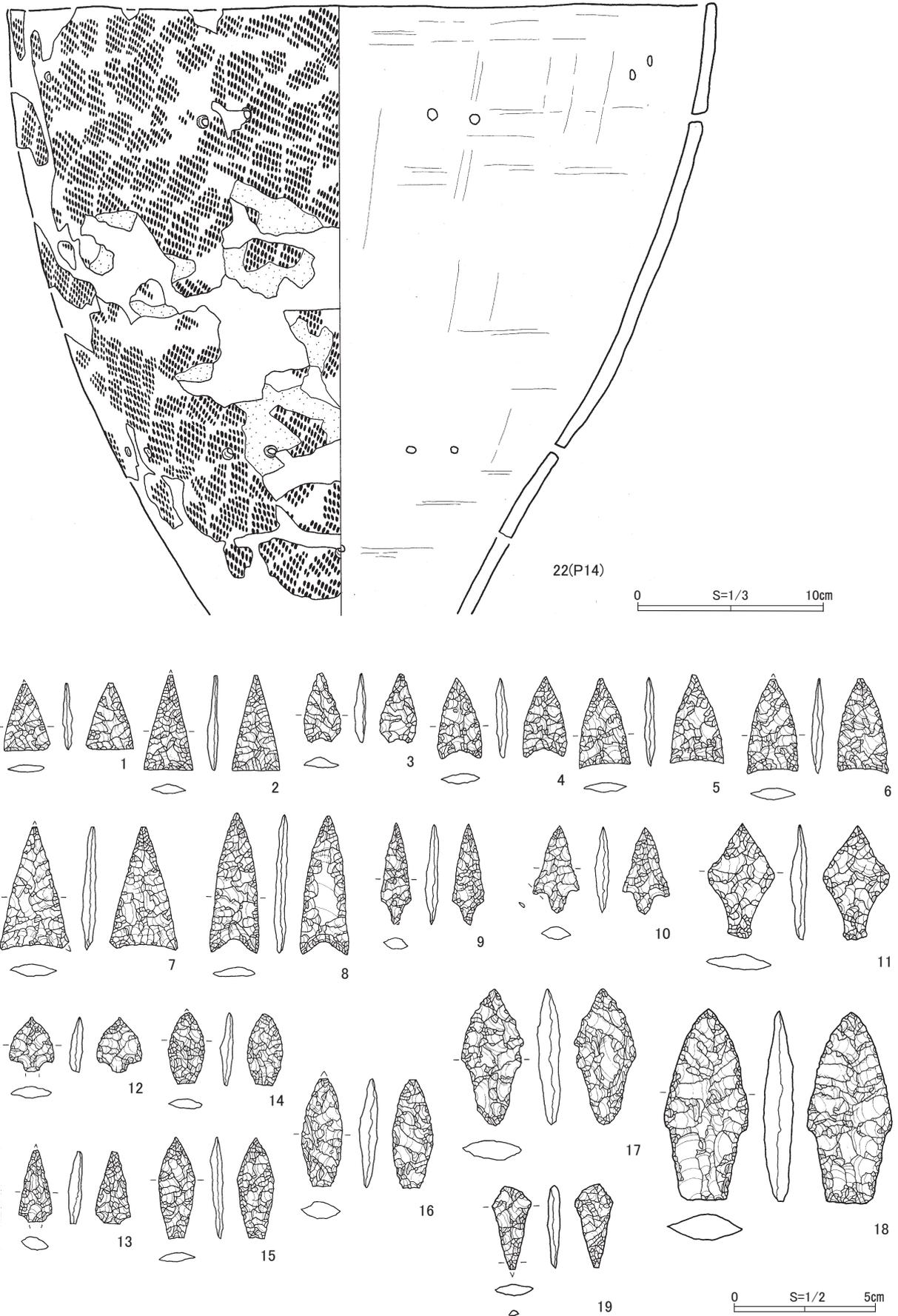
石錘は1点出土のものを掲載した。31は砂岩製で打ち欠きが2か所ある。

台石石皿 (図IV-35-32 図版45)

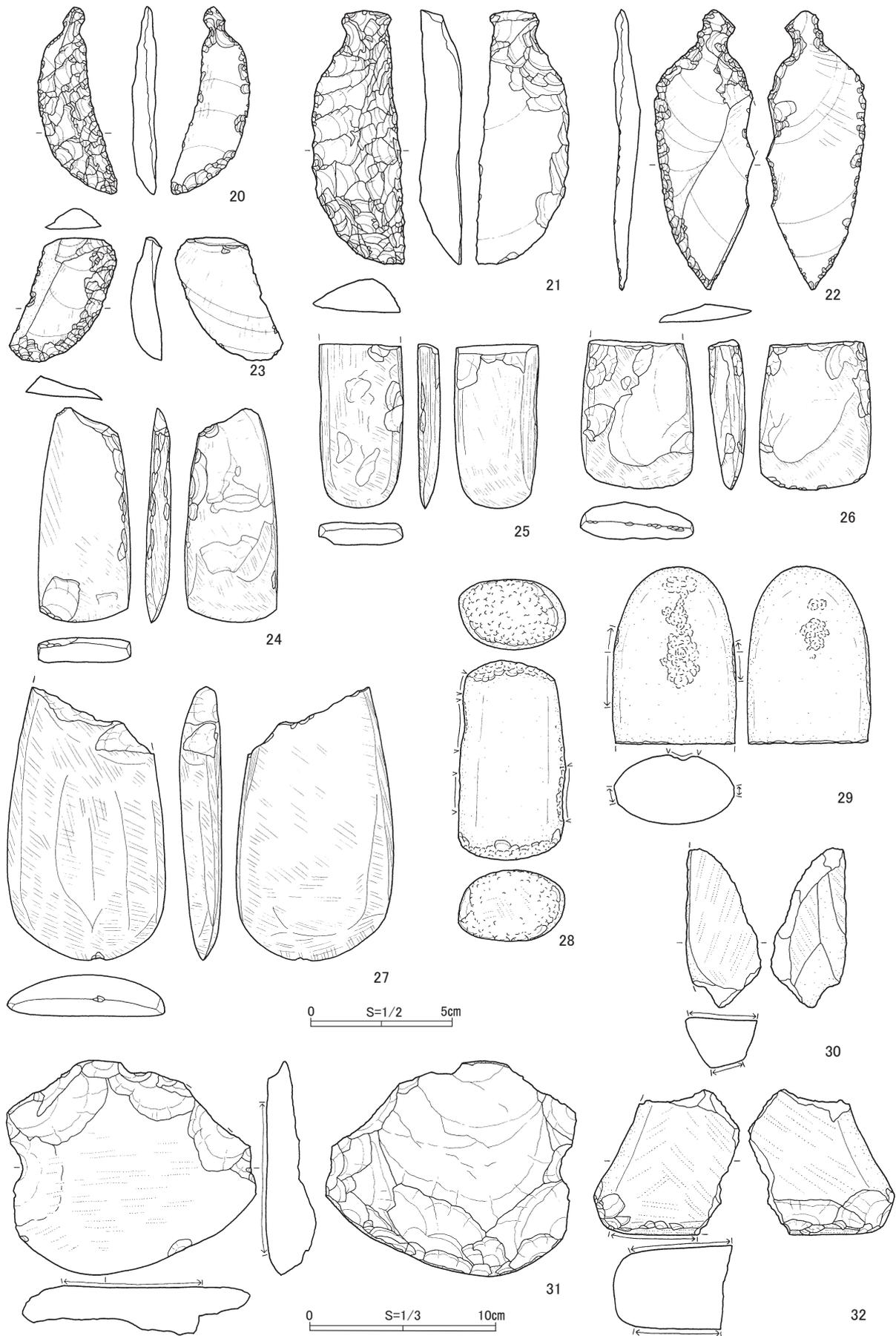
台石石皿は1点出土したものを掲載した。32は安山岩製で、厚さ4cmの板状礫を素材にしたものである。



图IV-33 土器(1)



図IV-34 土器(2) 石器(1)



图IV-35 石器(2)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	重量(g)	部位	表面	内面	胎土 その他	色調 表	色調 裏			
IV-33-1	44-1	TP-26	Q13	覆土上面	IIIb	1	59.8	口縁-突起部破片	(地)LR原体による斜行縄文	貼り付けで横ナデ調整により平滑	小粒の礫を5%	2.5YR6/6	5YR7/6 ~			
		口唇上に貼付紐を組み合わせた山形突起	肥厚した口唇は断面が切り出し状で、半円形の刻み列が4列	口縁下部に横位の貼付紐と+鋸歯状貼付紐が組み合う。横位の貼付紐には鋸歯状の刻みあり。				2.5YR2/1	10YR7/6							
		包含層	P15	II B	3	1	61.2					7.5YR6/3	10YR7/6			
IV-33-2	44-2	包含層	F08	II B	2	II a-2	1	55.3	口縁部破片・口唇に丸味あり	(地)RL原体による斜行縄文	ナデ調整があるが凹凸が残る	細い繊維痕が残る	10YR8/2	10YR6/1		
		包含層	P16	II B	2	III b	1	156.9	口縁-突起部破片突起は三角形を呈した大型のもの	突起部は貼付紐と半円形の刻み列	口縁は緩やかな波状、貼り付けにより肥厚する切り出し状の口唇には、半円形の刻み列と、複節の縄文。(地)複節のRL原体による斜行縄文	口縁調整、口縁部は横ナデによる調整	平滑	極小粒の礫を5%	5YR6/4 ~	5YR5/6 ~
		試掘坑	K27				1						7.5YR4/1			
IV-33-4	44-4	包含層	Q16	II B	2	III b	112.4	口縁-突起部破片突起は2種類の形状、直立する棒状のもの、把手部分のある台形状のものからなる。	貼付紐により肥厚した口唇上はやや平坦で、V字状の刻み列が見られる。(地)LR原体による斜行縄文、口唇直下には数本の横走沈線	棒状の突起下には楕円形の貼り付けが組み合わさる。	縦、横方向の混じったナデ調整平滑だがザラザラしている	極小粒の礫を50%	10YR6/4	10YR6/3		
		包含層	R16	II B	1			2	2.5YR6/6	~	2.5Y2/1					
		包含層	S16	II B	1			2								
		包含層	S17	II B	1			1								
IV-33-5	44-5	包含層	O15	II B	2	III b	1	85.2	口縁-山形突起破片	口縁は平縁	突起は貼り付け紐を組み合わせた山形突起が口唇上につくられる。	貼付により口唇が肥厚、断面形は切り出し状、口唇上に半円形の刻み列。(地)LR原体による斜行縄文。口縁下部に横位の貼付紐と+鋸歯状貼付紐との組み合わせ、横位の貼付紐に半円形の刻み列	横ナデ調整により平滑・一部剥離	小粒の礫が10%	10YR6/4	7.5YR6/6
		包含層	J12	II B	2	III b	1	15.0	口縁部破片	口縁は平縁	貼付により口唇が肥厚、断面形は切り出し状、口唇上に半円形の刻み列	斜め方向のナデ調整	炭化物の付着	極小粒の礫が50%、雲母などの鉱物が目立つ	2.5YR6/6	2.5YR3/1
IV-33-7	44-7	包含層	D07	II B	2	III b	1	41.5	口縁-突起部破片	口縁は平縁	縦位の棒状貼付による突起	突起の貼り付け周囲に半円形の刻み列、(地)不明瞭であるがLR原体による斜行縄文、丸みのある口唇上には半円形の刻み列が施される。	突起部は縦、口縁部は横ナデによる調整、平滑	小粒の礫を20%	10YR5/2	10YR7/6
		包含層	D07	II B	3	III b	1						~	5YR6/6		
IV-33-8	44-8	包含層	T02	II B	1	III b	1	43.3	口縁部付近破片	口縁に突起	菱形に配された貼付紐から垂下した縦位の貼付紐に沈線状の刻み列	(地)RL原体による斜行縄文	縦ナデ調整により平滑	極小粒の礫が5%	10YR6/2	10YR4/2
IV-33-9	44-9	包含層	J11	II B	1	III b	1	44.4	口縁部付近破片	半円形の刻みのある貼付紐が横位に2条、山形に1条見られる。(地)LR原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑	極小~小粒の礫が10%	10YR6/6	5YR6/6 ~		
IV-33-10	44-10	包含層	M12	II B	2	III b	1	37.8	胴部破片	(地)LR原体による斜行縄文	横位の貼付紐と鋸歯状に配された貼付紐との組み合わせ	横位の貼付紐には半円形の刻み列が施される	縦ナデ調整により平滑	小~中粒の礫5%	7.5YR4/3	5YR5/6 ~
IV-33-11	44-11	包含層	M12	II B	2	III b	1	64.2	胴部破片	(地)LR原体による斜行縄文	横位の貼付紐に半円形の刻み列	縦ナデ調整により平滑	小粒の礫が20%	5YR6/6 ~	7.5YR5/4	
		包含層	O15	II B	2	III b	1						10YR4/1	~		
IV-33-12	44-12	包含層	P17	II B	2	III b	1	91.5	胴部破片	(地)LR原体による斜行縄文	縦ナデ調整により平滑	炭化物の付着	小粒の礫が10%	10YR6/4	2.5Y4/2 ~	
		包含層	Q17	II B	2	III b	2						~	5YR6/6		
		包含層	Q18	II B	2	III b	1						10YR4/1	10YR3/2		
IV-33-13	44-13	包含層	R17	II B	2	III b	1	48.2	胴部破片	(地)LR原体による斜行縄文	縦横ナデ調整により平滑・ザラザラ	極小粒礫50%、雲母などの鉱物	10YR6/4	10YR6/3		
		包含層	S16	II B	1		1					2.5YR6/6	~	2.5Y2/1		
IV-33-14	44-14	包含層	J10	II B	1	III b	1	33.8	胴部破片	(地)LR原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑・ザラザラ	極小粒礫50%、雲母などの鉱物	5YR6/6 ~	2.5Y3/2 ~		
		包含層	O15	II B	2	III b	1	58.4	胴部破片	(地)LR原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑・ザラザラ	中~小粒礫10%	5YR7/6 ~	7.5YR7/6		
IV-33-16	44-16	包含層	Q17	II B	1	III b	1	57.5	胴部破片	(地)LR原体による斜行縄文	縦横ナデ調整により平滑	小粒の礫が20%	5YR7/6 ~	7.5YR5/6		
		包含層	U28	II B	1	III b	2	42.8	胴部破片	(地)RL原体による斜行縄文	縦ナデ調整により平滑	小粒の礫が20%	5YR6/6 ~	10YR7/4		
		包含層	U28	II B	上面		1						5YR4/2	10YR5/4		
IV-33-18	44-18	包含層	O14	II B	2	III b	1	22.4	胴部破片	(地)RL原体による斜行縄文	縦ナデ調整により平滑	極小粒の礫10%	7.5YR6/6	7.5YR6/4		
		包含層	L02	II B	2	III b	1	31.4	胴部破片	(地)複節のLR原体による斜行縄文	縦ナデ調整により平滑	極小粒の礫5%	10YR6/6	7.5YR5/3		
		包含層	L07	II B	2		1						~	7.5YR4/2		
IV-33-20	44-20	包含層	R10	II B	2	III b	1	20.6	胴部破片	(地)複節のRL原体による斜行縄文	縦ナデ調整により平滑	極小粒の礫1%	5YR6/6 ~	10YR4/2		
		包含層	T21	II B	1	IV c	4	33.6	口縁部破片	(地)LR原体による斜行縄文・口縁に突瘤文	口縁は波状口縁	横ナデ調整により平滑	炭化物の付着	極小粒の礫5%	10YR7/3	10YR5/3
IV-34-22	44-22	包含層	P14	II B	1	IV c	222	2500.0	口縁~胴下半部分の復元個体	(地)RL原体による斜行縄文	口唇の断面形はやや角形	主に縦ナデ調整による平滑	補修孔が3組	5YR6/6	10YR8/4	
												2.5Y2/1	~	2.5Y3/1		

※(地):地文

表IV-1 掲載土器一覧(A地区)

挿図 番号	図版 番号	グリッド 番号	層位	器種	点数	残存率	形状	剥離調整	石材	色調	他	計測値(cm)+(g)				
												長さ	幅	厚さ	重量	
IV-34-1	45-1	J03	II B	4	石鏃	1	一部欠損(先端) 三角形(1.4:1) 無茎平基 両側縁は直線的	両面全体剥離	透明度の高い、縞状の黒曜石		TA8-1	(2.4)	1.7	0.3	(0.8)	
IV-34-2	45-2	P16	II B	2	石鏃	1	一部欠損(先端) 三角形(2.2:1) 無茎平基 両側縁直線的	両面全体剥離	球顆分散 黒味の強い黒曜石			(3.4)	1.7	0.4	(1.1)	
IV-34-3	45-3	M14	II B	1	石鏃	1	一部欠損(先端) 三角形(1.9:1) 抉りの明瞭な無茎凹基 両側縁外湾	背面全体剥離 腹面に一部素材剥離面	透明度低い、黒味の強い黒曜石			2.5	1.3	0.4	0.9	
IV-34-4	45-4	R01	II B	2	石鏃	1	完形 三角形(1.8:1) 抉りのやや深い無茎凹基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度のやや高い、縞状の黒曜石		TA8-3	2.9	1.6	0.4	1.4	
IV-34-5	45-5	S01	II B	1	石鏃	1	一部欠損(先端) 三角形(1.6:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度の高い灰色の黒曜石			3.2	1.9	0.4	1.5	
IV-34-6	45-6	I10	II B	4	石鏃	1	一部欠損(先端) 三角形(1.8:1) 抉りの浅い無茎凹基 左側縁下部が鋸状	両面全体剥離 左側縁下部に抉り調整	透明度の低い黒味の強い黒曜石 白滝産	石鏃転用	TA8-2	(3.4)	1.8	0.4	(1.9)	
IV-34-7	45-7	R15	II B	3	石鏃	1	一部欠損(先端・右側縁) 大型の三角形(1.8:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁直線的 右側縁上部に欠落あり	両面全体剥離	頁岩	10YR5/1		(4.4)	(2.4)	0.5	(3.3)	
IV-34-8	45-8	G08	II B	1	石鏃	1	一部欠損(先端) 大型の三角形(3:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁が緩やかに外湾	両面ほぼ全体剥離 腹面中央に素材面	頁岩	2.5Y5/1		5.0	1.8	0.4	3.0	
IV-34-9	45-9	P14-15	II B	1	石鏃	1	一部欠損(基部末端) 有茎凸基 尖頭部三角形(1.8:1) 両側縁直線的 基部は末端につれて細くなる	両面全体剥離	透明度低い 球顆分散 黒味の強い黒曜石	一括土器		(3.6)	1.1	0.5	(1.1)	
IV-34-10	45-10	U27	II B	1	石鏃	1	完形 有茎平基 尖頭部三角形(1.4:1) 両側縁直線的、下部で屈折 左側縁基部鋸状 基部末端丸い	両面全体剥離 左側縁基部に抉り調整	球顆多く分散 黒味の強い黒曜石	石鏃転用の可能性		3.1	1.7	0.5	1.2	
IV-34-11	45-11	R16	II B	1	石鏃	1	完形 有茎凸基 全体に菱形 尖頭部 両側縁直線的 基部は末端につれて細く、端部はつまみ状	両面全体剥離	透明度低い 球顆多く分散 黒味の強い黒曜石	尖頭部左側縁に欠落あり		3.6	2.1	0.5	2.4	
IV-34-12	45-12	H09	II B	1	石鏃	1	完形 小型有茎平基 両側縁湾曲 尖頭部小さい 基部は短く、末端は直線的	両面全体剥離	透明度高い 黒色筋状の黒曜石			(2.0)	1.6	0.4	(1.0)	
IV-34-13	45-13	I11	II B	1	石鏃	1	一部欠損(先端基部) 有茎凸基(平基に近い) 尖頭部 三角形(1.7:1) 両側縁直線的	両面全体剥離	透明度高い 黒色縞状の黒曜石			(2.6)	1.3	0.5	1.1	
IV-34-14	45-14	R19	II B	3	石鏃	1	一部欠損(先端) 小型柳葉形平基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度低い 球顆粒小さい黒味の強い黒曜石			(2.6)	1.3	0.4	1.2	
IV-34-15	45-15	L08	II B	1	石鏃	1	完形 中型柳葉形凹基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度やや高い 極小粒球顆分散 少数 灰色筋状の黒曜石	TA8-4		3.6	1.3	0.4	1.5	
IV-34-16	45-16	L03	II B	3	石鏃	1	一部欠損(先端) 中型柳葉形平基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度低い 極小粒球顆分散 少数 黒味の強い黒曜石			(3.9)	1.5	0.6	(2.9)	
IV-34-17	45-17	R22	II B	2	石槍	1	完形 有茎凸基状 尖頭部三角形(1.2:1) 両側縁湾曲 基部は長く幅広、末端は丸い	両面全体剥離	透明度低い 黒味の強い黒曜石	尖頭部右側縁が鋸歯状	白滝産	TA8-5	4.9	2.2	0.8	6.5
IV-34-18	45-18	S13	II B	1	石槍	1	完形 有茎凸基状 尖頭部三角形(1.3:1) 両側縁湾曲 基部直線的、末端につれて細くなる	両面全体剥離	赤褐色の筋が入る黒味の強い黒曜石	白滝産	TA8-5	6.8	3.0	1.0	16.4	
IV-34-19	45-19	U32	II B	1	石鏃	1	一部欠損(基部先端) 逆三角形の底辺側をつまみ部にする 鏃部は細長い	両面全体剥離 鏃部末端付近に抉り調整	透明度低い 黒味の強い黒曜石			(3.0)	1.4	0.5	(1.2)	
IV-35-20	45-20	L06	II B	2	つまみ付きナイフ	1	完形 縦長 ナイフの先端が右向き 左側縁外湾、右側縁内湾 ナイフ先端は尖る 断面形D型 つまみ部はナイフに比して小型、縦長の円形	背面全体の片面加工 腹面周縁の一部剥離 つまみ部は両面粗い剥離で作出	頁岩	7.5YR4/2		6.7	2.8	0.8	9.6	
IV-35-21	45-21	H10	II B	2	つまみ付きナイフ	1	完形 縦長 ナイフの先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 断面形D型 つまみ部は左右に広がる形状 先端は尖る	背面全体の片面加工による 右側縁上部に剥離	頁岩	2.5Y8/2		9.1	3.3	1.5	41.3	
IV-35-22	45-22	R04	d1 上面付近	つまみ付きナイフ	1	完形 縦長 つまみ部に対してナイフが垂直になる 両側縁外湾 先端が尖る つまみ部はナイフに比して小型、やや円形	背部左側縁を剥離調整して刃部作成 腹面周縁の調整はまばら 左側縁下部の欠落部分に剥離あり つまみ部は両面周縁のみ剥離で作出	黒味の強い黒曜石			10.0	(3.5)	0.9	(20.2)		
IV-35-23	45-23	J10	II B	2	スクレイパー	1	完形 縦長剥片素材 右側縁外湾、左側縁直線的	背面右側縁のみ剥離で刃部作成 両面ともに素材剥離面 背面に原石が残る	透明度低い 球顆多い 黒味の強い黒曜石			4.4	3.8	1.0	8.5	
IV-35-24	45-24	R12	II B	2	石斧	1	基部上部に欠損 やや楕円形 刃部内刃、両刃 基部ゆるやかに細くなる	表面は全体に研磨 裏面は剥離痕が残るも全体に研磨 両側面も研磨 稜線明瞭	緑色泥岩	2.5GY5/1	刃部に刃こぼれ状剥離	7.7	3.3	0.9	35.8	
IV-35-25	45-25	G10	II B	1	石斧	1	基部上半欠損 短冊形 刃部内刃、片平刃	表面は剥離痕が残るも全体に研磨 裏面は全体に研磨 両側面も研磨 稜線不明瞭	緑色泥岩	5GY5/1	裏面右側縁に磨り切り痕跡残る	(5.9)	(3.0)	(0.8)	(25.8)	
IV-35-26	45-26	U28	II B	3	石斧	1	2/1、基部上半欠損 短冊形 刃部やや円刃、片平刃に近い	両面剥離痕が広く残るも全体研磨 側面は右側縁にのみ面取り 稜線不明瞭	緑色泥岩	10GY6/1	刃部に数か所の刃こぼれ	5.3	4.0	(1.2)	(37.3)	
IV-35-27	45-27	R14	II B	1	石斧	1	2/3、基部上半欠損 楕円形 刃部内刃、両刃	両面全体研磨、光沢あり 側縁の稜線明瞭	片岩	2.5Y3/2	刃部中央に刃こぼれ	(9.8)	5.6	1.5	(116.5)	
IV-35-28	45-28	T28	II B	1	たたき石	1	完形 棒状礫が素材 断面やや楕円形	長軸両端面に剥離痕と敲打痕 敲打痕のくぼみは不明瞭 両側縁にくぼみの明瞭な敲打痕	緑色泥岩	5GY6/1	石斧未成品の可能性	10.7	5.7	3.8	458.6	
IV-35-29	45-29	C04	II B	2	たたき石	1	2/1~3/2、欠損あり 扁平長楕円礫が素材 断面楕円形	表裏平坦面にくぼみの明瞭な敲打痕	砂岩	5Y4/2		(9.5)	6.6	3.7	(367.9)	
IV-35-30	45-30	R20	II B	2	砥石	1	部分 素材の形状不明、使用面が平坦で2面以上	長軸方向に擦痕	砂岩	10YR5/3		(8.5)	(4.0)	(2.6)	(88.7)	
IV-35-31	45-31	U31	II B	1	石鏃	1	完形 扁平楕円礫が素材 長軸端の2か所打ち欠く	表面は広く平滑な面、上半の周縁を剥離、裏面全体を粗く剥離	砂岩	2.5YR4/2	被熱痕跡あり	11.5	13.3	2.7	432.3	
IV-35-32	45-32	U29	II B	2	台石	1	部分 厚さ4cmの板状礫が素材	表裏側面に平滑な面を形成	安山岩	2.5Y6/2		(7.8)	(7.7)	(4.5)	(391.5)	

※TA8-1ほか 黒曜石原産地分析試料名(表VI-1)

表IV-2 掲載石器一覧(A地区)

第V章 B地区の遺構と遺物

1 概要

(1) 地形 (図V-1・2)

調査区の範囲はJ字状を呈し、南北に延びる細長い尾根筋はほぼ平坦面で、その東側、西側はともに沢へと下る斜面となっている。特に西側は比高約20mの大きな沢に面している。

(2) 遺構 (図V-3～22 図版22～41 表VII-1)

遺構は盛土遺構2か所、土坑13基、Tピット21基、焼土1か所、遺物集中6か所、掘り上げ土6か所、炭化物集中2か所である。その分布は尾根筋の平坦面上に多く、特に西側斜面上部に集中する。その一方で東側の緩斜面には盛土遺構(M-1)が広がる。

盛土遺構は2か所で、調査区東側に広がるM-1が主体である。M-2は調査区西側斜面部に立地し、調査時は遺物集中として扱ったが、整理段階で堆積と遺物出土状況を考慮し、盛土遺構と判断した。時期はいずれも縄文前期前半(静内中野式相当)である。

土坑13基はいずれも調査区西側斜面部の標高45～46mに立地し、殆どが円形で直径1m、深さ50cmという特徴がある。覆土の堆積は自然堆積のものと、人為性の明瞭なものに分けられる。遺物を伴うものも少ないが、時期は縄文前期前半か縄文中期後半のものと考えられる。

Tピット21基は調査区全体に分布するも、主に尾根筋の平坦面から緩斜面かけて多くみられる。A地区同様に単独で存在するよりも、二つ一組か、複数が集中するものが多いことも特徴である。また、重複するものも1か所見られた。時期は縄文中期後半のものと考えられる。

焼土は1か所のみで、A地区も含めて不明瞭な焼土が多い中で唯一明瞭なものである。遺物を伴わないが、年代測定で縄文晩期との結果が出ている。

遺物集中は6か所で、内容は剥片・つまみ付きナイフ・石斧・礫・土器で、調査区中央部、12m四方の範囲に集中している。時期は縄文前期前半と後期後半のものがある。

掘り上げ土は6か所で、伴う遺構が不明なもの、または複数のものを対象にした。分布は調査区北側、平坦面上に多く、同様に集中している。Tピット群に伴うものと考えられる。また中でも最大のDU-5は、遺物集中や土坑群との関係も想像される。時期はTピットとの関係があるものは縄文中期後半と考えられる。

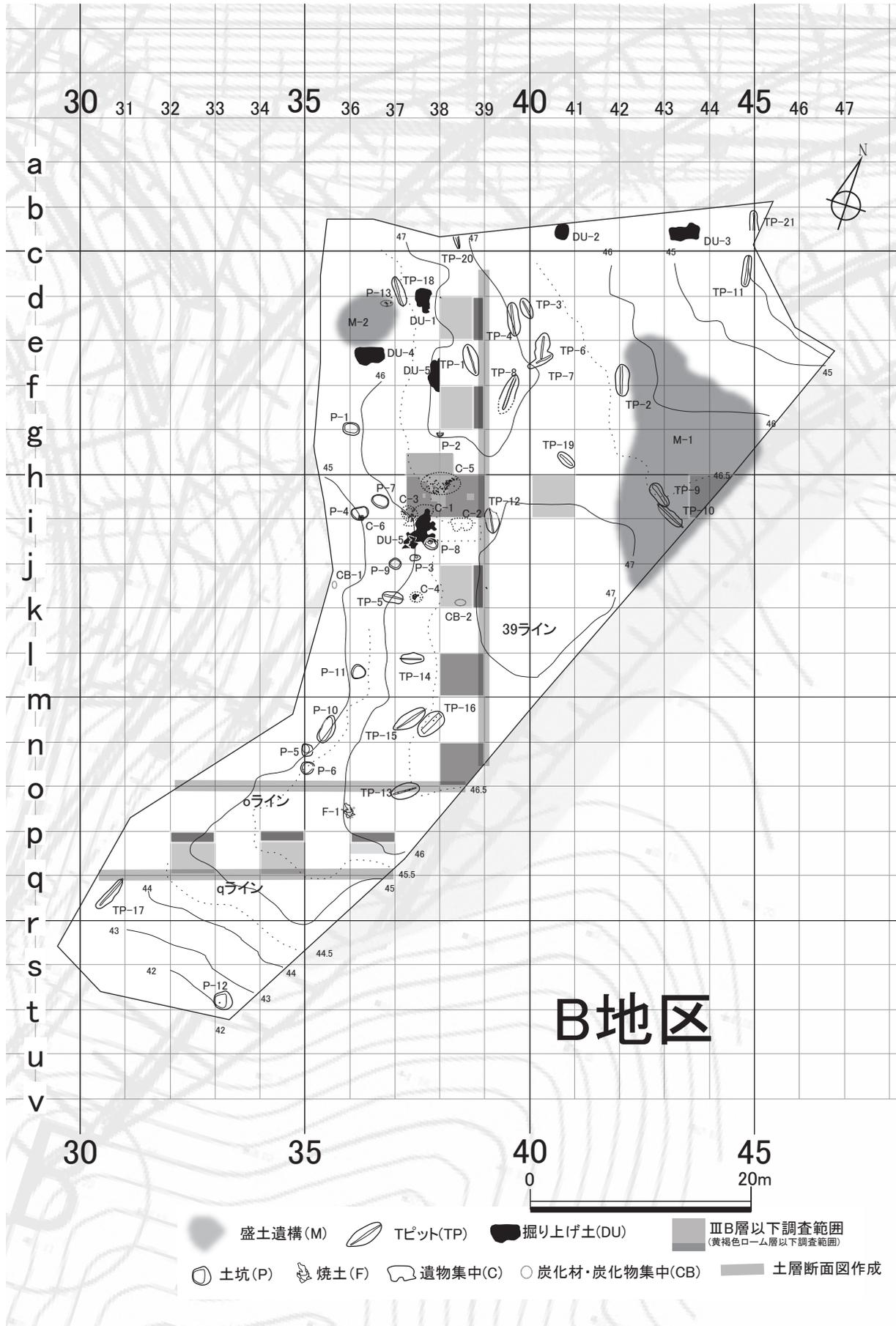
炭化物集中は規模の小さいものが調査区中央部の2か所で確認された。いずれも形状がはっきりした炭化材を含むもので、時期は縄文時代後～晩期と考えられる。

(3) 遺物 (図V-25～43 図版46～54)

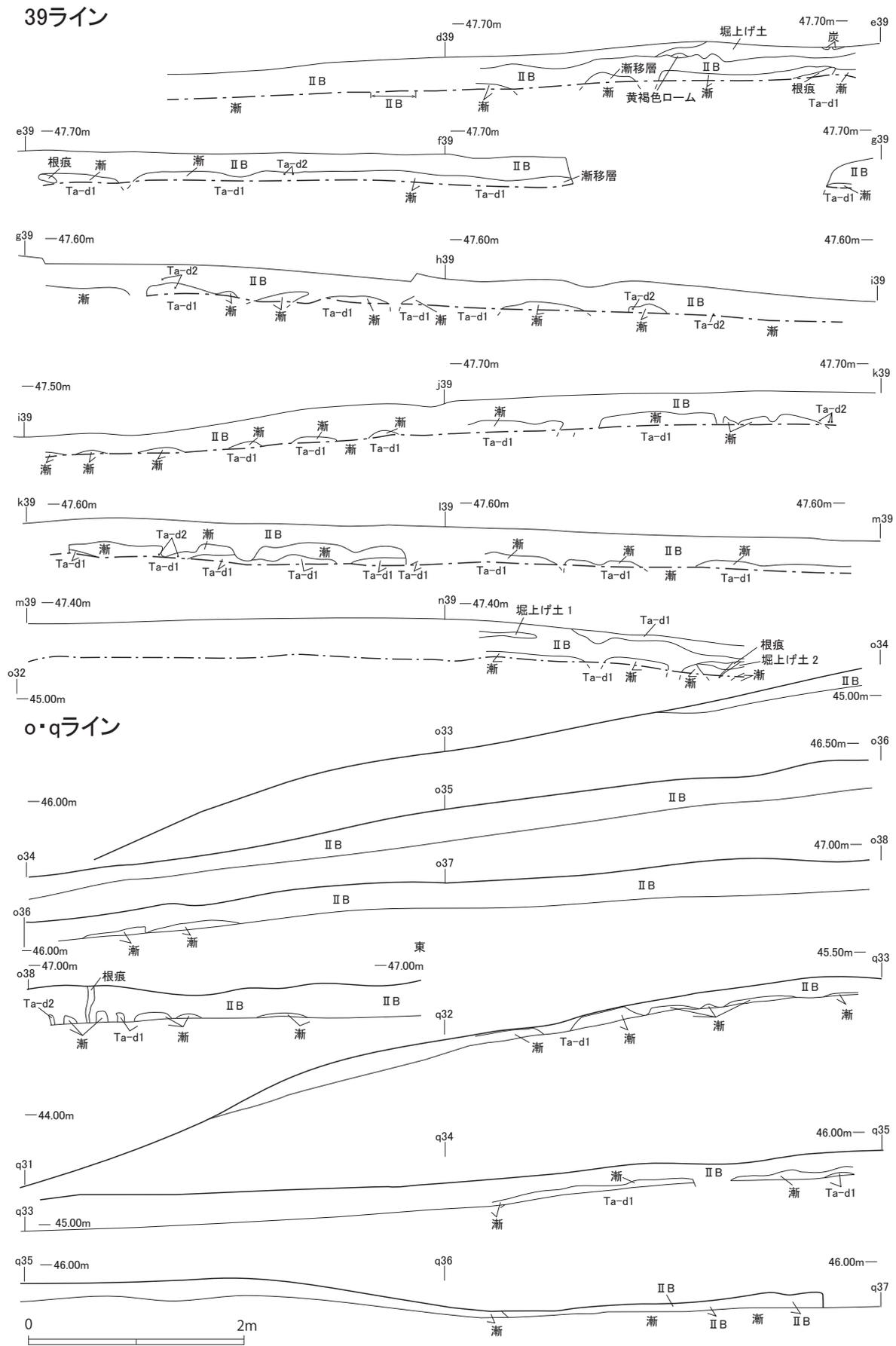
遺物は総点数が26,446点で、土器が2,151点、石器が20,426点、礫が3,869点である。

土器は盛土遺構を主とする遺構出土が618点、包含層出土が1,533点である。土器は縄文前期前半(Ⅱa-2類)が1,234点、縄文中期後半(Ⅲb類)が909点で、前期が圧倒的に多い。また、他の時期のものはまったく見られなかった。

石器は遺構出土が19,060点、包含層が1,366点で、C-1・2の剥片集中出土のものも多く含まれる。石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・篋状石器・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・原石・石核・石斧・たたき石・すり石・石錘・扁平打製石器・砥石・台石石皿・加工痕のある礫・石製品が出土した。特に石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・石斧・石錘・砥石が多く見られるのが特徴である。



図V-1 B地区遺構位置図



図V-2 土層断面図

礫は遺構出土が1,052点、包含層出土が2,817点で盛土遺構やC-4 礫集中出土のものが多く含まれる。礫には、角礫や円礫等の形状、完形・礫片等の残存状態など様々であるが、円礫または扁平円礫の礫・礫片が約6割を占めるのが特徴である。

石材には安山岩・珪岩・頁岩・砂岩・泥岩・片岩・片麻岩・チャート・凝灰岩などがあり、安山岩・砂岩・泥岩・片麻岩が多いのも特徴で、遺跡近辺には見られない片麻岩などは遠方から持ち込まれた可能性も考えられる。

(4) ⅢB層調査 (図V-23・24 図版42・43)

ⅡB層の調査後に、ⅢB層の調査を尾根筋上の頂部にあたるグリッド38ライン、hライン、pラインに沿ったd38、f38、g37・38、h37・38・40・43・44、j38、l38、n38、p32、p34・37の15か所のグリッドで行った。黄褐色ローム層上で柱穴状小ピット7か所と、径4mに及ぶ炭化物集中を確認した。遺物は出土していない。炭化物の年代測定により縄文草創期～早期にかけてのものと結果が出た(表VI-1)。

2 遺構

(1) 盛土遺構 (M)

M-1 (図V-3・4 図版24～26)

位置：e42～44、f42～45、g42～45、h41～44、i41～43、j42・43区 調査区北東部に位置し、標高46.5～47mの緩斜面上に立地する。範囲内にはTP-2・9・10があり、M-2とした盛土遺構は20m西にある。

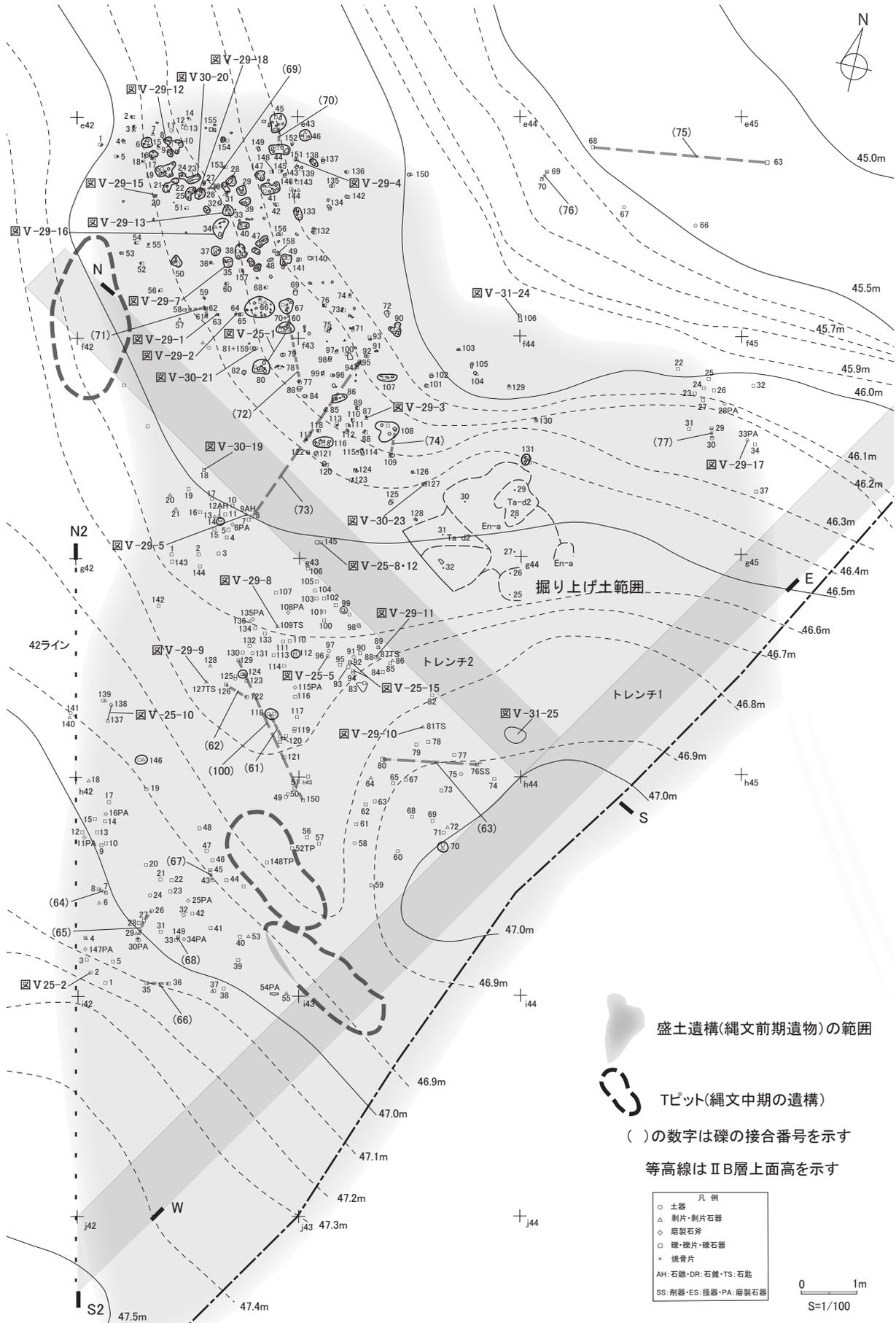
規模：確認面6.40×5.20 最大厚0.15m 平面形態：e42を頂点にした楕円形の上半部分

特徴：【確認】重機による表土除去後、調査区南側のTa-bからⅡB層までの高さ約3m土層断面にh44杭を頂点にした高まりが見られた。また、ⅡB層上面の精査後にも、ⅡB層面が北から南のh44杭に向かって緩やかに高まる様子も明らかになった。これにより本来の地形とは異なる堆積層が広範囲に存在することが想定された。

【調査】想定された範囲を対象に、ほぼ調査区壁に沿った北東から南西に延びるトレンチ(1)と、これに直交する北西から南東方向に延びるトレンチ(2)を設定して掘り下げた。トレンチ(1)では最も標高の高いh44杭周辺に、二次堆積層と思われる混土層が確認できた。その南西側はTP-10を中心に大きく落ち込み、混土層も途切れていたが、更に南西側では緩やかに高くなり、混土層も確認することができた。トレンチ(2)ではh44杭周辺から北に向かって緩やかに下る、二次堆積層が確認された。43列からf列にかけての間で不明瞭になり、f列より北側はTP-2の構築によって完全に失われている。また41ラインの土層断面では、j42からi42周辺にかけて二次堆積層が確認された。これらのことからⅡB層上面で確認された高まりは、ほぼ二次堆積層によるものと考えられ、低く落ち込む北西と南西側は、Tピット構築時に盛土遺構を壊して掘り込まれた結果であると思われた。トレンチ等土層断面の確認後、本体の掘り下げを行ったところ、広範囲な遺物の集中出土が見られた。遺物は位置を記録し取り上げた。

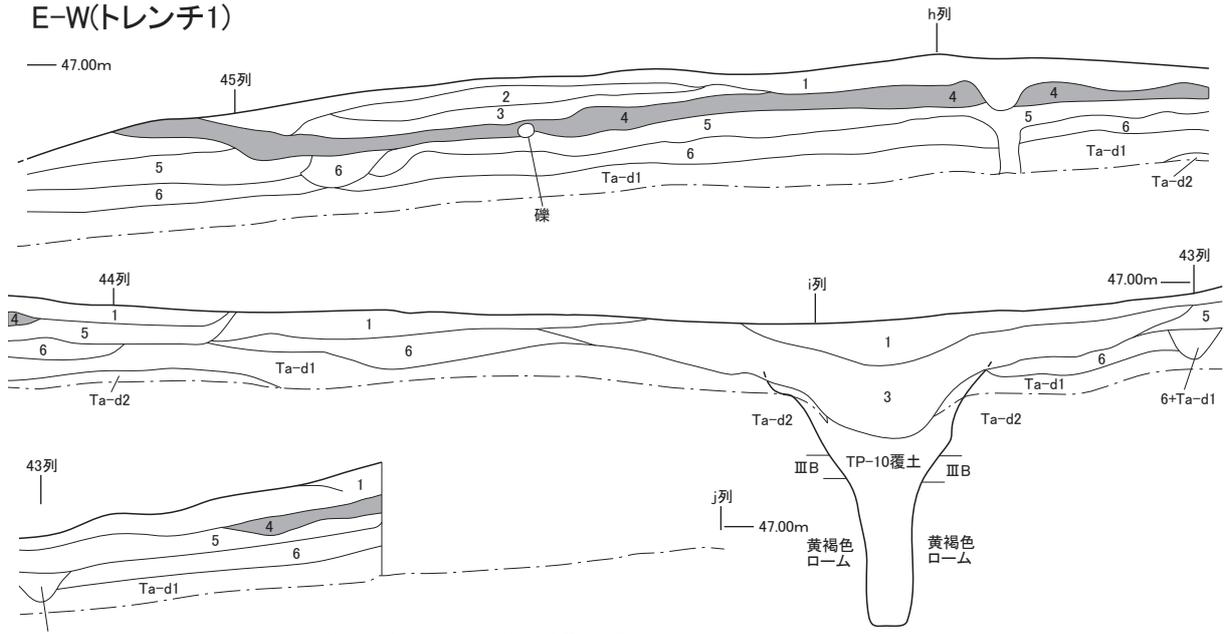
【堆積】盛土遺構の主体はTa-d1・Ta-d2粒子が混じる灰黄褐色の混土層である。炭化物や焼土は少ないが小、中礫の混入は目立つ。層厚は最も厚いh44杭周辺で8～12cmであるが端部でもあまり変化はない。混土層の上層は褐灰色土または黒色土で、下層は南側、南西側では黒褐色土、北側では黄灰色土になる。北側に向かうにつれて下限は不明瞭になる。

【範囲】遺物の分布と二次堆積層の位置から考えられる盛土遺構の範囲は、e42・e43方眼杭を結んだ線を北端とし、g45を東端、j42を西端とする三つを結んだ三角形に相当する。北側のTP-2、南西側



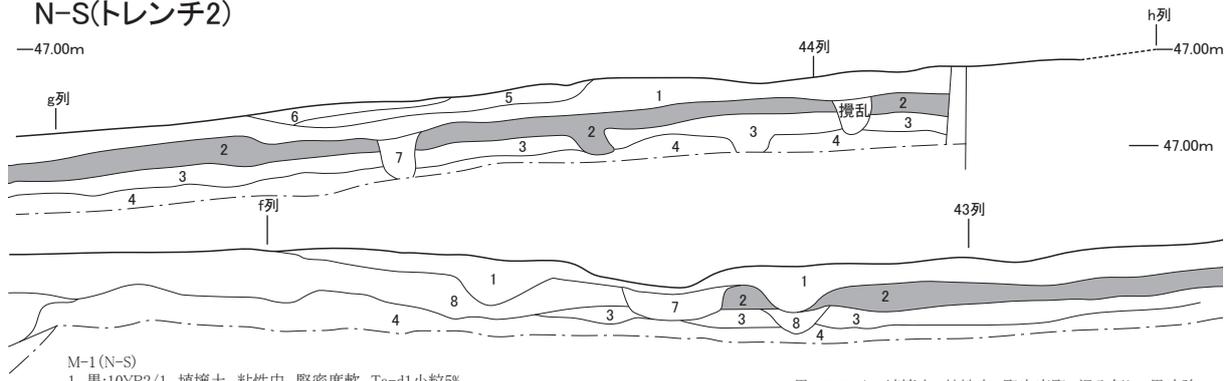
図V-3 盛土遺構(1) M-1範囲及び遺物出土分布図

E-W(トレンチ1)



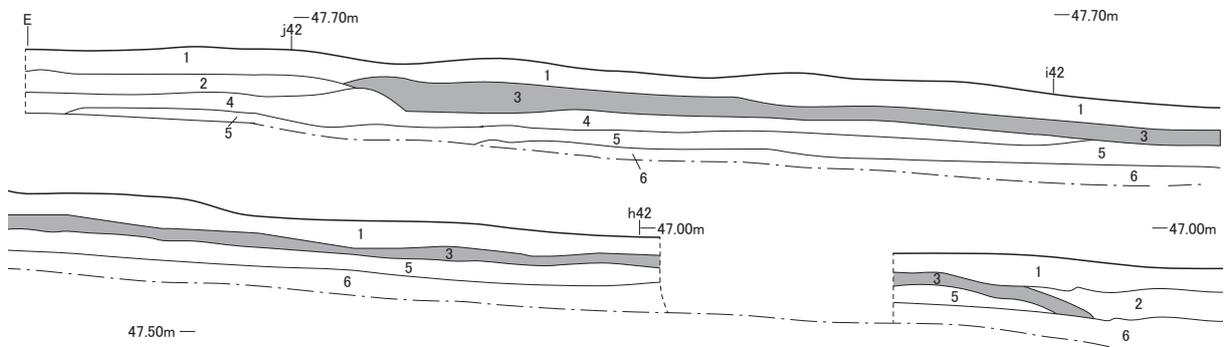
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒2% 均質 II B層
- 2 にぶい黄橙:10YR6/3 埴壤土 粘性強 堅密度軟 Ta-d1小粒1% Ta-d2中塊2% 黄褐色ローム小塊40% 混土 なんらかの遺構の堀上げ土
- 3 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒15% 均質 II B層
- 4 灰黄褐:10YR4/2 埴壤土 粘性強 堅密度軟 Ta-d1小粒40% Ta-d2小塊3%中粒2% 礫を数点含む 混土 盛土層に相当
- 5 黄灰:2.5Y4/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒7% 均質 6 褐灰:10YR5/1 埴壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d1小~中粒50%

N-S(トレンチ2)



- M-1(N-S)
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒5%
 - 2 灰黄褐:10YR6/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒10%大粒3% Ta-d2中粒3% 混土 盛土1層
 - 3 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒2%全体に混じる Ta-d2粒ほとんど混じらない
 - 4 にぶい黄橙:10YR6/3 埴壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d1粒占める 漸移層
 - 5 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2塊粒子混じる なんらかの遺構の掘り上げ土
 - 6 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 混入無し 黒味強い
 - 7 褐:10YR4/4 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒5%
 - 8 灰黄褐:10YR5/2 埴壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d1小~中粒20% Ta-d2小粒3%
 - 9 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒3% 混入少ない

42ライン



- 1 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅 Ta-d1中粒3%
- 2 灰黄褐:10YR5/2 埴壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1中~大粒10%
- 3 灰褐:7.5YR4/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小~中粒5% Ta-d2中粒3% 礫・焼土粒を部分的に含む(盛土層に相当)
- 4 褐灰:10YR5/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小~中粒7% Ta-d2小粒1%
- 5 にぶい黄橙:10YR6/3 埴壤土 粘性弱 堅密度軟~堅 Ta-d1小粒3%
- 6 褐:10YR4/4 埴壤土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d1主体 Ta-d2中粒10%混じる



図V-4 盛土遺構(2) M-1土層断面図

のTP-9・10は盛土遺構を壊して構築され、周囲の地形にも影響が見られる。盛土遺構は、より標高の高い南東方向に続く可能性は強く、主体部分が調査区外に存在することも考えられる。

付属遺構：g44杭を囲むように径1mの範囲でTa-d2、黄褐色ロームを含む混土の堆積が見られた。当初盛土遺構に伴うものと考えたが、調査後に何らかの遺構の掘り上げ土と判断した。トレンチ(1)のh44周辺にも、盛土遺構よりも上層に混土の堆積が見られたが、これも同じ性格のものとして判断した。
遺物出土状況：遺物は931点出土した。分布状況では3か所で遺物の集中が見られた。1つは最も密度の高い集中で、盛土遺構の北端にあたるe42区からf43区にかけてである。2つは中央部のg42・43区からh43区にかけての集中である。3つは両端にあたるh42区周辺で密度は最も低い。

遺物は土器が137点で、全て縄文前期前半(Ⅱa-2類)の小破片である。石器は150点で、石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・剥片・たたき石・すり石・石錘・台石石皿などがあり、特に石斧・たたき石が多い。礫は644点と最も多く、安山岩・珩岩・砂岩・片麻岩などの円礫、扁平礫が多く見られた。出土地点が特定できる礫については18件が接合した(図V-3)。接合位置関係は3～50cm間が多いが、2～4m間の接合も4件見られた。石材は珩岩、砂岩、片麻岩である。

時期：出土遺物から縄文前期前半(Ⅱa-2類)で静内中野式期に相当すると考えられる。

掲載遺物：図V-25-1～14は縄文前期前半の土器である。図V-29-1～6が石鏃、7が石槍、8～13がつまみ付きナイフ(石匙)、14・15がスクレイパー、16～18が石斧・石斧未成品、図V-30-19がたたき石、20がすり石、21が砥石、22が石錘、23が台石石皿、図V-31-24が加工痕のある礫、25が台石石皿である。
(藤井)

M-2 (図V-5 図版27)

位置：c36、d35・36、e35・36区 調査区北西部に位置し、標高45～46mの急斜面上に立地する。範囲内にP-13を含み、北東にTP-18、南にDU-4と近接する東3mにDU-1がある。

規模：確認面4.00×3.00 最大深さ(0.20)m **平面形態：**北東から南西を長軸にする楕円形

特徴：【確認】d35・36の包含層調査で、ⅡB層の3、4、5回目の掘り下げ時に遺物の集中が見られた。集中の範囲はd35・36区とc36、e35・36区のごく一部にのみで、きわめて限定的な出土分布であった。【調査】調査時は斜面堆積の影響による特殊な遺物出土状況と把握、遺物集中として記録した。dグリッドラインに土層ベルトを残して、断面の観察と並行して掘り下げを行った。

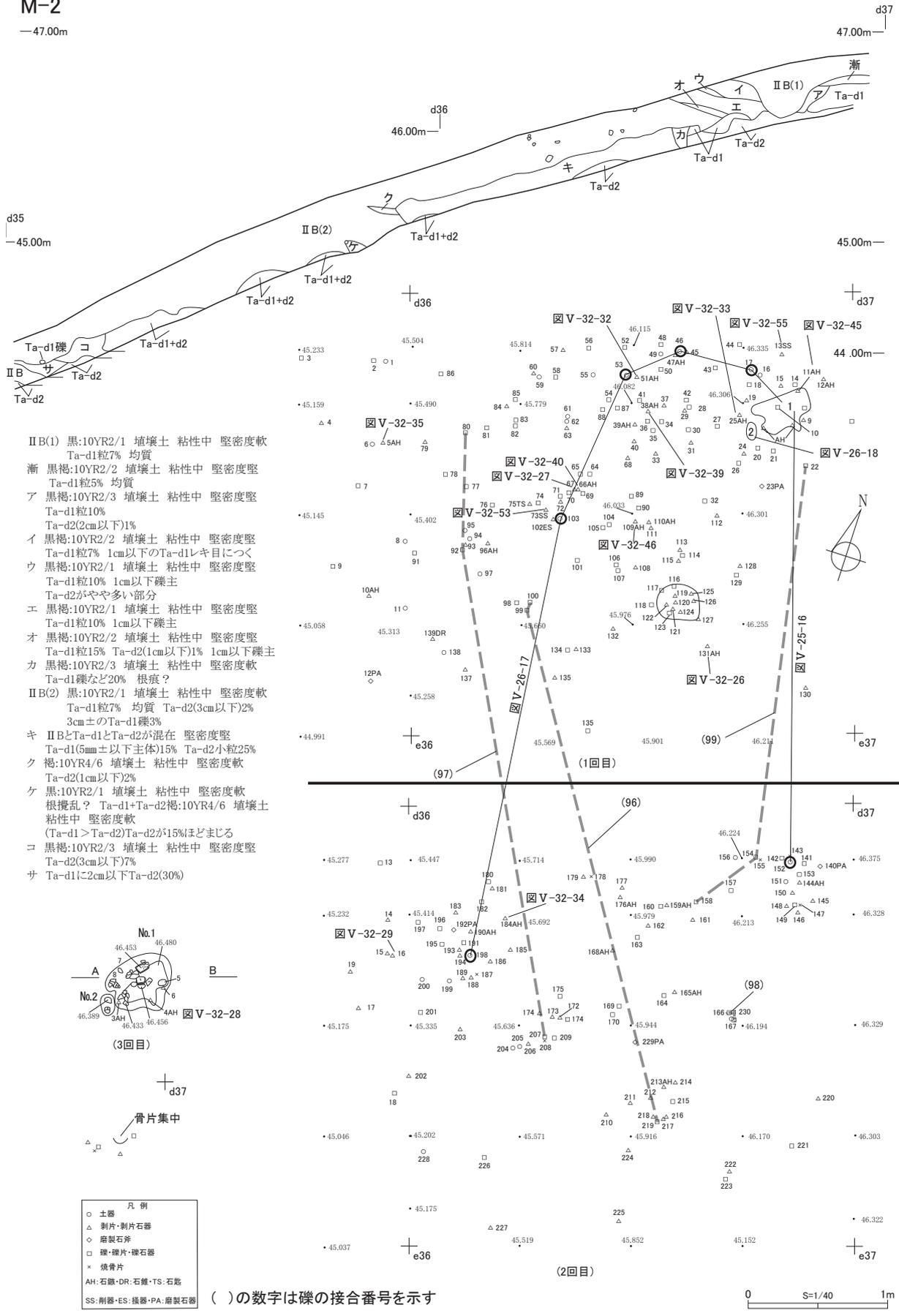
整理事業時にあらためて遺物の分布と層位との関連を確認したところ、黒色土とTa-d1・d2との混土層がⅡB層の下層にあり、遺物分布と重なることが判明した。さらに出土土器はⅡa-2類であり、石器の器種構成もM-1に共通することから、盛土遺構の一部と判断し、M-2とした。

【堆積】遺物の集中と重なったのは断面図(図V-5)の「キ」にあたる混土層で、これを盛土遺構の一部とした。混土層の層厚は20～30cm程で黒色土にTa-d1・d2粒子が混じった再堆積層である。比高差約1mの斜面にほぼ同じ層厚で、上から下へ約4.5mの範囲に堆積が見られる。

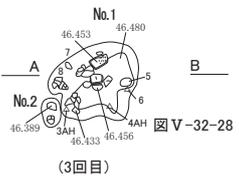
付属遺構：土坑P-13が範囲内にあり、関連が深いと思われる。また骨片集中や土器集中なども伴う。

遺物出土状況：747点をM-2に伴う遺物とした。主に同範囲のグリッド内、ⅡB層3～5回目出土の遺物が対象である。土器は247点でM-1(137点)より多い。すべて縄文前期前半のⅡa-2類である。石器は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・石斧・たたき石・すり石・石錘・砥石・台石石皿が出土した。中でも石鏃44点、石錐11点、つまみ付きナイフ10点、石錘7点の出土が目立つ。礫は266点で安山岩が最も多く、珩岩・砂岩・片麻岩が目立つ。また扁平円礫が多く含まれる。出土位置が特定できる礫については4件が接合した。砂岩、片麻

M-2
—47.00m



- II B(1) 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟
Ta-d1粒7% 均質
- 漸 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒5% 均質
- ア 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒10%
Ta-d2(2cm以下)1%
- イ 黒褐:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒7% 1cm以下のTa-d1レキ目につく
- ウ 黒褐:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒10% 1cm以下礫主
Ta-d2がやや多い部分
- エ 黒褐:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒10% 1cm以下礫主
- オ 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒15% Ta-d2(1cm以下)1% 1cm以下礫主
- カ 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟
Ta-d1礫など20% 根痕?
- II B(2) 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟
Ta-d1粒7% 均質 Ta-d2(3cm以下)2%
3cm±のTa-d1礫3%
- キ II BとTa-d1とTa-d2が混在 堅密度堅
Ta-d1(5mm±以下主体)15% Ta-d2小粒25%
- ク 褐:10YR4/6 埴壤土 粘性中 堅密度軟
Ta-d2(1cm以下)2%
- ケ 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟
根攪乱? Ta-d1+Ta-d2褐:10YR4/6 埴壤土
粘性中 堅密度軟
(Ta-d1 > Ta-d2)Ta-d2が15%ほどまじる
- コ 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅
Ta-d2(3cm以下)7%
- サ Ta-d1に2cm以下Ta-d2(30%)



凡例	
○	土器
△	剥片・剥片石器
◇	磨製石斧
□	礫・礫片・礫石器
×	焼骨片
AH	石鏃・DR
TS	石匙
SS	削器・ES
PA	磨製石鏃

()の数字は礫の接合番号を示す

図V-5 盛土遺構(3) M-2

岩、安山岩、チャートが3点ずつ接合した。いずれも10～50cmほど離れた接合であるが、掘り下げ1回目と2回目のものが接合している。

時期：出土土器から縄文前期前半（Ⅱa-2類）で静内中野式期に相当すると考えられる。

掲載遺物：図V-25-16、25-17・18がM-2出土の土器である。いずれも縄文前期前半、Ⅱa-2類に相当し、深鉢の口縁部破片である。

図V-32-26～33-56がM-2出土の石器である。26～35は石鏃、36が石槍、37～47が石錐、48～52がつまみ付きナイフ、53～56がスクレイパーである。（藤井・山中）

（2）土坑（P）

P-1（図V-6 図版28-1・2）

位置：f35・36、g35・36区 調査区北部西壁寄り、標高約45.5～46mの緩斜面上部に立地する。近接する遺構はなく、南東約7mにP-7、北約8mに掘り上げ土DU-4がある。

規模：確認面1.52×1.12 底面1.20×0.72 最大深さ0.66m 平面形態：楕円形（東西方向に長軸）

特徴：【確認】斜面部包含層確認のためのトレンチ土層断面にTa-d2を掘り込む黒褐色土層を検出した。周辺をTa-d2上面まで掘り下げたところ不明瞭ながらも黒褐色土の円形範囲を確認した。【調査】土層断面をたよりに、トレンチで検出した底面から壁面の検出を行った。【堆積】ⅡB層の黒褐色土が大きく落ち込み、その下の褐灰色土が覆土の主体である。底面直上にはTa-d2との混土が堆積する。

【壁・底面】底面は平坦で、壁は直立するところと緩やかな立ち上がりのところがある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構と遺物から縄文時代前期の可能性がある。（藤井）

P-2（図V-7 図版28-3・4）

位置：g37・38区 調査区北部中央付近、標高約47mの尾根筋上の平坦面に立地する。近接する遺構はなく、南4mに遺物集中C-5、北4mに掘り上げ土DU-5がある。

規模：確認面(0.64)×0.56 底面(0.40)×0.40 最大深さ0.45m 平面形態：円形

特徴：【確認】Ta-d1上面まで掘り下げたところで円形をした黒褐色土の広がりを検出した。北半分にトレンチを設定して掘り下げたところ、Ta-d2を掘り込む土層断面を確認した。【調査】トレンチで確認した底面から壁面の検出を行った。【堆積】ⅡB層由来の黒褐色土が覆土の主体で、Ta-d1・d2を少量含む均質な土である。【壁・底面】底面から壁にかけて緩やかに立ち上がる皿状の土坑である。底は中央が少し落ち込み、尖底状になる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構と遺物から縄文時代前期の可能性がある。（藤井）

P-3（図V-6 図版28-5・6）

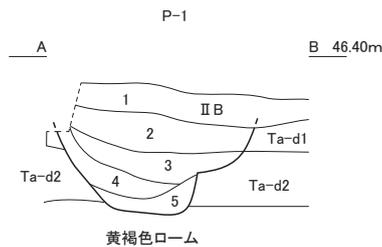
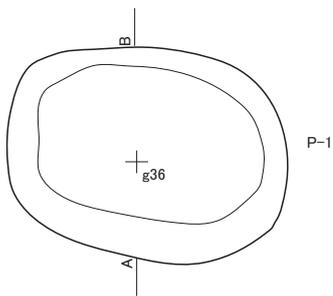
位置：i37区 調査区中央部、標高46mの緩斜面上部に立地する。北に掘り上げ土DU-5、北東にP-8、西にP-9、南に遺物集中C-4と近接する。

規模：確認面0.72×0.53 底面0.26×0.22 最大深さ0.40m 平面形態：南北を長軸にした不整楕円形

特徴：【確認】ⅡB層下部で楕円形をした黒褐色土の範囲を検出した。範囲が明瞭でなかったため北半分にトレンチを設定し、掘り下げたところTa-d2を掘り込む底面を確認し、土坑と判断した。

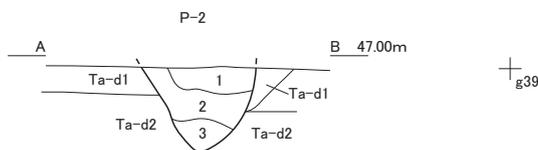
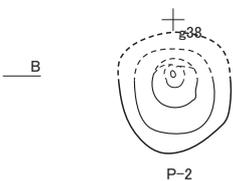
【調査】トレンチで検出した底面から壁の立ち上がりを検出した。【堆積】黒味の強い褐灰色土が覆

P-1



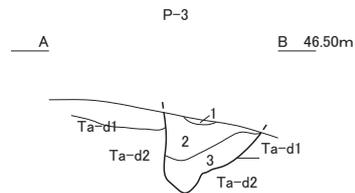
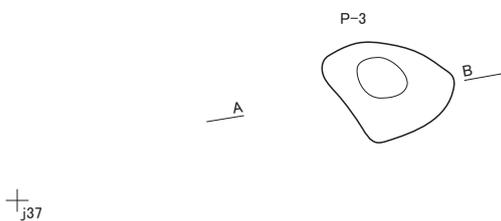
- P-1
- 1 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10%
 - 2 灰褐:10YR6/1 埴壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒10% Ta-d2小粒5%
 - 3 褐灰:10YR7/1 埴壤土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d2中塊3%
 - 4 褐灰:10YR5/1 埴壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒3% Ta-d2小粒1%
 - 5 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2小粒10%と中塊30%の混土

P-2



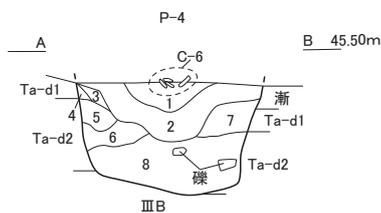
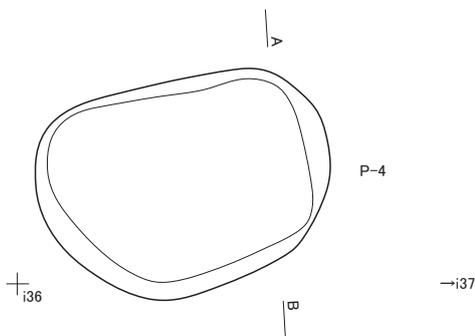
- P-2
- 1 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒1%
 - 2 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小粒10% Ta-d2小塊1% 小礫1%
 - 3 褐灰:10YR5/1 壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d1小粒5% Ta-d2中塊5%

P-3



- P-3
- 1 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2細粒3%
 - 2 褐灰:10YR6/1 埴壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小粒5%の混土
 - 3 褐灰:10YR5/1 埴壤土 粘性なし 堅密度しよう Ta-d1小粒1%とTa-d2小粒2%の混土

P-4



- P-4
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒5%均質 Ta-d2(1cm以下)2% II B層相当
 - 2 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm±)10%均質 Ta-d2(2cm以下)3%均質
 - 3 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1(5mm±)7%均質 Ta-d2(2cm程度)1%
 - 4 暗褐:10YR3/3 壤土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1細粒50% Ta-d2(2cm程度)2%
 - 5 赤褐:5YR4/8 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2主体
 - 6 黒褐:10YR2/2 壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(1cm以下)7%均質 Ta-d2(2cm以下)5%均質
 - 7 暗褐:10YR3/3 壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(5mm以下)15%均質 Ta-d2(4cm以下)10%均質
 - 8 暗褐:10YR3/3 壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm以下)15%均質 Ta-d2(7cm以下)50%均質

図V-6 土坑 (1) P-1・2・3・4

土の主体で、混入の少ない均質な土である。【壁・底面】底面は平坦面がなく凹凸が多い。壁の立ち上がりは概して急である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。（藤井）

P-4（図V-6 図版28-7・8）

位置：h36、i36区 調査区中央部西壁寄り、標高45mの緩斜面途中に立地する。遺物（石斧）集中C-6が上面に重複し、東にP-7と近接する。

規模：確認面1.54×1.07 底面1.36×0.94 最大深さ0.59m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。黒色土の中央には、石斧素材とみられる緑色泥岩の集中がある。【調査】石斧素材の集積から西側の黒色土を掘り下げたところ、Ta-d2や黒色土の混在する土層が現れた。それを除去すると底面や垂直に近い壁が検出されたので、規模・形状から土坑と判断した。なお、確認面の石斧素材は、埋没過程で生じたくぼみに集積されており、本土坑に伴うものではない。【堆積】1・2層はⅡB層を主体とし、3・4層はTa-d1の流入である。5層以下は埋め戻された可能性があり、5層はTa-d2を主体とし、6～8層はTa-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。【壁・底面】壁は垂直に近い。底面はⅢB層中につくられ、地形の傾斜に沿って西側へ傾く。なお、8層と自然層の区別がつきにくかったため、底面のⅢB層を掘り抜いてしまった部分が多い。

遺物出土状況：確認面で石斧素材6点が集中していた（C-6で詳述）。覆土上層の黒色土中に砥石1点が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半もしくは中期後半の可能性がある。

掲載遺物：覆土上層出土の砥石1点を掲載した。（図V-33-57 図版50）（藤井・山中）

P-5（図V-7 図版29-1・2）

位置：n34・35区 調査区南部西側、標高45mの斜面上に立地する。南側斜面上部にP-6と近接し、北東にP-10と近接する。

規模：確認面1.20×1.06 底面0.76×0.62 最大深さ0.56m 平面形態：円形に近い

特徴：【確認】斜面堆積調査のために掘り下げたトレンチ内で確認された。黒褐色土とTa-d2、黄褐色ロームとの混土の堆積が円形に広がり、断面とともに確認された。【調査】トレンチ内を掘り下げて、底面と壁の立ち上がりを検出した後、全体を掘り上げた。【堆積】上層に均質な黒褐色土、中～下層には大粒のTa-d2からなる混土が堆積し覆土の主体となる。【壁・底面】底面は黄褐色ロームを掘り込み、やや凹凸がある。壁は斜面下部が直立し、上部が緩やかである。

遺物出土状況：覆土中から頁岩製のUフレイクが1点出土した。

時期：周辺の遺構、遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。

掲載遺物：上記Uフレイクを掲載した（図V-33-58 図版50）。メノウ質頁岩製である。（藤井）

P-6（図V-7 図版29-3・4）

位置：n34・35区 調査区南西寄り、標高45.5mの斜面上に立地する。北側斜面下部のP-5と近接し、北東3mにP-10がある。

規模：確認面1.24×1.12 底面0.95×0.92 最大深さ0.60m 平面形態：ほぼ円形である。

特徴：【確認】斜面堆積調査のためのトレンチを掘り下げたところ、断面と黒褐色土の円形範囲を確認した。【調査】トレンチ内を掘り進め、黄褐色ローム層中に底面を確認し、壁面を精査した後、全体を掘り上げた。【堆積】上層に均質な黒褐色土、中～下層には大～中粒のTa-d2ブロックを多く含む混土が堆積し、覆土の主体となる。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込む丸底が底面で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から頁岩製のつまみ付きナイフが1点出土した。

時期：周辺の遺構、遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。

掲載遺物：つまみ付きナイフ1点を掲載した。(図V-33-59 図版50)

(藤井)

P-7 (図V-7 図版29-5・6)

位置：h36区 調査区中央西側の斜面に位置し、確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面1.55×1.14 底面1.08×0.89 最大深さ0.61m **平面形態**：楕円形

特徴：【確認】Ta-d1で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側半分を掘り下げたところ、Ta-d2や黒色土の混在する土層が現れた。それを除去すると平坦な底面や壁が検出されたので、規模・形状から土坑と判断した。【堆積】1層はⅡB層を主体とする。2・3・6・9層は埋め戻された可能性が高く、Ta-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。4・5・7・8・10層は埋め戻しの際の流入かもしれない。【壁・底面】壁は外傾し、底面は平坦でⅢB層中につくられる。なお、9層と自然層の区別がつきにくかったため、底面のⅢB層を掘り抜いてしまった部分が多い。

遺物出土状況：覆土中から黒曜石製のUフレイクが1点出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半もしくは中期後半の可能性がある。

掲載遺物：Uフレイク1点を掲載した(図V-33-60 図版50)。

(藤井)

P-8 (図V-8 図版29-7・8)

位置：i37区 調査区中央西側の斜面肩部に位置する。確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面1.20×1.07 底面0.18×0.10 最大深さ0.48m **平面形態**：楕円形

特徴：【確認】、Ta-d1で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の北側半分を掘り下げたところ、Ta-d1・d2との層界が明瞭であったことから、土坑の可能性があると判断した。

【堆積】1層はⅡB層が落ち込んだもので、2層はTa-d2が混じる黒褐色土である。【壁・底面】壁は外傾し、底面の一部がくぼむ。底面はTa-d2中につくられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半もしくは中期後半の可能性がある。

(藤井・山中)

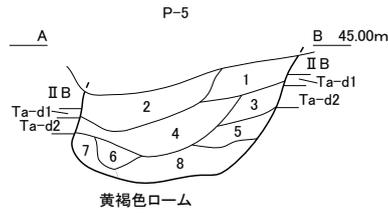
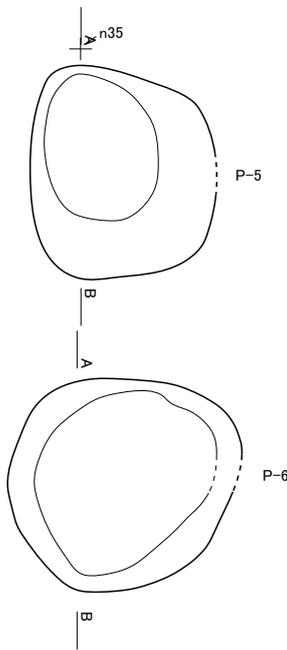
P-9 (図V-8 図版30-1・2)

位置：i36・37、j36・37区 調査区中央部に位置し、標高45.5mの緩斜面上に立地する。東にP-3、DU-5と近接し、南3mにTP-5がある。

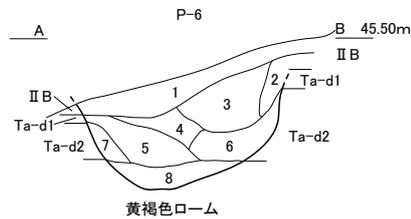
規模：確認面1.12×1.04 底面0.88×0.80 最大深さ0.32m **平面形態**：不整形円形

特徴：【確認】ⅡB層下部で遺物のまとまりが出土し、伴なう遺構を検出するためのトレンチ内で、掘り込みと円形の褐灰色土の範囲を確認した。【調査】トレンチ内で底面を検出し、壁面を確認した。

P-5・6

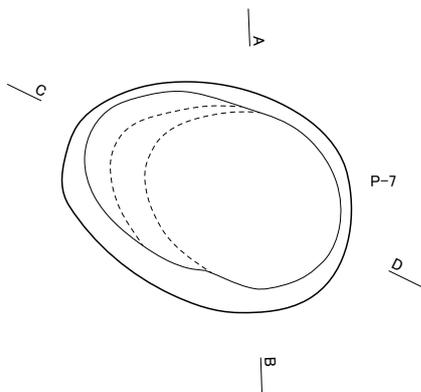


- P-5
- 1 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性弱 堅密度しろう Ta-d1小粒10% Ta-d2小粒1%
 - 2 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性やや強 堅密度ややしろう Ta-d1小～中粒10% Ta-d2中粒1%
 - 3 にぶい黄橙:10YR7/2 壤土 粘性弱 堅密度ややしろう Ta-d1大粒30% Ta-d2大粒20% 流入土
 - 4 灰白:10YR7/1 壤土 粘性弱 堅密度ややしろう Ta-d1小粒30% Ta-d2中粒20% 小礫1% 混土
 - 5 にぶい黄橙:10YR7/4 壤土 粘性ややあり 堅密度ややしろう Ta-d1小粒10% Ta-d2大粒3%
 - 6 にぶい黄橙:10YR7/2 壤土 粘性弱 堅密度しろう Ta-d1小粒5% Ta-d2大粒10%偏在
 - 7 浅黄橙:7.5YR8/6 壤土 粘性弱 堅密度しろう Ta-d1小粒1% Ta-d2大粒70% 流入土
 - 8 にぶい黄橙:10YR7/4 砂壤土 粘性弱 堅密度しろう Ta-d1小粒3% Ta-d2小～大粒10% 黄褐色ローム大粒5% 流入土

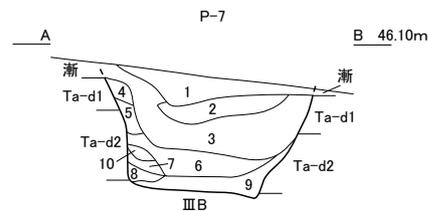


- P-6
- 1 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性ややあり 堅密度堅 Ta-d1小粒3% 均質
 - 2 にぶい黄橙:10YR6/3 砂壤土 粘性弱 堅密度ややしろう Ta-d1小粒10% Ta-d2大粒30% Ta-d1とTa-d2からの流入土
 - 3 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒2% Ta-d2小～中粒10%
 - 4 にぶい黄橙:10YR5/3 砂壤土 粘性弱 堅密度ややしろう Ta-d1中粒10% Ta-d2小～大粒10% 小礫1%の混土
 - 5 灰黄褐:10YR4/2 壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小～大粒5% Ta-d2大粒3% 混土
 - 6 にぶい黄橙:10YR6/4 砂壤土 粘性弱 堅密度ややしろう Ta-d1小粒1% Ta-d2小～大塊60% 混土
 - 7 褐灰:10YR6/1 砂壤土 粘性弱 堅密度しろう Ta-d1小粒1% Ta-d2中塊30% 流入土
 - 8 にぶい黄橙:10YR7/2 砂壤土 粘性弱 堅密度ややしろう Ta-d2小粒1% 黒色土中塊3% 流入土

P-7



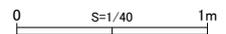
h37



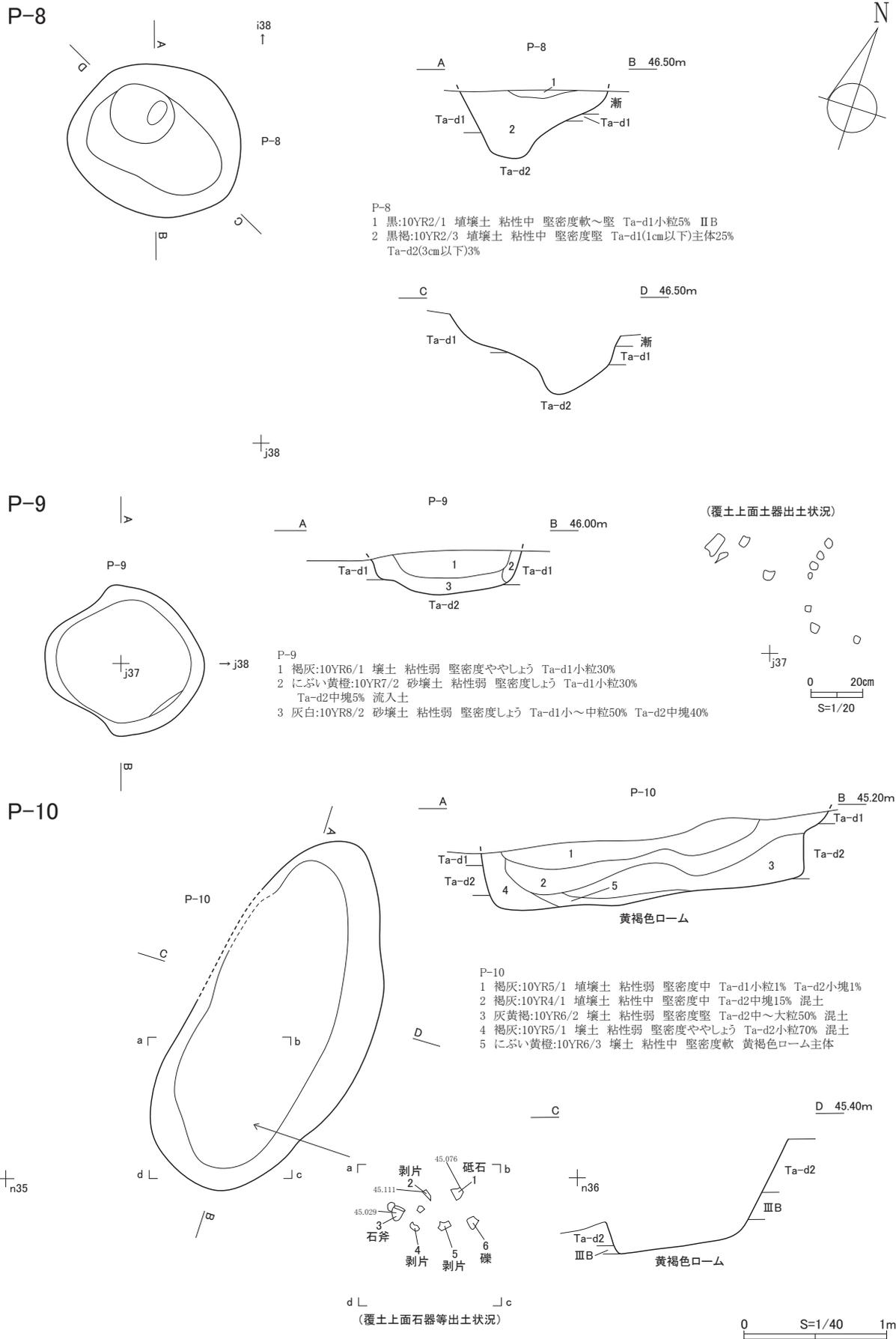
- P-7
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10%均質
 - 2 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒30%均質 Ta-d2(2cm程度)15%均質
 - 3 黒褐:10YR3/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒25%均質 Ta-d2(2cm程度)7%
 - 4 暗褐:10YR3/4 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅～すこぶる堅い
 - 5 暗褐:10YR3/4 Ta-d1の砂主体 粘性なし 堅密度堅 Ta-d2粒1cm程度2%
 - 6 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒15%均質 Ta-d2小粒2cm以下10%均質
 - 7 暗褐:10YR3/4 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
 - 8 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性中～強 堅密度軟～堅
 - 9 黒褐:10YR2/3 壤土 粘性中～強 堅密度軟～堅 Ta-d2粒2cm以下50%
 - 10 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中～強 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒2%



i37



図V-7 土坑(2) P-5・6・7



図V-8 土坑 (3) P-8・9・10

底面は不明瞭でⅢB層まで掘り下げた後、浅皿状の底面であることがわかった。【堆積】上層と下層に大別される。上層はTa-d1が多く混じる褐灰色土で、その上面に遺物が出土した。下層はTa-d2ブロックとの混土が主体である。【壁・底面】底面はTa-d2層中につくられ、浅く平坦である。壁はやや急な立ち上がりである。

遺物出土状況：覆土上面に縄文前期前半の土器片19点、火山礫1点が出土した。覆土中からは同時期の土器片3点が出土した。

時期：出土土器から縄文時代前期前半、Ⅱa-2類の時期の可能性がある。

掲載遺物：覆土上面の土器3点を掲載した（図V-19・20・21 図版46）。

（藤井）

P-10（図V-8 図版30-3～6）

位置：m35、n35区 調査区南西側に位置し、標高45～45.3mの斜面上に立地する。南西側にP-5・6と近接し、北側5mにP-11がある。

規模：確認面2.64×1.24 底面2.26×0.88 最大深さ0.45m 平面形態：長楕円形

特徴：【確認】Ta-d1上面で不整形の褐灰色土の範囲を確認した。当初石斧、砥石を含む石器のまとまりとの関連で、北側のみを円形の土坑と判断したが、トレンチ調査により南側を含む長楕円形の土坑となった。【調査】トレンチ内で底面を検出しつつ、壁面の立ち上がりを確認した。【堆積】上・中・下層に大別される。上層はくぼみに堆積した黒味の強いⅡB層、中層は黒味の強いⅡB層とTa-d2主体のパミスを多く含む混土層、下層はやや黄色味のあるⅡB層とTa-d2との混土層である。中下層は人為的な埋積層の可能性もある。【壁・底面】底面は黄褐色ローム層中につくられ、南方向にやや下がる。壁面は垂直に近い急な立ち上がりである。

遺物出土状況：遺構北側の覆土上面にて、石斧・砥石・剥片・礫のまとまりが見つかった。また覆土下層からつまみ付きナイフが出土した。

時期：時期の特定が可能な遺物は出土していないが、周辺遺構と遺物の出土状況から、縄文時代前期前半の可能性が考えられる。

掲載遺物：つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、砥石の4点を掲載した（図V-33-61～64 図版50）。

（藤井）

P-11（図V-9 図版30-7・8）

位置：l36区 調査区やや南西寄りの標高45～45.5mの斜面上に立地する。東側5mにTP-14、南側4mにP-10がある。

規模：確認面1.28×1.26 底面1.10×1.06 最大深さ0.43m 平面形態：ほぼ円形

特徴：【確認】Ta-d1からTa-d2上面まで掘り下げた斜面上で、褐灰色の円形範囲を確認した。【調査】円形の南側半分を掘り下げて、覆土の堆積を確認し、土坑と判断した。【堆積】壁側の流入土を除く覆土の大半が、上層から下層までⅡB層とTa-d1・d2との混土層であった。人為的な堆積によるものと考えられる。【壁・底面】底面は黄褐色ローム層上面を掘り込み、確認面と平行に西側に大きく下がる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、明瞭である。

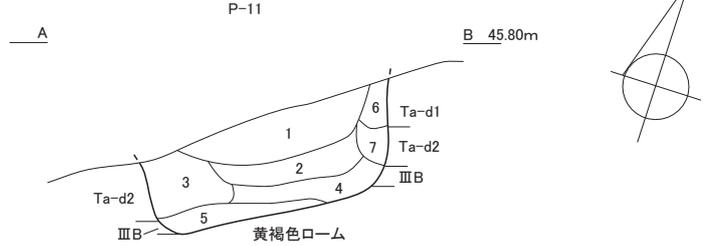
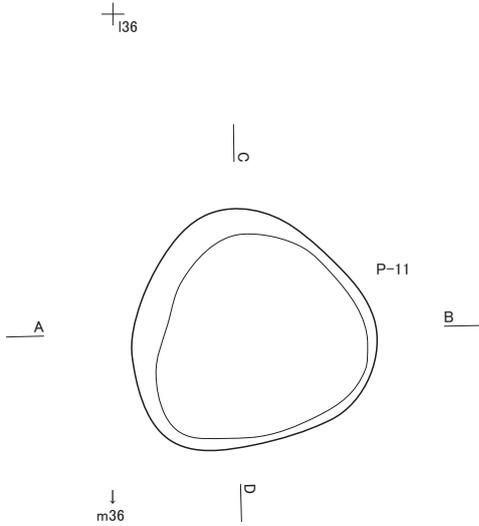
遺物出土状況：覆土上面に石斧未成品1点、覆土上層にRフレイク、確認面上に珪岩の円礫1点が出土した。

時期：周辺遺構と遺物の出土状況から縄文時代前期前半の可能性が考えられる。

掲載遺物：石斧未成品1点を掲載した（図V-33-65 図版50）

（藤井）

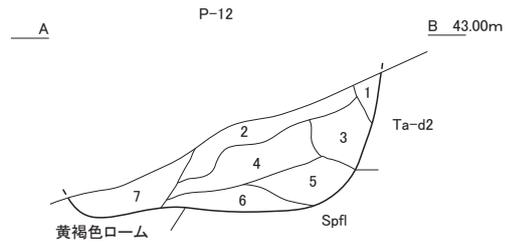
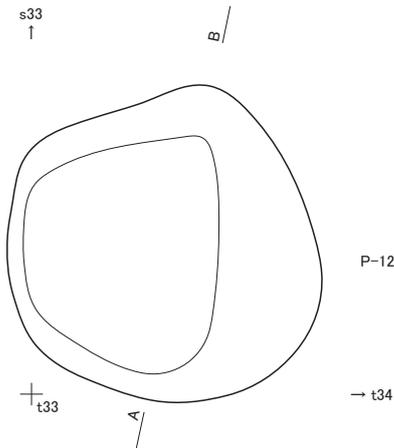
P-11



- P-11
- 1 褐灰:10YR5/1 埴壤土 粘性中 堅密度やや堅 Ta-d1小粒30% Ta-d2中粒1% 混土
 - 2 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒3% Ta-d2中粒2% 混土
 - 3 灰黄褐:10YR6/2 埴壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d2小粒10%中塊3% 混土
 - 4 にぶい黄橙:10YR6/3 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2中塊5% 混土
 - 5 灰黄褐:10YR5/2 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒1%
 - 6 にぶい黄橙:10YR7/2 壤土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒2%
 - 7 黄橙:7.5YR7/8 壤土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d2主体 流入土

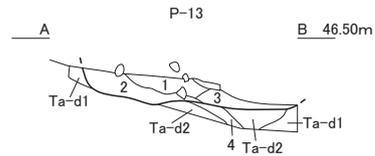
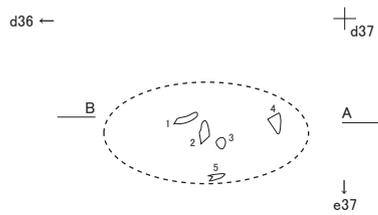


P-12

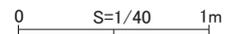


- P-12
- 1 にぶい黄橙:10YR7/3 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2小粒10% 混土
 - 2 灰黄褐:10YR5/2 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒1% Ta-d2中塊10%
 - 3 橙:5YR6/6 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2主体 流入土
 - 4 にぶい黄橙:10YR6/3 壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2中塊5%
 - 5 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性弱 堅密度 Ta-d2小粒1%中塊5%
 - 6 にぶい黄橙:10YR6/3 壤土 粘性ややあり 堅密度堅 Ta-d1とd2小粒1% 混土
 - 7 にぶい黄橙:10YR6/4 砂壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2中塊1%

P-13



- P-13
- 1 褐灰:10YR4/1 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% 骨片小片50%
 - 2 灰黄褐:10YR6/2 壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒3% Ta-d2小粒1% 礫片数点
 - 3 にぶい黄橙:10YR7/2 砂壤土 粘性弱 堅密度ややしよう Ta-d1小粒3%
 - 4 褐灰:10YR5/1 砂壤土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d2小粒1%



図V-9 土坑 (4) P-11・12・13

P-12 (図V-9 図版31-1・2)

位置：s32・33、t33区 調査区最南端の標高42～43mの斜面上に立地する。周辺に遺構はなく、北西約15mのTP-17が最も近い。

規模：確認面1.70×1.68 底面1.30×1.04 最大深さ0.54m 平面形態：ほぼ円形

特徴：【確認】Ta-d2から黄褐色ロームにかけて掘り下げた斜面上で、灰黄褐色の円形の範囲を確認した。【調査】傾斜に沿って東側半分を掘り下げて、Ta-d2などの混土主体の覆土を確認し、土坑と判断した。【堆積】壁際にTa-d2主体の流入土と、覆土上層から底面にかけて大粒のTa-d2粒子を含む混土からなる。混土は人為的に埋積された可能性がある。【壁・底面】底面はSpflから黄褐色ローム層中につくられ、水平で平坦である。壁は斜面方向に沿って急な立ち上がりで東側が緩やかである。遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺遺構と遺物出土状況から縄文時代前期前半の可能性が考えられる。(藤井)

P-13 (図V-9 図版31-3・4)

位置：d36区 調査区北西端に近い標高約46mの斜面上部に立地する。東にTP-18と近接し、盛土遺構M-2の範囲内に含まれる可能性もある。

規模：確認面0.50×0.22 底面不明 最大深さ0.16m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】盛土遺構M-2を掘り下げ、遺物を取り上げた後に、灰褐色土の堆積に細かな骨片や石器、礫などが伴うことが明らかになった。【調査】範囲を確認した時にはすでに堆積は残り浅く、北半分をトレンチで掘り下げたところ、土層断面の一部を確認できた。本来は、より上層から掘り込まれたものと思われる。覆土は全て採取して土壌水洗及びフローテーションを行った。【堆積】骨片を多く含む褐灰色土とTa-d1、d2を含む灰黄褐色土、にぶい黄澄土からなる。【壁・底面】Ta-d1からTa-d2を浅く掘り込む凹凸のある底面で、上層をすでに掘り下げてしまい壁はほとんど確認できなかった。

遺物出土状況：確認面上から凝灰岩製の石鏃、安山岩の礫2点、珪岩の円礫1点、砂岩の円礫2点が出土した。中には被熱したものもある。覆土中には骨片が多く含まれ、分析の結果エゾシカのものであることが明らかになった(表VI-1)。

時期：時期の特定できる遺物がなく、詳細は不明である。周囲には縄文前期前半の土器が出土しているためこの時期の可能性が高い。

掲載遺物：凝灰岩製の石鏃1点を掲載した(図V-33-66 図版50)。(藤井)

(3) Tピット (TP)

TP-1 (図V-10 図版31-5・6)

位置：e38区 調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面2.94×1.30 底面2.52×0.14 最大深さ1.20m 平面形態：長楕円形(溝状)

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、長楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。その後、北側半分に残る覆土を除去し、全体の形状を観察する段階になって、底面と判断した黄褐色ロームのしまりが弱いことに気付いた。再度掘り下げを行ったところ、約45cm下でしまりのある黄褐色ロームの底面を検出した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積

である。1～3層はⅡB層、4～7層はTa-d1・d2を主体とする。8層はTa-d2の混じる黒色土で、その下から底面にかけて、しまりの弱い黄褐色ロームが堆積する。再度の掘り下げ時に土層断面を残さなかったため、堆積状況の記録はない。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央から長軸両端に向かって浅くなり、縦断面は弧状に近い。

遺物出土状況：覆土中から縄文前期前半（Ⅱa-2類）の土器胴部片が1点出土した。

時期：前期の遺物が出土しているが、流れ込みによるものと思われる。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。

掲載遺物：縄文前期前半の土器胴部片を掲載した。（図V-33-22 図版46）（山中）

TP-2（図V-10 図版32-1～5）

位置：e41・42、f41・42区 調査区北東側、標高46.5mの緩斜面上部に立地する。盛土遺構M-1の範囲内北側に位置すると考えられるが近接する遺構はない。

規模：確認面3.00×1.40 底面2.72×0.24 最大深さ1.20m 平面形態：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】盛土遺構M-1確認時に想定された溝状遺構の延長として、トレンチ内で黒色土範囲の一部を確認した。周辺を黄褐色ローム層まで掘り下げるに及び、黒色土の輪郭が楕円形の溝状となった。【調査】トレンチの範囲で掘り下げたところ、黄褐色ローム層中に底面と「V」字状に立ち上がる壁面を検出してTピットと判断した。【堆積】ⅡB層上面から落ち込んだ状態がTピット下半にまで及ぶ。壁面からの崩落土が主体の埋積土である。【壁・底面】短軸上の壁面は底面から緩やかに広がる形状で「U」字形に近い。長軸方向には北端が垂直に近い立ち上がりで、南端はオーバーハングとなる。底面は細く平坦である。

付属遺構：底面に3か所の柱穴状小ピットを確認した。北半部にほぼ直線上に並ぶ。SP-1が北にやや離れ、SP-2・3が近接する。掘り込みは明瞭で、深さは約15～20cmである。

遺物出土状況：覆土中から礫片（頁岩）が出土した。

時期：土層断面から、縄文前期の盛土遺構M-1を切ってTピットがつくられていたことから、縄文前期以降のものであり、また周辺の調査事例から縄文中期後半頃と考えられる。（藤井）

TP-3（図V-11 図版32-6・7）

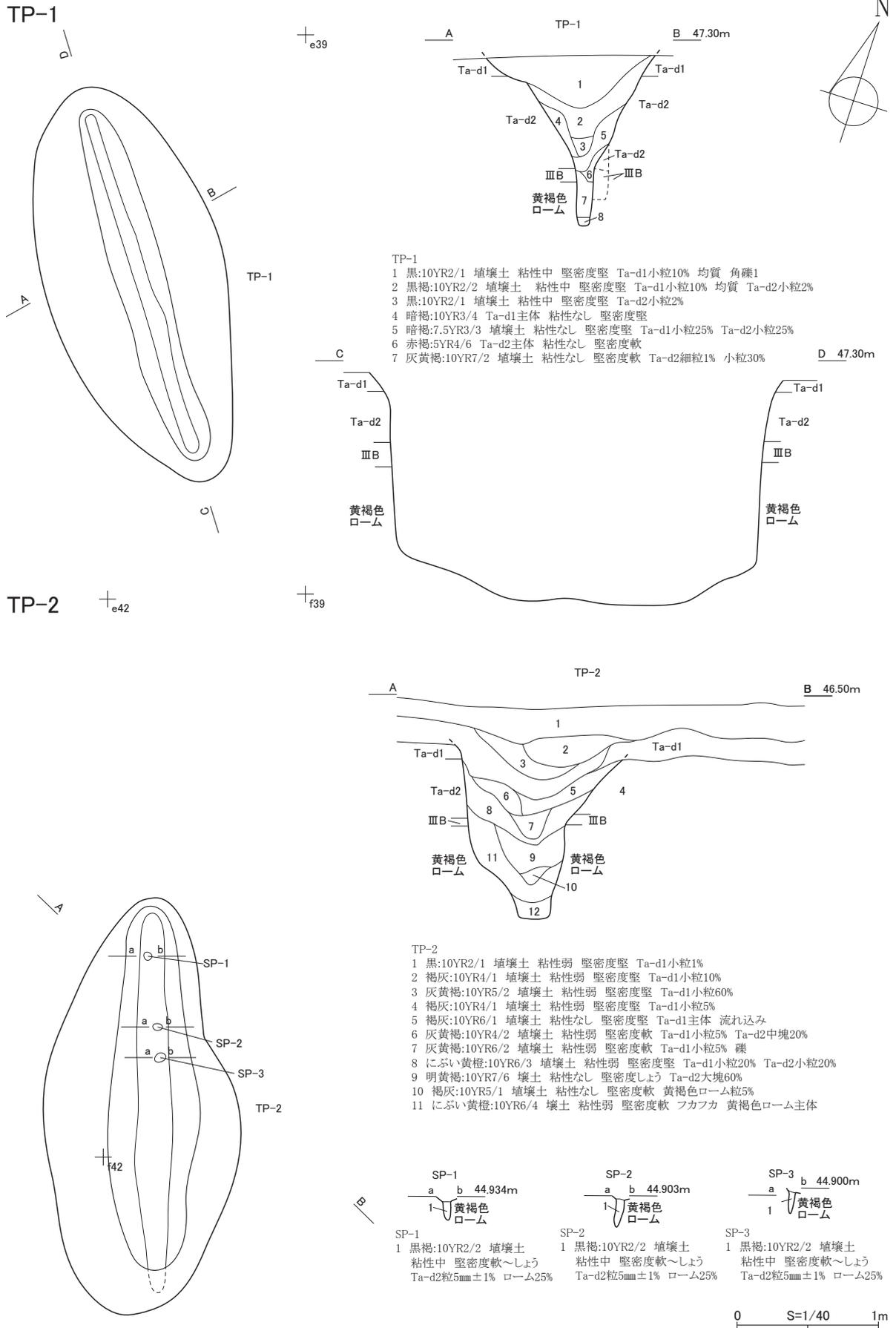
位置：d39・40区 調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面1.98×0.97 底面1.80×0.13 最大深さ1.26m 平面形態：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1・2層はⅡB層を主体とする。3～9層はTa-d1とTa-d2が混在するが、d2の割合が多い。底面に堆積する10層は黒色土である。8・10層は腐植土が主体である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸北側が浅く、南端がわずかにオーバーハングする。

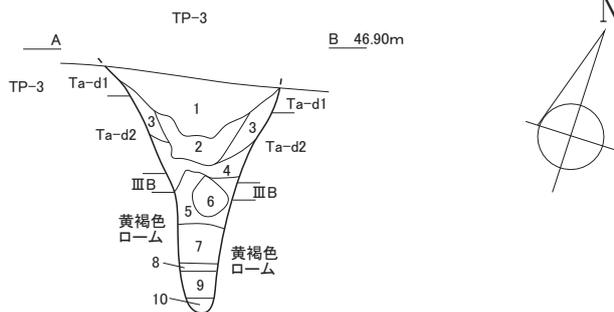
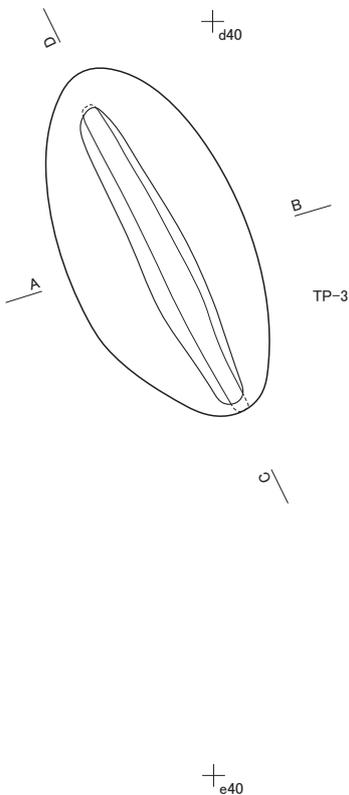
遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。（山中）

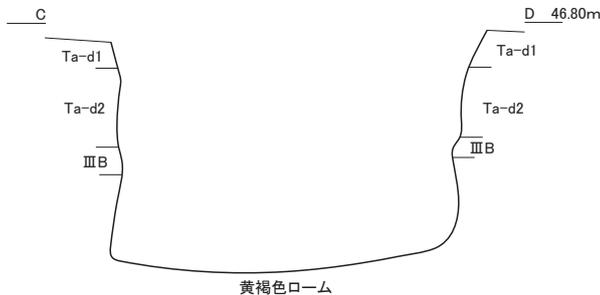


図V-10 Tピット(1) TP-1・2

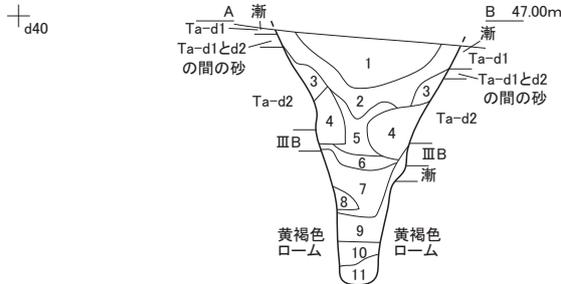
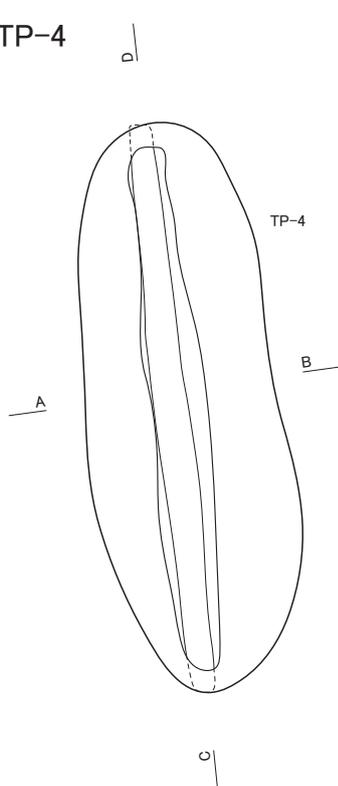
TP-3



- TP-3
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm±)10% 均質
 - 2 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒20% 均質 Ta-d2小粒1%
 - 3 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒50% Ta-d2小粒3%
 - 4 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性弱 堅密度軟
 - 5 褐:10YR4/2 Ta-d1主体 粘性弱 堅密度軟
 - 6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性弱 堅密度軟
 - 7 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性弱 堅密度軟
 - 8 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟
 - 9 赤褐:5YR4/8 埴壤土 粘性弱 堅密度軟～しよう
 - 10 黒:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟～しよう Ta-d2大粒50%



TP-4



- TP-4
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒10% 均質 III B層
 - 2 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10% 均質 III B層
 - 3 褐:10YR4/4 Ta-d1とその下の砂主体 粘性なし 堅密度堅
 - 4 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度軟～堅
 - 5 褐:10YR4/4 Ta-d1とその下の砂主体 粘性なし 堅密度堅
 - 6 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅
 - 7 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1(2mm±)粒状も主体
 - 8 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟
 - 9 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 10との層界に漸変・III B層混入
 - 10 褐:10YR4/6 埴壤土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム
 - 11 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度しよう Ta-d1粒1% Ta-d2(2mm±)3%

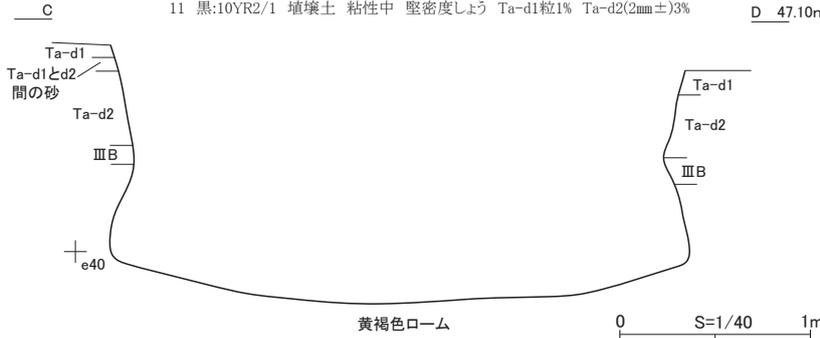


図 V-11 Tピット (2) TP-3・4

TP-4 (図V-11 図版33-1・2)

位置：d39区 調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面3.02×1.08 底面3.02×0.18 最大深さ1.32m **平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、長楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1・2層はⅡB層、3・5層はTa-d1、4・7層はTa-d2、9層はⅢB層、10層は黄褐色ロームが主体である。底面に堆積する11層はTa-d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央部から長軸両端に向かって浅くなり、縦断面は弧状を呈する。長軸両端はオーバーハングする。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性ある。(山中)

TP-5 (図V-12 図版33-3・4)

位置：j36・37区 調査区中央西側の斜面肩部に位置し、確認面の標高は約46mを測る。長軸方向は東-西で、等高線にほぼ直交する。

規模：確認面1.85×0.93 底面1.98×0.17 最大深さ1.42m **平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】2層は暗褐色を呈し、他のTピットの掘り上げ土かもしれない。1層と3層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、1層はⅡB層、3層はTa-d1、4・6・8層はTa-d2、10層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する11層はTa-d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は東側から西側に向かって下がり、長軸両端がオーバーハングする。

遺物出土状況：覆土中から安山岩と珪岩の礫片2点が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性ある。(山中)

TP-6 (図V-13 図版34-1・2)

位置：d40、e40区 調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面2.38×1.30 底面2.04×0.15 最大深さ1.16m **平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。南側は長軸方向が異なる同様の広がり重複する（TP-7）。【調査】黒色土の北側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1・3層はⅡB層を主体とする。2・4～7層はTa-d1とTa-d2が混在するが、d2の割合が多い。底面に堆積する9層はTa-d2の混じる暗褐色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面はおおむね

平坦で、南端は重複するTP-7の掘削により壊される。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。重複するTP-7より古い。(山中)

TP-7 (図V-13 図版34-3・4)

位置：e39・40区 調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面2.48×0.68 底面1.54×0.12 最大深さ1.22m 平面形態：楕円形（溝状）長軸方向は北東-南西

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。北側は長軸方向が異なる同様の広がりとして重複する（TP-6）。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。土層断面の観察から、重複するTP-6よりも新しい。なお、南西側の壁を掘りすぎてしまったため、上端の長径値が欠けているが、残存する下端の状況から、2m弱であったと推測される。【堆積】2層は暗褐色を呈し、他のTピットの掘り上げ土かもしれない。1層と3層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、1層はⅡB層、3層はTP-6の覆土に由来する。4～12層はTa-d1・d2、Ⅲb層、黄褐色ロームなどからなるが、d2の占める割合が多い。底面に堆積する10層は黒色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央から両端に向かって浅くなる。

遺物出土状況：覆土中から黒曜石製剥片（チップ）が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。重複するTP-6より新しい。(山中)

TP-8 (図V-12 図版35-1・2)

位置：e39、f39区 調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面3.40×1.25 底面3.10×0.22 最大深さ1.20m 平面形態：長楕円形（溝状）長軸方向は北-南である。

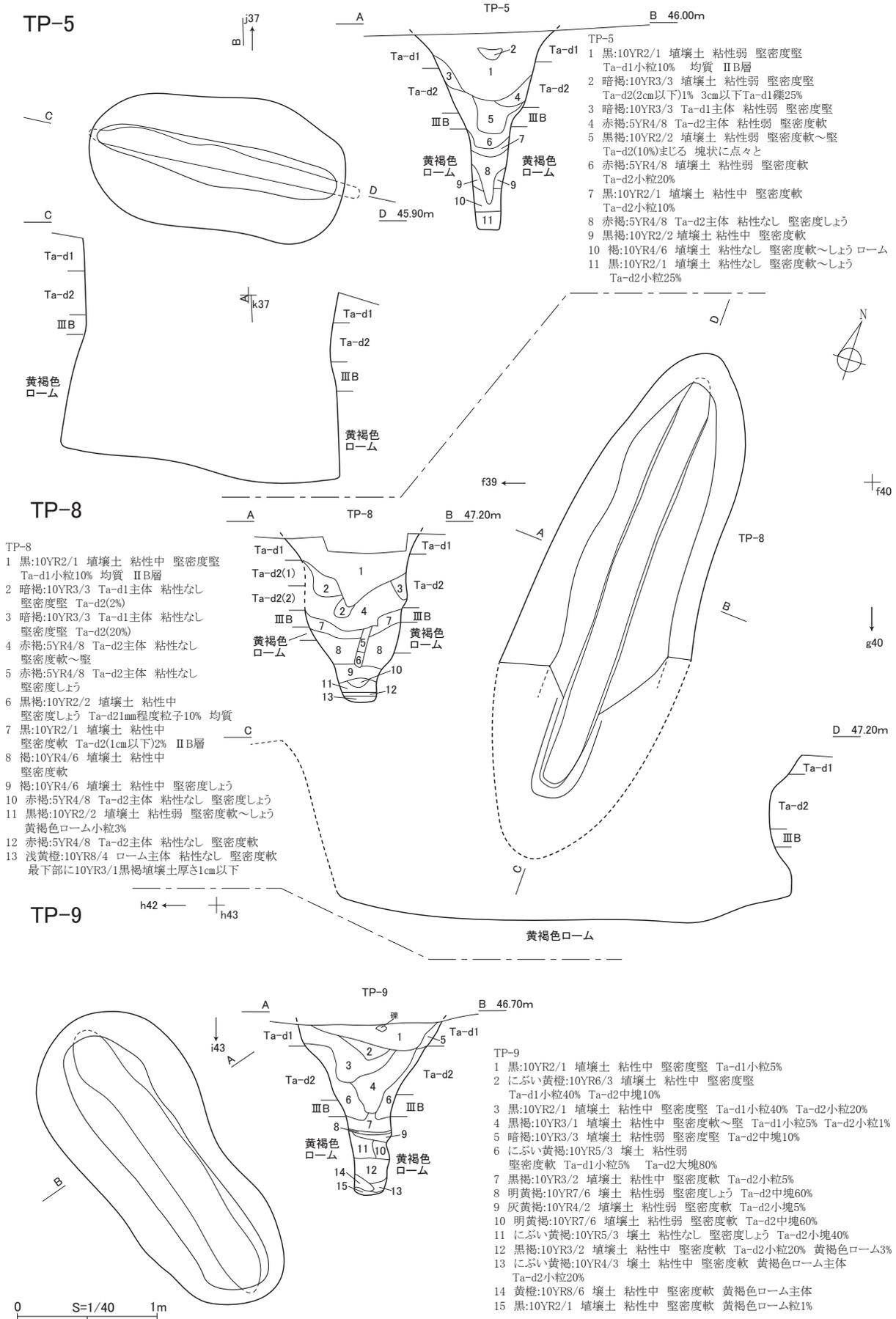
特徴：【確認】Ta-d1の上面で、鉄塔建設により一部が壊されているが、長楕円形とみられる黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の北側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1層はⅡB層、2・3層はTa-d1、4・10・12層はTa-d2、7層はⅢB層、8・9層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する14層は黒褐色で、層厚は1cm未満である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、そこから上部は崩れて幅広になる。外傾の程度は弱い。南側の壁は、南端の立ち上がり部分をのぞき、鉄塔建設により失われる。底面はおおむね平坦であるが、長軸両端側で浅くなり、北端はオーバーハングする。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。(山中)

TP-9 (図V-12 図版34-5・6)

位置：h42・43区 調査区北東部、標高46.5mの緩斜面上部に位置する。盛土遺構M-1の範囲内にあ



図V-12 Tピット(3) TP-5・8・9

TP-6・7

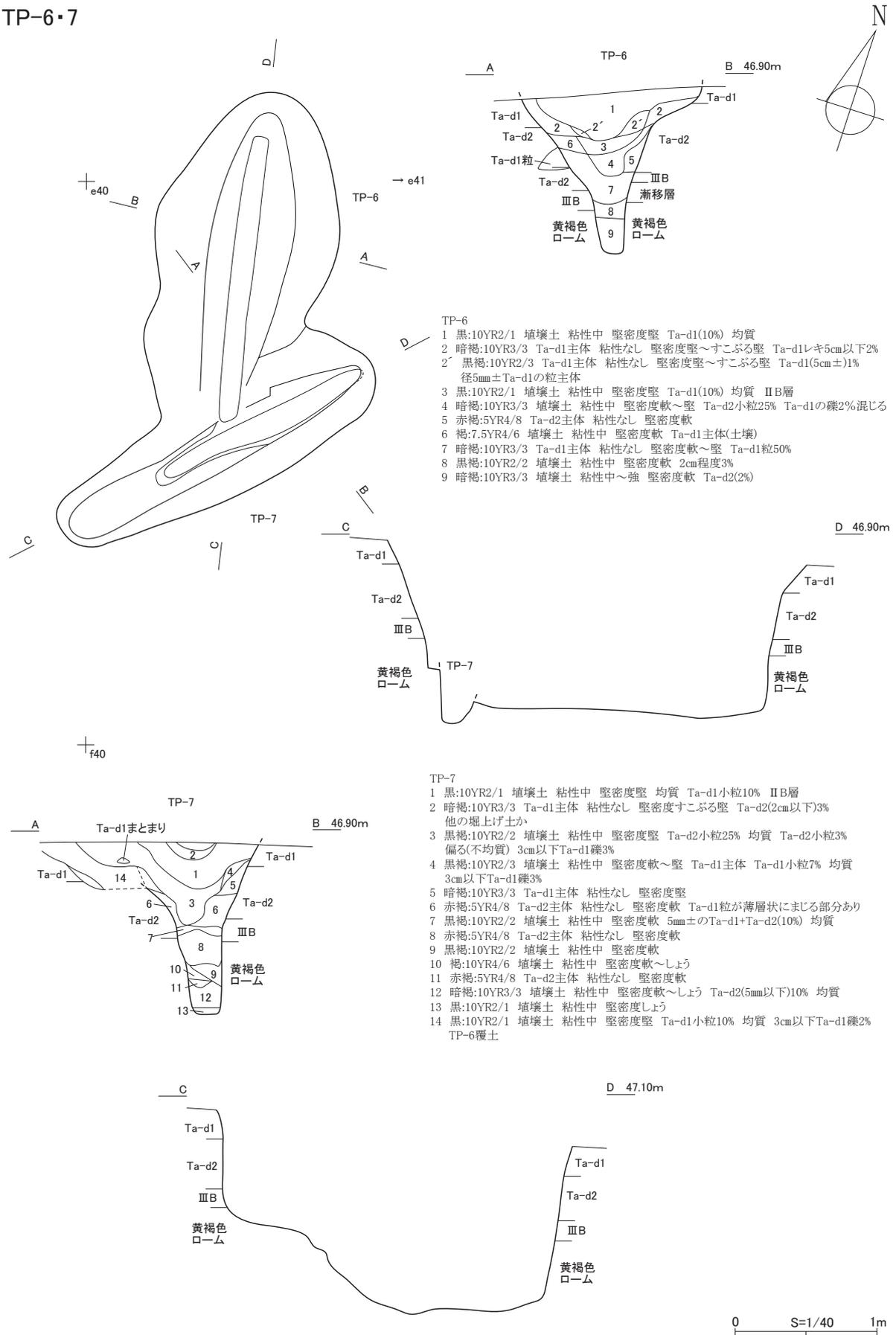


図 V-13 Tピット (4) TP-6・7

り、南にTP-10と接する。

規模：確認面2.42×1.09 底面2.24×0.26 最大深さ1.24m **平面形態**：楕円形

特徴：【確認】盛土遺構確認段階でⅡB層上面にわずかな溝状の黒色土の広がりが見られた。当初A地区で見られた溝状遺構の類として調査したが、黄褐色ローム層まで掘り下げたところ、二つの黒色土範囲が直列状態で確認されTピットと判断した。本遺構はその北側の楕円形のTピットにあたる。【調査】北半分を先に掘り下げたところ、黄褐色ロームを底面とした溝状の掘り込みとなった。【堆積】上半部は黒色土主体の落ち込みと壁面の崩落土からなる。下半部は混入の少ない黒色土(7)から下はTa-d2、黄褐色ロームの混土と黒色土が交互に堆積する。【壁・底面】短軸方向に壁は下半部に直立し、上半部が外に広がる形状で「Y」字形になる。長軸方向には両端ともにわずかなオーバーハングとなる。底面は細く平坦である。

遺物出土状況：覆土中に安山岩1点、砂岩1点、片麻岩2点の礫片が出土した。盛土遺構からの流入の可能性もある。

時期：縄文前期の盛土遺構を掘り込むことから前期以降と推定される。周辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。(藤井)

TP-10 (図V-14 図版35-3・4)

位置：h42・43、i43区 調査区北東部、標高46.5mの緩斜面上部に位置する。盛土遺構M-1の範囲内にあり、北にTP-9と接する。

規模：確認面2.74×0.90 底面3.19×0.20 最大深さ1.61m **平面形態**：長楕円形(溝状)

特徴：【確認】盛土遺構確認段階で、ⅡB層上面に溝状の黒色土の広がりが見られた。当初溝状遺構の類として調査をはじめたが、黄褐色ローム層まで掘り下げた段階で、2つの溝状の黒色土範囲が直列状態で確認されたため、Tピットと判断した。本遺構はその南側の1つである。

【調査】盛土遺構のトレンチ側土層断面を残して北半分を掘り下げたところ、黄褐色ロームを底面にした細い溝状の掘り込みとなった。【堆積】ⅡB層上面より観察記録ができ、ⅡB層上層からTピット上半部に至るまで大きく落ち込むことが明らかになった。Tピット中～下半部は、黒色土と混土が細かく交互に堆積する互層状態である。【壁・底面】短軸方向に壁は下部から中部まで直立し、上半部が外傾する「Y」字形である。長軸両端側は深くオーバーハングし、底面は細く平坦である。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文前期の盛土遺構を掘り込んでいたことから、前期以後の縄文時代と考えられる。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。(藤井)

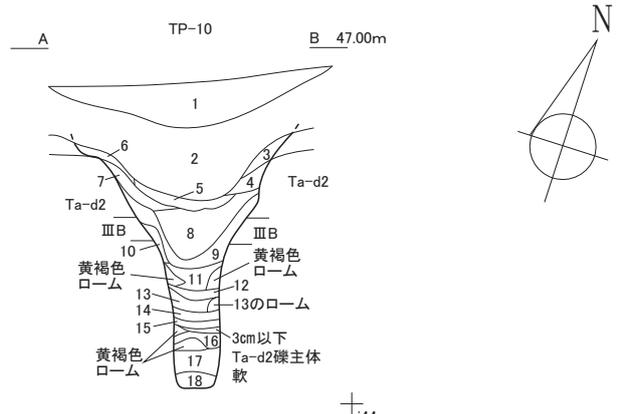
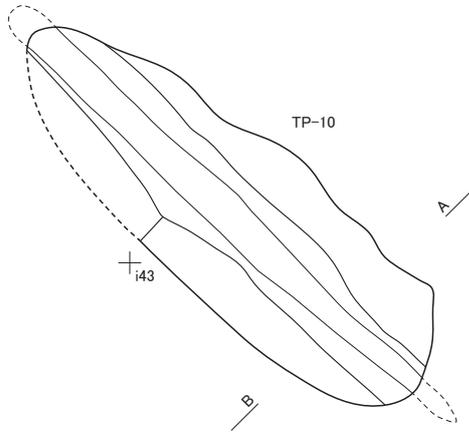
TP-11 (図V-14 図版36-1・2)

位置：c44・45区 調査区北東側の斜面に位置し、確認面の標高は約44mを測る。長軸方向は北-南で、等高線におおむね平行する。

規模：確認面2.88×0.80 底面2.65×0.22 最大深さ1.11m **平面形態**：長楕円形(溝状)

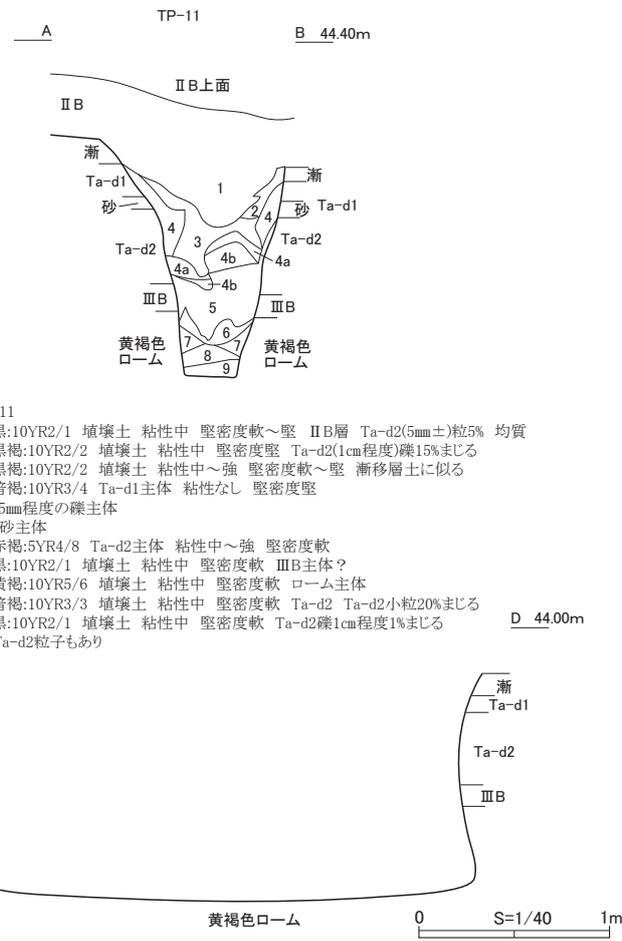
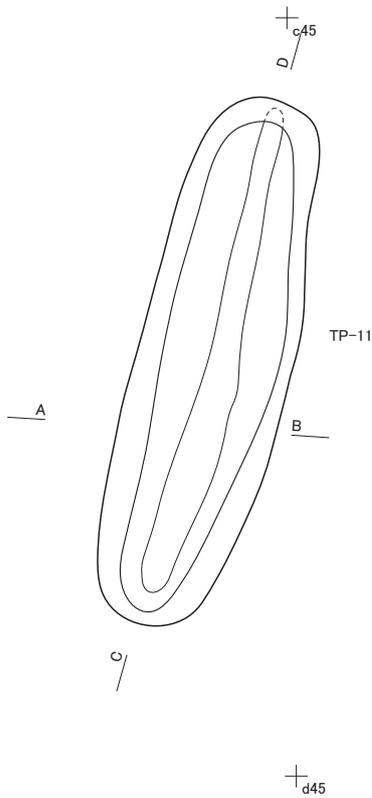
特徴：【確認】ⅡB層からTa-d1への漸移層で、楕円形とみられる黒色土の広がりを確認した。【調査】北側が調査区の法面下にあったので、法面より南側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。なお、北側の調査は法面(旧鹿柵)除去工事後に行った。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1～3層はⅡB層、4層はTa-d1、5層はTa-d2、6層はⅢB層、7層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する

TP-10



- TP-10
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 II B層 堅密度軟~堅 Ta-d1粒5% 均質
 - 2 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 II B層 堅密度堅 Ta-d1粒15% 均質 Ta-d2(2cm以下)1%
 - 3 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(1cm程度)以下3% Ta-d2粒1%
 - 4 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度軟
 - 5 暗褐:10YR3/3 5mm以下のd1砂レキ主体 粘性なし 堅密度堅
 - 6 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2粒2%
 - 7 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 堅密度軟 Ta-d2に10YR2/3黒褐埴壤土が混在
 - 8 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1(1cm以下)5% Ta-d1レキ4cm程度以下目につく Ta-d2(2cm以下)10%
 - 9 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度軟
 - 10 黒:7.5YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 II Bに似る 落ち込むので掘りすぎではない
 - 11 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2(2cm以下)3% ローム40%
 - 12 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 2cm程度のd2主体 10YR2/1黒が15%混在 堅密度軟
 - 13 黒:10YR2/1 堅密度軟 Ta-d2(5mm程度)2% ローム20% 右壁際
 - 14 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 2cm程度のd2主体 10YR2/1黒が30%混在 堅密度軟
 - 15 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟
 - 16 黄褐:10YR5/8 埴壤土 堅密度軟 ロームに10YR2/3黒褐が混じる
 - 17 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2(2cm程度以下)7%
 - 18 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2(2cm程度以下)7%

TP-11



- TP-11
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅 II B層 Ta-d2(5mm±)粒5% 均質
 - 2 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2(1cm程度)礫15%まじる
 - 3 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中~強 堅密度軟~堅 漸移層土に似る
 - 4 暗褐:10YR3/4 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
 - 4a 5mm程度の礫主体
 - 4b 砂主体
 - 5 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性中~強 堅密度軟
 - 6 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 III B主体?
 - 7 黄褐:10YR5/6 埴壤土 粘性中 堅密度軟 ローム主体
 - 8 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2 Ta-d2小粒20%まじる
 - 9 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2礫1cm程度1%まじる Ta-d2粒子もあり

図 V-14 Tピット (5) TP-10・11

9層はTa-d1・d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁は下部から上部に向かってやや外傾するが、西側の一部はTa-d1・d2の層界付近でさらに外傾する。底面は平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。(藤井)

TP-12 (図V-15 図版36-3・4)

位置：h39、i39区 調査区中央の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北東-南西である。

規模：確認面2.31×1.19 底面2.20×0.11 最大深さ1.25m 平面形態：楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層からTa-d1の漸移層で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の北側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1・2層はⅡB層、3層はTa-d1、5層はTa-d2、6層はⅢB層、7層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する9層は暗褐色土である。【壁・底面】壁面の最下部は直立ぎみであるが、それより上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「V」字形に近い。北側の壁面上部は攪乱により壊される。底面は中央から両端に向かって浅くなり、南端はわずかにオーバーハングする。

遺物出土状況：覆土2層から石器10点、片麻岩の礫片1点が出土した。石器は黒曜石製の石錐部分片1点と頁岩1点、黒曜石8点の剥片である。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。(山中)

TP-13 (図V-15 図版36-5・6 37-1～3)

位置：n37、o36・37区 調査区南側の平坦面に位置し、確認面の標高は約46mを測る。長軸方向は東-西である。

規模：確認面2.60×1.32 底面2.30×0.10 最大深さ1.22m 平面形態：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1～4層はⅡB層を主体とする。5層以下はTa-d2が多く混じり、底面に堆積する9層はTa-d2の混じる黒褐色土である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面はおおむね平坦で、両端はオーバーハングする。

付属遺構：底面で杭痕3か所を検出した（SP-1～3）。

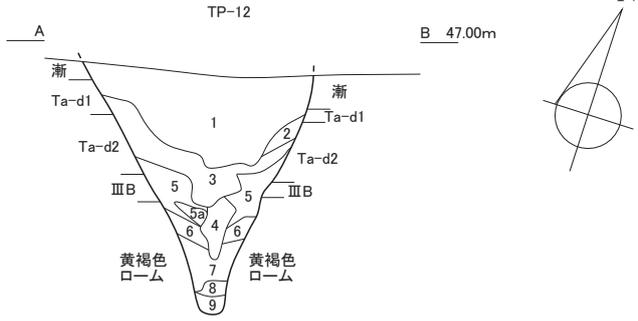
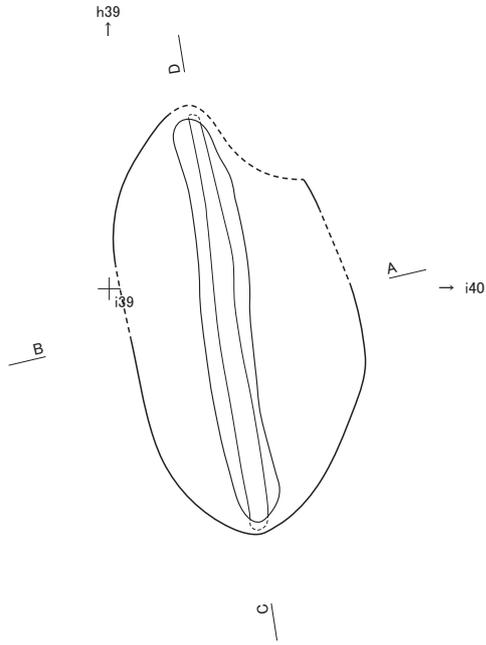
遺物出土状況：覆土1層からⅢ群土器とみられる小破片が数点出土した。覆土1層から縄文中期後半の土器胴部片小片22点と安山岩、砂岩の礫片が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。(山中)

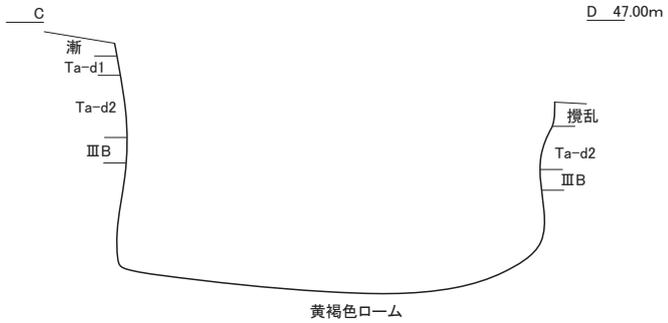
TP-14 (図V-16 図版37-4・5)

位置：l37区 調査区南側の斜面肩部に位置し、確認面の標高は約46mを測る。長軸方向は東-西で、

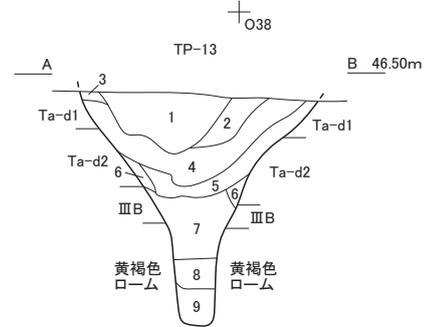
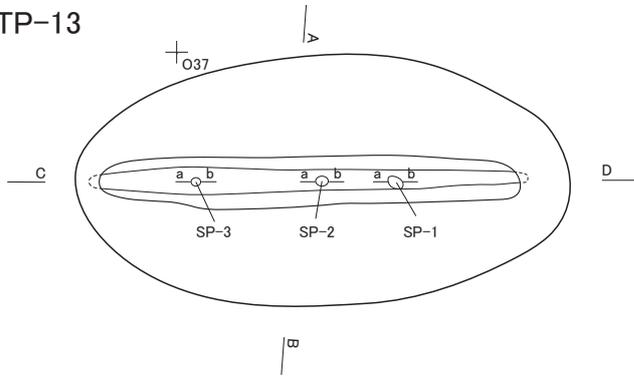
TP-12



- TP-12
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10% 均質 II B層
 - 2 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒25%
 - 3 暗褐:10YR3/3 埴土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1主体 Ta-d2(1cm以下)5%
 - 4 黒褐:10YR2/2 埴土 粘性中 堅密度軟~堅 Ta-d1(1cm±)5% Ta-d2小粒7%
 - 5 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性中~強 堅密度堅
 - 5a 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1(5cm程度以下)礫
 - 6 黒褐:10YR3/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅
 - 7 黄褐:10YR5/8 埴壤土 粘性中 堅密度軟 ローム主体 Ta-d2(2cm程度以下)3%
 - 8 赤褐:5YR4/8 埴壤土 粘性中~強 堅密度軟 Ta-d2小粒10%
 - 9 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中~強 堅密度軟



TP-13



- TP-13
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅 II B層 Ta-d1粒10% 均質 Ta-d2(2cm以下)2%
 - 2 黒褐:10YR2/3 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10% 均質 Ta-d2(1cm以下)1%
 - 3 暗褐:10YR3/4 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
 - 4 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10% Ta-d2(2cm以下)2%
 - 5 暗褐:10YR3/3 埴土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(40%) Ta-d2(2cm以下)2%
 - 6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度軟~堅
 - 7 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟~堅 Ta-d2塊状25%
 - 8 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度堅
 - 9 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2小粒20% 8との境から5cmほどは小

- SP-1 a b 45.152m 黄褐色ローム
- SP-2 a b 45.168m 黄褐色ローム
- SP-3 a b 45.199m 黄褐色ローム

- 1 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム粒15% Ta-d2粒子2%
- 1 暗褐:10YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム粒15% Ta-d2粒子2%
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒子2%

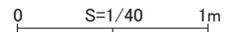
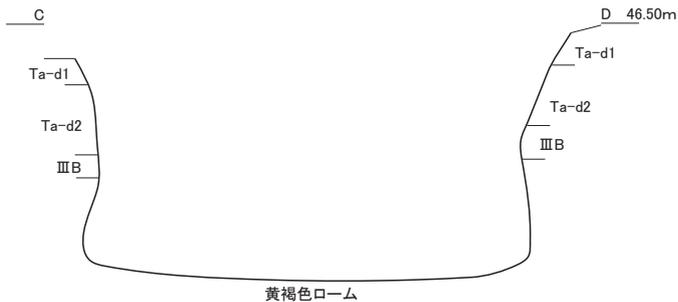


図 V-15 Tピット (6) TP-12・13

等高線に直交する。

規模：確認面2.04×0.95 底面1.92×0.12 最大深さ1.36m 平面形態：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1・2層はⅡB層を主体とする。3・10層はTa-d1、6・7層はTa-d2を主体とし、5層は両者が交互に堆積する。9層には黄褐色ロームの薄層も認められ、底面を覆う11層はTa-d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央から北端に向かって浅くなる。長軸両端がオーバーハングする。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。（山中）

TP-15（図V-16 図版37-6・7）

位置：m36・37区 調査区南側の平坦面に位置し、確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面3.32×1.32 底面3.22×0.23 最大深さ1.33m 平面形態：長楕円形（溝状）長軸方向は東-西である。

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。黒色土の中央にはTa-d2がまとまる。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】1層はTa-d2のまとまりで、他のTピットの掘り上げ土とみられる。2層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、2・3・5・6層はⅡB層、4・7～9・11層はTa-d1を主体とする。10・12～18層には、Ta-d1、Ta-d2、黒色土の三者が混在する部分や、それぞれが単独でまとまる部分がある。19層は黄褐色ロームで、底面の21層は暗褐色土の薄層である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。長軸の両端はオーバーハングする。底面の中央は平坦であるが、長軸両端に向かって浅くなり、縦断面は弧状を呈する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。（山中）

TP-16（図V-17 図版37-8・9、38-1）

位置：m37・38区 調査区南側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面2.90×1.60 底面2.22×0.52 最大深さ1.43m 平面形態：長楕円形（短冊形）長軸方向は東-西である。

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。黒色土の内側には、褐灰色土が同心楕円状に認められる。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、短冊形の掘り込みが検出された。壁からの崩落や流入が主体の堆積状況と合わせて、Tピットと判断した。【堆積】2層は褐灰色を呈し、他のTピットの掘り上げ土とみられる。1層と3層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、1・3～5層はⅡB層、6～8層はTa-d2を主体とする。9～11層はⅢB層～黄褐色ロームの崩落で、12層はTa-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。底面に堆積する14層は、黒色土と黄褐色ロームとが交互に堆積する。【壁・底面】壁は崩落により底面から上部に向かって外傾する。底面は平坦で短冊形を呈し、立ち上がりが角張る。

付属遺構：底面で杭痕が1か所検出された（SP-1）。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性はある。（山中）

TP-17（図V-17 図版38-2・3）

位置：q30区 調査区南西端の標高43～44mの斜面上に立地する。近接する遺構はない。

規模：確認面3.44×0.91 底面3.18×0.20 最大深さ1.36m 平面形態：長楕円形（溝状） 長軸は等高線に平行

特徴：【確認】 Ta-d1上面まで掘り下げた段階で黒褐～橙色の細い筋状の範囲を確認した。【調査】 細い筋状の南側半分を掘り下げ、深い溝状であることと、覆土の堆積壁の形状などからTピットと判断した。【堆積】 覆土は全体的に風化して灰色がかった黄褐色ロームが主体で、壁側からの崩落土・流入土からなる。【壁・底面】 風化した黄褐色ローム層までを掘り込んでいる。短軸上の壁面は細い底面から急な立ち上がりの「V」字形になる。長軸方向にも立ち上がりは急で、北壁はオーバーハングしている。底面は細く、平坦面は少ない。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性はある。（藤井）

TP-18（図V-18 図版38-4・5）

位置：c36・37、d37区 調査区北部の標高46.5mの斜面上部に立地する。西に土坑P-13、盛土遺構M-2、南東に掘り上げ土DU-1と近接する。

規模：確認面2.73×0.85 底面2.98×0.17 最大深さ1.16m 平面形態：長楕円形 長軸は等高線に平行

特徴：【確認】 Ta-d1層上で褐灰色土の長楕円形範囲を確認することができた。【調査】 長楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、深い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】 覆土は上中下層に大別される。上層は凹みに堆積した黒味の強い腐植土層、中層は縦に長い、流入を基とした堆積でTa-d2ブロックを多く含む。下層は灰褐を基調とした軟らかい壤土層で上、中と比べて混入が少ない。【壁・底面】 Ta-d1層からSpflまでを掘り込んでつくられている。短軸上は細い溝から急な立ち上がりの「V」字形、長軸上は底面部が大きくふくらむオーバーハングになる。底面は細いが平坦である。

遺物出土状況：覆土中に頁岩製Uフレイクが1点出土した。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性はある。（藤井）

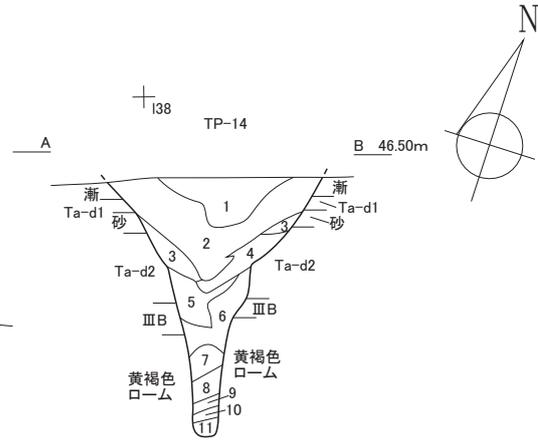
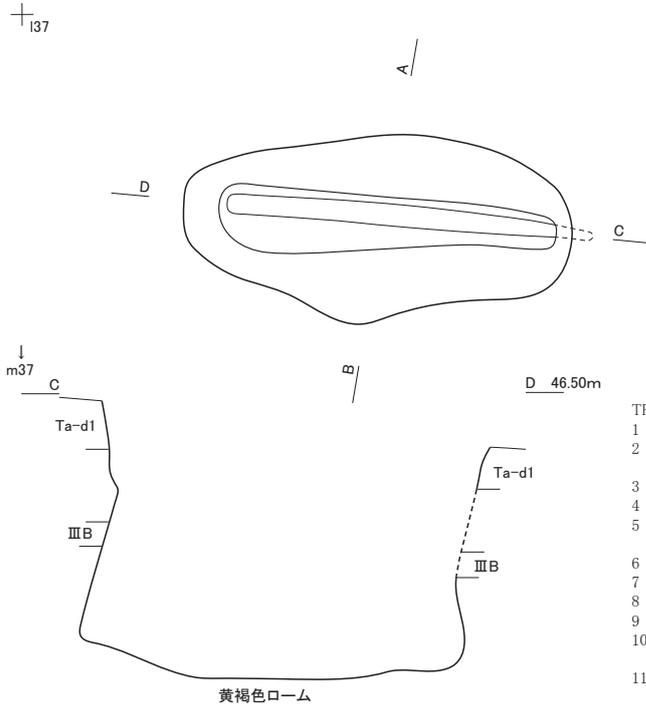
TP-19（図V-18 図版39-1・2）

位置：g40・41、h40区 調査区中央部やや東寄りの標高46.8mの平坦面上に立地する。周辺に近接する遺構はないが、周囲8～10mの範囲にTピットが7か所ある。

規模：確認面1.84×0.91 底面1.48×0.12 最大深さ1.30m 平面形態：楕円形 長軸は等高線に平行

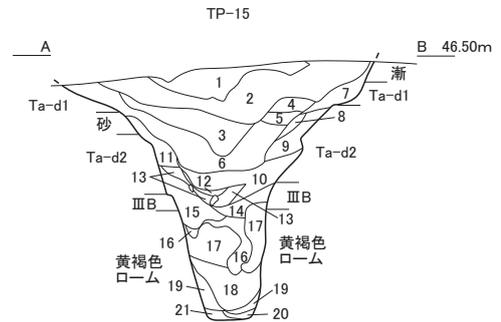
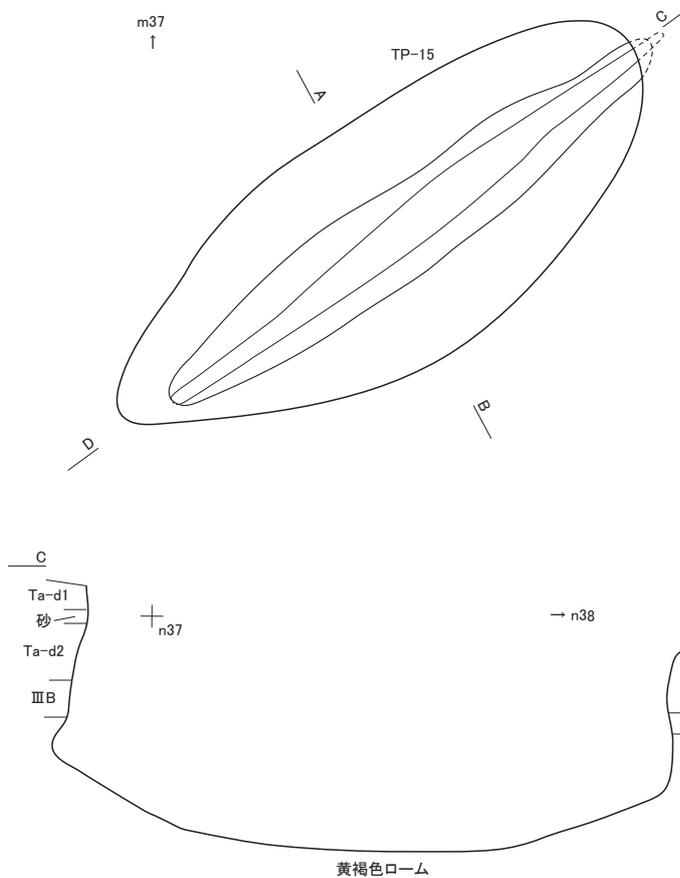
特徴：【確認】 Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認することができた。【調査】 楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、細い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】 覆土は上中下層に大別される。上層は凹みに堆積した黒味の強い腐植土層で、Ta-d1粒を多く含み分厚い。中層は流入土、崩落土が主体で、Ta-d2ブロックが多く含ま

TP-14



- TP-14
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒3% 均質 II B層
 - 2 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10% 均質 II B層 最下部に5cm±のTa-d1礫ややまとまる
 - 3 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
 - 4 暗褐:10YR3/3 埴土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒30% 均質
 - 5 褐灰:10YR6/1 砂主体 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1とd2の互層 Ta-d1(10YR3/3暗褐)・d2(5YR4/8赤褐)
 - 6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性中～強 堅密度堅
 - 7 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度軟～しよう
 - 8 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒状5% 均質
 - 9 黄褐:10YR5/8 黄褐色ローム主体 粘性なし 堅密度軟 ロームと8の互層
 - 10 暗褐:10YR2/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度軟～しよう Ta-d1(5mm以下)主 Ta-d2粒状5%
 - 11 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中～強 堅密度軟 Ta-d2粒状5%

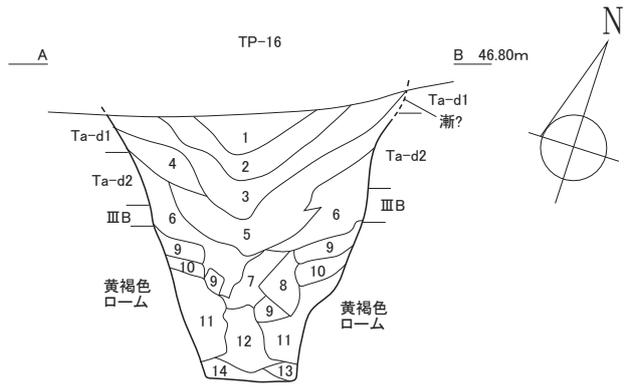
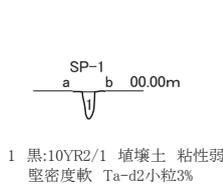
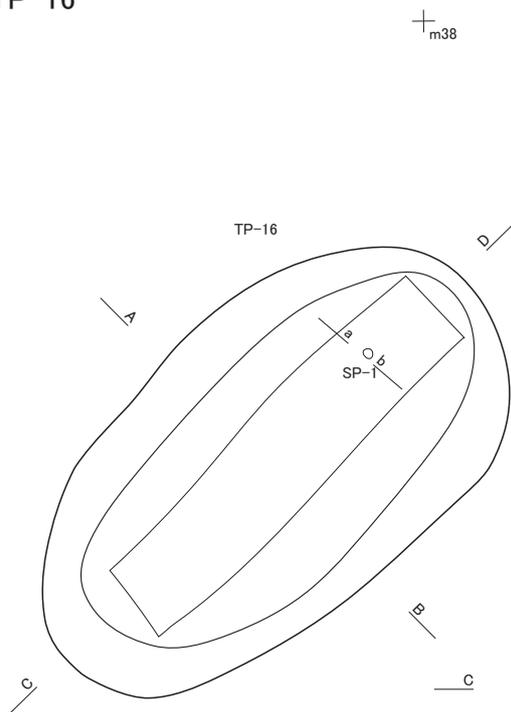
TP-15



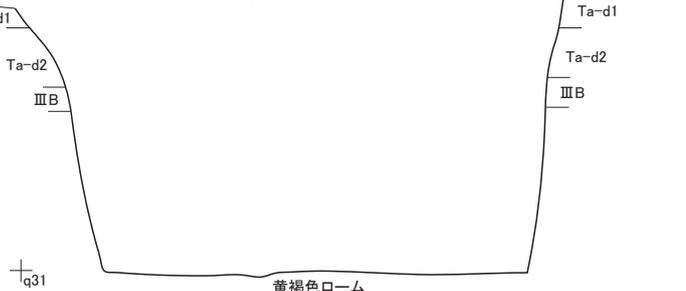
- TP-15
- 1 明褐:7.5YR5/8 粘性中 堅密度堅
 - 2 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度堅 Ta-d粒5 均質
 - 3 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10 均質
 - 4 暗褐:10YR3/3 粘性中 堅密度軟 Ta-d1(5mm±)25%
 - 5 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒2% 均質
 - 6 黒褐:10YR2/2 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10% 均質
 - 7 黒褐:10YR3/2 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒15% Ta-d2(1cm±以下)2% 攪乱?
 - 8 暗褐:10YR3/3 粘性中 堅密度軟 Ta-d1(5mm±)25%
 - 9 褐:10YR4/4 粘性なし 堅密度堅
 - 10 赤褐:5YR4/8 粘性中～強 堅密度堅
 - 11 暗褐:10YR3/3 粘性なし 堅密度堅
 - 12 黒褐:10YR2/2 粘性中堅密度堅 Ta-d1礫1.5cm以下25%
 - 13 褐:10YR4/4 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1(5cm±)の角礫2個
 - 14 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm±)3% Ta-d2(1cm以下)10% 均質
 - 15 赤褐:5YR4/8 粘性なし
 - 16 褐:10YR4/4 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1(2cm±)礫2%
 - 17 赤褐:5YR4/8 粘性中～強 堅密度軟～堅
 - 18 赤褐:5YR4/8 粘性なし 黄褐ローム:10YR5/8(10%)
 - 19 黄褐:10YR5/8 粘性中 堅密度軟
 - 20 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度軟
 - 21 暗褐:10YR3/3 粘性中 堅密度軟

図 V-16 Tピット (7) TP-14・15

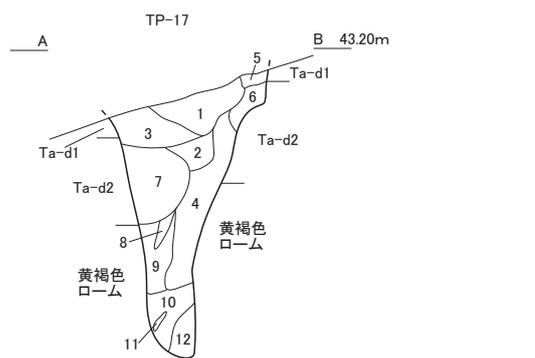
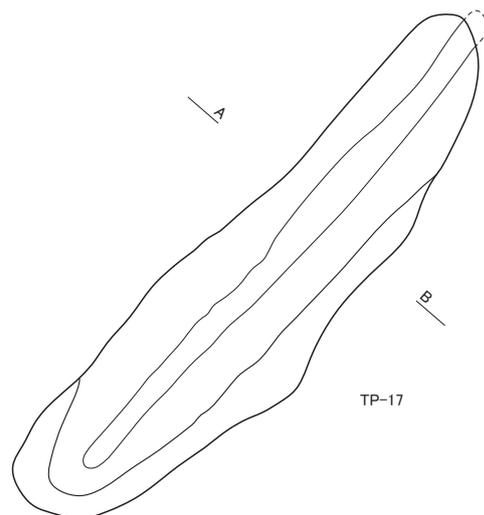
TP-16



- TP-16
- 1 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒6% Ta-d2(1cm以下)1% II B層
 - 2 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒1% Ta-d2(2cm以下)3% 中央の凹にみまるとまる
 - 3 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒5% II B層
 - 4 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(1cm以下主)25%
 - 5 黒褐:10YR3/1 埴土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(5mm±以下主)25% Ta-d2(2cm以下)2%
 - 6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 堅密度軟
 - 7 暗褐:10YR3/3 堅密度堅 Ta-d2小粒15%
 - 8 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 堅密度軟
 - 9 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟 右側の9は10YR2/1黒が上半分程度みられる中央の9は大半が10YR2/2
 - 10 にぶい黄褐:10YR4/3 埴土 粘性中～強 堅密度軟
 - 11 黄褐:10YR5/6 埴土 粘性中～強 堅密度軟
 - 12 黒褐:10YR2/3 堅密度軟 Ta-d2(2cm以下)20% 10YR2/1黒土7%
 - 13 黄褐:10YR5/6 堅密度軟 12が10%
 - 14 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2(1cm以下)5% 軟とロームの互層ともに薄層



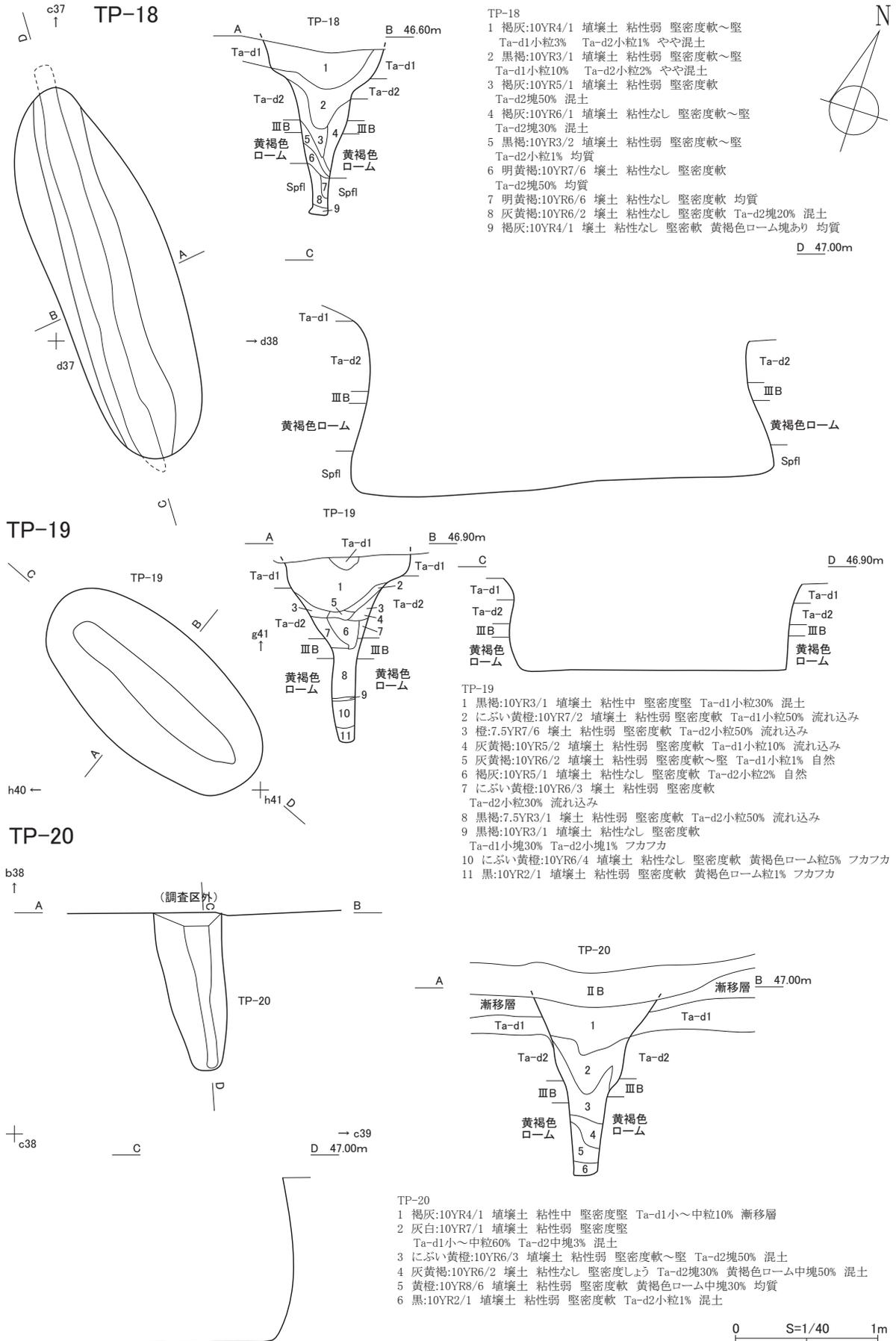
TP-17



- TP-17
- 1 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% Ta-d2塊2%
 - 2 にぶい黄橙:10YR6/3 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2中粒1%
 - 3 橙:7.5YR7/6 埴壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1 バミス1% Ta-d2塊3% 黄褐色ローム バミス若干
 - 4 灰黄褐:10YR6/2 埴壤土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小粒・バミス20・30% Ta-d2小粒2%
 - 5 にぶい黄橙:10YR7/3 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒1% Ta-d2小粒1%
 - 6 黄橙:10YR8/6 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1 バミス1%
 - 7 にぶい橙:7.5YR7/4 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1 バミス1% Ta-d2あり
 - 8 灰黄褐:10YR4/2 埴土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2小粒2%
 - 9 にぶい黄橙:10YR7/2 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1 バミス1% Ta-d2塊1%
 - 10 灰白:10YR8/2 埴土 粘性なし 堅密度軟
 - 11 にぶい黄橙:10YR7/4 埴土 粘性なし 堅密度軟
 - 12 にぶい黄橙:10YR7/4 埴土 粘性なし 堅密度軟 黄褐色ローム塊20%



図 V-17 Tピット (8) TP-16・17



図V-18 Tピット(9) TP-18・19・20

れる。下層は黒味のある腐植質な土で混入が比較的少なく、軟らかいのが特徴である。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は細い溝の底面から半ばまで垂直な立ち上がりで、上半部で広がる「Y」字形である。長軸上は急な立ち上がりである。底面は細く、平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。 (藤井)

TP-20 (図V-18 図版39-3)

位置：b38区 調査区北端にあたる標高47mの尾根筋上の平坦面に立地する。近接する遺構はなく、周囲8～10mのところにTピットが3か所ある。

規模：確認面1.02×0.46 底面1.00×0.17 最大深さ1.18m 平面形態：長楕円形（部分）長軸が等高線に平行

特徴：【確認】ⅡB層下層中に楕円形をした褐灰色土の範囲を確認した。【調査】範囲の北側は調査区外にあたり、区界を壁にして南側を掘り下げた。細い溝状であること、覆土の堆積、壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別される。上層は凹みに堆積した灰色の腐植土層。中層はTa-d1とTa-d2それぞれの崩落、流入土の堆積。下層は灰～黒味のある黄褐色ロームを含む軟質な堆積である。【壁・底面】ⅡB層から黄褐色ローム層まで掘り込んでいる。短軸上は細い溝の底面から下半部は壁が直立し、上半部で広がる「Y」字形に近い。長軸上はオーバーハングに近い立ち上がりである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。 (藤井)

TP-21 (図V-19 図版39-4・5)

位置：b44・45区 調査区北東端にあたる標高44mの斜面上に立地する。南側3mにTP-11、西側4mにDU-3がある。

規模：確認面(1.80)×0.80 底面(1.60)×0.20 最大深さ1.28m 平面形態：長楕円形（部分）長軸は等高線に平行

特徴：【確認】Ta-d1上面で長楕円形をした褐灰色土の範囲を確認した。【調査】長楕円形の中央部にベルトを残して両側を掘り下げた。細い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別される。上層は主体のⅡB層と壁側の流入土に分けられる。流入土にはTa-d1・d2が含まれる。中層はⅡB層とTa-d2との混土層になる。下層は黒味のある混入の少ない軟らかい土が主体になる。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ローム層までを掘り込む。短軸上の壁は細い溝の底面から下半部は壁が直立し、上半部で広がる「Y」字形である。長軸上の壁はやや緩やかである。底面は細く平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。 (藤井)

(4) 焼土 (F)

F-1 (図V-19 図版40-1・2)

位置：o35・36区 調査区南西部の台地先端に位置する。確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面1.24×0.70 最大厚0.10m 平面形態：不整形

特徴：【確認】ⅡB層の掘り下げ中に、炭化木片を伴う赤みを帯びた土が広がっていたので、焼土と判断した。【調査】焼土の中央に小トレンチを入れて断面を観察したところ、赤みのやや強い部分が大きく2か所認められた。堆積状況などから判断すると、焼土ではあるが、この場所で形成されたものではない可能性が高い。【堆積】断面で認められた2か所の焼土はどちらも層界が画然としている。南側の焼土は厚さ10cmで色調にむらがあり、北側の焼土は2cm程度と薄い。焼土上面の中央から北側にかけて炭化木片の薄層が堆積する。

遺物出土状況：焼土上面でⅢb類土器1点、焼土のすぐ南側でⅢb類土器と礫がややまとまって出土した。

時期：検出した層位と出土遺物から、縄文時代中期末葉（北筒式期）と考えられる。

掲載遺物：Ⅲb類土器胴部片1点を掲載した。（図V-26-23）（山中）

（5）遺物集中（C）

C-1（図V-19 図版40-3）

位置：h37、i37区 標高46.2～46.6mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。掘り上げ土DU-6と重複し、西にP-7・8、東にSC-2・4に近接する。

規模：長径3.08×短径1.76m 平面形態：不整楕円形（範囲）

特徴・調査：剥片集中である。ⅡB層1回目の掘り下げ時に、黒曜石の剥片・碎片が集中して出土した。集中の範囲を記録（1回目）してⅡB層をさらに掘り下げたところ、集中の南側に掘り上げ土を確認した。掘り上げ土に剥片・碎片は含まれないが、その周囲と下位のⅡB層では剥片・碎片が集中していたため、再度範囲を記録（2回目）した。その最下位では、頁岩のつまみ付きナイフ、スクレイパー、緑色泥岩の磨製石斧、石のみからなる石器集中（C-3）を検出した。

ⅡB層1回目の掘り下げ時に黒曜石の剥片が集中して出土した。層位は重複する掘り上げ土より上位のⅡB層から大半が出土した。剥片は10cm前後のレベル差をもって出土した。赤井川産黒曜石の特徴がみられるものが多い。剥片は大きいものでも3cm程度、1cm未満の碎片が大部分で、石器素材と成り得るものはない。

遺物出土状況：石器（剥片）が13,689点、総重量275.4g出土した。全て径1cm以下の碎片（チップ）で、黒曜石製が13,683点、頁岩製が6点である。黒曜石には球顆が見られるものが多い。

時期：縄文時代前期前半（Ⅱa-2類 静内中野式期）もしくは縄文時代中期末葉（北筒式期）の可能性がある。（藤井・山中）

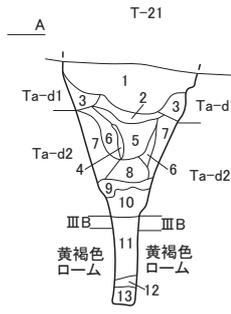
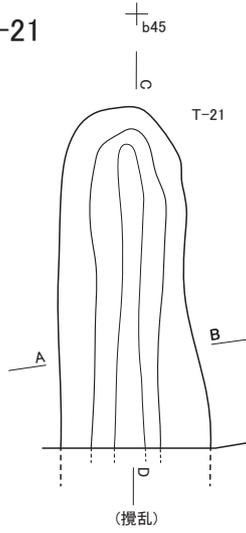
C-2（図V-20 図版40-3）

位置：h38、i38区 標高46.8～47.0mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。西に剥片集中C-1、C-3、掘り上げ土DU-6、東にTP-12に近接する。

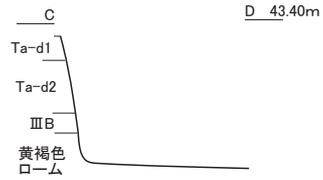
規模：長径2.0×短径1.2m 平面形態：不整楕円形（範囲）

特徴：剥片集中である。【確認】ⅡB層1回目の掘り下げ時に、黒曜石の剥片・碎片が集中して出土した。集中の東側には両面加工石器の破片が2点あり、剥片・碎片はその下位で特に多い。集中の範囲を記録（1回目）してⅡB層をさらに掘り下げたところ、一部で掘り上げ土を確認した。掘り上げ土に剥片・碎片は含まれないが、その周囲と下位のⅡB層では剥片・碎片が集中していたため、再度範囲を記録（2回目）した。

TP-21



B 43.30m

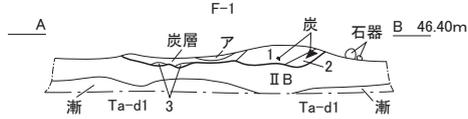
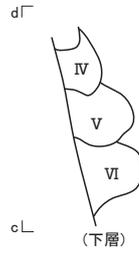
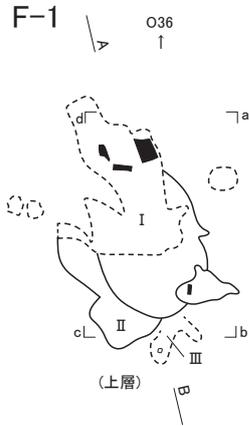


D 43.40m

TP-21

- 1 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒5% Ta-d2小粒1%
- 2 褐灰:10YR6/1 埴土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d1小〜中粒50%
- 3 にぶい黄橙:10YR6/3 埴土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d1小〜中粒50% Ta-d2中塊3% 流入土
- 4 褐灰:10YR5/1 埴壤土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒1% 混入の少ない層
- 5 褐灰:10YR4/1 埴壤土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小〜中粒10%
- 6 灰黄褐:10YR6/2 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1中粒5% Ta-d2小塊10%
- 7 明黄褐:10YR7/6 埴土 粘性弱 堅密度しよう Ta-d2大塊50%
- 8 黒褐:10YR3/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% Ta-d2大塊20%
- 9 褐灰:10YR6/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1中粒30%
- 10 明黄褐:10YR6/6 埴土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2大塊50%
- 11 にぶい黄褐:10YR5/3 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2中塊40%
- 12 灰黄褐:10YR6/2 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1中粒10% Ta-d2中粒10% 黄褐色ローム小粒10%
- 13 黒:10YR2/1 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 フカフカ Ta-d1小粒1%

F-1



F-1

- ア 黒褐:10YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟 炭化物層の直上にあたる Ta-d1小粒20%
- 1 暗赤褐:5YR3/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 焼土1mm程度の焼土粒5%が均質に混じる
- 2 暗褐:7.5YR3/3 埴壤土 粘性中 堅密度軟〜堅 焼土の漸移層
- 3 にぶい赤褐:5YR4/4 埴壤土 粘性中 堅密度軟〜堅 焼土

└b F-1

- I 暗赤褐:5YR3/2 埴壤土 粘性中 堅密度堅 炭化木片がのる、骨片は見られないのり状に炭が残る
- II 黒褐:5YR2/1 埴壤土 粘性中 堅密度軟〜堅 部分的に斑状に焼土が混じる
- III II B層 土器片集中範囲
- IV 褐:7.5YR4/6 埴壤土 粘性中 堅密度堅 焼土 上面に2cm以下の炭7%
- V 黒褐:7.5YR2/2 埴壤土 粘性中 堅密度軟〜堅 上面に1cm以下の炭3% VIの直上
- VI 暗褐:7.5YR3/4 埴壤土 粘性中 堅密度軟〜堅 上面に3cm以下の炭3%

C-1 DU-6



図V-19 Tピット(10)・焼土・遺物集中(1)・掘り上げ土(1) TP-21 F-1 C-1 DU-6

集中の黒曜石は赤井川産とみられるものが多い。剥片・碎片は大きいもので2 cm強であるが、大部分は1 cm以下で、石器の素材と成り得るものはない。なお、集中部分の土壌を土のう袋で取上げ、水洗選別を行ったところ、剥片・碎片が5,479点得られた。

遺物出土状況：石器・礫片5480点が出土した。石器は黒曜石製の剥片5,479点、総重量166.4gと石槍部分片1点である。この内の剥片2点を抽出し、原産地分析を行った結果2点とも赤井川産との判定された。礫片は安山岩のものである。

時期：縄文時代前期前半の可能性がある。検出状況から、隣接するC-1とは同時期と考えられる。

掲載遺物：黒曜石原産地分析を行った2点の剥片を掲載した。(図V-33-67・68) (藤井・山中)

C-3 (図V-20 図版40-4)

位置：h37、i37区 調査区中央西側、標高46mの斜面肩部に立地する。C-1・2・5、P-7に近接する。

規模：確認面0.47×0.26 m **平面形態：**ほぼ円形(範囲)

特徴：石器集中である【確認】ⅡB層3回目の掘り下げ時に検出した。C-1の掘り下げ中に検出した。集中範囲には、C-1の剥片・碎片が散在する。両面加工のつまみ付きナイフ(69)をのぞき、石器は東側へやや傾くが、石のみ(76)は側面を上にしてほぼ直立する。中心部の剥片石器5点(70・71・72・73・74)は腹面が上を向く。

遺物出土状況：石器10点、総重量465.1gが出土した。石器はつまみ付きナイフ4点、スクレイパー3点、石斧3点である。全て掲載した。

時期：周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半の可能性がある。

掲載遺物：つまみ付きナイフ(図V-34-69～72)、スクレイパー(73～75)、石斧(76～78)を掲載した。(藤井・山中)

C-4 (図V-20 図版40-5)

位置：j37区 標高46.3～46.4mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。西にTP-5、P-3に近接する。

規模：長径2.0×短径1.2m **平面形態：**不整楕円形(範囲)

特徴：礫集中である。【確認】ⅡB層下位で、径10cm前後の扁平な円礫または楕円礫とそれらの破片が集中していた。礫のなかには被熱したものや、この場で砕けたものもある。礫種は安山岩、砂岩、片麻岩などが見られる。

遺物出土状況：土器1点、石器1点、礫・礫片45点(重量3890.3g)が出土した。土器1点は胴部細片で縄文前期前半のものである。石器1点はたたき石片で安山岩製である。被熱している。礫・礫片は安山岩、砂岩、片麻岩からなる。扁平礫または円礫が多いのが特徴で、完形が12点、破片26点である。被熱の痕跡が多く見られ、割れたものもあり、接合によって完形となったものも多い。また異なる番号の接合も6件あり、被熱して割れた後に礫が移動した可能性もある。

時期：縄文時代前期前半の頃と思われる。

掲載遺物：たたき石1点を掲載した(図V-34-79 図版51)。礫・礫片は図版51-(1)～(9)で掲載した。(山中)

C-5 (図V-20 図版40-6)

位置：h37・38区 調査区中央西側の斜面肩部に位置し、標高は約47mを測る。

規模：確認面4.68×2.72m **平面形態：**不整形

特徴：土器集中である。【確認】ⅡB層下位で、Ⅱa-2類(静内中野式)の土器片が比較的まとまって出土した。破片は大きいもので8 cm程度を測るが、全体的に残存状態は不良で、2 cm程度の剥離し

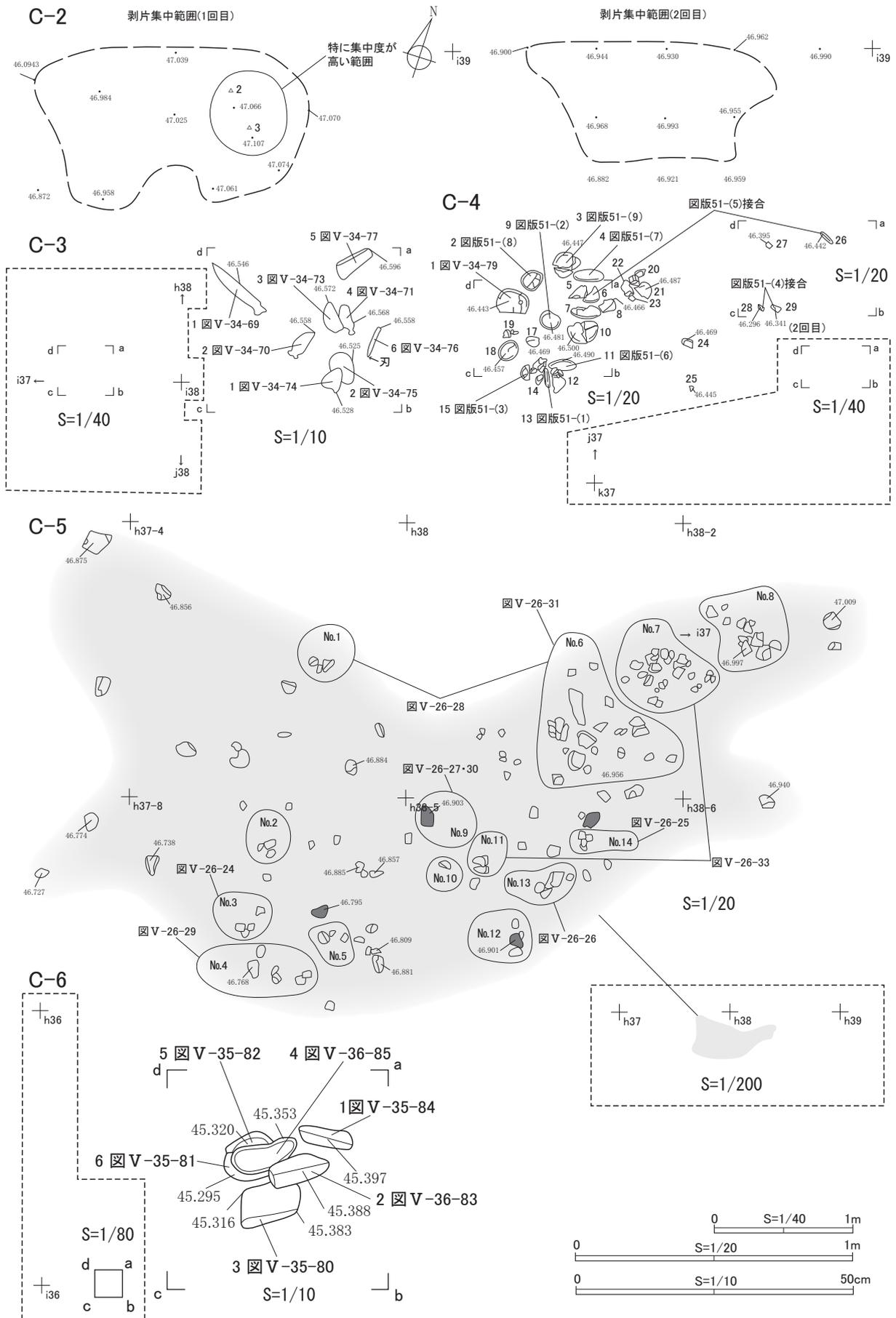


図 V-20 遺物集中(2) C-2・3・4・5・6

た小破片も多い。【特徴】盛土遺構M-1とM-2の間に位置することと時期が縄文前期前半であることから、盛土遺構の一部にあたる可能性もある。

遺物出土状況：土器数は164点。頁岩の礫が2点出土した。土器は全て縄文前期前半のもので、口縁部片9点、胴部片154点、焼成粘土塊1点である。

時期：縄文時代前期前半（Ⅱa-2類 静内中野式期）である。

掲載遺物：縄文前期前半の土器片10点を掲載した（図V-26-25～34）。（藤井・山中）

C-6（図V-20 図版40-7）

位置：h36、i36区 調査区中央西寄りの斜面肩部に位置する。P-4覆土上面で確認された。北側にP-7と近接する。

規模：確認面0.30×0.20m

特徴：石斧等集中である。素材及び未成品、転用品からなる。【確認】Ta-d1の面で、楕円形を呈する黒色土の中央に、石斧素材とみられる緑色泥岩が6点集中していた。【調査】集中の西側を掘り下げて土層断面を確認したところ、土坑P-4の埋没過程で生じたくぼみに集積されており、P-4に伴うものではない。

遺物出土状況：石斧未成品5点、石斧原石1点、総重量1961.1gからなる。全て緑色泥岩製である。6点のうち、2～5の5点は重なって出土した。3・5・6は集積の中央に向かって傾く。

時期：周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期末葉（Ⅲb類 北筒式期）の可能性がある。

掲載遺物：6点全て掲載した（図V-35・36-80～85）。（藤井・山中）

（6）掘り上げ土（DU）

DU-1（図V-21 図版41-1）

位置：c37、d37区 調査区北西側の斜面肩部に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面2.12×1.40 最大厚0.06m 平面形態：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層の掘り下げ中に、Ta-d2と黄褐色ロームの広がりを確認した。黄褐色ロームにTa-d2が混在する部分と、それぞれが単独でまとまる部分とがある。【調査】堆積状況を確認するため、広がり中央に小トレンチを入れたところ、遺構や土層の攪乱が認められなかったため、掘り上げ土と判断した。なお、掘り上げ土のすぐ西側でTP-18が検出されている。【堆積】1層は黄褐色ロームにTa-d2が混在し、2層は黄褐色ロームが主体である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代のものであるが、詳細の特定には至っていない。Tピットの掘り上げ土であれば、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

DU-2（図V-21 図版41-2）

位置：b40区 調査区北端、標高46.3mの斜面上部に立地する。周辺に遺構はなく、西側8mにTP-20、東側10mにDU-3がある。

規模：確認面1.51×1.34 最大厚0.08m 平面形態：楕円形（部分）北側が調査区界

特徴：【確認】ⅡB層上面精査時にTa-d2粒とⅡB層との混土の広がりを確認した。

【調査】楕円形の広がり南側半分を掘り下げて、土層断面の堆積と遺構を伴っていないことを確認し、掘り上げ土とした。【堆積】Ta-d2ブロック、小粒とⅡB層との混土が薄く堆積する。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。
(藤井)

DU-3 (図V-21 図版41-3)

位置：b43区 調査区北端、標高44～45mの緩斜面上に立地する。東側5mにTP-11・21がある。

規模：確認面2.82×1.58 最大厚0.12m 平面形態：長楕円形状の不整形

特徴：【確認】ⅡB層上面精査時にTa-d2粒、黄褐色ローム粒とⅡB層との混土の広がりを確認した。また、混土の内容の組み合わせによって6か所の範囲に区分することができた。【調査】楕円形の長軸に沿って南側を掘り下げて断面を確認した。混土の堆積範囲と伴なう遺構がないことを確認して、掘り上げ土とした。【堆積】組み合わせの異なる混土が地面の傾斜に沿って薄く堆積する。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。
(藤井)

DU-4 (図V-22 図版41-4)

位置：e36区 調査区北側西寄り、標高45～46mの急斜面上に立地する。盛土遺構M-2の範囲に近接し、北側5mにP-13、TP-18、北東3mにDU-1がある。

規模：確認面2.78×1.56 最大厚(0.05)m 平面形態：不整楕円形(部分)

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで黄褐色ローム粒、Ta-d1・Ta-d2粒とⅡB層との混土が半円状に広がるのを確認した。さらに混土の内容により、4か所の範囲に区分することができた。

【調査】楕円形の長軸に沿ったトレンチにより、堆積状況と伴なう遺構がないことを確認して、掘り上げ土として調査した。【堆積】組み合わせの異なる混土が地面の傾斜に沿って薄く堆積する。

時期：縄文時代にあたるが特定できていない。隣接するM-2の遺物を含まないため、周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。
(藤井)

DU-5 (図V-22 図版41-4)

位置：e37・38、f37・38区 調査区北側西寄りで標高47mの尾根筋上平坦面に立地する。北西にTP-18、西にM-2と近接する。南西4mにDU-4、南3mにDU-5と掘り上げ土が集中する。

規模：確認面3.03×1.05 最大厚0.08m 平面形態：不整楕円形(部分)

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところでTa-d2、黄褐色ロームとⅡB層との混土の広がりを確認した。また、混土の内容により三つの範囲に区分することができた。【調査】楕円形の長軸に沿ったトレンチにより、堆積状況と伴なう遺構がないことを確認して、掘り上げ土として調査した。

【堆積】ⅡB層上にTa-d2主体で黄褐色ロームを含む混土(Ⅰ)、黄褐色ローム主体の混土(Ⅱ)、黄褐色ロームにTa-d2を含む混土(Ⅲ)の3種の堆積が見られた。層厚はいずれも約8～12cmである。

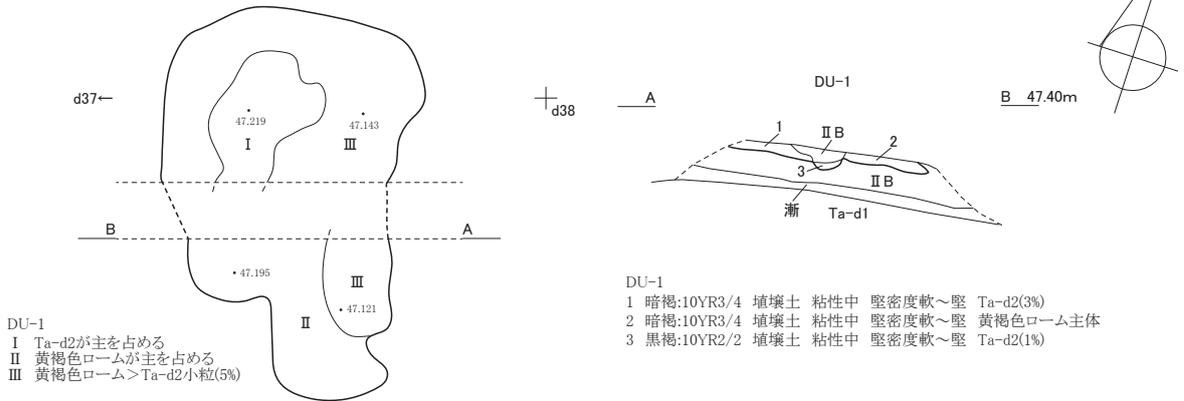
時期：縄文時代と考えられるも詳細は不明である。Tピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。
(藤井)

DU-6 (図V-19 図版41-6)

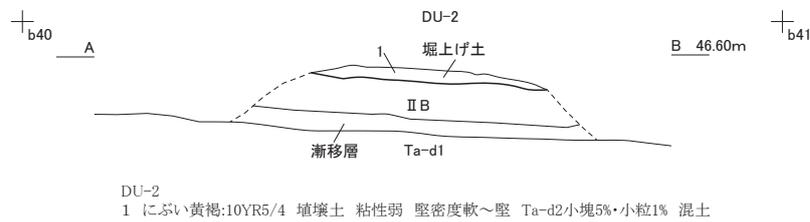
位置：h37・i37区 標高46.2～46.6mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。遺物集中C-1と重複し、西にP-7・8に近接する。

規模：長径4.28×短径2.2m 最大厚0.05m 平面形態：不整形(範囲)

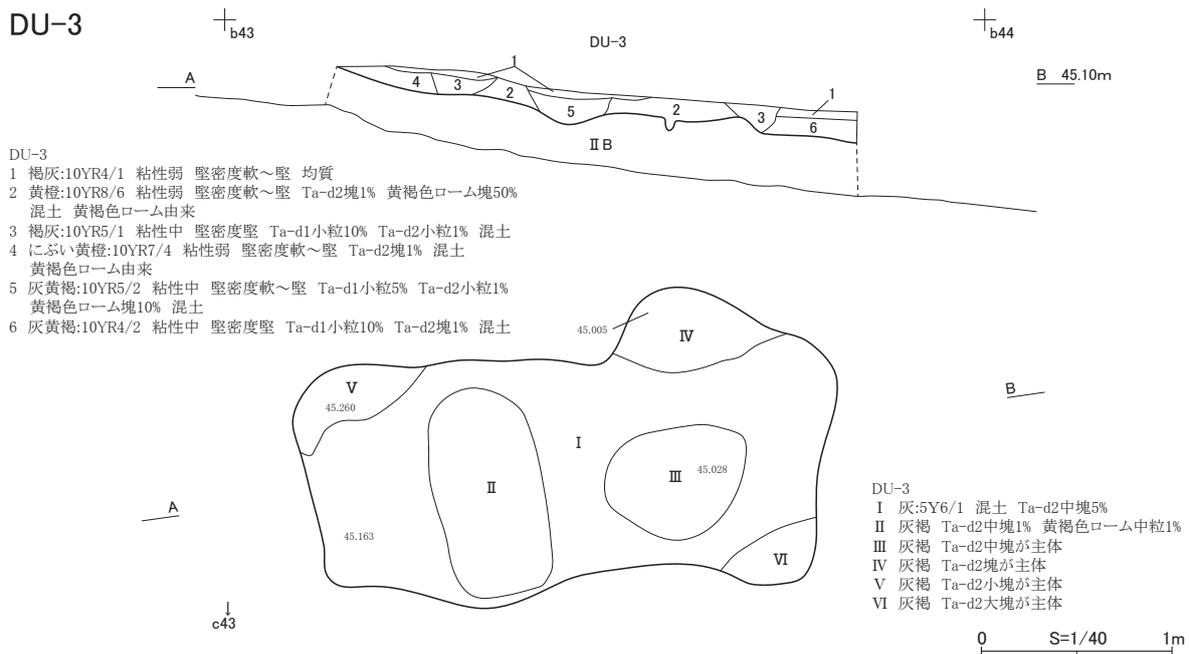
DU-1



DU-2

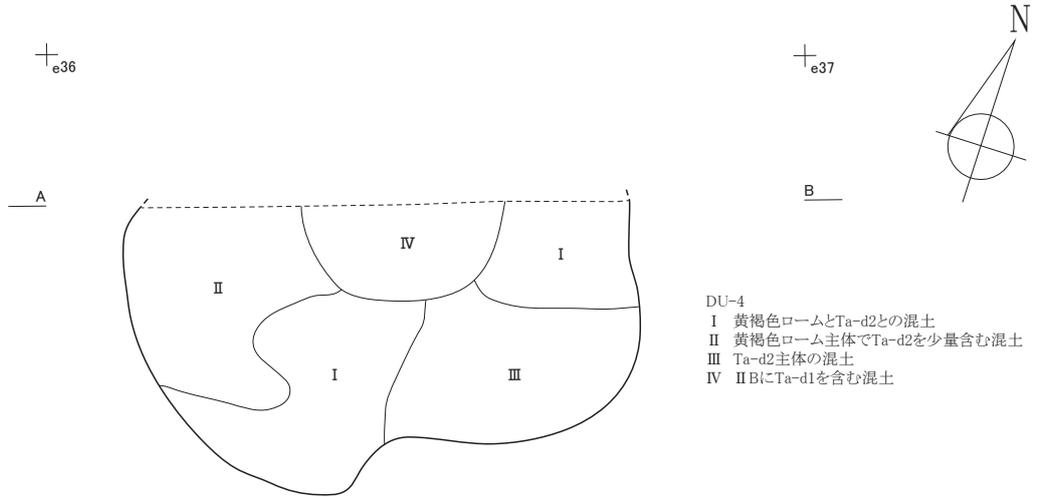


DU-3

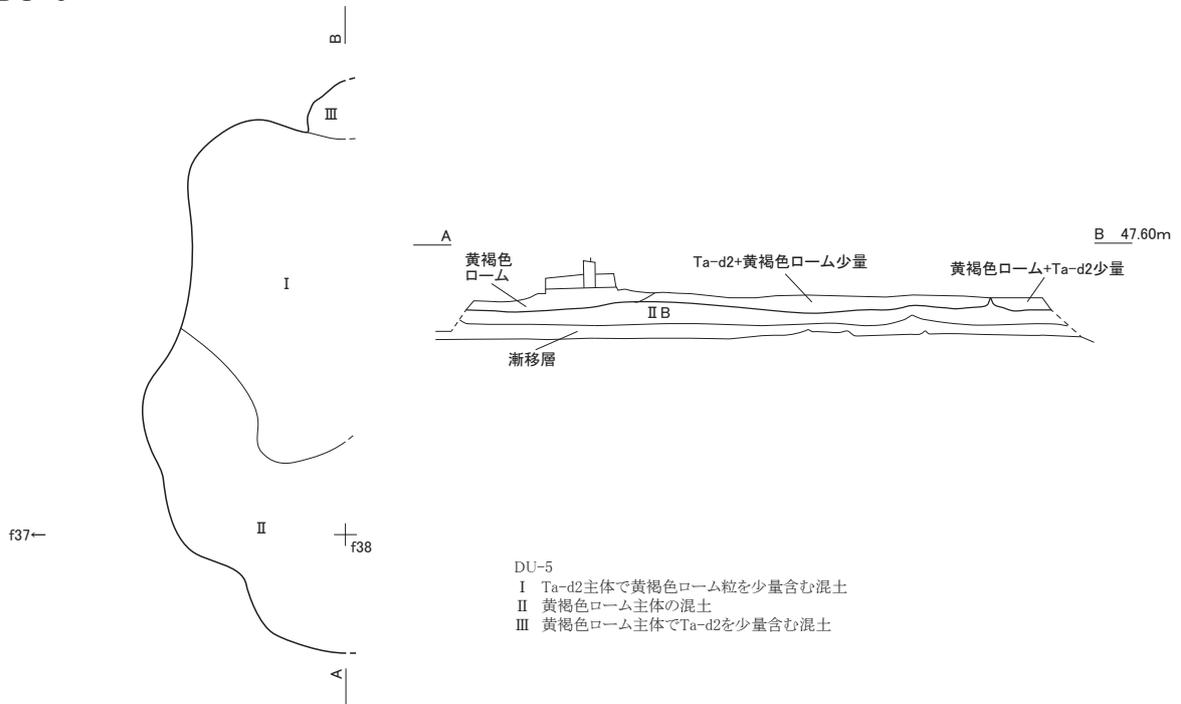


図V-21 掘り上げ土 (1) DU-1・2・3

DU-4



DU-5



CB-1

CB-2

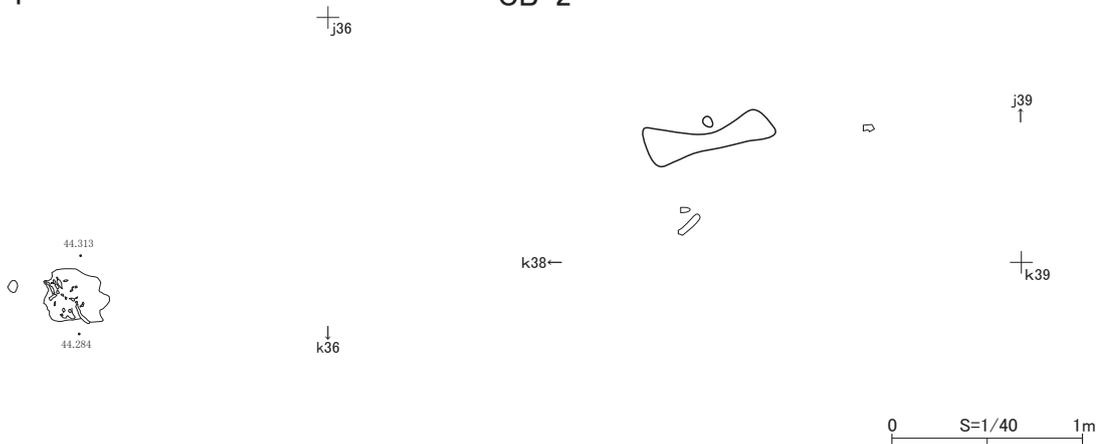


図 V-22 掘り上げ土 (2) DU-4・5 炭化物集中 CB-1・2

特徴：【確認】剥片集中であるC-1の掘り下げ時にⅡB層中で確認した。【調査】C-1に伴うものでなく、ほかに関連する遺構がないことを確認して掘り上げ土として調査した【堆積】Ta-d2とⅡB層との混土中に、黄褐色ロームが分散している状態で堆積する。層厚は約5cmである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：遺物集中C-1との関係から縄文時代中期後半の可能性が考えられる。

(7) 炭化物集中 (CB)

CB-1 (図V-22 図版41-6)

位置：j35区 調査区中央部西側に位置し、標高44~45mの急斜面上に立地する。東側4mにP-9とTP-5がある。**規模：**確認面0.40×0.30m **平面形態：**不整形

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで炭化材のまとまりを確認した。【調査】広がりを確認し、炭化材が紐状に連なる部分、ブロックが重なる部分、湾曲する部分などを観察した。【堆積】薄い炭化物1層のみの堆積

時期：縄文時代、詳細は不明である。確認された層位と遺跡内他の炭化材資料との比較から、縄文後期~晩期の可能性がある。(藤井)

CB-2 (図V-22 図版41-7)

位置：j38区 調査区中央部に位置し、標高47mの平坦面に立地する。北側5mにTP-12、C-2、西側7mにC-4がある。

規模：確認面0.72×0.12m **平面形態：**不整形

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで炭化材のまとまりを確認した。【調査】炭化材、炭化物の広がりを確認し、分布状況の詳細を観察した。炭化材は平面的に扇状に広がる部分と、紐状に連なり湾曲する部分、ブロックが分散する部分とに分かれた。【堆積】伴う遺構はなく、薄い炭化物1層のみの堆積。【分析】Ta8-13として樹種同定を行った結果、コナラ属コナラ節であることが明らかになった。

時期：縄文時代、詳細は不明である。確認された層位と遺跡内の他の炭化材資料との比較から縄文後期~晩期の可能性がある。(藤井)

(8) ⅢB層の遺構

i 柱穴状小ピット (図V-23・24 図版42・43)

SP-1 (図V-23 図版42-2)

位置：j38・39区 調査区中央部、標高46.6mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、グリッド東壁の断面で黄褐色ローム層に落ち込む黒色土を確認した。

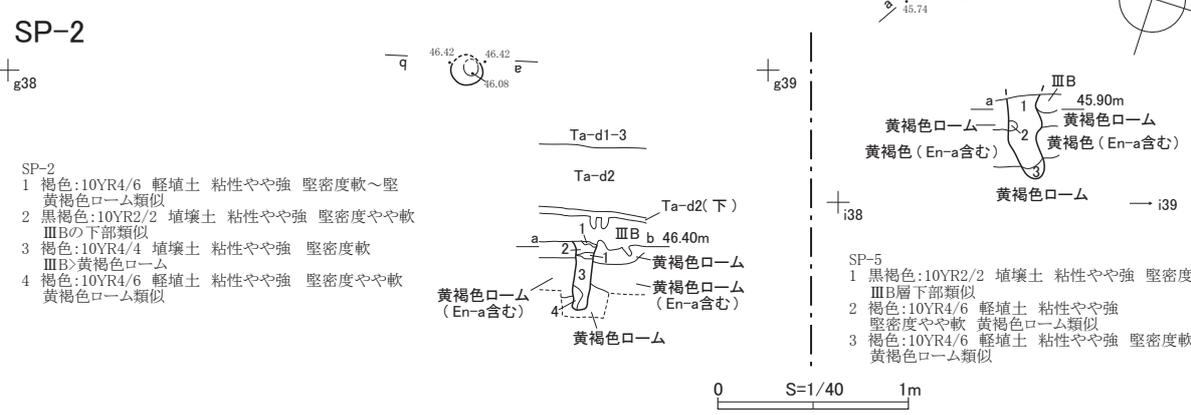
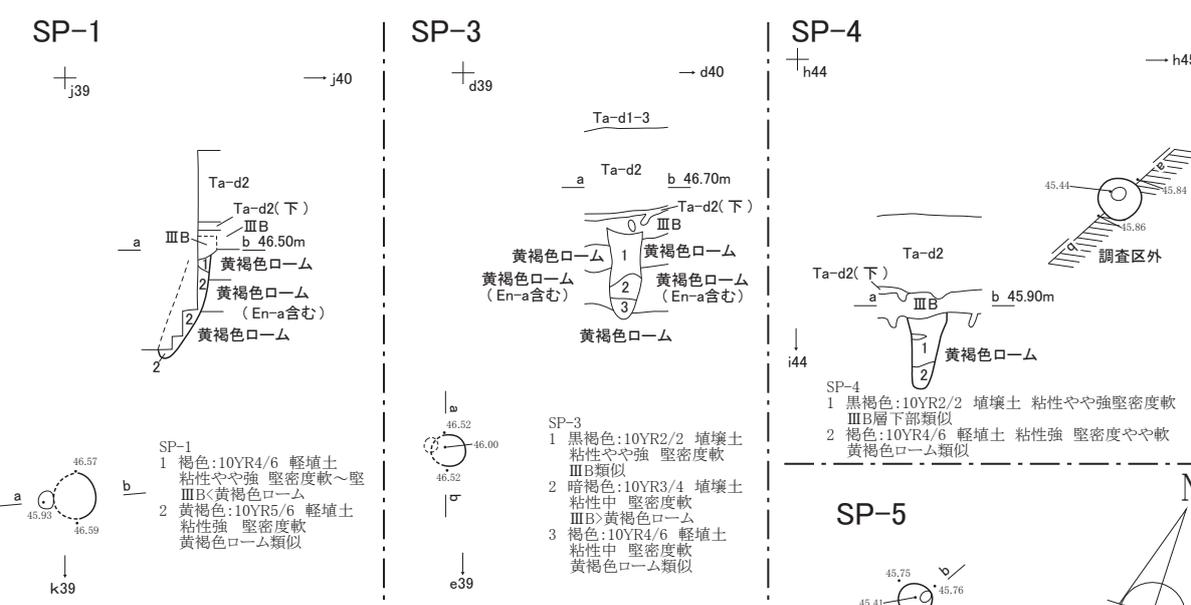
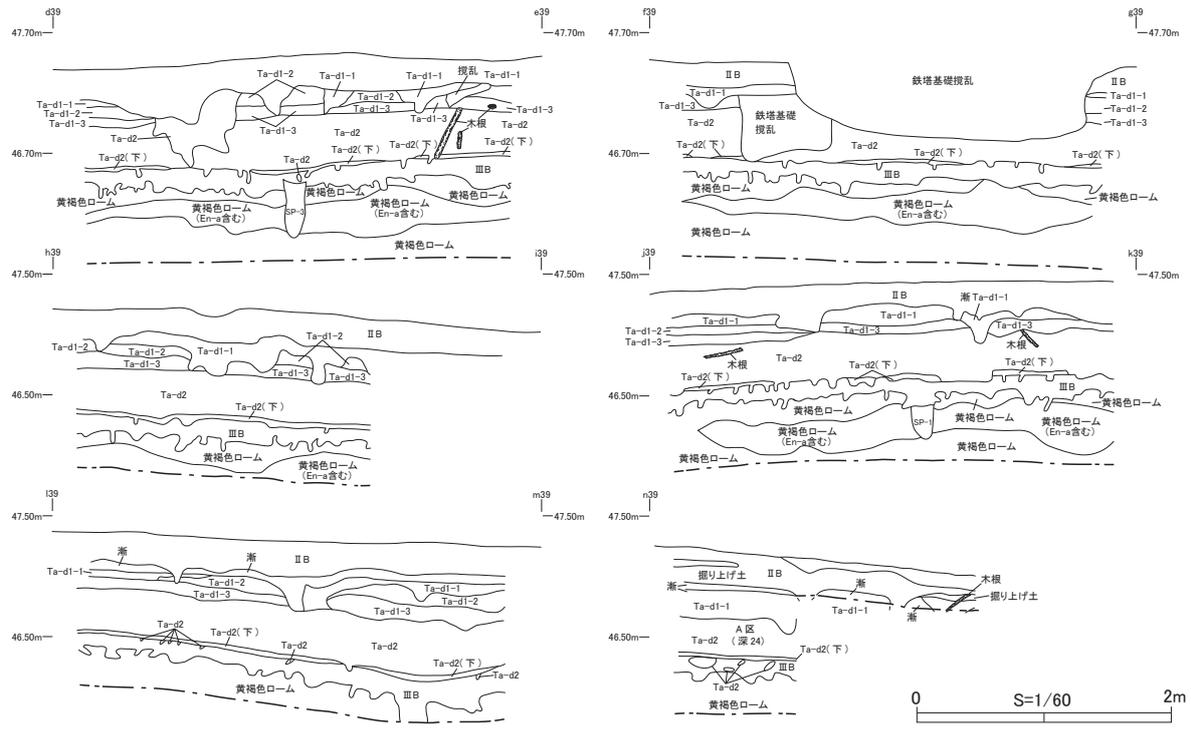
覆土は上部がⅢB層混じりの黄褐色ロームで、下部はしまりの弱い黄褐色ロームである。深さは50cm程で、斜めに傾き、坑底は丸みを帯びる。グリッド内では単独で検出された。遺物の出土はない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。(鈴木)

SP-2 (図V-23 図版42-4)

位置：f38・g38区 調査区中央北寄り、標高46.4mの平坦面に位置する。

39 ラインセクション深掘り部 (d39・f39・h39・j39・l39・n39 区西壁)



図V-23 III B層調査 土層断面及び柱穴状小ピット(1) SP-1・2・3・4・5

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、グリッド南壁断面で黄褐色ローム層に落ち込む黒色土を確認した。

覆土は黄褐色ロームが少量混じるⅢB層主体の2・3層と、黄褐色ローム主体の1・4層が堆積する。深さは36cmで、坑底は平坦である。グリッド内では単独で検出された。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。(鈴木)

SP-3 (図V-23 図版42-5・6)

位置：d38・39区 調査区中央北部、標高46.5mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、グリッド東壁断面で黄褐色ローム層に落ち込む黒色土を確認した。

覆土はⅢB層主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは48cmで、東側に傾き、坑底の形状は不明である。グリッド内では単独で検出された。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。(鈴木)

SP-4 (図V-23 図版42-7)

位置：h44区 調査区東部、標高45.9mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径25cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土は上部がⅢB層類似のもので下部は軟質の黄褐色ロームである。深さは42cmで、坑底は丸みを帯びる。グリッド内では単独の検出である。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。(鈴木)

SP-5 (図V-23 図版42-8)

位置：h38区 調査区中央部、標高45.7mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径20cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土はⅢB層に類似した土が主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは46cmで、下部は傾き、坑底は丸みを帯びる。炭化物集中の周辺に分布するが、明瞭な配列は確認できない。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。(鈴木)

SP-6 (図V-24 図版43-1)

位置：g37区 調査区中央部北寄り、標高45.9mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径25cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

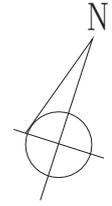
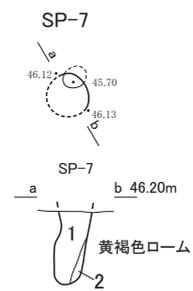
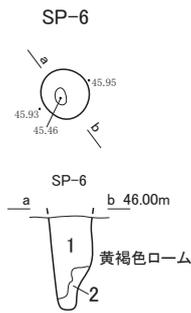
覆土はⅢB層に類似した土が主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは50cmで、坑底は丸みを帯びる。炭化物集中の周辺に分布するが、明瞭な配列は確認できない。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。(鈴木)

SP-6・7

SP-6・7

- 1 黒褐色:10YR2/2 埴壤土 粘性やや強 堅密度軟 III B層下部類似
- 2 褐色:10YR4/6 軽埴土 粘性やや強 堅密度軟 黄褐色ローム①類似

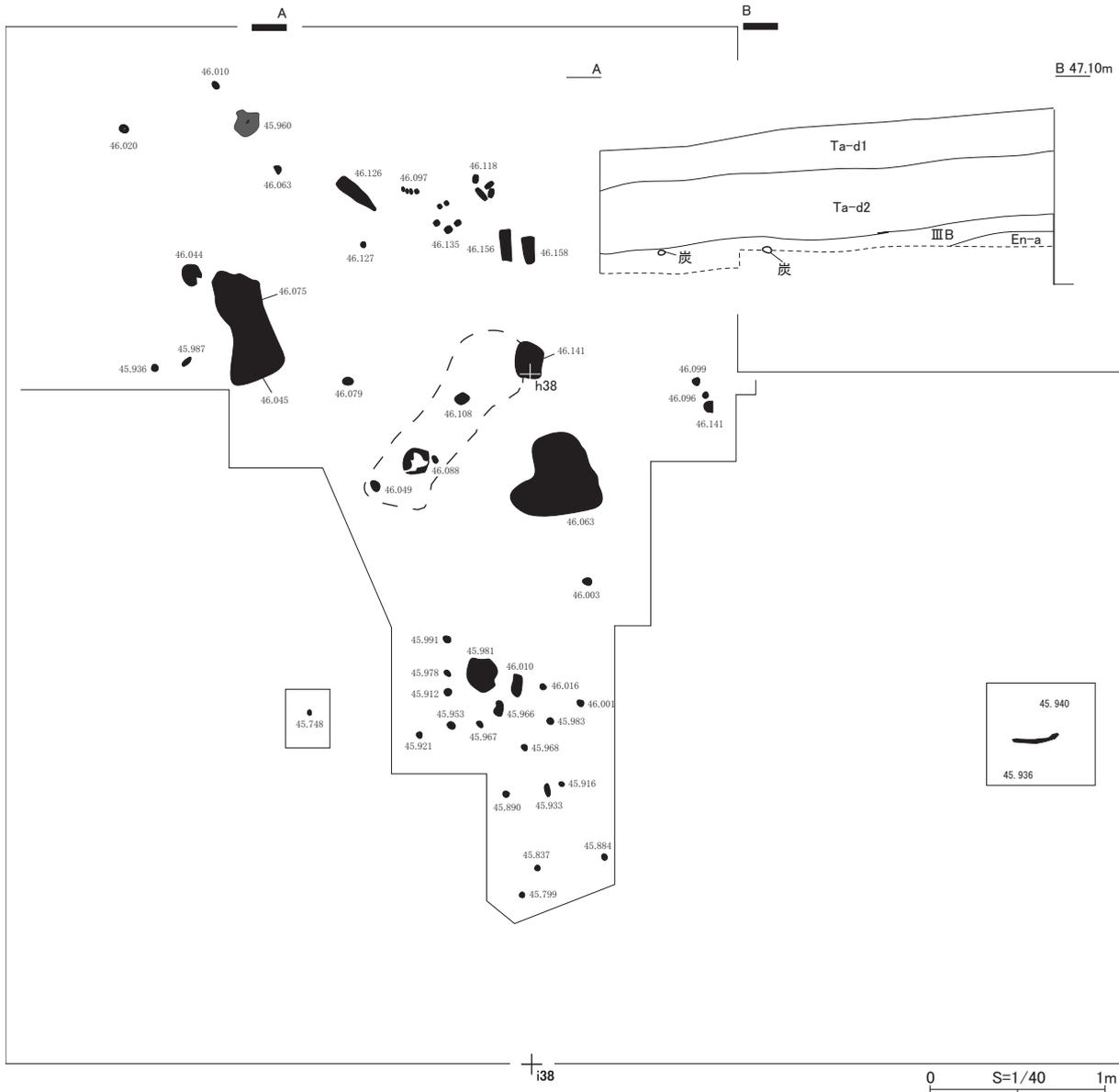


h37

h38

0 S=1/40 1m

III B層炭化物集中 CB-1



図V-24 III B層調査 柱穴状小ピット(2) 炭化物集中 SP-6・7 CB-1

SP-7 (図V-24 図版43-2)

位置：g38区 調査区中央部北寄り、標高46.1mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径22cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土はⅢB層に類似した土が主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは38cmで、坑底は丸みを帯びる。炭化物集中の周辺に分布するが、明瞭な配列は確認できない。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。(鈴木)

ii 炭化物集中 (CB)

CB-1 (図V-24 図版43-3～5)

位置：g37・38、h37・38区 調査区中央部やや北寄りに位置し、標高46.0mの平坦面に立地する。

規模：確認面5.00×2.00m

特徴：【確認】ⅡB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で、炭化材・炭化物粒の集中を確認した。【調査】炭化材・炭化物粒の出土状況を精査し、当初h38区のみ調査範囲を4グリッドに拡張し、集中範囲全体を明らかにすることができた。【堆積】ほとんどが黄褐色ローム土上面にやや大型な炭化物ブロックが分散した状態であるが、ローム上面に貼りつくように薄く広がる状態の炭化物も3か所でみられた。炭化物ブロックが輪状に連なった状態での出土もあった。【分布】h38杭を中心に、径30cmほどのやや大きな広がりがあり、その周辺に向かって小さなブロック状になる傾向が見られる。

時期：ⅢB層の堆積中に形成されたものと考えられる。(藤井)

3 遺物

(1) 概要

B地区から出土した遺物は26,446点である。この内、土器が2,151点、石器が20,426点、礫が3,869点を数えた。石器が最も多いがC-1・2出土の剥片が占める割合が高い。

土器は遺構が618点、包含層が1,533点でⅡa-2類が1,234点、Ⅲb類が909点である。この内、遺構出土を34件、包含層出土を67件掲載した。遺構出土は全てⅡa-2類、包含層は59件がⅡa-2類で、7件がⅢb類に相当する。

石器は遺構が19,060点、包含層が1,366点である。器種は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・石斧・たたき石・すり石・石錘・砥石・台石石皿などが出土した。特につまみ付きナイフ・石錐・石鏃・石斧が多いことに特徴がある。この内、遺構からは83点、包含層からは95点を掲載した。

礫は遺構出土が1,052点、包含層出土が2,817点である。石材は、安山岩・砂岩・片麻岩が多く、扁平楕円礫が多いことに特徴がある。掲載はC-4出土の扁平楕円礫を写真図版に掲載した。

(2) 土器 (図V-25～28 図版46～48 表V-1)

土器は縄文前期前半(Ⅱa-2類)と縄文中期後半(Ⅲb類)のものを掲載した。

Ⅱa-2類は繊維土器の類で、胎土に繊維を多く含み、脆いのが特徴である。今回出土の土器についても器面の多くに剥離、剥落にそれが表れている。この剥落には繊維部分の焼失によって深く大きな欠落が生じたものと、広範囲ではあるが器面を深く損なうことなく、緩やかな凹凸で覆われ、モコモ

コしたような状態のものがあることがわかった。これについて前者を「内部剥落」、後者を「表層剥離」と表現した。また、滑らかな質感のある土器については、調整等によって得られた平滑さとは異なり、素材そのものの滑らかさであることを表すために「スベスベ」と表記した。

【遺構出土の土器】(図V-25～26 図版46・47 表V-1)

図V-25 - 1～14がM-1出土の土器である。すべてⅡa-2類である。

1は復元個体の小型深鉢形土器である。26点が接合し、口縁から胴下半部までを復元できた。口唇付近にわずかに斜行縄文を残すが、器面の殆どが「表層剥離」で占められる。

2～7は口縁部破片である。2・3は器面が縄文と「表層剥離」からなり、黒化してスベスベしている。4・5は斜行縄文のみで、胎土に撚紐痕跡が見られる。6・7も斜行縄文のみであるが、7は黒化し、スベスベしている。8～14は胴部破片である。8・9は斜行縄文と「表層剥離」からなるものでスベスベしている。9は内面に縄文が見られる。10・11は表面の殆どが「表層剥離」で、スベスベしている。12～15は斜行縄文が施され、12はスベスベした黒色化、15は胎土に撚紐痕跡が見られる。

図V-25 - 16、26 - 17・18がM-2出土の土器、口縁部破片である。Ⅱa-2類である。

16・17は大型深鉢の口縁～胴部破片である。16は25点が接合した。上半が斜行縄文、下半が「表層剥離」の組み合わせで、内面では逆になるのが特徴。17は12点が接合した。18は斜行縄文が地文の黒色でスベスベした土器である。内面は「表層剥離」が殆どである。

19～21はP-9出土の土器で、いずれも胴部分である。炭の付着したスベスベした土器が特徴である。

22はTP-1覆土出土の胴部小片で、「表層剥離」が見られる。23はF-1出土土器である。斜行縄文を地文とする胴部片で内面はすべて剥落している。Ⅲb相当と考えられる。24は剥片集中のC-1出土土器で「表層剥離」しか見られない胴部破片である。Ⅱa-2相当と考えられる。25～34は土器集中のC-5出土土器である。25～27は口縁部片で粒の粗い斜行縄文と繊維痕が見られるのが特徴である。28～31は胴部片で粒の粗い斜行縄文が特徴である。28は表面の大半が剥落している。29・31には撚紐痕跡が明瞭である。32～34は底部付近の破片である。胎土に片麻岩とみられる大粒の礫を含む。

【包含層出土の土器】(図V-26～28 表V-1 図版47・48)

縄文前期前半の土器(Ⅱa-2類)(図V-26～28 図版47・48)

1～60がⅡa-2類の土器である。

1～21は口縁部破片である。1～9は比重が軽く、質感がスベスベしていて、黒い光沢があるのが特徴である。1・2は大型破片で1が10点、2が19点接合した。1は斜行縄文と「表層剥離」からなり、2はわずかな斜行縄文に表面の殆どが失われている。3～5は斜行縄文が明瞭に残る小片。6～9は一部斜行縄文が残るも、殆どが剥落している。特に8・9は「表層剥離」としたものである。

10～14は薄手の小片で粒の細かいものと粗い縄文が残る。15～18は厚手の破片で粒の粗い斜行縄文が残る。18は施文後にナゲ消されている。19～21は撚紐痕が表面に見られる小片である。いずれも薄手で縄文がわずかに残る。

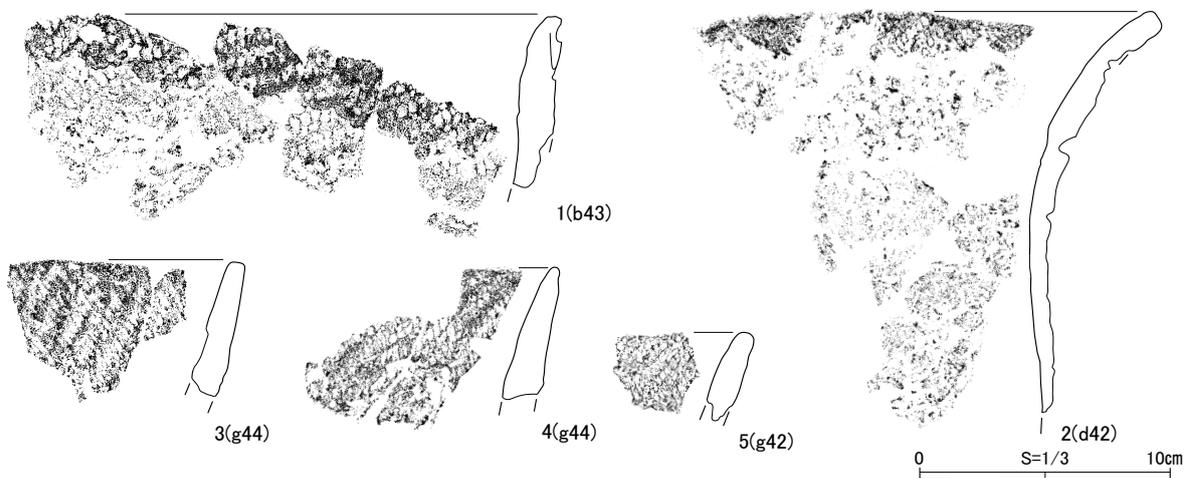
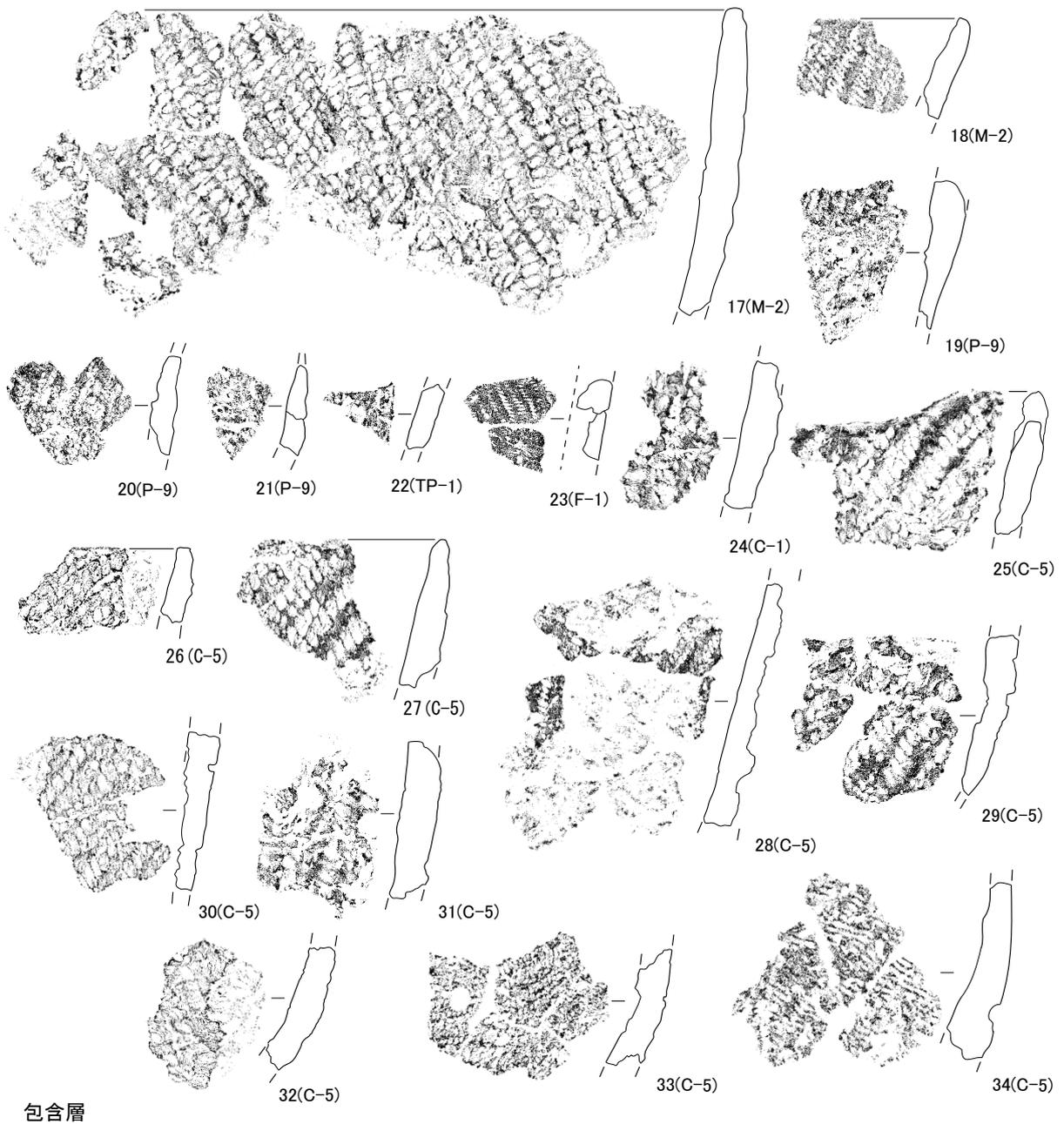
22～57は胴部破片である。22～32は黒い光沢が特徴の土器で、22～29は斜行縄文が残るもの、30～32は表面が「表層剥離」のみのものである。22は表面が一部の縄文と「表層剥離」の組み合わせ、31は内面に明瞭な縄文が残る。

33～60は表面色調が橙色系のものである。33～39は撚紐痕跡が明瞭に見えるものでいずれも斜行縄文が残る。40・41は細い繊維痕跡が土器の表裏面に見られるもので、これも斜行縄文を地文とする。

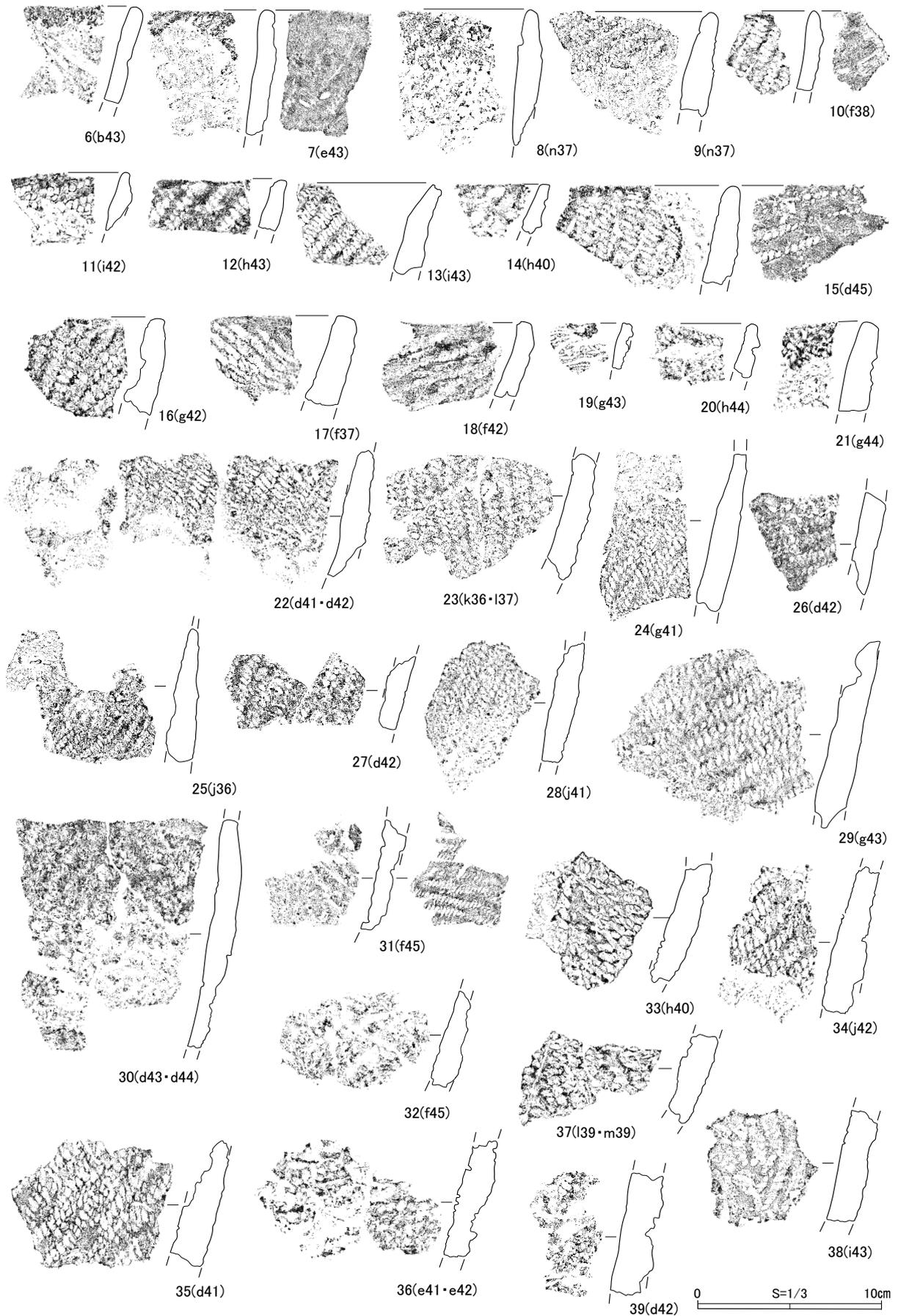
42～50は胴下半部にあたる厚手の土器で、粒の粗い斜行縄文が特徴である。50は複節の斜行縄文である。51～57は胴下半部にあたる薄手の土器で、表面が斜行縄文、内面が平滑なものである。



図V-25 土器(1) 遺構(1)



図V-26 土器(2) 遺構(2) 包含層(1)



図V-27 土器(3) 包含層(2)

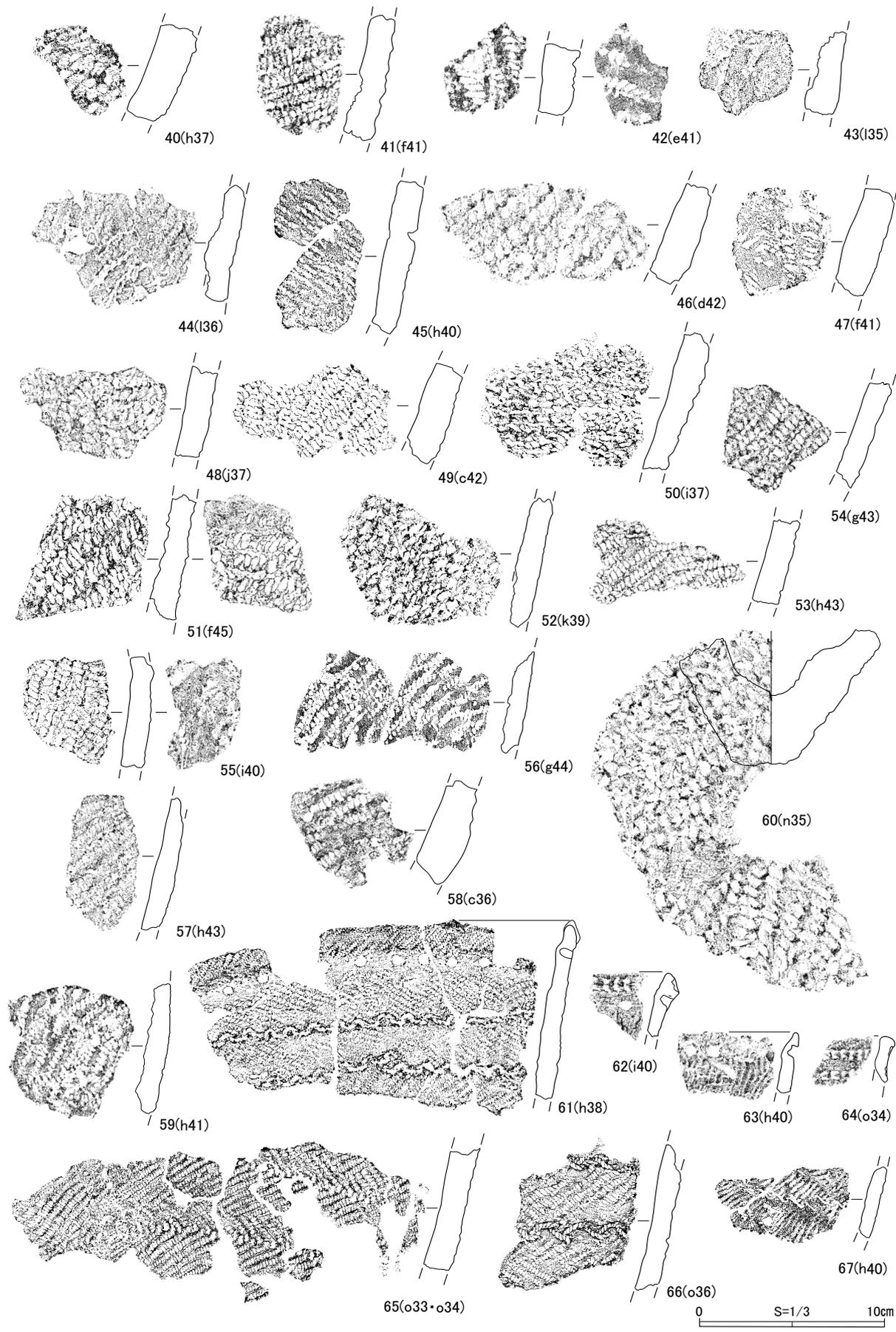


图 V-28 土器 (4) 包含层 (3)

58～60は底部付近と底部破片である。58は厚手で大型の尖底深鉢のもの、59は薄手で小型の深鉢のものである。60は本調査唯一の底部破片で、厚手の尖底深鉢のものである。

縄文中期後半の土器（Ⅲ群b類）（図V-28 図版48）

61～67はⅢb類の土器である。61～64は口縁部片で、61～63は円形刺突文、64は刻み列が施されている。65～67は胴部破片で、65は結束1種、66は2種の羽状縄文、67は斜行縄文に結節が見られる。

（3）石器・礫（図V-29～43 図版49～54 表V-2）

【遺構出土の石器】（図V-29～36 表V-2 図版49～61）

図V-29-1～31-25はM-1出土のものである。1～6は石鏃である。1～3は抉りの浅い無茎凹基で黒曜石製である。4・5は抉りの深い無茎凹基で、4は両側縁中央の抉入により異形化した黒曜石製、5は脚部が左右非対称な頁岩製である。6は幅広な三角形の抉りの明瞭な無茎凹基で、メノウ質頁岩製である。7は有茎凸基状の石槍で、頁岩製である。8～13はつまみ付きナイフ（石匙）である。8～11はナイフの先端が右を向く形状、12・13は左を向く形状で、全て頁岩製である。14・15はスクレイパーで、頁岩製である。15はエンドスクレイパーである。16～18は石斧である。16は刃部片、17は基部片、18は未成品である。16は再加工の可能性もある。19はたたき石で扁平円礫を素材に、広い平坦面にたたき痕が残る。20はすり石で断面三角形礫を素材にした定形的なものである。21は砂岩製の砥石、22は打ち欠きが2か所の石錘である。23・25は台石石皿で23は部分片、25は完形である。24は加工痕のある礫とした。

図V-32-26～33-56はM-2出土の石器である。26～35は石鏃で全て無茎凹基の形状になる。26～29は抉りが浅く、30～35は抉りの深いものである。31～33は脚部が左右非対称である。36は石槍で、基部の形状に特徴がある。37～46は石錘である。37・38は棒状の頁岩製、39～41は逆三角形で広い部分がつまみ部の黒曜石製、42～44は不定形な剥片を素材にしたもの、45・46は石鏃を転用したものである。47～52はつまみ付きナイフ（石匙）である。47はナイフの先が垂直、48～51は右向き、52は左向きの形状である。53～56はスクレイパーである。53～55はやや横長の剥片、56は縦長の剥片を素材にしたものである。

図V-33-57はP-4出土の砥石である。覆土中層から出土した。扁平な砂岩礫を素材にしたものである。58はP-5出土の珪質頁岩製のUフレイクである。ヘラ状を呈し、未成品の可能性もある。59はP-6出土の頁岩製つまみ付きナイフである。覆土中から出土した。

60はP-7出土の黒曜石製Uフレイクである。覆土中から出土した。

61～64はP-10出土の石器である。61は頁岩製のつまみ付きナイフで、62はメノウ質頁岩製のUフレイクで、覆土中から出土した。63は刃部だけの石斧片、64は砥石片である。覆土上面から出土した。

65はP-11出土の石斧（未成品）である。覆土上面から出土した。66はP-13出土の石鏃で凝灰岩製である。覆土中から出土した。

図V-34-67・68はC-2（剥片集中）出土の黒曜石製剥片である。5,478点の剥片のうち、黒曜石原産地分析のサンプルとした。いずれも赤井川産との結果を得た。

69～78はC-3（石器集中）出土の石器である。69～72は頁岩製のつまみ付きナイフである。73～75は頁岩製のスクレイパーである。74・75はエンドスクレイパーと思われる。76～78は緑色泥岩製の石斧である。76は小型の撥形で石のみの類、77・78は刃部の幅が広い撥形である。

79はC-4（礫集中）出土のたたき石である。土器1、石器1、礫45点からなる礫集中の内の石器1点である。

図V-35-80～82・84 36-83・85は石斧集中のC-6出土である。全て石斧原材に相当し、未加工の

石材と加工が一部にしか見られないものも含まれる。80・81は大型の原材で、扁平礫を素材に剥離と敲打痕が見られる。82・83は中型の原材で、82が扁平礫、83が棒状礫を素材に剥離と敲打痕が見られる。84・85は小型の原材で整形痕が見られない石材そのものである。

【包含層出土の石器】(図V-36～43 表V-2 図版52～54)

石鏃 (図V-37-1～19)

石鏃は161点出土した。定形的な石器の中で最も多い。この内、包含層出土は108点である。石材は黒曜石が最も多い123点、頁岩が37点、凝灰岩が1点である。ここでは包含層出土の19点を掲載した。

1～14は無茎凹基の形状で1～3は小型、4～6は中型、7・8はやや大型、9～11は大型のものである。12～14は幅広のものである。3～8・11・13のように脚部が左右非対称のものがある。15～17は有茎、18・19は柳葉形のもので、いずれも黒曜石製である。

石槍 (図V-37-20～27)

石鏃様の石器で長さ5 cm以上のものを石槍とした。

石槍は18点出土した。この内、包含層から14点出土した。石材は黒曜石が10点、頁岩が8点である。

20～24は有茎凸基状のもので、20・21は小型、22～24は大型のものである。21～23は基部につまみ状部分が作出される。25・26は菱形・木葉形のものである。27は大型のもので尖頭部のみの破片で、梨肌状の黒曜石製である。

石錐 (図V-38-28～33)

石錐は47点出土した。この内、包含層から29点出土した。石材は黒曜石が23点、頁岩が23点、珪質頁岩が1点である。これらの内、6点を掲載した。

28・29は逆三角形状で幅広いつまみ部のあるもの、30～32は不定形な剥片の一端に錐部を作出するもの、33は石鏃から転用したものである。

つまみ付きナイフ (石匙) (図V-38-34～46、39-47・48)

つまみ付きナイフ (石匙) は108点出土した。定形的な石器の中で石鏃161点に次ぐ数である。包含層から84点出土した。石材は頁岩が90点、黒曜石が17点、珪質頁岩が1点である。この内、15点を掲載した。

34～36は両面剥離によるもので、特に34は石槍から転用の可能性もある。37～48は片面加工によるもので、37・38はナイフの先が垂直、39～44が右向き、45が左向きである。46～48はナイフが横長で幅広のもの、下部が失われている。

スクレイパー (図V-39-49～54)

スクレイパーは36点出土した。この内、包含層出土が24点である。石材は頁岩が27点、黒曜石が8点、珪質頁岩が1点である。6点を掲載した。

49～52は形状がつまみ付きナイフ様のもので下端が細く、または尖るものである。53は下端が弧状になるエンドスクレイパー。54は横長の剥片に下端が尖るように作出されたものである。

石斧 (図V-39-55～60、40-61～67、41-68・69)

石斧は86点出土した。この内、包含層出土が61点である。石材は緑色泥岩が80点、片岩が6点である。この内、15点を掲載した。

55～59は超小型の石斧、石のみの類である。55・56は撥形、57～59は短冊形である。60・61は撥形の完形、62～65は短冊形の完形である。66～69は部分片で、66・67は刃部、68・69は基部である。67は割れ口に剥離、たたき痕があり、再加工の可能性はある。

たたき石 (図V-41-70・71)

たたき石は37点出土した。包含層出土が25点である。扁平円礫、楕円礫を素材にするものが多く、石材には安山岩・砂岩・片麻岩がある。2点を掲載した。

70は片麻岩製の扁平長楕円礫、71は安山岩製の扁平楕円礫が素材で、主に側縁に敲打痕が見られる。

すり石 (図V-41-72、42-73～77)

すり石は14点出土した。この内、包含層出土が12点である。石材には安山岩と砂岩がある。6点を掲載した。

72～75は断面三角形礫を素材としたもので、安山岩製である。72が大型、73・74が中型、75が小型である。73には上部にも敲打痕が見られ、北海道式石冠の可能性もある。76・77は砂岩の扁平楕円礫のごく一部にすり面が見られるものである。

扁平打製石器 (図V-42 - 78)

扁平打製石器は1点出土した。砂岩製である。78は扁平楕円礫を素材としたもので、両面の上下に剥離を加え、下端面に細いすり面を作出している。

砥石 (図V-42-79～81)

砥石は15点出土した。この内、10点が包含層出土である。全て砂岩である。3点を掲載した。

79・80は表裏両面、81は表面のみに使用面が残る。

石錘 (図V-43 - 82～93)

石錘は45点出土した。この内、包含層出土は35点である。石材には安山岩・砂岩・片麻岩・泥岩がある。12点を掲載した。

82～93が石錘である。82～91が扁平楕円礫の長軸端2か所に打ち欠きが見られるものである。82～84は小型、85～88が中型、89・90が大型、91が超大型のものである。92・93は欠損があるが、長短軸両端の4か所に打ち欠きをしたものと見られる。93は被熱している。

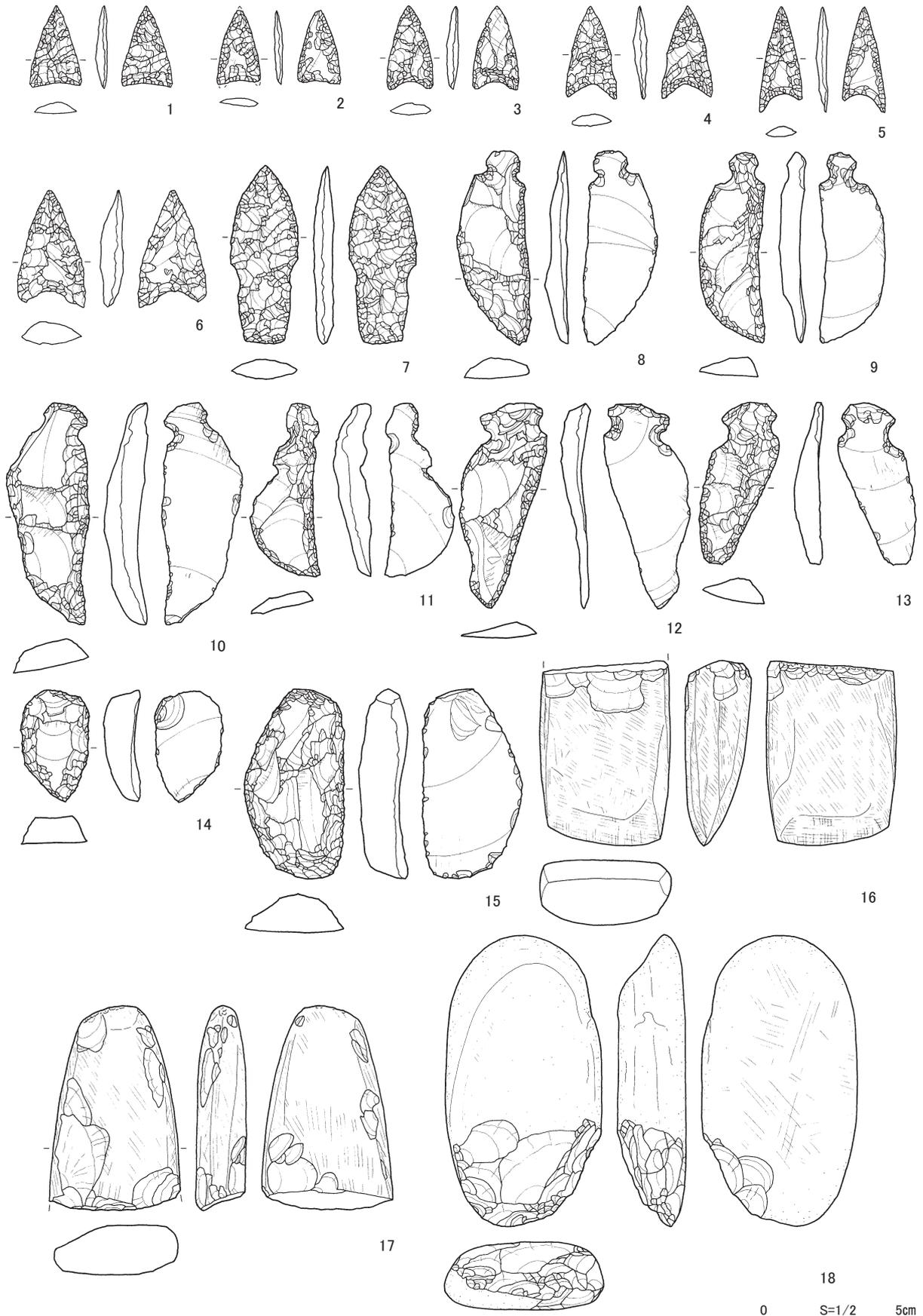
台石石皿 (図V-36 - 94・95)

台石石皿は11点出土した。その内包含層から6点出土した。石材は殆ど安山岩で、砂岩が2点である。94、95の2点を掲載した。すり面などの使用が見られる厚さ5cm以上の扁平礫を台石石皿とした。いずれも使用面が1面で94は裏面が素材面、95は平滑な面になっている。

【試掘時出土の遺物】 (図I-2-1～7 図版54-1～7 表V-2)

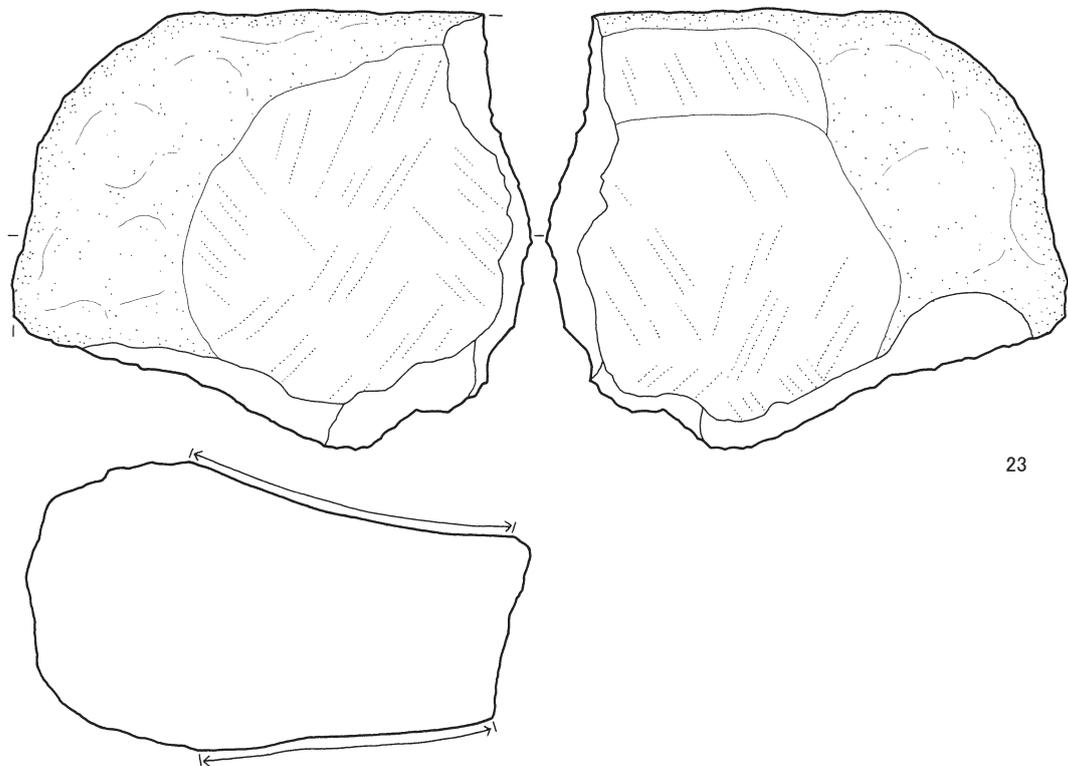
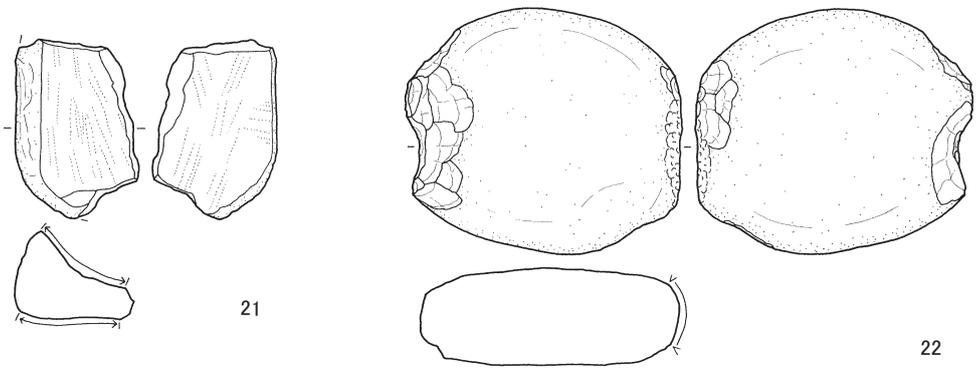
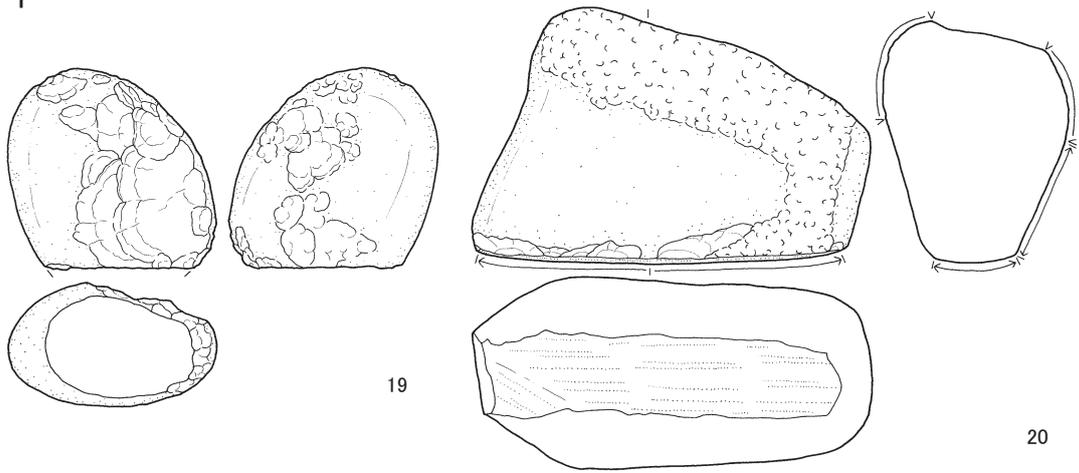
図I-2-1は縄文中期後半、Ⅲb類の口縁部突起破片である。平成30年実施の試掘で出土した(K27)口縁部片とA地区調査で出土した突起片(P16)が接合したものである。2もⅢb類の胴部片で斜行縄文(RL)が残る。3はⅡa-2類の胴部片で、表面が一部剥離しているが、斜行縄文(RL)が残る。4は石鏃で上下端を欠失しているが、有茎凸基のもので黒曜石製である。5はつまみ付きナイフで、ナイフ先端を欠失しているが、先が垂直になる類である。黒曜石製で被熱している。6・7は石錘である。6は片麻岩製の部分片で、礫の長軸端の1か所の打ち欠きが残る。7は砂岩製の完形で、長軸端の2か所に打ち欠きが見られる。

M-1



图V-29 石器(1) 遺構(1)

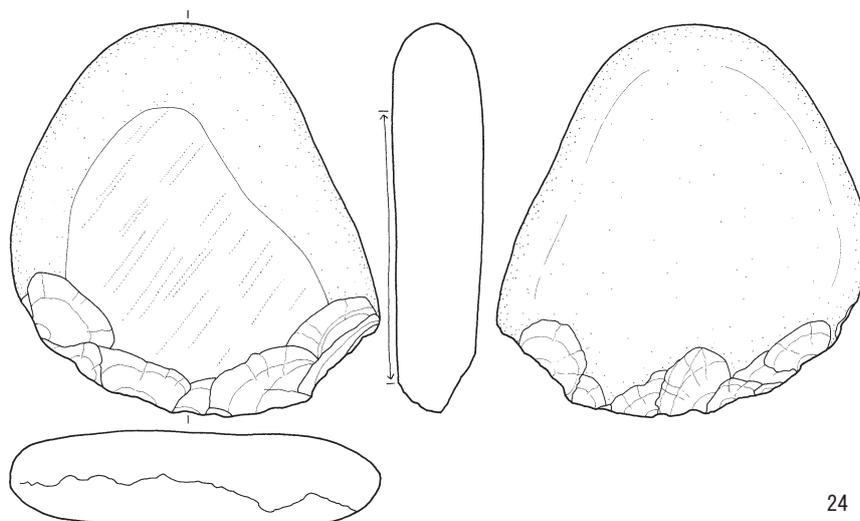
M-1



0 S=1/3 10cm

図V-30 石器(2) 遺構(2)

M-1



24

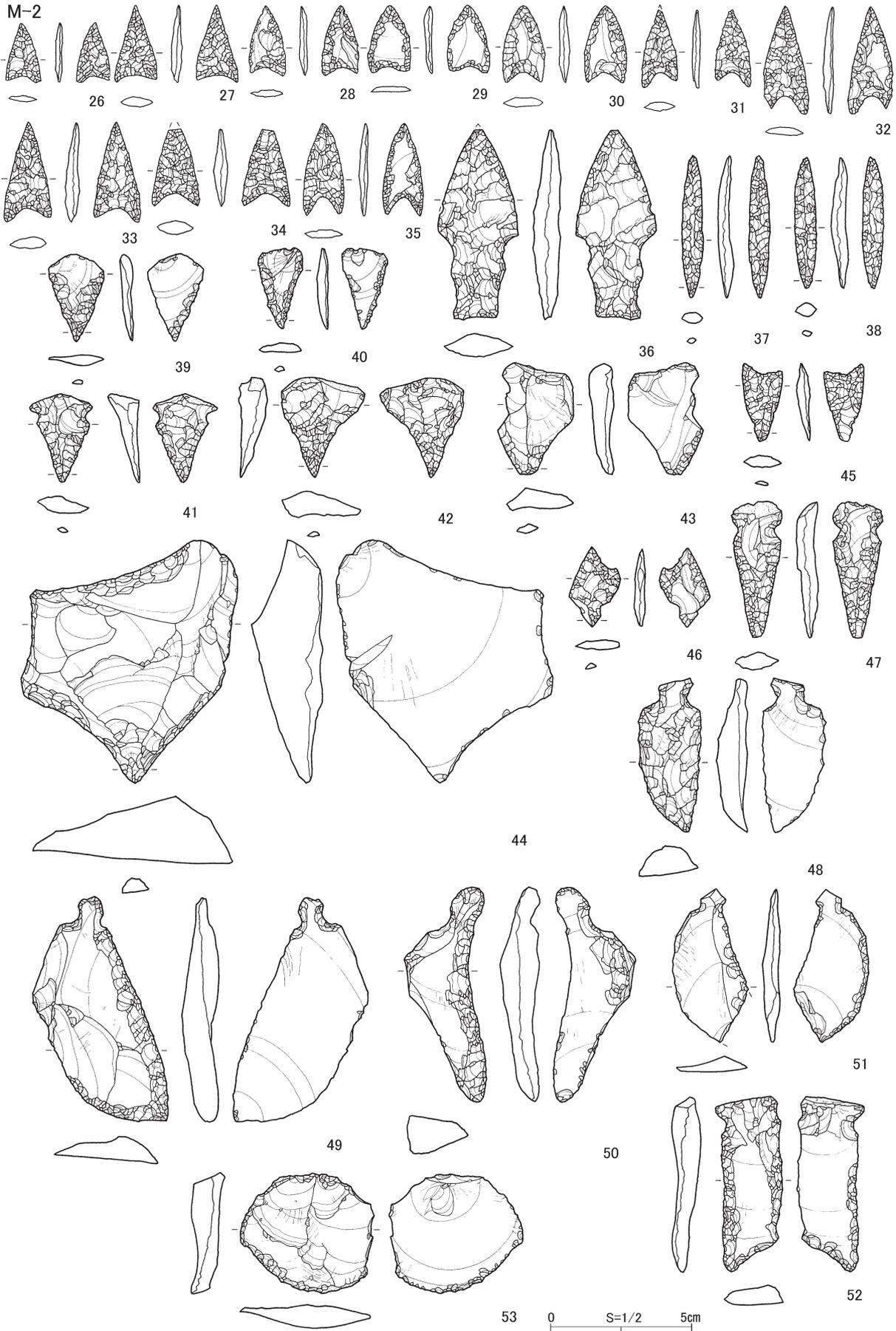
0 S=1/3 10cm



25

0 S=1/4 10cm

図V-31 石器(3) 遺構(3)



図V-32 石器(4) 遺構(4)

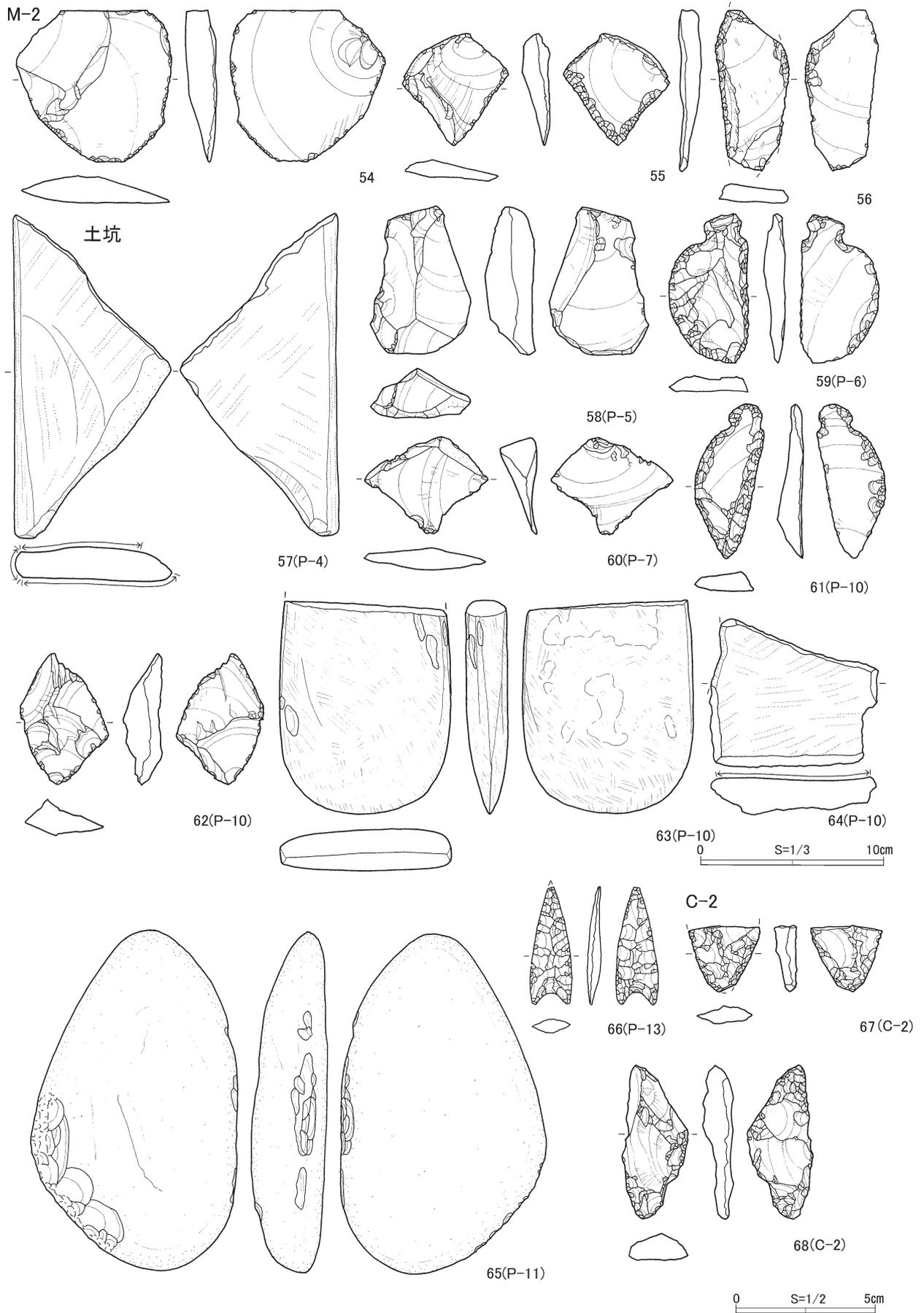
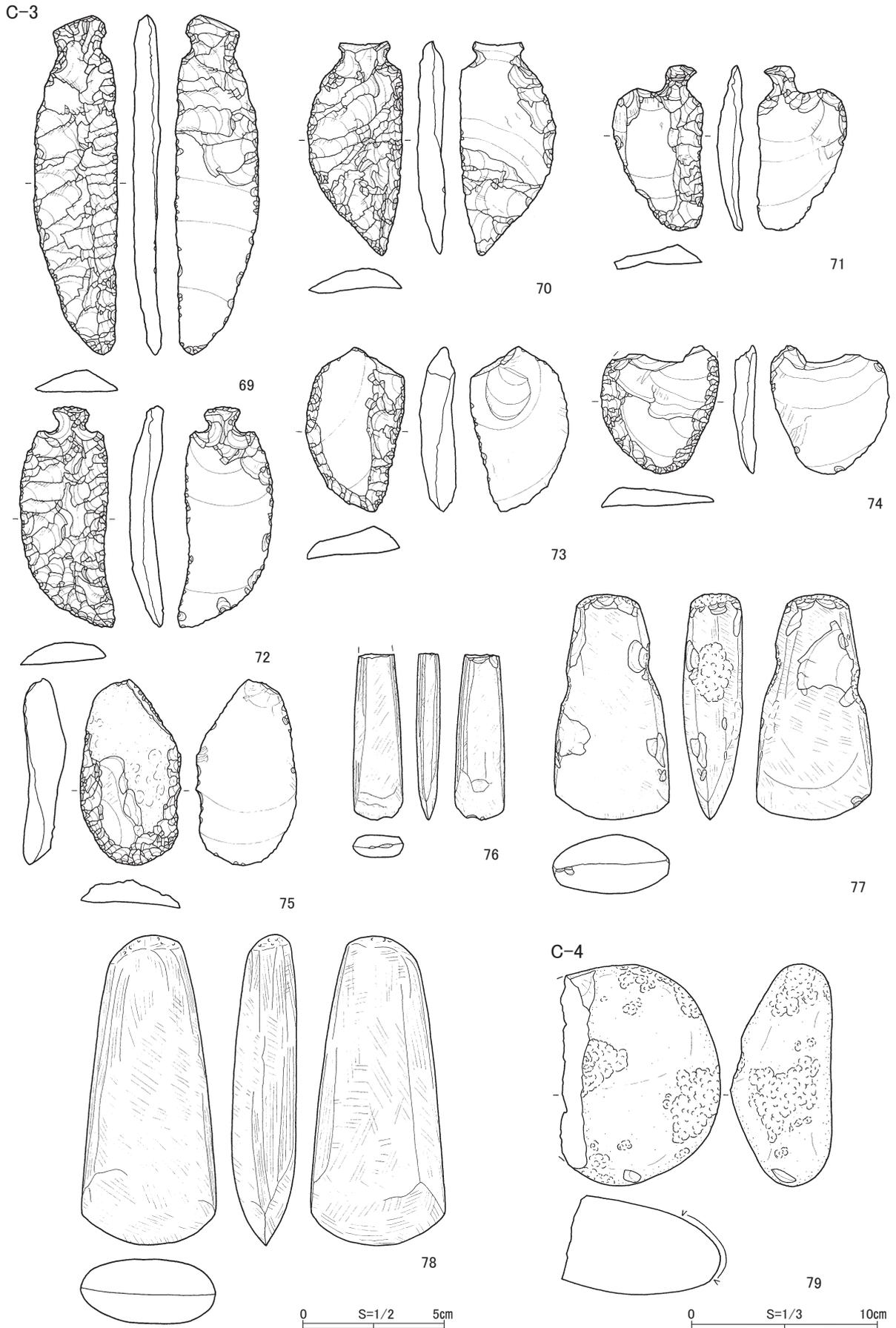
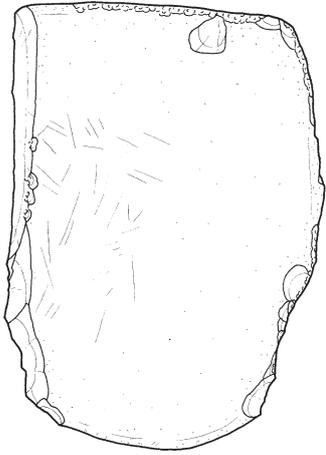
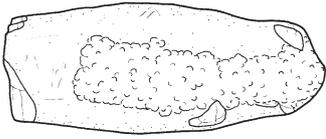


图 V-33 石器 (5) 遺構 (5)

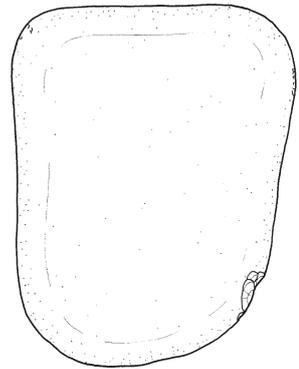
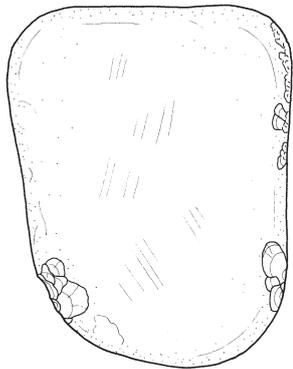
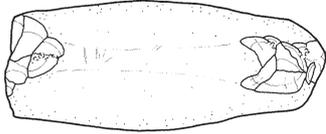


図V-34 石器(6) 遺構(6)

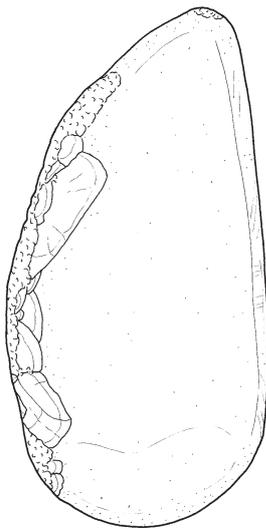
C-6



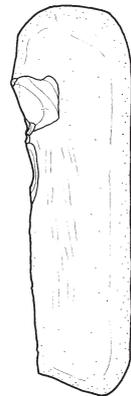
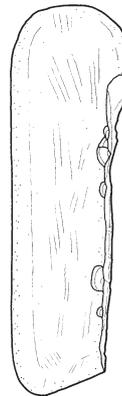
80



82



81



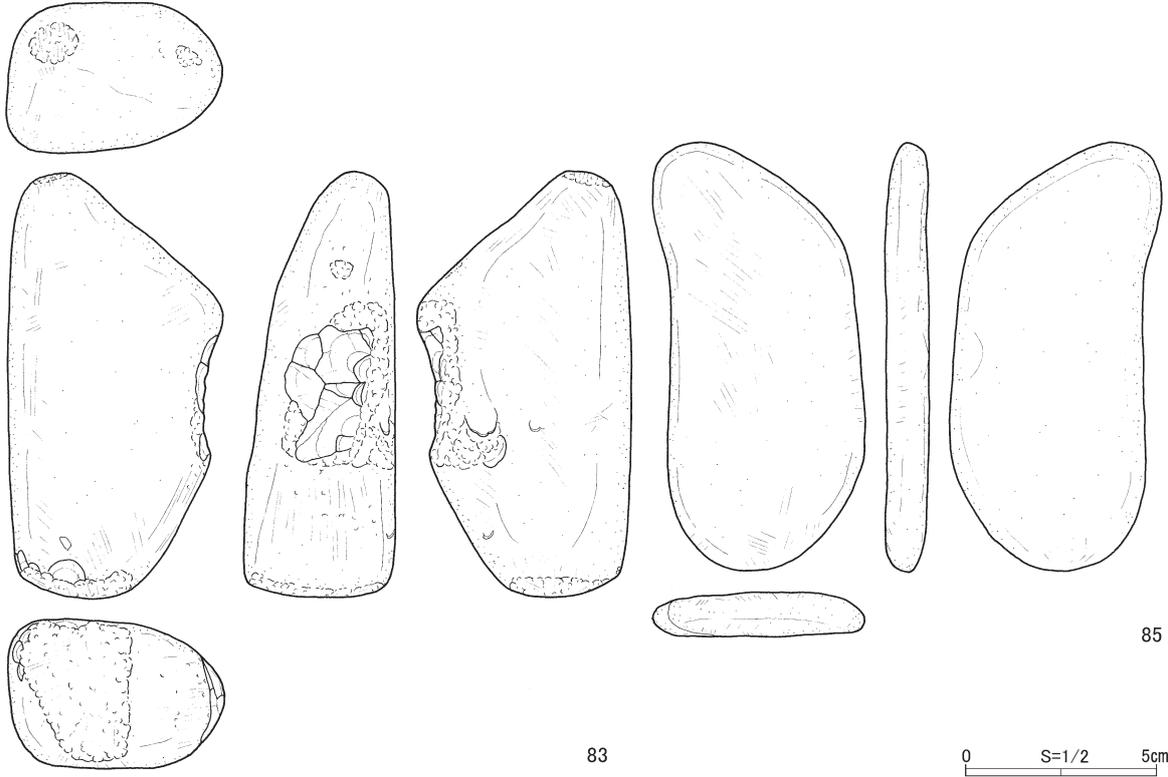
84



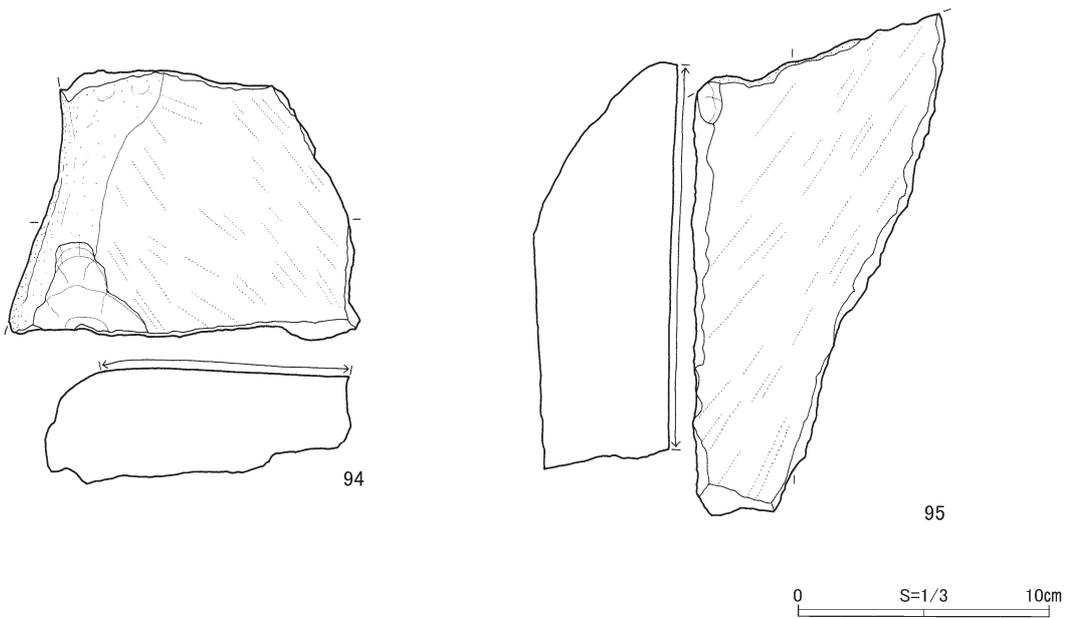
0 S=1/2 5cm

图V-35 石器(7) 遺構(7)

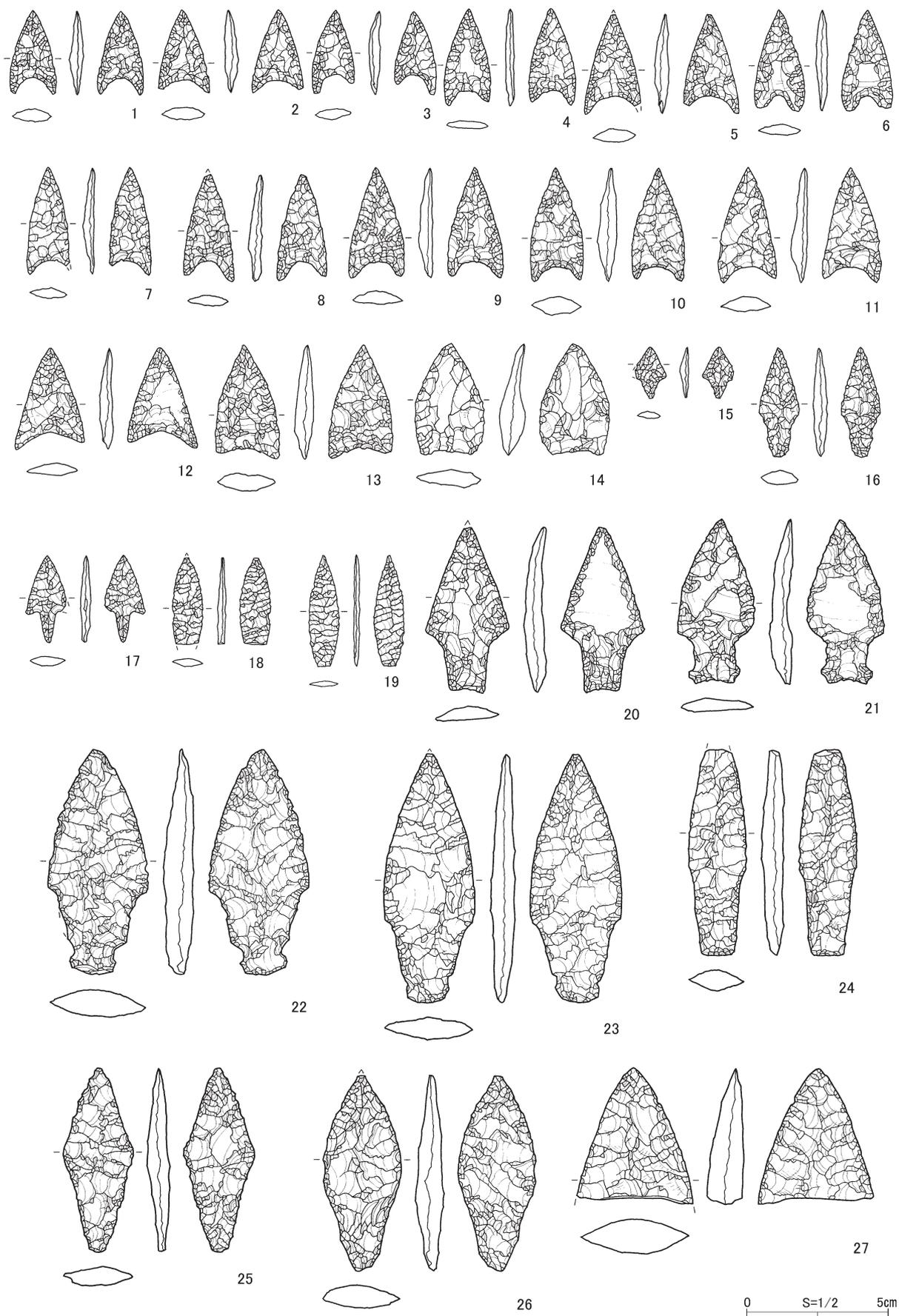
C-6



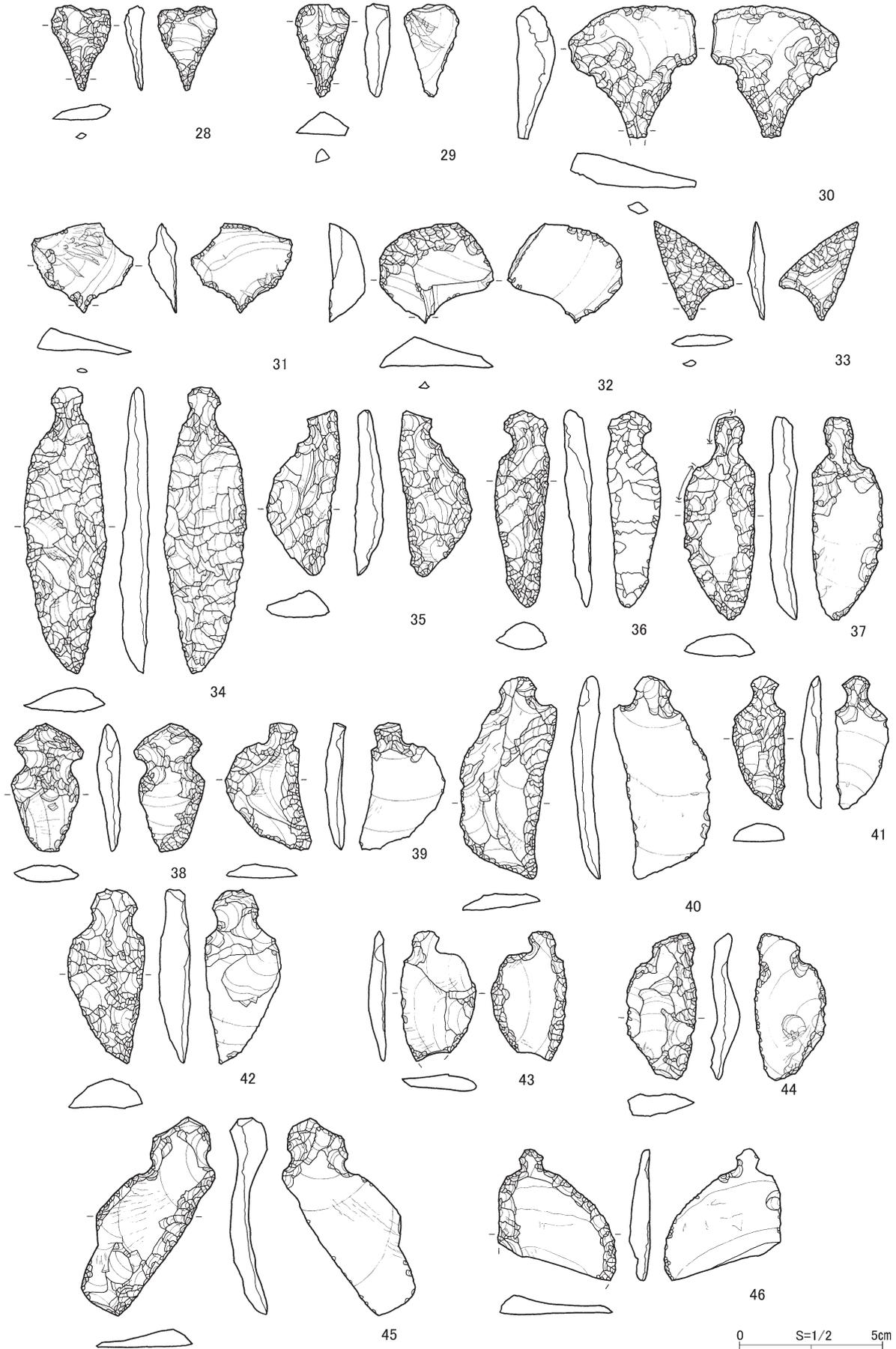
包含層



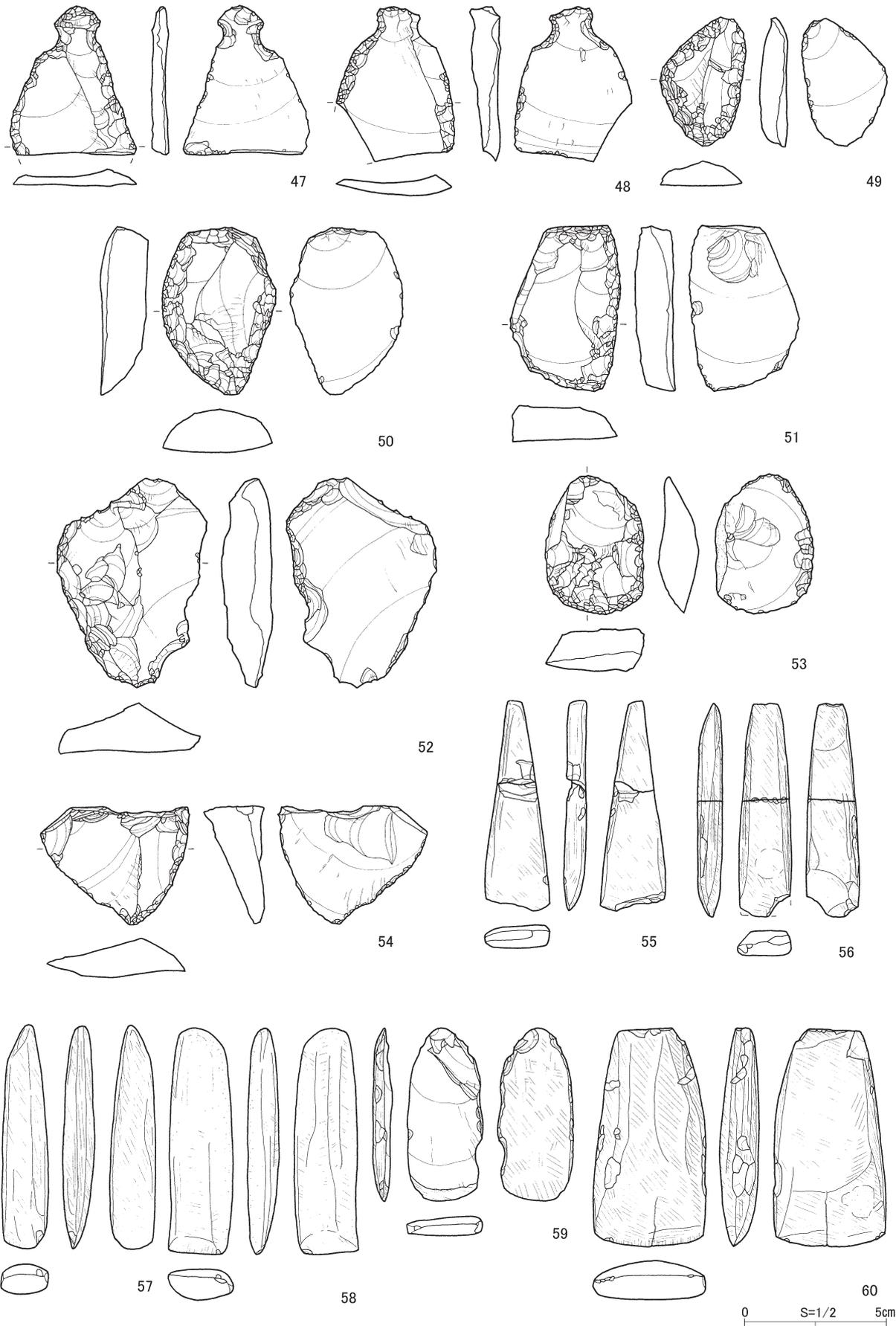
図V-36 石器(8) 遺構(8) 包含層(1)



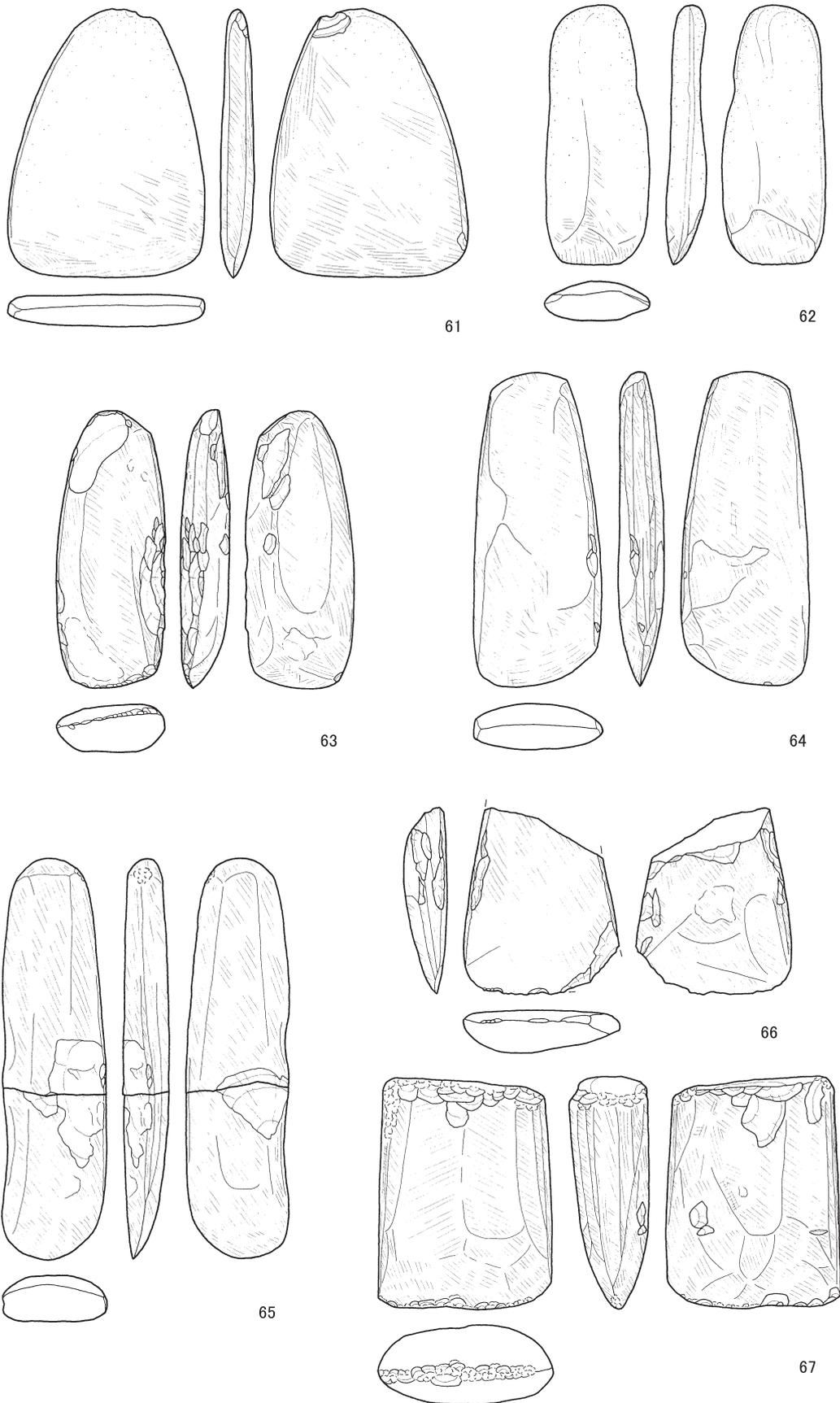
图V-37 石器(9) 包含层(2)



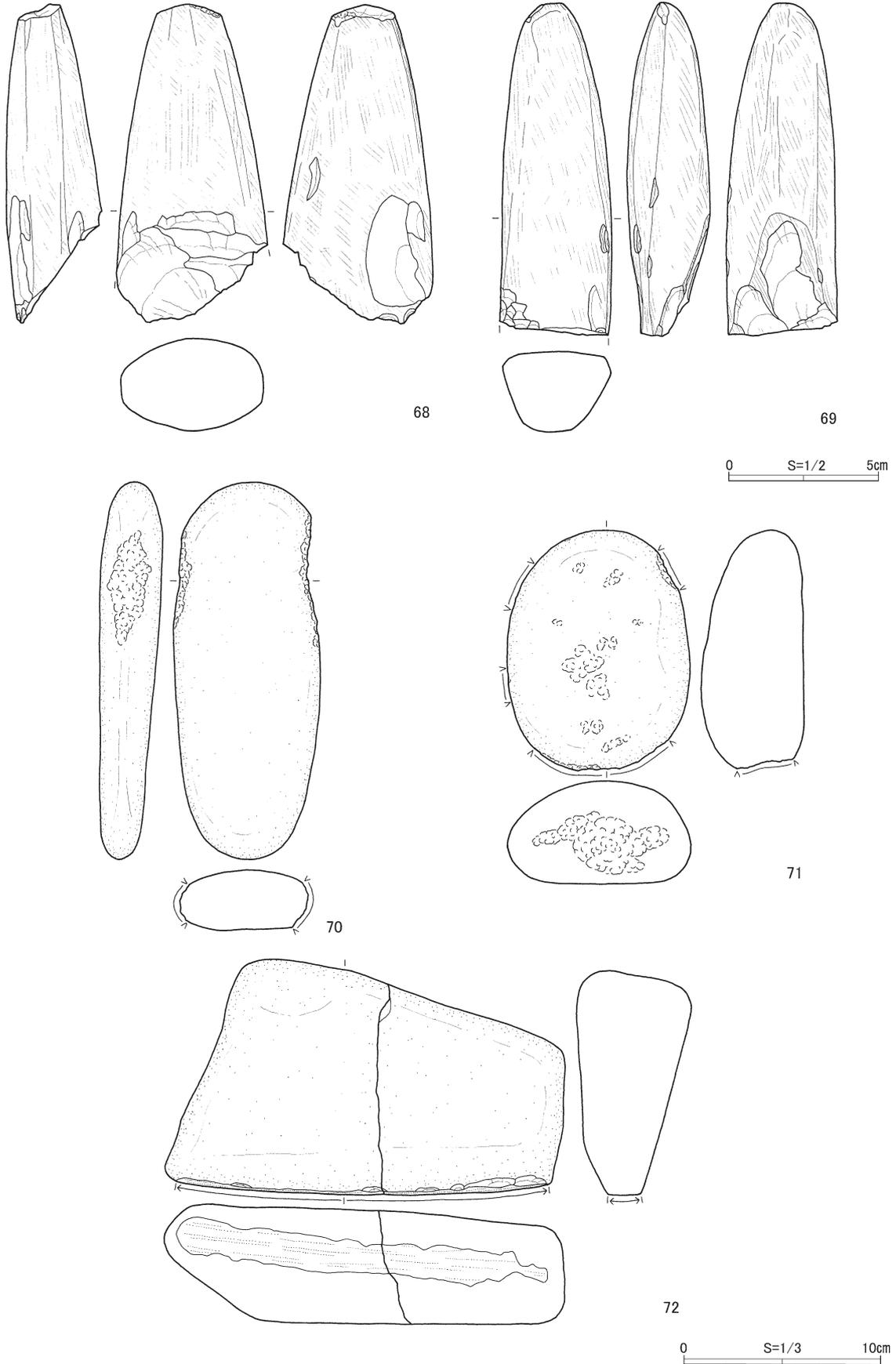
図V-38 石器(10) 包含層(3)



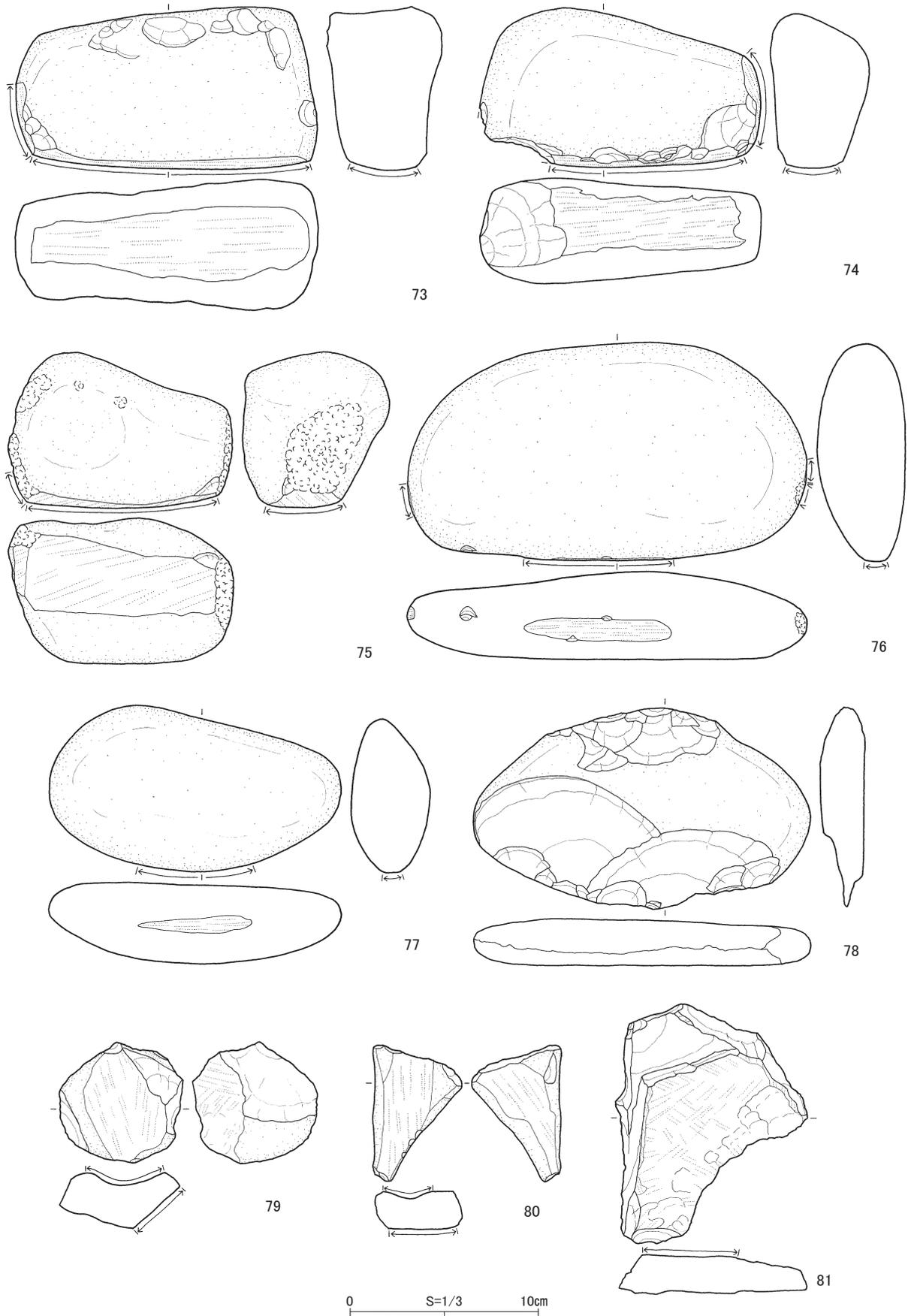
图V-39 石器(11) 包含層(4)



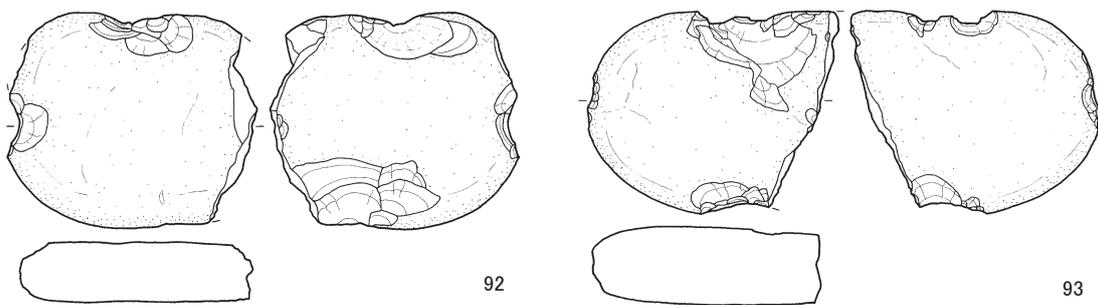
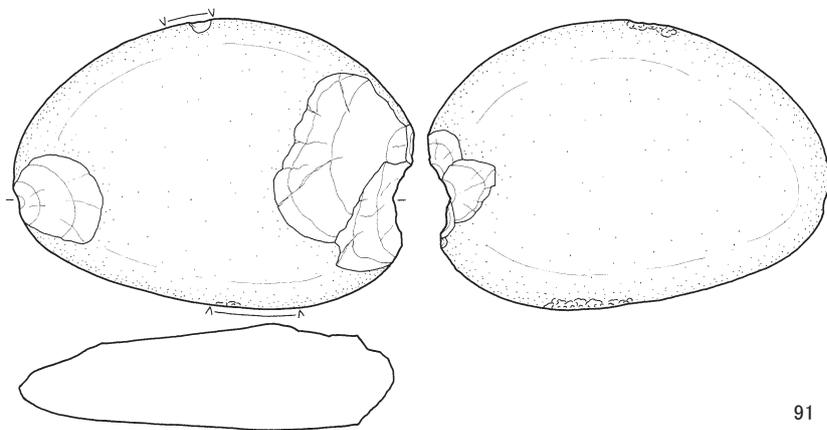
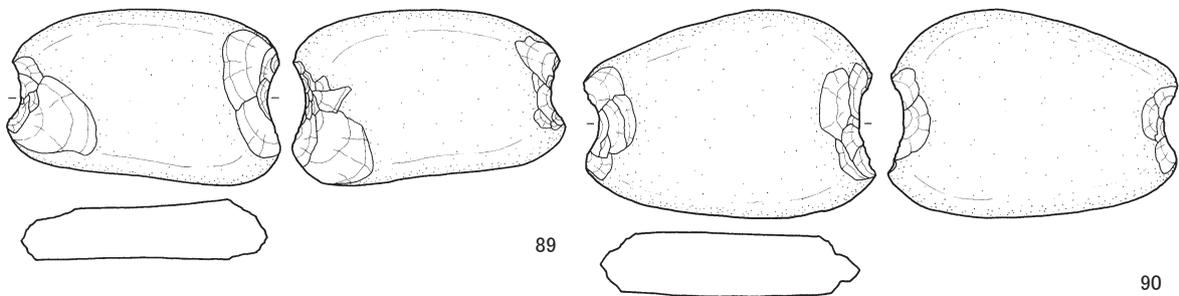
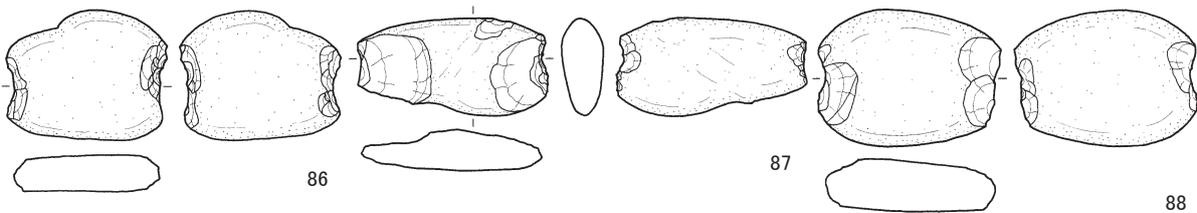
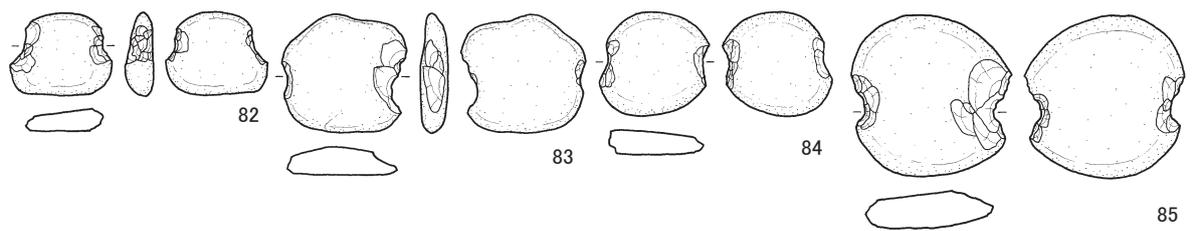
図V-40 石器(12) 包含層(5)



图V-41 石器(13) 包含层(6)



図V-42 石器(14) 包含層(7)



0 S=1/3 10cm

图V-43 石器(15) 包含层(8)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	部位	表面	内面	胎土	色調 (Hue)	重量 (g)	備考	
遺構出土の土器														
図V-25-1	46-1	M-1 e42 M		II a-2	11	口縁~胴上半部(小型深鉢)・緩やかな小波状口縁・口唇断面丸形	口縁直下1cm幅のみ黒色光沢ある器面。わずかに斜行縄文(LR)・「表層剥離」(スベスベ)	縦ナデ調整と指頭圧痕により平滑(ツル)・上半部黒色化で光沢あり・一部剥落あり	小礫5% 繊維痕跡	2.5Y5/1 7.5Y2/1	2.5Y5/2 7.5Y2/1	500.0	No.70B No.160B No.80B 復 B-1	
		M-1 f42 M		II a-2	12									
		包含層 f43 II B 3												
図V-25-2	46-2	M-1 h42 M		II a-2	1	口縁~胴上半部(口径30cm大型深鉢)・口唇断面丸形	口縁部付近3~5cm幅で黒化・光沢あり(地)粒の粗い斜行縄文(LR)(スベスベ)・地文で黒化・やや光沢あり	上半部は部分剥離と「表層剥離」(スベスベ)・下半部は「表層剥離」(スベスベ)	極小礫3% 繊維痕跡	2.5Y5/1 7.5Y2/1	2.5Y4/1 7.5Y2/1	873.3	No.2-A B1-1	
		包含層 h41 II B 3		II a-2	1									
		包含層 h42 II B 2		II a-2	2									
		包含層 i41 II B 4		II a-2	2									
図V-25-3	46-3	M-1 g43 M	II B4	II a-2	3	口縁~胴上半部(大型深鉢)・平縁・口唇断面やや角形(平坦面あり)	口縁下3cm幅の(地)斜行縄文(縦位LR)(スベスベ)下半部は「表層剥離」(スベスベ)	縦横ナデ調整により平滑(スベスベ)・内面全体が黒化・光沢あり	小礫3%・繊維痕跡	5Y5/1 7.5Y2/1	5Y3/1 5Y2/1	135.4	トレンチ B34	
		包含層 h43 II B 1		II a-2	3									
図V-25-4	46-4	M-1 f43 M		II a-2	1	口縁(大型深鉢)・平縁・口唇断面丸~角形	(地)斜行縄文(粒の粗いLR)	横ナデ調整により平滑(ツル)	中礫1%・擦紐(LR原体)痕跡	7.5Y2/1 2.5Y7/3	5Y5/1 10YR6/2	103.7	B5	
		包含層 f43 II B 4		II a-2	1							0.0		
図V-25-5	46-5	M-1(A) g43 M		II a-2	1	口縁(大型深鉢)・平縁・口唇断面角形	(地)斜行縄文(LR)・地文後に磨消痕跡	横ナデ調整により平滑(ツル)	小礫3%・擦紐(LR繊維痕跡)	10YR4/1 10YR3/2	2.5Y5/2 10YR6/3	44.6	No.96 B2	
図V-25-6	46-6	M-1(C) f45 M		II a-2	1	口縁(大型深鉢)・緩やかな波状・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・施文後に磨消痕跡	縦横ナデ調整により平滑(ツル)	小礫10%・繊維痕跡	10YR7/3 2.5Y2/1	10YR7/3 10YR7/2	32.0	No.54・口縁 B4	
図V-25-7	46-7	M-1 f43 M		II a-2	1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・黒色で光沢あり・スベスベ	横ナデ調整により平滑(スベスベ)	軽い・中礫1% N3/0 10YR4/1	10YR6/2 10YR5/2	7.3	B66		
図V-25-8	46-8	M-1(A) f43 M		II a-2	5	胴(大型深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・一部「表層剥離」(スベスベ)・全体に黒色で光沢あり	縦横ナデ調整により平滑・滑らか	小礫2% 7.5Y4/1	2.5Y4/1 2.5Y3/1	109.9	No.145 B3		
図V-25-9	46-9	M-1 i42 M	II B3	II a-2	2	胴(深鉢)	「表層剥離」(スベスベ)・斜行縄文痕跡・灰化	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・スベスベ	極小礫10%・やや軽い・繊維痕跡	N4/0 5Y5/1	N3/0 5Y4/1	36.6	B6	
図V-25-10	46-10	M-1(A) g42 M		II a-2	3	胴(大型深鉢)	「表層剥離」(スベスベ)・黒色化	「表層剥離」(スベスベ)・黒色化	小礫5%・繊維痕跡	N4/0 N1.5/0	7.5Y2/1 2.5Y2/1	173.2	No.138 No.138 B63	
図V-25-11	46-11	包含層 g44 II B 3		II a-2	1	胴(大型深鉢)	「表層剥離」(スベスベ)・一部黒色化・光沢あり	「表層剥離」(スベスベ)・一部炭化物付着	繊維痕跡・極小礫10%	2.5Y5/1 N1.5/0	10YR5/1 5Y2/1	72.0	B72	
図V-25-12	46-12	M-1(A) f43 M		II a-2	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(縦位のRL)・スベスベ・黒色化	縦ナデ調整により平滑(ツル)・スベスベ	小礫5%・軽い	2.5Y4/1 2.5Y2/1	10YR4/1 10YR5/1	29.7	No.145 B64	
図V-25-13	46-13	M-1 i42 M	II B4	II a-2	1	胴(深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル)	中礫(滑石?) 1%・小礫3%・繊維痕跡	2.5Y4/1 2.5Y2/1	2.5Y6/2 2.5Y4/1	30.6	B67	
図V-25-14	46-14	M-1 f43 M		II a-2	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(不明瞭)・施文後に磨消	縦ナデ調整により平滑(ツル)	小礫10% 5YR6/6 10YR6/4 10YR3/2	10YR5/2 10YR3/2	47.0	B65		
図V-25-15	46-15	M-1(A) g43 M		II a-2	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・部分剥離	縦ナデ調整により平滑(ツル)	中礫1%・極小礫2%・擦紐痕跡(L)	5YR6/6 10YR4/1	2.5Y7/2	34.6	No.92 No.94 B62	
		包含層 g43 M		II a-2	1									
図V-25-16	46-16	M-2 d36 II B 3		II a-2	20	口縁~胴下半部(大型深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・上半は地文・下半は「表層剥離」(スベスベ)	上半は「表層剥離」(スベスベ)・下半は縦ナデ調整により平滑(ツル+スベスベ)	繊維痕跡・大礫2%・滑石?中~小	2.5Y5/1 2.5Y2/1	2.5Y5/1 2.5Y3/1	415.9	1 No.152 17 -1 B	
		M-2 d36 II B 6		II a-2	1									
		M-2 d36 II B 3		II a-2	7	口縁~胴上半部(大型深鉢)・口径23.0cm・口唇断面やや角形	(地)斜行縄文(RL)	主に縦ナデ調整により平滑(ツル)	擦紐痕跡(原体L)・小礫3%		10YR8/3 2.5Y2/1	2.5Y8/2 5Y4/1	873.3	1 No.198 No.17 No.46 No.53 No.103 B 18 -1
		M-2 d36 II B 5		II a-2	1									
		M-2 d36 II B 3		II a-2	1									
		M-2 d36 II B 5		II a-2	1									
図V-26-18	46-18	M-2 d36 II B 3	3~4	II a-2	3	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面尖形	(地)斜行縄文(LR)・スベスベ・黒色で光沢あり	「表層剥離」(スベスベ)	小礫3%	2.5Y4/1 2.5Y2/1	2.5Y7/1 2.5Y6/1	13.7	No.2 17 -2 B	
図V-26-19	46-19	P-09	覆土上面	II a-2	1	胴(深鉢)	「表層剥離」(スベスベ)	「表層剥離」(スベスベ)・一部炭化物付着	小礫3%・軽い	7.5YR2/1 7.5YR4/1	2.5Y7/2 10YR5/1	30.7	No.3・図あり B7	
図V-26-20	46-20	P-09	覆土上面	II a-2	2	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・施文後に磨消・スベスベ	「表層剥離」(スベスベ)	小礫1%・軽い	N2/0 N4/0	10YR8/1 2.5Y7/2	16.2	No.3・図あり B8	
図V-26-21	46-21	P-09	覆土上面	II a-2	2	胴(深鉢)	「表層剥離」(スベスベ)	横ナデ調整により平滑(スベスベ)	中礫1%・軽い	10YR4/1 10YR5/1	2.5Y3/1 2.5Y5/1	7.2	No.3・図あり B9	
図V-26-22	46-22	TP-01	覆土	II a-2	1	胴(深鉢)	「表層剥離」(スベスベ)	横ナデ調整により平滑(スベスベ)・炭化物付着	繊維痕跡・軽い	2.5Y5/1 2.5Y4/1	5Y2/1 2.5Y2/1	6.3	B10	
図V-26-23	46-23	F-1 o36 II B		III b	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(縦位LR)	剥落	極小礫3%	10YR5/1 5Y3/2	7.5YR7/6 5Y3/2	16.2	No.2 No.4 B11	
		包含層 o36 II B		III b	1									
図V-26-24	46-24	C-5 h37 II B	2~3	II a-2	1	胴下半部(深鉢)	「表層剥離」	縦ナデ調整により平滑(ツル)	大礫1%(片麻岩)・擦紐痕	10YR7/4 10YR4/1	2.5Y7/3 10YR8/4	55.6	No.3 B12	
図V-26-25	47-25	C-5 h37 II B	2~3	II a-2	2	口縁(深鉢)・緩やかな波状・口唇断面角形(ミガキ)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	一部横ナデ調整凹凸面	大礫3%(片麻岩)・繊維痕跡	2.5YR4/1 2.5YR7/3 2.5YR7/4	2.5YR7/3 2.5Y7/4	86.8	No.14 B39	
		包含層 h38 II B		II a-2	1									
図V-26-26	47-26	C-5 h38 II B	2~3	II a-2	1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形(ミガキ)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	横ナデ調整によりやや平滑・凹凸のこる	大~中粒礫(片麻岩)3%・繊維痕跡少し	2.5Y6/3 2.5Y4/1	2.5Y5/1 2.5Y6/3	22.2	No.13 B77	
図V-26-27	47-27	C-5 h38 II B	2~3	II a-2	3	口縁深鉢・平縁・口唇断面丸形	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・施文後に縦位の磨消痕	縦ナデ調整により平滑(ややザラ)	小粒礫5%・繊維痕	2.5YR7/3 N4/0	10YR7/3 10YR5/2	49.0	No.9 B43	
図V-26-28	47-28	C-5 h37 II B		II a-2	3	胴(大型深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・表面のほとんどが剥離	縦ナデ調整により平滑(ツル)	極小~小粒礫5%・繊維痕	7.5YR7/6 10YR6/3	2.5YR7/3 5Y2/1	169.1	No.1 No.6 B40	
		包含層 h37 II B		II a-2	2									
		包含層 h38 II B		II a-2	2									
		包含層 h38 II B		II a-2	2									
図V-26-29	47-29	C-5 h37 II B	2-3	II a-2	3	胴(深鉢下半)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル)・ほとんど剥離	大粒礫(片麻岩)10%・擦紐	2.5Y6/3 2.5Y2/1	10YR7/4 10YR5/1	68.7	No.4 B74	
図V-26-30	47-30	C-5 h37 II B	2-3	II a-2	3	胴(深鉢上半)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・施文後磨消痕	全面剥落	中粒礫5%・繊維痕跡	2.5YR6/6 5YR6/6	2.5Y4/2	49.6	No.9 B75	

※(地): 地文 ※(ツル): 平滑面にざらつきがない、(ザラ): 平滑面にざらつきがある
表V-1 掲載土器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	部位	表面	内面	胎土	色調 (Hue)	重量 (g)	備考	
図V-26-31	47-31	C-5	h38	II B	2~3	II a-2 1	胴(深鉢下半)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル)一部凹凸あり	大粒礫(片麻岩)3%・燃紐痕跡多い	5YR6/6 10YR6/4	10YR4/1 10YR3/2	74.4	No.6 B42
図V-26-32	47-32	C-5	h38	II B	2~3	II a-2 1	底部付近(尖底深鉢下部)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑(ツル)	大~中粒礫(片麻岩)20%	10YR7/4 10YR7/6	2.5Y7/3 2.5Y4/1	40.1	B78
図V-26-33	47-33	C-5	h38	II B	2~3	II a-2 1	底部付近(尖底深鉢下部)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・施文後に磨消痕・大小の礫痕が目立つ	一部横ナデ調整により平滑・ほとんどが剥離	中粒礫2%・繊維痕多い	10YR7/4 10YR7/6	10YR5/4 10YR2/1	30.0	No.7 B76 No.11 B76
図V-26-34	47-34	C-5	h37	II B	2~3	II a-2 1	底部付近(深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル)一部剥離	大~小粒礫(片麻)	10YR7/4 10YR7/6	2.5YR7/3 2.5YR7/4	102.8	B38

包含層出土の土器

図V-26-1	47-1	b43	II B	2	II a-2 8	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・口縁幅3cmで地文が残る・スベスベ・地文下は「表層剥離」	口縁幅3cmは「表層剥離」その下は横ナデ平滑	小粒礫5%・やや軽い	2.5Y4/1 7.5Y2/1	10YR7/1 10YR2/1	106.3	B13
図V-26-2	47-2	d42	II B	3	II a-2 15	口縁~胴上半部(深鉢)・平縁・口唇断面丸~角形・口縁は大きく外反する	(地)斜行縄文(LR)・口縁下2cm幅で残る。その下被熱状剥落	平滑・やや「表層剥離」全体的に被熱	極小~小粒3%・軽い	2.5Y7/3 5Y2/1	5Y2/1 N1.5/0	108.2	No.1 No.2 B21 No.3
図V-26-3	47-3	g44	II B	7	II a-2 2	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面やや角型	(地)斜行縄文(LR)・炭化物の付着あり・スベスベ	「表層剥離」・スベスベ	極小粒礫5%・やや軽い	2.5YR2/1 5Y2/1	10YR4/1 10YR3/1	24.1	B35
図V-26-4	47-4	g44	II B	7	II a-2 3	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・「表層剥離」剥離・スベスベ・炭化物付着あり	「表層剥離」・平滑・スベスベ	繊維状痕跡残る・極小粒礫1%	2.5YR6/1 10Y2/1	2.5YR3/2 2.5YR2/1	28.6	B36
図V-26-5	47-5	g42	II B	4	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・スベスベ	横ナデ調整により平滑・口縁付近タール状付着あり・スベスベ	極小~小粒礫30%	2.5Y2/1 N1.5/0	2.5Y6/2 2.5Y2/1	10.4	トレンチ B69
図V-27-6	47-6	b43	II B	2	II a-2 2	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面やや角形	「表層剥離」・スベスベ	横ナデ調整により平滑・口唇付近にタール状付着・ややスベスベ	軽い・極小粒礫3%	5YR5/4 5YR6/6	2.5Y3/1 2.5Y2/1	17.4	B14
図V-27-7	47-7	e43	II B	4	II a-2 2	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	「表層剥離」	斜方向ナデ調整により平滑・部分的に斜行縄文(LR)残る・口縁付近炭化物付着	極小粒礫2%	2.5Y5/1 2.5Y4/1	10YR2/1 2.5Y2/1	34.8	B98
図V-27-8	47-8	n37	II B	2	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面細丸形	「表層剥離」剥離・スベスベ	口縁付近「表層剥離」剥離その下斜方向のナデ調整により平滑・ややスベスベ	極小粒礫1%	2.5Y6/2 2.5Y2/1	2.5Y2/1	32.6	B58
図V-27-9	47-9	n37	II B	2	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	口縁付近「表層剥離」剥離・口縁下部(地)斜行縄文(LR)・炭状付着あり・スベスベ	口縁付近「表層剥離」・口縁下部斜方向のナデ調整により平滑・スベスベ	極小~小粒礫2%	10YR5/1 2.5Y2/1	10YR6/1 10YR4/1	35.7	B59
図V-27-10	47-10	f38	II B	2	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑	極小粒礫1%	10YR6/3 10YR4/1	10YR4/1 2.5Y3/1	13.8	B99
図V-27-11	47-11	i42	II B	2	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	「表層剥離」・斜行縄文痕?	斜方向ナデ調整により平滑	燃紐痕跡(L)残る・極小粒礫5%	10YR8/4 2.5Y4/1	4.5Y7/4 2.5Y4/1	13.2	B87
図V-27-12	47-12	h43	II B	2	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	粒の粗い斜行縄文(LR)	極小粒礫5%	2.5Y3/2 2.5Y2/1	2.5Y8/3 10YR7/6	23.0	B84
図V-27-13	47-13	i43	II B	1	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形・やや外反する	(地)斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑	小粒礫1%	2.5Y7/4 2.5Y2/1	10YR7/4 7.5YR7/6	26.0	B97
図V-27-14	47-14	h40	II B	1	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形	粒の大きな斜行縄文(LR)	横ナデ調整によりやや平滑	小粒礫1%	10YR6/3 2.5Y2/1	10YR7/4 10YR6/4	10.1	口縁 B44
図V-27-15	47-15	d45	II B	2	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形・厚	(地)粒の大きな斜行縄文(LR)	粒の大きな斜行縄文(LR)一部・横ナデ調整により平滑	小粒礫1%	10YR7/4 10YR5/2	10YR8/3 5YR6/6	57.9	B24
図V-27-16	47-16	g42	II B	4	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形	(地)斜行縄文(LR)	剥離により凸凹	繊維痕跡明瞭・極小粒礫2%	10YR7/4 10YR4/1	10YR5/2 10YR4/1	35.6	トレンチ B70
図V-27-17	47-17	f37	II B	4	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形・厚	(地)斜行縄文(RL?)	横ナデ調整により平滑	小粒礫1%	2.5Y6/2 2.5Y2/1	2.5Y7/3 2.5Y4/1	39.7	B26
図V-27-18	47-18	f42	II B	2	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁(緩やかな波状)・口唇断面やや角形	(地)斜行縄文(LR)・施文後ナデ	横ナデ調整により平滑	極小粒礫5%	10YR6/3 2.5Y2/1	2.5Y7/2 5Y2/1	39.0	トレンチ B29
図V-27-19	47-19	g43	II B	3	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形・薄手	全体剥離	横ナデ調整により平滑	燃紐痕跡(L)明瞭	2.5Y6/1 2.5Y4/1	2.5Y2/1	5.2	B33
図V-27-20	47-20	h44	II B	5	II a-2 3	口縁(深鉢)・平縁・小突起?・口唇断面切り出し状	斜行縄文・全体剥離	横ナデ調整により平滑	燃紐痕跡(L)明瞭・極小粒礫5%	10YR7/2 7.5YR2/1	10YR7/4 10YR4/1	11.9	B85
図V-27-21	47-21	g44	II B	5	II a-2 1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形	斜行縄文・口縁下部剥離	斜方向のナデ調整により平滑	燃紐痕跡(L)明瞭・小粒礫5%	10YR8/3 2.5Y4/1	2.5Y6/2 2.5Y4/1	22.1	トレンチ B96
図V-27-22	47-22	d41	II B	4	II a-2 2	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・「表層剥離」(ややスベスベ)・剥離	主に横ナデ調整により平滑・炭付着	極小~小粒礫1%	N4/0 N1.5/0	5Y4/1 5Y2/1	118.3	B20
図V-27-23	47-23	k36	II B	2	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・表面スベスベ	横ナデ調整により平滑・「表層剥離」・スベスベ	小粒礫10%	10YR7/4 5Y4/1	10YR6/3 10YR4/1	95.6	B53
図V-27-24	47-24	g41	II B	2	II a-2 1	胴部(深鉢)	上部「表層剥離」・下部(地)斜行縄文(LR)・スベスベ	横ナデ調整により平滑・上部炭付着	軽い・極小~小粒礫5%	10YR4/1 5Y2/1	10YR4/1 2.5YR2/1	46.1	B68
図V-27-25	47-25	j36	II B	3	II a-2 2	胴部(深鉢)	上部「表層剥離」・下部(地)斜行縄文(LR)・ややスベスベ	平滑面と「表層剥離」剥離の混在	中粒礫1%・小粒礫3%	7.5YR6/1 N1.5/0	7.5YR7/1 7.5YR6/1	49.9	B51
図V-27-26	47-26	d42	II B	3	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・炭化物付着	横ナデ調整により平滑	繊維痕跡・中粒礫1%	7.5YR6/1 N1.5/0	10YR5/1 10YR2/1	22.7	B92
図V-27-27	47-27	d42	II B	3	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・炭化物付着・ややスベスベ	平滑面と「表層剥離」	極小粒礫10%	N1.5/0	10YR5/1 10YR4/1	29.6	No.6 B91
図V-27-28	47-28	j41	II B	下層	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・炭化物付着・スベスベ	「表層剥離」	極小~中粒礫(滑石)20%	10YR5/1 5Y2/1	10YR7/1 10YR4/1	45.2	B89

※(地):地文

※(ツル):平滑面にざらつきがない、(ガラ):平滑面にざらつきがある

表V-1 掲載土器一覧(B地区)

挿入 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	部位	表面	内面	胎土	色調 (Hue)	重量 (g)	備考	
図V-27-29	48-29		g43	II B	3	II a-2 2	胴下半部(大型深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)・光沢ありスペース	横ナデ調整により平滑・ややスペース・大きな剥離あり	極小粒礫1%	2.5Y4/1 N1.5/0	2.5Y5/1 2.5Y2/1	118.8	トレンチ B95
図V-27-30	48-30		d43	II B	3	II a-2 1	胴下半部(大型深鉢)	「表層剥離」・炭化物付着・剥離	横ナデ調整により平滑・下部に炭化物付着・ややスペース	小粒礫3%	5Y4/1 5Y2/1	2.5Y5/1 2.5Y4/1	122.6	B93
図V-27-31	48-31		d44	II B	5	II a-2 3	胴部(深鉢)	「表層剥離」	斜行縄文(LR)・スペース	中粒礫1%	5Y2/1	5Y2/1	20.2	トレンチ B31
図V-27-32	48-32		f45	II B	1	II a-2 4	胴部(深鉢)	「表層剥離」・スペース	斜方向ナデ調整により平滑・炭化物付着	中粒礫1%・繊維痕跡残	10YR6/1 N5/0	2.5Y5/1 N1.5/0	45.4	トレンチ B30
図V-27-33	48-33		h40	II B	3	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑	擦痕跡(L)・小粒礫	10YR5/2 10YR4/1	2.5Y6/2 10YR4/1	66.4	B81
図V-27-34	48-34		j42	II B	3	II a-2 2	胴部(深鉢)	斜行縄文(LR)・一部剥離	縦ナデ調整により平滑	擦痕跡(L)・明瞭	10YR8/3 5Y2/1	2.5Y8/3 7.5Y4/1	72.3	B52
図V-27-35	48-35		d41	II B	5	II a-2 1	胴部(深鉢)・厚手	(地)斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑・剥離	擦痕跡(L)・明瞭	10YR6/3 2.5Y2/1	2.5Y5/2 2.5Y4/2	80.2	B19
図V-27-36	48-36		e41	II B	4	II a-2 1	胴部(深鉢)・厚手	(地)斜行縄文(LR)・施文後一部ナデ消し	縦ナデ調整により平滑	擦痕跡(L)・明瞭・極小	10YR8/3 10R6/8	10YR6/2 10YR4/1	94.7	トレンチ B25
図V-27-37	48-37		i39	II B	2	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑	擦痕跡(L)・明瞭	10YR7/4 10YR4/1	10YR8/4 10YR7/4	43.0	B56
図V-27-38	48-38		i43	II B	3	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)粒の粗い斜行縄文(RL)	縦ナデ調整により平滑	擦痕跡(L)・あり・極小粒5%・小粒1%	2.5YR5/6 2.5Y2/1	10YR5/2 7.5Y2/1	61.0	トレンチ B50
図V-27-39	48-39		d42	II B	3	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・剥離	縦ナデ調整により平滑・炭化物一部付着	擦痕跡(L)・あり・小粒礫10%	10YR7/4 2.5YR7/6	2.5Y4/2 2.5Y2/1	43.0	B23
図V-28-40	48-40		h37	II B	2	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑	繊維痕跡明瞭・極小～小粒礫10%	10YR7/4 2.5YR6/6	2.5Y4/1 5Y4/1	75.0	B 37 -1
図V-28-41	48-41		f41	II B	3	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑・部分剥離	繊維痕跡明瞭	10YR6/4 7.5YR6/4	2.5Y6/3 2.5Y2/1	46.6	B27
図V-28-42	48-42		e41	II B	3	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑・一部斜行縄文(LR)	極小～小粒礫2%	10YR7/3 7.5YR7/4	10YR6/3 7.5YR6/4	46.5	B94
図V-28-43	48-43		i35	II B	1	II a-2 1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・施文後ナデ消し	「表層剥離」	極小～小粒礫30%	7.5YR8/6 2.5Y2/1	10YR7/3 10YR7/4	37.5	B90
図V-28-44	48-44		i36	II B	3	II a-2 4	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・一部ナデ消し	「表層剥離」及び剥離	繊維痕跡あり・小粒礫	10YR8/4 10Y1.7/1	10YR6/4 10YR5/4	72.7	B55
図V-28-45	48-45		h40	II B	3	II a-2 2	胴下半部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・一部ナデ消し・炭化物付着	斜方向ナデ調整により平滑	小粒礫10%	2.5Y4/1 10YR2/1	10YR5/2 10YR4/1	63.3	B79
図V-28-46	48-46		d42	II B	1	II a-2 2	胴下半部(大型深鉢)・厚手	(地)粒の粗い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ザラ)	極小粒礫1%	7.5YR7/4 10YR5/2	2.5Y6/2 2.5Y5/2	127.6	B22
図V-28-47	48-47		f41	II B	4	II a-2 1	胴下部(尖底深鉢)・厚手	(地)斜行縄文(LR)縦・一部ナデ消し	縦ナデ調整により平滑(ザラ)	極小粒礫10%	10YR7/4 10YR7/6	10YR6/3 2.5Y3/1	72.9	B28
図V-28-48	48-48		j37	II B	2	II a-2 1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・ナデ消し	縦ナデ調整により平滑(ツル)・炭化物付着	極小粒礫1%	7.5YR6/4 5YR7/6	5Y3/1 5Y2/1	55.0	B88
図V-28-49	48-49		c42	II B	1	II a-2 1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	斜方向のナデ調整により平滑(ツル)		7.5YR8/6 10YR5/3	2.5Y5/2 2.5Y2/1	70.3	B16
図V-28-50	48-50		i37	II B	3	II a-2 3	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(複節LR)	横ナデ調整により平滑(ツル)	極小粒礫1%	2.5Y7/3 2.5YR6/6	2.5Y5/2 5Y2/1	127.6	B48
図V-28-51	48-51		f45	II B	4	II a-2 1	胴下部(深鉢)	(地)粗い粒の斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑(ツル)・一部斜行縄文(LR)	小粒礫1%	2.5Y3/2 2.5Y2/1	10YR5/4 2.5Y4/1	72.7	トレンチ B32
図V-28-52	48-52		k39	II B	1	II a-2 2	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル)	小～大粒礫1%	N6/0 N1.5/0	2.5Y6/1 2.5Y2/1	76.5	B54
図V-28-53	48-53		h43	II B	1	II a-2 1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑(ザラ)	小粒礫3%	2.5Y6/2 2.5YR6/6	2.5Y4/2 2.5Y3/2	44.8	B82
図V-28-54	48-54		g43	II B	4	II a-2 1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑(ツル)・炭化物付着あり	極小粒礫1%	2.5YR5/4 10YR7/4	5Y3/1 5Y2/1	40.6	トレンチ B71
図V-28-55	48-55		i40	II B	5	II a-2 1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑(ツル)・一部縄文痕跡あり	極小粒礫1%	10YR8/4 5YR6/6	5Y4/1 5Y2/1	40.9	B86
図V-28-56	48-56		g44	II B	6	II a-2 2	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・一部ナデ消し	全面剥離	小粒礫5%	10YR6/42 5YR5/6	2.5Y4/1 2.5Y5/2	57.0	トレンチ B73
図V-28-57	48-57		h43	II B	1	II a-2 1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	斜方向+横ナデ調整により平滑(ツル)	小～中粒礫1%	5YR6/6 5YR5/4	2.5Y3/1 2.5Y2/1	34.3	B83
図V-28-58	48-58		c36	II B	2	II a-2 1	底部付近(尖底深鉢)・厚手	(地)斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル)・一部炭化	極小粒礫1%	2.5YR7/6 10YR4/3	10YR6/2 2.5Y2/1	92.0	B15
図V-28-59	48-59		h41	II B	2	II a-2 1	底部付近(尖底深鉢)・薄手	(地)斜行縄文(LR)	全面剥離	礫小粒10%・中粒1%	10YR4/2 10YR4/1	2.5Y4/1 2.5Y4/2	45.9	B46
図V-28-60	48-60		n35	II B下層	II a-2 1		底部(尖底深鉢)・厚手	(地)斜行縄文(LR)・底面摩耗	凹凸残る	繊維痕跡あり・小粒礫1%	10YR6/3 5YR6/6	10YR8/2 2.5Y5/1	410.9	B57
図V-28-61	48-61		e42	II B	M	III b 2	口縁部(深鉢)・平縁・口唇断面肥厚・小突起・口唇断面肥厚・切り出し状	(地)一部羽状縄文(LR)・円形刺突列・結節あり	横ナデ調整により平滑(ザラ)	極小粒礫3%	7.5YR7/6 10YR4/2	2.5YR6/3 2.5Y3/1	186.8	No.29 -B41
図V-28-62	48-62		h38	II B	1	III b 5	口縁部(深鉢)・平縁・口唇断面肥厚・切り出し状	(地)斜行縄文(LR)	全面剥離	極小粒礫1%	2.5Y5/3 2.5Y2/1	2.5Y2/1	8.2	B49
図V-28-63	48-63		h40	II B	3	III b 1	口縁部(深鉢)・平縁・口唇断面尖形	円形刺突(地)斜行縄文(LR)	斜方向ナデ調整により平滑・一部炭化物付着	極小粒礫2%	2.5Y7/2 2.5Y8/3	10YR4/11 0YR1.7/1	16.0	B80
図V-28-64	48-64		o34	II B	1	III b 1	口縁部(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	刻み列	全面剥離		10YR8/4 10YR5/1	10YR7/3 10YR4/1	5.3	B 60 -1
図V-28-65	48-65		o33	II B	2	III b 4	胴部(大型深鉢)	(地)結束第1種羽状縄文・一部剥離	横ナデ調整により平滑	極小粒礫1%	5YR6/6 5YR2/2	10YR7/6 10YR3/2	277.2	B 60 -2
図V-28-66	48-66		o34	II B	1	III b 5	胴部(深鉢)	(地)結束第2種羽状縄文(RL)・一部剥離	横ナデ調整により平滑(ツル)	極小粒礫1%	7.5YR6/4 5YR6/6	10YR5/4 10YR4/3	88.3	B61
図V-28-67	48-67		h40	II B	2	III b 2	胴部(小型深鉢)	(地)斜行縄文(LR+結節)	横ナデ調整により平滑(ツル)	極小粒礫10%	2.5Y7/3 2.5Y4/1	10YR7/2 2.5Y2/1	26.1	B45

※(地):地文

※(ツル):平滑面にざらつきがない、(ザラ):平滑面にざらつきがある

表V-1 掲載土器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリ ッド	層位	分類	点 数	残存率	形状	調整・剥離	石材 (色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他		
図V- 29-1	49-1	盛土 遺構	M-1 e42	M	石織	1	完形	三角形(1.5:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁やや曲線的	両面全体剥離	茶色の筋が入る黒曜石	2.9	1.8	0.4	1.4	No.63		
図V- 29-2	49-2	盛土 遺構	M-1 e42	M	石織	1	一部欠損 (尖端及 両脚)	三角形(1.8:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁やや曲線的	両面ほぼ全体に剥離調整 両面中央に素材面が残る	周縁透明、黒味の強い黒曜石	(2.6)	1.5	0.3	(1.0)	No.64		
図V- 29-3	49-3	盛土 遺構	M-1 f42	M	石織	1	完形	三角形(1.8:1) 抉りが明瞭な無茎凹基 両側縁やや外湾、曲線的	背面全体剥離 腹面周縁に剥離、素材面広く残る	黒味の強い黒曜石	2.9	1.6	0.4	1.5	No.87		
図V- 29-4	49-4	盛土 遺構	M-1 e42	M	石織	1	完形	三角形(1.8:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁直線的、中央に挟入 右側縁挟入が幅広く異形化	両面全体剥離	黒曜石	3.3	1.8	0.5	1.8	No.151		
図V- 29-5	49-5	盛土 遺構	M-1 f42	M	石織	1	完形	三角形(2.5:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁直線的 脚部左右非対称	両面ほぼ全体剥離 両面ともに中央に素材面	頁岩	10YR 5/2	3.7	1.5	0.4	1.5	No.9	
図V- 29-6	49-6	盛土 遺構	M-1 i43	II B	4	石織	1	完形	幅広い三角形(1.7:1) 抉りの明瞭な無茎凹基 両側縁はやや外湾、曲線的 脚部左右非対称	両面ほぼ全体剥離	メノウ質 頁岩	2.5YR 3/3	4.1	2.4	0.8	6.2	トレンチ
図V- 29-7	49-7	盛土 遺構	M-1 e42	M	石槍	1	完形	有茎凸基状 中央やや下、両側縁に挟入あり、尖頭部は幅広い三角形(1.8:1) 両側縁外湾、曲線的、基部は長方形に近い逆台形状	両面全体剥離	頁岩	10YR 4/1	6.3	2.4	0.7	10.9	No.35	
図V- 29-8	49-8	盛土 遺構	M-1 g42	M	つまみ 付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的に近い 先端がやや尖る つまみ部はナイフに比してやや小型の円形	背面のみの片面加工 左側縁下部と右側縁全体剥離調整により刃部作成 背面下部全体に剥離 つまみ挟入部のみ両面剥離	頁岩	10YR5/ 1	6.8	2.6	0.8	11.4	No.109	
図V- 29-9	49-9	盛土 遺構	M-1 g42	M	つまみ 付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁内湾 先端が尖る つまみ部はナイフに比してやや小型の円形	背面のみの片面加工 背面両側縁とつまみ部周縁に剥離 腹面はつまみ挟入部分に剥離	頁岩	10YR7/ 2	6.7	2.3	0.8	11.3	No.127	
図V- 29-10	49-10	盛土 遺構	M-1 g43	M	つまみ 付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁も外湾、ナイフ先端が尖る つまみ部はナイフに比してやや大型の横長楕円形	背面のみの片面加工 背面両側縁とつまみ部周縁に剥離調整、刃部作出 腹面はつまみ挟入部のみ	頁岩	表 10YR3/ 1裏 2.5Y5/1	7.8	2.9	1.3	21.2	No.81	
図V- 29-11	49-11	盛土 遺構	M-1 g43	M	つまみ 付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端が尖る つまみ部は挟入が4か所 異形 ナイフに比して大型	背面のみの片面加工 背面左側縁下部から右側縁全体に剥離で刃部作出 つまみ部は背面全体と腹面の一部に剥離	頁岩	7.5YR4/ 1	6.1	2.4	1.1	8.1	No.87	
図V- 29-12	49-12	盛土 遺構	M-1 e42	M	つまみ 付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端が尖る つまみ部はナイフに比して大型、横長の楕円形	背面のみの片面加工 右側縁全体に細かな剥離で刃部作出 左側縁に部分的な剥離 つまみ部は背面全体に粗い剥離、腹面は挟入部のみ	頁岩	2.5Y4/1	7.2	3.0	0.8	10.7	No.8	
図V- 29-13	49-13	盛土 遺構	M-1 e42	M	つまみ 付きナイフ	1	一部欠損 (ナイフ先 端)	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁外湾、右側縁直線的 つまみ部はナイフに比して大型、横長の楕円形	背面のみの片面加工 背面全体に剥離 左右両側縁に細かな剥離により刃部作出 つまみ部は両面に粗い剥離	頁岩	10YR4/ 2	5.7	2.8	0.9	9.8	両面中央 光沢あり No.33	
図V- 29-14	49-14	盛土 遺構	M-1 e42	M	スクレイ パー	1	完形	縦長剥片素材 逆三角形状で厚手 両側縁が外湾 先端が尖る	背面両側縁の剥離のみで急角度な調整	頁岩	10YR5/ 2	3.9	2.4	1.1	13.5		
図V- 29-15	49-15	盛土 遺構	M-1 e42	M	スクレイ パー	1	完形	縦長剥片素材 厚手のへら状 背面左側縁外湾、右側縁直線的 下部は弧状	背面のみの片面加工 背面全体に剥離 特に下部は急角度な剥離による刃部作出	頁岩	2.5Y2/1	6.7	3.5	1.6	42.8	エンドスク レイパー No.20	
図V- 29-16	49-16	盛土 遺構	M-1 e42	M	石斧	1	一部欠損 (基部)	短冊形 両刃に近い扁刃 側面は平坦で表裏面との稜線明瞭	全面研磨 割れ口付近に剥離、敲打痕残る、再加工か	緑色泥 岩	7.5GY 5/1	(6.5)	4.6	(2.3)	(117.0)	No.34	
図V- 29-17	49-17	盛土 遺構	M-1 f45	M	石斧	1	部分(基 部)	撿形、台形様 側縁が緩やかな外湾、上端は弧状	一部剥離痕が残るも全面研磨 上端面に敲打痕	緑色泥 岩	10GY 3/1	(7.2)	(4.6)	(1.8)	(98.4)	No.33	
図V- 29-18	49-18	盛土 遺構	M-1 e42	M	石斧	1	中型の原 材	扁平長楕円礫が素材	表面下端全体から裏面の一部に大きく剥離 刃部作出のため	緑色泥 岩	5GY 6/1	10.3	5.5	2.4	221.2	No.26	
図V- 30-19	49-19	盛土 遺構	M-1 f42	M	たたき石	1	一部欠損	やや扁平な楕円礫片が素材	礫の表裏平坦面2/1残りに、たたき痕 表面は深く、裏面は浅いたたき痕 側面上部に浅いたたき痕	片麻岩	5Y7/2	(8.0)	8.2	7.9	(407.6)	No.18	
図V- 30-20	49-20	盛土 遺構	M-1 e42	M	すり石	1	完形	大型の台形様 断面三角形礫が素材 ※形状、加工痕により北海道式石冠の可能性あり	すり面は三角形の稜線をすったもの 断面はやや丸く幅が広い 両側面上部に敲打痕、その下に平滑な面 上面、両端面は素材のまま	安山岩	5Y6/1	10.2	15.7	7.6	1660.0	No.23	
図V- 30-21	49-21	盛土 遺構	M-1 f42	M	砥石	1	部分片 (側縁部 の残る)	やや厚みのある角礫が素材	表裏及び側面がすり面として使用 表面は溝状に近い曲面 裏面は平滑な平坦面 側面は細い溝状が残る	砂岩	10YR6/ 2	(7.1)	(4.9)	(3.5)	(114.6)	No.81	
図V- 30-22	49-22	盛土 遺構	M-1 h43	II B	2	石鍾	1	完形	大型 扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き 1か所は剥離、1か所は敲打と剥離による	安山岩	2.5Y7/3	9.8	10.9	3.9	633.2	
図V- 30-23	49-23	盛土 遺構	M-1 f43	M	台石 皿	1	部分片 (側縁部 周辺)	厚手の板状礫が素材	使用面は表裏両面 表面は平滑なすり面が曲面として残る 裏面は平滑なすり面が緩やかな曲面として残る	安山岩	5Y6/1	(17.5)	(20.5)	(11.5)	5050.0	No.127	

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリ ッド	層位	分類	点 数	残存率	形状	調整・剥離	石材	(色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他
図V-31-24	49-24	盛土遺構	M-1 e43	M	加工痕のある礫	1	完形	扁平円礫が素材	一端を両面からの剥離によって刃部状を作出 表面は広く平滑で平坦なすり面となる	砂岩	5Y5/2	15.6	14.5	3.7	1168.2	No.106
図V-31-25	49-25	盛土遺構	M-1 g43	M	台石石皿	1	完形	厚手の大型礫が素材	使用面は表面のみ 平滑なすり面により礫の中央が凹む 緩やかな曲面がつくられる裏面、側面とも素材のまま	安山岩	5Y6/2	39.0	27.8	11.1		15000.0
図V-32-26	50-26	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	三角形(1.7:1) 抉りの浅い無茎凹基	両面全体剥離	透明度高い黒曜石		2.1	1.2	0.3	0.5	No.131
図V-32-27	50-27	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	三角形(1.8:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁直線的	両面全体剥離	透明度高い灰色の黒曜石		2.8	1.5	0.4	1.0	No.67
図V-32-28	50-28	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	三角形(2:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁外湾、曲線的 左側縁脚部が加工により鈍状	両面周縁に剥離 両面に広く素材剥離面が残る	透明度高い黒筋の黒曜石 球顆極小粒1%		2.5	1.3	0.3	0.7	石鏃転用か No.4
図V-32-29	50-29	盛土遺構	M-2 d35	II B	5 石鏃	1	完形	三角形(1.6:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁外湾、曲線的	両面周縁のみの剥離	黒地に赤茶色筋の入る黒曜石		2.4	1.5	0.3	1.0	No.16
図V-32-30	50-30	盛土遺構	M-2 d36	II B	7 石鏃	1	完形	三角形(1.8:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁外湾、曲線的 左側縁下部に屈折あり、再加工の可能性	両面周縁のみ幅広く剥離	頁岩 10YR5/2		2.8	1.5	0.4	1.5	左脚部加工により石鏃転用か
図V-32-31	50-31	盛土遺構	M-2 d36	II B	4 石鏃	1	一部欠損(先端)	三角形(2.1:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁やや外湾、曲線的 脚部左右非対称	両面全体細かな剥離	透明度高い黒筋の黒曜石	(2.8)	1.3	0.3	(0.7)	TA8-6	
図V-32-32	50-32	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	三角形(2.3:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁直線的 両脚部左右非対称、左脚部再加工の可能性	背面全体、腹面周縁部に細かな剥離	光沢のある黒味の強い黒曜石		3.8	1.6	0.4	1.6	石鏃転用の可能性 No.51
図V-32-33	50-33	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	三角形(2.4:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁直線的	両面全体細かな剥離	透明度低く黒味の強い黒曜石		4.1	1.7	0.5	1.9	No.25
図V-32-34	50-34	盛土遺構	M-2 d36	II B	5 石鏃	1	一部欠損(先端)	三角形(1.8:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁直線的	両面全体細かな剥離	光沢のある黒味の強い黒曜石	(2.8)	1.7	0.5	(1.4)	No.184	
図V-32-35	50-35	盛土遺構	M-2 d35	II B	3 石鏃	1	完形	三角形(2.2:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁外湾曲線的	背面全体と腹面周縁のみに剥離	頁岩 10YR 3/2		3.3	1.5	0.3	1.3	No.5
図V-32-36	50-36	盛土遺構	M-2 d36	II B	2 石槍	1	一部欠損(先端)	有茎凸基状 尖頭部は三角形(1.2:1) 両側縁は外湾、曲線的 基部は長方形、2対の挿入により中央が張り出す、特殊な剥離形状	両面全体剥離	頁岩 10YR 4/1	(6.8)	2.9	1.0	(14.6)		
図V-32-37	50-37	盛土遺構	M-2 d36	II B	3 石鏃	1	完形	基軸が直線の棒状 両端が先の尖った鈍状 断面扁平	両面全体細かな剥離	頁岩 10YR 5/2		5.1	0.8	0.5	1.7	
図V-32-38	50-38	盛土遺構	M-2 d36	II B	3 石鏃	1	完形	基軸が直線の棒状 両端が先の尖った鈍状 断面菱形	両面全体細かな剥離	頁岩 10YR 5/2		4.7	0.8	0.5	1.7	
図V-32-39	50-39	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	逆三角形形状 幅広の底辺側がつまみ部 先の尖った三角形の先端が鈍部	背面両側縁及び腹面右側縁に剥離	透明度の高い、黒い縞状の黒曜石		3.1	2.0	0.4	1.6	No.38
図V-32-40	50-40	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	逆三角形形状 やや広い底辺側がつまみ部 先の尖った三角形の先端が鈍部	背面両側縁と腹面右側縁に細かな剥離	透明度のない黒味の強い黒曜石		2.9	1.6	0.4	1.4	No.66
図V-32-41	50-41	盛土遺構	M-2 d36	II B	3 石鏃	1	完形	逆三角形形状 幅広の底辺側がつまみ部 つまみ部に一對の挿入あり 先の尖った三角形の先端が鈍部	両面全体細かな剥離 つまみ部上端に原石面残る	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.2	2.3	1.0	3.6	石鏃からの転用の可能性
図V-32-42	50-42	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	不定形な剥片を素材にした逆三角形形状 広い底辺側がつまみ部 先の尖った三角形の先端が鈍部	両面全体に剥離 つまみ部上端には原石面	透明度の低い黒地に球顆小粒1%		3.6	3.0	1.0	6.2	No.139
図V-32-43	50-43	盛土遺構	M-2 d35	II B	5 石鏃	1	完形	不定形な剥片を素材にした逆三角形形状 不定形な三角形底辺にあたる幅広部分がつまみ部 三角形の先端が鈍部 鈍部の先端は丸	鈍部の両側縁のみ剥離 他は無調整	頁岩 10YR 5/2		4.0	2.7	0.9	6.9	
図V-32-44	50-44	盛土遺構	M-2 d36	II B	3 石鏃	1	完形	大型の不定形剥片を素材にした逆三角形形状 不定形剥片の幅広部分がつまみ部 剥片の一部、三角形の先端が先の尖った鈍部	背面のみの片面加工 鈍部周辺とその側縁部に剥離 つまみ部は上端側縁に剥離	頁岩 表5Y5/1 裏2.5Y4/2		8.7	7.7	2.4	118.6	
図V-32-45	50-45	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	無茎凹基の石鏃を素材にした逆三角形形状 基部がつまみ部 尖頭部が先のやや尖った鈍部	両面全体に剥離 側縁下部を抉り、鈍部を作出?	透明度ややあり黒味の強い黒曜石		2.8	1.4	0.5	1.2	石鏃からの転用 No.11
図V-32-46	50-46	盛土遺構	M-2 d36	II B	3~4 石鏃	1	完形	無茎凹基の石鏃が素材 尖頭部の一端を加工し鈍部を作出 脚部の一端も鈍部に加工	両面周縁部分を幅広く剥離 両鈍部周辺に細かな剥離	透明度高い、黒い縞状		2.8	1.8	0.4	1.3	石鏃からの転用 No.109
図V-32-47	50-47	盛土遺構	M-2 d36	II B	4 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフが垂直 両側縁直線的 ナイフ先端は尖らない つまみ部はナイフに比して大型、横長の楕円形	両面ほぼ全体に剥離 両側縁細かな剥離 つまみ部は粗い剥離で抉りは腹面からの剥離が細かい 上端面に原石面	黒地に赤筋の黒曜石		4.9	1.8	0.7	4.7	
図V-32-48	50-48	盛土遺構	M-2 d36	II B	5 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端は尖る つまみ部はナイフに比してやや大型 横長の長方形	背面のみの片面加工 背面全体剥離 側縁下部は急角度な剥離で刃部作出 つまみ部は挿入部のみ	頁岩 2.5Y4/1		5.5	2.3	1.1	11.0	
図V-32-49	50-49	盛土遺構	M-2 d36	II B	3 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、左側縁直線的 ナイフ先端は尖る つまみ部はナイフに比して小型 抉りのある円形	背面のみの片面加工 背面側縁(右側縁)全体、左側縁下部のみ剥離 刃部作出 つまみ部は挿入部腹面、上部抉りは背面から	頁岩 10YR5/1		8.1	4.8	1.2	29.2	腹面上部に光沢あり

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリ ッド	層位	分類	点 数	残存率	形状	調整・剥離	石材	(色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他
図V- 32-50	50- 50	盛土 遺構	M-2	d35	II B	8	1	縦長 つまみ部に対してナイフ先 端が右向き 左側縁外湾、右側縁 内湾 ナイフ先端は尖らない つま み部はナイフに比して大型、円形	概ね背面のみの片面加工 背面右側縁に急角度な細か な剥離で刃部作出 腹面右 側縁の外湾部分に剥離 つま み部は周縁を両面からの 剥離で作出 挟入は背面か らの剥離	頁岩	10YR5/ 1	7.7	3.4	1.4	16.9	
図V- 32-51	50- 51	盛土 遺構	M-2	d35	II B	6	1	縦長 つまみ部に対してナイフ先 端が右向き 左側縁外湾、右側縁 外湾 ナイフ先端は尖る つまみ 部はナイフに比して小型、菱形	腹面からの加工が主 腹面 右側縁全体に剥離 背面右 側縁の剥離は部分的 つま み部は無調整、挟入部のみ 両面	頁岩	5Y5/1	(5.5)	(2.7)	(0.6)	(5.7)	
図V- 32-52	50- 52	盛土 遺構	M-2	d36	II B	6	1	縦長 つまみ部に対してナイフ先 端が左向き 左側縁直線的、右側 縁外湾も直線的 ナイフ先端はや や尖る つまみ部はナイフに比し て大型、横長の楕円形	背面主体の片面加工 背面 は両側縁とつまみ部全体の 剥離 腹面は左側縁下部か ら右側縁中～下部とつまみ 部全体に剥離 つまみ部の 挟入は両面	頁岩	10YR 5/1	6.3	2.4	1.0	14.7	
図V- 32-53	50- 53	盛土 遺構	M-2	d36	II B	3~ 4	1	やや横長の円形に近い剥片が素 材 下端に外湾する刃部	背面下端から左側縁、上端 にかけて剥離 腹面は下端 側縁のみ 下端側縁は両面 細かな剥離で刃部作出	透明度のある黒 い縞状の黒曜石		4.3	4.8	1.0	15.7	No.73
図V- 33-54	50- 54	盛土 遺構	M-2	d36	II B	3	1	ほぼ円形に近い剥片が素材 下端部に外湾する刃部	背面下端部側縁に剥離で刃 部作出 腹面周縁の剥離は 部分的	頁岩	5Y5/1	5.5	5.6	1.1	31.3	
図V- 33-55	50- 55	盛土 遺構	M-2	d36	II B	3~ 4	1	菱形様の剥片が素材 左側縁が やや内湾、右側縁が直線的 下端 が尖る	腹面の両側縁に細かな剥離 で刃部作出 背面の剥離は 部分的 上端には原石面	やや透明度のある 黒味の強い縞 状の黒曜石		4.1	3.8	0.9	7.6	No.13
図V- 33-56	50- 56	盛土 遺構	M-2	d36	II B	上面	1	縦長の剥片が素材 左側縁直線 的、右側縁外湾する	左側縁全体に急角度な剥離 で刃部作出 右側縁の一部 に両面からの剥離	メノウ質 頁岩	5YR4/1	(5.8)	2.7	(0.7)	(10.9)	つまみ付き ナイフの可 能性
図V- 33-57	50- 57	土坑	P- 04	i36	覆土	砥石	1	扁平な砂岩礫が素材 表裏両面 が平滑な使用面 側面は丸く、表 裏面との境に明瞭な稜線	表面に溝状のすり痕と平滑 なすり痕 裏面全体に平滑な すり痕 側面は丸く整形	砂岩	2.5Y6/4	17.5	8.5	1.8	273.0	No.1
図V- 33-58	50- 58	土坑	P- 05		覆土	リフレイ ク	1	縦長のへら状剥片が素材 両側縁 は直線的、末端縁はやや弧状	ほとんど素材面 右側縁の 一部に使用痕跡あり ※刃部調整などが見られな いので未成品か	メノウ質 頁岩	2.5Y5/1	5.4	3.6	1.8	30.2	
図V- 33-59	50- 59	土坑	P- 06		覆土	つまみ 付きナイ フ	1	縦長 つまみ部に対してナイフ先 端が右を向く 左側縁外湾、右側 縁直線的 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比してやや大 きい 左右に長い長方形	ほぼ背面のみの片面加工 背面全体剥離 両側縁全体 に細かな剥離で刃部作成 右側縁は急角度な剥離 つ まみ部周辺は粗い剥離で作 出	頁岩	2.5Y3/2	5.4	2.9	0.7	10.3	表裏面とも に光沢あり
図V- 33-60	50- 60	土坑	P- 07	g37	覆土	リフレイ ク	1	横長の菱形様な剥片が素材 両 側縁ともわずかに内湾する 末 端がやや尖る	両側縁と末端に刃こぼれ状 の欠落 上端に原石面	周縁のみ透明、 黒味の強い黒曜 石		3.5	4.4	1.3	9.2	
図V- 33-61	50- 61	土坑	P- 10		覆土	つまみ 付きナイ フ	1	縦長 つまみ部に対してナイフの 先端が左向き 左側縁外湾、右側 縁直線的 ナイフ先端は尖る つ まみ部はナイフに比して小さい円 形	ほぼ背面のみの片面加工 背面はつまみ部を含めた周 縁全体に剥離 腹面は右側 縁に部分的な剥離 つまみ 部の挟入に剥離	頁岩	2.5Y5/2	5.6	2.5	0.9	8.8	
図V- 33-62	50- 62	土坑	P- 10		覆土	リフレイ ク	1	縦長の菱形様な剥片が素材 両側 縁外湾 末端やや尖る	ほとんど素材面のみ 両側 縁に刃こぼれ状の欠落あり	メノウ質 頁岩	2.5Y5/1	4.8	3.2	1.3	10.9	
図V- 33-63	50- 63	土坑	P- 10		覆土 上面	石斧	1	大型の短冊形 刃円、両刃 両側 面面取、稜線明瞭	全面研磨 一部に剥離、敲 打痕が残る	緑色泥 岩	5G5/1	(7.8)	6.2	(1.5)	(132.4)	No.3
図V- 33-64	50- 64	土坑	P- 10		覆土 上面	砥石	1	扁平な砂岩礫が素材 表面のみ が平滑な使用面 裏面は凹凸の 残る素材面 側面の一部に丸い角 が残る	磨り方向に沿った緩やかな 傾斜	砂岩	2.5Y6/3	(8.1)	(9.1)	(2.0)	(146.0)	No.1
図V- 33-65	50- 65	土坑	P- 11		覆土 上面	石斧	1	三角形様の扁平楕円礫が素材 左側縁外湾、右側縁直線的 表裏 両面平坦	表面全面に軽い敲打痕 左 側縁下部に剥離痕と明瞭な 敲打痕 右側縁に剥離痕、 明瞭な敲打痕 裏面無調整、 スベスベ	緑色泥 岩	5GY4/1	12.3	7.4	2.7	345.6	裏面全体 に光沢
図V- 33-66	50- 66	土坑	P- 13		覆土	石鏃	1	三角形(2.75:1) 挟りの深い無茎凹 基 両側縁緩やかに外湾、曲線的 両脚端やや尖る	両面全体剥離	凝灰岩	N7/0	(4.3)	1.6	0.5	(2.5)	
図V- 33-67	50- 67	遺物 集中	C-2		II B	1	1	逆三角形状(石礫基部片?)の剥 片	両面全体剥離 両側縁下部 細かな剥離	球顆列5%の黒 味の強い黒曜石		2.4	2.6	0.8	3.7	赤井川産 (TA8-09)
図V- 33-68	50- 68	遺物 集中	C-2		II B	1	1	紡錘状の剥片	部分的に細かな剥離	黒味の強い黒曜 石		5.6	2.4	1.1	8.5	赤井川産 (TA8-10)
図V- 34-69	51- 69	遺物 集中	C-3	h37	II B	4	1	縦長 つまみ部に対してナイフ先 端が右向き 左側縁外湾、右側縁 直線的 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比してやや小 型 左右に長い楕円形	背面全体剥離 両側縁に細 かな剥離で刃部作出 腹面 上半分剥離 両側縁に部分 的な剥離 つまみ部は表裏 面に粗い剥離 挟りは両面 から	頁岩	10YR 5/2	12.2	3.0	0.9	29.9	No.1
図V- 34-70	51- 70	遺物 集中	C-3	h37	II B	4	1	縦長 つまみ部に対してナイフ先 端が右向き 左側縁外湾、右側縁 直線的 ナイフ先端が尖る つま み部はナイフに比して小型で、左 右に細く伸びたミズク状	背面全体剥離 両側縁に細 かな剥離で刃部作出 腹面 下半及び右側縁剥離 つ まみ部背面のみ剥離 挟り は両面から	頁岩	表10YR 5/6 裏 10YR 4/2	7.6	3.4	0.9	23.1	No.2

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリ ッド	層位	分類	点 数	残存率	形状	調整・剥離	石材	(色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他
図V- 34-71	51- 71	遺物 集中	C-3 h37	II B	4	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁大きく外湾、右側縁わずかに内湾 つまみ部はナイフに比して小型、鶏口状	背面周縁部に剥離 下端及び右側縁に細かな剥離、刃部作出 腹面周縁上部のみ剥離 つまみ部両面剥離、挟りは両面から	頁岩	10YR 6/2	5.9	3.2	0.9	11.8	No.4
図V- 34-72	51- 72	遺物 集中	C-3 i37	II B	4	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁上部直線下部内湾 ナイフ先端が尖る つまみ部はナイフに比して小型、左右に長い楕円形 挟りはナイフの肩に食い込む円形	背面全体剥離の片面加工 両側縁に細かな剥離で刃部作出 腹面側縁部は部分的な剥離 つまみ部は両面細かな剥離 挟りは両面から	頁岩	10YR 3/1	7.9	3.4	1.0	23.3	No.3
図V- 34-73	51- 73	遺物 集中	C-3 h37	II B	4	1	完形	縦長剥片が素材 左側縁外湾、右側縁直線的 末端がやや尖る	背面側縁部幅広く剥離 全て急角な剥離で刃部作出 腹面周縁部に部分的な剥離のみ	頁岩	10YR 4/1	5.9	3.5	1.2	19.9	No.3
図V- 34-74	51- 74	遺物 集中	C-3 i37	II B	4	1	一部欠損 (上端部)	半円状の縦長剥片が素材 両側縁が外湾し、楕円形状	背面のみの片面加工 背面周縁部分に細かな剥離で急角な刃部作出	頁岩	N1.5/0	(4.6)	4.2	(0.8)	(12.6)	エンドス クレー バー No.1
図V- 34-75	51- 75	遺物 集中	C-3 i37	II B	4	1	完形	楕円形の縦長剥片が素材 両側縁は直線的 下端部は弧状	背面のみの片面加工 背面下半部周縁のみ剥離 急角な剥離で刃部作出 背面上半は原石面 腹面全面素材面	頁岩	10YR1.7 /1	6.7	3.6	1.4	29.8	エンドス クレー バー No.2
図V- 34-76	51- 76	遺物 集中	C-3 h37	II B	4	1	一部欠損 (基端部)	細身で小型の撥形(石のみ) 刃部は弧状の円刃で両刃 側面は面取りされ、稜線も明瞭 刃部に欠落あり	全面全体に研磨	緑色泥 岩	5GY5/1	(6.0)	1.8	0.8	(16.5)	No.6
図V- 34-77	51- 77	遺物 集中	C-3 h37	II B	4	1	完形	撥形(刃部が広く基端が細い) 刃部は幅広の円刃で両刃 側面は面取りされるも部分的に不明瞭 稜線が曖昧	全面ほぼ全体に研磨 一部に剥離痕 両側面及び上端面に不明瞭な敲打痕	緑色泥 岩	5G4/1	8.1	4.1	2.1	104.7	No.5
図V- 34-78	51- 78	遺物 集中	C-3 i37	II B	4	1	完形	やや大型の撥形(刃部が広く基端が細い) 刃部は弧状の円刃で両刃 基端は弧状 側面は面取りが不明瞭で稜線も曖昧	全面全体研磨	緑色泥 岩	10GY 4/1	11.1	4.8	2.3	193.5	No.4
図V- 34-79	51- 79	遺物 集中	C-4 j37	II B	2~ 3	1	一部欠損	扁平円礫が素材 表面は緩やかな山形 裏面は平滑な平坦面	表面部分的にたたき痕 側面全体にたたき痕	安山岩	2.5Y8/3	11.9	(8.5)	(5.3)	(652.8)	No.1・被熱
図V- 35-80	51- 80	遺物 集中	C-6 h36	I(II B)	石斧	1	大型の原 材	割れて短冊状になった扁平礫が素材	側縁と上端面に剥離と敲打による整形痕が見られる	緑色泥 岩	5GY4/1	11.9	8.4	3.5	577.0	No.3
図V- 35-81	51- 81	遺物 集中	C-6 h36	I(II B)	石斧	1	大型の原 材	洋梨状の扁平礫が素材	右側縁に剥離と敲打による整形痕が見られる	緑色泥 岩	5GY5/1	13.8	6.9	2.4	384.0	No.6
図V- 35-82	51- 82	遺物 集中	C-6 h36	I(II B)	石斧	1	中型の原 材	台形状の扁平礫が素材	両側縁に剥離と敲打による整形痕が見られる	緑色泥 岩	7.5GY 3/1	9.6	7.5	2.1	277.8	No.5
図V- 36-83	51- 83	遺物 集中	C-6 h36	I(II B)	石斧	1	中型の原 材	厚みのある棒状に近い角礫が素材 上端面には、たたき石状の敲打痕が見られる	左側縁に剥離と敲打 上端面には、たたき石状の敲打痕が見られる	緑色泥 岩	5GY5/1	11.3	5.7	4.0	431.1	No.2
図V- 35-84	51- 84	遺物 集中	C-6 h36	I(II B)	石斧	1	小型の原 材	断面正方形の短い棒状礫が素材	剥離によって一部割れているか、殆ど石材そのものである	緑色泥 岩	5GY6/1	10.4	3.2	3.0	165.4	No.1
図V- 36-85	51- 85	遺物 集中	C-6 h36	I(II B)	石斧	1	小型の原 材	洋梨状の扁平礫が素材	明瞭な整形痕は見られず、石材そのものである	緑色泥 岩	2.5GY4/ 1	11.4	5.6	1.2	125.8	No.4
図V- 37-1	52-1	包含層	i41	II B	2	1	完形	小型の三角形(1.8:1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁外湾、曲線的 右側縁下部に欠落?	両面全体剥離	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.0	1.6	0.5	1.3	
図V- 37-2	52-2	包含層	c42	II B	1	1	一部欠損 (脚端)	小型の三角形(1.6:1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁直線的	両面全体剥離 背面中央に素材面残る	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.0	1.8	0.5	1.5	TA8-7
図V- 37-3	52-3	包含層	i41	II B	2	1	完形	小型の三角形(2.1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁やや外湾、曲線的 脚部左右非対称	両面全体剥離 背面中央に素材面残る	頁岩	10YR5/ 1	3.0	1.5	0.4	1.2	
図V- 37-4	52-4	包含層	c35	II B	2	1	完形	中型の三角形(2.1) 挟りの深い無茎凹基 両脚先端が尖る	両面全体剥離 背面中央に素材面残る	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.5	1.7	0.3	1.4	
図V- 37-5	52-5	包含層	s33	II B	2	1	一部欠損 (先端・脚 端)	中型の三角形(1.8:1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁ほぼ直線的 脚部先端が尖る	両面全体剥離	球顆及び球顆筋が3%黒味の強い黒曜石	(3.6)	(2.0)	0.5	(2.3)		
図V- 37-6	52-6	包含層	c34	II B	2	1	完形	中型の三角形(2.1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁やや外湾、曲線的 両脚端が丸い	両面ほぼ全体剥離 両面中央部分に素材面残る 右側縁上部に鋸歯状部分	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.6	1.8	0.4	2.0	
図V- 37-7	52-7	包含層	d36	II B	2	1	一部欠損 (脚端)	中型の三角形(2.5:1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁やや外湾、曲線的 脚部左右非対称、脚部は尖る	両面全体剥離	頁岩	N3/0	3.8	(1.5)	0.4	(1.5)	全体的に 被熱
図V- 37-8	52-8	包含層	m37	II B	3	1	一部欠損 (尖端)	大型の三角形(2.2:1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁直線的 脚部左右非対称、脚部やや尖る	両面全体細かな剥離	球顆列30% 透明度のない黒味の強い黒曜石	(3.8)	1.8	0.5	(1.8)		
図V- 37-9	52-9	包含層	h40	II B	1	1	完形	大型の三角形(2.1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁ほぼ直線的 両脚端やや尖る	両面全体細かな剥離	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.9	2.0	0.5	2.7	
図V- 37-10	52- 10	包含層	s33	II B	石	1	完形	大型の三角形(2.2:1) 挟りの深い無茎凹基 両側縁外湾、曲線的、下部で直立 両脚部細い	両面全体剥離	球顆小粒30% 透明度のない黒味の強い黒曜石		4.1	1.9	0.7	3.5	
図V- 37-11	52- 11	包含層	p32	II B	1	1	完形	大型の三角形(2.1) 挟りの深い無茎凹基 左側縁直線的、中間で屈折あり 右側縁直線的 脚部やや尖る	両面全体剥離	頁岩	10YR 6/2	4.1	2.1	0.6	3.5	凹基部両 面に黒い 付着あり

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリ ッド	層位	分類	点 数	残存率	形状	調整・剥離	石材 (色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他		
図V- 37-12	52- 12	包含層	c35	II B	2	石鏃	1	完形	幅広の三角形(1.4:1) 挟りの深い 無茎凹基 両側縁直線的 脚部は 左右非対称	両面ほぼ全体に剥離調整 腹面右側に大きな素材痕	透明度ややあり 筋状の球顆列を 伴う黒曜石	3.6	2.5	0.4	2.2		
図V- 37-13	52- 13	包含層	c35	II B	5	石鏃	1	完形	幅広の三角形(1.8:1) 挟りが浅い 無茎凹基 両側縁は曲線的、やや 膨らむ 脚部は左右非対称	両面全体に細かな剥離調整	透明度ややあり 黒味の強い黒曜 石	4.1	2.3	0.7	4.4		
図V- 37-14	52- 14	包含層	i41	II B	1	石鏃	1	完形	幅広の三角形(1.6:1) 挟りの浅い 無茎凹基 側縁は曲線的で膨らみ がある	両面全体剥離	頁岩	2.5Y5/2	4.0	2.5	0.9	5.8	
図V- 37-15	52- 15	包含層	i40	II B	1	石鏃	1	一部欠損 (左側縁)	尖頭部正三角形 小型の有茎平 基	両面全体に細かな剥離調整	透明度が、やや 高い黒曜石	1.8	(1.1)	0.3	(0.4)		
図V- 37-16	52- 16	包含層	e37	II B	2	石鏃	1	完形	有茎凸基 尖頭部三角形(1.7:1) 両側縁直線的 基部は太く、末端 に向かいやや細い 末端は丸い	両面全体剥離	球顆極小粒1% 透明度のない黒 味の強い黒曜石	3.9	1.4	0.5	1.9		
図V- 37-17	52- 17	包含層	c38	II B	3	石鏃	1	一部欠損 (右側縁)	中型の有茎凹基 尖頭部三角形 (1.2:1) 両側縁直線的 曲線的基 部は細身で末端に向かい尖る	両面全体剥離	球顆及び球顆列 50% 透明度のな い黒味の強い黒 曜石	3.1	(1.4)	0.4	(1.0)		
図V- 37-18	52- 18	包含層	c35	II B	3	石鏃	1	一部欠損 (尖端基 部下端)	柳葉形 両側縁緩やかに外湾	両面全体細かな剥離 側縁に細かな欠落(刃こぼれ)	透明度の高い灰 褐色の黒曜石	(3.1)	1.1	0.3	(0.8)		
図V- 37-19	52- 19	包含層	f40	II B	2	石鏃	1	完形	柳葉形 両側縁緩やかに外湾	両面全体剥離 両側縁に欠 落あり(刃こぼれ)	透明度の高い灰 色縞状の黒曜石	4.0	1.1	0.2	(0.7)	TA8-8	
図V- 37-20	52- 20	包含層	d36	II B	2	石槍	1	一部欠損 (尖端)	小型の有茎凸基状 尖頭部幅広 の三角形(1.4:1) 両側縁直線的 基部は幅広く側縁が直立し、底縁 がやや凹む	背面全体剥離 腹面は尖頭 部が側縁 基部が全体に剥 離	透明度の低い黒 味の強い黒曜石	(5.9)	3.0	0.7	(7.9)		
図V- 37-21	52- 21	包含層	c35	II B	1	石槍	1	完形	小型の有茎凸基状 尖頭部は幅 広の三角形(1.5:1) 両側縁やや外 湾、曲線的 基部は直立、底側に 左右に張出す突起状のつまみ部	背面全体剥離、側縁に細か な剥離 腹面尖頭部は側縁 周辺の剥離 基部全体剥離	透明度のない黒 味の強い黒曜石	5.9	2.8	0.8	8.6		
図V- 37-22	52- 22	包含層	b37	II B	3	石槍	1	完形	大型の有茎凸基状 尖頭部幅広 の三角形(1.4:1) 両側縁外湾、曲 線的、尖端はやや尖る 基部は側縁が直線的で底側に細くなる 底側には一対の抉入により「つまみ」状になる 底縁は直線的	両面全体剥離 左上端側縁に欠落あり	赤褐色の筋が入 る黒味の強い黒 曜石	8.1	3.6	1.1	(24.3)		
図V- 37-23	52- 23	包含層	h36	II B	3	石槍	1	一部欠損 (尖端)	大型の有茎平基状 尖頭部は幅 広の三角形(1.8:1) 両側縁緩やか に外湾、曲線的 基部は幅広く、 底に向かい細くなる 底側には一 対の抉入による「楕円形」のつま み部	両面全体剥離	頁岩	10YR 5/2	(8.9)	3.3	0.9	(20.7)	
図V- 37-24	52- 24	包含層	i37	II B	4	石槍	1	一部欠損 (尖端)	大型の有茎凸基状 尖頭部は細 身の三角形(2.2:1) 両側縁直線的 基部は尖頭部に比べ幅広く、側縁 は直立に近い 底縁も直線で水平	両面全体剥離	頁岩	2.5Y 3/2	(7.4)	2.1	0.8	(11.2)	
図V- 37-25	52- 25	包含層	i39	II B	1	石槍	1	完形	中型の菱形、木葉状 尖頭部は幅 広の三角形(1.2:1) 両側縁直線的 尖端やや尖る 基部両側縁直線 的、下に細くなる。下端は丸い	両面全体剥離 尖頭部左側縁上部は鋸歯状	透明度のある黒 い縞状の黒曜石	6.6	2.5	0.8	8.6		
図V- 37-26	52- 26	包含層	j39	II B	1	石槍	1	一部欠損 (尖端)	中型の菱形、木葉状 尖頭部は幅 広の三角形(1.3:1) 両側縁はやや 外湾し、曲線的 基部は末端につ れて細くなる	両面全体に剥離調整	球顆列30% 黒味の強い黒曜 石	(7.0)	2.8	1.0	(13.7)		
図V- 37-27	52- 27	包含層	c35	II B	1	石槍	1	部分片 (尖頭部)	幅広の三角形 両側縁が曲線的	両面全体に剥離調整	透明度の低い梨 肌状の黒曜石	(4.9)	(4.1)	(1.3)	(18.1)	大型石槍 の一部	
図V- 38-28	52- 28	包含層	c35	II B	1	石鏃	1	完形	逆三角形状 幅広の底辺側がつ つまみ部 三角形の尖端が先の尖 った錐部 両側縁緩やかに内湾 錐 部は細長い	錐部全体と側縁部に細かな 剥離 上端面は無調整	透明度のない黒 味の強い黒曜石	3.0	2.1	0.6	2.3		
図V- 38-29	52- 29	包含層	c35	II B	3	石鏃	1	完形	逆三角形状 幅の広い底辺側がつ つまみ部 尖端側が錐部で細長い 錐部の抉入が明瞭、断面形がD形 両側縁は直線的	背面のみの片面加工 背面 全体剥離 錐部から側縁に かけて細かな剥離 上端部 は無調整	透明度のない黒 味の強い黒曜石	3.3	1.9	0.9	4.4		
図V- 38-30	52- 30	包含層	b37	II B	2	石鏃	1	一部欠損 (錐部)	不定形な剥片の一部に逆三角形 の錐部を作出 両側縁は内湾 錐 部の断面は菱形	錐部は両面に細かな剥離 つまみ部は原石面が残り、調 整なし	透明度がややあ る黒い縞状の黒 曜石	(4.7)	4.5	1.3	(15.7)		
図V- 38-31	52- 31	包含層	d41	II B	4	石鏃	1	完形	不定形な剥片の一部に小さな逆 三角形の錐部を作出	錐部は両面からの剥離 つまみ部となる素材剥片に は原石面が残り調整なし	透明度がやや高 く、縞状に黒い黒 曜石	3.2	3.6	1.0	4.6		
図V- 38-32	52- 32	包含層	i43	II B	2	石鏃	1	完形	楕円形に調整した剥片の一部に 小さな逆三角形の錐部を作出 脚部の断面は三角形	錐部は腹面からの剥離調整 で作出 つまみ部は背面周 縁を急角度に調整してつくら れている	頁岩	10YR 7/1	3.5	4.0	1.2	10.2	トレンチ
図V- 38-33	52- 33	包含層	b37	II B	2	石鏃	1	完形	無茎凹基の石鏃からの転用 左脚 部を錐部にする	両面のほとんどが剥離調整 で、左脚部の抉入により錐部 を作出	やや透明度のあ る黒曜石	3.5	2.8	0.6	2.4		
図V- 38-34	52- 34	包含層	f42	II B	2	つまみ 付きナイ フ	1	完形	大型の縦長 つまみ部に対してナイ フが垂直 両側縁が緩やかに外 湾 先端が尖る つまみ部がナイ フに比して小型、円形	両面全体剥離 両側縁下半 部に細かな剥離	頁岩	10YR 3/2	10.2	2.9	1.0	26.2	
図V- 38-35	52- 35	包含層	s33	II B	2	つまみ 付きナイ フ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフが 左向き 左側縁外湾、右側縁直線 的 ナイフ先端は尖らない つまみ 部はナイフに比してやや大型、棒 状	両面全体剥離 腹面左側縁 下部に細かな剥離	頁岩	2.5Y 3/2	5.9	2.6	1.0	12.5	

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリ ッド	層位	分類	点 数	残存率	形状	調整・剥離	石材	(色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他
図V-38-36	52-36	包含層	i42	II B(M)	4	1	完形	中型の縦長 つまみ部に対してナイフが垂直 左側縁やや外湾、右側縁直線的 ナイフの先端はやや尖る つまみ部はナイフに比して大型の円形	両面全体剥離 ナイフ先端付近から右側縁上部まで細かな剥離	頁岩	10YR 6/1	7.0	1.9	1.0	10.0	
図V-38-37	52-37	包含層	i39	II B	2	1	完形	中型の縦長 つまみ部に対してナイフが垂直 左側縁やや外湾、右側縁直線的 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比してやや大型で、縦長の楕円形	ほぼ背面のみの片面加工 背面周縁部やや急角度な細かい剥離 つまみ部は挟りとともに両面からの剥離で作出	頁岩	10YR 3/2	7.2	2.5	1.0	16.8	両面に光沢 左側縁からつまみ部に擦痕
図V-38-38	52-38	包含層	c35	II B		1	完形	小型の縦長 つまみ部に対してナイフが垂直 両側縁ともに直線的 ナイフ先端は尖らず平坦 つまみ部はナイフに比して2/1以上の大型三角形	背面はつまみ部周辺のみ粗い剥離 腹面は右側縁が細かな剥離 つまみ部周辺が粗い剥離	透明度のない黒味の強い黒曜石		4.5	2.5	0.8	7.7	
図V-38-39	52-39	包含層	j42	II B	1	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁大きく外湾、右側縁内湾 ナイフ先端は尖らない つまみ部はナイフに比して小さい、棒状	ほぼ背面のみの片面加工 背面周縁剥離 右側縁に細かな剥離により刃部作出 つまみ部は両面から剥離	頁岩	10YR 5/2	4.5	3.0	0.6	6.7	
図V-38-40	52-40	包含層	i37	II B	4	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁内湾 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比して小さく円形	ほぼ背面のみの片面加工 背面全体剥離 右側縁全体から左側縁下部にかけて、細かな剥離で刃部作出 つまみ部は両面から挟りとともに剥離	頁岩	10YR 1.7/1	7.2	3.4	0.8	15.0	
図V-38-41	52-41	包含層	q31	II B	1	1	完形	小型の縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比してやや大型で弧状	ほぼ背面のみの片面加工 背面全体剥離 両側縁に細かな剥離で刃部作出 ナイフ先端に挟入あり つまみ部は両面から挟りとともに剥離	頁岩	2.5Y 6/3	4.7	1.9	0.7	5.3	
図V-38-42	52-42	包含層	k38	II B	1	1	完形	中型の縦長 つまみ部に対してナイフの先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端が尖る つまみ部はナイフに比して大型、左右に長い楕円形	ほぼ背面のみの片面加工 背面全体剥離 両側縁下部に細かな剥離で刃部作出 つまみ部は挟りとともに両面からの粗い剥離	頁岩	10YR 4/2	6.2	2.7	1.1	15.4	
図V-38-43	52-43	包含層	s33	II B	1	1	一部欠損 (ナイフ先端)	小型の縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁大きく外湾、右側縁緩やかに外湾 つまみ部はナイフに比して小型、円形	背面のみの片面加工 背面は周縁のみ細かな剥離	頁岩	10YR 4/1	(4.6)	2.7	0.6	(5.8)	
図V-38-44	52-44	包含層	i42	II B	4	1	完形	小型の縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁大きく外湾、右側縁小さく外湾 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比してやや大型、三角形	ほぼ背面のみの片面加工 背面全体剥離 右側縁全体に細かな剥離 腹面は左側縁に部分的かつまみの挟入部のみ	周縁透明度高い霞状に黒味の強い黒曜石		5.2	2.5	0.8	9.1	
図V-38-45	52-45	包含層	r30	II B	2	1	完形	中型の縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁直線的な外湾、右側縁直線的 ナイフ先端は直角に近い つまみ部はナイフに比して大型で円形	ほぼ背面のみの片面加工 背面はつまみ部を含む周縁のみ剥離 右側縁に細かな剥離 つまみ部は挟入を含めて両面から	頁岩	10YR 5/2	7.0	4.7	1.3	17.7	
図V-38-46	52-46	包含層	n34	II B	1	1	一部欠損 (ナイフ下部)	つまみ部に対してナイフが横長 左側縁直線的、右側縁大きく外湾 つまみ部はナイフに比して小型、菱形	背面のみの片面加工 両側縁、つまみ部に細かな剥離 左側縁は急角度な剥離	頁岩	2.5Y5/2	(4.7)	4.1	(0.7)	(7.8)	
図V-39-47	52-47	包含層	n34	II B	1	1	完形	つまみ部に対してナイフが横長 左側縁外湾、右側縁直線的 つまみ部はナイフに比して大型で扇状	背面のみの片面加工 つまみ部を含む周縁のみ剥離 腹面はつまみ部と底縁の一部に剥離	頁岩	2.5Y6/1	(5.3)	4.5	(0.6)	(11.8)	
図V-39-48	52-48	包含層	r30	II B	1	1	一部欠損 (ナイフ下部)	つまみ部に対してナイフが幅広く、左、右、底の三辺がある 右側縁と底縁の角は尖らない つまみ部はナイフに比してやや大型で横に広がる角状	背面は左側縁全体と右側縁下部に細かな剥離 腹面は底縁に部分的な剥離 つまみ部は挟入のみ両面から	頁岩	2.5Y7/1	(5.5)	(4.2)	1.0	(13.6)	
図V-39-49	52-49	包含層	i40	II B	2	1	完形	小型の縦長 左側縁が外湾し、右側縁が直線的 末端はやや尖る	背面のみの片面加工 周縁はほぼ全体細かな剥離 末端から左側縁半ばにかけて急角度な剥離	頁岩	7.5YR3/1	4.6	3.0	1.5	12.9	
図V-39-50	52-50	包含層	k41	II B	5	1	完形	中型の縦長、厚い剥片 左側縁外湾、右側縁直線的 末端はやや丸くなる	背面のみの片面加工 周縁全体に細かな剥離 特に下半部周縁は急角度な剥離	頁岩	10YR 5/2	6.0	4.0	1.6	42.0	
図V-39-51	52-51	包含層	s33	II B		1	完形	中型の縦長でへら状、厚手の剥片 左側縁外湾、右側縁直線的 末端が右向きで尖る	背面のみの片面加工 左側縁下部から右側縁全体にかけて細かな剥離 側縁は急角度な剥離、特に左側縁下部は直角に近い	頁岩	7.5R3/2	5.9	3.9	1.4	43.5	
図V-39-52	52-52	包含層	i35	II B	2	1	完形	大型の縦長 左側縁外湾、右側縁直線的 末端がやや尖る	ほぼ背面のみの片面加工 左側縁下部にやや細かな急角度の剥離 右側縁中央に腹面からの剥離で鋸歯状に	頁岩	10YR3/1 裏 10YR5/2	7.5	5.3	1.8	63.1	
図V-39-53	52-53	包含層	i40	II B	2	1	完形	中型の縦長 左側縁外湾、右側縁直線的 末端が弧状	ほぼ背面のみの片面加工 背面下半部全体剥離 側縁部は細かな剥離で刃部作出	頁岩	2.5Y5/1	3.5	5.0	1.5	26.4	エンドスクレイパー
図V-39-54	52-54	包含層	j38	II B	2	1	完形	逆三角形様の横長剥片が素材 左側縁直線的、右側縁外湾曲線的 末端がやや尖る	背面は末端から右側縁全体にかけて細かな剥離 左側縁は部分的な剥離 腹面は右側縁に一部細かな剥離	頁岩	10YR 4/2	4.2	5.3	2.1	29.8	

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリ ッド	層位	分類	点 数	残存率	形状	調整・剥離	石材	(色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他
図V- 39-55	53- 55	包含層	i37	II B	2 石斧	2	一部欠損 (刃部)	薄手超小型(石のみ) 撥形(逆三 角形状) 刃部幅広の円刃、両刃 側縁面取、稜線明瞭 基端平坦	全面全体研磨 表面に一部 叩き痕	緑色泥 岩	7.5Y7/2	7.5	2.3	0.8	18.4	2点接合
図V- 39-56	53- 56	包含層	i42	II B	2 石斧	2	一部欠損 (刃部)	薄手超小型(石のみ) 緩やかな撥 形(刃部広く、基部やや狭い) 刃部 幅広の円刃、両刃 側縁数面の面 取、稜線明瞭 基端刃部状(両頭 斧)	全面全体研磨	緑色泥 岩	7.5Y7/1	7.7	1.9	0.9	(21.5)	2点接合
図V- 39-57	53- 57	包含層	i40	II B	2 石斧	1	完形	薄手超小型(石のみ) 原石の形状 を残す短冊形 刃部円刃、両刃 側縁明瞭な面取なし、稜線のみ 基端は原石のまま	全面全体研磨	緑色泥 岩	2.5GY6/ 1	8.0	1.7	1.1	23.6	
図V- 39-58	53- 58	包含層	f42	II B	5 石斧	1	完形	薄手超小型(石のみ) 原石の形状 を残す短冊形 刃部直刃、両刃 側縁面取なし、稜線不明瞭 基 端円形、原石形状	全面全体研磨	緑色泥 岩	7.5Y4/2	8.1	2.3	1.1	30.9	
図V- 39-59	53- 59	包含層	d42	II B	1 石斧	1	完形	超薄手超小型(石のみ) 原石素材 の形状を残す短冊形 刃部偏刃、 両刃 側縁面取、稜線明瞭 基端 素材のまま	素材剥離面 表面、刃部以 外 裏面側面全体研磨	緑色泥 岩	2.5GY6/ 1	6.2	2.7	0.7	17.0	
図V- 39-60	53- 60	包含層	m35	II B	1 石斧	1	完形	薄手小型 緩やかな撥形(刃部広 く、基部やや狭い) 刃部円刃、両 刃 側縁わずかな面取、稜線不明 瞭 基端直線	全体研磨 基端面に素材面 側面に敲打痕残る	緑色泥 岩	10Y4/1	7.8	4.0	1.4	69.5	
図V- 40-61	53- 61	包含層	g41	II B	2 石斧	1	完形	薄手中型 撥形(三角形) 刃部 直刃、両刃 側縁面取、稜線明瞭 基端弧状、一部欠落	全面研磨	緑色泥 岩	5GY5/1	8.8	6.4	1.1	97.2	
図V- 40-62	53- 62	包含層	i38	II B	1 石斧	1	完形	薄手小型 原石形状の残る短冊 形 刃部直刃、両刃 側縁面取な し、稜線不明瞭 基端原石形状	全面全体研磨	緑色泥 岩	7.5Y5/2	8.5	3.4	1.2	50.9	
図V- 40-63	53- 63	包含層	i40	I B	石斧	1	完形	薄手小型 素材形状の残る短冊 形 刃部偏刃、両刃に近い 側縁 細く面取、稜線明瞭 基端素材形 状	全面全体研磨 側縁裏面に 剥離痕 基端に素材面 刃 部に剥離痕残る	泥岩	2.5Y3/1	9.1	3.5	1.6	82.0	
図V- 40-64	53- 64	包含層	j41	II B	2 石斧	1	完形	薄手大型 撥形(刃部が広く基部 がやや狭い) 刃部偏刃、両刃 側 縁数段面取、稜線明瞭 基端弧状	全面全体研磨 一部剥離痕	緑色泥 岩	5GY6/1	10.3	4.2	1.5	108.0	
図V- 40-65	53- 65	包含層	g38・ 39	II B	2・1 石斧	2	完形	薄手大型 原石形状を残す短冊形 刃部偏刃、両刃 側縁一部面取、 稜線不明瞭 基端弧状、稜線あり	全面研磨 一部剥離痕残る	緑色泥 岩	10Y5/2	13.1	3.4	1.5	114.9	接合
図V- 40-66	53- 66	包含層	n38	II B	3 石斧	1	部分片 (刃部)	薄手大型 幅広い撥形 刃部円 刃、両刃 側縁面取、稜線明瞭	全面研磨 側縁に一部剥離 痕	緑色泥 岩	2.5GY 5/1	(6.1)	(5.1)	(1.4)	(55.6)	
図V- 40-67	53- 67	包含層	c43	II B	2 石斧	1	部分片 (刃部)	厚手大型 短冊形 刃部直刃、両 刃 側縁面取、稜線明瞭	全面研磨、一部剥離痕 上 部割れ口、及び刃部に研磨 後の敲打痕	緑色泥 岩	5GY6/1	7.6	5.7	2.6	195.7	再加工、 たたき石 など転用か
図V- 41-68	53- 68	包含層	n37	II B	1 石斧	1	部分片 (基部)	厚手大型 撥形(基端細くなる) 側 縁面取不明瞭、稜線不明瞭 断面 楕円形	全面研磨(光沢あり) 基端敲 打痕(再加工?)	緑色泥 岩	2.5GY 6/1	10.8	5.1	3.2	(216.9)	
図V- 41-69	53- 69	包含層	n37	II B	1 石斧	1	完形(未 成品)	大型の断面三角礫が素材 撥形 (基部細くなる) 側縁面取、稜線明 瞭、刃部未成	刃部周辺以外全面研磨 刃 部に剥離痕残る	緑色泥 岩	5Y6/2 2.5GY 4/1	(11.3)	(3.8)	2.8	(188.3)	
図V- 41-70	53- 70	包含層	c34	II B	2 たたき石	1	完形	扁平長楕円礫が素材 断面楕円 形	左右両側縁上部にくぼみの 明瞭な敲打痕	片麻岩	10Y4/2 2.5Y8/2	19.1	7.4	3.1	764.3	
図V- 41-71	53- 71	包含層	h38	II B	1~ 2 たたき石	1	完形	扁平楕円礫が素材 断面D形 表 面凸、裏面平滑	主要な敲打痕は側縁部 下 端に最も大きな敲打痕 凸側 表面に小さな敲打痕が数か 所	安山岩	10YR7/ 1	12.2	9.2	5.2	825.4	No.2 被熱あり
図V- 41-72	53- 72	包含層	f44	II B	2・3 すり石	2	完形	大型の台形様 断面三角礫が 素材 側面及び上面は平滑 両端 面は素材面	すり面は三角礫の稜線を すったもの 断面は平坦で幅 は狭い	安山岩	5Y6/1	11.9	20.1	5.9	1998.0	接合
図V- 42-73	53- 73	包含層	k39	II B	2 すり石	1	完形	中型の台形様 断面三角礫が 素材	すり面は三角礫の稜線から 左端の一部をすったもの 断面はやや丸く、幅が広い 両側面上部に敲打、剥離 痕、下部に平滑な面が残る	安山岩	5Y6/1	8.6	15.8	6.9	1475.0	形状及び 加工痕に より北海道 式石冠の 可能性あり
図V- 42-74	53- 74	包含層	i40	II B	4 すり石	1	一部欠損 (すり面端 部)	中型の台形様 断面三角礫が 素材	すり面は三角礫の稜線と右 端の一部をすったもの 断 面はやや丸く、幅広い 両側 面及び左上端面は平滑	安山岩	5Y6/1	8.5	(14.7)	5.6	(1055.3)	
図V- 42-75	53- 75	包含層	f42	II B	2 すり石	1	完形	小型で凹凸のある台形様 断面三角礫が素材	すり面は三角礫の稜線 断面はやや丸味あり、幅広。 側面、上面は凹凸のある素 材面 左右両端面には敲打 痕が残る	安山岩	7.5Y6/1	8.2	11.8	7.7	963.3	転用の可 能性あり
図V- 42-76	53- 76	包含層	i40	II B	3 すり石	1	完形	大型の自然礫で扁平楕円礫が素 材 断面楕円形で表面は平滑	すり面は直線的な側縁の一 部をすったもの 断面は平坦 で幅は狭い	砂岩	2.5Y6/3	11.6	20.9	4.7	1650.0	
図V- 42-77	54- 77	包含層	i39	II B	3 すり石	1	完形	中型の自然礫で扁平楕円礫が素 材 断面楕円形で表面は平滑	すり面は礫の側縁の一部を すったもの 断面は平坦で幅 が狭い	砂岩	7.5Y5/1	8.8	15.3	4.2	730.4	
図V- 42-78	54- 78	包含層	g44	II B	6 扁平打 製石器	1	完形	扁平楕円礫が素材	正面下半部、上端部に剥離 裏面下部及び上端部に剥離 上下側縁に刃部状のすり面 を作出	砂岩	5Y5/2	10.6	17.6	2.5	537.7	扁平打製 石器の未 成品 トレンチ

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・剥離	石材	(色調)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他	
図V-42-79	54-79	包含層	j42	II B	3	砥石	1	完全	やや厚みのある角礫が素材	使用面は表面と裏面の一部表面は溝状の使用痕跡 裏面はやや平坦が残る使用痕跡	砂岩	2.5Y5/3	6.4	6.5	2.3	92.1	
図V-42-80	54-80	包含層	d36	II B	6	砥石	1	完全	使用によってやや厚みのある逆三角形になった	表裏及びその他もすり面として使用 表面は溝状、裏面は平坦、側面は曲面	砂岩	2.5Y6/3	7.2	4.7	2.0	55.8	
図V-42-81	54-81	包含層	c45	II B	2	砥石	1	完全	扁平な不整形礫が素材	表面の平坦面をすり面として使用 裏面、側面には素材面が残る	砂岩	2.5Y5/2	12.7	10.1	2.1	240.2	
図V-43-82	54-82	包含層	i42	II B	4	石錘	1	完全	小型 扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	安山岩	5Y5/2	3.3	4.0	1.1	18.2	
図V-43-83	54-83	包含層	i41	II B	1	石錘	1	完全	小型 扁平不整形礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	砂岩	5BQ5/1	4.8	4.9	1.1	34.5	
図V-43-84	54-84	包含層	i41	II B	2	石錘	1	完全	小型 扁平円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	5GY3/1	4.2	4.3	1.0	30.1	
図V-43-85	54-85	包含層	c36	II B	1	石錘	1	完全	中型(幅5~10cm) 円形扁平礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	2.5Y8/3 5Y3/1	6.4	6.3	1.4	91.5	
図V-43-86	54-86	包含層	f42	II B	2	石錘	1	完全	中型(幅5~10cm) 扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	5Y8/1 5Y2/1	5.2	6.3	1.5	84.9	トレンチ
図V-43-87	54-87	包含層	g42	II B	3	石錘	1	完全	中型(幅5~10cm) 扁平長楕円礫が素材	長軸端の2か所に表面からの剥離と打ち欠き	砂岩	7.5Y5/1	3.9	7.5	1.7	60.7	トレンチ
図V-43-88	54-88	包含層	d42	II B	3	石錘	1	完全	中型(5~10cm) 扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	2.5Y6/4	5.4	7.2	2.1	125.4	
図V-43-89	54-89	包含層	g43	II B	6	石錘	1	完全	大型(10cm~) 扁平長楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	砂岩	5Y6/2	7.0	10.7	2.4	281.0	トレンチ
図V-43-90	54-90	包含層	j38	II B	4	石錘	1	完全	大型(10cm~) 扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	7.5Y5/2	8.3	11.4	2.5	399.3	
図V-43-91	54-91	包含層	k41	II B	2	石錘	1	完全	超大型(15cm~) 扁平楕円礫が素材 ※たたき石など転用か	長軸端の2か所に打ち欠き 主に表面からの剥離による上下側縁に小さな敲打跡	砂岩	5Y6/3	11.6	15.8	4.2	1063.1	裏表面一部に炭状付着
図V-43-92	54-92	包含層	c36	II B	4	石錘	1	一部欠損(右側縁)	中型(5~10cm) 扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所、短軸端の2か所に打ち欠き 表面から2か所の剥離、裏面から3か所の剥離が残る	片麻岩	2.5Y7/3	8.6	(9.8)	(2.4)	(331.4)	
図V-43-93	54-93	包含層	e42	II B	5	石錘	1	一部欠損(右半部)	中型 扁平楕円礫が素材	長軸端1か所、短軸端2か所に打ち欠き 表面に剥離2か所と敲打痕2か所 裏面には剥離痕が2か所残る	砂岩	2.5Y4/1	(8.0)	(9.8)	3.1	(342.7)	全体的に被熱
図V-36-94	54-94	包含層	g43	II B	2	台石石皿	1	部分片(側縁を含む)	扁平な板状礫が素材 側縁が一部裏面全体素材のまま残る	使用面は表面に1面 平滑なすり面がやや傾斜、傾斜に沿って擦痕	安山岩	7.5Y6/1	(10.8)	(13.8)	(4.3)	(1068.0)	トレンチ
図V-36-95	54-95	包含層	j38	II B	1	台石石皿	1	部分片(側縁を含む)	扁平な板状礫が素材 側縁の一部は素材のまま	表面は平滑で水平なすり面 裏面はやや平滑な面	安山岩	5Y6/3	(19.9)	(10.0)	(5.4)	(1210.0)	
51-1						2~3	1	完全	円礫・扁平		片麻岩	10YR8/3~5Y4/2			237.7	13	
51-2						3	1	完全	円礫・扁平		片麻岩	2.5Y6/3~5Y3/2			208.8	9	
51-3						2~3	2	完全	円礫・扁平		砂岩	2.5Y7/3			179.0	15	
51-4						2~3	1	完全	円礫・扁平	被熱	砂岩	10YR6/2			237.3	18 28	
遺物集中 C-4 j37						3	1									29	
51-5						2~3	1	完全	円礫・扁平		砂岩	2.5Y6/3			74.0	6	
51-6						3	1	完全	円礫・扁平						46.2	26	
51-7						2~3	1	完全	楕円礫・扁平	被熱	片麻岩	2.5Y7/2~5Y3/2			279.5	11	
51-8						3	1	完全	楕円礫・扁平	被熱	砂岩	2.5Y5/2			293.3	4	
51-9						2~3	2	完全	円礫・扁平		安山岩	25Y8/1			251.0	2	
51-9						3	1	完全	円礫	被熱	砂岩	5YR5/2			496.9	3	

I 試掘調査と出土遺物

挿図番号	図版番号	試掘坑	種別	分類	点数	部位	表面	内面	胎土その他	表 (色調)	裏	重量	その他		
図I-2-1	54-1	H30試掘坑 K27	土器	IIIb	1	口縁部破片	口縁は緩やかな波状、貼り付けにより肥厚する切り出し状の口唇には、半円形の刻み列と、複節の縄線文。地文は複節のRL原体による斜行縄文	横ナデによる調整 平滑	極小粒の礫を5%	5YR6/4~7.5YR4/1	5YR5/6	156.9	IV-33-3に掲載		
		包含層 P16 II B2			1	口縁突起片	突起部は貼付紐と半円形の刻み列	突起部分は緩ナデ調整							
2-2	54-2	試掘坑	26	土器	IIIb	1	胴部片	斜行縄文(RL)	ナデ調整による平滑	7.5YR5/4	10YR3/1	18.1			
2-3	54-3	試掘坑	2	土器	IIa-2	1	胴部片	斜行縄文(RL)	ナデ調整による平滑	7.5YR5/3	7.5YR5/4	25.5			
2-4	54-4	試掘坑	22	石器	石鏃	1	残存率	形状	調整・剥離	石材 (色調)	長さ	幅	厚さ	重量	
							有茎凸基		両面に剥離調整	黒曜石	(1.8)	(1.5)	0.5	(0.9)	
2-5	54-5	試掘坑	2	石器	つまみ付ナイフ	1	一部欠損	ナイフ先端が垂直	両面に剥離調整	被熱した黒曜石	(5.2)	2.2	1.0	(10.0)	
2-6	54-6	試掘坑	2	石器	石錘	1	部分	中型扁平円礫が素材	礫の長軸端に打ち欠き1か所	片麻岩	2.5Y8/1	(7.9)	(7.1)	(2.6)	(171.7)
2-7	54-7	試掘坑	2	石器	石錘	1	完全	やや大型の扁平円礫が素材	礫の長軸端に打ち欠き2か所	砂岩	5Y5/3	(11.1)	12.7	2.3	446.7

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

第Ⅵ章 分析の成果

1 試料採取と分析内容（表Ⅵ-1 図Ⅵ-1）

本調査では、4種の自然科学的分析及び鑑定を専門機関等に依頼して実施した。内容は放射性炭素年代測定、炭化材樹種の同定、動物遺存体（骨）の分析、黒曜石の原産地分析である。

放射性炭素年代測定、炭化材樹種、動物遺存体（骨）の同定については、土壌採取の上フローテーションによって得られた試料を対象とし、黒曜石原産地分析については出土した黒曜石製石器を試料とした。

フローテーション試料については、焼土などの土から採取した土壌サンプルを対象にフローテーション法による土壌水洗を行った。作業はPROJECT SEEDS MODEL TYPE-1を使用し、篩のサイズは浮遊：2.00mm、0.425mm、沈殿2.00mmのものを用いた。得られた微細の遺物については土器、フレイク、骨片、炭化物に分類した。このうち炭化物について年代測定及び炭化材樹種、骨の同定試料として重量、容積等を計測して提出した。なお試料の内容、採取位置については一覧にまとめた(表Ⅵ-1 図Ⅵ-1)。

2 高丘8遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

高丘8遺跡は、北海道苫小牧市高丘41番地1および18に所在し、標高約50mの河岸段丘上に立地する。測定対象試料は、焼土や遺物包含層中で検出された炭化物ブロックから採取された炭化物15点である(表1)。

試料No. 1、7、9、10は縄文時代中期、No. 2～6、8は縄文時代前期と推定されている。No. 11～14は、上下で検出された火山灰（上位にTa-d2、下位に黄褐色ローム）から縄文時代早期、No. 15も上下の火山灰との関係から旧石器時代と推定されている。

2 測定の意義

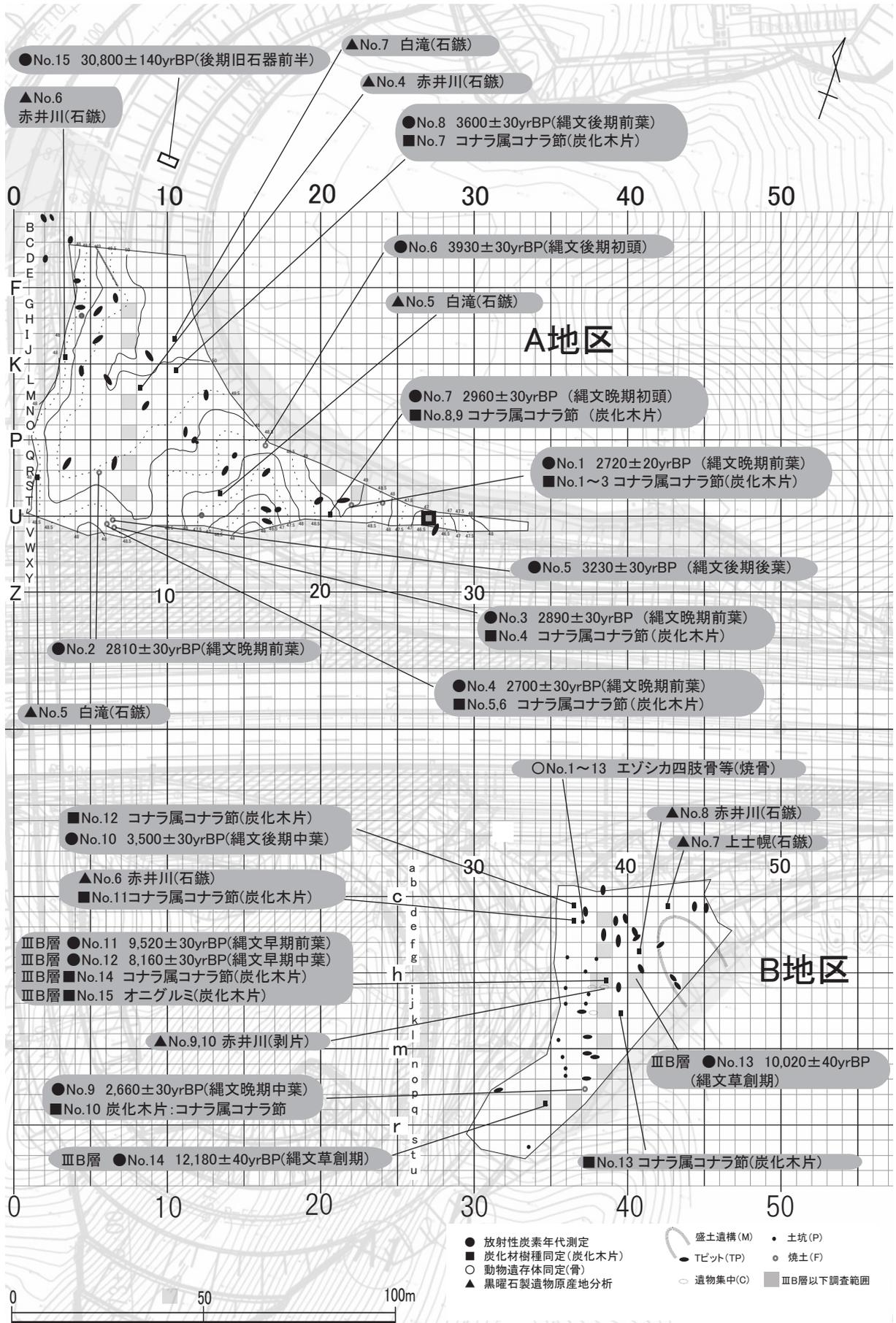
試料が出土した遺構、層の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物、混入物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA:Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

リストNo. 資料番号	種別	地区	遺構及び グリッド	遺構等種別	層位	重量 (g)	点数	推定時期	分析結果等				
1 放射性炭素年代測定((株)加速器分析研究所)													
No.01	TA8-01	炭化物	A	F-1	焼土	II B1	0.03	縄文中期	2,720 ±20	晩期前葉			
No.02	TA8-02	炭化物	A	F-2	焼土	II B1	0.06	縄文前期	2,810 ±30	晩期前葉			
No.03	TA8-03	炭化物	A	F-3	焼土	II B1	0.46	縄文前期	2,890 ±30	晩期前葉			
No.04	TA8-04	炭化物	A	F-4	焼土	II B1	0.04	縄文前期	2,700 ±30	晩期中葉			
No.05	TA8-05	炭化物	A	F-5	焼土	II B1	0.04	縄文前期	3,230 ±30	後期後葉			
No.06	TA8-06	炭化物	A	F-6	焼土	II B1	0.09	縄文前期	3,930 ±30	後期初頭			
No.07	TA8-07	炭化物	A	CB-2	炭化物集中	II B上面	0.09	縄文中期	2,960 ±30	晩期初頭			
No.08	TA8-08	炭化物	A	CB-1	炭化物集中	II B	0.28	縄文前期	3,600 ±30	後期前葉			
No.09	TA8-09	炭化物	B	F-1	焼土	II B1	0.07	縄文中期	2,660 ±30	晩期中葉			
No.10	TA8-10	炭化物	B	c36	炭化物塊	II B4	0.35	縄文中期	3,500 ±30	後期中葉			
No.11	TA8-11	炭化物	B	CB-1	炭化物集中	III B	0.19	縄文早期	9,520 ±30	早期前葉			
No.12	TA8-12	炭化物	B	CB-1	炭化物集中	III B	0.08	縄文早期	8,160 ±30	早期中葉			
No.13	TA8-13	炭化物	B	h40	炭化物集中	III B	0.07	縄文早期	10,020 ±30	草創期			
No.14	TA8-14	炭化物	B	p34	炭化物塊	III B	0.06	縄文早期	12,180 ±40	草創期			
No.15	TA8-15	炭化物	A	調査区外 北壁露頭	炭化物塊	ローム層	0.22	旧石器	30,800 ±140	後期旧石器 前半			
2 炭化材樹種同定 ((株)古環境研究所)													
No.01	TA8-01	炭化木片	A	F-1	焼土	II B	0.10	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.02	TA8-02	炭化木片	A	F-1	焼土	II B	0.11	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.03	TA8-03	炭化木片	A	F-1	焼土	II B	0.08	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.04	TA8-04	炭化木片	A	F-3	焼土	II B	1.20	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.05	TA8-05	炭化木片	A	F-4	焼土	II B1	0.21	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.06	TA8-06	炭化木片	A	F-4	焼土	II B1	0.18	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.07	TA8-07	炭化木片	A	CB-1	炭化物集中	II B	0.82	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.08	TA8-08	炭化木片	A	CB-2	炭化物集中	II B1	0.32	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.09	TA8-09	炭化木片	A	CB-2	炭化物集中	II B1	0.24	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.10	TA8-10	炭化木片	B	F-1	焼土	II B1	2.42	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.11	TA8-11	炭化木片	B	d36	炭化物塊	II B5	0.50	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.12	TA8-12	炭化木片	B	c36	炭化物塊	II B5	1.83	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.13	TA8-13	炭化木片	B	j39	炭化物塊	II B1	0.40	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.14	TA8-14	炭化木片	B	CB-1	炭化物集中	III B	0.30	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.15	TA8-15	炭化木片	B	CB-1	炭化物集中	III B	0.66	1	縄文前期	オニグルミ			
3 動物遺存体同定((株)パリオ・サーヴェイ)													
No.01	TA8-01	骨	B	d36	土坑P-13上面	II B上層	2.59	1	縄文前期	哺乳類 四肢骨			
No.02	TA8-02	骨	B	d36	土坑P-13上面	II B上層	1.04	1	縄文前期	エゾシカ 角片			
No.03	TA8-03	骨	B	d36	土坑P-13上面	II B上層	1.15	1	縄文前期	哺乳類 部位不明			
No.04	TA8-04	骨	B	d36	土坑P-13上面	II B上層	0.80	1	縄文前期	哺乳類 部位不明			
No.05	TA8-05	骨	B	d36	土坑P-13上面	II B上層	0.62	1	縄文前期	エゾシカ 中手骨/中足骨?			
No.06	TA8-06	骨	B	d36	土坑P-13上面	II B上層	0.61	1	縄文前期	エゾシカ 中手骨/中足骨			
No.07	TA8-07	骨	B	c36	土坑P-13上面	II B上層	2.83	1	縄文前期	エゾシカ 中足骨片			
No.08	TA8-08	骨	B	c36	土坑P-13上面	II B上層	1.54	1	縄文前期	エゾシカ 角?			
No.09	TA8-09	骨	B	c36	土坑P-13上面	II B上層	0.81	1	縄文前期	哺乳類 部位不明			
No.10	TA8-10	骨	B	c36	土坑P-13上面	II B上層	0.82	1	縄文前期	哺乳類 四肢骨			
No.11	TA8-11	骨	B	d36	土坑P-13	覆土	2.40	50	縄文前期	哺乳類 歯牙片			
No.12	TA8-12	骨	B	d36	土坑P-13	覆土	4.02	50	縄文前期	哺乳類 歯牙片			
No.13	TA8-13	骨	B	d36	土坑P-13	覆土	1.32	30	縄文前期	哺乳類 部位不明			
4 黒曜石製遺物原産地分析((株)パレオ・ラボ)													
									長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	原産地	
No.01	TA8-01	石鏃	A	J03	遺物包含層	II B4	0.84	1	縄文前期	2.4	1.8	0.3	赤井川
No.02	TA8-02	石鏃	A	I10	遺物包含層	II B4	1.91	1	縄文前期	3.4	1.8	0.3	白滝
No.03	TA8-03	石鏃	A	R01	遺物包含層	II B2	1.47	1	縄文前期	2.6	1.1	0.3	赤井川
No.04	TA8-04	石鏃	A	L08	遺物包含層	II B1	1.51	1	縄文前期	3.4	1.3	0.3	赤井川
No.05	TA8-05	石槍	A	S13	遺物包含層	II B1	16.45	1	縄文前期	6.8	3.0	0.9	白滝
No.06	TA8-06	石鏃	B	d36	遺物包含層	II B4	0.77	1	縄文前期	2.6	1.3	0.2	赤井川
No.07	TA8-07	石鏃	B	c42	遺物包含層	II B1	1.53	1	縄文前期	2.9	1.8	0.3	上土幌
No.08	TA8-08	石鏃	B	f40	遺物包含層	II B1	0.76	1	縄文前期	4.0	1.1	0.1	赤井川
No.09	TA8-09	剥片	B	C-2	剥片集中2	II B1	3.74	1	縄文前期	2.4	2.4	0.5	赤井川
No.10	TA8-10	剥片	B	C-2	剥片集中2	II B1	8.50	1	縄文前期	5.5	2.4	1.1	赤井川

表VI-1 分析試料及び成果一覧



図VI-1 分析試料採取地点と成果一覧

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい（¹⁴Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（ $1\sigma=68.2\%$ ）あるいは2標準偏差（ $2\sigma=95.4\%$ ）で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.3較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。また、複数の試料の年代値を比較できるようにマルチプロット図を図2に示している。

試料No. 1～10の¹⁴C年代は、3930 \pm 30yrBP（試料No. 6）から2660 \pm 30yrBP（試料No. 9）の間にある。暦年較正年代（ 1σ ）は、最も古いNo. 6が4425～4298cal BPの間に3つの範囲、最も新しいNo. 9が2778～2752cal BPの範囲で示される。No. 6が縄文時代後期初頭頃、No. 9が縄文時代晩期中葉頃に相当し（小林2017、小林編2008）、全体的に推定される年代より新しい結果となった。

試料No. 11～14の¹⁴C年代は、12180 \pm 40yrBP（試料No. 14）から8160 \pm 30yrBP（試料No. 12）の間にある。暦年較正年代（ 1σ ）は、最も古いNo. 14が14130～14001cal BPの範囲、最も新しいNo. 12

が9122~9028cal BPの範囲で示される。No. 14が縄文時代草創期の隆線文土器等の時期頃、No. 12が縄文時代早期中葉頃に相当し（小林2017、小林編2008）、かなり年代幅があるが、おおむね推定される年代の範囲内と見られる。

試料No. 15の¹⁴C年代は30800±140yrBP、暦年較正年代（1σ）は34872~34576cal BPの範囲で示され、後期旧石器時代前半期頃に相当する（工藤2012）。おおむね推定と一致する年代値である。

試料の炭素含有率は、すべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林謙一 2017 縄文時代の実年代 —土器型式編年と炭素14年代—, 同成社

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

工藤雄一郎 2012 旧石器・縄文時代の環境文化史 高精度放射性炭素年代と考古学, 新泉社

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果（δ¹³C補正值）

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-182364	No. 1 (TA8-01)	A地区 焼土 (A地区 F-1) II B1層	炭化物	AaA	-28.38 ± 0.34	2,720 ± 20	71.30 ± 0.22
IAAA-182365	No. 2 (TA8-02)	A地区 焼土 (A地区 F-2) II B1層	炭化物	AAA	-28.66 ± 0.49	2,810 ± 30	70.47 ± 0.22
IAAA-182366	No. 3 (TA8-03)	A地区 焼土 (A地区 F-3) II B1層	炭化物	AAA	-28.16 ± 0.36	2,890 ± 30	69.81 ± 0.22
IAAA-182367	No. 4 (TA8-04)	A地区 焼土 (A地区 F-4) II B1層	炭化物	AAA	-28.85 ± 0.48	2,700 ± 30	71.49 ± 0.22
IAAA-182368	No. 5 (TA8-05)	A地区 焼土 (A地区 F-5) II B1層	炭化物	AAA	-29.64 ± 0.37	3,230 ± 30	66.91 ± 0.21
IAAA-182369	No. 6 (TA8-06)	A地区 焼土 (A地区 F-6) II B1層	炭化物	AAA	-29.50 ± 0.43	3,930 ± 30	61.27 ± 0.20
IAAA-182370	No. 7 (TA8-07)	A地区 炭化物ブロック (A地区 CB-2) II B 上面	炭化物	AAA	-25.98 ± 0.50	2,960 ± 30	69.14 ± 0.22
IAAA-182371	No. 8 (TA8-08)	A地区 炭化物ブロック (A地区 CB-1) II B 層	炭化物	AAA	-27.67 ± 0.47	3,600 ± 30	63.87 ± 0.21
IAAA-182372	No. 9 (TA8-09)	B地区 焼土 (B地区 F-1) II B1層	炭化物	AAA	-29.50 ± 0.44	2,660 ± 30	71.80 ± 0.22
IAAA-182373	No. 10 (TA8-10)	B地区 炭化物ブロック (B地区 c36) II B4層	炭化物	AAA	-28.08 ± 0.47	3,500 ± 30	64.69 ± 0.21
IAAA-182374	No. 11 (TA8-11)	B地区 炭化物ブロック (B地区 CB-1) III B 層	炭化物	AAA	-27.95 ± 0.35	9,520 ± 30	30.57 ± 0.13
IAAA-182375	No. 12 (TA8-12)	B地区 炭化物ブロック (B地区 CB-1) III B 層	炭化物	AAA	-28.30 ± 0.36	8,160 ± 30	36.22 ± 0.15
IAAA-182376	No. 13 (TA8-13)	B地区 炭化物ブロック (B地区 h40) III B 層	炭化物	AAA	-26.49 ± 0.42	10,020 ± 40	28.73 ± 0.13

IAAA-182377	No. 14 (TA8-14)	B 地区 炭化物ブロック (B 地区 p34) III B 層	炭化 物	AaA	-26.68 ± 0.44	12,180 ± 40	21.96 ± 0.12
IAAA-182378	No. 15 (TA8-15)	A 地区 炭化物ブロック (A 地区 北側露頭) ローム層	炭化 物	AaA	-24.88 ± 0.38	30,800 ± 140	2.16 ± 0.04

【IAA 登録番号 : #9439】

表 2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-182364	2,770 ± 20	70.80 ± 0.21	2,717 ± 24	2844calBP - 2780calBP (68.2%)	2856calBP - 2764calBP (95.4%)
IAAA-182365	2,870 ± 20	69.94 ± 0.21	2,811 ± 25	2945calBP - 2878calBP (68.2%)	2976calBP - 2850calBP (95.4%)
IAAA-182366	2,940 ± 20	69.35 ± 0.21	2,887 ± 25	3060calBP - 2971calBP (68.2%)	3141calBP - 3126calBP (2.0%) 3110calBP - 3093calBP (2.1%) 3079calBP - 2942calBP (90.6%) 2937calBP - 2929calBP (0.7%)
IAAA-182367	2,760 ± 20	70.92 ± 0.21	2,696 ± 25	2842calBP - 2826calBP (16.2%) 2797calBP - 2760calBP (52.0%)	2849calBP - 2756calBP (95.4%)
IAAA-182368	3,300 ± 20	66.28 ± 0.20	3,227 ± 25	3470calBP - 3440calBP (32.2%) 3433calBP - 3400calBP (36.0%)	3551calBP - 3533calBP (4.0%) 3492calBP - 3381calBP (91.4%)
IAAA-182369	4,010 ± 30	60.71 ± 0.19	3,934 ± 26	4425calBP - 4384calBP (35.2%) 4370calBP - 4352calBP (12.5%) 4328calBP - 4298calBP (20.5%)	4508calBP - 4485calBP (3.2%) 4440calBP - 4287calBP (91.2%) 4268calBP - 4259calBP (1.0%)
IAAA-182370	2,980 ± 20	69.00 ± 0.20	2,964 ± 25	3169calBP - 3076calBP (68.2%)	3214calBP - 3057calBP (94.2%) 3048calBP - 3036calBP (1.2%)
IAAA-182371	3,650 ± 20	63.52 ± 0.19	3,601 ± 25	3963calBP - 3947calBP (13.1%) 3928calBP - 3869calBP (55.1%)	3974calBP - 3844calBP (95.4%)
IAAA-182372	2,740 ± 20	71.14 ± 0.21	2,661 ± 25	2778calBP - 2752calBP (68.2%)	2843calBP - 2821calBP (5.8%) 2797calBP - 2745calBP (89.6%)
IAAA-182373	3,550 ± 20	64.28 ± 0.20	3,498 ± 25	3830calBP - 3815calBP (11.0%) 3798calBP - 3722calBP (57.2%)	3841calBP - 3696calBP (95.4%)
IAAA-182374	9,570 ± 30	30.39 ± 0.12	9,519 ± 32	11063calBP - 11028calBP (16.4%) 11002calBP - 10969calBP (13.2%) 10791calBP - 10713calBP (38.6%)	11071calBP - 10950calBP (41.1%) 10869calBP - 10697calBP (54.3%)
IAAA-182375	8,210 ± 30	35.98 ± 0.14	8,157 ± 32	9122calBP - 9028calBP (68.2%)	9247calBP - 9172calBP (12.9%) 9141calBP - 9011calBP (82.5%)
IAAA-182376	10,040 ± 40	28.64 ± 0.13	10,020 ± 36	11611calBP - 11518calBP (30.7%) 11509calBP - 11396calBP (37.5%)	11710calBP - 11323calBP (95.4%)
IAAA-182377	12,200 ± 40	21.89 ± 0.11	12,176 ± 42	14130calBP - 14001calBP (68.2%)	14205calBP - 13927calBP (95.4%)
IAAA-182378	30,800 ± 140	2.16 ± 0.04	30,798 ± 141	34872calBP - 34576calBP (68.2%)	35033calBP - 34401calBP (95.4%)

【参考値】

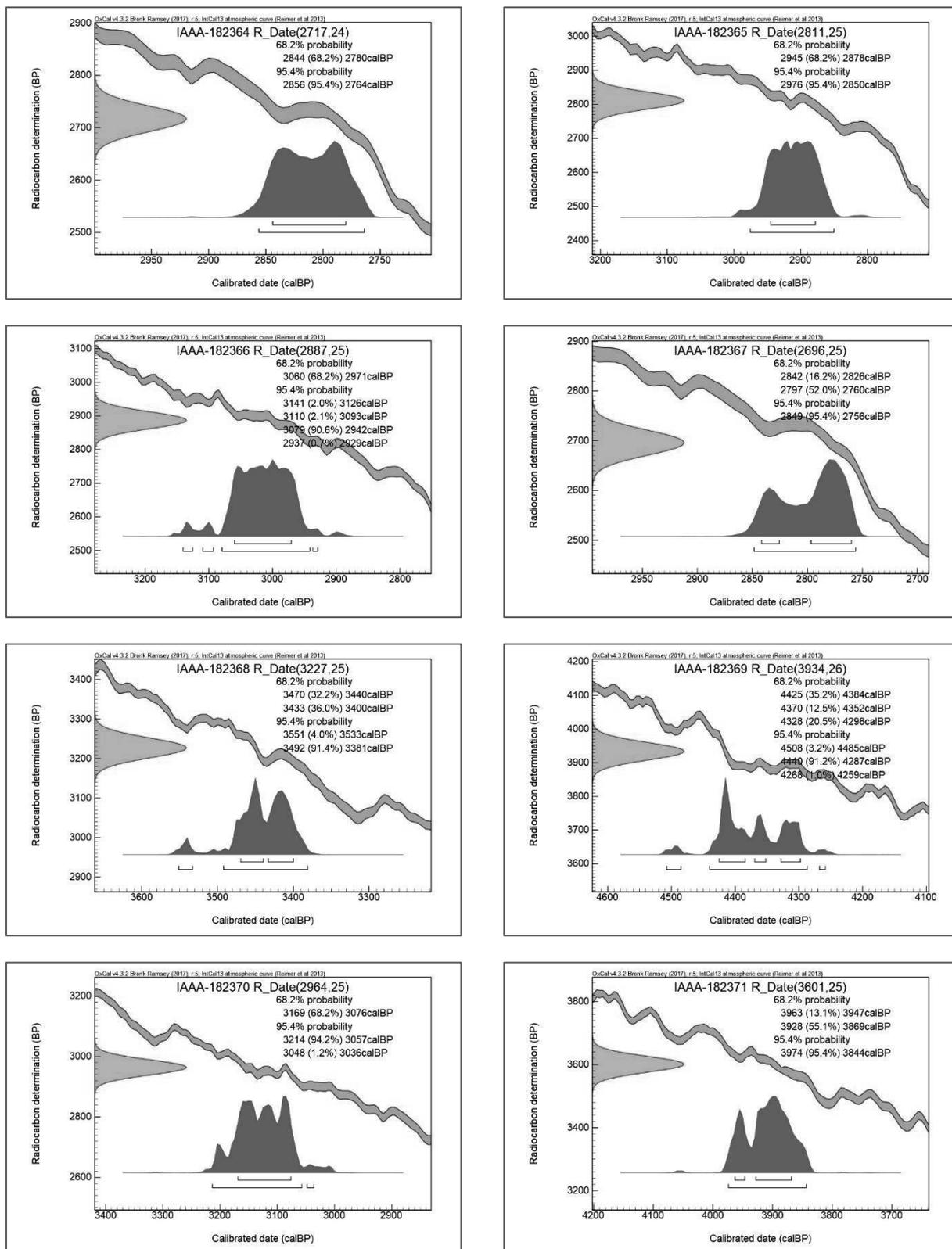


図1 暦年較正年代グラフ (参考)

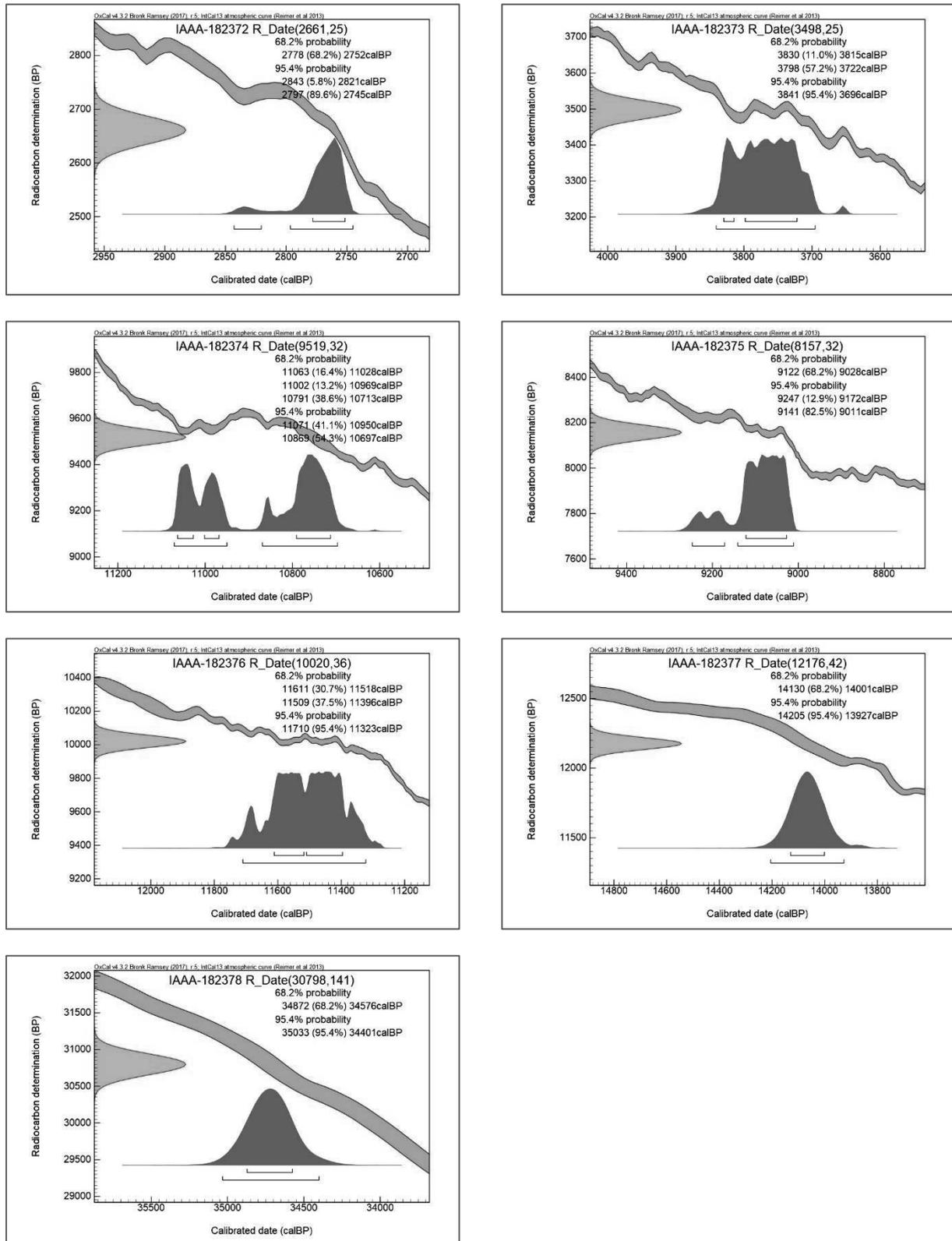


図1 暦年較正年代グラフ (参考)

OxCal v4.3.2 Bronk Ramsey (2017); r:5 IntCal13 atmospheric curve (Reimer et al 2013)

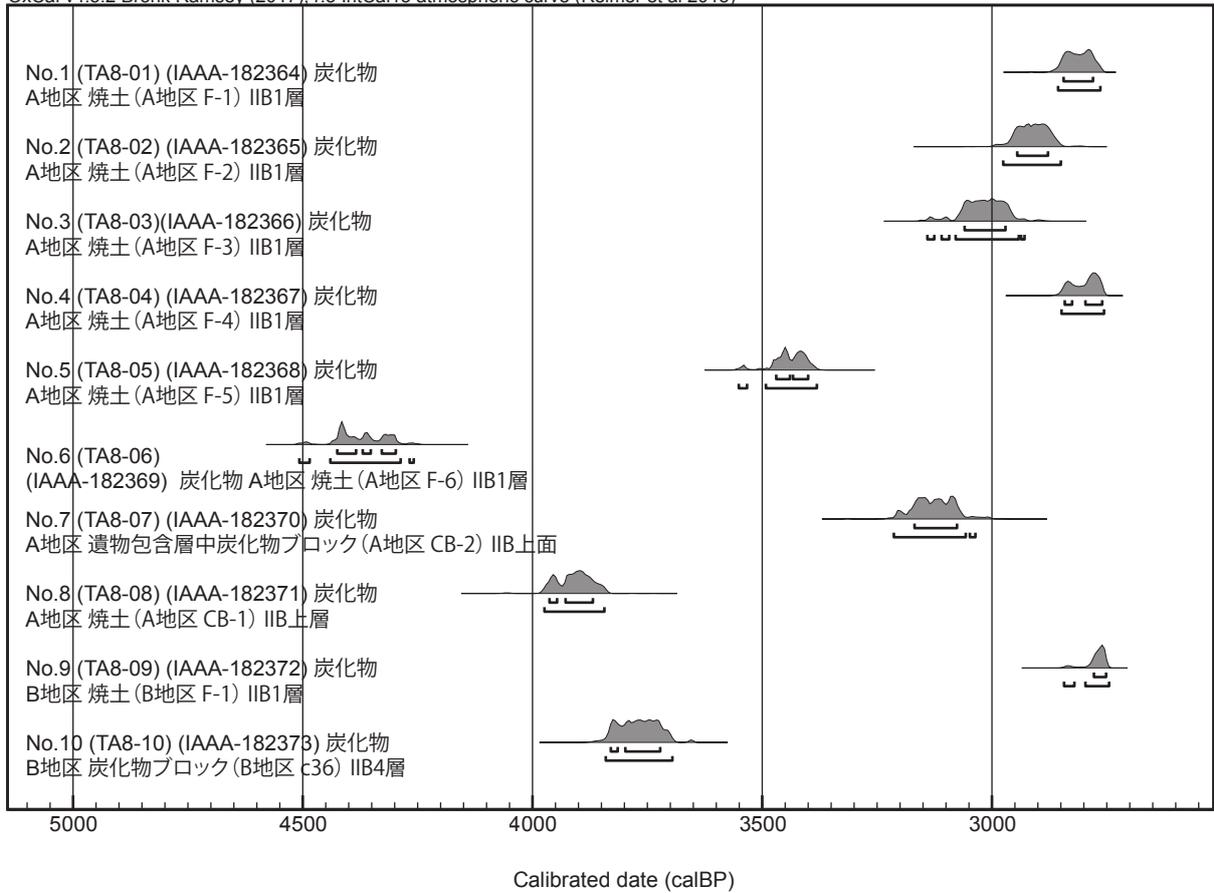


図 2 (1) 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、参考)
縄文時代後期から晩期の試料を示した。

OxCal v4.3.2 Bronk Ramsey (2017); r:5 IntCal13 atmospheric curve (Reimer et al 2013)

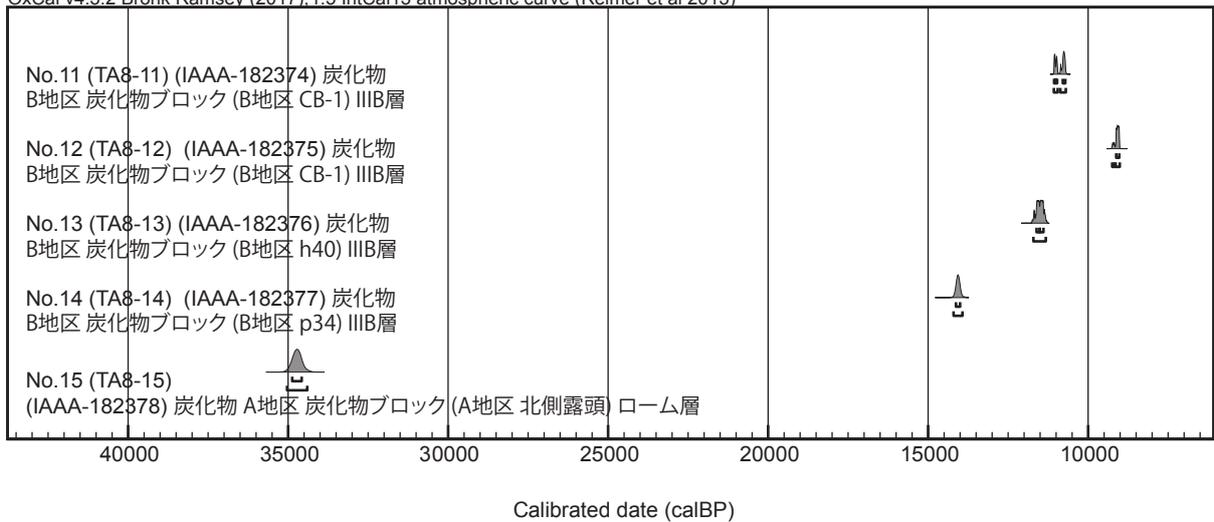


図 2 (2) 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、参考)
旧石器時代から縄文時代早期の試料を示した。

3 苫小牧市高丘8遺跡における炭化樹種同定報告

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。また木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。本報告では、高丘8遺跡の縄文時代とされる遺構から採取あるいは覆土のフローテーションによって採取された炭化材を対象として樹種同定を実施し、当時の木材利用と周辺植生について検討する。

2. 試料

試料は、縄文時代の焼土および炭化物集中から採取あるいはフローテーションによって得られた炭化材15点 (No.1~15) である。

3. 方法

樹種同定は、以下の方法で行った。各試料について、横断面(木口)・放射断面(柾目)・接線断面(板目)の3断面の割断面を作製し、双眼実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察する。観察された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)およびRichter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

4. 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は広葉樹2分類群(コナラ属コナラ節・オニグルミ)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

年輪の始めに大きな道管が配列する環孔材。孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に径を減じる。孔圏外の道管は多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitamu. クルミ科クルミ属

散孔材。道管は、散孔材としては比較的大径となる。道管は単独または2~3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

5. 考察

炭化材は、ⅡB層の焼土と炭化物集中、ⅢB層の炭化物集中から検出されており、燃料材等の一部が残存したと考えられる。これらの炭化材には、コナラ節とオニグルミの2種類が確認された。コナラ節は、北海道ではミズナラが広く分布するほか、コナラやカシワも生育している。いずれも比較的日当たりの良い土地に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。オニグルミは、溪畔等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。

表1 樹種同定結果

番号	試料番号	地区	遺構等	遺構種別	層位	状態	種類
No.1	TA8-01	A	F-1	焼土	ⅡB	破片	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.2	TA8-02	A	F-1	焼土	ⅡB	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.3	TA8-03	A	F-1	焼土	ⅡB	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.4	TA8-04	A	F-3	焼土	ⅡB	節破片	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.5	TA8-05	A	F-4	焼土	ⅡB1	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.6	TA8-06	A	F-4	焼土	ⅡB1	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.7	TA8-07	A	CB-1	炭化物集中	ⅡB	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.8	TA8-08	A	CB-2	炭化物集中	ⅡB1	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.9	TA8-09	A	CB-2	炭化物集中	ⅡB1	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.10	TA8-10	B	F-1	焼土	ⅡB1	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.11	TA8-11	B	d36	炭化物塊	ⅡB5	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.12	TA8-12	B	c36	炭化物塊	ⅡB5	節破片	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.13	TA8-13	B	j39	炭化物塊	ⅡB1	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.14	TA8-14	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	榎目状	コナラ属コナラ節 <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>
No.15	TA8-15	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	破片	オニグルミ <i>Juglans mandshurica</i> Maxim. var. <i>sachalinensis</i> (Komatsu) Kitamu.

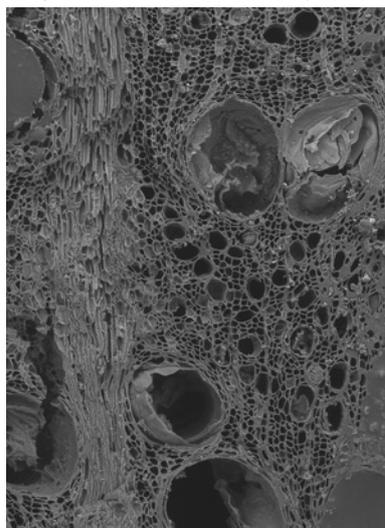
層位別、遺構別にみると、ⅡB層の焼土と炭化物集中の炭化材は、全てコナラ節である。一方、ⅢB層の炭化物集中ではコナラ節とオニグルミが認められ、少なくとも2種類が利用されたことが推定される。材質的には、硬い材質の木材の利用が伺えるが、硬い材質の木材は一般に火付きが悪いが持続性が有り、軽軟な材質の木材に比べて燃え残り易い。焼土や炭化物集中の炭化材についても、燃焼時に燃え残り易い硬い材質の種類が残った可能性がある。

本地域では、樽前d軽石（約9000年前）～樽前c軽石（約3000年前）の期間は、入江を取りまく低地にイネ科、カヤツリグサ科、シダの生育する湿地、台地斜面にミズナラ、シラカンバ、ハルニレ、オニグルミ、サワシバ、ハシバミ等の広葉樹林、台地上にはカラマツソウ、キク、ワレモコウ、カヤツリグサ科等の多い草原が見られたと指摘されている（小野ほか、1991）。今回確認された種類は、推定されている古植生とも整合的である。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 小野有五・五十嵐八枝子, 1991, 北海道の自然史 氷期の森林を旅する. 北海道大学図書刊行会, 219p.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p.【Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.(1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*】

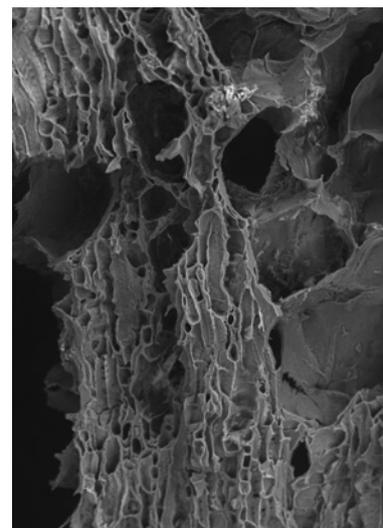
図版1 高丘8遺跡の炭化材



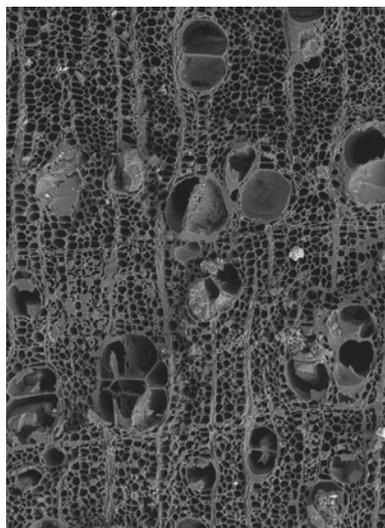
横断面
コナラ属コナラ節 No.10



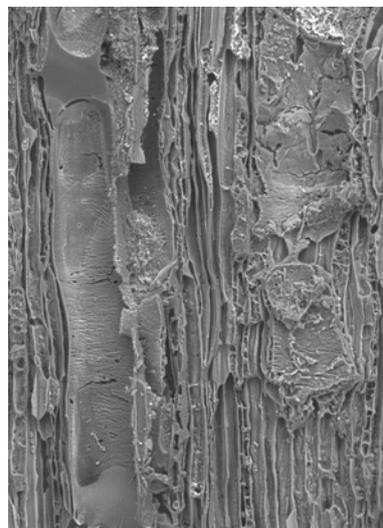
放射断面



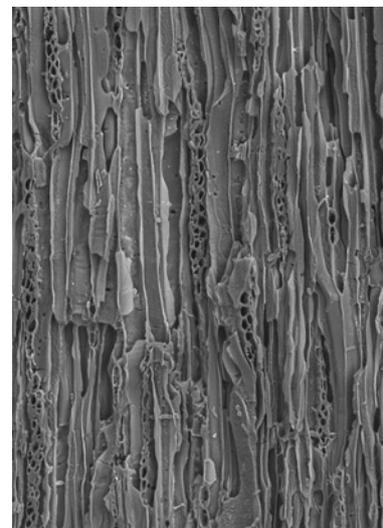
接線断面



横断面
オニグルミ No.15



放射断面



接線断面

4 高丘8遺跡の出土骨

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

高丘8遺跡（北海道苫小牧市高丘に所在）は、約4万年前の支笏火山の大規模火砕流噴火により形成された更新世の火砕流台地とされる千歳台地（国土地理院, 2010）に位置し、苫小牧インター線道路改良工事に伴って発掘調査が行われた。

本分析調査では、縄文時代前期の土坑包含層や覆土のハンドピックおよびフローテーションで得られた骨について、その種類を明らかにし、当時の動物質資源の利用について検討する。

1. 試料

試料は、B地区 P-13覆土上面遺物包含層（ⅡB上層）から出土した骨10点（No. 1～10）、および覆土から出土した骨3点（No. 11～13）、合計13点である。なお、No. 1～10は、ハンドピックサンプルから選別されており、No. 11～13はフローテーションサンプルから抽出され微細骨片中に小型骨数点を含む。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。

2. 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、形態学的な特徴から種・部位を特定する。

3. 結果

結果を表1に示す。

ハンドピックサンプルから選別されたNo. 1～10は、小型の破片で、いずれも焼けている。種類・部位を明らかにできた試料は、No. 2のエゾシカ角片、No. 6のエゾシカ中手骨／中足骨、No. 7のエゾシカ中足骨片である。また、No. 5はエゾシカの中手骨／中足骨の可能性があり、No. 8はエゾシカの角の可能性もある。それ以外は、No. 1・10が哺乳綱の四肢骨、No. 3・4・9が哺乳綱の部位不明破片である。

フローテーションサンプルから抽出されたNo. 11～13は、焼けてない骨と焼けた骨が混在する。焼けてない骨では哺乳綱の歯牙片と部位不明破片、焼けた骨では哺乳綱の部位不明破片がみられた。

4. 考察

確認された種類・部位は、ニホンジカの亜種であるエゾシカの角・中足骨・中手骨／中足骨がみられた。なお、No. 11～12で確認された歯牙片は、小片のため種類を明らかにできないが、エゾシカに由来する可能性もある。土坑覆土から検出されていること、および数量的に極めて少ないことを考えると、解体された後の全身骨格がここで焼かれたものではないと思われる。No. 11～13で検出される焼けてない骨は、火元から離れた場所であった可能性がある。

エゾシカは、北海道全土に分布しており、ニホンジカの中では最も体が大きいとされる。森林とその周辺に棲息し、多雪地域では冬に雪の少ない地域に季節移動するとされる（阿部, 2000）。北海道内部で縄文時代の遺跡からシカが検出される事例は珍しくない。当時、遺跡の周辺部に棲息しており、捕獲の対象となっていたと考えられる。食料資源、あるいは骨角器の素材などとして、部分的に利用されたものが火中に投棄されたものと思われる。

表1. 骨同定結果

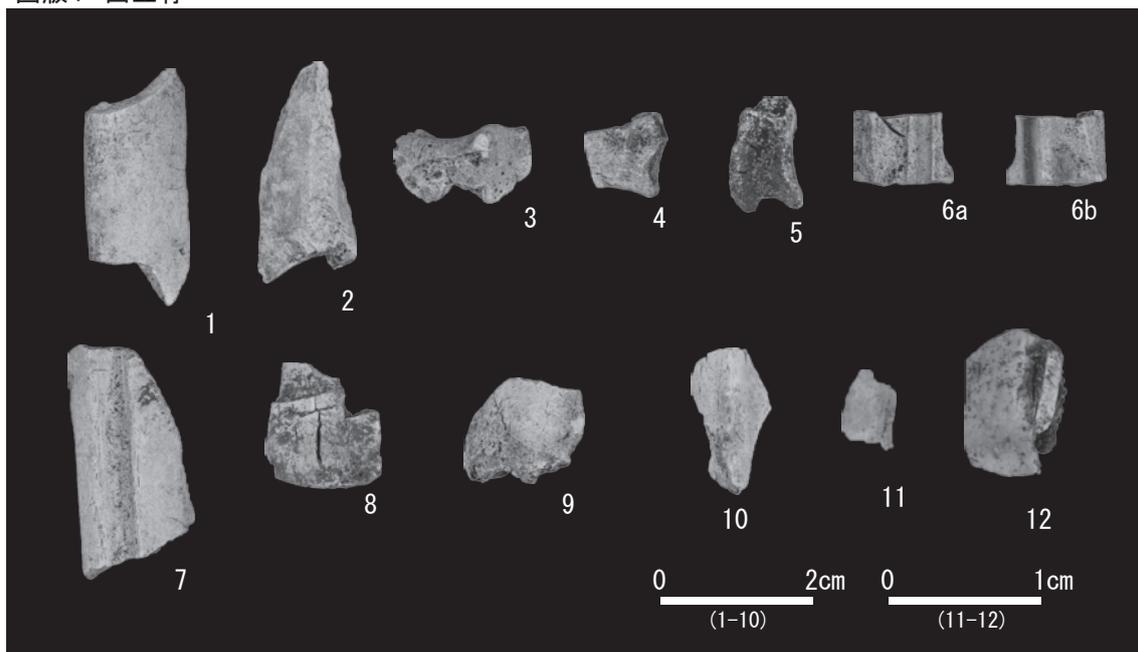
リスト No.	試料番号	地区名	遺構/グリット	遺構等	層位	種別	種類	部位	状態等	点数	重量 (g)	被熱	備考
No.1	TA8-01	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	哺乳綱	四肢骨	破片	1	2.59	○	脛骨?
No.2	TA8-02	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	エゾシカ	角	破片	1	1.04	○	
No.3	TA8-03	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	哺乳綱	不明	破片	1	1.15	○	
No.4	TA8-04	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	哺乳綱	不明	破片	1	0.80	○	
No.5	TA8-05	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	エゾシカ?	中手骨/中足骨?	遠位端片?	1	0.62	○	
No.6	TA8-06	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	エゾシカ	中手骨/中足骨	破片	1	0.61	○	
No.7	TA8-07	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	エゾシカ	中足骨	破片	1	2.83	○	
No.8	TA8-08	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	エゾシカ?	角?	破片	1	1.54	○	
No.9	TA8-09	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	哺乳綱	不明	破片	1	0.81	○	
No.10	TA8-10	B	d36	土坑P-13	II B上層	上面遺物包含層	哺乳綱	四肢骨	破片	1	0.82	○	
No.11	TA8-11	B	d36	土坑P-13	覆土		哺乳綱	歯牙	破片	3	0.03		
								不明	破片	39 +	0.38		
							砂礫			24	1.40	○	
											0.57		
No.12	TA8-12	B	d36	土坑P-13	覆土		哺乳綱	歯牙	破片	10	0.35		
								不明	破片	31 +	1.17		
							砂礫			9	1.27	○	
											1.17		
No.13	TA8-13	B	d36	土坑P-13	覆土		哺乳綱	不明	破片	12 +	0.13		
										19	1.17	○	

引用文献

阿部 永, 2000, 日本産哺乳類頭骨図説. 北海道大学図書刊行会, 279p.

国土地理院, 2010, 土地条件調査解説書「苫小牧地区」, 14p.

図版1 出土骨



1. 哺乳綱四肢骨(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
2. エゾシカ角(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
3. 哺乳綱不明(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
4. 哺乳綱不明(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
5. エゾシカ?中手骨/中足骨?(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
6. エゾシカ中手骨/中足骨(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
7. エゾシカ中足骨(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
8. エゾシカ?角?(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
9. 哺乳綱不明(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
10. 哺乳綱四肢骨(B区 d36 土坑 P-13 ; II B 上層)
11. 哺乳綱歯牙(B区 d36 土坑 P-13 ; 覆土)
12. 哺乳綱歯牙(B区 d36 土坑 P-13 ; 覆土)

5 高丘8遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

苫小牧市に所在する高丘8遺跡から出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、黒曜石製石器10点である(表1)。時期は、いずれも縄文時代前期とみられている。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200

VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps:count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

$$1) \text{ Rb分率} = \text{Rb強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$2) \text{ Sr分率} = \text{Sr強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$3) \text{ Mn強度} \times 100 / \text{Fe強度}$$

$$4) \log(\text{Fe強度} / \text{K強度})$$

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度 \times 100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸 $\log(\text{Fe強度} / \text{K強度})$ の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。

表1 分析対象

試料番号	種別	調査区	グリッド	層位	法量(g, cm)				推定時期
					重量	長さ	幅	厚さ	
TA8-01	石鏃	A	J03	II B4	0.84	2.4	1.8	0.3	縄文時代前期
TA8-02	石鏃	A	I10	II B4	1.91	3.4	1.8	0.3	
TA8-03	石鏃	A	R01	II B2	1.47	2.6	1.1	0.3	
TA8-04	石鏃	A	L08	II B1	1.51	3.4	1.3	0.3	
TA8-05	石槍	A	S13	II B1	16.45	6.8	3.0	0.9	
TA8-06	石鏃	B	d36	II B4	0.77	2.6	1.3	0.2	
TA8-07	石鏃	B	c42	II B1	1.53	2.9	1.8	0.3	
TA8-08	石鏃	B	f40	II B1	0.76	4.0	1.1	0.1	
TA8-09	剥片	B	剥片集中2	II B1	3.74	2.4	2.4	0.5	
TA8-10	剥片	B	剥片集中2	II B1	8.50	5.5	2.4	1.1	

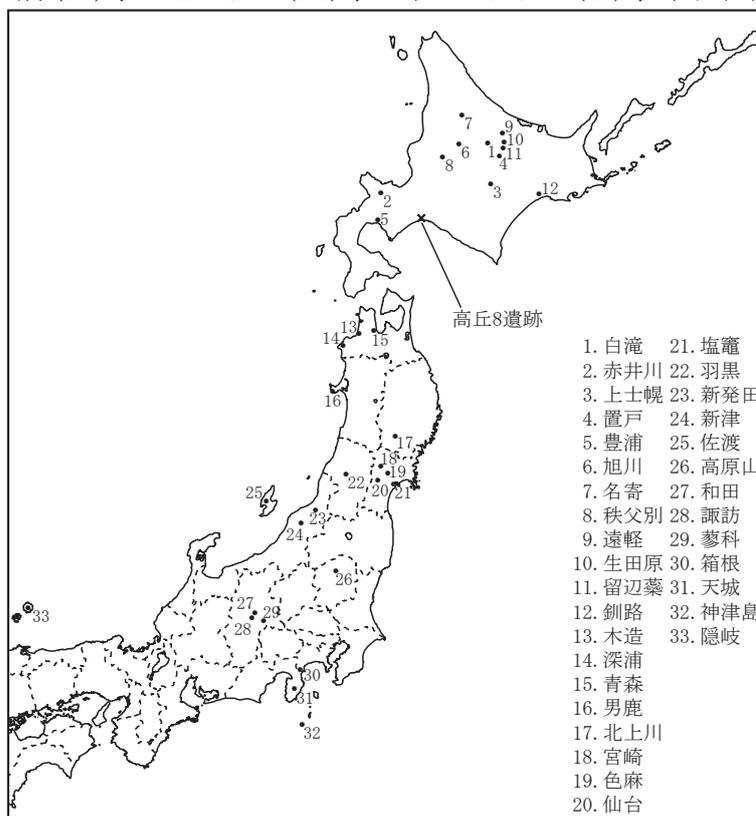


図1 黒曜石産地分布図(東日本)

この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log (Fe強度/K強度)の値が減少する(望月, 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

3. 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んだ。

分析の結果、2点が白滝1群(北海道、白滝エリア)、7点が赤井川群(北海道、赤井川エリア)、1点が上土幌群(北海道、上土幌エリア)の範囲にプロットされた。

赤井川群と上土幌群の図2、3の判別図では、一部に重複があるため、区別が困難な場合がある。そこで、以下に示すY分率を算出した。

$$Y分率 = \frac{Y強度 \times 100}{Rb強度 + Sr強度 + Y強度 + Zr強度}$$

赤井川群および上土幌群の原石および石器について、横軸Y分率、縦軸Mn強度×100/Fe強度をプロットした判別図を図4に示す。図4においても、7点が赤井川群、1点が上土幌群と判断できる。

表2 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43), 八号沢露頭(15), 赤石山山頂, 八号沢露頭, 八号沢, 黒曜の沢, 幌加林道(36)	
		白滝2	十勝石沢露頭直下河床(11), アジサイの滝露頭(10)	
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)	
	上土幌	上土幌	十勝三股(4), タウシュベツ川右岸(42), タウシュベツ川左岸(10), 十三ノ沢(32)	
	置戸	置戸山	置戸山(5)	
		所山	所山(5)	
	豊浦	豊浦	豊泉(10)	
	旭川	旭川	近文台(8), 雨紛台(2)	
	名寄	名寄	忠烈布川(19)	
	秩父別	秩父別1	中山(65)	
		秩父別2		
	秩父別3			
遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)		
生田原	生田原	仁田布川河床(10)		
留辺蘂	留辺蘂1	ケショマップ川河床(9)		
	留辺蘂2			
釧路	釧路	釧路市営スキー場(9), 阿寒川右岸(2), 阿寒川左岸(6)		
青森	木造	出来島	出来島海岸(15), 鶴ヶ坂(10)	
	深浦	八森山	岡崎浜(7), 八森山公園(8)	
	青森	青森	天田内川(6)	
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)	
		脇本	脇本海岸(4)	
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9), 真城(33)	
		北上折居2		
		北上折居3		
宮城	湯ノ倉	湯ノ倉(40)		
	根岸	根岸(40)		
	秋保1	土蔵(18)		
			秋保2	
塩竈	塩竈(10)			
山形	羽黒	月山	月山荘前(24), 大越沢(10)	
	榊引	たらのき代(19)		
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)	
	新津	金津	金津(7)	
	佐渡	真光寺	追分(4)	
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)	
		七尋沢	七尋沢(3), 宮川(3), 枝持沢(3)	
		西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)	
長野	和田	鷹山	鷹山(14), 東餅屋(54)	
		小深沢	小深沢(42)	
		土屋橋1	土屋橋西(10)	
		土屋橋2	新和田トンネル北(20), 土屋橋北西(58), 土屋橋西(1)	
		古峠	和田峠トンネル上(28), 古峠(38), 和田峠スキー場(28)	
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)	
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)	
		高松沢	高松沢(19)	
		諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35), 星ヶ塔(20)
		蓼科	冷山	冷山(20), 麦草峠(20), 麦草峠東(20)
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)	
		畑宿	畑宿(51)	
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)	
静岡	天城	上多賀	上多賀(20)	
		柏峠	柏峠(20)	
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)	
		砂糠崎	砂糠崎(20)	
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6), 久見採掘現場(5)	
		箕浦	箕浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)	

表3 測定値および産地推定結果

試料番号	K強度(cps)	Mn強度(cps)	Fe強度(cps)	Rb強度(cps)	Sr強度(cps)	Y強度(cps)	Zr強度(cps)	Rb分率	Mn*100/Fe	Sr分率	log Fe/K	Y分率	判別群	エリア	試料番号
TA8-01	309.1	110.3	2019.5	777.5	356.7	380.5	784.5	33.82	5.46	15.51	0.82	16.55	赤井川	赤井川	TA8-01
TA8-02	294.5	90.3	2073.8	841.1	217.9	402.6	661.3	39.62	4.36	10.26	0.85	18.97	白滝1	白滝	TA8-02
TA8-03	282.6	99.4	1766.8	714.6	335.0	358.4	756.0	33.02	5.63	15.48	0.80	16.56	赤井川	赤井川	TA8-03
TA8-04	281.9	98.0	1800.1	707.0	331.4	347.7	730.4	33.41	5.45	15.66	0.81	16.43	赤井川	赤井川	TA8-04
TA8-05	301.8	93.2	2079.0	827.9	213.7	394.6	648.5	39.71	4.48	10.25	0.84	18.93	白滝1	白滝	TA8-05
TA8-06	227.2	77.2	1482.7	545.4	247.9	262.7	539.4	34.19	5.21	15.54	0.81	16.47	赤井川	赤井川	TA8-06
TA8-07	278.6	91.2	1931.4	815.8	355.9	428.3	779.3	34.29	4.72	14.96	0.84	18.00	上土幌	上土幌	TA8-07
TA8-08	264.6	96.1	1750.4	685.5	321.3	335.8	695.1	33.64	5.49	15.77	0.82	16.48	赤井川	赤井川	TA8-08
TA8-09	302.2	106.2	1876.1	726.9	334.3	355.5	740.8	33.69	5.66	15.49	0.79	16.48	赤井川	赤井川	TA8-09
TA8-10	321.4	114.1	2042.6	743.4	341.8	367.2	753.5	33.70	5.59	15.50	0.80	16.65	赤井川	赤井川	TA8-10

表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

4. おわりに

高丘8遺跡より出土した縄文時代前期の黒曜石製石器10点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、2点が白滝、7点が赤井川、1点が上土幌エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦(1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」:172-179, 大和市教育委員会.

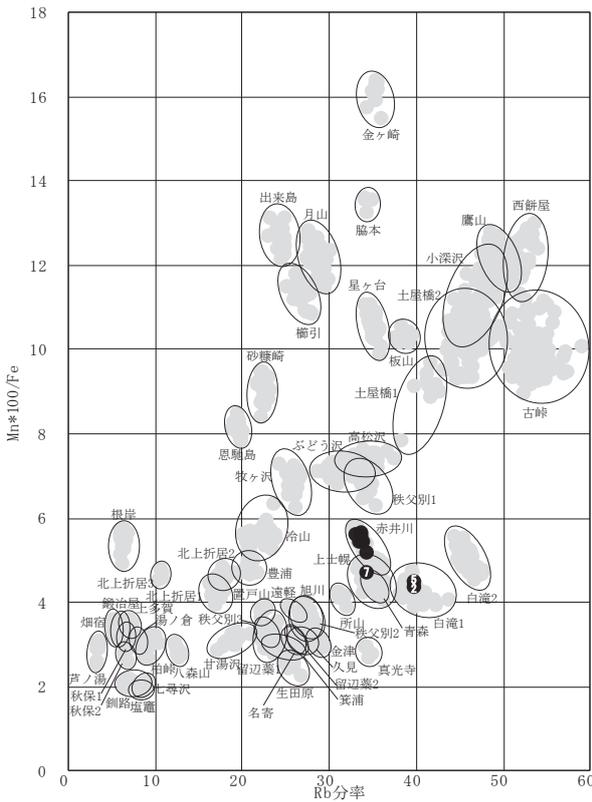


図2 黒曜石産地推定判別図(1)

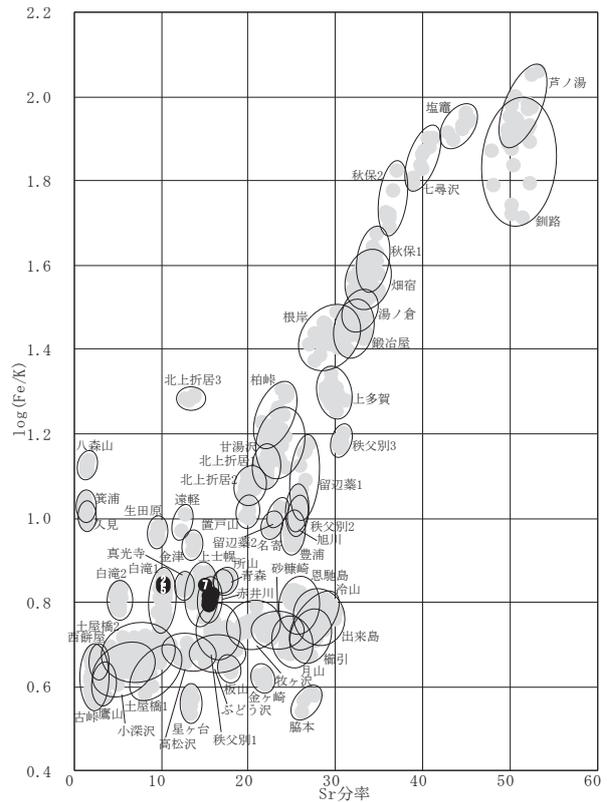


図3 黒曜石産地推定判別図(2)

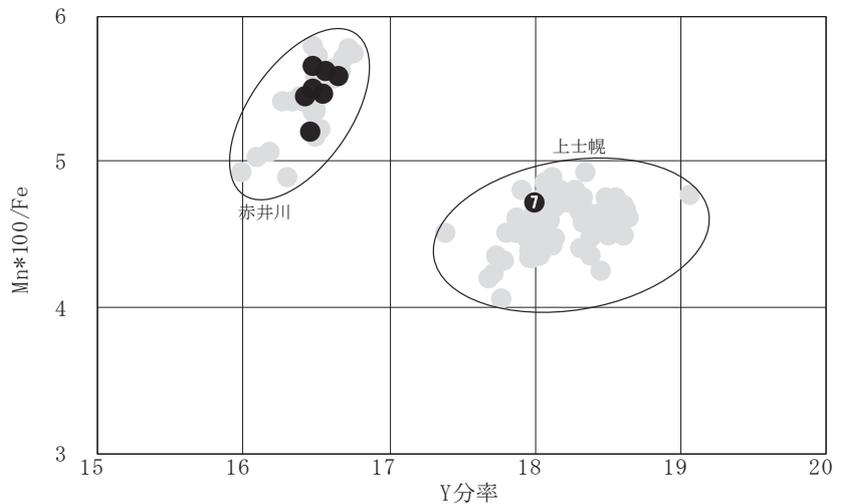


図4 黒曜石産地推定判別図(3)

第七章 まとめ

1 調査成果概要（表 I-1 VII-1）

遺構は盛土遺構2か所、土坑15基、Tピット50基、焼土8か所、溝状遺構1条、遺物集中7か所、掘り上げ土17か所、炭化物集中10か所を確認した。またⅢB層の調査では柱穴状小ピット100か所、炭化物集中1か所を確認した。

この遺構については時期的変遷、盛土遺構の特徴、Tピット、掘り上げ土の特徴、ⅢB層の遺構についてまとめた。

遺物は総点数29,171点出土した。その内訳は土器が4,000点、石器が21,104点、礫が4,067点である。土器はⅣc類が1,722点と最も多く、次にⅡa-2類が1,244点、Ⅲb類が1,020点である。遺跡の主体的な時期は縄文前期前半で、これに縄文中期後半が続くと考えられる。後期後葉の土器は1,722点のうち、1個体とみられるものが1,721点であるが、焼土、炭化材の時期とも重なり、この時期の何らかの生活痕跡を示すものと思われる。

石器は石鏃・石槍・石錐・つまみ付ナイフ（石匙）・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・石斧・たたき石・すり石・石錘・砥石・台石石皿などである。定形的な石器のうち、最も多いもので石鏃が216点、次につまみ付ナイフが113点、石斧が96点、石錐が50点である。

礫は完形が1,177点あり、このうち円礫が561点、そのうち扁平円礫が378点ある。また、扁平円礫の石材には片麻岩が220点と多く、ほかに安山岩や砂岩がある。

これらの遺物については、特にⅡa-2類の土器の特徴、石器組成についての特徴、さらに分析結果をもとに考えられることと問題点についてまとめた。

2 遺構について

（1）遺構の時期

遺構の時期については、出土土器から盛土遺構が縄文前期前半、Tピットが縄文中期後半～縄文後期初頭と考えられる。土坑はA地区の2基が縄文時代のもの、B地区の13基が縄文前期前半と縄文中期後半とした。溝状遺構については詳細を特定できないが縄文時代のもので、縄文中期の環濠に類する可能性も考えられる。遺物集中は周辺の土器出土状況から縄文前期前半と縄文中期末のものがある。焼土、炭化物集中は炭化物の年代測定により縄文後期から晩期にかけてのものとも明らかになった。掘り上げ土はTピットに伴うものであれば同時期のものと考えられた。

また、ⅢB層の調査では遺物が出土しなかったが、確認された柱穴状小ピットと炭化物集中は縄文草創期から早期の頃のものと考えられる。

上記をまとめると以下のように整理できる。

- i 縄文早期 AB両地区で柱穴状小ピットが残され、B地区では炭化物集中が残された可能性がある
- ii 縄文前期前半 B地区で盛土遺構、土坑、遺物集中が残される。
- iii 縄文中期後半 AB両地区でTピットが築かれ、掘り上げ土も残される。B地区では盛土遺構の一部を壊してTピットが築かれる。また、中期末にかけて遺物集中が残される。
- iv 縄文後期末から晩期 AB両地区で焼土、炭化物集中が残される。Ta-c降下の際に生じた可能性もある。

(2) 縄文前期前半の盛土遺構

盛土遺構M-1はB地区の北東部で確認された。その範囲は調査区外南側に及ぶものと見られ、今回確認されたのはその一部分と思われる。ここでは下記のような特徴が観察された。

- i 土器の出土がⅡa-2類に限定されたことから、遺構の時期も縄文前期前半に限定されること。
- ii 盛土を構成するのは再堆積層1層のみで、層厚は10cm以下のTa-d1、Ta-d2を含む混土からなる。焼土や炭化物などは少ない。
- iii 再堆積層には土器、石器、礫が数多く含まれ、中でも礫が最も多い。
- iv 一部は中期後半のTピット構築時に壊された形跡がある。
- v 同じ調査区内にはⅡa-2類土器を含むまとまった遺物の出土がいくつかあり、そのうち最も数の多い遺物集中をM-2とした。したがって規模の小さな盛土遺構が存在する可能性もある。

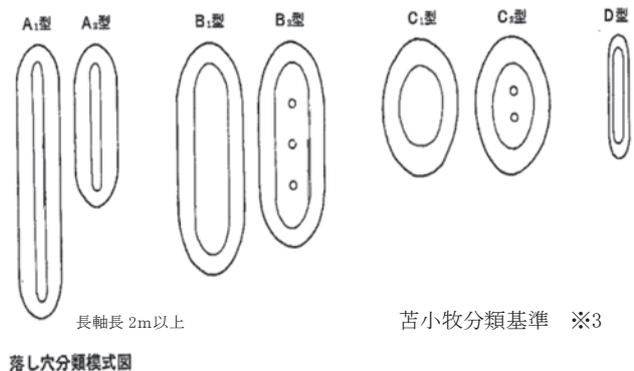
縄文前期前半の盛土遺構としては周辺では千歳市美々貝塚北遺跡、厚真町幌内5遺跡、オコッコ1遺跡、新ひだか町ショップ遺跡、静内町中野台地A遺跡などが挙げられる。また、苫小牧市美沢4遺跡、静川22遺跡、岩見沢市冷水遺跡にも貝塚など盛土遺構に相当する同時期の遺構が確認されており、その分布は石狩低地帯から胆振日高地域に広がる。これらの遺跡に関する特徴として、遺跡内に盛土遺構や貝塚などが2か所、またはそれ以上あり、それらが馬蹄形に連なる可能性があるという指摘がある(北埋350)。

vに記したように調査当初は盛土遺構を1か所としていたが、調査が進むにつれ西斜面の遺物集中が盛土遺構に類するものと考えられた(M-2)。これにより、南北に細長い尾根筋の東斜面と西斜面の2か所に盛土遺構が築かれた可能性がある。また、もともとは連続する一つの遺構であったものが、中期後半にTピットが構築された結果、2か所になった可能性もある。いずれにしてもオコッコ1遺跡や美々貝塚北遺跡など同様の傾向がここにも見られる。

(3) Tピットと覆土、掘り上げ土(図Ⅶ-1)

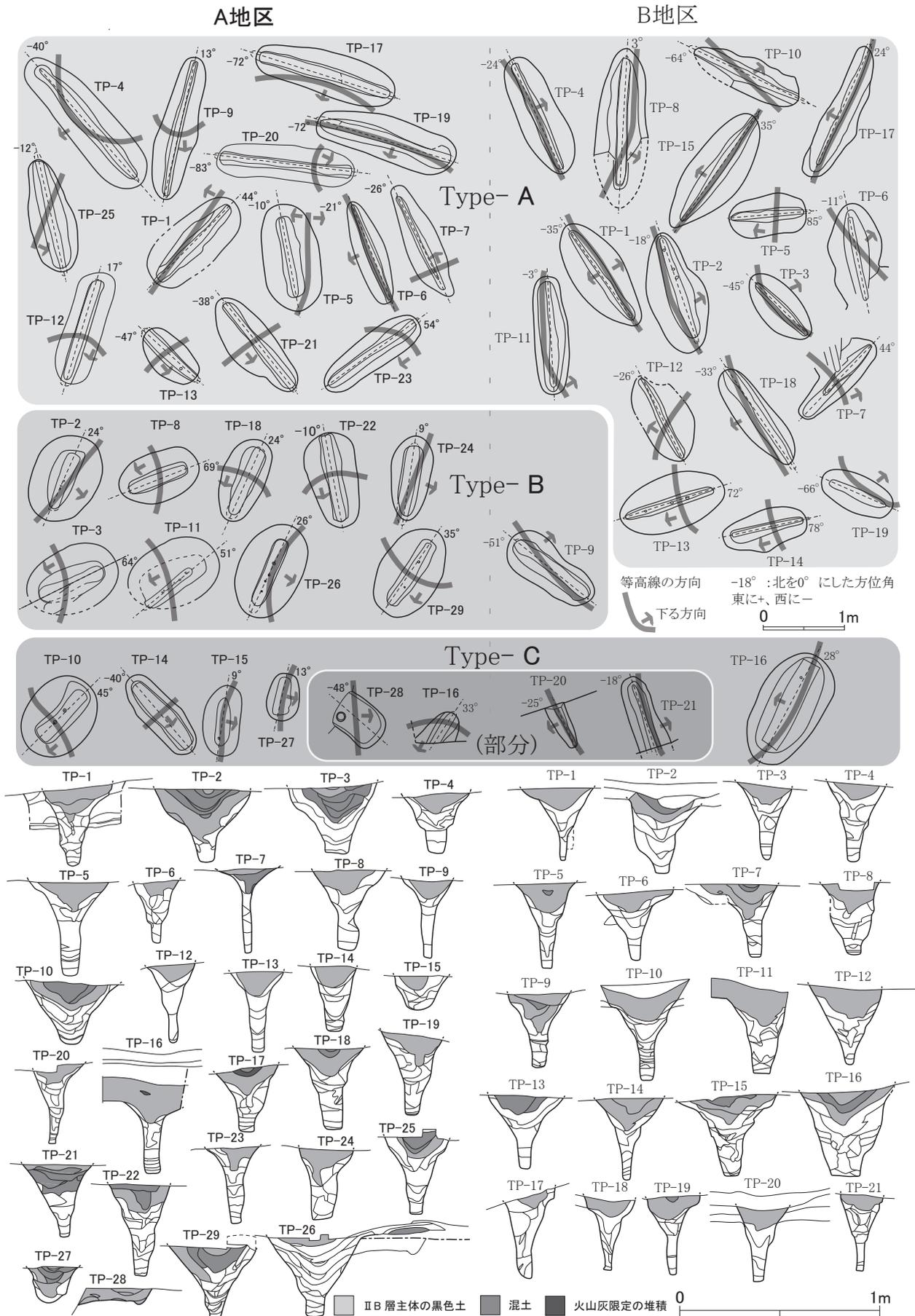
本調査で検出されたTピットについて形状の分類と土層断面に見られた覆土の状況を整理した。

Tピットの形態分類については、苫小牧市埋蔵文化財センターの分類(右図※3)に準じて行い、平面形がA類が溝状、B類が長楕円、C類が楕円形とした。今回確認されたTピットはA地区が29、Bが21基の計50基である。



分類の結果、A類が最も多い31基(A14、B17)、続くB類が10基(A9、B1)、C類が最も少なく11基(A4、B1)である。A類の中には長軸長が3mを超えるものが11基(A6、B5)あり、最も長いもので3.6m(A TP-4)を測るなど大型のものが目立った。また、A地区のTP-2、3、10、11、13、15、26、29、B地区のTP-2、13、16の底面には柱穴状の小ピットが見られた(苫小牧基準のB2、C2型)。Tピットの重複もA地区1か所(TP-3と11)。B地区1か所(TP-6と7)の2か所で見られた。A地区のものがB類同士、B地区がA類同士の重複であった。

短軸の断面形態にはY字形、V字形、U字形の三種が見られた。AB両地区ともにY字形が殆どで、V字形はA地区のTP-10、21、B地区のTP-12、U字形はA地区のTP-14、27、B地区のTP-16に見られた。いずれもC類相当の平面形態によるところが大きい。



図Ⅶ-1 Tピット集成図

覆土の堆積状態については、各Tピットの覆土上層部分に注目した。崩落土や流入土による堆積が多い中、今回の調査では人為的と思われる痕跡が多く見られた。特にA地区のTP-17覆土上層には黄褐色ロームとTa-d2が分別された状態で確認され、土または火山灰の色が何らかの意味で意識的に埋められている可能性も考えられる。このように覆土上層に明瞭な混土または火山灰等が含まれるのはA地区で11基、B地区で8基の計19基見られた(図VII-2 下半部)。この中にはⅡB層主体の黒色土中にあるものと崩落土や流入土が堆積した最上層に蓋をしたようなかたちの堆積も見られ、堆積の進み具合と人為的な堆積とに時間差があることもうかがえた。

さらに今回「掘り上げ土」とした遺構についても同様のことが見られた。伴う遺構を特定できないか複数の遺構のものと思われる掘り上げ土を対象としAB両地区で確認された。いずれも内容の異なる混土やローム、火山灰がブロックにまとまり、それらが意図的に分別された状態も確認できた。

当センターの調査事例では伊達市西関内3遺跡で確認されたTPを覆うように出土した「盛土」がこれに類する可能性がある。またTPからⅢb類の土器が出土したことから年代特定の根拠としても考えられる(北埋351)。

(4) ⅢB層の調査成果について

今回の調査では、AB両地区合わせて柱穴状小ピット100基、炭化物集中1か所を確認した。ⅢB層は上層のTa-d2と下層の黄褐色ロームとに挟まれ、縄文草創期から早期の間に形成されたものと考えられており、見つかったピットや炭化物集中はこの時期のものと思われる。出土した炭化物の年代測定結果(Ⅵ章-2)からも $12180 \pm 40 \text{yrBP}$ (試料No. 14)から $8160 \pm 30 \text{yrBP}$ (試料No. 12)の間にある。No. 14が縄文時代草創期の隆線文土器等の時期頃、No. 12が縄文時代早期中葉頃に相当する。

市内における同時期の出土例には有珠川2遺跡と有珠川5遺跡の調査があり、いずれもⅢB層から遺構、遺物が出土した。有珠川2遺跡は本遺跡の西約3.7kmにあり、昭和53年に高速道路建設に伴い調査が行われた。遺構は土坑3基が確認され、遺物は縄文早期前半の土器、石器類も出土した(北海道1979)。特にTa-d2下から出土した土器は、苫小牧市内最古の土器の一つとされ、貝殻文や尖底を特徴とする「有珠川2式」が設定された。また、本遺跡の西約3.8kmにある有珠川5遺跡では平成19年に調査が行われ、焼土跡4基、縄文早期前半の土器、石器類が確認された(苫小牧2008)。

他に縄文早期前半の土器が出土する遺跡は市内では美沢1遺跡、美沢東6遺跡、静川22遺跡があるがこれらはいずれもⅡB層下部からの出土とされる。

本遺跡でのⅢB層調査は、遺物は出土しなかったが、周辺の事例を見るに人為的な遺構の可能性が十分にあると考えられる。また、年代測定の結果については、ⅢB層の年代特定を検討するうえで有意義なものと思われる。

3 遺物について

(1) 縄文前期前半の土器

本遺跡で最も多く出土したものである。当センターの分類基準でⅡa-2類としたもので、既知の土器型式では「静内中野式」「中野式」に相当する。盛土遺構や土坑、遺物集中などの遺構から出土した土器の大半を占めるが、破片資料のみで、口縁から底部までの全体を復元できたものはない。総点数は1,244点で、口縁が175点、胴部が1,064点、底部付近を含む底部片が5点と、底部が極端に少ない。これらの土器片については以下のような特徴が見られる。

i 胎土に繊維、または撚紐を含んだ痕跡が見られる土器片が多い。

土器の表面にまで胎土の繊維痕、撚紐痕が露出した状態のものが多い。繊維は植物の茎を利用した

細い筋状が束になっているものと思われ、また撚紐は縄文原体で言うLのみが見られた。またこれらの土器の内面は丁寧なナデ調整により平滑なものが多い。

ii iの土器の中には細分類において「表層剥離」としたものが含まれる。

「表層剥離」が見られた土器は斜行縄文の地文が残る部分と組み合わせになることが多く、特に口縁部の斜行縄文、胴上半部の「表層剥離」といった組み合わせが見られた。地文と「表層剥離」面との間に殆ど段差がないものがあること、表が縄文部分の内面は「表層剥離」、表が「表層剥離」部分の内面は縄文、またはナデ調整という表裏が逆転する傾向も見られた。これらは土器の製作手法、工程に由来するものと思われる。

iii 素材そのものに滑らかな質感があり（「スベスベ」、表面内面が黒色化、または薄い黒色の炭化物状の付着がある土器片がある。また中には比重の軽いものもある。胎土に中～大粒の礫を多く含み、礫は滑石または片麻岩と思われる小片が見られる。

iv 器形は平縁の深鉢形が多いと推測される。底部は1点のみで尖底である。文様は粗い粒の太い斜行縄文が殆どである。

各土器片にはこれらの特徴のいくつかが見られ、これまでに「静内中野式」「中野式」について指摘されてきた特徴に通じている。

iは「繊維土器」と言われる縄文前期の土器の特徴の一つで、i iiが相俟って表面がボロボロの一見異様ともいえるところがこの土器の最大の特徴である。また、胎土に含まれる撚紐の撚りがLということや、施文に用いたものと異なるという点も共通である。

iiは今回特に多く目立ったもので、当初はすべて胎土の焼成不良による剥落と見ていたが、観察により土器の表面または内面の一部に繊維状のものを巻き付けたまま焼成したようにも見え、通常の剥離、剥落（内部剥落）とは質の異なるものと思われた。「静内中野式」の特徴の一つに「型塗成形」の製法で作られた可能性が指摘されており（河野広道ほか1954 竹田1976）、繊維でつくられた籠状のものに貼り付けたかたちも想定される。

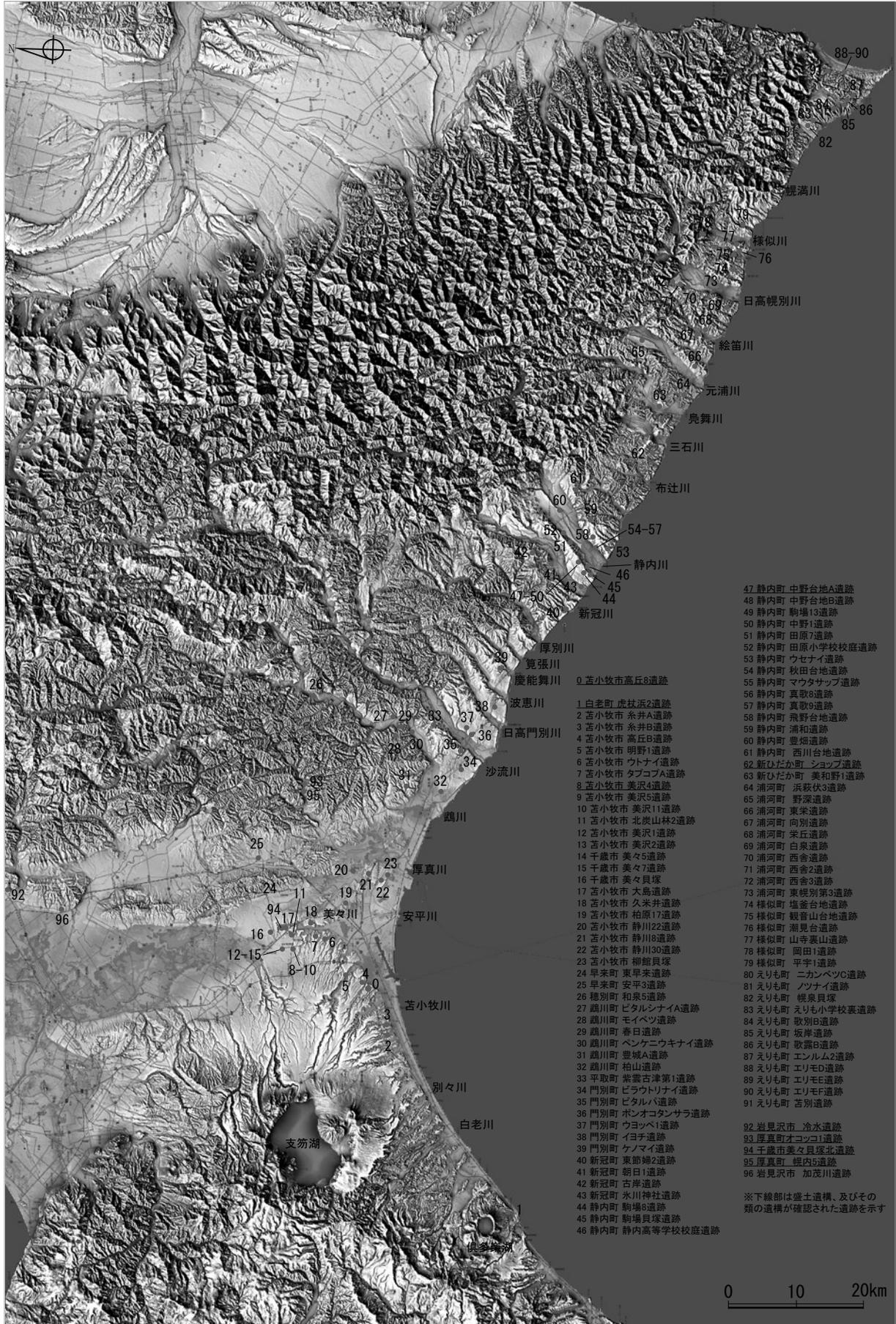
iiiは胎土に混和材として滑石を混入した土器と同じ特徴が見られる（西脇2013）。スベスベした独特の質感は滑石の混入を一因とする「特殊胎土」（皆川1990）によるものと考えられ、前期の縄文尖底土器や道東北の後期土器などに見られる。その出土分布については滑石を産する神威古潭変成帯との関係も指摘されている。

ivは「静内中野式」土器の基本的な属性に係るものである。器形は砲弾形で平縁、尖底で厚手である。地文には太い斜行縄文や羽状縄文、撚糸文がある。本調査は少数の破片資料のみであるが、ほぼこの範疇に収まるものと思われる。

このような「静内中野式」が出土土器の大半を占める遺跡には、苫小牧市柏原17遺跡B地区、美沢5遺跡、美沢16遺跡、厚真町幌内5遺跡、オコッコ1遺跡、静内町中野台地A遺跡、新ひだか町ショップ遺跡、岩見沢市冷水遺跡、浦河町栄丘遺跡などが挙げられる。その分布は石狩低地帯の東縁から胆振日高の太平洋沿岸へと帯状に及ぶが（図VII-2）、この分布は先に掲げた縄文前期前半の盛土遺構の分布にも重なるところもあり、縄文海進の影響や背景となる日高山地のような資源環境との関わりを検討する必要がある。

（2）出土石器群の組成に見る特徴

縄文前期前半、上記のような「静内中野式」期の遺跡で出土する石器器種に偏りがあることはすでに多くの指摘がなされてきた。古くは浦河町栄丘遺跡（高橋・畑1976）で石鏃、石小刀（つまみ付ナイフ）、石錐が他の同時期の遺跡と比較して多いことが指摘されている。最近のオコッコ1遺跡の報



図VII-2 静岡中野式土器出土遺跡分布図

告(北埋356)では同時期の遺跡が1：たたき石が多いタイプ(オッココ1遺跡、幌内5)、2：石鏃、石錐が多いタイプ(栄丘、美沢5)、3：石錘が多いタイプ(美沢4、ショップ、中野台地A)に分類されている。

本遺跡出土の定形石器の内比率が高いのは石鏃(約33%)、次につまみ付ナイフ(17%)、石斧(15%)、石錐(7.5%)、石錘(7%)、たたき石(6%)、スクレイパー(5.7%)の順である。石鏃が圧倒し、つまみ付ナイフと石斧が多く、石錐、石錘、たたき石がやや多いという傾向になる。オッココ1遺跡の分類では2に相当するものと思われるが、その比率にはかなりの差があり、同様に考えることは難しい。栄丘、オッココ1遺跡のいずれでも指摘されているように石器組成比は縄文前期前半または静内中野式に共通するというよりは、遺跡の性格、または資源環境の差によるところが大きいと思われる。その点について本遺跡の構成は狩猟、漁撈のいずれも可能な環境を背景にしていることを示唆しているものとも考えられる。

4 分析結果について(表Ⅵ-1、図Ⅵ-1)

分析については放射性炭素年代測定、炭化材樹種同定、動物遺存体(骨)の同定、黒曜石原産地分析を行った。各結果及びサンプル採取位置等については表Ⅵ-1、図Ⅵ-1にまとめた。

年代測定については、焼土及び炭化物集中を対象に行ったが、想定した縄文前期、中期からは大きく離れ、すべて後期から晩期にかけてという結果になった。該当する遺構には出土遺物がないため、そのまま当該期の遺構と判断することも可能である。

いずれにしても本遺跡の主要な時期である縄文前期前半、中期後半の年代を全く得ることができなかったことは、サンプルの選択方法などに問題があったものと思われ、反省点である。その一方でⅢB層調査、露頭のローム層出土の炭化物で得られた結果は想定に寄り添うものであった。

炭化材樹種同定については、年代測定同様に焼土、炭化物集中から得たものですべてコナラ属コナラ節のものであった。年代測定の結果に重ねるとTa-c降下直前、縄文後晩期の植生を反映したのと考えられる。ⅢB層調査では炭化物集中1か所からコナラ節とオニグルミが認められたことにより、縄文早期にこの2種の木材がこの場で利用された可能性が強いと考えられる。

動物遺存体(骨)同定についてはB地区土坑P-13出土のもののみを対象とした。ほぼすべてエゾシカのものと同定された。付近でシカの解体が行われた可能性もあり、その堆積状態から縄文前期前半と考えられる。

黒曜石原産地分析はAB両地区の石鏃とB地区の剥片集中(C-2)出土のサンプルで行った。本遺跡出土の黒曜石は肉眼観察上からも様々な種類がみられ、複数の産地が想定された。多い順に赤井川、白滝、上土幌産との結果は想定に沿うものとなった。剥片集中出土のサンプルは18,638点にも及ぶ黒曜石剥片から抽出したもので球顆を多く含むのが主な特徴である。これにより剥片の殆どが赤井川産である可能性が高いと考えられる。

註釈及び引用参考文献

- | | |
|---|--|
| <p>註釈</p> <p>※1 肥料、土壌改良材メーカー 東洋商事(株) (富山県) ホームページ 「土壌に関する知識」より引用</p> <p>※2 農林水産省農林水産技術会議事務局監修 新版標準土色帳による</p> <p>※3 苫小牧市調査の基準(大泉博嗣1987による)</p> <p>引用・参考文献</p> <p>【北海道教育委員会 発掘調査報告書】(道教委)</p> <p>1975 北海道縦貫自動車道(苫小牧市植苗～千歳市平和)埋蔵文化財包蔵地群発掘調査報告書</p> <p>1979 有珠川2・植苗3遺跡北海道縦貫自動車道建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書</p> <p>1978 北海道教育委員会『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』</p> <p>【苫小牧市教育委員会・埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書】</p> <p>1969 苫小牧市高丘遺跡発掘調査報告書</p> <p>1984 タブコプ 北海道苫小牧市植苗地区国道36号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書</p> <p>1985 ニナルカ 一般国道235号苫東基地関連国道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書</p> <p>1986 柏原24遺跡 苫小牧市柏原一般廃棄物最終処分場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書</p> <p>1986 苫小牧東部工業地帯の遺跡群1 静川1遺跡、厚真町厚真1・2・8・10遺跡</p> <p>1987 苫小牧東部工業地帯の遺跡群2 厚真町厚真7・共和遺跡・早来町遠浅1遺跡</p> <p>1987 弁天貝塚Ⅰ 幕末期以降に於けるアイヌ貝塚の発掘調査報告書</p> <p>1988 ショップ遺跡 三石町教育委員会</p> <p>1988 弁天貝塚Ⅱ 幕末期以降に於けるアイヌ貝塚の発掘調査報告書</p> <p>1989 柏原4遺跡</p> <p>1989 弁天貝塚Ⅲ 幕末期以降に於けるアイヌ貝</p> | <p>塚の発掘調査報告書</p> <p>1990 高丘E遺跡 苫小牧市高丘地区におけるマンション建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書</p> <p>1990 苫小牧東部工業地帯の遺跡群3 厚真町厚真3、12遺跡、苫小牧市静川8遺跡発掘調査報告書</p> <p>1991 静川9遺跡 日高自動車道苫東工事区間静川第2跨道橋建設及び道道静川美沢線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告</p> <p>1992 静川37遺跡 道道上厚真苫小牧線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書</p> <p>1992 苫小牧東部工業地帯の遺跡群4 厚真町厚真13遺跡・苫小牧市静川20・21遺跡・柏原16・19遺跡発掘調査報告書</p> <p>1993 美沢11遺跡 道道新千歳空港道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書</p> <p>1995 苫小牧東部工業地帯の遺跡群5 苫小牧市静川19・26遺跡・柏原18遺跡発掘調査報告書</p> <p>1997 柏原5遺跡 一般国道235号日高自動車道苫東道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1</p> <p>1997 美沢10遺跡 道道新千歳空港線道路改良工事に伴う発掘調査報告書</p> <p>1998 柏原27・ニナルカ・静川5・6遺跡 一般国道235号日高自動車道苫東道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2</p> <p>1998 美沢東遺跡群 道道静川美沢線道路改良工事に伴う美沢東4・5・6遺跡発掘調査報告書</p> <p>2002 苫小牧東部工業地帯の遺跡群6 苫小牧市静川14・15・17遺跡発掘調査報告書</p> <p>2002 苫小牧東部工業地帯の遺跡群7 苫小牧市静川18・23～25・29～35遺跡発掘調査報告書</p> <p>2002 苫小牧東部工業地帯の遺跡群8 苫小牧市静川遺跡・柏原17遺跡発掘調査報告書</p> <p>2002 苫小牧東部工業地帯の遺跡群9 苫小牧市</p> |
|---|--|

- 静川22遺跡発掘調査報告書
- 2002 苦小牧東部工業地帯の遺跡群10 苦小牧市
静川 4 遺跡発掘調査報告書
- 2008 有珠川 5 遺跡 有珠川砂防えん堤建設事業
用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 2014 北海道苦小牧市市内遺跡発掘調査等事業報
告書(柏原 4 柏原 8 柏原28~51)
- 【公益財団法人 財団法人北海道埋蔵文化財セン
ター 発掘調査報告書】(道埋文または北埋)
- 1980 『フレペッ遺跡群』(美沢 4、美沢 5)
- 1981 北埋調報 3 : 美沢川流域の遺跡群 4 (美々
4・美々 5・美々 6・美々 7・美沢 1・美
沢 3)
- 1986 北埋調報35 : 美沢川流域の遺跡群10 (美々
3)
フレペッ遺跡群 2 (美沢 5) ペンケナイ
川流域の遺跡群 1 (美沢10, 11)
- 1989 北埋調報58 美沢川流域の遺跡群12 (美沢
3)
- 1990 北埋調報62 美沢川流域の遺跡群13 (美々
3・美々 8・美沢 3)
- 1994 北埋調報89 : 美沢川流域の遺跡群17 (美沢
3・美々 8)
- 1995 北埋調報95ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ
苦小牧市美沢15遺跡
- 1996 北埋調報101 フレペッ遺跡群 3 苦小牧市
美沢16遺跡
- 1997 美々・美沢一新千歳空港の遺構と遺物一
- 2011 北埋調報276フレペッ遺跡群Ⅳ 苦小牧市
美沢16遺跡 (2)
- 2017 北埋調報345 厚真町上幌内 4 遺跡 上幌
内 5 遺跡
- 2019 北埋調報351 伊達市西関内 3 遺跡
- 2019 北埋調報352 白老町ポロト 3 遺跡
- 2019 北埋調報356 厚真町オッコ 1 遺跡 (2)
- 【その他 発掘調査報告書】
- 1954 河野広道 藤原敏郎 藤本英夫『静内町先
史時代遺跡調査報告』
- 1985 静内町教育委員会『静内町清水丘における
考古学的調査一公営住宅建設工事に伴う埋
蔵文化財発掘調査報告一』静内町文化財調
査報告
- 【論文 文献】
- 1965 河野広道 岩崎隆人 宇田川洋 本田栄作
「加茂川遺跡 札幌・苦小牧低地帯におけ
る沖積世中頃の海進海退に関する問題点と
試論」『北海道学芸大学紀要第一部B社会
科学編16 (2)』
- 1972 曾屋龍典「樽前火山の形成」『火山16』
- 1976 高橋正勝 畑宏明「浦河町栄丘遺跡出土の
遺物一中野式土器群に伴う石器群一」『北
海道考古学12輯』
- 1976 竹田輝雄「中野式土器一胎土に含む燃系織
維のX線透写の試みから一」『北海道考古
学第12輯』
- 1987 大泉博嗣「第 2 節遺構の分類落とし穴」『苦
小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
- 1990 皆川洋一「Ⅶ 成果と問題点 1 刺突文
土器を含む特殊胎土を有する土器群につい
て」『北埋調報71集』
- 1990 加藤邦雄「縄文尖底土器」『縄文文化の研
究 3』雄山閣
- 1992 町田洋 新井房夫編『火山灰アトラス日本
列島とその周辺』東京大学出版会
- 2002 大泰司統「切りあうTピット一千歳市、苦
小牧周辺におけるTピットの形態変遷一」
『北海道考古学第38輯』
- 2010 国土地理院 『土地条件解説書「苦小牧地
区」』
- 2010 古川竜太・中川光弘 『樽前火山地質図』
- 2012 『小学館の図鑑NEO 岩石・鉱物・化石』
小学館
- 2013 西脇対名夫「北海道の滑石混和土器」『季
刊考古学125号』雄山閣
- 2014 日本考古学協会2014年度伊達大会研究発表
資料集 日本考古学協会2014年度伊達大会
実行委員会

遺構名	付属遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)				最大深層厚	推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面				
						長軸	短軸	長軸	短軸			
A地区												
土坑												
P-1	IV-5	3-1.2	G3.4	円形	1.20	1.10	0.3	0.28	0.48	縄文時代		
P-2	IV-5	3-3.4	T.U12	楕円形	1.26	0.99	0.69	0.43	0.23	縄文早～晩期		
Tピット												
TP-1	IV-5	3-5.6	G5	長楕円形	2.71	1.27	2.6	0.18	1.23	縄文中期後半		
TP-2	IV-6	3-7.8	M.N8	楕円形	2.18	1.60	1.47	0.29	1.20	縄文中期後半 柱穴3か所		
SP-1					0.04	0.04			0.10			
SP-2		4-1.2.3			0.04	0.04			0.22			
SP-3					0.03	0.03			0.07			
TP-3	IV-6	4-4.5.8	I.J5	楕円形	2.28	(1.56)	1.68	(0.27)	1.11	縄文中期後半 TP-11と重複		
SP-5					0.04	0.04			0.20			
TP-4	IV-7	4-9.10	L.M5.6	長楕円形(溝状)	4.02	1.18	3.6	0.24	1.02	縄文中期後半		
TP-5	IV-7	4-11.12	J8.9	楕円形(溝状)	2.63	1.43	1.93	0.19	1.58	縄文中期後半		
TP-6	IV-8	5-1.2	K4	長楕円形(溝状)	2.60	0.72	2.60	0.20	1.03	縄文中期後半		
TP-7	IV-8	5-3.4	G6	長楕円形(溝状)	2.96	0.83	2.24	0.09	1.43	縄文中期後半		
TP-8	IV-9	5-5.6	G4	楕円形	1.98	1.22	1.48	0.26	1.36	縄文中期後半		
TP-9	IV-9	5-7.6-1	Q3	長楕円形(溝状)	3.54	0.98	3.36	0.12	1.28	縄文中期後半		
TP-10	IV-10	5-8.6-2	E3.4	楕円形(小判形)	2.08	1.62	1.54	0.32	1.00	縄文中期後半		
SP-1				円形	0.03	0.03			0.18			
SP-2				円形	0.03	0.03			0.17			
TP-11	IV-10	4-5.6.7	I.J5	楕円形(小判形)	(2.20)	(1.60)	1.4	0.16	1.12	縄文中期後半 TP-3と重複		
SP-1				円形	0.07	0.04			0.14			
SP-2				円形	0.05	0.05			0.12			
SP-3				円形	0.04	0.04			0.10			
SP-4				円形	0.03	0.03			0.09			
SP-6				円形	0.06	0.04			0.18			
TP-12	IV-11	6-4.5	C3	長楕円形(溝状)	2.80	0.90	2.7	0.22	1.30	縄文中期後半		
TP-13	IV-11	6-6.7	A2	楕円形	1.60	0.91	1.88	0.2	1.35	縄文中期後半		
SP-1				円形	0.06	0.06			0.05			
TP-14	IV-11	7-1.2	A1	楕円形	2.30	0.86	2.1	0.44	1.10	縄文中期後半		
TP-15	IV-12	7-3.4	C1.2 D1.2	楕円形	1.74	0.88	1.16	0.34	0.56	縄文中期後半		
SP-1					0.08	0.05			0.08			
TP-16	IV-12	7-5	U27	(長楕円形)	×	(0.80)	×	0.15	1.20	縄文中期後半		
TP-17	IV-13	7-6.7.8	T15.16	長楕円形(溝状)	3.40	1.07	3.27	0.26	1.08	縄文中期後半		
TP-18	IV-14	8-1.2.3	T16.17	長楕円形	2.03	1.07	1.93	0.32	1.37	縄文中期後半		
TP-19	IV-15	8-1.4.5	T16.U16	長楕円形	3.42	1.06	3.5	0.14	1.25	縄文中期後半		
TP-20	IV-12	9-1.2	T21.22	長楕円形(溝状)	3.32	0.84	3.45	0.14	1.32	縄文中期後半		
TP-21	IV-15	9-3.4	Q6-7	長楕円形	2.81	0.98	2.79	0.17	1.21	縄文中期後半		
TP-22	IV-16	9-5.6	L.M13	楕円形	2.35	1.22	2.14	0.24	1.54	縄文中期後半		
TP-23	IV-16	9-7.10-1	Q.R16	長楕円形	2.74	0.85	2.75	0.16	1.26	縄文中期後半		
TP-24	IV-14	10-2.3	Q13.14. R13	楕円形	2.06	1.00	1.78	0.32	1.18	縄文中期後半		
TP-25	IV-17	10-5.6	N-O11	長楕円形	2.79	1.09	3.09	0.21	1.19	縄文中期後半		
TP-26	IV-18-19	10-7.8.11-1.2	O-P11 O12	楕円形(小判形)	2.37	1.53	1.91	0.26	1.32	縄文中期後半 覆土上面土器出土		
SP-1					0.05	0.04			0.10			
SP-2					0.05	0.04			0.12			
SP-3					0.04	0.04			0.14			
SP-4					0.08	0.06			0.18			
TP-27	IV-14	11-3.4	Q13.14.P14	楕円形	1.17	0.78	0.92	0.4	0.62	縄文中期後半		
TP-28	IV-19	11-5.6	P11-12	長楕円形	×	0.93	×	0.81	0.20	縄文中期後半		
TP-29	IV-20	11-7.8 12-1.2	S.T19.20	楕円形	2.34	1.48	1.8	0.22	1.22	縄文中期後半		
SP-1					0.04	0.04			0.04			
SP-2					0.06	0.04			0.12			
焼土												
F-1	IV-20	12-3	TU22	不整円形	2.08	1.52			0.10	縄文晩期前葉 年代測定 炭化材同定		
F-2	IV-21	12-4	R5	不整三角形	0.36	0.35			0.04	縄文晩期前葉 年代測定		
F-3	IV-21	12-6	U6	不整長楕円形	1.36	0.37			0.10	縄文晩期前葉 年代測定 炭化材同定		
F-4	IV-21	12-7	U6	不整長楕円形	1.28	0.47			0.04	縄文晩期中葉 年代測定 炭化材同定		
F-5	IV-21	12-5	U6	不整三角形	0.44	0.35			0.04	縄文後期後葉 年代測定 炭化材同定		
F-6	IV-21	12-8	Q.R20	楕円形	0.34	0.20			0.07	縄文後期初頭 年代測定		
F-7	IV-21	12-9	T23.24	不整長楕円形	1.20	0.17			0.04	縄文後～晩期		
溝状遺構												
D-1	IV-22	13-1~4	B4.C4.5. D5.6	溝状	8.20	0.56	8	0.42	0.08	縄文時代		
遺物集中												
C-1	IV-4	-	U27	不明	0.21	(0.20)			(0.05)	縄文中期後半 黒曜石製剥片集中掘り上げ土		

表VII-1 遺構一覽(A・B地区)

遺構名	付属遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)				最大深層厚	推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面				
						長軸	短軸	長軸	短軸			
DU-1	①	IV-22	13-5.6	LM7.8	楕円形	3.00	1.50			0.18	縄文中期後半	Ta-d2主体 Tピットの掘り上げ土
	②	IV-22		K7.8・L7.8	楕円形	4.00	2.50			0.12	縄文中期後半	黄褐色ローム主体
DU-2	①	IV-23	14-1~4	N9・O9	不整楕円形	2.30	1.50			0.08	縄文中期後半	Ta-d2主体Tピットの掘り上げ土
	②	IV-23		N9・10	不整楕円形	1.20	0.60			0.08	縄文中期後半	黄褐色ローム主体
	③	IV-23		N9・10	不整楕円形	1.20	0.90			0.08	縄文中期後半	黄褐色ローム主体
	④	IV-23		O10	不整形	1.20	0.20			0.04	縄文中期後半	黄褐色ローム主体
	⑤	IV-23		O10	不整形	0.20	0.16			0.04	縄文中期後半	黄褐色ローム主体
DU-3	①	IV-23	14-5.6	N13・14	不整楕円形	3.40	2.00			0.10	縄文中期後半	Tピットの掘り上げ土
	②	IV-23		O10	円形	0.12	0.08			0.04	縄文中期後半	黄褐色ローム主体
DU-4	①	IV-24	14-7.8 15-1~4	Q11・ R11・12	不整楕円形	(2.30)	(1.70)			0.08	縄文中期後半	
	②	IV-24		R12	不整形	1.22	1.10			0.16	縄文中期後半	
DU-5		IV-24	15-5.6	T19・20	不整楕円形	2.80	(1.20)			0.05	縄文中期後半	
DU-6		IV-24	15-7.8	U.V15	不明	2.10				0.10	縄文中期後半	
DU-7		IV-25	16-1	P16	楕円形	0.48	0.28			0.04	縄文中期後半	
DU-8		IV-25	16-3.4	S16	不整楕円形	2.28	1.60			0.08	縄文中期後半	
DU-9		IV-25	16-5.6	P8.9・ Q8.9	不整楕円形	2.81	1.52			0.12	縄文中期後半	
DU-10		IV-25	16-7.8	R14	楕円形	2.00	1.20			0.08	縄文中期後半	
DU-11		IV-25	16-2	S16・17	楕円形	2.06	1.02			0.05	縄文中期後半	
炭化物集中												
CB-1		IV-26	17-1	K10	楕円形	1.00	0.54			0.06	縄文後期前葉	年代測定 炭化材同定
CB-2	①	IV-26	17-2	T20	不整形	0.34	0.40				縄文晩期初頭	年代測定 炭化材同定
	②	IV-26	17-2	〃	不整形	1.02	0.54				縄文晩期初頭	
CB-3		IV-26	17-3	S.T21	不整形	2.74	0.99				縄文後～晩期	
CB-4		IV-26	17-3	S19・20	不整形	0.69	0.68				縄文後～晩期	
CB-5	①	IV-26	17-4	T24.25	不整形	1.09	0.64				縄文後～晩期	
	②	IV-26	17-4	〃	不整形	0.96	0.65				縄文後～晩期	
CB-6		IV-26	17-4	S.T25.26	不整楕円形	0.81	(0.46)				縄文後～晩期	
CB-7	①	IV-21	17-6	U5	不整形	0.20	0.16			0.04	縄文後～晩期	
	②	IV-21	17-6	U5	不整形	0.32	0.16			0.04	縄文後～晩期	
CB-8		IV-26	17-7	U9	楕円形	0.66	0.40				縄文後～晩期	
ⅢB層柱穴状ピット												
SP-1		IV-28	18-1.2	U7	円形	0.18	0.17			0.22	縄文早期	ⅢB層調査
SP-2		IV-28	18-1.2	U7	円形	0.14	0.13			0.13	縄文早期	ⅢB層調査
SP-3		IV-28	18-3	U7	円形	0.16	0.15			0.12	縄文早期	ⅢB層調査
SP-4		IV-28	18-4	U7	円形	0.14	0.14			0.17	縄文早期	ⅢB層調査
SP-5		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.18	0.14			0.14	縄文早期	ⅢB層調査
SP-6		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.17	0.16			0.16	縄文早期	ⅢB層調査
SP-7		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.13	0.11			0.19	縄文早期	ⅢB層調査
SP-8		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.12	0.12			0.11	縄文早期	ⅢB層調査
SP-9		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.16	0.15			0.22	縄文早期	ⅢB層調査
SP-10		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.10	0.10			0.08	縄文早期	ⅢB層調査
SP-11		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.11	0.10			0.18	縄文早期	ⅢB層調査
SP-12		IV-28	18-5.6.7.8	S7	円形	0.09	0.08			0.14	縄文早期	ⅢB層調査
SP-13		IV-28	18-5.6.7.8	S7	円形	0.14	0.13			0.13	縄文早期	ⅢB層調査
SP-14		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.08	0.07			0.13	縄文早期	ⅢB層調査
SP-15		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.10	0.09			0.08	縄文早期	ⅢB層調査
SP-16		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.16	0.12			0.16	縄文早期	ⅢB層調査
SP-17		IV-28	18-5.6.7	S7	円形	0.09	0.08			0.17	縄文早期	ⅢB層調査
SP-18		IV-29	19-1	M7	楕円形	0.10	0.10			0.23	縄文早期	ⅢB層調査
SP-19		IV-29	19-1.2	M7	円形	0.14	0.10			0.26	縄文早期	ⅢB層調査
SP-20		IV-29	19-1.2.3.4	M7	楕円形	0.11	0.08			0.12	縄文早期	ⅢB層調査
SP-21		IV-29	19-1.2.3.4	M7	円形	0.13	0.13			0.12	縄文早期	ⅢB層調査
SP-22		IV-29	19-1.3	M7	楕円形	0.14	0.12			0.22	縄文早期	ⅢB層調査
SP-23		IV-29	19-1	M7	楕円形	0.12	0.08			0.10	縄文早期	ⅢB層調査
SP-24		IV-29	19-1	M7	楕円形	0.20	0.14			0.14	縄文早期	ⅢB層調査
SP-25		IV-29	19-1	M7	楕円形	0.10	0.09			0.18	縄文早期	ⅢB層調査
SP-26		IV-29	19-1	M7	楕円形	0.11	0.10			0.14	縄文早期	ⅢB層調査
SP-27		IV-29	19-1	M7	楕円形	0.13	0.10			0.20	縄文早期	ⅢB層調査
SP-28		IV-29	19-1.4	M7	楕円形	0.18	0.11			0.16	縄文早期	ⅢB層調査
SP-29		IV-29	19-1	M7	円形	0.11	0.10			0.16	縄文早期	ⅢB層調査
SP-30		IV-29	19-1	M7	円形	0.12	0.11			0.14	縄文早期	ⅢB層調査
SP-31		IV-29	19-1	M7	円形	0.08	0.08			0.18	縄文早期	ⅢB層調査
SP-32		IV-29	19-1	M7	円形	0.10	0.07			0.20	縄文早期	ⅢB層調査
SP-33		IV-30	19-5.6	O7	円形	0.14	0.08			0.26	縄文早期	ⅢB層調査
SP-34		IV-30	19-5.6	O7	円形	0.15	0.10			0.12	縄文早期	ⅢB層調査
SP-35		IV-30	19-5	O7	楕円形	0.41	0.22			0.12	縄文早期	ⅢB層調査
SP-36		IV-30	19-5.7	O7	不整形	0.80	0.50			0.24	縄文早期	ⅢB層調査
SP-37		IV-30	19-5	O7	楕円形	0.28	0.18			0.16	縄文早期	ⅢB層調査
SP-38		IV-30	19-5.8	O7	円形	0.06	0.04			0.18	縄文早期	ⅢB層調査
SP-39		IV-30	19-5.8	O7	円形	0.14	0.14			0.24	縄文早期	ⅢB層調査

表Ⅶ-1 遺構一覧(A・B地区)

遺構名	付属 遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)				最大深 層厚	推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面				
						長軸	短軸	長軸	短軸			
SP-40		IV-30	19-5	O7	橢円形	0.14	0.12			0.30	縄文早期	ⅡB層調査
SP-41		IV-30	20-1.2.3	I7	円形	0.18	0.17			0.30	縄文早期	ⅡB層調査
SP-42		IV-30	20-1.2	I7	円形	0.18	0.14			0.20	縄文早期	ⅡB層調査
SP-43		IV-30	20-1.2	I7	円形	0.11	0.08			0.23	縄文早期	ⅡB層調査
SP-44		IV-30	20-1.2.4	I7	円形	0.20	0.18			0.32	縄文早期	ⅡB層調査
SP-45		IV-30	20-1.2	I7	円形	0.12	0.10			0.12	縄文早期	ⅡB層調査
SP-46		IV-30	20-1.2	I7	円形	0.12	0.10			0.04	縄文早期	ⅡB層調査
SP-47		IV-29	20-5.6	G7	橢円形	0.34	0.19			0.14	縄文早期	ⅡB層調査
SP-48		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.09	0.06			0.22	縄文早期	ⅡB層調査
SP-49		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.10	0.09			0.18	縄文早期	ⅡB層調査
SP-50		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.18	0.14			0.25	縄文早期	ⅡB層調査
SP-51		IV-31	20-7	R20	円形	0.17	0.16			0.12	縄文早期	ⅡB層調査
SP-52		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.17	0.12			0.08	縄文早期	ⅡB層調査
SP-53		IV-31	20-7.8	R20	橢円形	0.14	0.12			0.18	縄文早期	ⅡB層調査
SP-54		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.24	0.14			0.15	縄文早期	ⅡB層調査
SP-55		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.16	0.16			0.18	縄文早期	ⅡB層調査
SP-56		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.18	0.18			0.27	縄文早期	ⅡB層調査
SP-57		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.12	0.10			0.20	縄文早期	ⅡB層調査
SP-58		IV-31	20-7	R20	円形	0.12	0.10			0.42	縄文早期	ⅡB層調査
SP-59		IV-31	20-7.21-1	R20	橢円形	0.13	0.10			0.26	縄文早期	ⅡB層調査
SP-60		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.14	0.12			0.16	縄文早期	ⅡB層調査
SP-61		IV-31	20-7	R20	円形	0.12	0.12			0.36	縄文早期	ⅡB層調査
SP-62		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.11	0.10			0.17	縄文早期	ⅡB層調査
SP-63		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.12	0.09			0.20	縄文早期	ⅡB層調査
SP-64		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.15	0.08			0.27	縄文早期	ⅡB層調査
SP-65		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.14	0.10			0.15	縄文早期	ⅡB層調査
SP-66		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.14	0.11			0.18	縄文早期	ⅡB層調査
SP-67		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.10	0.06			0.19	縄文早期	ⅡB層調査
SP-68		IV-31	20-7	R20	円形	0.12	0.10			0.14	縄文早期	ⅡB層調査
SP-69		IV-31	20-7	R20	円形	0.12	0.10			0.11	縄文早期	ⅡB層調査
SP-70		IV-31	20-7.21-2	R20	円形	0.22	0.20			0.35	縄文早期	ⅡB層調査
SP-71		IV-31	20-7	R20	橢円形	0.09	0.09			0.19	縄文早期	ⅡB層調査
SP-72		IV-32	21-3.4.5	S22	円形	0.14	0.12			0.36	縄文早期	ⅡB層調査
SP-73		IV-32	21-3.4.6	S22	円形	0.16	0.14			0.37	縄文早期	ⅡB層調査
SP-74		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.11			0.46	縄文早期	ⅡB層調査
SP-75		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.16	0.12			0.18	縄文早期	ⅡB層調査
SP-76		IV-32	21-3.4.7	S22	円形	0.19	0.14			0.34	縄文早期	ⅡB層調査
SP-77		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.13	0.13			0.36	縄文早期	ⅡB層調査
SP-78		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.13	0.10			0.24	縄文早期	ⅡB層調査
SP-79		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.15	0.14			0.30	縄文早期	ⅡB層調査
SP-80		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.13	0.10			0.20	縄文早期	ⅡB層調査
SP-81		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.11	0.09			0.17	縄文早期	ⅡB層調査
SP-82		IV-32	21-3.4	S22	橢円形	0.20	0.16			0.33	縄文早期	ⅡB層調査
SP-83		IV-32	21-3.4	S22	橢円形	0.26	0.14			0.14	縄文早期	ⅡB層調査
SP-84		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.13			0.29	縄文早期	ⅡB層調査
SP-85		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.13			0.23	縄文早期	ⅡB層調査
SP-86		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.20	0.15			0.25	縄文早期	ⅡB層調査
SP-87		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.12	0.10			0.20	縄文早期	ⅡB層調査
SP-88		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.12	0.10			0.18	縄文早期	ⅡB層調査
SP-89		IV-32	21-3.4	S22	橢円形	0.22	0.12			0.23	縄文早期	ⅡB層調査
SP-90		IV-32	21-3.4	S22	橢円形	0.20	0.12			0.35	縄文早期	ⅡB層調査
SP-91		IV-32	21-3.4.8	S22	円形	0.20	0.20			0.39	縄文早期	ⅡB層調査
SP-92		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.09			0.29	縄文早期	ⅡB層調査
SP-93		IV-32	21-3.4	S22	円形	0.12	0.10			0.08	縄文早期	ⅡB層調査
B地区												
盛土遺構												
M-1		V-3.4	24.25.26	e42~44. f42~45. g42~45. h41~44. i41~43. j42・43区	橢円形	6.40	5.20			0.15	縄文前期前半	
M-2		V-5	27	c36. d.e35.36.	円形	4.00	3.00			(0.20)	縄文前期前半	
土坑												
P-1		V-6	28-1.2	g35.36	橢円形	1.52	1.12	1.2	0.72	0.66	縄文前期前半	
P-2		V-7	28-3.4	g37.38	円形	(0.64)	0.56	(0.40)	0.4	0.45	縄文前期前半	
P-3		V-6	28-5.6	i37	不整橢円形	0.72	0.53	0.26	0.22	0.40	縄文前期前半	
P-4		V-6	28-7.8	h.i36	橢円形	1.54	1.07	1.36	0.94	0.59	縄文前期前半または中期後半	
P-5		V-7	29-1.2	n34.35	方形	1.20	1.06	0.76	0.62	0.56	縄文前期前半	
P-6		V-7	29-3.4	n34.35	円形	1.24	1.12	0.95	0.92	0.60	縄文前期前半	
P-7		V-7	29-5.6	h36	橢円形	1.55	1.14	1.08	0.89	0.61	縄文前期前半	
P-8		V-8	29-7.8	i37	橢円形	1.20	1.07	0.18	0.1	0.48	縄文前期前半または中期後半	

表Ⅶ-1 遺構一覽(A・B地区)

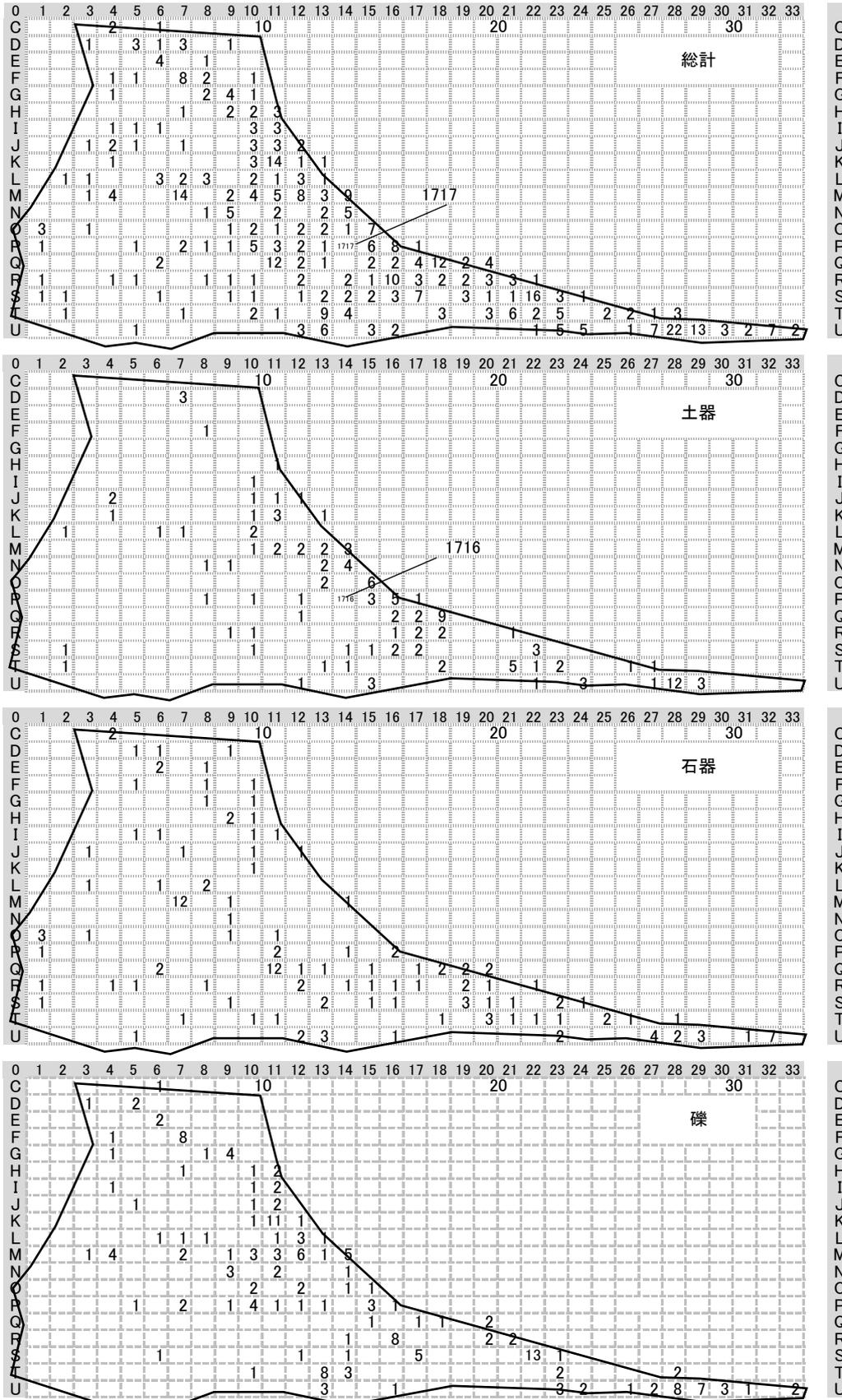
遺構名	付属遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)				最大深層厚	推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面				
						長軸	短軸	長軸	短軸			
P-9	V-8	30-1.2	j36.37	不整形	1.12	1.04	0.88	0.8	0.32	縄文前期前半		
P-10	V-8	30-3.4.5.6	m.n35	長楕円形	2.64	1.24	2.26	0.88	0.45	縄文前期前半		
P-11	V-9	30-7.8	i36	円形	1.28	1.26	1.1	1.06	0.43	縄文前期前半		
P-12	V-9	31-1.2	s32.33. t33	円形	1.70	1.68	1.3	1.04	0.54	縄文前期前半		
P-13	V-9	31-3.4	d36	楕円形	0.50	0.22			0.16	縄文前期前半		
Tピット												
TP-1	V-10	31-5.6	e38	長楕円形(溝状)	2.94	1.30	2.52	0.14	1.20	縄文中期後半		
TP-2	V-10	32-1~5	e.f41.42	長楕円形(溝状)	3.00	1.40	2.72	0.24	1.20	縄文中期後半		
	SP-1			円形	0.08	0.08			0.12	縄文中期後半		
	SP-2			円形	0.08	0.08			0.20	縄文中期後半		
	SP-3			円形	0.12	0.10			0.18	縄文中期後半		
TP-3	V-11	32-6.7	d39.40	楕円形(溝状)	1.98	0.97	1.8	0.13	1.26	縄文中期後半		
TP-4	V-11	33-1.2	d39	長楕円形(溝状)	3.02	1.08	3.02	0.18	1.32	縄文中期後半		
TP-5	V-12	33-3.4	j36.37	楕円形(溝状)	1.85	0.93	1.98	0.17	1.42	縄文中期後半		
TP-6	V-13	34-1.2	d.e40	楕円形(溝状)	2.38	1.30	2.04	0.15	1.16	縄文中期後半		
TP-7	V-13	34-3.4	e39.40	長楕円形(溝状)	2.48	0.68	1.54	0.12	1.22	縄文中期後半		
TP-8	V-12	35-1.2	e.f39	長楕円形(溝状)	3.40	1.25	3.1	0.22	1.20	縄文中期後半		
TP-9	V-12	34-5.6	h42.43	楕円形	2.42	1.09	2.24	0.26	1.24	縄文中期後半		
TP-10	V-14	35-3.4	h42h.143	長楕円形(溝状)	2.74	0.90	3.19	0.2	1.61	縄文中期後半		
TP-11	V-14	36-1.2	c44.45	長楕円形(溝状)	2.88	0.80	2.65	0.22	1.11	縄文中期後半		
TP-12	V-15	36-3.4	h.i39	楕円形(溝状)	2.31	1.19	2.2	0.11	1.25	縄文中期後半		
TP-13	V-15	36-5.6	n37. o36.37	楕円形	2.60	1.32	2.3	0.1	1.22	縄文中期後半		
	SP-1	37-1	o37	円形	0.08	0.06			0.06	縄文中期後半		
	SP-2	37-2	o37	円形	0.07	0.04			0.09	縄文中期後半		
	SP-3	37-3	o37	円形	0.05	0.04			0.04	縄文中期後半		
TP-14	V-16	37-4.5	i37	楕円形(溝状)	2.04	0.95	1.92	0.12	1.36	縄文中期後半		
TP-15	V-16	37-6.7	m36.37	長楕円形(溝状)	3.32	1.32	3.22	0.23	1.33	縄文中期後半		
TP-16	V-17	37-8.9	m37.38	長楕円形(短冊形)	2.90	1.60	2.22	0.52	1.43	縄文中期後半		
	SP-1	38-1		円形	0.05	0.05			0.14	縄文中期後半		
TP-17	V-17	38-2.3	q30	長楕円形(溝状)	3.44	0.91	3.18	0.2	1.36	縄文中期後半		
TP-18	V-18	38-4.5	c36.37. d37	長楕円形	2.73	0.85	2.98	0.17	1.16	縄文中期後半		
TP-19	V-18	39-1.2	g40.41. h40	楕円形	1.84	0.91	1.48	0.12	1.30	縄文中期後半		
TP-20	V-18	39-3	b38	(長楕円形)	(1.02)	0.46	(1.0)	0.17	1.18	縄文中期後半		
TP-21	V-19	39-4.5	b44.45	(長楕円形)	(1.80)	0.80	(1.60)	0.2	1.28	縄文中期後半		
焼土												
F-1	V-19	40-1.2	o35.36	不整形	1.24	0.70			0.10	縄文中期後半～末葉		
遺物集中												
C-1	V-19	40-3	h.i37	不整形楕円形	3.08	1.76				縄文前期前半または中期末葉	剥片集中1	
C-2	V-20	40-3	h.i38	不整形楕円形	2.00	1.20				縄文前期前半	剥片集中2	
C-3	V-20	40-4	h.i37	円形	0.47	0.26				縄文前期前半	石器集中	
C-4	V-20	40-5	j37	不整形楕円形	0.64	0.44				縄文前期前半	礫集中	
C-5	V-20	40-6	h37.38	不整形	4.68	2.72				縄文前期前半	土器集中	
C-6	V-20	40-7	h.i36	円形	0.30	0.20				縄文中期末葉	石斧等集中	
掘り上げ土												
DU-1	V-21	41-1	c.d37	不整形楕円形	2.12	1.40			0.06	縄文中期後半		
DU-2	V-21	41-2	b40	楕円形	1.51	1.34			0.08	縄文中期後半		
DU-3	V-21	41-3	b43	不整形	2.82	1.58			0.12	縄文中期後半		
DU-4	V-22	41-4	e36	楕円形	2.78	1.56			0.05	縄文中期後半		
DU-5	V-22	41-4	e.f37.38	不整形楕円形	3.03	1.05			0.08	縄文中期後半		
DU-6	V-19	41-5	h.i37	不整形	4.28	2.20			0.05	縄文中期後半		
炭化物集中												
CB-1	V-22	41-6	j35	不整形	0.40	0.30				縄文後～晩期		
CB-2	V-22	41-7	j38	不整形	0.72	0.12				縄文後～晩期	炭化材樹種同定	
ⅢB層柱穴状ピット												
SP-1	V-23	42-1.2	j38.39	円形	(0.20)	0.20	0.5	0.5	0.50	縄文早期	ⅢB層調査	
SP-2	V-23	42-4	f.g38	円形	0.16	(0.12)	0.05	0.04	0.36	縄文早期	ⅢB層調査	
SP-3	V-23	42-5.6	d38.39	円形	0.16	(0.16)	0.08	(0.06)	0.48	縄文早期	ⅢB層調査	
SP-4	V-23	42-7	h44	円形	0.21	0.20	0.08	0.05	0.42	縄文早期	ⅢB層調査	
SP-5	V-23	42-8	h38	円形	0.17	0.16	0.04	0.04	0.46	縄文早期	ⅢB層調査	
SP-6	V-24	43-1	g37	円形	0.26	0.24	0.07	0.04	0.50	縄文早期	ⅢB層調査	
SP-7	V-24	43-2	g38	円形	0.20	(0.20)	0.12	0.08	0.38	縄文早期	ⅢB層調査	
ⅢB層炭化物集中												
CB-1	V-24	43-3.4.5	g.h37.38	不整形	5.00	2.00				縄文早期	ⅢB層調査	

表Ⅶ-1 遺構一覽(A・B地区)

遺構種別	遺構名	層位	土器				石器											
			縄文前期前半 (IIa-2類)	縄文中期後半 (IIIb類)	焼成粘土塊	土器計	石鏃	石槍	石錘	つまみ付きナイフ	籠状石器	スクレイパー	石斧	R フレイク	U フレイク			
A	Tピット	TP-05	覆土															
		TP-16	覆土															
		TP-26	覆土上面				1	1										
	遺物集中	C-1	II B															
B	盛土遺構	M-1	M	137			137	9	1	6	8		4	12				
		M-2	M	247			247	44	2	11	10	1	5	3	5	7		
	土坑	P-04	覆土															
		P-05	覆土														1	
		P-06	覆土								1							
		P-07	覆土														1	
		P-09	覆土上面		19			19										
			覆土		3			3										
		P-10	覆土上面											1				
			覆土															1
		P-11	覆土上面									1			1	1		
			覆土															
	P-13	覆土															1	
	Tピット	TP-01	覆土		1			1										
		TP-02	覆土															
		TP-05	覆土															
		TP-07	覆土															
		TP-09	覆土															
		TP-12	覆土2									1						
		TP-13	覆土1			22		22										
TP-18	覆土															1		
焼土	F-1	II B		32		32												
遺物集中	C-1	II B																
	C-2	II B									1							
	C-3	II B										4	3	3				
	C-4	II B		1			1											
	C-5	II B		160			2	162										
	C-6	1(II B)												6				

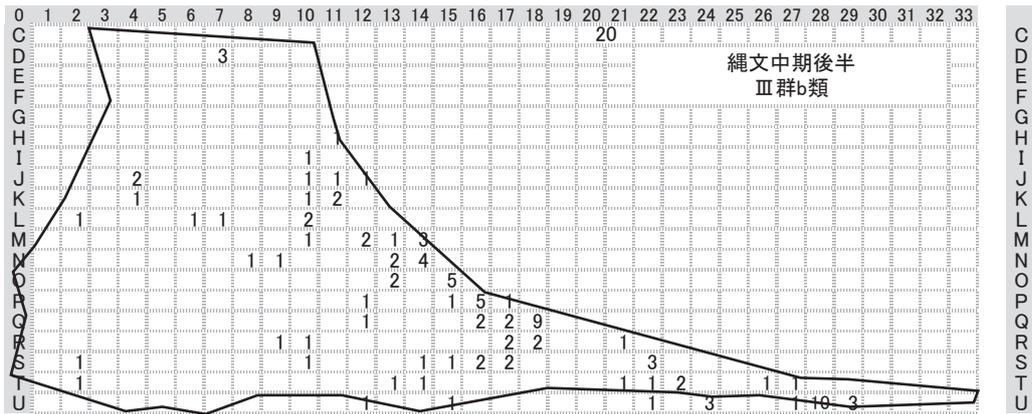
遺構種別	遺構名	層位	石器										礫			総計			
			原石	剥片	たたき石	すり石	石錘	砥石	台石石皿	加工痕のある礫	石器計	礫	礫片	礫計					
A	Tピット	TP-05	覆土												1			1	
		TP-16	覆土													1			1
		TP-26	覆土上面																1
	遺物集中	C-1	II B		529								529					529	
B	盛土遺構	M-1	M	1	89	9	1	3	2	4	1	150	142	502	644	931			
		M-2	M		134	2	1	7	1	1	234	158	108	266	747				
	土坑	P-04	覆土									1							1
		P-05	覆土									1							1
		P-06	覆土									1							1
		P-07	覆土									1							1
		P-09	覆土上面										1			1			20
			覆土																3
		P-10	覆土上面		3				1			5	7	1	8	13			
			覆土									2				2			
		P-11	覆土上面									2				2			
			覆土										1			1			1
	P-13	覆土									1		5	5	6				
	Tピット	TP-01	覆土																1
		TP-02	覆土													0	0		0
		TP-05	覆土										9	2	11	11			
		TP-07	覆土		1							1							1
		TP-09	覆土										3	4	7	7			
		TP-12	覆土2		9							10		1	1	11			
		TP-13	覆土1											2	2	24			
TP-18	覆土									1							1		
焼土	F-1	II B										2		2	34				
遺物集中	C-1	II B		13160							13160				13160				
	C-2	II B		5478							5479	16	1	17	5496				
	C-3	II B									10				10				
	C-4	II B			1						1	12	33	45	47				
	C-5	II B										40	2	42	204				
	C-6	1(II B)									6				6				

表Ⅶ-2 遺構出土遺物一覧(A・B地区)

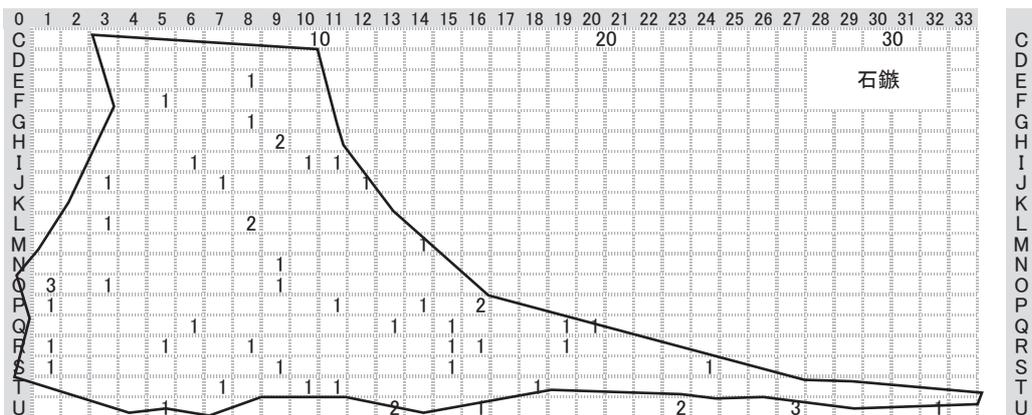


A地区

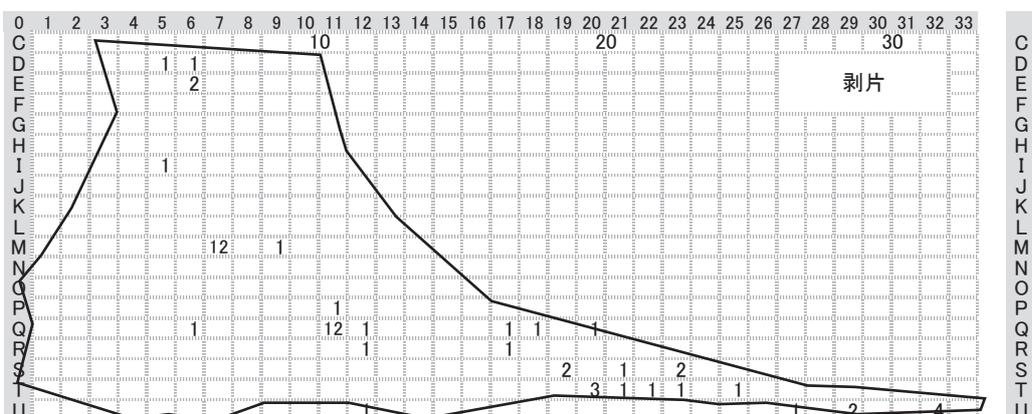
表Ⅶ-3 包含層グリッド別出土遺物一覧



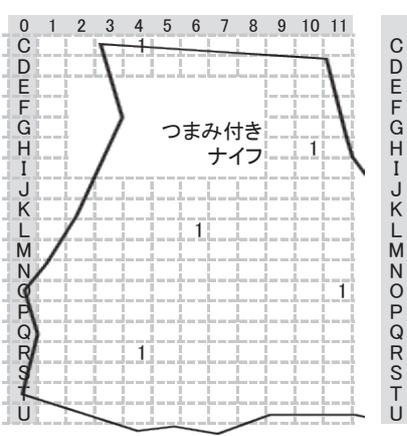
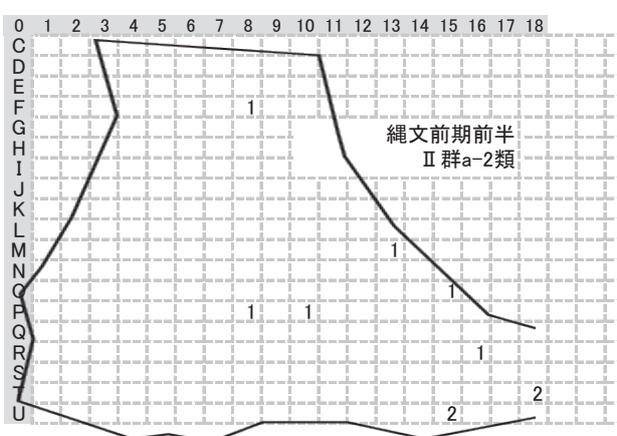
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U



C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U



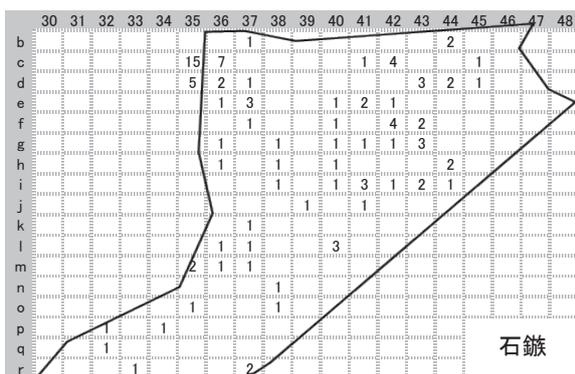
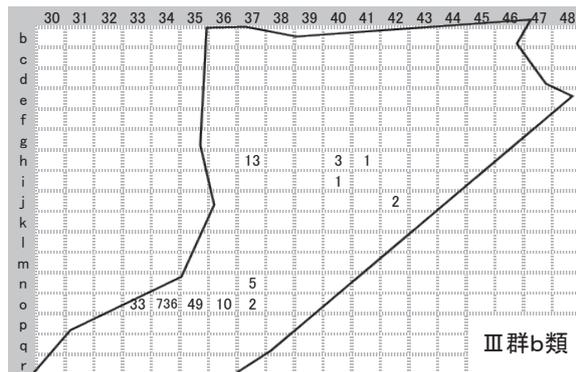
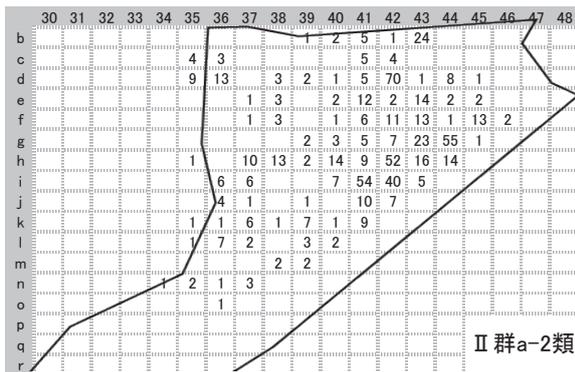
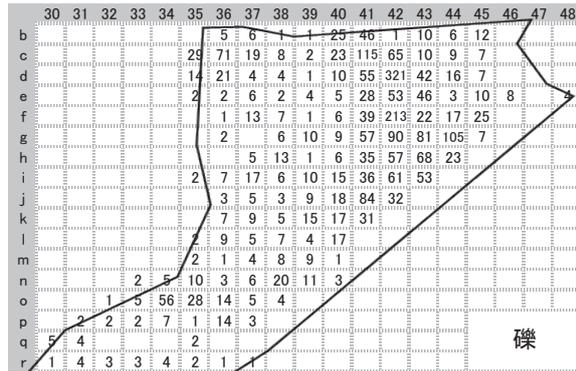
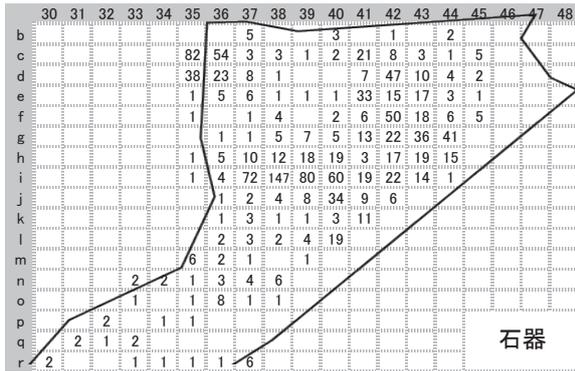
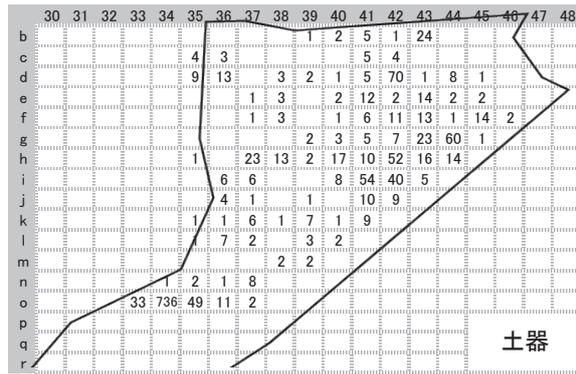
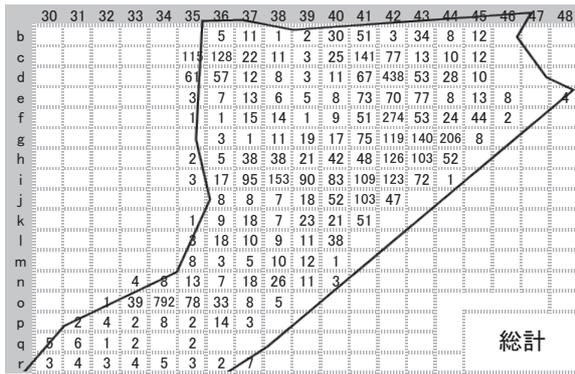
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U

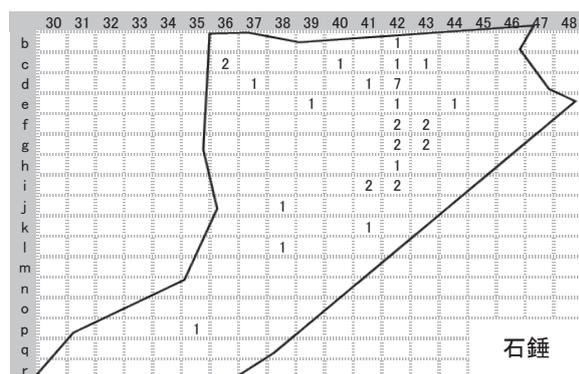
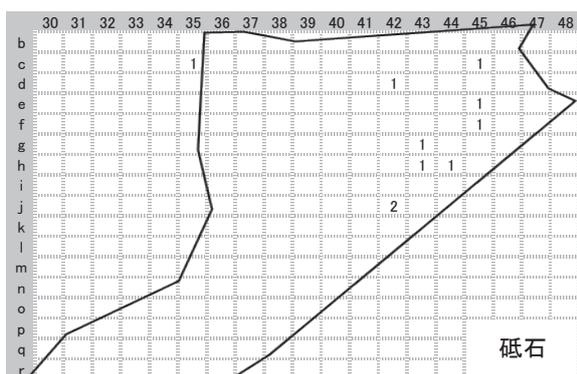
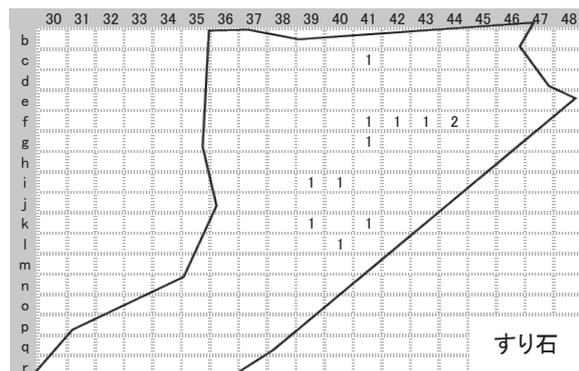
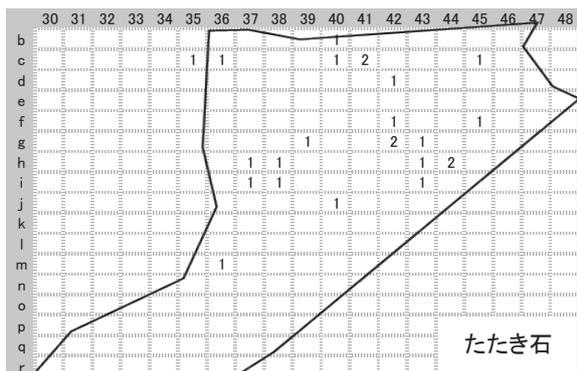
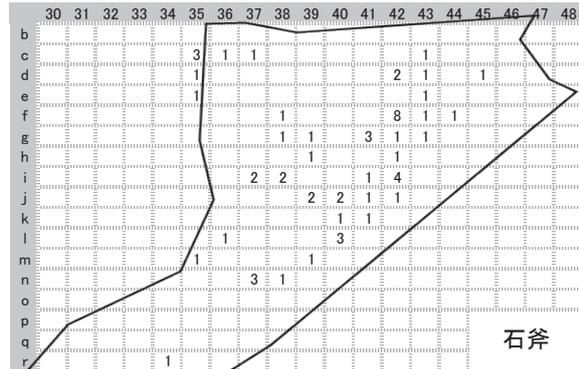
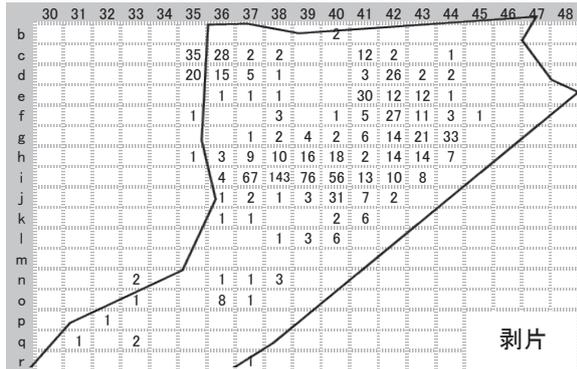
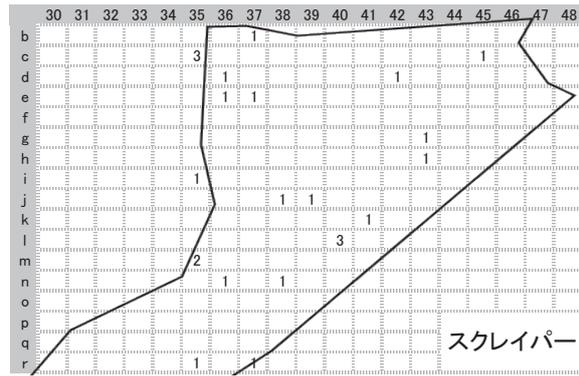
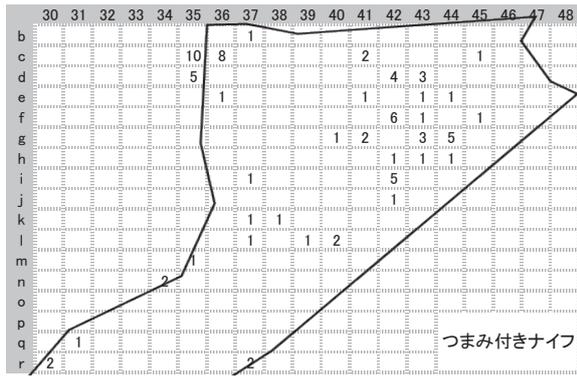


C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U

A地区

表VII-3 包含層グリッド別出土遺物一覧





B地区

表Ⅶ-3 包含層グリッド別出土遺物一覧

写真図版



1 前半期調査範囲(ⅡB層上面) NW→



2 後半期調査範囲(ⅡB層調査時) NE→

図版2 A地区基本土層



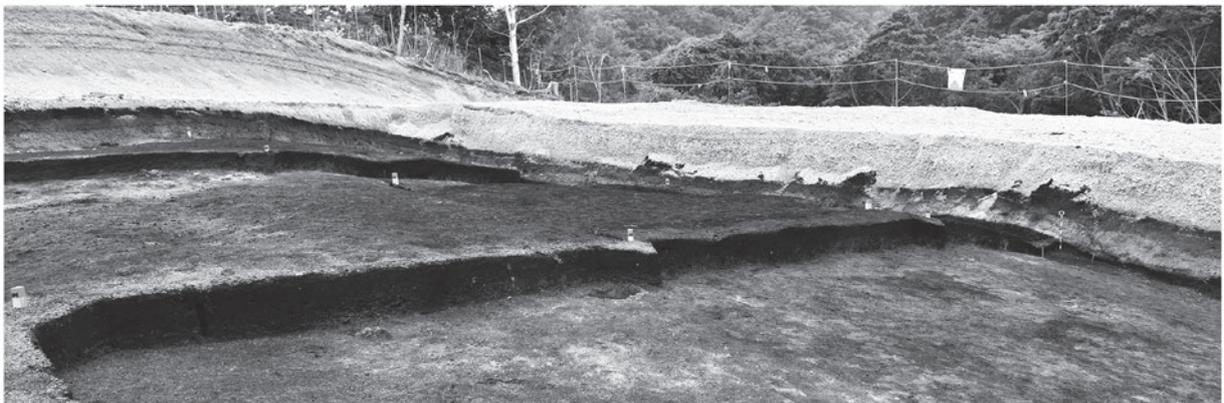
1 基本土層(N9) N→



2 基本土層(調査区外露頭) W→



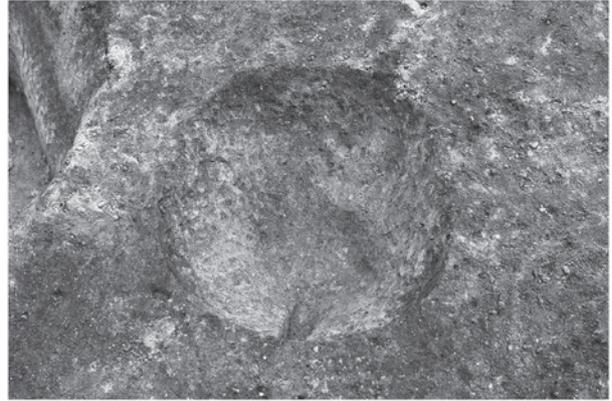
3 8ライン(K・L・M) 土層断面 SW→



4 0ライン(1~3) 土層断面 NE→



1 P-1 土層断面 W→



2 P-1 E→



3 P-2 土層断面 SE→



4 P-2 NW→



5 TP-1 土層断面 SW→



6 TP-1 SW→

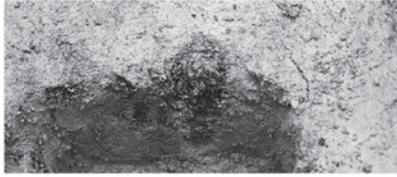


7 TP-2 土層断面 SW→



8 TP-2 W→

図版4 A地区 Tピット(2)



1 TP-2 SP-1 土層断面 E→



2 TP-2 SP-2 土層断面 SW→



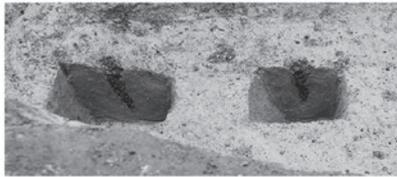
3 TP-2 SP-3 土層断面 NE→



4 TP-3 土層断面 W→



5 TP-3-11 W→



6 TP-11 SP-1-2 土層断面 NW→



7 TP-11 SP-3-4 土層断面 NW→



8 TP-3 SP-5 土層断面 SE→



9 TP-4 土層断面 SE→



10 TP-4 SE→



11 TP-5 土層断面 S→



12 TP-5 N→



1 TP-6 土層断面 S→



2 TP-6 S→



3 TP-7 土層断面 SW→



4 TP-7 SW→



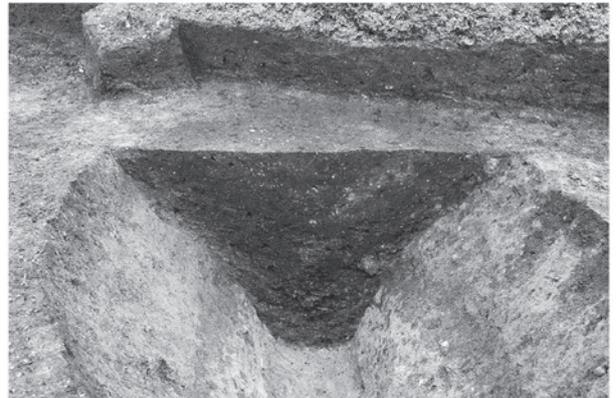
5 TP-8 土層断面 NW→



6 TP-8 NW→



7 TP-9 土層断面 N→



8 TP-10 土層断面 E→

図版6 A地区 Tピット(4)



1 TP-9 NE→



2 TP-10 E→



3 TP-10 SP-1(左)・2(右) 土層断面 S→



4 TP-12 土層断面 S→



5 TP-12 NE→



6 TP-13 土層断面 S→



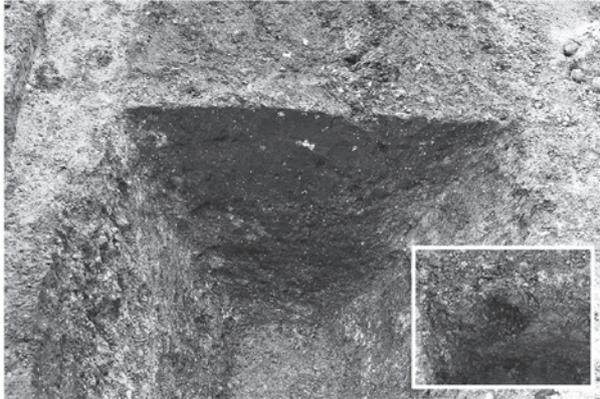
7 TP-13 S→



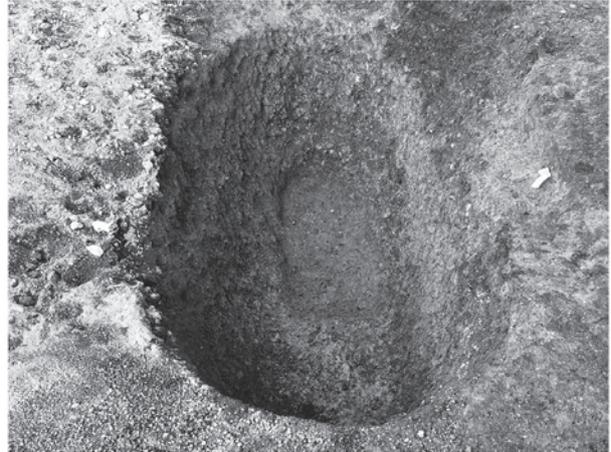
1 TP-14 土層断面 S→



2 TP-14 S→



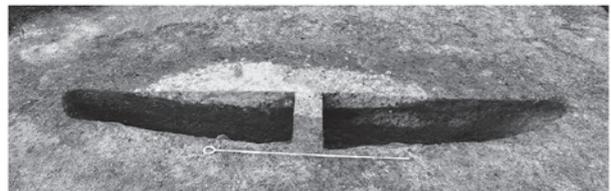
3 TP-15 土層断面 SP-1 土層断面 N→



4 TP-15 N→



5 TP-16 NE→



6 TP-17 土層断面(上部) SW→



7 TP-17 土層断面 SE→



8 TP-17 NW→

図版8 A地区 Tピット(6)



1 TP-17・18・19 N→



2 TP-18 土層断面 SW→



3 TP-18 SE→



4 TP-19 土層断面 NW→



5 TP-19 SW→



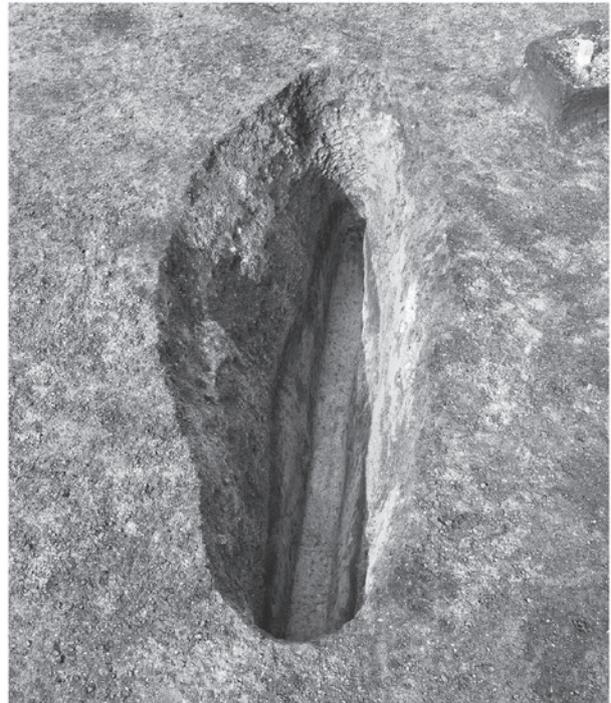
1 TP-20 土層断面 E→



2 TP-20 E→



3 TP-21 土層断面 SE→



4 TP-21 SE→



5 TP-22 土層断面 S→



6 TP-22 N→



7 TP-23 土層断面 E→

図版10 A地区 TPピット(8)



1 TP-23 W→



2 TP-24 土層断面 S→



4 TP-25 覆土上層断面 NW→



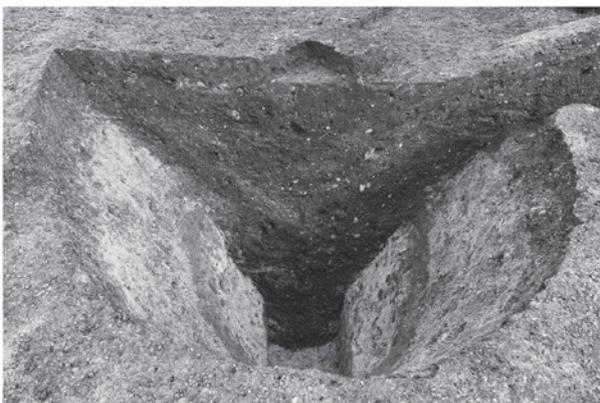
3 TP-24 N→



5 TP-25 土層断面 S→



6 TP-25 S→



7 TP-26 土層断面 SW→



8 TP-26 SW→



1 TP-26 覆土上面遺物出土状況 S→



2 TP-26 SP-1~4(右から1・2・3・4) 土層断面 NW→



3 TP-27 土層断面 S→



4 TP-27 SE→



5 TP-28 土層断面 SW→



6 TP-26・28 SW→



7 TP-29 土層断面 N→



8 TP-29 S→

図版12 A地区 Tピット(10)・焼土



1 TP-29 P-1 土層断面 N→



2 TP-29 P-2 土層断面 S→



4 F-2 E→



3 F-1 S→



5 F-5 W→



6 F-3 W→



7 F-4 W→



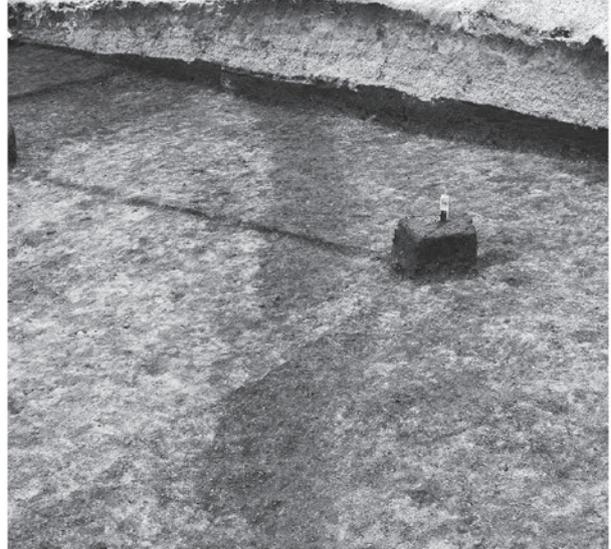
8 F-6 S→



9 F-7 S→



1 D-1(南側部分) SE→



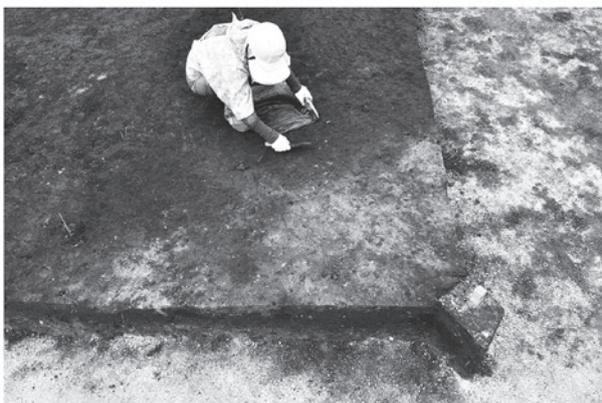
2 D-1 調査区内確認 SE→



3 D-1(北側部分) N→



4 D-1 土層断面 N→



5 DU-1 W→



6 DU-1 土層断面 S→

図版14 A地区 掘り上げ土(2)



1 DU-2 W→



2 DU-2 土層断面1 W→



3 DU-2 土層断面2 E→



4 DU-2 土層断面3 E→



5 DU-3 SE→



6 DU-3 土層断面 W→



7 DU-4 S→



8 DU-4(1) S→



1 DU-4(1) 土層断面 S→



2 DU-4(2) SW→



3 DU-4(2) 土層断面 S→



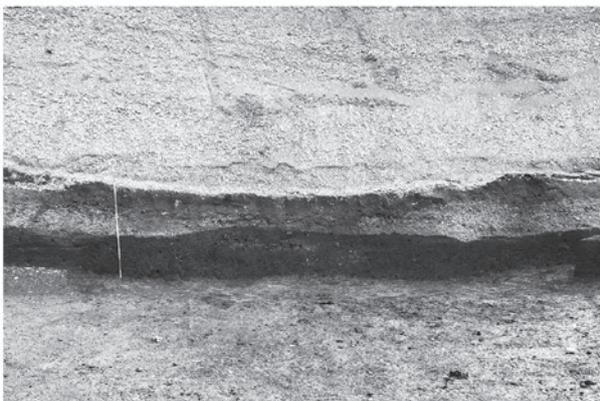
4 DU-4 炭化材・石斧出土状況 SE→



5 DU-5 NE→



6 DU-5 土層断面 E→



7 DU-6 土層断面 N→



8 DU-6 土層断面詳細 N→

図版16 A地区 掘り上げ土(4)



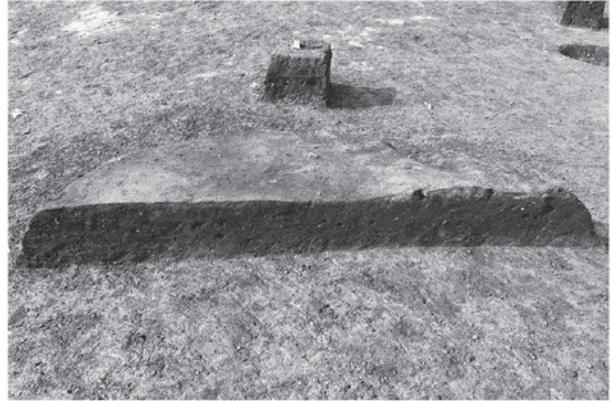
1 DU-7 S→



2 DU-11 S→



3 DU-8 S→



4 DU-8 土層断面 E→



5 DU-9 W→



6 DU-9 土層断面 S→



7 DU-10 SW→



8 DU-10 土層断面 W→



1 CB-1 SE→



2 CB-2 S→



3 CB-3 S→



4 CB-5.6 S→



5 CB-7 N→



6 CB-7 炭化材2 W→



7 CB-8 N→

図版18 A地区 ⅢB層調査(1)



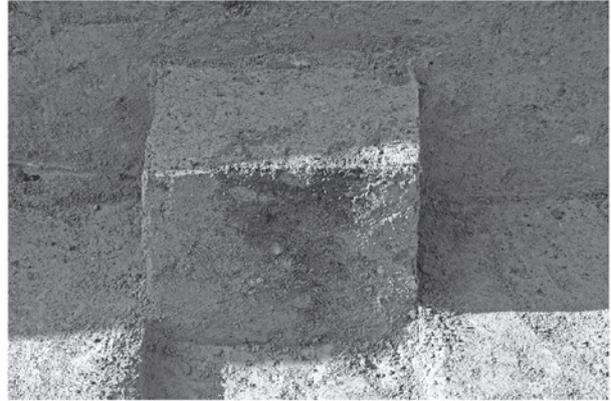
1 U7区 東壁 土層断面 W→



2 U7区 柱穴状小ピット 確認 N→



3 U7区 SP-1 土層断面 W→



4 U7区 SP-4 土層断面 W→



5 S7区 東壁 土層断面 W→



6 S7区 柱穴状小ピット 確認 W→



7 S7区 柱穴状小ピット 土層断面 W→



8 S7区 SP-12・13 W→



1 M7区 柱穴状小ピット 確認 S→



2 M7区 SP-19 土層断面 W→



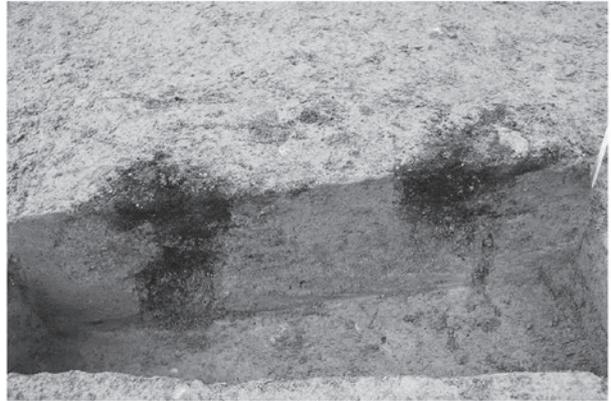
3 M7区 SP-22 土層断面 W→



4 M7区 SP-28 土層断面 W→



5 O7区 柱穴状小ピット 確認 W→



6 O7区 SP-33・34 土層断面 W→

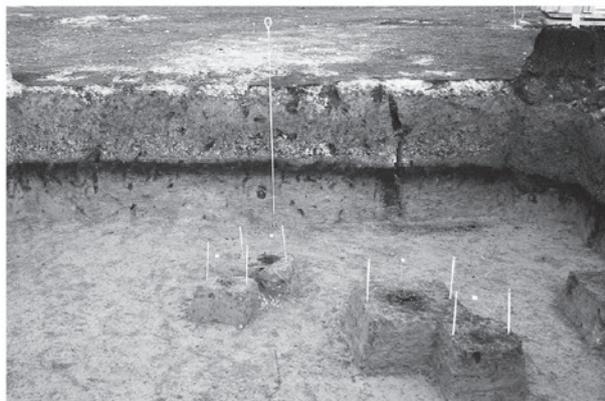


7 O7区 SP-36 土層断面 W→



8 O7区 SP-38・39 土層断面 W→

図版20 A地区 IIIB層調査(3)



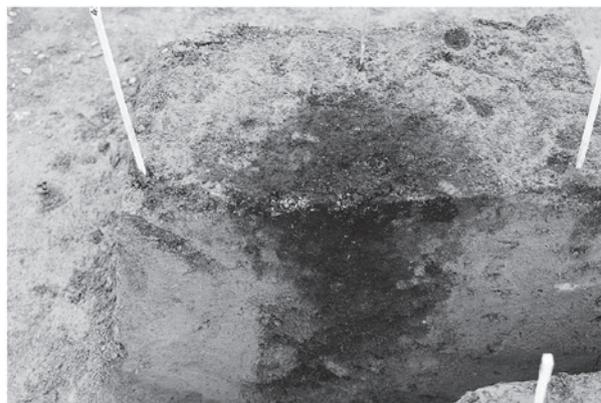
1 I7区 東壁 W→



2 I7区 柱穴状小ピット 確認 W→



3 I7区 SP-41 土層断面 W→



4 I7区 SP-44 土層断面 W→



5 G7区 東壁 W→



6 G7区 SP-47 確認 N→



7 R20区 柱穴状小ピット 確認 N→



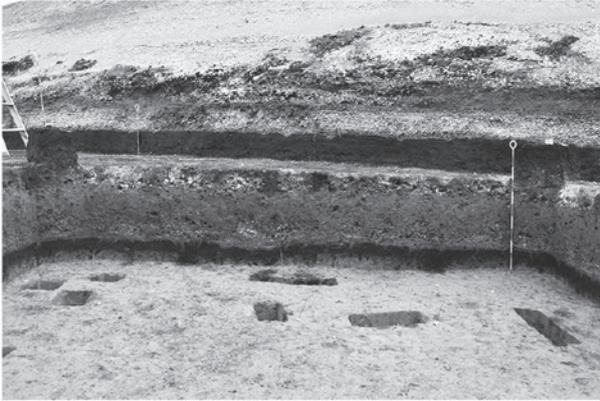
8 R20区 SP-53 W→



1 R20区 SP-59 W→



2 R20区 SP-70 W→



3 S22区 北壁 S→



4 S22区 柱穴状小ピット 確認 S→



5 S22区 SP-72 W→



6 S22区 SP-73 W→



7 S22区 SP-76 W→



8 S22区 SP-91 W→



1 II B層上面精査状況(中央～東部分) NW→



2 最終面精査状況(中央～西部分) NE→



1 北側追加調査範囲(ⅡB層上面) SE→



2 北側追加調査範囲(西側部分) S→



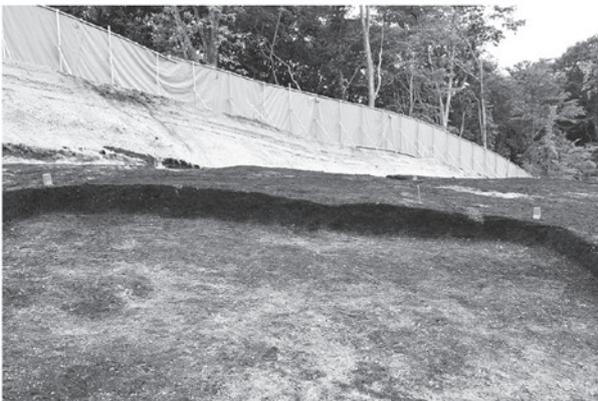
3 北側追加調査範囲(西側斜面) SE→



4 39ライン 土層断面 W→



5 39ライン 土層断面 NW→

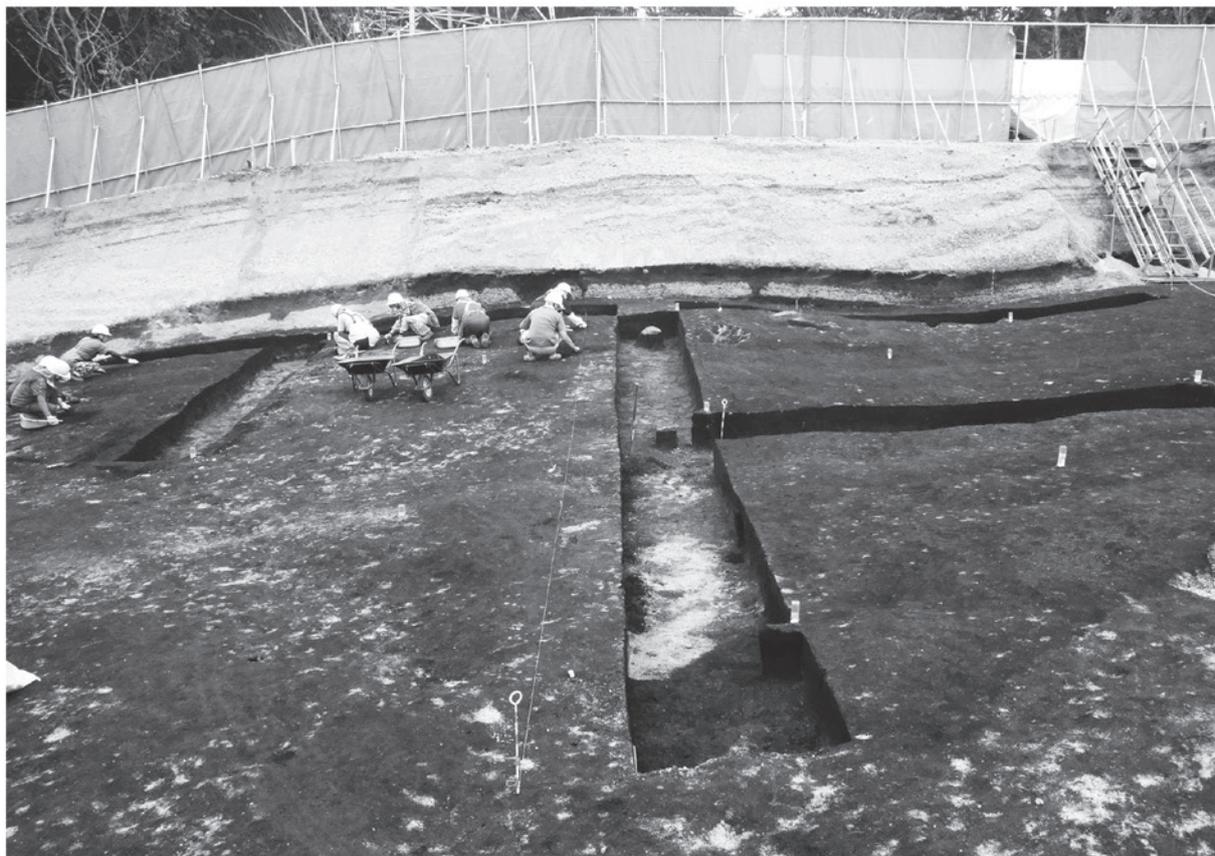


6 39ライン 土層断面 E→

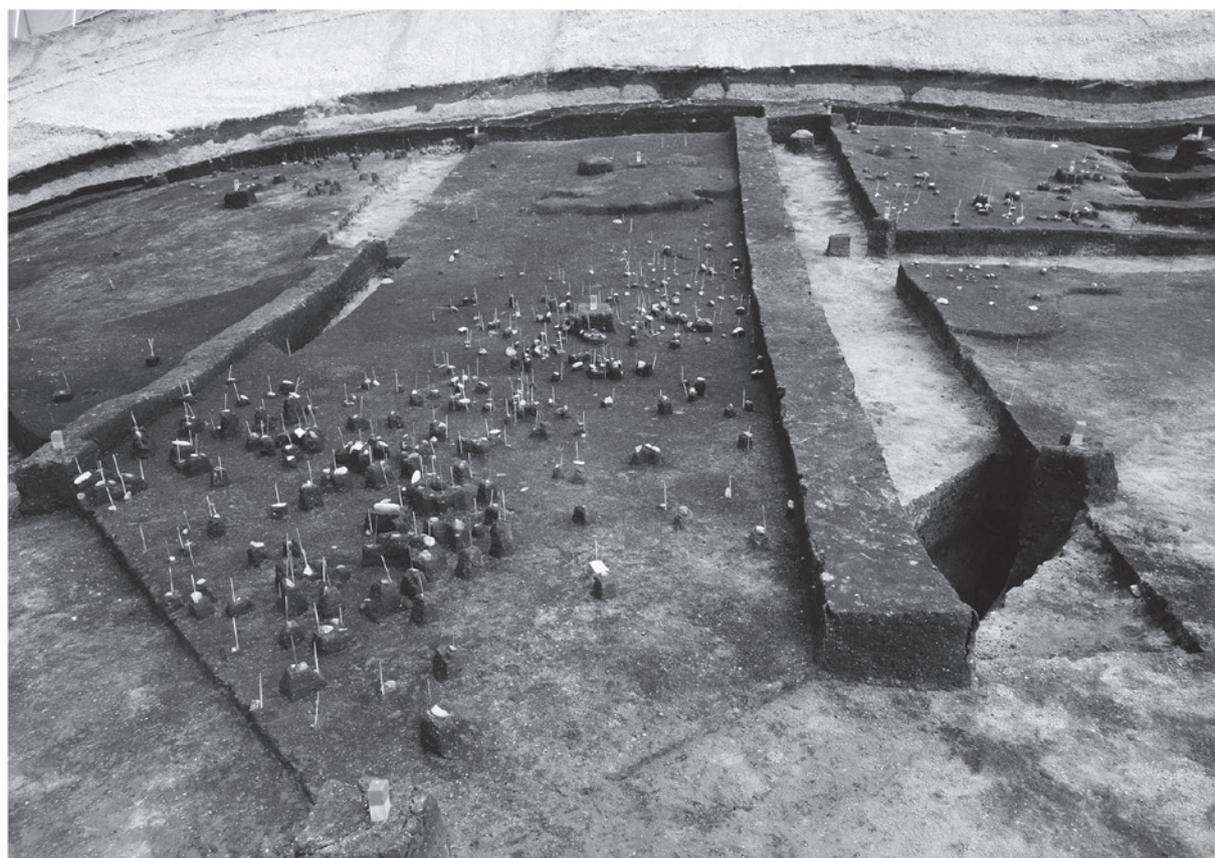


7 0ライン 土層断面 E→

図版24 B地区 盛土遺構 M-1(1)



1 M-1 確認調査範囲 N→



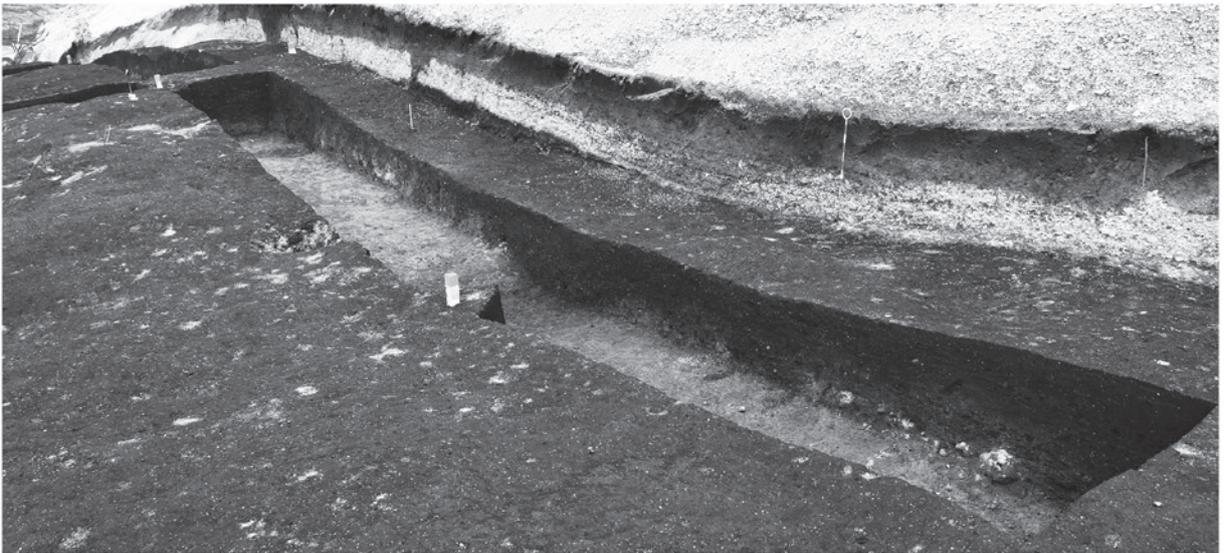
2 M-1 遺物出土状況 N→



1 M-1 土層断面(南北方向) NW→



2 M-1 土層断面(東西方向 東側) NW→



3 M-1 土層断面(東西方向 西側) NW→



1 M-1 土層断面(中央部) NW→



2 M-1 土層断面(東西方向 サブトレンチ) NW→



3 M-1 土層断面(南北方向 42ライン) E→



4 M-1 遺物出土状況(中部) E→



5 M-1 遺物出土状況(中～下部) NE→



6 M-1 遺物出土状況(下部) E→



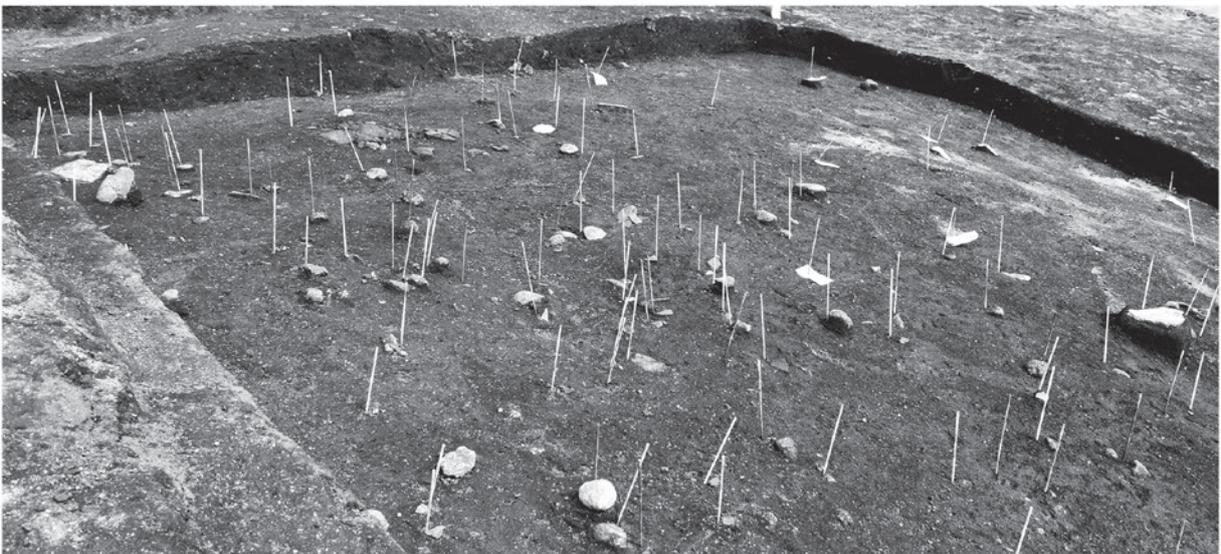
7 M-1 上層遺物出土状況 E→



8 M-1 上層土器出土状況 NE→



1 M-2 全景 SW→



2 M-2 遺物出土状況(上層) SW→



3 M-2 一括遺物出土状況(上層) SE→



4 M-2 土層断面 S→

图版28 B地区 土坑(1)



1 P-1 土层断面 E→



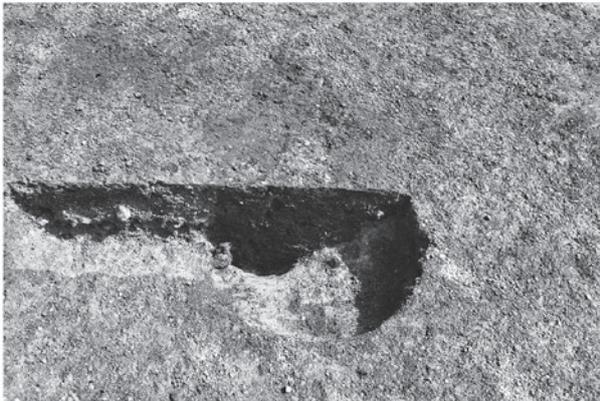
2 P-1 SW→



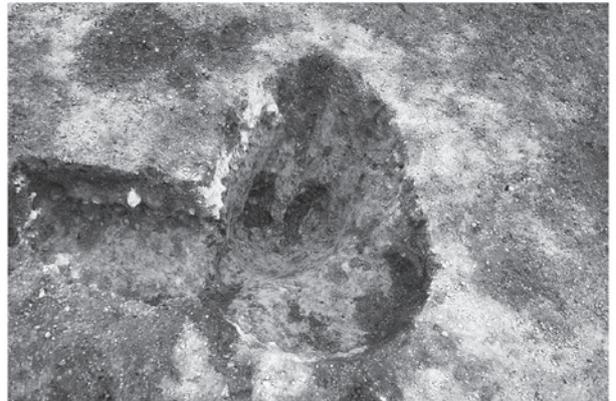
3 P-2 土层断面 N→



4 P-2 N→



5 P-3 土层断面 N→



6 P-3 N→



7 P-4 土层断面 W→



8 P-4 W→



1 P-5 土层断面 W→



2 P-5 W→



3 P-6 土层断面 W→



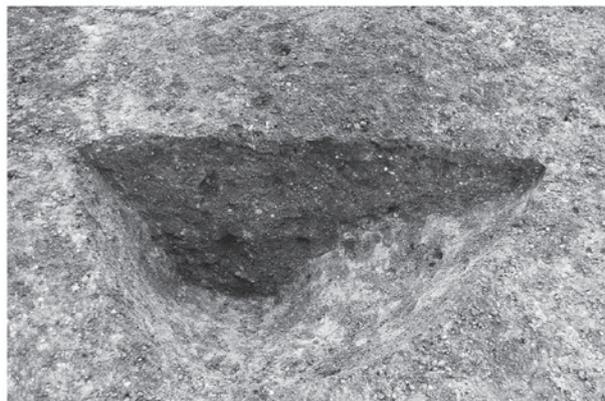
4 P-6 土层断面 W→



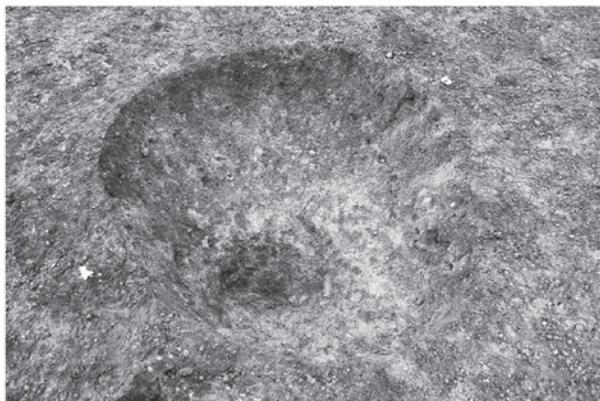
5 P-7 土层断面 W→



6 P-7 W→



7 P-8 土层断面 W→



8 P-8 W→

图版30 B地区 土坑(3)



1 P-9 土层断面 SW→



2 P-9 E→



3 P-10 土层断面 N→



4 P-10 N→



5 P-10 覆土上面遺物出土狀況 SW→



6 P-10 覆土中遺物出土狀況 NE→



7 P-11 土层断面 S→



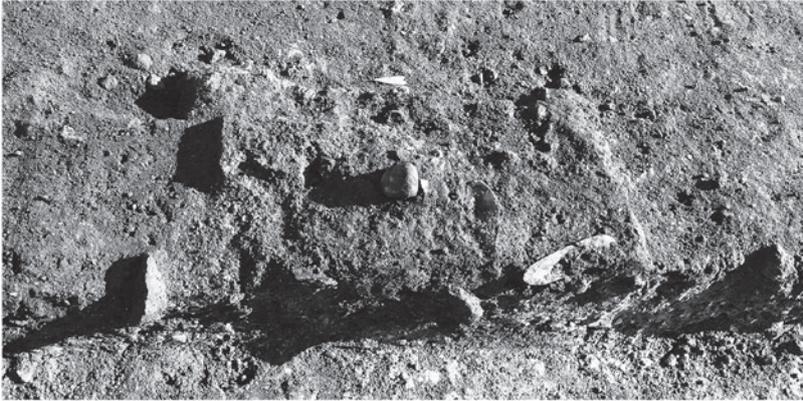
8 P-11 W→



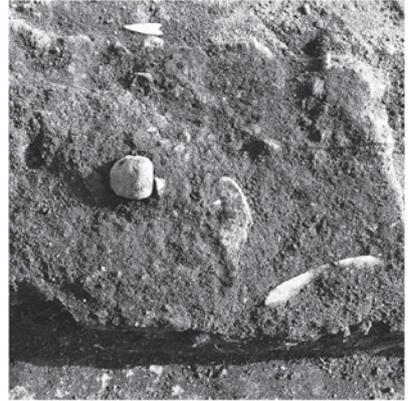
1 P-12 土層断面 E→



2 P-12 E→



3 P-13 N→



4 P-13(拡大) N→



5 TP-1 土層断面 SE→



6 TP-1 NW→

図版32 B地区 TPピット(2)



1 TP-2 土層断面 SW→



2 TP-2 S→



3 TP-2 SP-1 土層断面 S→



4 TP-2 SP-2 土層断面 S→



5 TP-2 SP-3 土層断面 S→



6 TP-3 土層断面 SE→



7 TP-3 NW→



1 TP-4 土層断面 SE→



2 TP-4 NW→

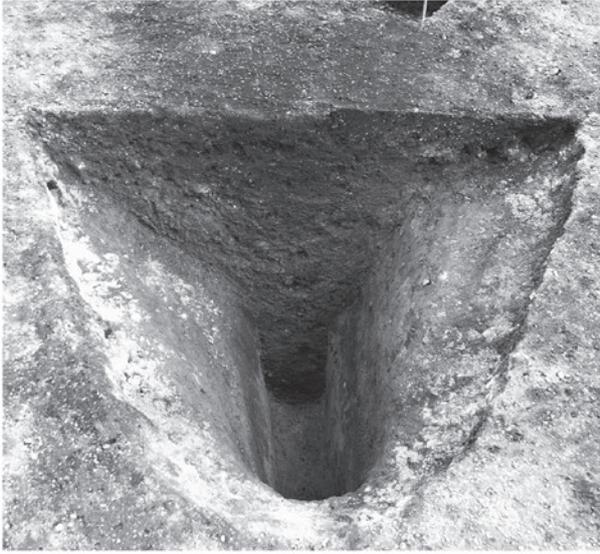


3 TP-5 土層断面 W→



4 TP-5 W→

図版34 B地区 TPピット(4)



1 TP-6 土層断面 N→



2 TP-6 N→



3 TP-7 土層断面 SW→



4 TP-7 SW→



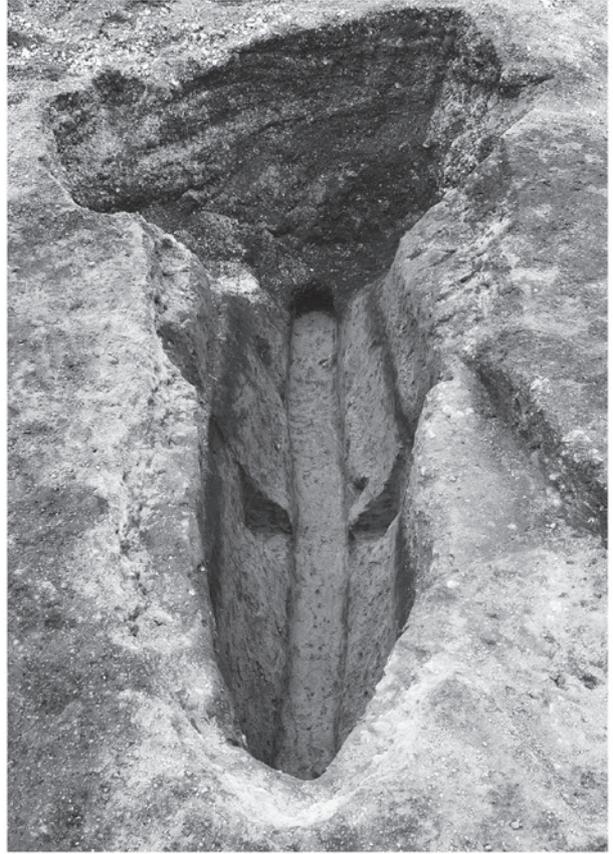
5 TP-9 土層断面 N→



6 TP-9 N→



1 TP-8 土層断面 N→



2 TP-8 N→



3 TP-10 土層断面 N→

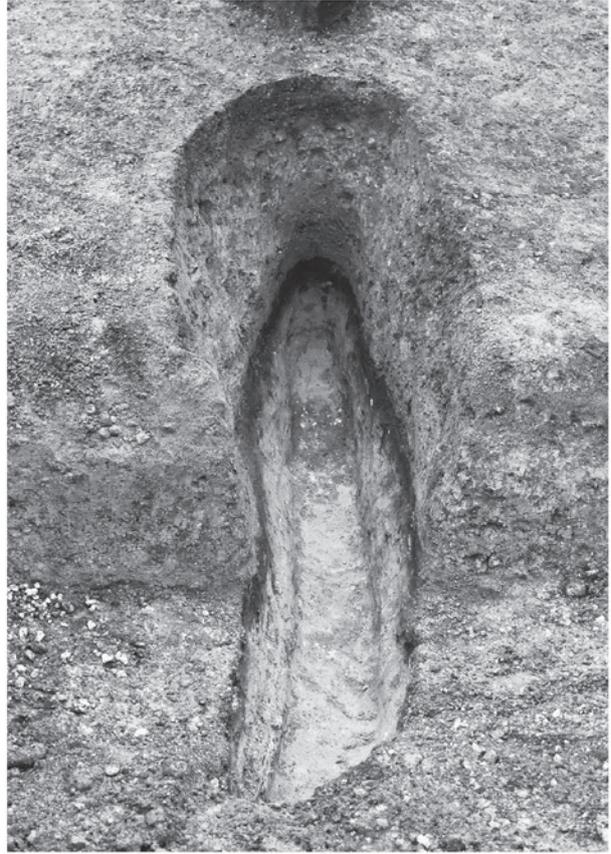


4 TP-10 N→

図版36 B地区 Tピット(6)



1 TP-11 土層断面 S→



2 TP-11 S→



3 TP-12 土層断面 N→



4 TP-12 N→



5 TP-13 土層断面 W→



6 TP-13 W→



1 TP-13 SP-1 土層断面 SW→ 2 TP-13 SP-2 土層断面 NE→ 3 TP-13 SP-3 土層断面 NE→



4 TP-14 土層断面 W→



5 TP-14 W→



6 TP-15 土層断面 W→



7 TP-15 W→



8 TP-16 土層断面 W→



9 TP-16 W→

図版38 B地区 Tピット(8)



1 TP-16 SP-1 土層断面 S→



2 TP-17 土層断面 W→



3 TP-17 W→



4 TP-18 土層断面 S→



5 TP-18 SE→



1 TP-19 土層断面 N→



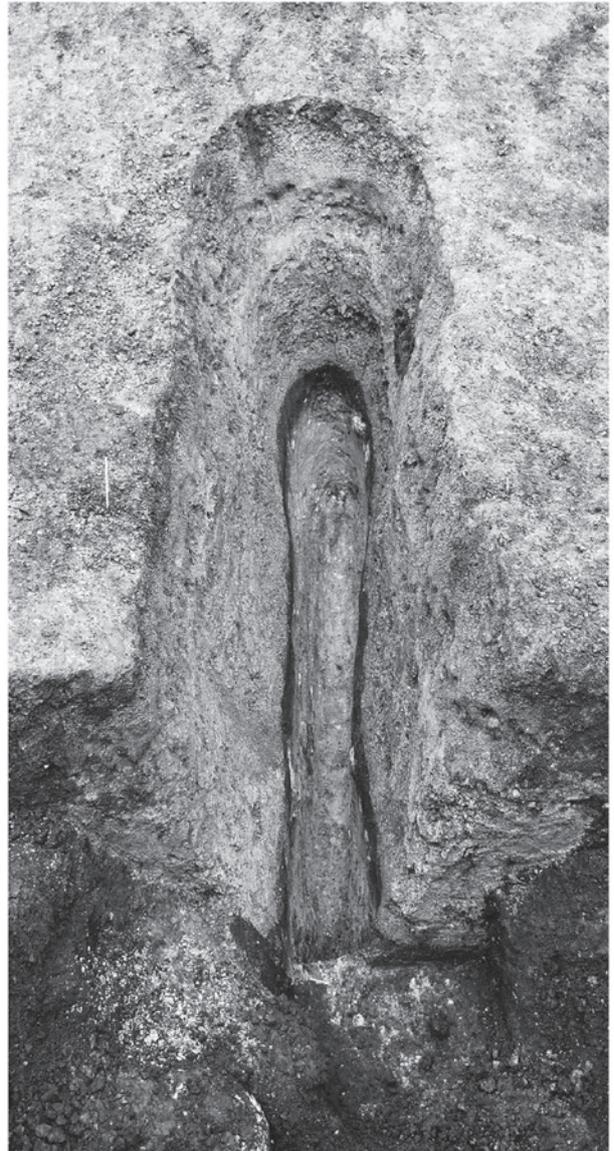
2 TP-19 N→



3 TP-20 S→



4 TP-21 土層断面 S→



5 TP-21 S→

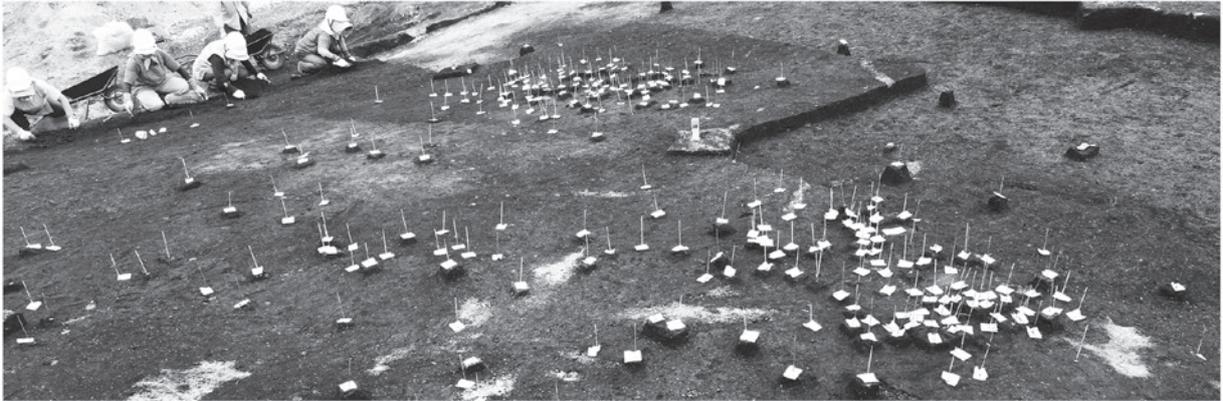
図版40 B地区 焼土・遺物集中



1 F-1 S→



2 F-1 土層断面 W→



3 C-1(奥側)・2(手前) 出土状況 N→



4 C-3 SW→



5 C-4 SE→



6 C-5 NE→



7 C-6 SW→



1 DU-1 NW→



2 DU-2 S→



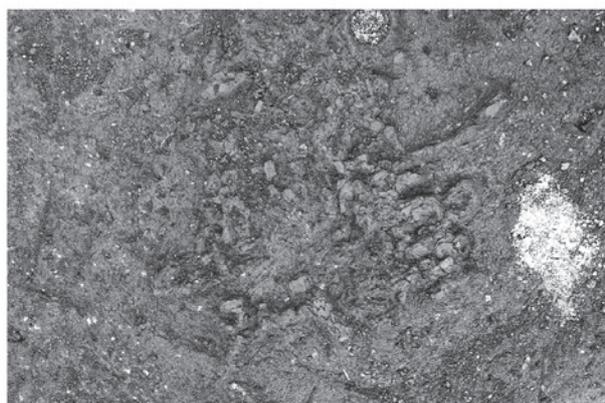
3 DU-3 S→



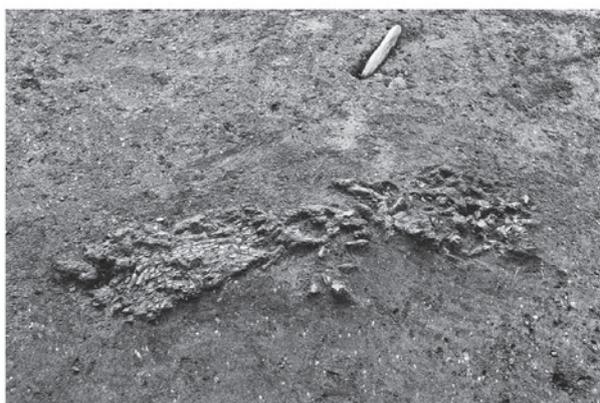
4 DU-4・5 SW→



5 DU-6 N→



6 CB-1 S→

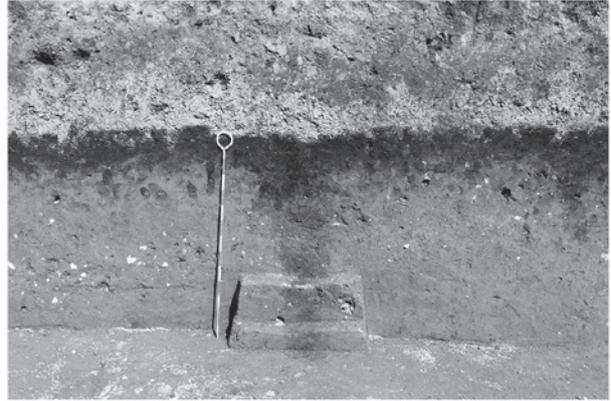


7 CB-2 E→

図版42 B地区 III層調査(1)



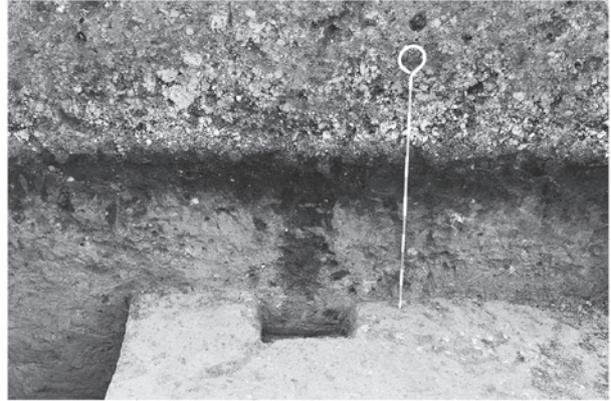
1 j38区 東壁 土層断面 W→



2 j38区 SP-1 土層断面 W→



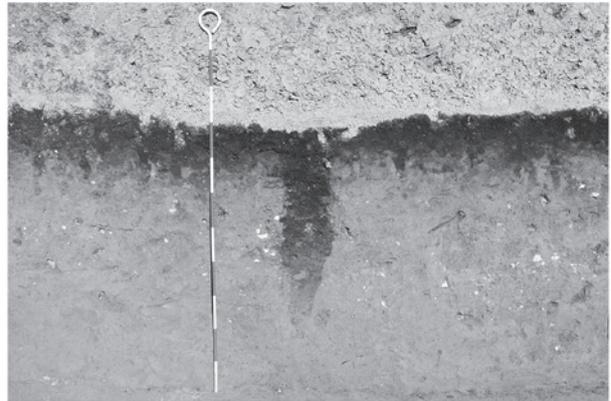
3 f38区 東壁 土層断面 W→



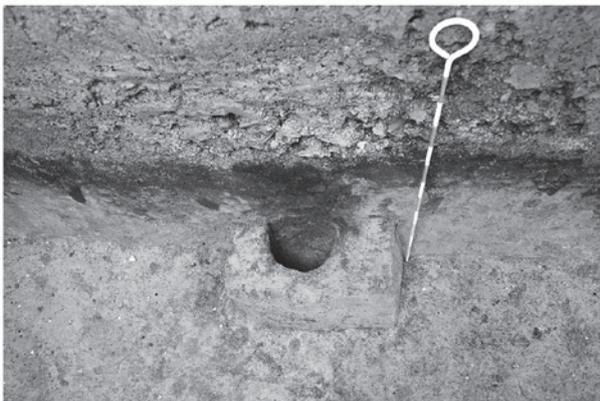
4 g38区 SP-2 土層断面 N→



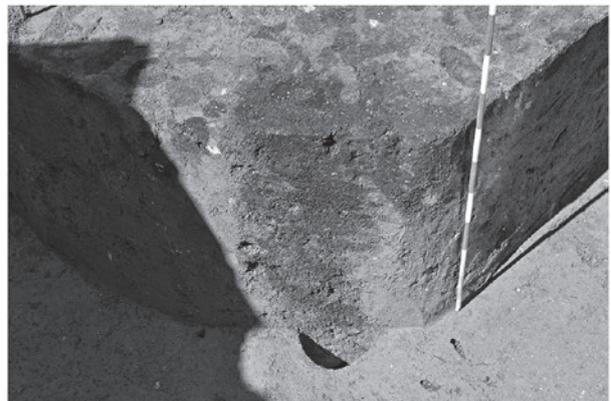
5 d38区 東壁 土層断面 W→



6 d38区 SP-3 W→



7 h44区 SP-4 土層断面 N→



8 h38区 SP-5 土層断面 SE→



1 h37区 SP-6 土層断面 SW→



2 h37区 SP-7 土層断面 SW→



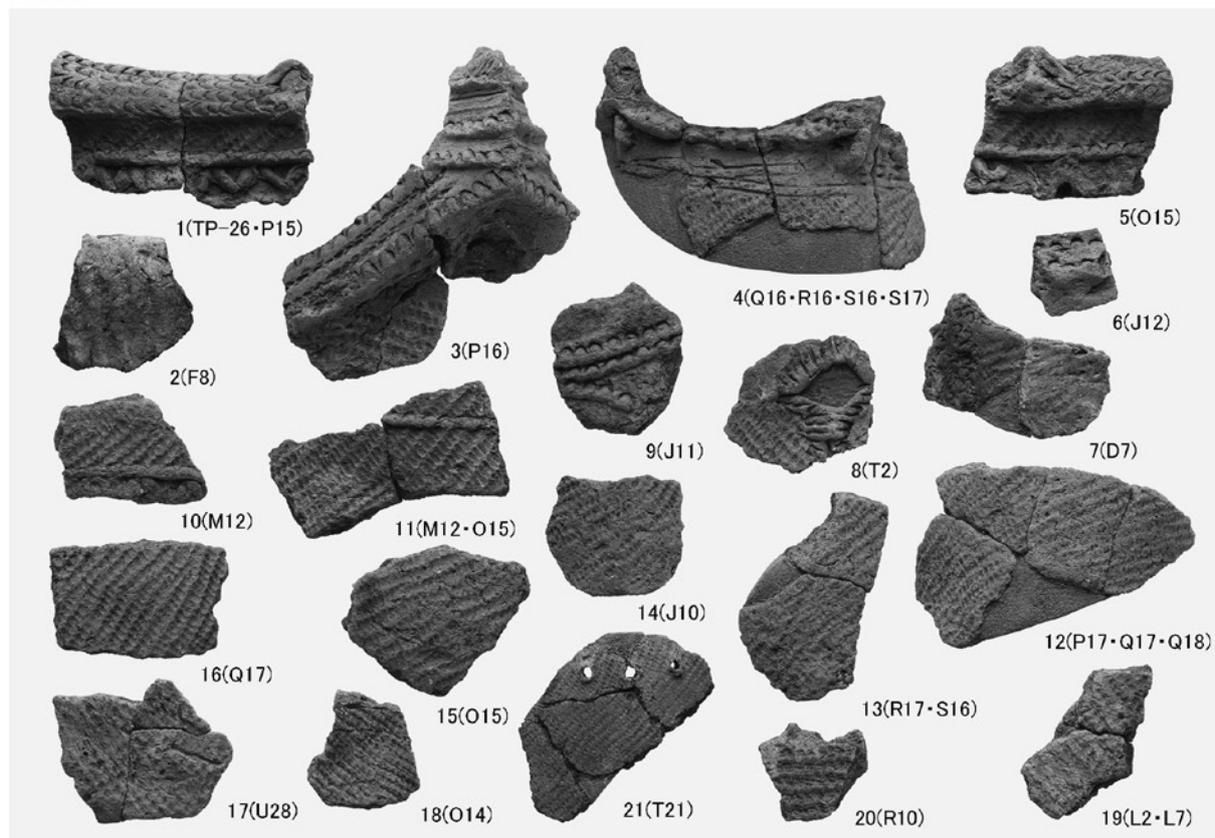
3 CB-1 炭化物出土状況 S→



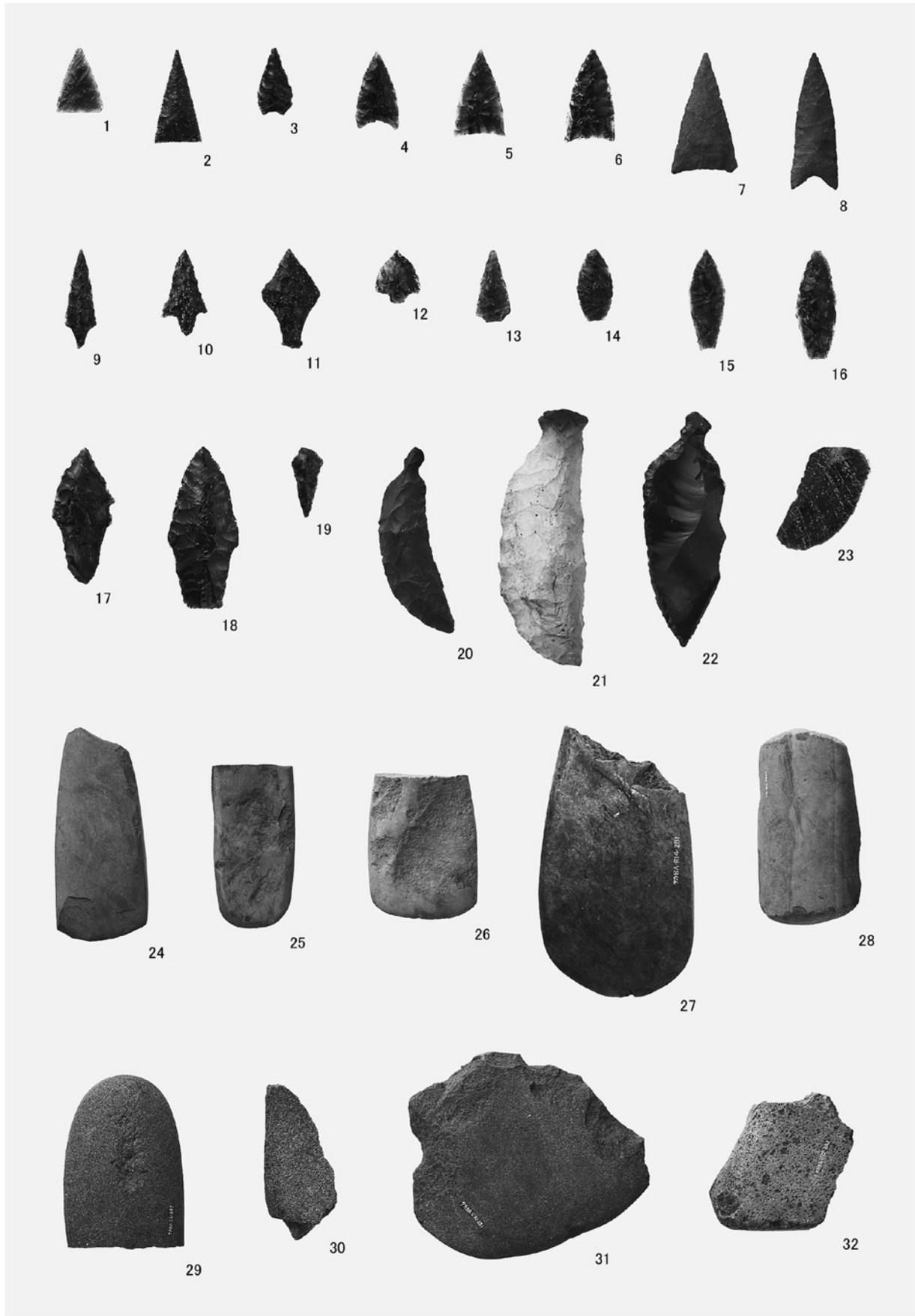
4 CB-1 集中部 炭化物出土状況 SE→



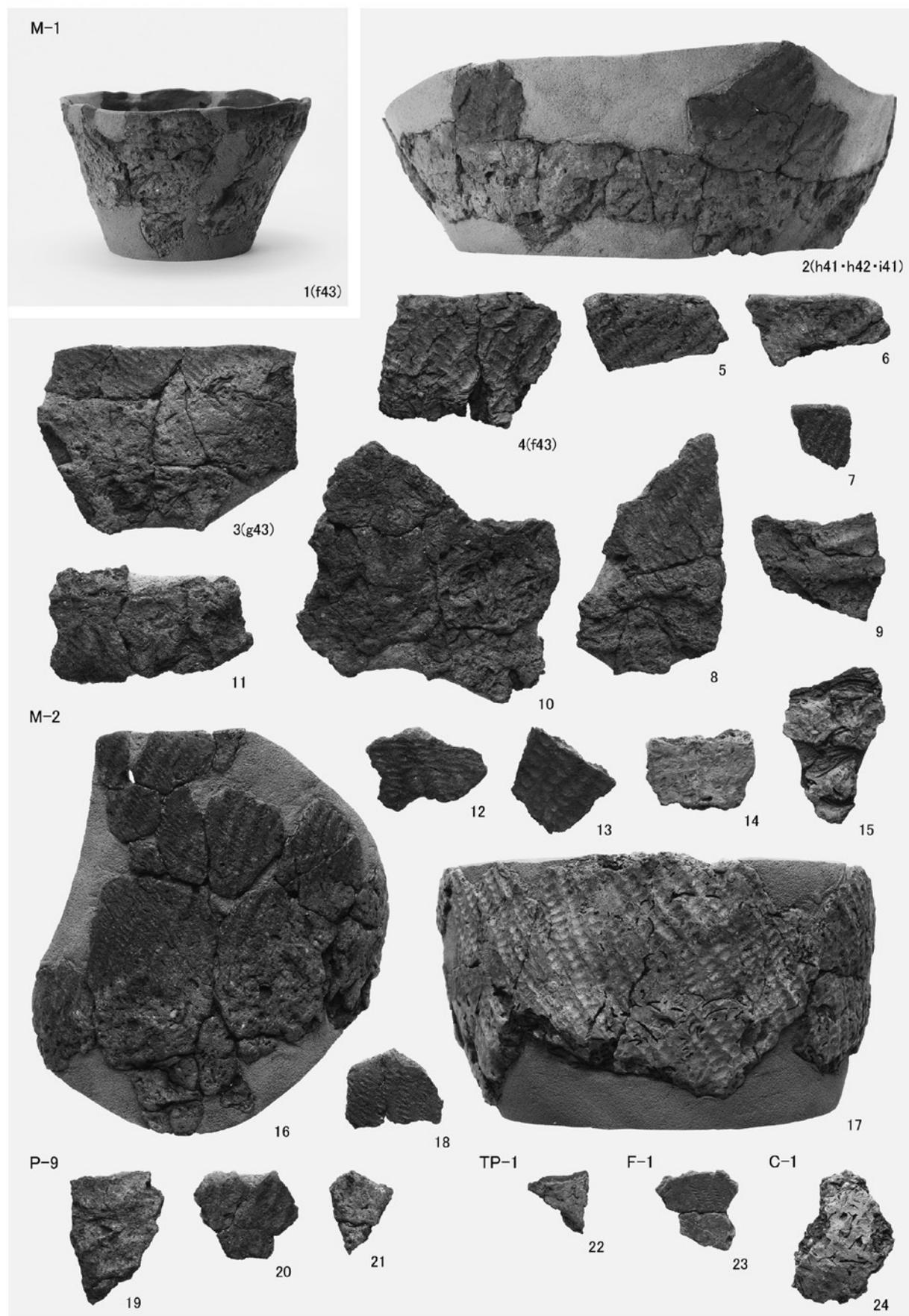
5 CB-1 炭化物出土状況(拡大) SE→



A地区 土器 遺構・包含層

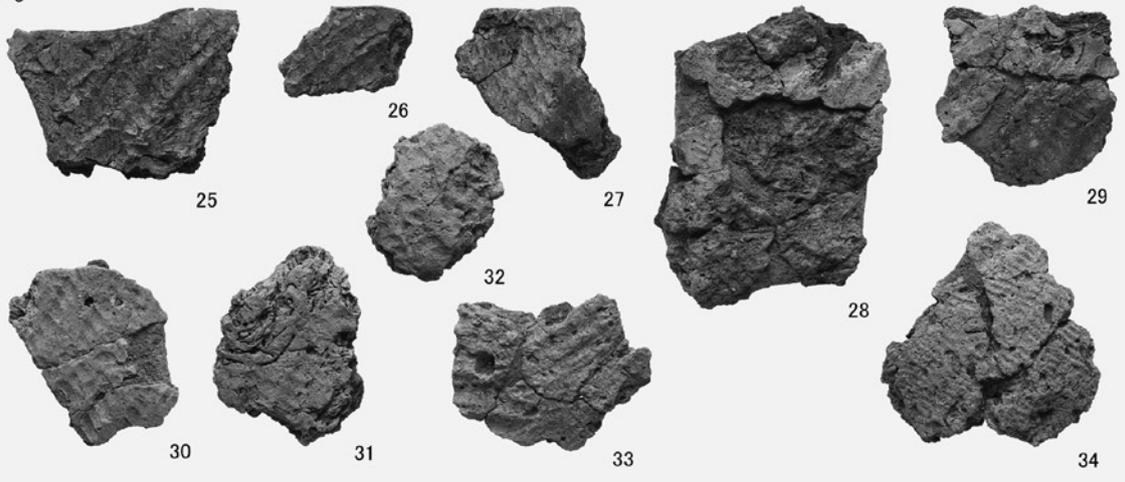


A地区 石器 包含層

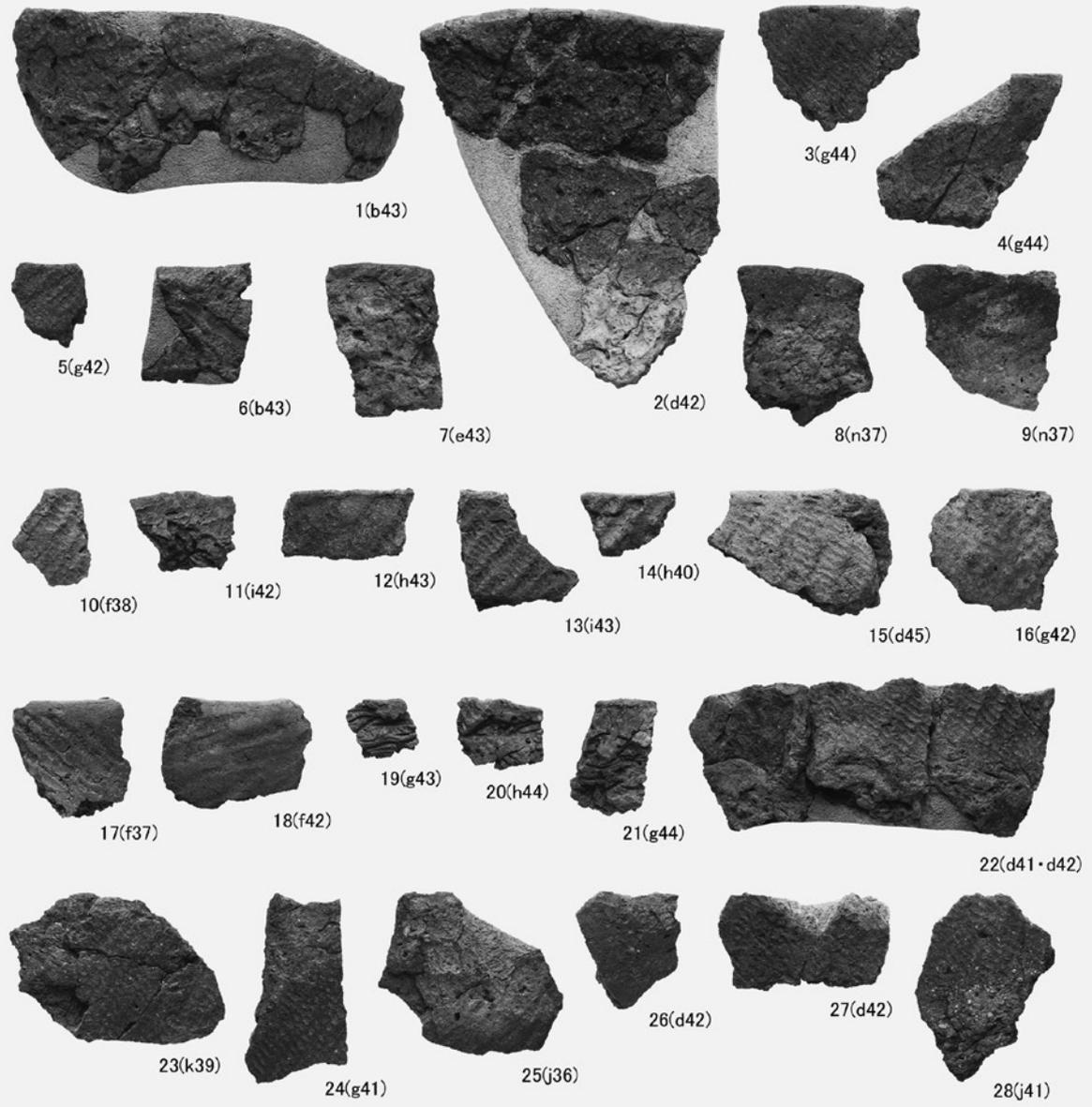


B地区 土器(1) 遺構(1)

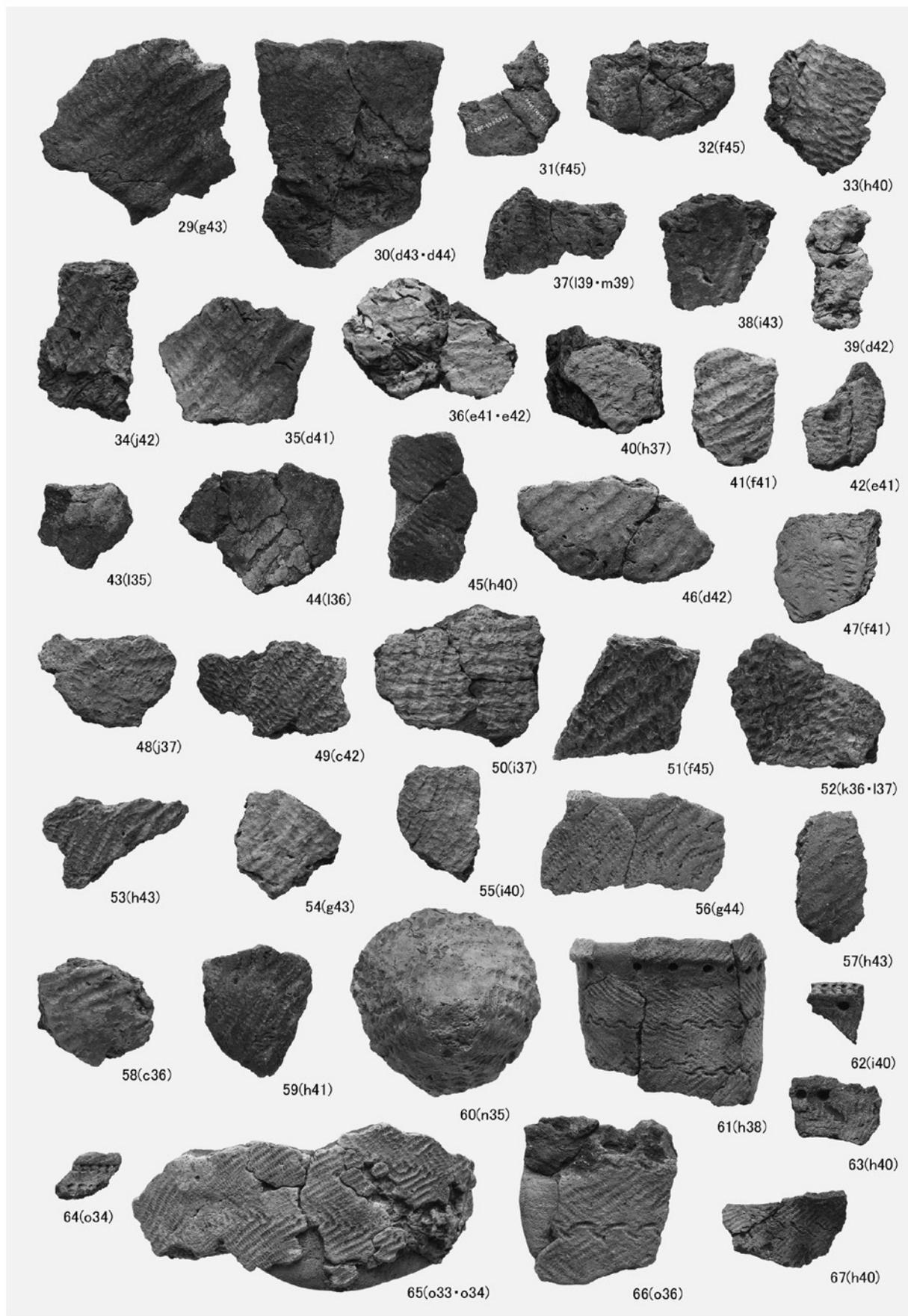
C-5



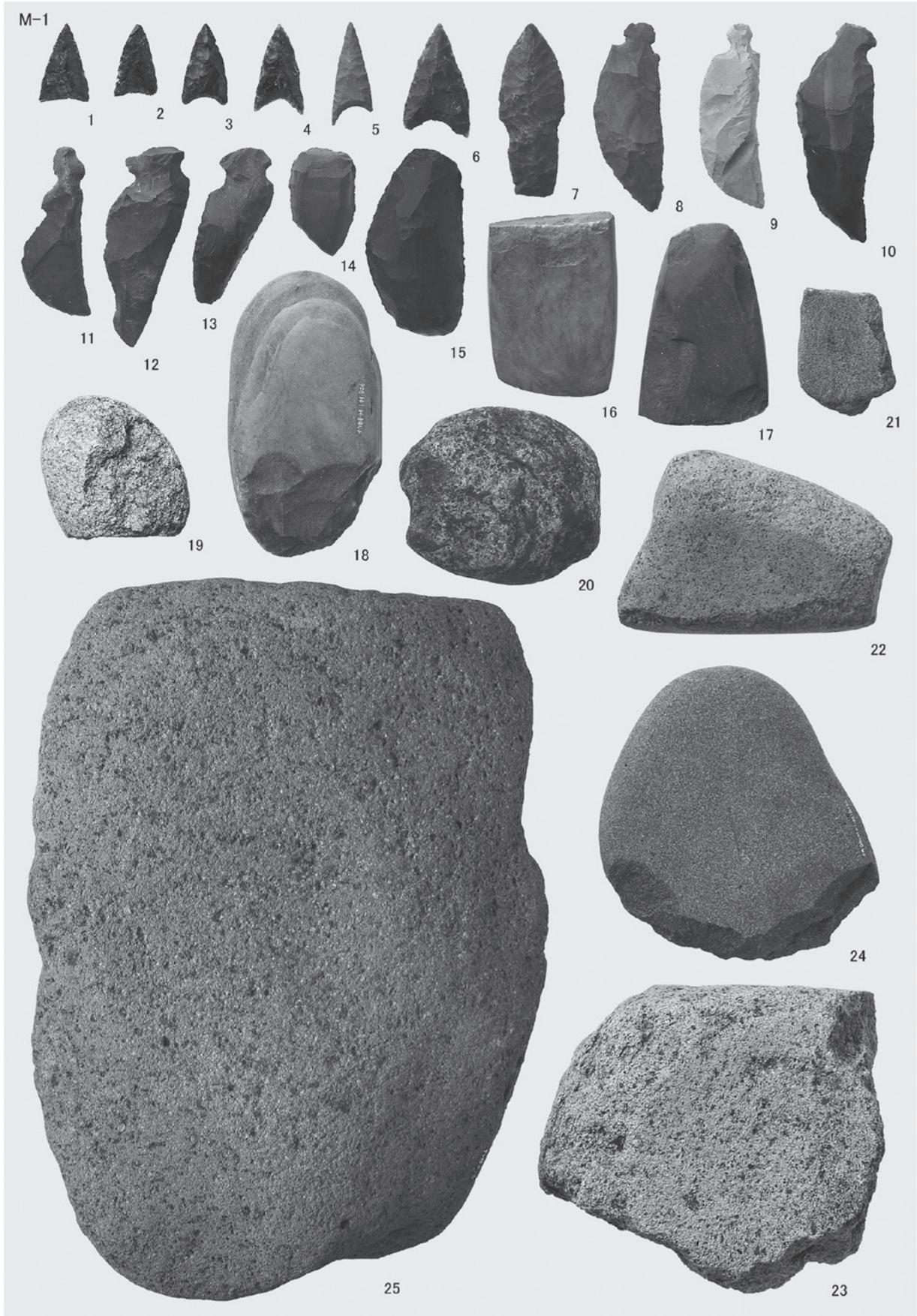
包含層



B地区 土器(2) 遺構(2) 包含層(1)

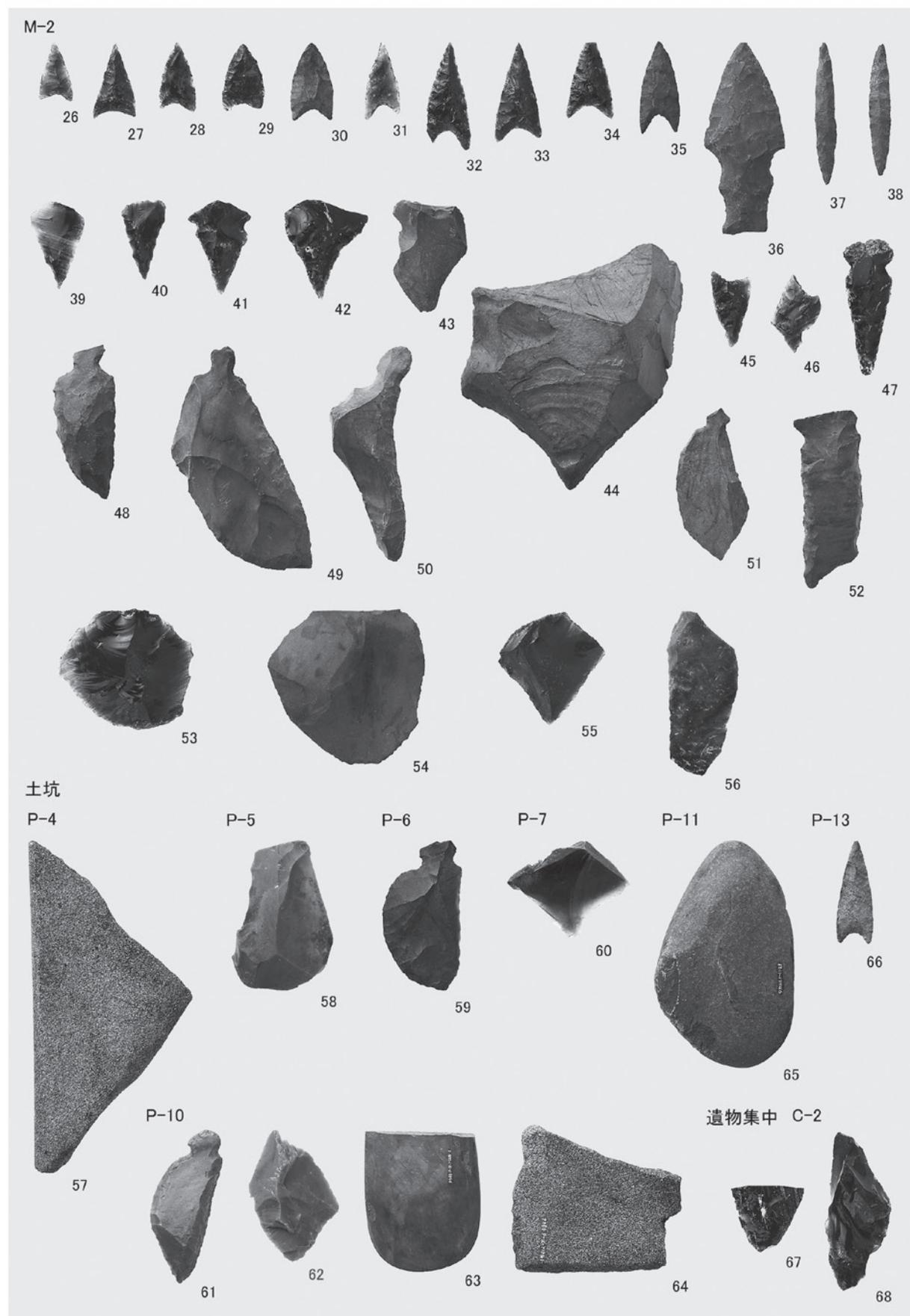


B地区 土器(3) 包含層(2)



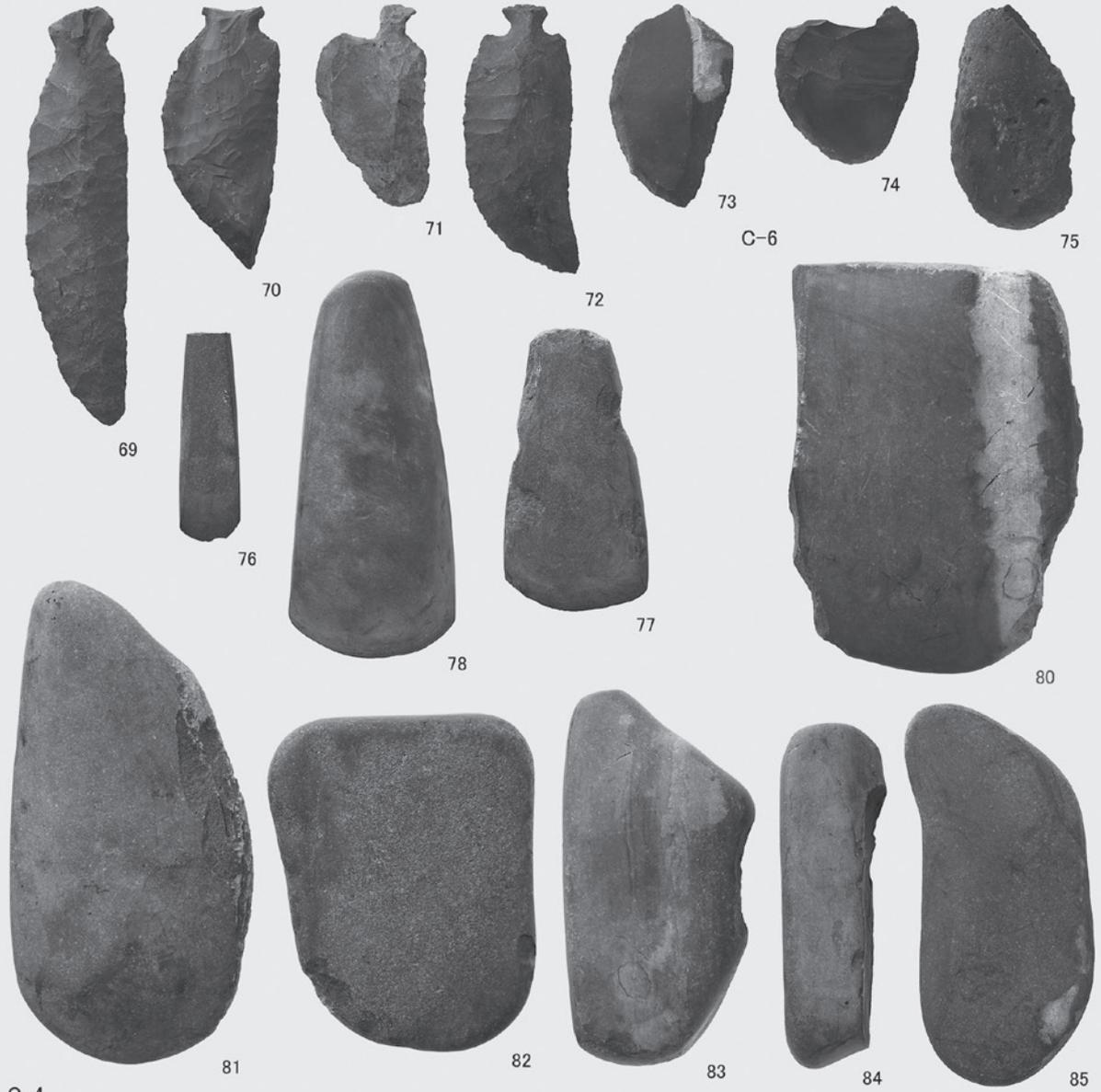
B地区 石器(1) 遺構(1)

图版50

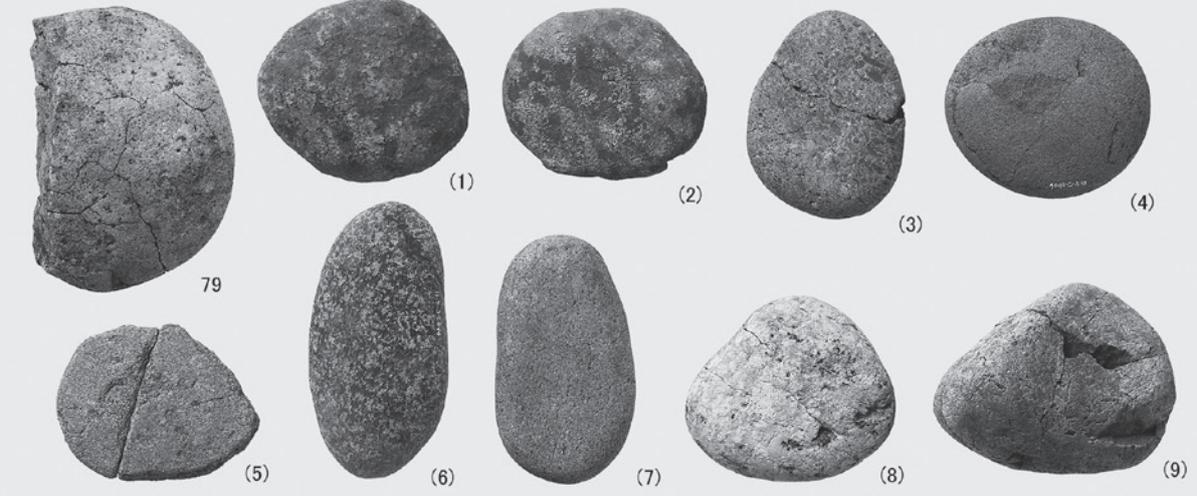


B地区 石器(2) 遺構(2)

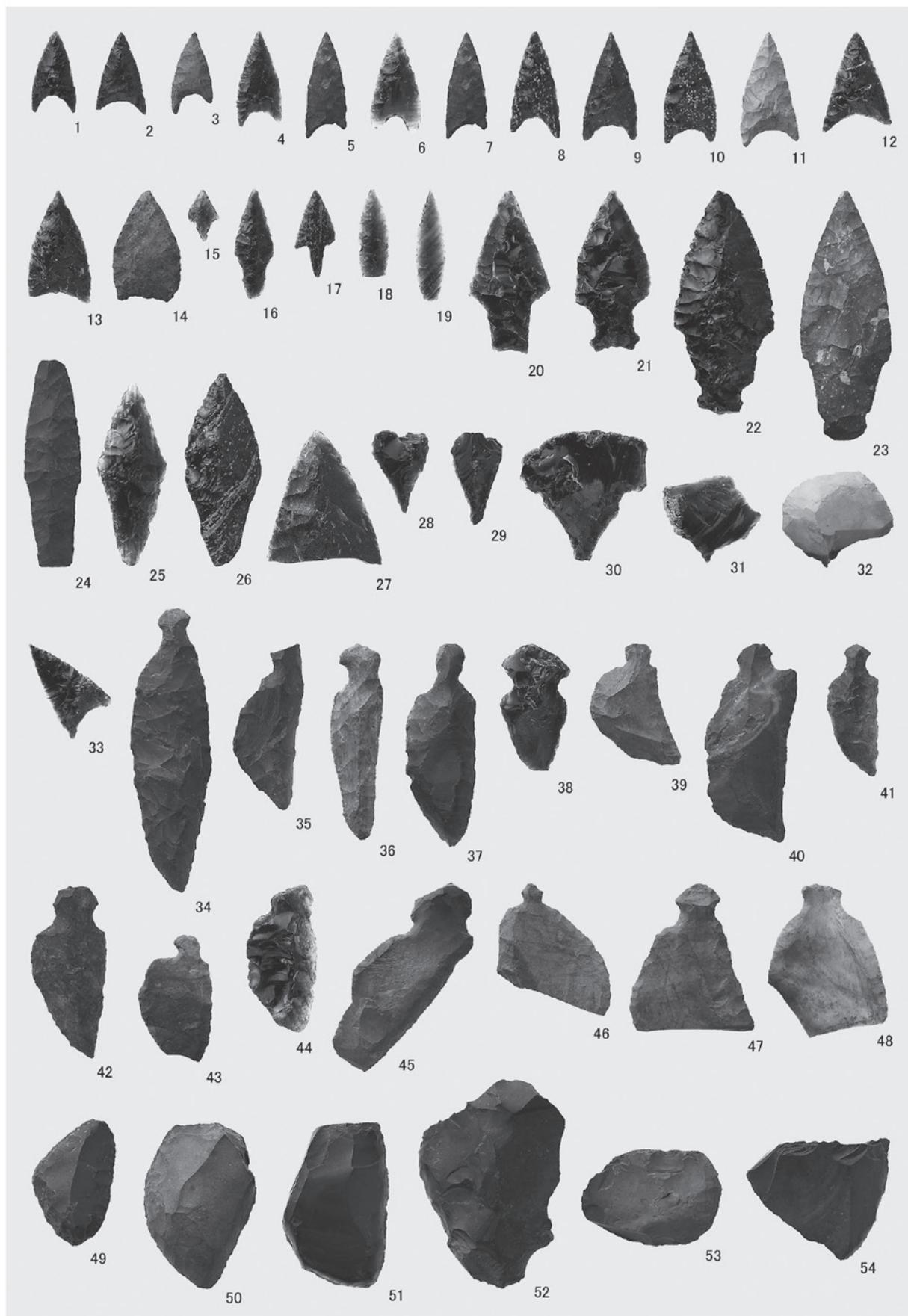
遺物集中 C-3



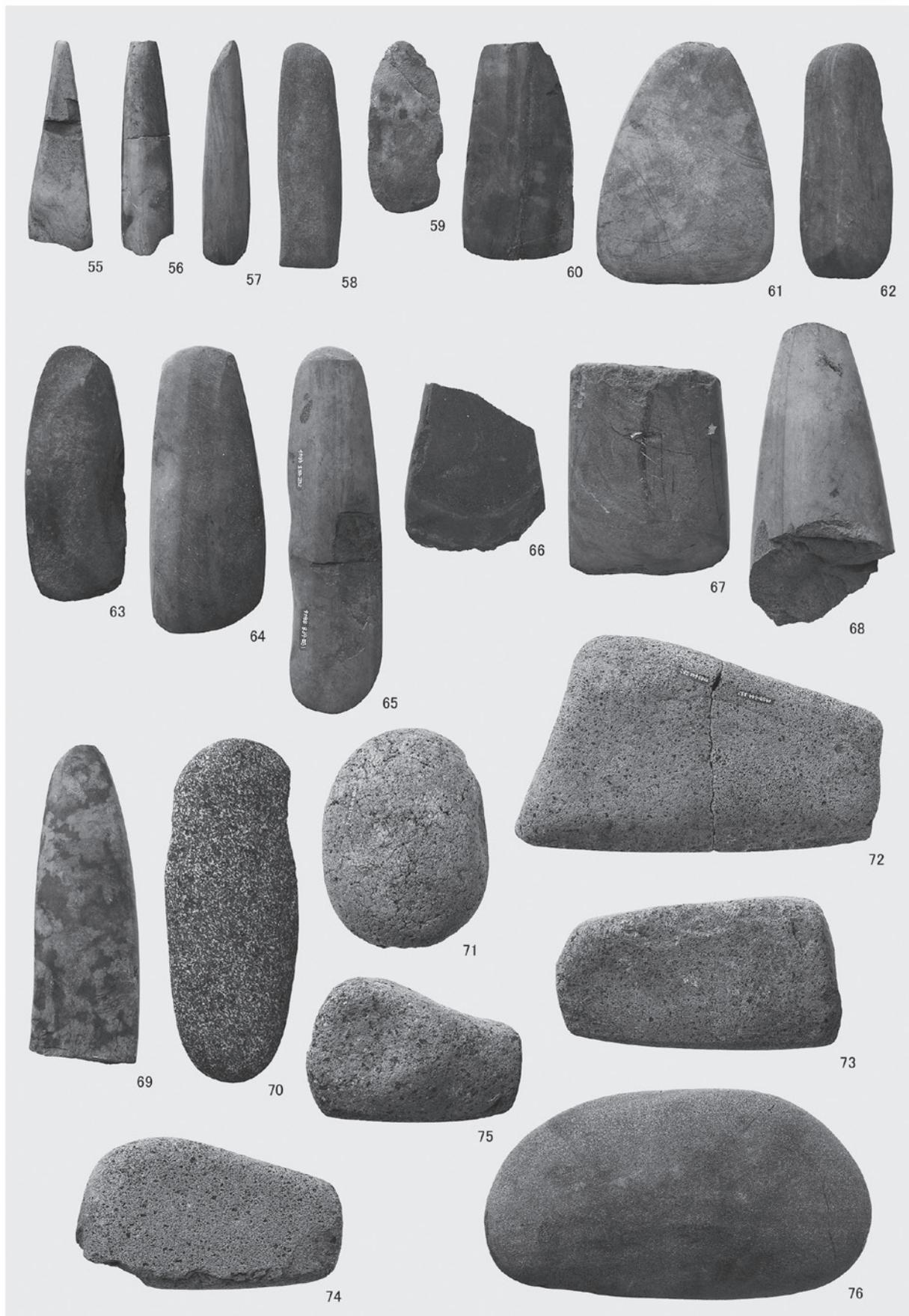
C-4



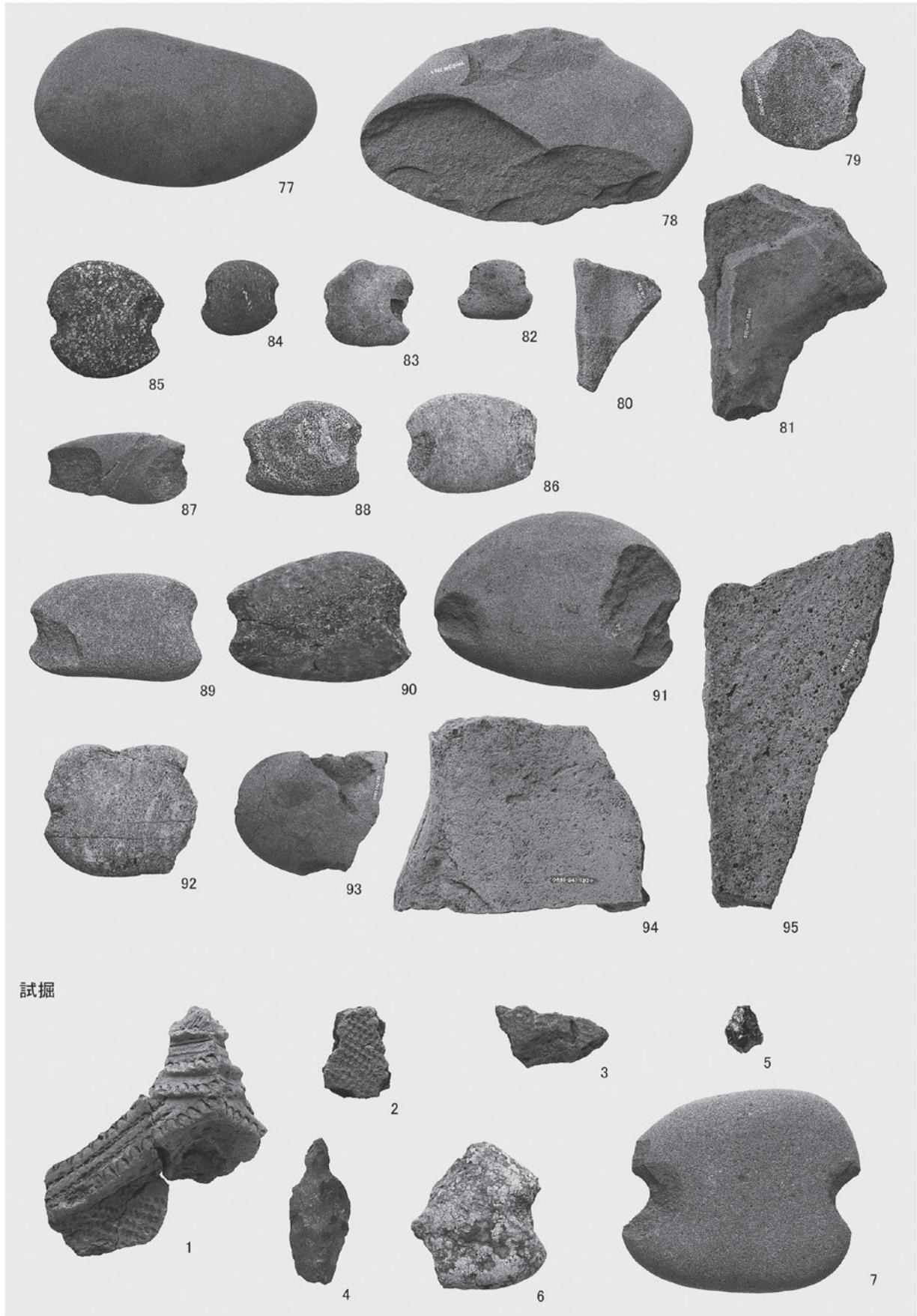
B地区 石器(3) 遺構(3)



B地区 石器(4) 包含層(1)



B地区 石器(5) 包含層(2)



B地区 石器(6) 包含層(3)

報告書抄録

ふりがな	とまこまいし たかおか8いせき 1							
書名	苫小牧市高丘8遺跡(1)							
副書名	苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）							
シリーズ番号	第360集							
編著者名	藤井浩(編集) 皆川洋一 鈴木宏行 山中文雄							
編集機関	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	西暦 2020年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかおか 高丘8 遺跡	ほっかいどう 北海道 とまこまいし 苫小牧市 たかおか 高丘 41-1 (A地区)、 41-18 (B地区)	01213	J-02- 286	N42° 39′ 54.21″	E141° 35′ 28.27″	20180605 ～ 20181120	6,417㎡ (A地区) 4,272㎡ B地区 2145㎡	苫小牧中央インター 線（仮称）道路改良 工事に伴う事前調査
				A地区基準杭 (P10)		(発掘調査)		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
高丘8遺跡	埋蔵文化財包蔵地	主に 縄文時代前期前半 他に 中期後半から後期 後期末から晩期初 頭 縄文早期（ⅢB層 調査）	盛土遺構 2か所 土坑 15基 Tピット 50基 焼土 8か所 溝状遺構 1条 遺物集中 7か所 掘り上げ土 17か所 炭化物集中 10か所 (ⅢB層調査) 柱穴状小ピット100か所 炭化物集中 1か所	総点数 29,171点 縄文土器 4,000点：縄文前期 前半（静内中野式）が主、中期 後半、後期末も少数ある。 石器 21,104点：石鏃、石槍、 石錐、つまみ付きナイフ、スク レイパー、籠状石器、石斧、た たき石、すり石、扁平打製石器 など、中でも石鏃、つまみ付ナ イフ、石斧、石錐が多く出土 礫 4,067点：石器素材の可能 性がある扁平楕円礫が比較的多 い。石材は安山岩、砂岩、片麻 岩などが目立つ	A,B両地区全体にT ピットが分布、縄文 時代中～後期は狩猟 の場として利用され る B地区に縄文前期の 盛土遺構（一部）、 土坑、遺物集中など が出土、当時の集落 範囲の一部と考えら れる A,B両地区で一部、 ⅢB層の調査を行 い、柱穴状小ピット と炭化物集中を確認 した			
要約	<p>遺跡は苫小牧市内中央部の丘陵上に位置し、調査は遺跡内の道央自動車道を挟んだ2か所（A、B地区）で行った。</p> <p>遺構はA,B両地区全体にTピットが分布し、B地区では縄文前期前半の盛土遺構（一部）、土坑、遺物集中などを確認した。</p> <p>遺物は、土器が、縄文前期前半を主体とし、B地区を中心に出土した。次に縄文中期後半、縄文後期末の土器がA地区を中心に出土した。</p> <p>石器はその殆どが遺物集中出土の黒曜石剥片である。定形的な石器には石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、石錐などがあり、特に石鏃、つまみ付ナイフ、石斧、石錐が多く見られた。</p> <p>礫は安山岩や砂岩、片麻岩などがあり、石器の素材として持ち込まれたと思われる扁平楕円礫の出土が目立つ。</p> <p>ⅢB層の調査で遺物の出土はなかったが、柱穴状小ピット100か所と炭化物集中を確認した。年代測定の結果などから縄文早期相当と考えられる。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第360集

苫小牧市 高丘8遺跡(1)

—苫小牧中央インター線(仮称)道路改良工事
埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 令和2年(2020年)3月25日
編集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238
<http://www.domaibun.or.jp>

印刷 三浦印刷株式会社
〒064-0809 札幌市中央区南9条西6丁目
TEL (011)511-6191 FAX (011)512-6041

